千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

GAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ岳人あびこ

やまなみ

第１６号



手賀沼湖畔

やまなみ　第１６号　目　次

やまなみ第16号発刊に寄せて　　平成29年度会長　高橋芳恵

平成27年(2015年)3月～平成28年(2016年)2月

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
891	三角山～二子山	奥武蔵	3/14	村松敏彦	1
892	鳴神山(新人歓迎山行)	桐生市北部	4/5	やまたん	2
893	生藤山～陣馬山	中央線沿線	4/12	齊田記代美	7
894	日向山	南アルプス周辺	4/26	中村八重子	8
895	伊豆ケ岳	奥武蔵	4/28	中村育子	10
896	毛無山～十二ケ岳	御坂山塊	5/6	林敏生	11
897	滝子山	南大菩薩	5/10	やまたん	13
898	大山	丹沢	5/13	新谷直恵	16
899	愛鷹連峰(越前岳)	富士周辺	5/17	本田愛子	17
900	新三国峠～十文字峠～甲武信ケ岳～西沢渓谷	奥秩父	6/4-5	高橋芳恵	18
901	黒檜山(赤城山)～駒ケ岳(市民山行)	上州　赤城山	6/7	やまたん 特集号	21
902	北大船山～大船山～久住山・由布岳	阿蘇国立公園	6/9-12	矢澤節雄	27
903	瑞牆山・金峰山	奥秩父	6/20-21	外崎蓮	31
904	高ボッチ・鉢伏山～二ツ山	中信高原国定公園	6/25	大平太計夫	34
905	唐松岳	北アルプス	6/30-7/1	大山冬臣	35
906	谷川　一の倉沢(県連ウイークデー)	谷川	7/23	末永三江子 大山冬臣	39
907	白馬三山(白馬岳～杓子岳～鑓ケ岳)	北アルプス	7/26-29	中村育子	41
908	石転び沢～烏帽子岳～飯豊山～三国岳	飯豊連峰	7/29-8/1	矢澤節雄	43
909	岩小屋沢岳～針ノ木岳～蓮華岳	北アルプス	7/30-8/2	矢野貞子	47
910	木曽駒ケ岳～宝剣岳	中央アルプス	8/6-7	矢野裕子	49
911	富士山	富士国定公園	8/24-26	武内勇二	51
912	七面山・八紘嶺	南ア前衛	9/5-6	外崎蓮	54
913	宝篋山	茨城南	9/20	箕輪カオル	57

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
914	北奥千丈岳～金峰山	奥秩父	9/27-28	新谷直恵	58
915	南八ヶ岳縦走(赤岳～横岳～硫黄岳)	八ヶ岳南部	10/4-5	高橋芳恵	60
916	尾瀬・白尾山	尾瀬・南会津	10/8-10	新谷直恵	62
917	岩山	前日光	10/18	村松敏彦	64
918	根本山～熊鷹山	桐生	11/3	大平太計夫	65
919	棒ノ折山	奥多摩	11/20	齊田記代美	67
920	奥久慈男体山	奥久慈	11/23	村越百々代	68
921	金勝山～官ノ倉山	奥武蔵	11/29	箕輪カオル	70
922	大福山・梅ケ瀬(忘年山行)	房総	12/5	やまたん	72
923	手賀沼一周(クリーンハイク)	我孫子市・柏市	12/12	箕輪完二	74
924	荒倉山・入笠山(クリスマス山行)	南アルプス前衛	12/19-20	矢野裕子	76
925	景信山(餅つき山行)	高尾	1/9	林敏生	78
926	日光高山	日光	1/11	やまたん	79
927	蛾ケ岳・三方分山(新年山行)	御坂山塊	1/16-17	武内勇二	82
928	津辺野山・石尊山～麻綿原～清澄妙見山 (県連房総ロングハイキング)	南房総	1/30-31	箕輪カオル 新谷直恵	85
929	鐘撞堂山～羅漢山	奥武蔵	2/7	石塚あさ子	88
930	北八ヶ岳・東天狗岳	北八ヶ岳	2/25-26	齊田記代美	89
931	大山	大山北尾根	2/27	高橋芳恵	91

挿絵:岳人あびこ写真コンクール受賞作品及び人気投票作品より(2016/1/6実施)

表紙:武内勇二氏

「雲間の槍」(最優秀賞)

挿絵:新谷直恵氏(P220掲載)

大平太計夫氏

大山冬臣氏

郷田進氏

室崎宏治氏(水彩画)

裏表紙裏:矢澤節雄氏

「天狗岳」

裏表紙:矢野裕子氏

「白馬岳ウルップソウ」



大平太計夫氏
「北ア・仙人池に投影する冠雪の剱岳小窓」

やまなみ　第１６号　目　次

平成28年(2016年)3月～平成29年(2017年)2月

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
932	日光白根山	奥日光 群馬	3/16-17	大山冬臣	93
933	陣馬山(卒業山行)	中央線沿線	3/21	藤家一仁 北田仁則	97
934	谷川岳・天神尾根	谷川岳連峰	3/23	大山冬臣	98
935	八ヶ岳連峰・硫黄岳	八ヶ岳	3/27-28	本田愛子	102
936	難台山(新人歓迎山行)	筑波山系	4/3	やまたん	104
937	坪山	大月	4/12	矢野貞子	109
938	御前山	奥多摩	4/17	蟹江和子	110
939	石裂山	前日光	4/24	藤家一仁	112
940	石老山	道志山系	4/24	林敏生	114
941	軽井沢～碓氷峠～横川	浅間・軽井沢	5/7	矢野裕子	115
942	川苔山	奥多摩	5/15	林敏生	117
943	燕岳	北アルプス南部	5/15-16	大山冬臣	118
944	薬師岳～三ノ宿山	日光	5/20	村松敏彦	122
945	畦ケ丸・菰釣山	西丹沢・道志	5/22-23	高橋芳恵	124
946	守屋山･入笠山	南アルプス北部	5/27-28	郷田進	126
947	日光白根山(市民山行)	奥日光	6/5	やまたん 特集号	128
948	三ツ峠山～清八山	富士周辺	6/11	矢澤節雄	134
949	小川山	奥秩父	6/18-19	室崎宏治	135
950	入笠山	南アルプス前衛	6/19	林敏生	137
951	横尾山	奥秩父	6/26	外崎蓮	139
952	蓼科山～双子山	北八ヶ岳	7/22-23	矢野貞子	140
953	硫黄岳～赤岳～権現岳～編笠山	八ヶ岳南部	7/28-30	大平太計夫	142
954	雲の平～鷲羽岳～三俣蓮華岳～双六岳	北アルプス	7/28-8/1	本田愛子	144
955	鹿島槍ヶ岳	北アルプス	8/6-8	北田仁則	148
956	大菩薩嶺	北八ヶ岳	8/20	箕輪カオル	149
957	越後駒ケ岳	越後山塊	8/27-28	北川勝久	151
958	飯縄山～黒姫山	信越	9/15-16	本田愛子	152
959	白峰三山縦走(北岳～間ノ岳)	南アルプス北部	9/16-18	郷田進	155

NO.	山　　名	山　域	月　日	執筆者	頁
960	鳥海山	出羽山地	9/25-26	村越百々代	157
961	尾瀬ヶ原～至仏山（20周年記念山行）	尾瀬	10/2	吉澤こう	159
962	尾瀬ケ原～至仏山（20周年記念山行）	尾瀬	10/1-2	石塚あさ子	160
963	燧ケ岳～至仏山（20周年記念山行）	尾瀬	9/30-10/2	矢澤節雄 深草茂美	161
964	燧ケ岳～至仏山～アヤメ平（20周年記念山行）	尾瀬	9/30-10/2	武内勇二	164
965	森吉山・桃洞渓谷	秋田県北部	10/8-10	外崎蓮	167
966	那須岳（茶臼岳～朝日岳～三本槍岳）	那須	10/10-11	大平太計夫	170
967	乾徳山	奥秩父前衛	10/16	田嶋まり	173
968	平標山～仙ノ倉山～三国街道	谷川	10/18-19	高橋芳恵	174
969	谷川岳	谷川	10/23-24	新谷直恵	176
970	鳥首峠～蕨山	奥武蔵	11/5	中村育子	178
971	鬼ケ岳～十二ケ岳	富士周辺	11/12	小林安代	179
972	杓子山～ 鹿留山	富士周辺	11/23	矢野裕子	181
973	鍋割山	丹沢	11/30	田村光子	182
974	城峯山（忘年山行）	秩父	12/4	吉澤こう やまたん	183
975	西丹沢・檜洞丸	西丹沢	12/14	大山冬臣	187
976	手賀沼一周（クリーンハイク）	我孫子市・柏市	12/17	室崎宏治	190
977	塔ノ岳～丹沢山～鍋割山稜縦走	東丹沢	12/21-22	高橋芳恵	191
978	四方原山・茂来山(クリスマス山行）	佐久平	12/23-24	矢野裕子	192
979	日光赤薙山（初詣山行）	日光山群	1/5	矢野裕子	194
980	高尾山	中央線沿線	1/10	林敏生	196
981	鳥の胸山・菰釣山（新年山行）	西丹沢・道志	1/19-20	武内勇二	197
982	北八ヶ岳・東天狗岳	北八ヶ岳	1/26-27	矢野貞子	199
983	水仙ロード（勝山～江月～ばんや） （県連房総ロングハイキング）	房総	1/28-29	石塚あさこ	201
984	倉岳山	中央線沿線	2/5	横尾美知子	203
985	大野山	丹沢	2/12	室崎　宏治	204
986	三国山稜縦走・石割山	忍野　道志山塊	2/12-13	蟹江和子	206
987	日和田山～物見山(卒業山行）	奥武蔵	2/25	深草茂美	208
988	鎌倉ハイキング・衣張山	伊豆　箱根　湘南	2/26	齊田記代美	210
／	20周年記念事業　イベント(7/16)・山行懇親会(10/2)			やまたん 特集号	211

やまなみ第１６号発刊に寄せて

平成２９年度会長　高橋芳恵



中村編集長から原稿のご依頼を受け、改めて「やまなみ創刊号」を手にしてみました。

私の机の横の本棚には常に「やまなみ」が揃っています。私は平成 10 年から当会に加わらせていただいていますがとにかく写真の中は「みんな若い！」あの頃はＰＣどころかワープロを打てる人も少なく、原稿の規格も厳しいため、会員は助け合いながらやっとの思いで書いていました。それが今は何と機器が進歩したかをやまなみは語っていますが、20 年の記録を継続していくための編集委員の皆さん方の粛々とした尽力のお蔭なしには 16 号の発刊はあり得ないことです。本当にお世話になりありがとうございました。

今後も自分たちの山の足跡を記録として残すことで自らが作成した貴重なガイドブックとして有効に活用できるよう工夫を重ねながら続けていきましょう。

歳は重ねましたが昔より今の方がしっかり歩けるようになったかを確かめるのもやまなみを読む私の楽しみでもあります。

平成２７年度

平成２７年３月～平成２８年２月

＜８９１＞

三角山～二子山
(623m)　(883m)

村松　敏彦

地図とコンパスで何処までも



二子山山頂にて

春も浅い三月中旬、池袋から特急秩父号に乗って横瀬駅に降り立ったのは８名の物好き会員の一行だった。何故なら普段の山行では、素晴らしい展望とか、きれいな花が沢山あるとか強調するのだが、この山行では、展望もありません、花も有りません。加えて標識も、道標も有りません。有るのは静かな自然と未知の世界に局面する冒険心のみです。この文面で集まったのだから好奇心旺盛な人達と言わざるを得ないだろう。（それを計画するリーダーはもっと物好きかも知れない）

まず、２万５千の地図(秩父、正丸)とコンパスで現在地と取りあえず第一の目的地、秩父札所８番の西善寺に合わせると同時に周囲の建造物をチェツクして歩きだす。周囲は長く厳しい冬をやっと終え、自然界が躍動する春に向かう直前の静かな落ち着いた里の風景が佇んて居た。途中、先頭のリーダーは意地悪くも、わざと道を間違えて参加者の注意力と地図読みの正確さを試したが、すぐ気がついた所を見ると皆さん、しっかり地図を読む事が出来ていました。

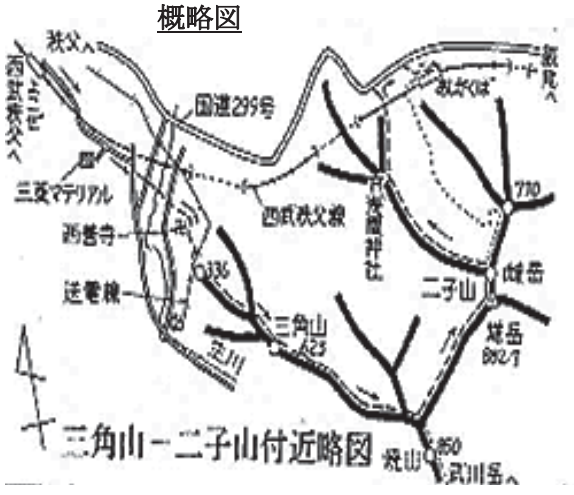
三菱マテリアル過ぎ、近道をして西善寺の駐車場に着く。ここにはきれいなトイレも有り、休憩するのに良い場所です。ここから本格的な登山になるため、心と装備を整える。まず、ここから目的とするのは３号鉄塔、かすかに右前方尾根に鉄塔が見える。地図上にも鉄塔とともに送電線を確認する。（鉄塔と送電線は高い位置にあるため現在地、方向等を確認するには便利です）右の小橋を渡って強引に藪の急坂を登る。えつ、こんなところを登るの！と云う声が聞こえる。（登山には整備された登山道や道標があるのが登山だけではありません）ここから南東方向の６２３ｍ峰（三角山）に向けて地図とコンパスを合わせる。（地図には山名の標識はない）この辺は里山のため多くの踏み跡が有るが地図とコンパスによって自分を信じて進むしかない。先頭を交代しながら、前方右に時々見える武甲山の痛々しい山容が掘削するブルトーザー音と共に山の悲鳴に聞こえるようだ。アップ、ダウンを繰り返しながら急坂を登るとひょっこり三角山に着く。山頂には小さな山名板（三角の底辺が約５㎝、高さが３㎝）が木に吊るされてあり、ほとんどの人が気付かず通り過ぎると思う。ここからは今迄よりかすかに道らしくなる。

何回かアップダウンを繰り返し、左側から大きな尾根を通過するとひょっこり一般縦走路に出る。前方に二つの山容を持つ、二子山が見えるがまだまだ遠い。急に空が暗くなり風が小雪を運んできて、単調な風景に花を添えてくれた。

三角点のある、二子山雄岳に着くと今迄、登山者はほとんど見た事が無かったがさすがに一般登山道であり、山頂であるため多くのハイカーに合う。今迄、人に合わなかったせいか妙に親しみを感じるのは私だけだろうか。

秩父方面の町並みが良く見える。一休み後、雌岳に向かう。雌岳から芦ヶ久保の向かうルー

概略図



トは二つあるが浅間神社方面のルートは何故か通行禁止になっていた。このため兵ノ沢コースを行くのだが山頂直下の半分凍っている急坂は注意が必要だ（ロープが張ってある）770m峰手前から左の沢ルートに入る。整備された一般道をのんびり、一日を振り返りながら芦ヶ久保駅に向かう。多くのライダーが集結している道の駅で簡単な反省会をして新秋津駅から武蔵野線を利用して帰途に着いた。



地図読みに集中

概　　要

山名	三角山～二子山		
月日	平成 27 年 3 月 14 日(土)		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000 秩父、正丸峠
形式	日帰り	グレード	1B
目的	・駅から歩く静かな尾根道 ・地図読みが楽しくなるマイナー登山。		
費用	約 4000 円 (反省会費別)	交通 機関	JR 西武鉄道
日程	我孫子 5:41→日暮里→池 6:30/6:50(特急秩父)→横瀬 8:07/8:20⇒西善寺 8:50/9:00⇒3 号鉄塔 9:10/9:20⇒三角山 10:35/11:00⇒二子山雄 12:40/12:50⇒二子山雌岳 12:58⇒芦ヶ 14:25/15:17→飯能→新秋津(武蔵野線)→新松戸→我孫子駅 17:58		
ルート状況	・特に危険な個所はないが道標、標識はなく、登山道としての道はないので地図読みと、コンパス使用に熟知していないと歩けない。 ・二子山雌岳からの半分凍つている急坂には注意が必要。		
参加者	村松 (L) 外崎(SL) 武内 村越 大平　室崎 高橋富 北田 男性 5 名　女性 3 名　計 8 名		

＜８９２＞新人歓迎山行

鳴神山
(980m)

やまたんより転載

ようこそ新人のみなさん
山頂は素晴らしい雲海



岳人あびこへようこそ

外崎　蓮

それまで散々晴れていたお天気が次第に下降線をたどり、当日は予想通り雨になった。出発時の雨はやはり気が滅入るが、現地の気象情報は特に問題がなく、山のクラブともなれば少々の雨の中の行動も避けられないことから登ることに決めた。

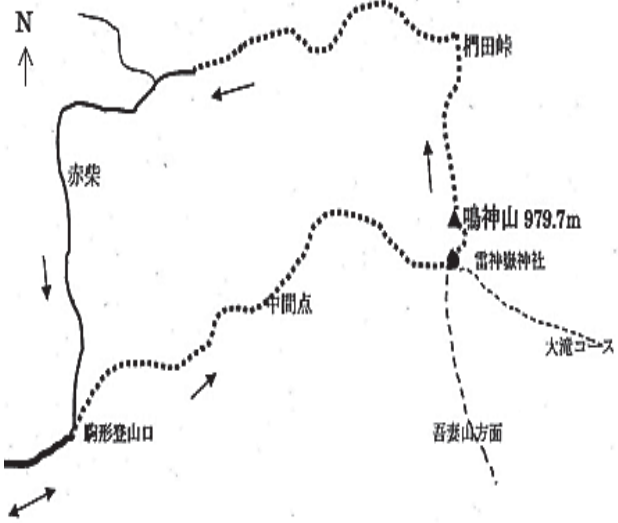
今年の新人（20 期生）は現在のところ６名で、この日は４名が参加してくれた。幸か不幸か募集当初より人数が減って、バスも大型から小型に変更。お陰で道幅の狭い登山口の近くまでバスが入れた。

それほど苦にならない雨模様の中、班ごとにまとまって歩き出す。しっとりした檜の林を伝う空気を吸い込み、沢の流れを聞きながら歩くだけで幸せな気分になれる。などとそんな気分に浸っている場合ではなく、今日一日が無事に終えますように！

衣服調整や休憩時には、班があまり離れないよう確認しながら進む。中間点を過ぎた先で林から開放され、ゆるゆると坂を登る。雪が解けたばかりのこの時期、道端の斜面にカタクリを発見。登山道で出会った自然保護員によると、カタクリなどの植物が鹿に食い荒らされて困っ

ているという。金網で囲った中に積もった落ち葉をかき出しながら、今年は芽を出してくれるだろうかと希少植物を案じていた。
雷神嶽神社に着くと雨足が強くなり、傍らに建つ小屋の軒下に逃れて軽食をとった。心配することもなく雨があがり、大きい方の鳥居をくぐって一登りで山頂の鞍部に出る。右手のちょっとした岩場の上が桐生岳だ。山頂に立って驚いた。ここは本当に鳴神山だろうか、標高 1000mにも満たないのに、まるで高山に立っているようだ。見渡す限り真っ白な雲海の底から、高い峰々だけがニキョニキョと頭をもたげている。いろいろな条件が重なって、そこに私たちが居合わせたのだった。雨の山行でもこんなにすばらしい景色が待っていることもある。もっと見ていたい気持ちを抑えて隣の仁多山岳へ。ゆっくりするにはこちらの方がいいようだ。ツツジの蕾が膨らんでいた。

概念図



仁多山岳から椚田峠まで一気に下って、あっという間に赤柴林道に出た。あとは砂利道を下りに下って、全員事故もなく、朝方出発した橋のたもとに戻ってきた。
全班揃ったところで金山の森キャンプ場へ移動する。下見をした筈なのに私はすでに忘却の彼方だ。みんなで案内板を探しながらやっとたどり着くや、昨日、食担係りが公設市場やジョイフルで買い込んだバーベキューの食材を、全員で炊事棟に運びあげる。管理人さんが付きっきりで世話をやいてくれた上、焚き木や使い残りの炭まで提供してくれた。大わらわで火を起こす人、野菜を切る人、肉類やビールを配る人が入り混じって、それでも秩序よく準備ができ、“新人さん、ようこそ”の気持ちを込めて乾杯する。新人の北田さんと藤家さんからは、それぞれ日本酒を、室崎さんからは焼酎をいただいた。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。
班ごとに鉄板のまわりに集まり、食べることに専念。今日はろくに食べる時間がなかった。空腹を満たすと手早く後片付けをする。炭は以前から残っていたものも持参して使用したので、現地で購入したのは 1 箱 350 円也であった。
雨があがり、管理棟の裏手の多目的ホールへ移動する。ホールの玄関の前に空き地があって、26 名が遊ぶにはよい広さだ。一つ目の遊びは、輪ゴム渡しをやることにした。それまで輪ゴムを引っ掛ける物としてマッチ棒を考えていたが、箕輪さんからまったが掛かった。男性は嬉しいが、女性は嫌がるのではないかと言われてハッとした。私は女性をとうに忘れていた。そこで急遽、マッチ棒から割り箸に変更。先ほど食べた箸を使用することにした。なるほどよく観察すると、矢野裕さんと中尾さんの輪ゴム渡しが苦戦だ。申し訳ないゲームであった。その後二つのゲームで無邪気に遊んだ。



帰りのバスの中で新人の方々に感想を述べていただいた。行きのバスの中で健やかな寝息を立てていた宮野さんは、これまで単独行だったので、団体行動に戸惑うことも多いそうだ。山が初めてという藤家さんは、すでに山歩きの体形ができあがっていて軽快に歩く。小島さんは、より上を目指して当会に入会されたか。渡辺さんもそのうち、奥の手を出してくるに違いない。下見に同行して一足早く山頂を踏んだ北田さんはすでに当会員になりきっている。私と同年齢の須田さんには、心より拍手をお送りする。

新人歓迎山行に参加して

A 班　藤家一仁

「岳人あびこ」20 期生　藤家一仁と申します。日頃より、何か趣味となるものを作りたいと考えていたおり、市報に掲載されていた岳人あび

この会員募集を見て申込み入会させていただきました。どうぞ宜しくお願いいたします。私の、今までの山の経験と申しますと、ケーブルカーを利用した高尾山や筑波山ぐらいでした。(笑)
とてもとても経験と呼べるものではなく、当然の様に何の用具等もございませんでした。
入会に伴い、武内会長に用具選びに御足労いただく等お世話になり何とかデビュー戦「鳴神山」に挑戦することが出来ました。
当日は生憎の小雨模様でしたが、購入したばかりのレインウエアーは撥水抜群でした。(^^;)
外崎リーダーの後を、カルガモの引越しみたいに、必死にぴったりついて登らせていただき、歩き方や休憩の取り方など教えていただきとても勉強になりました。
また、班員の皆様等に暖かく声をかけて頂き、お陰様で楽しく参加することが出来ました。特に、鳴神山からの雲海がとても神秘的で感動いたしました。サポート頂きました皆様に感謝申し上げます。これからは、ひとつでも多く山行に参加させていただき、貪欲に学んでいきたいと考えております。今後とも、皆様のご指導宜しくお願いいたします。



A班　雷神嶽神社前

A班　　宮野　誠司

天気予報は雨でした。私はどちらかというと晴れ男なので、きっと当日は雨は降らないだろうと思っていました。しかし、朝起きてみるとあいにくの雨模様。最近の天気予報は精度が増してよく当たると、感心しました。
　我孫子からバスに乗り、鳴神山めざして出発です。登山口まで貸し切りバスで行けるなんて、なんと便利なのでしょう。団体での登山だから、こういうことができるのだと思いながらバスにゆられていました。バスの中では睡眠不足もたたって爆睡してしまいました。
　気がつくと林道終点の登山口。天気は小雨。ラジオ体操をしてから出発。今まで単独の山行が多かったので、ラジオ体操などしたことがありませんでした。なんか新鮮な気持ちがしました。林道を少し歩くとカタクリの花が可憐に咲いていました。花は山行の楽しみの一つです。カタクリの花に出会えるとは思っていなかったので、とても嬉しくなりました。途中、鳴神山の自然を守る会の方が鹿の食害から花を守るために様子を見に来ていました。また、林道を守るために杭を打ち込んでいる方もいらっしゃいました。このような方がいてこそ楽しく安全に山を歩くことができるのだと、ありがたく感じながら登山道を上りました。
　山頂に着くと、低山にもかかわらず素晴らしい雲海の景色を見ることができました。三千メートル級の山に登った時と同じような景色に、思わずカメラのシャッターを押しました。雨模様の天気のおかげでこんな素晴らしい雲海を見ることができたのだと、またまた嬉しい気持ちになりました。



B班　鳴神山にて

下山後はバーベキューです。単独登山では考えられないことです。私はお酒が苦手なのですが、無理にすすめる方もなくて、とても楽しいバーベキューになりました。桜の咲く場所で、みんなでゲームをしたのも楽しい思い出になりました。山行を企画運営してくださったみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。楽しい新人歓迎山行をありがとうございました。

B 班　小島洋子

「たのしかった。」この一言で言い尽くします。岳人あびこ山の会に入部させていただき、始めての山行でした。企画していただきました T さんに感謝申し上げます。山行ののち、金山の森キャンプ場でのバーベキュー、そのあとのゲーム、恥ずかしながら輪ゴムゲーム最初どうなるのかと危惧しておりましたが、しかし、恥かしさも通り越して真剣にやりました。みなさまの真剣さにも圧倒されました。

さて、当日、3 時 30 分に目覚ましの音と共に起床、朝食を摂り昼食のおにぎりを作り 4 時 30 分身支度を整え柏発 5 時 22 分の電車で我孫子駅に向かう予定でしたが、一電車早い 5 時の電車に乗れました。

家を出る時は雨が降ってなく、今日一日もつかな～と思いながら我孫子駅に到着。ふれあい広場はどこかと思い駅の周辺を清掃している人に聞きましたら、ここがふれあい広場と言われ駅に待機したのですが、しかし、バスもないし、大通りを少し歩いたらバスが止まっており、ここだと安心しました。

我孫子を出発したバスは駒形登山口に到着、準舞体操をしていよいよ山歩きです。小雨の中、一班から三班に分かれていきました。山行も楽しかったです。多少岩などがあり、山を堪能しました。その後、バーベキューで沢山の肉やら野菜を食べさせていただきました。みなさんでやるとあっという間に料理が出来上がるのに感心しました。その後、ゲームを楽しむとのことでしたが輪ゴムを爪楊枝で隣の人に渡すゲームでした。さすがに顔が近すぎるので割ばしでとのことです。しかし、あまりに顔がちかいのではずかしいとおもい躊躇しましたが、思惑とはちがい皆さん真剣に格闘をしておりました。帰りのバスの中でも和気あいあいとまとまっており、改めて入れていただいたことに心より感謝しております。同じ山仲間としての連携が和気あいあいにするのですね。新人を皆さんであたたかく歓迎して下さり心より感謝しております。バーベキューの材料も前日に買出しに行かれたとのことでチームワークの良さをかんじました。よろしくお願い申し上げます。

C 班　　渡辺清子

全くの初心者として昨年９月に入会させていただき、私にとっては今回が３回目の定例山行となり、まだまだ「連れて行って頂く」という状態での参加でした。



C 班　険しい岩場登り

我が C 班はリーダー箕輪さん、サブリーダーの村越さんをはじめメンバーは８名。出発時から雨模様で少々不安がありましたが、皆さん頼もしそうな方ばかりで心強かったです。往きのバス車内では隣に座った末永さんより、改めて靴紐の締め方、そして初めて使用するロングスパッツの付け方を教えて頂きました。

小雨の中を A 班、B 班に続き C 班が登山開始。ストックの長さを調整していなかった為少々焦り、歩きながら適当な長さにしました。最初から結構きつい急坂、周りの景色も何も見る余裕なく前を行く中村さんの足元ばかりを捉えて遅れないように続きました。しばらく登ったところで「あれはニリンソウ」と後ろから末永さん。そこここにカタクリの花も！！山の花は可憐に咲いているけれど力強く逞しさも伝わってくる。蕗の葉を極小さくした様な緑色鮮やかな葉は何かしら？植物の殆んどの名前が分からない。途中、末永さんから歩き方についてアドバイスをいただく。私の足の進め方は「バランスを崩しやすく良くない」とのこと。「足を握りこぶし１つ分開いて、その幅の二本のレールの上をなぞって歩くような感じにするといい」と教えていただいた。けれど、私は一生懸命注意点を意識して歩いているつもりなのだが、後ろから見るとどうも言われた通りには出来ていない様なのである。その他にもいくつか指摘していただいたので少しずつ改善していきたいと思います。

山頂付近は急な岩場が少しあり、御指導頂きながら登りました。

鳴神山頂上からの眺望は、眼下一面に広がる素晴らしい雲海、そして遥か彼方の美しいやまなみ。快晴でなくても素晴らしい景色を楽しむ

ことが出来るんだと実感しました。

下山後のキャンプ場でのお楽しみ懇親会では皆さん慣れたもの、役割分担よろしくスムーズな流れ。一から火を熾してのバーベキューは初体験でした。しばし飲んで食べて和やかなひととき。食後のリクリエーションでは我が C 班は抜群のチームワークでした。２種類のゲームとも圧勝！　アルコールが回っていたにもかかわらず８人がよくぞ団結、何と総合優勝してしまいました。帰りの車中で賞品の「ふがし」を受け取りました。

小雨の中でしたが、お陰様で気分は晴れやかな楽しい山行となりました。どれも良い思い出になります。ありがとうございました。



標高 1000mにも満たないのに、まるで高山に立っているようだ。見渡す限り真っ白な雲海の底から、高い峰々だけがニキョニキョと頭をもたげている



ニリンソウ



カタクリ

何回やっても楽しい　カンパーイ



概　　要

山名	鳴神山		
月日	平成 27 年 4 月 5 日(日)		
山域	桐生市北部	地形図	1/25000 大間々　番場
形式	日帰り	グレード	1A
目的	鳴神山に登り、懇親会を通して新人(20 期)を暖かくお迎えする		
費用	6000 円	交通機関	貸し切りバス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場前 5:40（バス）→柏 IC→常磐道→外環道→東北道→北関東道→出流原 PA（トイレ休憩）→太田桐生 IC→駒形登山口付近の駐車場 8:00/8:25⇒衣服調整⇒中間点 9:15⇒雷神嶽神社 10:00/10:15（軽食）⇒鳴神山の桐生岳 10:20/10:30⇒仁田山岳⇒椚田峠 11:00/11:05⇒赤柴林道⇒駒形登山口付近の駐車場 12:00/12:10（バス）→金山の森キャンプ場 13:00/16:00→羽生 PA（トイレ休憩）17:45/18:15→我孫子駅北口 19:00 <歩行時間：3 時間>		
ルート状況	・最近は、大滝コースよりも今回の駒形コースがよく歩かれている。標識がしっかりあり、登山道もよく整備されている。 ・登山道は左右の高い山を見上げながら、沢に沿って登る。 ・中間点の先から周囲が開けて、足場の良いゆるやかな登りで雷神嶽神社に着く。 ・雷神嶽神社には鳥居が 2 つある。右手の大きな方は梅田部落の桐生岳へ。左手の小さな鳥居は川内部落の仁多山岳へ。が、今では桐生岳から稜線伝いに登られている。 ・桐生岳直下は岩場だが、足場がしっかりある。三角点は桐生岳にある。山頂は仁多山岳の方が広い。どちらの山頂にも祠が置かれてある。 ・このコースは林道歩きが長く、下山コースの距離の半分ほどは林道。登山口の橋のたもとに戻ると一周したことになる。		
参加者	A 班外崎蓮(CL)　坂巻(SL)　矢野祐　中村育　中尾　大平　高橋英　宮野(新人)　藤家(新人) B 班郷田(L)　本田(SL)　矢澤　　矢野貞　斎田　高橋富　内田　武内　小島(新人) C 班箕輪完(L)　村越(SL)　高橋芳　末永　室崎　中村隆　村松　渡辺(新人) 男性14名　女性12名　計26名		

＜８９３＞

生藤山～陣馬山

(991m)　(857m)

齊田　記代美

春の山を楽しむ

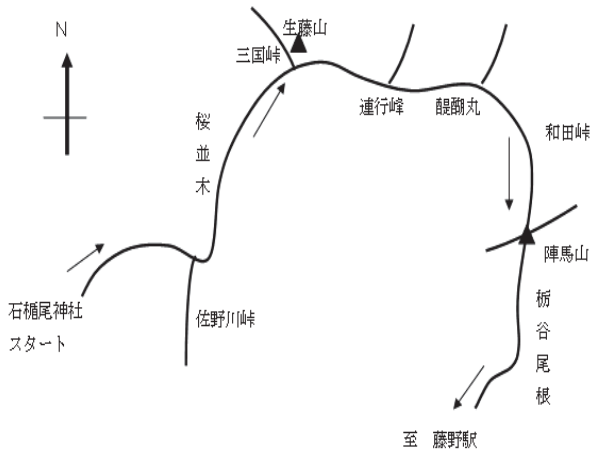


天候不順のため山行を“岳人あびこの天気予報士（？）さん”と相談して、急きょ 11 日（土）から、翌日 12 日の日曜日に順延した。その為男性2名女性2名の４名の方が参加できくなり、女性８人と貴重な男性１名の参加となった。

桜はふもとでは見ごろでしたが、山桜や植樹されたソメイヨシノが見られるハイライトの甘草水（かんぞうすい）あたりの桜並木や陣馬山では、まだつぼみが膨らんできたという状況でした。定例山行で、その時期にぴったり合わすことは至難である。しかし、幸い当日は青空のもと暖かくて春らしい尾根歩きを楽しむことができた。

何か所か巻き道があり、その都度皆でどちらの道を行くか話し合いながら歩いた。大半の意見はどっちの道が近いか？を基準に決まっていった。楽しんでいる割には安易な方を選んでしまいます。

栃谷尾根を下山後、陣馬山登山口のバス停までは思っていた以上に長く足取りが重くなってきて、バス時刻に間に合わないかもしれないねとタクシーを呼ぶことになった。和田峠から臨時バスも出ていたようですが、いずれも満員で陣馬登山口からは乗れない客もいるほどで、タクシーを呼んだのは正解だった。



概念図

タクシーの運手さんに、高尾駅前で反省会が出来るところを教えてもらい、しっかり反省をした後は、高尾駅始発に乗って帰ることができた。また東京からは座れないと思っていたが、日曜日の 19 時台というのが良かったのか、楽々座れて快適に帰ることが出来た。

機転の利く皆様のチームワークで本当に楽しく素敵な一日でした。



↑：スミレサイシンとエイサンスミレ



縦一列での昼食会

概　要

山名	生藤山～陣馬山		
月日	平成 27 年 4 月 12 日(日)		
山域	中央線沿線 (奥多摩)	地形図	1/25000 上野原　与瀬 五日市
形式	日帰り	グレード	2A
目的	春の山を楽しむ		
費用	約 3500 円	交通機関	JR　富士急都留中央バス　五日市
日　程	我孫子駅 5:33(千代田線)→新松戸 5:47/5:50→西国分寺 6:47/6:49→高尾 7:22 /7:26→上野原 7:28/8:08 バス→石楯尾神社 8:28/8:40→佐野川峠→甘草水（桜並木） 9:45→三国峠 10:20→生藤山 10:40→茅丸→連行峰 11:15(昼食 25 分)→醍醐丸→和田峠 13:15→陣馬山 13:50(休憩 20 分)→栃谷尾根⇒栃谷 15:30→陣馬山登山口(タクシー)藤野駅 反省会 15:50/17:29→高尾 17:47/17:57→東京 18:55/19:04→我孫子 19:46→東我孫子 ＜歩行時間　約 5 時間 40 分＞		
ルート状況	ルートは案内板等しっかりしてて道に迷うことはない。巻き道が数か所あり、どちらにするかその都度、参加者と相談した		
参加者	齊田(L)　大畠(SL)　矢野貞(SL)　箕輪カ本田　矢野裕　村越　石塚　北田 男性 1 名　女性 8 名　計 9 名		



＜８９４＞

日向山
(1,660m)

中村　八重子

甲斐駒・八ケ岳の展望と新緑と風化花崗岩を楽しむ





今年度、山の成り立ちを学んでいる。

巨大断層帯の秘密に迫る地域、北杜市白州に憧れがありました。

以前から登ってみたいと思っていた日向山。天空の海を見てみたい！！

尾白川渓谷を左手に見、竹宇駒ヶ岳神社前の大岩の脇から登る。所どころに咲く、山つつじが優しく出迎えてくれた。雑木林の中を緩やかに登ってゆくと、炭焼き釜をみることができた。

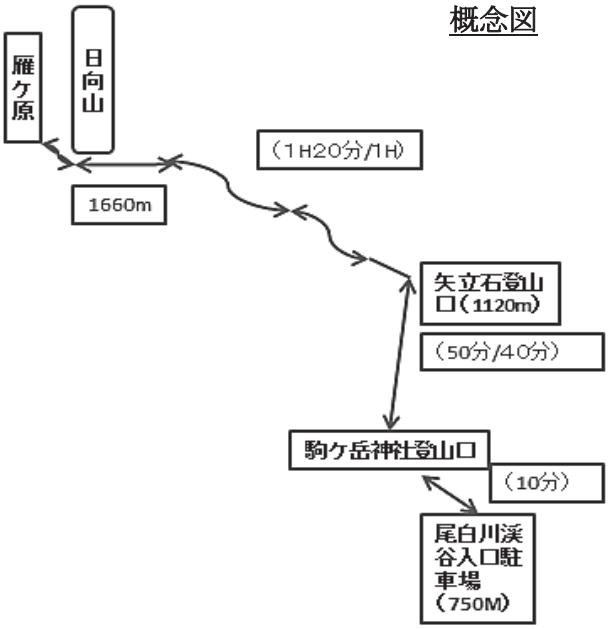
矢立岩から先の尾根道は、美しいカラマツ林やカエデの林に変わっていた。だんだんと体が重くなってきた。新緑の木々の緑はまだ薄く、


雁が原越しの甲斐駒ケ岳

春が目覚めたばかりだった。

頂上付近の自然林を過ぎると、砂浜のような白いザレ場。ずっと林の中の登りだったので、この山頂は感激で一杯でした。みんなの歓声があがりました。

概念図



花崗岩が長い年月をかけ、風化した場所だった。甲斐駒ケ岳、八ヶ岳、金峰山、その他の峰々が並んで見えた。目の前の岩稜の変化も面白い。大地に腰を下ろし、おにぎりを頬張る。昼寝でもしてみたい気分だ。登りに体力を使い果たしてしまった私。下山はいつになく厳しいものでした。

下山後、山麓の温泉「尾白の湯」で温まり、泡の出る「水」で反省会。幸福な時を過ごさせていただきました。有難うございました。

山頂の三角点はササの茂る雑木林の中で展望はありません。歓声をあげた場所は雁ケ原でした。

概　　要

山名	日向山		
月日	平成 27 年 4 月 26 日(日)		
山域	南アルプス周辺	地形図	1/25000 長坂上条
形式	日帰り	グレード	1A
目的	甲斐駒ケ岳・八ヶ岳の展望と新緑と風化花崗岩を楽しむ		
費用	約 5900 円	交通機関	貸し切りバス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場 05:40(ﾊﾞｽ)→柏 IC→(常磐道, 首都高. 中央道)→談合坂 SA07:30/07:40→須玉 IC→道の駅白州 08:50/08:55 尾白川渓谷駐車場 09:00/09:05⇒竹宇駒ケ岳神社登山口 09:10⇒矢立岩登 10:10/1015→三角点 11:45⇒日向山/雁が原 11:50/12:25⇒矢立岩登山口 13:32/13:37⇒尾白川渓谷入口駐車場 14:25(ﾊﾞｽ)→尾白の湯 14:30/16:00→ｺﾝﾋﾞﾆ→須玉 IC→談合坂 SA→柏 IC→我孫子北口 21:00 帰路中央道渋滞 ＜歩行時間:4 時間 25 分＞		
ルート状況	・駐車場～矢立岩登山口：標高差約 400m を一気に登る急登である。道は標識及びテープがありわかりやすい。 ・矢立岩登山口～日向山：良く整備された尾根道（ハイキングコース）		
参加者	郷田（L）桐生（SL）高橋芳, 大畠, 田村, 本田, 村越, 矢澤, 林, 高橋富, 藤家, 高橋英, 箕輪完, 斉田, 外崎, 中村八, 武内, 大山, 矢野貞, 箕輪カ, 室崎, 北田, 小島, 室崎育（ゲスト） 男 10 名、女 14 名　計 24 名		


うま～い　もう一杯

＜８９５＞

伊豆ケ岳
（851m）

中村　育子

新緑の美しい山

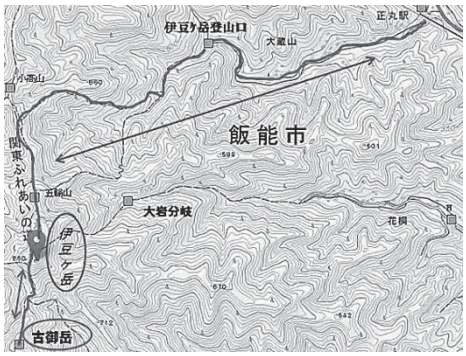


山頂にて　後方は奥多摩方面

春うららかな１日、新緑の美しい山を歩いた。「花の山」として人気の伊豆ヶ岳。今回は「花の名前」を教育研修で発表することになった。

正丸駅から大蔵山集落の道のり１キロを花の名前を調べながら、１時間かけて歩いた。名前を調べることがこんなに大変で、こんなに楽しいとは思いもしなかった。発表は入会ほやほやの北田さんにお願いした。「花のことは全く知らないんです。写真も僕は撮らないんです」と、しきりに困り顔の北田さん。困りながらも引き受けてくださり、参加者の協力と大山さんの素敵な写真のおかげで、研修会では素晴らしい発表をされた。

駅から登山口まで続く民家の庭には、花が爛漫と咲き誇り、川の対岸には山吹が一面に咲き乱れていた。種類が多く、名前のわからないスミレは樹林帯の登山道に入ってからも続いた。女性陣は花を良く知っている。男性陣は写真を撮りまくる。北田さんはふむふむといいながら、メモを取るのに余念がない。やがて小学６年生の遠足の一行に追いつかれた。それからは抜きつ抜かれつの登りになった。



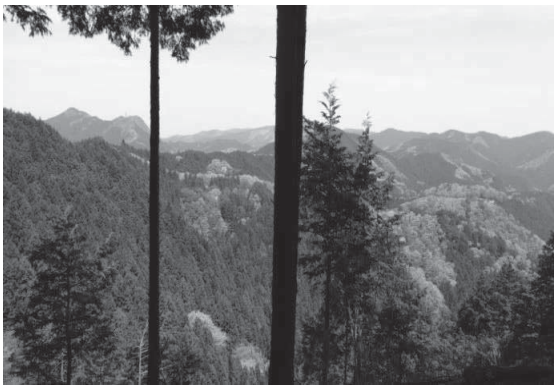
概念図

「泣き坂」といわれるザレ場にくると、踏み跡がなくなり、そこを登って尾根にあがらなければならない。木の根ののたうつ斜面を、小学生と一緒に私達も登た。百メートル位登っただろうか、ふと、女の先生が男の先生にいった。「先生、道が違いますよ、下見に来た時と」。まさか。彼らはあてにできないとわかった。とにかく尾根にあがろうと、気を取り直して登る。尾根に取りついて一息する。最後の尾根だと思ったが、実は一つ手前の支尾根だった。間もなく頂上直下、人気の 50mの鎖場（男坂）だ。ガイドブックには迂回路を行くようにと書いてある。女坂も崩落していて迂回路が出来ている。だが登山者の多くは迂回路ではなくクサリ場を登っている。私達も登った。みんなスイスイ登った。

伊豆ヶ岳山頂は小学生の１団で賑わっていたので、少し先の古御岳まで足を延ばした。古御岳の頂上には爽やかな風が吹き渡り、日差しがさんさんと降り注いでいた。広くはないが、ブナの新緑と葉桜に囲まれた明るい空間に、あづま屋と４つのベンチがあって、先客が一人いたが、すぐ出て行った。貸し切りになった。春の光を思いっきり吸い込んで、おいしい差し入れをいただきながら、昼のひと時を満喫した。

風邪気味の方がいらしたので、往路を引き返し、再び花の名前を調べながら歩いた。駅前の売店での反省会を含めて、楽しい一日を過ごした。皆さんに感謝だ。

新緑に彩られた秩父の山なみ



＜８９６＞

毛無山～十二ヶ岳
(1,500m)　(1,683m)

林　敏生

概　要

山名	伊豆ヶ岳		
月日	平成 27 年 4 月 28 日(火)		
山域	奥武藏	地形図	1/25000 正丸峠　原市場
形式	日帰り	グレード	2A
目的	1.　春の花と展望を楽しむ 2.　奥武蔵を代表する縦走路を歩く		
費用	3000 円	交通機関	電車
日程	我孫子駅 5:42→日暮里駅→池袋駅 6:30/6:35→飯能駅 7:21/7:53→正丸駅 8:25/8:40⇒登山口⇒9:25/9:30⇒分岐 9/45⇒休憩 9:50/1010/⇒五輪山巻き道下 10:50⇒伊豆ケ岳 11:15/11:25⇒古御岳 11:50（昼食）/12:25⇒伊豆ガ岳 12:45/13:00⇒五輪山 13:10⇒途中休憩 13:50/14:00⇒登山口 14:30⇒正丸駅 15:10/16:26→飯能駅→池袋駅→上野駅 18:20/18:39→我孫子駅 19:05 ＜歩行時間：５時間＞		
ルート状況	・「関東ふれあいの道」である。標識がしっかりあり、迷うことはない。 ・「五輪山」の下の支尾根の手前、いわゆる「泣き坂」は木の根が露出し、土がザラザラして滑りやすい。 ・その支尾根と正丸峠からの本尾根を、間違えそうになった。 ・頂上直下の男坂(鎖場)は、「自己責任」で登ることができた。		
参加者	中村育(L)　瀬田(SL)　大山　室崎 北田　石塚 男性3名　女性３名　計６名		



50メートルの鎖場を登る

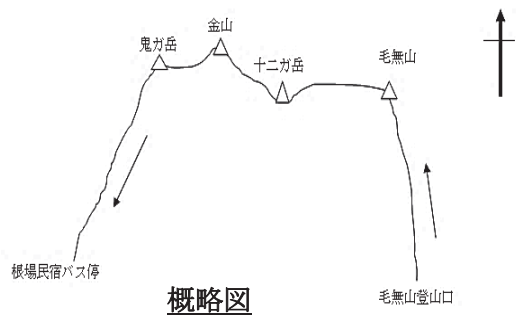
新緑と富士山展望



山行計画で、<毛無山、十二ガ岳>新緑と富士山展望にグレード 2Ｂも気にはなりましたが心が惹かれ軽い気持ちで参加申し込みをしました。

出発日の一週間の前に、十二ガ岳に岩場、ロープ、鎖場、吊り橋のあることを聞かされ、実家一階の屋根でさえ上がることができない高所恐怖症の私がはたして降りれるであろうか(登ることはどうにかできます)。コースガイドを何度も読み返しましたが、読めば読むほど、このコースを踏破してみようと山行に参加しました。

当日の空は私の気持ちとは逆に五月晴れ、車窓からの富士山の雄姿は全く申し分なく、文化洞トンネルの毛無山登山口よりいざスタート。黙々コースタイム通り歩けば目的地につくといい聞かせ、やや急な登山道を登り始めた。メンバーの方が登山道に咲く花の名前を次から次へ色々とあげることに, いつものことではあ



概略図

るが、あきれるぐらい尊敬した。私は花には一切興味がなく・・・。前を歩かせていただいたことは感謝します。

山頂からの展望は富士山の絶景(チョット雲が邪魔しました)をバックに記念写真。この毛無山から十二ガ岳のコースが変化に富んだコース、一ガ岳、二ガ岳、・・・十二ヶ岳と一つ一つの突起?を超えていきますが、十ガ岳を越えてからの降り登りは結構きつく、十一ヶ岳の降りは眼下に真っ直ぐ伸びたロープが長々と続き、十二ヶ岳の登り口の場違いな立派な吊り橋を一人ずつ渡ると、最後の鎖場とロープ、落石に注意して進んでいけば十二ヶ岳頂上。真下に伸びたはしごがなかったのは本当に安堵しました。小さな祠が二つが印象的でした。

毎回昼食時申し訳ないと思うことは、皆さんがお持ちになったおかずを、<喰わず嫌いの小生>は辞退しなければならないことです。御免なさい。

昼食後、当初の鬼ヶ岳ルートを変更して、直接下山コースを選択しましたが、途中の岩場は、絶景でもあり難儀でもあった。しばらくすると森林地帯に入り富士のお山も見え隠れし、西湖が眼下に広がり始めました。びっくりしたのは途中、登山道に通学路という標識に見たときは<なんで~>と声をあげましたが、車道を歩くよりは安全なのかなぁと、結論を出したらゴールが見えてきました。



十二ヶ岳岩稜を下る

今回の山行で、ロープ、鎖場のあるコースは大勢で臨むと待ち時間が多くなりコースタイムに狂いが生じると感じました。天気も気温も最高で、雨男の私にしては久しぶりに天候に恵まれた山行でした。リーダー大畠さん、メンバーの皆さん楽しい山行ありがとうございました。





十ヶ岳巻道のコイワザクラ　　イカリソウ

概　　要

山名	毛無山～十二ヶ岳		
月日	平成 27 年 5 月 6 日(水)　日帰り		
山域	御坂山塊	地形図 1/25000	河口湖西部　鳴沢
形式	日帰り	グレード	2B
目的	新緑と富士山展望		
費用	6,200 円(おでかけパス利用)	交通機関	ＪＲ富士急行タクシー
日程	我孫子 5:33 発→新松戸 5:46/5:50→西国分寺 6:45/6:46→高尾 7:09/7:11→大月 7:47/7:51→河口湖駅 8:43 着/8:50（タクシー）→毛無山登山口 9:05/9:15⇒1,242 地点 10:00/10:05 ⇒ 毛無山山頂 10:50/11:00⇒六が岳 11:40⇒十一ガ岳 12:15⇒十二ガ岳山頂 13:05/14:05⇒1,216 地点 15:30 ⇒ 文化洞分岐 15:40/15:45⇒山路バス停 16:05/16:19→河口湖駅 16:40/17:27→立川→西国分寺→新松戸→我孫子 21:08 着 <歩行時間 5 時間 30 分>		
ルート状況	・登山口から下山口まで道標が完備しており道迷いの心配はない。 ・毛無山は登山口から急登が続くが危険個所はない。1,242 地点でやっと一息つく事ができる。 ・毛無山から十二ガ岳間はヤセ尾根の岩稜帯。ちょっとしたピークに一ガ岳、二ガ岳と立て札が付いている。九が岳と十ガ岳は巻いて行く。十一ガ岳～十二ガ岳はキレットになっていて鞍部にはかなり揺れるつり橋が架かっている。十一ガ岳の下り、十二ガ岳の登りも何本もロープが設置されていて、このコース中の難所である。慎重を要す。 ・十二が岳からの下りもかなりの急降下路でしかも小石混じりのざれた登山道。細いロープが何本も設置されていた。注意が必要。		
参加者	大畠(L)　高橋芳(SL)　中村育　矢野貞　矢野祐　大山　矢澤　村越　石塚　林　小島 男 3 名　女 8 名　計 11 名		

＜８９７＞ＢＯＭ研修

滝子山
(1,620m)

やまたんより転載

ＢＯＭ滝子山山行に参加して



石塚あさ子

登山の基礎研修（ＢＯＭ）の山行の滝子山。第一回目の机上研修で学んだ登山の計画書の作成の宿題を電車の中で提出して、添削を受けるという事で、いつもとは違う緊張感を持って電車に乗りました。もう何年？いや何十年も宿題添削等は受けたことがない。皆同じ気持ちのようです。

今回のコース南陵（寂しょうコース）は、急登あり岩稜帯ありのバラエティにとんだコースの様です。ガイドブックを見ても、なかなかこのコースは載っていません。

桜森林公園にて地図読み研修をし、2 班に分かれて出発。途中寂しょう尾根の由来となった「寂悄苑」の看板の付いている古い建物の横を通って南陵の始まりです。林道を横切る所で地図読みの確認をして、ジグザグの急登を進み、尾根の上に来ると、山つつじがとても綺麗咲いていて、苦しい急登の褒美の様です。そしていよいよ岩稜帯になり、ストックをしまい、３点確保で登るようにとの声で岩に取りつきます。足の短い私にとって足の置き場と手のかける岩とのバランスがうまくいきません。先を行くリーダーの田村さんが振り返って声をかけて下さいます。３点確保、３点確保と頭で繰り返し、息を上げながらなんとか登り切りました。そしてかわいいコイワカガミが沢山咲いています。振り返ると見事な富士山が見えました。疲れも、気持ちもなごみます。この花を目的に登ってくる人も多いのだろう。

頂上はまだ先です。疲れもピークになり私は田村さんについていけません。

少し登っては呼吸を整えを繰り返して、やっと頂上につきました。Ａ班はもう 10 分も前に着いてごはんを食べている所でした。天気も最高で展望も良く富士山も良く見えます。

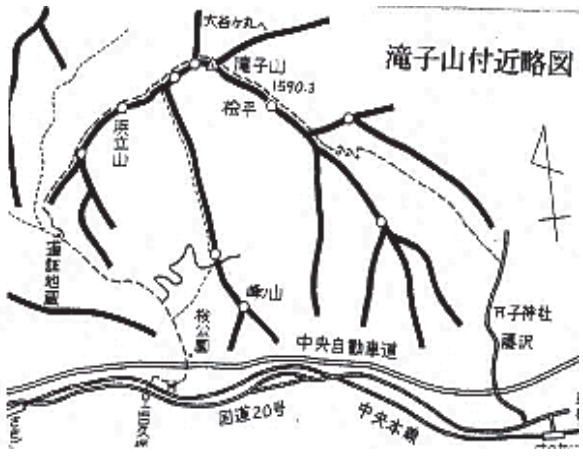
下山は私達Ｂ班が先になりました。ジグザグの急降下の道を下り、男坂、女坂の所では女坂を下り檜平に着きました。名前の通り林の中の平らな所で展望もいいです。ここに初狩駅の標識が 2 方向あり、ここでも地図読み確認をして、さらに気持ちのいい林の中を下ります。おおかめのきの白い花がいいですね。

手洗い用の水場の所で汗を洗い流して、ここからは沢沿いの道を下り、初狩駅へ着きました。

今回の山行は、まさにバラエティに富んだコースで、いろいろな事を教えて頂いた山行でした。又自分にとって、体調管理、体力面、技術面等反省と勉強になった山行でした。

計画していただいて有難うございました。

概念図



高橋冨美子

５月１０日は、ＢＯＭの講座の二回目です。滝子山に登りました。お天気にも恵まれ、風もほとんどなく、登山日和です。

柏駅より電車に乗ると、既に山行計画書の添削が始まっていました。大きな間違いが見つかり，恥ずかしーい思いもしましたが、細かい所まで

付け加えて頂き、とても勉強になりました。
　大月駅に降り立つと「遠山無限碧層々」、眩しい新緑の山々が目に飛び込んで来ました。
苦手な地図読みも有りましたが、時折吹いてくる風が体を吹き抜け、とてもさわやかです。次第に登りが険しく岩が多くなって来ると、下の方から大きな声でＬの村松さんの「三点確保で登れ！」との声が聞こえました。先頭を行くＳＬの大畠さんは、何度も後ろを振り返り、私達の足場の確認をしてくれました。足が重くなる頃、「わあ、きれい！イワカガミがたくさん咲いているわ、かわいい！三点確保で登っていらっしゃい」とＳＬの声が聞こえると、何故か力が湧いてくるから不思議です。岩を登り終えると、ピンクの花がたくさん咲いていて、その可憐さに感激しました。
50 分くらいを目安に休憩時間をとりました。その時々に美味しいものが配られ、その度に元気を取り戻しているのが感じられ、先輩たちは、いま身体が何を欲しているのかをよく解っているのだ！と、とても感心しました。
　帰り、新松戸の駅で村松さんより「よいリーダーになれる様に頑張って下さい」と云われましたが、リーダーへの道はとても険しいという事が解った山行でした。たくさんの事を教えて頂き、有難うございました。

北田仁則

好天に恵まれて、新緑の季節に行われたこの山行は実に素晴らしかった。
初めて、自分で山行計画書を作成することで、その重要性、リーダーの事前の準備の大変さがよく理解できた。また、計画書を自分で作成することにより、山行内容が実にコンパクトに盛り込まれていることが、よく理解できた。
滝子山は、低山の割に岩稜帯があり、登りでがあって面白かった。
地図読みは、まだまだ理解不十分なので、これからも、こまめにチェックしていきたい。
日帰り登山は、今まであまりやっていなかったが、今年になって今回で７回目を数えた。登山と言えば、３０００メートル級の高い山に行くことだという考えが強かったが、「岳人あびこ」に入会したおかげで、この認識は正しくなかったことがよく理解できた。
山に行くことにより、四季折々の素晴らしさを感じとることができるので、これからも、積極的に、山行には参加していきたい。
そのためにも、BOM 研修で基礎的な山の知識をしっかり身に着けるとともに、周囲に迷惑をかけないように、日ごろの健康管理をしっかりして山行に参加するように心がけていくつもりです。
これからも、ご指導よろしくお願いします。

大月秀麗富士二十四景(三ツ峠越しに)



藤家　一仁

　山登りに関して全くの素人ながら、今年「岳人あびこ」に入会させて頂いた私にとって、登山の基礎講座(BOM)の受講は渡りに船、大海で浮木に出会うようなもので、約１年をかけ基礎を勉強していきたいと思いますので宜しくお願い致します。
　4/14 に第 1 回目の机上講習を受け、今回の滝子山が実技講習となります。事前課題は今回登る滝子山の「山行計画書」の作成でした。当日、電車に乗り込むと直ちに赤ペンを持った講師に山行計画書を提出し添削を受けました。机上研修のおかげでなんとか全員クリアすることが出来ました。
　早朝の中央本線は登山客で混雑しておりました。当初の計画では「笹子駅」で下車でしたが、急遽、数日前に「大月駅」下車し、登山口までタクシー利用に変更となりました。理由は、混雑等による時間ロスを考慮した講師陣の経験に基づく判断でした。講師陣の判断力・情報量の多さを実感いたしました。
　まずは桜森林公園にて、地図を開き、コンパスの使い方からはじまり、バリエーションルートへと進みました。「バリエーションルート」の定義はいろいろとあるでしょうが、最初は踏み跡がしっかり残る登山道を進み、途中、地図とコンパスで現在位置を確認する方法を教わりながら新緑のトンネルを進んでいきました。しかし登るにつれ急な岩場の連続となり三点確保を心掛けなんとか登りきることができました。岩場に張り付くように咲いていている、イワカガミに癒され、富士山を眺めながらの昼

食を堪能することが出来ました。

下りは、初狩駅までの長いハイキングコースのような感じのルートにて下山し、途中分岐点では、道標だけを頼りにするのではなく地図で確認する大切さを学び、一日でも早く地図の読み方を習得したいと思いました。

下山し、初狩駅ホームから登り終えた新緑の滝子山を眺め、何とも言えない充実感を味わうことが出来ました。

最後に、講師陣の中央線沿線駅前お店情報の情報量の多さにも改めて敬服いたしました。

次の山行を楽しみにしております。今後ともご指導宜しくお願い致します。

小島洋子

BOM 講座の最初の山行です。滝子山の南陵からの登りです。昭文社の地図を見ますと登山道が点々で岩場ありと記載されておりました。緊張しながらの参加です。当日に計画書を宿題で出されておりました。何とか先輩方の計画書を参考に記入しました。しかし、略図を書き込むのに、指定の位置に入らなく悪戦苦闘をしてパソコンを色々さわっていましたら入ることが出来てホットしました。しかし、当日大失敗をしました。大先輩の M さんの名前に誤字をしてしまいました。おっちょこちょいで「ごめんなさい。」さて、我孫子発 5:33 発の電車でスムーズに大月に 8:14 分に到着。タクシーで桜森林公園に 8 時 30 頃到着。早速に地図読みを教えてもらい、磁石で行く方向を確認 8:50 分に歩き始めました。最初から直登です。9:40 分に一本。お天気が良かったので、雪を頂いた富士山を見ることが出来ました。三つ葉つつじや亀の木に花が咲いておりました。10:30 分に一本。いよいよ岩稜帯に入りました。歩き方を教えていただきました。大股ではなく小股で岩を歩くと負担が軽くなる。このことを頭の中に入れながら一歩一歩を慎重に歩きました。滝子山に 11:40 分到着。

すばらしく緑の洪水です。ブナ林が続いておりました。「なんて素晴らしいのでしょう。」思わず感嘆の声です。帰りは緊張することなく、周りの景色を眺めながら下山しました。しかし、林道に入ってからの歩きは長く感じました。早く着かないかとそのことで頭がいっぱいでした。初狩に着いてホットしました。大月で反省会をして、自宅に 9 時ごろ着きました。武蔵野線の電車の中で、M さんに地図の見方を教えていただきとても勉強になりました。地図上で等高線は 10 メートルで書かれていること。標高 300 メートルで登りは 1 時間が目安とのこと、下りは 400 メートルが目安とのことを教えていただきました。地図から地形を想像できるように勉強したいです。

仲間に入れていただき、楽しい雰囲気で山行を出来たことを感謝申し上げます。

概　　要

山名	滝子山		
月日	平成 27 年 5 月 10 日(日)		
山域	南大菩薩	地形図	1/25000 笹子　大月
形式	日帰り	グレード	2B
目的	・ＢＯＭ実技山行第一弾 ・バリエーションルート(南陵)を登る		
費用	約 4000 円	交通機関	JR バス
日程	我孫子駅5:33→新松戸駅→西国分寺駅→高尾駅7:26→大月駅8:20/8:30→桜公園8:30/8:50⇒鉄塔9:15⇒大鹿林道9:25⇒浜立分岐11:30⇒滝子山11:50/12:20⇒男坂、女坂分岐12:35⇒檜平12:50⇒藤沢部落14:30⇒初狩駅14:50/15:41→大月駅→西国分寺駅(武蔵野線)→新松戸駅→我孫子駅		
ルート状況	・滝子山南稜の入口は桜公園（中央高速道の先）を過ぎ、大鹿川に架かる橋の上部 50m位の右の登山道に入る（古い標識がある） ・右に建物（壊れそう）を見たら左折して尾根道に乗る。 ・標高1,200ｍを過ぎると岩稜帯になる。三点確保で慎重な登攀になる。		
参加者	A 班　村松(L)　大畠(SL)　大平 高橋富　北田　小島 B 班　武内(L)　田村(SL)　郷田　石塚 藤家　矢野貞 男性6人　女性6人　計12人		

ありました。イワカガミ→





＜８９８＞

大山
(1,252m)

新谷　直恵

大山参りという山行



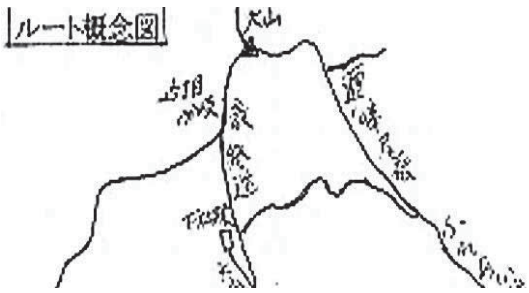
大山は、丹沢山などの山々とともに丹沢大山国定公園に属している緑豊かな山地。また「雨降山」とも呼ばれるほど豊かな湧き水の地でもあり、それを使ったお豆腐でも有名だ。

秦野からバスでヤビツ山荘まで行き、そこから歩き始める。だが台風が接近していて風が強く、黒い雲が気になる。２５丁目のヤビツ分岐まで１時間１０分。登山道は枕木や石畳でよく整備されているが、段差が大きく、また岩肌がゴツゴツしているところもあり、雨の日は滑りやすいだろう。

さらに１０分ほど行くと山頂に到着。そこには「阿夫利神社本社」と記された石柱が立っていて茶屋もある。これまでどれほど多くの人々が祈りと共にこの地を訪れたことか。この山頂からの眺めはすばらしく、晴れていれば相模平野から三浦、房総半島、東京都心の高層ビル群、さらには丹沢表尾根、箱根、秩父の山並みまで望見できるというが、残念ながらポツリポツリと雨が降ってきたので私たちは小休止後、急いでヤビツ分岐まで降りる。

そこからは登ってきた道とは別の 20 丁目富士見台、１６丁目と下り、阿夫利神社下社まで下山。途中シロヤシオなどの花が美しい。大山参りの風情は今も広い境内のあちらこちらに残る。私たちも下社拝殿の地下から湧き出るご神水でありがたく喉を潤した。この頃には心配した雨も上がり、風も落ち着いてきた。

長い階段を降りると、両側に土産物屋や旅館が連なるこま参道が現れ、大山豆腐や木肌のぬくもりを感じる大山こまなどの品が並んでいる。前もってリーダーが予約していた一軒に入って、昼食をいただきながらの反省会。この日の山行は、末永三江子さんが初リーダーだったためみんなで乾杯。ゆっくり休んだ後、下山は台風接近のため予定を変更してケーブルカーで降りることになった。急勾配のケーグルカーからの美しい車窓風景からも、大山の全景が伺えて楽しかった。



概　　要

山名	大山		
月日	平成２７年５月１３日(火)		
山域	丹沢	地形図	1/25000　丹沢　大山
形式	日帰り	グレード	1A
目的	新緑を楽しむ		
費用	4500 円	交通機関	電車　バス
日程	我孫子5:34→代々木上原6:42/６:43→秦野7:57（バス）8:18→ヤビツ山荘8:50/9:00⇒２５丁目10:10⇒山頂10:20/10:40⇒富士見台11:00⇒阿夫利神社下社駅12:00→ケーブルカー12:20→ケーブル駅12:25→伊勢原→我孫子18:00		
ルート状況	他の山より階段が多いが、標識もしっかりしていて迷うところがない。 土の乾きにより、滑りやすく注意が必要。		
参加者	末永(L)　高橋英(SL)　箕輪カ　中村育 齊田　新谷　林　北田 計８名（男性４名、女性５名		



強風の中で

＜８９９＞

愛鷹連峰(越前岳)

(1,504m)

本田　愛子

間近な富士と愛鷹ツツジ楽しむ



越前岳　三班合同の記念写真

富士山を取り巻く山々は南方に位置する愛鷹連峰（越前岳・呼子岳・鋸岳・位牌岳・黒岳・愛鷹山)、北方には御坂山塊（三ツ峠・十二ヶ岳･鬼ヶ岳･黒岳)、東方の山域には御正体山・杓子山‥、西方は毛無山・天使ヶ岳等‥何れも秀麗な姿の富士を展望できる山々がある。

静岡側からの富士の雄姿とアシタカツツジを拝むのに新緑のこの時期に相応しい山（越前岳）を計画してくださったリーダーに感謝。多数参加の 19 名（3 グループ）で我孫子を出発した。時間短縮のため新宿から特急ロマンスカーを利用して、ゆったり旅行気分で御殿場駅まで直通で来られた。駅前は予想どおり大勢の行楽客がバス停に並んでいた。富士サファリパーク行の満員バスに乗車。

愛鷹登山口で下車した。すぐに林の中の道を 20 分ほど歩いていくと、駐車場とトイレがある山神社入口に着いた。身支度を整え、体操と挨拶をして 3 グループに分かれて登山道に入った。急登の樹林帯を 40 分登っていくと愛鷹小屋と書いてある古い避難小屋が現れた。右側を通り越しやがて黒岳との分岐点富士見峠に着いた。左に行くと越前岳方向だが、黒岳直下の展望台からの富士山が素晴らしいとのことで、寄り道して右方へ 15 分位急登すると北側が開けた見晴台があった。あいにく今日の富士山は隠れていたが、裾野の街並みが良く見えた。小休止をして先程の分岐に戻り先を急いだ。

尾根を登っていくと、濃いピンク色のアシタカツツジが新緑の間から見えた。あちこちから可愛いと歓声とため息が聞こえた。満開の三つ葉ツツジも爽やかで疲れを癒してくれた。南側は展望が開けて鋸岳の岩稜と位牌岳の稜線がよく見える。登山道は大きく削られ荒れているため、脇を通れる道ができていて段差が少ない方を選んでそこを登って行った。分岐から 1 時間半位で富士見台に着いた。軽く行動食を摂って休み、最後のひと頑張りして、越前岳山頂に到着した。(13:00)

３グループ揃うと早速記念写真を撮った。ゆっくりしたいが、途中で寄り道したので、15 時のバスに乗るにはあまり時間がない。しかし、展望の良い山頂（富士山は見えないが）を満喫したいので、リーダーの機転でタクシーに切り替えた。幸い携帯が繋がり 2 件のタクシー会社に交渉し予約をしてくれた。お蔭でゆっくり昼食を摂って、十里木高原コースへ下山開始。すぐにツツジのトンネルが続く急坂を慎重に下りて行く。時々足を止めて振り返ると、新緑の中にアシタカツツジが見事に咲き誇っている。ずみの白い花も満開だった。

下りがなだらかになった辺りに馬の背展望台がある。ここからの富士も素晴らしいだろうと想像する。今回は一度も雄姿を見ることが出来なかったが代わりに素晴らしいアシタカツツジや三つ葉ツツジ、ずみの花たちに癒されて満足できた山行だった。静岡側からの富士山をみるためにもう一度来てみたい山になった。15:30 十里木高原に下りてきた。予約したタクシーが待ってくれていた。富士の裾野を走り自衛隊の基地を横切って御殿場駅に戻ってきた。

さあ、登山開始。出発



＜９００＞

新三国峠～十文字峠～甲武信ヶ岳 (2,475m) ～西沢渓谷

高橋　芳恵

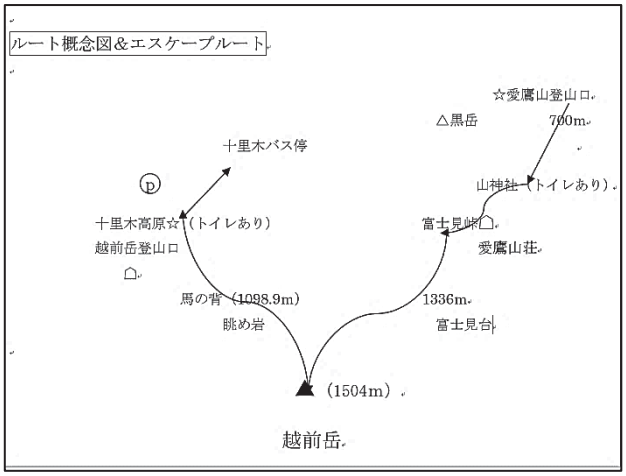
シャクナゲのトンネル、展望楽しむ



甲武信ヶ岳山頂にて

概　要

山名	愛鷹連峰(越前岳)		
月日	平成 27 年 5 月 17 日(日)		
山域	富士周辺	地形図	1/25000 愛鷹山　印野
形式	日帰り	グレード	2A
目的	間近な富士と愛鷹ツツジを楽しむ		
費用	7000 円	交通機関	JR, 小田急, ﾀｸｼｰ 富士急バス
日程	我孫子駅 5:31→日暮里→新宿 6:30/6:45 小田急(特急)→御殿場 8:21/8:30(バス)→越前岳登山口 9:00⇒山神社入り口 9:30⇒愛鷹山荘 10:15⇒富士見峠 10:25⇒黒岳展望台 10:45⇒10:55⇒富士見台 12:35⇒越前岳（1504m）13:00/14:00⇒馬の背展望台 15:05⇒十里木高原バス 15:30(タクシー)→御殿場 16:10/17:40 新松田 18:10/18:25→代々木上原→我孫子 20:35 ＜歩行時間 4 時間 40 分＞		
ルート状況	・愛鷹登山口近くの山神社、十里木高原に広いパーキングがあり、トイレも整備されている。 ・前日の雨のせいもあり、登山道はすべりやすく、昨年より崩れている箇所が多くなっていた。往復 20 分の黒岳展望台に立ち寄ったが、思いの外急こう配であった。 ・越前岳頂上は平坦で富士を眺めるには格好のお休み。 ・十里木高原までの下山道はかなりの急こう配で馬の背展望台からは十里木のパーキングが眼下に臨める。		
参加者	高橋芳（L）大畠（SL）田村（SL）大山 箕輪完　矢澤　外崎　箕輪カ　瀬田 本田　林　室崎　中尾　矢野裕　細野 石塚　渡辺　高橋富　小島 男性 6 名　女性 13 名　計 19 名		



1 日目

上野から北陸新幹線で佐久平に向かい、久しぶりに小海線に乗車した。佐久平駅で待ち時間があったため駅内を回ったが、めぼしいものは何も見つからない。佐久平は「ピンコロ」で有名な地であり、日本中で健康寿命が最も高い地でもある。かつては 1～2 を争う短命の地であったが、住民の努力により見事に健康都市に生まれ変わり、住みよい地としても人気があるというだけに駅から見る景色も正面に浅間山の重厚さ、華麗な八ヶ岳、白く見えるは北アルプスと住んでみたくなるような景観である。ゆっくり高原列車に乗り、車窓を楽しむ旅もよいものである。下車した信濃川上（長野）は静かなレタスの町で一面のレタス畑がどこまでも続く。ご当地出身の宇宙飛行士が無人駅の横断幕で紹介されていた。

新三国峠（長野）まではタクシーで 30 分ほどのところで切通しの峠を越えたところが埼玉県となる。ここから三国峠を越えると群馬に至る。私たちは新三国峠から十文字峠を目指して向かったが、この峠は埼玉、長野、山梨、群馬の 4 県が隣接している地である。

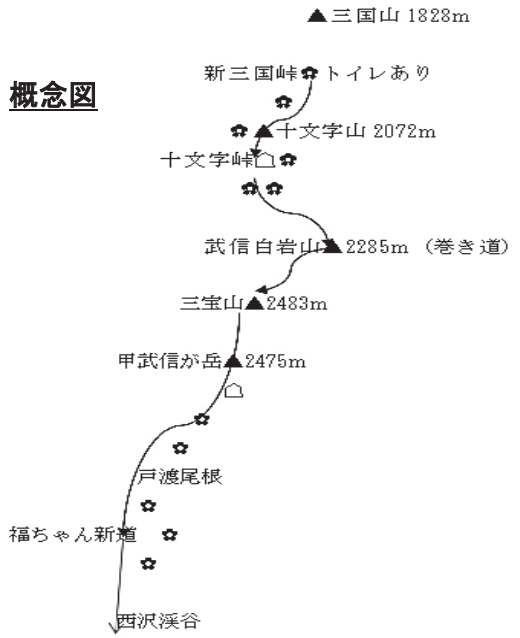
新三国峠からは南に向かって歩き出し、間もなく無線中継所の道路に出て、また山道に戻る。途中何度も地図を見て現在点を確認して歩い

たが、地図では想像できないような小さなこぶが連続し、痩せ尾根のアップダウンがかなりきつい。1時間ほどで悪石の三角点についた。さらに1時間で梓白岩の巨岩の下を巻いて通過、眺望を楽しみ弁慶岩に至った。

歩き始めてからずっと道はしっかりついているものの歩かれた後がほとんどなく、期待のシャクナゲはすでに終わっていて「変だなー」と思っていたが、1900mを越えたあたりからきれいなシャクナゲが現れ始め、「わあー」と歓声が上がった。シャクナゲを目的とした山であり、内心ほっとした。十文字山に近づくにつれ、道幅は広く、こちらは踏み跡がしっかりついていた。十文字山（2071.9m）は展望がないが緩やかな広い山頂でゆっくり休み、初めての登頂のあいさつをした。こちらも地図では巻道を表示しているが、おのずと山頂に出るような道なりであった。ここから十文字峠は10分で到着し、ひとまず小屋に荷物を置くこととした。管理人の話では「今年は1週間から10日花期が早く、花咲ははずれの年で来年はいいでしょう」とのこと。

一休みのあと、小屋周辺の乙女の森や展望台を周遊した。特に展望台は眺望がよく、しばらくゆっくりと過ごした。それにしても今日の行程はかなりきつく、考えていた快適な稜線歩きとは程遠かった。十文字峠はかつて様々な歴史の街道だった。

概念図



2日目

朝食事を早く済ませたこともあり5時半に出発した。十文字小屋は女性管理人（宗村さん）の小屋で部屋は1部屋三段ベッドで12名となっているが、込み合うときには1ベッドに3名ということもあるらしい。幸い今回は一人1ベッドで過ごすことができた。ただ3階の人は上り下りが大変であり、それぞれボランティア精神旺盛の方々が引き受けてくれた。

小屋を出るときに宗村さんから何度も「よい道（三国尾根）を選んでくれてありがとう。」と感謝され、「こちらこそありがとうございます」と答えた。十文字峠は秩父に抜ける峠道で、秩父への遍路、善光寺参りの道である。武田信玄の時代には大菩薩からの金山の物資が行き交った道であり、養蚕が明治政府の富国と奨励され一気に繁栄し、世界恐慌で暴落、困窮の結果、秩父困民党として抵抗する人々に踏まれた道であり、歴史の中の十文字峠の今昔に感慨がひとしおだった。

Yさんの天気予報どおり、本日、風はなく、快適な歩きが期待できそうだった。大山までは急登が続き、はしごもあったが、大山からは360度の大展望ができ、南北アルプスの白い峰々、八ヶ岳、金峰山など奥秩父の山々を確認した。さらに木の根が重なり合った急登を越えた。武信白岩（2288m）は昨日の梓白岩に似ているがさらに巨大で頂上は越えることができず、巻道を選んだ。期待通りとはいかないが、シャクナゲのトンネルがあり、心地よく歩くことができた。今日のコースは楽ではないが、しっかり道がついており、アップダウンも昨日ほどではなく、昨日の経験が生かされ、全員が快適に歩けている。

ユーモラスな尻岩



ユニークな形の尻岩でしばし休憩したが、本当に二つの丸い岩がお尻のようでユーモラス

な奇岩である。ここから三宝山（2483.3m）へは1時間半を要したが、道幅もありそれほどのこともなく到着した。（昨日、小屋の方から三宝山に登ればどんな人生の苦難も越えられると説明を受けた）三宝山は埼玉県最高峰の山であり、甲武信ヶ岳よりも高い。ここからの甲武信ヶ岳へは奥秩父縦走路に比べて随分、楽に山頂に至ることができる。

甲武信ヶ岳山頂はさすがに展望がよく、ここからの富士山はいつも姿が淡麗である。埼玉県の表示がやたら大きいが、山梨県、長野県の三県の境界となっている。何度来ても感動する山である。



八ケ岳を望む

甲武信小屋では有名な山中徳治さんとお話し、ここからは一度も登頂したことがない木賊山（2468.6m）を訪問、やはり巻道の方がかなり楽なことを確認して、急坂の戸渡尾根を下った。続いての徳ちゃん新道は山中さんが開いた緩急のある歩きやすい道であり、ここでもシャクナゲは 1900mより上にしか咲いていなかったが、カラマツの新緑の美しさに心洗われる思いだった。西沢渓谷に近づくにつれ、急斜面が続き、最後の斜面は絶壁のような斜度があった。間もなく水音が聞こえ始め、西沢渓谷登山口に到着したが、このころからポツリ、ポツリと雨が当たり、入り口あたりで傘をさすほどの本降りとなった。本日は高曇りではあったが、どこからも展望はあり、四方の山々は昨日同様臨むことができ、おまけに下山した後に雨が降り出し、これほど幸運はないと思った。目的のシャクナゲ三昧を楽しむには 100％とはいかない結果ではあったが、参加者全員の快い協力のもと、思った通りの充実感を味わえた山旅であったと総括している。大好きな奥秩父と峠を味わう旅をこれからも続けていきたいと願っている。

概　　要

山名	新三国峠～十文字峠～甲武信ヶ岳～西沢渓谷				
月日	平成27年6月4日(木)～5日(金)				
山域	奥秩父	地形図	1/25000 居倉 金峰山		
形式	山小屋泊			グレード	3B
目的	シャクナゲ三昧の山を楽しむ				
費用	19000円	交通機関	JR(新幹線) ﾀｸｼｰ		
日程 一日目	我孫子 5:30→上野 6:04/6:34→佐久平 7:45/8:31→信濃川上 9:45（タクシー）→新三国峠 10:20/10:30⇒悪石 11:20⇒梓白岩 12:20⇒十文 15:15/15:20⇒ 十文字峠・十文字小屋 15:35/16:00⇒展望台周遊⇒17:00 十文字小屋(泊) ＜歩行時間4時間＞				
日程 二日目	十文字小屋 5:35⇒大山 6:30/6:40⇒武信白岩(巻道)7:20⇒尻岩8:10⇒三宝山9:25/9:35⇒甲武信ヶ岳 10:18/10:50⇒甲武信ヶ岳小屋 11:10/11:20⇒木賊山 11:40⇒戸渡尾根入口 11:50⇒徳ちゃん新道分岐 13:15⇒西沢渓谷登山口 15:10⇒トイレ 15:15/15:25→(タクシー)塩山温泉（井筒屋）16:20/17:10⇒塩山駅前(反省会)17:30/18:10 塩山駅 18:28→高尾・西国分寺→我孫子 21:35 ＜歩行時間8時間 ＞				
ルート状況	・一日目の新三国峠～十文字峠道はしっかり:しているがほとんど歩かれていないルートで,地図からは想像できないような小さなアップダウン、痩せ尾根の繰り返しで手こずった。 十文字山周辺から十文字小屋にかけてはしっかりとしたトレイルで、歩く人も多い。なだらかな気持ち良い山頂だ。地図には巻道の表示があるが実際には山頂を経由するコースとなっている。 ・シャクナゲは 1,900mから上ではきれいに咲いていたが、今年は花が少なく、花の時期が例年より 1 週間以上早い様子。十文字小屋周辺もまだらな状態だった。 ・小屋から 1 時間の大山は展望がよく、360度見渡せた。その後巨岩、奇岩が楽しめる。特に尻岩はユーモアがあり納得した。三宝山への登山道は道がしっかりしており歩きやすい。埼玉県最高峰でもある。 ・木賊山は何時も巻道を歩いたが登りがかなり急でやはり巻道の方をお勧め。 ・西沢渓谷への戸渡新道、徳ちゃん新道は急坂をひたすら下る。最後、絶壁のような斜面を下ると水音が聞こえ、西沢渓谷登山口に至る。				
参加者	高橋芳(L)　田村(SL)　大畠　中村育 矢野貞　末永　大山　矢澤　大平 男性3名　女性6名　計9名				

＜９０１＞市民山行

黒檜山（赤城山）～駒ヶ岳
（1,828m）

やまたん特集号より転載

絶好の登山日和
美しい新緑、満開のツツジ楽しむ



6 月 7 日　黒檜山山頂　44 名全員で



黒檜山の眼下には静かな大沼（おの）

第 21 回市民登山
「黒檜山～駒ヶ岳（赤城山）」を終えて

岳人あびこ市民登山実行委員長
武内　勇二

関東甲信地方は、６月８日に梅雨入りの発表がありました。市民登山は、例年６月第１週の日曜日と会の年間計画で決められているので、いつもお天気には気を揉みます。昨年の浅間山（前掛山）山行では、我孫子でバスに乗り込む時に大粒の雨が降っていました。今年は２日前が雨でしたがその後天気は回復し、市民登山当日は、雲はありましたが陽射しは明るく、雨の心配のない絶好の登山日和に恵まれました。日曜日のこととて高速道路の渋滞を懸念もしましたが、思いの外スムーズで、予定よりも３０分ほど早く黒檜山登山口に着くことが出来ました。赤城山はつつじ祭りの最中で、予想以上に登山者が多かったので、登山中は度々立ち止まりを余儀なくされましたが、この貯金があるのでそれほど心配はありませんでした。

黒檜山山頂は人でごった返していたので、見晴らしの良い天空広場まで進み、ここで昼食休憩としました。下山路の黒檜山～駒ヶ岳～大沼間は階段が多く急ぐと危ないので２時間位はかかるかもしれないと予想していたので、昼食休憩時間は３０分弱しか取れませんでした。ややせわしない思いをされた市民の方もおられたかもしれませんが、お許し下さい。おかげで当初予定時間より１５分ほど早めに下山出来ましたので、途中下車して満開のレンゲツツジを見るため見晴山の展望台に立ち寄ることが出来ました。当初の計画にはありませんでしたが、楽しんでいただけたものと思います。

入浴に立ち寄った「あいのやまの湯」も人でごった返していました。特に女性の方にはゆっくりと入浴を楽しむ余裕がなかったかもしれません。赤城山に近い公営立ち寄り湯の「富士見の湯」が休業中で、人がここに集中したのだろうと思います。リーダーとしては申し訳ない気持ちですが、他の選択肢もなかったのでお許し下さい。帰りの高速道路も思いのほか空いていて、ほぼ予定の時間に帰着できたのはラッキーでした。

今年も事故なく、無事に市民登山を終えることが出来ました。黒檜山への登り途中で、後続のパーティの中で病人が出て、ヘリで搬送する事態が起きています。わがパーティでなくて本

当に良かったと胸を撫で下ろしました。今回の市民登山の募集に当たっては、特に年齢制限はつけませんでした。健康状態や山登りの体力は個人差があり、単に年齢だけでは判断できないので、あくまで参加者の自己判断に委ねている訳ですが、実際に登山中に病気という事例に遭遇すると、今後もこの方針で行けるかどうかは検討する必要があると思いました。

何はともあれ、天候にも恵まれ事故やトラブル無く赤城の山を楽しむことが出来ました。バス内でお願いしたアンケートで、皆様の「楽しかった」との感想を得て、やった甲斐があったと喜んでいます。改めて、市民の皆様のご協力に感謝申し上げるとともに、今後もご一緒できる機会があるよう、力をつくして行きたいと思っています。今後とも山の会「岳人あびこ」へのご支援をよろしくお願いします。



美しい新緑、急勾配の登り



岩の道もなんのその

A班



黒檜山山頂にて

上毛三山の名峰に登る

A班リーダー：村松　敏彦

今年の市民登山の山は日本百名山であり、上毛三山（他に榛名山、妙義山）の１つ赤城山山系（赤城山と云う名の山はない）の最高峰黒檜山の登山口に立ったＡ班のメンバーは市民 5 名、会員 5 名、計 10 名の元気な人達だった。

簡単な自己紹介の後に、登山開始する。いきなりの急登と岩の登山道に息が荒くなる。良く見ないと解らないが猫岩と呼ばれる場所に着くと、眼下に緑の水面が輝いている大沼（おの）が見える。周囲はつつじ、みずならの木が眼が覚めたばかりの美しい葉を一杯に広げて迎えてくれた。しかし、登山口の周辺だろうか、ヘリコプターやら救急車の音が静かな山域に思わぬ騒音を醸し出していた。何か事故が有ったようだ。（他のパーテイに病人が出たようだ）

勾配が緩むと駒ケ岳の分岐に着く。所々に「黒檜４」ないしは「駒５」とか数字を表している名板が目に着く。これは緊急時に携帯にて連絡するとこの場所を知らせると応答した側が何処の場所か解るように設置した名板のようです。

分岐からは左に進むと黒檜山の山頂に着いた、大勢の登山客が弁当を広げて楽しんでいた。座る場所もないので 5 分位先の「天空の広場」と云われている展望台に移動する。ここからの展望は素晴らしい。少し曇っていたが赤城周辺の山々、上越国境の山、奥日光の山などかすかに見る事が出来た。山頂を後に駒ケ岳に向かう。直ぐに鳥居のある「御黒檜大神」のピークに着

く。ここからは木製の階段を一気に下る。アップダウンを繰り返すと、間もなく二つ目の目的駒ケ岳に着く。所々に咲くツツジの華やかな色が印象的だ。ここからは鉄製の階段が下山口近くまで続く。下山口にて全員と硬い握手をして、無事に登りきった安堵感と登山の楽しさを分ちあった。

A班の皆様、楽しい一時を過ごす事が出来、リーダーシップでパーテイを纏めたサブリーダーを始め、皆様に感謝します。

A班　　豊島　雅和

6 月 7 日 黒檜山～駒ケ岳の市民登山に一般市民として参加させていただきました。岳人あびこの皆様には、山行前の丁寧な説明会から、当日の山行中、その後の温泉や往き帰り車中での情報提供や飲物サービス、そしてキャッシュバックなど、大変お世話になりました。当日は天気にも恵まれ、また渋滞や急病人などのトラブルはこのグループにおいてはなく、新緑と満開のツツジ、そして温泉を楽しむことができました。行きも帰りもスムースに動け、混んでいたのは山頂だけ(笑)という感じでしたが、まさにベストシーズンの山行に適した日で、充実した1日にとても満足しています。

このような素晴らしい企画に参加費 6500 円で参加できるとは、素晴らしい機会です。「登山客」から次の段階への道は遥か遠く、まだまだ山行の経験を重ねなければなりません。運営・サポートする側の大変な苦労があることを会長やリーダーの行動やお話から知ることができました。ご苦労も多いとは思いますが、今後もこのような市民登山が開催され続けることを、一般市民として強く願っています。

岳人あびこの皆様の今回の献身的、良心的なサポートがあればこその楽しい黒檜山山行であったと深く感謝しています。本当にありがとうございました。



満開のレンゲツツジ（見晴山展望台）

B班



黒檜山山頂

火口内側から登り、外輪山の縁歩く

B班リーダー　　箕輪　完二

Ｂ班は会員５名、市民４名（夫婦１組）合計９名の編成となった。天気も良くバスからは関東の山並みが見えてきた。黒檜山登山口でバスを降り、簡単な自己紹介をしながら担当を確認した。「やまたん」感想も向夫妻が快く引き受けてくれた。歩く順序は座席の隣りあわせになった人が前後になり、歩くことにした。

登りはじめてしばらくすると、後続の団体から体調不良者が出ている旨連絡が入る。やがて救急車や救急ヘリも来たようだ。気を引き締めてゆっくり登る。途中で３回ほど休憩を取る。振り返ると眼下に大沼がきれいに広がっている。励まし励まされ声をかけながら、２時間ほどで黒檜山に到着。その先にある天空広場まで行き皆で昼食をとる。展望はあまり良くないが満足だ。黒檜山に戻り全員での集合写真。後は駒ヶ岳を廻って下山する。無事に全員が下山できて何より良かったと思う。

赤城山は大沼を中心としたカルデラで今回、登った黒檜山～駒ヶ岳は外輪山をなしているという。火口の内側から登り、外輪山の縁を歩き、また火口に戻ったということになる。勾配がきついのは火口の内側だからだと思った。昨年、市民登山で登った浅間山が小噴火していて２ｋｍ圏内は立ち入り禁止となった模様だ。今年も地震や火山が連日のようにニュースとなっており、大自然の営みの激しさをあらためて実感している。

帰りにはバスから一旦降りて、見晴山展望台で満開になっているレンゲツツジの素晴らし

い眺めを楽しんだ。そして荻窪温泉「あいのやまの湯」で入浴。バスの中で乾杯。武内会長はじめ実行委員会の皆さん、同行した会員、市民の皆さんありがとうございました。

B班　　向 治男

この度は、昨年に引き続き夫婦で市民登山に参加させていただき、ありがとうございました。

当日は、天候も良く順調に黒檜山登山口に到着。話には聞いていましたが、いきなり岩場の急登からスタート。「筑波山よりは岩が小さくて登り易い!?」など妻と話しながら、ウグイスやホトトギスの鳴き声に励まされ登りました。途中で他のグループに急病人が出て、ヘリコプター・救急車・消防車の音で辺りは騒然となり、鳥の声も聞こえなくなってしまいました。「自分たちも、怪我だけでなく、体調にも気を付けないとね。このような事もあるから、登山を運営する方々は大変だよね」と妻と話しながら黒檜山山頂を目指しました。

黒檜山山頂の先にある「天空のひろば」で昼食を取りました。眺望がすばらしい場所ですが、ガスがかかり真っ白でちよっと残念でした。食後は、駒ヶ岳を経て、ハルゼミのせみ時雨の中を気持ち良く下山しました。

また、帰りに見晴山の展望台下に寄り、絨毯のようなすばらしい山つつじに感動しました。

大変楽しい山行をありがとうございました。ぜひまた参加させていただきたいと思います。

C班



黒檜山展望台　　良い笑顔ですね

際立ったツツジの美しさ

C:班リーダー：郷田　進

私にとって4回目の市民登山である（最近2回は実行委員）。準備段階（下見、募集、説明会等）から実施段階、そして山行後の取りまとめ（記念冊子作成等）等多くの労力を本行事に費やしている。そこまでという疑問が、終わった後の「やって良かった、また次回も会いましょう」という感想で来年も、に変わる。

今回C班は、会員4名、市民参加5名の編成である。偶然か市民5名中3名は、昨年も私のチームであった。まず滑り出し、各人の足並み・体力レベル・体調等確認、皆そのつもりで準備しているようなので安心する。天候及び時期に恵まれ多くのハイカーがあったが、ほぼ予定どおりに山頂に到着、皆で美味しく昼食を頂く（時間が短くてすみません。（集団登山の特性））

下りは長い階段等捻挫に気をつけながら無事駐車場に到着、その後温泉に浸かり、バスで柏・我孫子に向う。行き帰りに見たツツジの美しさが際立っていた楽しい大人の遠足だった。

実行委員の皆様素晴らしい企画をありがとうございました。そして市民参加者及び会員の皆様のご協力本当ありがとうございました。

「岳人あびこ」は、各種レベルに応じた年間50以上の山行を計画・実施しています（HP参照）。関心のある山行がありましたらいつでも声を掛けてください。きっと新しい世界がひろがるものと思います。

C班　松下　寿男

私の登山経験としては、昨年より始め、筑波山、日光の鳴虫山等であり、一人での自己流の登山ばかりでした。

今回道の駅で市民募集の案内を目にし、一度会から指導を受けての登山を経験してみたく応募しました。

実際に参加を経験し、会の方からの指導、団体行動でのマナー・ルール等、山登りいろはの”い”の字位は勉強したか、と実感しております。

今回のご指導を生かし、今後も山登りを継続していきたいと考えております。が、当面は暖かい時期の日帰りコースの山登りとし、宿泊を伴うコースは当面先ですかね。御会のHPは継続して見させていただきます。興味の湧く登山にはまた応募させていただきたく。

D班



黒檜山山頂

山頂は登山客で一杯

D班リーダー　高橋　英雄

平成 27 年 6 月 7 日（日）市民登山赤城山行われました。梅雨時でもあり雨が予想されましたが今年は天気に恵まれ、昨年はどしゃ降りのなか我孫子駅を出発したが、今年は気分のいい出発となった。常磐道、外環、関越道と高速道を乗り継ぎ、おのこ駐車場に到着。バスから出たとたん少し肌寒いような気がした。登山の準備とトイレを済ませ、又、バスに乗り登山口迄行き、登山口で各班に別れ自己紹介し、軽い体操、注意事項など話し合う。A班からE班の順に登り始める、登山道は石が多く登り難い。先頭のサブリーダーが「このような登りが 15 分から 20 分位続く」とのこと。登り始めて 30 分位かと思いますが、よそのパーテーに心筋梗塞で倒れた人がいるとのことで、上空をヘリが舞い、捜索に懸命の様子であった。ヘリの音を聞きながら頂上に着く。案の定登山者でいっぱい、頂上は避けて 5 分位の所で昼食となり、展望は晴れてはいたが霞んでいた。昼食を済ませ、頂上で集合写真に納め下山に入る。黒檜山から尾根を南に行き、花見ヶ原へ下る分岐点を分けて進み階段状になっている急坂を下る。食後のあとなので注意を払う。

大ダルミ迄下り、少し登りかえすと駒ヶ岳の頂上、黒檜山から１時間位道程、駒ヶ岳からの下りも木の階段や鉄の階段あり雨だったら大変だったのではないか、１時間ほどで車道に下り、駐車場まで５分ぐらい事故もなく全員無事下山で来たことが何よりでした。

前橋荻窪温泉あいのやまの湯に行く途中ツツジを観察しその美しさに感動した。温泉に入りバスの中で反省会が始まり和やかな雰囲気の中、伊勢崎ＩＣから北関東道、東北道、外環、常磐道、柏ＩＣ、北柏駅、我孫子駅到着、事故もなく全員無事だったことは何よりです。

ご協力有難うございました。

市民登山「赤城山」に参加して

D班　　薮中　由利子

市民登山は、昨年の浅間山に続き二度目の参加です。赤城山は、少し前にテレビで放映していたのを見て楽しみにしていました。

私は高橋リーダーのＤ班で、皆でストレッチをして出発。先頭はサブリーダーの矢野さんで、すぐ後につかせていただく。ごろごろした岩、石が多く、登りにくかった。

矢野さんは「ここに足を置くといい」と、丁寧に都度指摘して下さった。下ばかり見て必死で歩を進めるが、新緑と、赤いつつじの花が目に入る。どこまでも続く緑の中に可憐に咲く赤い花が、どんなに疲れた私達を癒してくれたことか。若木の岳樺の新緑が目に焼きついている。

今回も岳人あびこの市民登山に、参加させていただき本当に楽しかったです。帰りの温泉も疲れを回復することができました。バスの中でも、歌集による皆さんの歌も岳人らしく好ましく感じました。帰り際に、武内会長が来年は実施するかわかりません…とおっしゃっていましたが、下準備から実行に至るまで、大変だとは思いますが、是非続けていただきたいと思います。皆様、本当にお世話になりまして有難うございました。

E班



黒檜山山頂

黒檜山～駒ヶ岳（赤城山）を歩く

E 班リーダー　武内勇二

E 班は市民４名、会員４名の計８名、先頭の中村 SL に「ゆっくり行こう」と声をかけ登山口を出発した。登山道は新緑の美しい林の中を、ほぼ真っ直ぐに登っている。岩がゴロゴロした滑り易い道で、足元にも注意が必要だ。前を行く D 班と付かず離れずしながらゆっくりと前進する。後続の登山者に追いつかれる度に、先を譲るため必然的に立ち止まったお陰で、かなりの急坂に拘らず息が切れることはなかった。後続の大人数のパーティで病人が出て、救助ヘリを呼んだとのことだった。30 分ほどヘリが上空を旋回し、轟音がうるさく耳についた。

２時間弱かけて、黒檜山～駒ヶ岳の縦走路の分岐に到着、ここまで来れば黒檜山頂上は近い。山頂には大勢の登山者がいたので、立ち止まらずにそのまま直進した。天空広場も混雑していたが、ここで昼食休憩とした。霧がかかることもあったが、展望もそれなりに楽しめた。約３０分の昼食休憩後、黒檜山山頂に戻り A～E 班全員で記念写真をとり、駒ヶ岳経由の下山にかかった。

先ほどの分岐を越えるとすぐに、御黒檜大神の石碑がある。ここから先は、木の階段が続くので急くと危ない。縦走路最低鞍部の大ダルミを越えると登り道となり、１５分程登りかえすと駒ヶ岳頂上に出た。ここからの下りも、木の階段が続き鉄製の階段もあるので、慎重に歩を進めて予定より若干早めの時間に駒ヶ岳より下山できた。

帰路、見晴山近くの駐車場に入ってもらい、短時間ではあるが展望台よりレンゲツツジの満開の眺めを楽しむ時間を取った。当初予定にはなかったが素晴らしい眺めを楽しめたのは良かったと思う。

梅雨入り直前の晴れた日となり、ラッキーだった。つつじ祭りの最中で予想外の登山者の多さに驚かされたが、それも赤城山が人気の山だからだろう。全員、事故なく笑顔で下山出来て本当に良かった。皆様のご協力感謝いたします。

E 班　　吉川　みよ子

市民登山は今回初参加でしたが、実は何年か前から広報の参加者募集を見ては行ってみたいなと思っていて、今回思い切って参加して本当に良かったです。初心者でしたので、途中途中で会の方から声をかけてもらってありがたかったです。ゴロゴロ石の連続の登りでよっこらよっこら登っていたら、「小股で行くと疲れないよ」。3 分の２ほども登った辺りでしょうか、体が重くなってきて下りに足が動くか心配しだした頃、「高地になると体が重く感じられるものだよ」。経験豊富な会の方たちと一緒でとても安心でした。帰りのバスでは、懐かしい歌、歌、歌。皆様の歌声と手作り歌集に感心しました。企画準備から当日の運営その他まで会の皆様には本当にありがとうございました。新緑を楽しみ、一面に咲いたレンゲつつじも見られ、温泉にも入って、大満足な一日でした。帰ってから筋肉痛がひどいですがそれもまたよし、また登山できる日が楽しみになってきています。

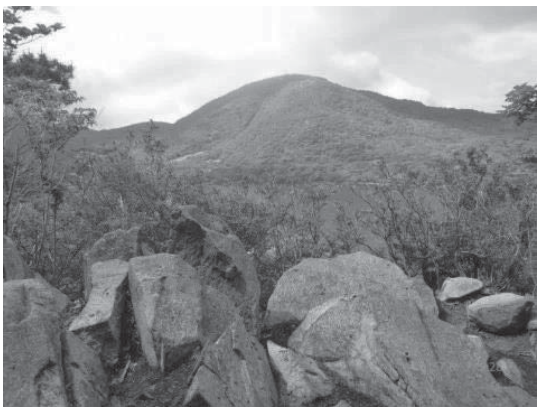
平成２７年度市民山行実行委員

実行委員長：武内

委員：大平　桐生　矢野貞



概念図



大岩の登山道から大沼と地蔵岳

概　要

山名	黒檜山～駒ヶ岳		
月日	平成２７年６月７日（日）　　日帰り		
山域	上州　赤城山	地形図	1/25000 赤城山
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	①地域社会との交流を計る。 ②新緑とつつじを楽しむ		
費用	6,500円	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅南口 5:40→北柏駅南口 5:50/5:55→柏ＩＣ→高坂 SA6:58/7:15→前橋ＩＣ 7:50→おのこ駐車場 8:45/9:00→黒檜山登山口 9:05（以下、各班に分かれて登山開始） （B 班の記録）黒檜山登山口 9：15⇒黒檜山（山頂～天空の広場）11：10/11：45⇒大ダルミ 12：20⇒駒ケ岳 12：40/12：45⇒おのこ駐車場 13：20 （C 班の記録）黒檜山登山口 9:15⇒休憩 9:37/9:40⇒休憩 10:15/10:17⇒分岐 11:05⇒山頂 11:10⇒展望台(昼食)11:15/11:35⇒山頂（集合写真）出発 11:45⇒分岐 11:50⇒駒が岳山頂 12:30⇒休憩 12:40/12:45⇒おのこ駐車場 13:25 （E 班の記録）黒檜山登山口 9:15⇒休憩 9:44/9:47→黒檜山山頂 11:10⇒天空のひろば 11:14/11:40⇒黒檜山山頂 11:45/11:50⇒駒ヶ岳 12:40/12:45⇒おのこ駐車場 13:30 おのこ駐車場発 13:50→見晴山展望台 14:00/14:15⇒前橋荻窪温泉あいのやまの湯 14:50/16:00→セブンイレブン 16:05/16:10→伊勢崎ＩＣ 16:40→羽生 SA17:20/　17:35→柏ＩＣ18:22→北柏駅南口 18:40→我孫子駅南口 18:50		
参加者	A班村松(L)，高橋芳(SL)，中尾，矢野裕　林 <一般>豊島　川端　関根　北田　上原 B班箕輪完(L)，外崎(SL)，大平，中村隆　小島 <一般>向治，向智，小野，三浦 C班郷田(L)，桐生(SL)，石塚，北田<一般>大井，平柳，平柳，松下，阿保 D班高橋英(L)，矢野貞(SL)，矢澤，宮野誠<一般>小板橋，湯原清，湯原八，藪中由 E班武内(L)，中村育(SL)，室崎宏，藤家 <一般>岡，大内，室崎育，吉川 会員２２名　一般２２名　計４４名		

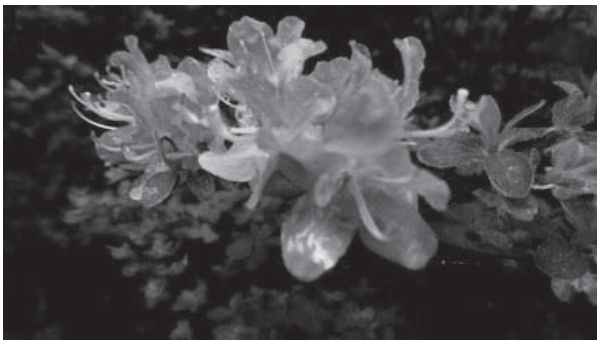
＜９０２＞

北大船山～大船山～久住山・由布岳

（1,706m）（1,786m）（1,787m）（1,583m）

矢澤　節雄

何遍登っても飽きることのない山



ミヤマキリシマ

九州には雄大な山が三つあり夫々個性的である。九州で選ばれた日本百名山６座のうちの３山で、わたしが特に好きな山達である。それは、**阿蘇山**、**霧島山**そして**九重山**である。いずれも高原を抱え、火山を含む山群の総称で、北の大雪山と同様である。登って良く、眺めて良い、指折り数えるほど何遍も訪れているが飽きることがない山々で、暫らくするとまた遊びに行きたくなる。

阿蘇山は、外輪山の北にある展望台「大観望」、南になる「高森峠」からの阿蘇五嶽の涅槃の眺めに感激し、雄大さに驚嘆する。**霧島山**は、韓国岳頂上から新燃岳を手前にした高千穂峰の眺めが美しく好きである。また鹿児島空港を初めて訪れた人は、空港ロビーからの霧島連山の美しい雄大な眺めに魅了されるであろう。**九重山**は、なんと言っても、久住高原である。久住高原の素晴らしさについては、深田久弥の言を借りよう。『その九重の原を代表するように、北側には、飯田高原、南側には、久住高原がある。殊に久住高原は私を驚かせた。こんなにのびのびと屈託なげに拡がった一枚の大きな原を私はほかに知らない。私の行ったのは冬枯れの二月だというのに、蕭条（しょうじょう）という感じは少しもなく、満面狐色、というよりラクダ色のあたたかさで、明るく、やわらかく、そして豊かに広がっていた。二度目に九重山に訪れたのは三月の半ばで、ちょうど久住高原の

野焼きに際会した。火の手はあちこちに上がり、それが広い野をまるで波涛のように寄せてくる。パチパチと枯れ草のはぜる音と共にメラメラと炎の舌が速い勢いで進んでくる。うっかりすると火に包まれそうになる。青い空に煙があがり、その煙の合間に、まだ頂上に雪のある九重の山々が潔く立っていた。』　私が初めて訪れたのも三月の中旬であり、久住山よりも久住高原の方が印象深く、高原を楽しんだ。北側の飯田高原は、やまなみハイウェイが出来て、行きやすくなった美しい高原である。また川端康成の「波千鳥」の舞台として広く知られている。しかし、久住高原の方は素晴らしいと思う。『山は雲つく、裾野は広い、何処が久住のはてだやら』（雨情）

九重か久住かの論争や、法華院の歴史について、深田久弥も田中澄江も言及している。国立公園の名称に平仮名を用いているのは、この**阿蘇くじゅう国立公園**だけ。九重、久住の争いに「お国」が避けたのが面白い。田中澄江が久住山に登ったのは、草紅葉ころで、「ツクシフウロ」の残り花をたくさん見たと「花の百名山」に記しているが、「久住山」が「花の名山」か。九重山が花の百名山なら理解できるが、久住山を記すのは理解できない。深田久弥は「日本百名山」で九重山とし、「ふるさと百名山」（日本経済新聞）では大船山としている。やはり深田久弥の「日本百名山」選定基準、選定眼が優れていることを感じる。

九重山には今回も含めて都合７回訪れた。うち３回は単独登頂である。初登頂は、昭和３５年（1950 年）で深田久弥が感激した同じ３月中旬九重山の主峰の久住山である。

大学一年の期末試験後の長期春休みを利用して、九州一週の名所旧跡や観光地を訪ねる旅に誘われた。袋状に縫ったシーツを入れたキッスリングにキャラバンシューズの出で立ちで、帰省している学友の家に押しかけて泊まり、ユースホステルを利用しながらの貧乏旅行である。国鉄周遊券の学割（お徳キップで更に半額）で交通費も安かった。雲仙国立公園・阿蘇くじゅう国立公園・霧島国立公園など九州本土の国立公園・国定公園の大部分を巡る学生時代にしか出来ない幸せな長旅である。

阿蘇山で遊んだ後、久住山に登るため、豊後竹田にある母の実家に宿泊した。

豊後竹田は、滝廉太郎の郷里、荒城の月で有名な岡城址がある。岡城は石垣の立派な山城である。明治の廃藩置県で、城主は東京に移り、城は壊されて古材として売られてしまった。今でも城が残っていれば大変な観光遺産になったであろうに残念である。竹田では、久住山と大船山とが人気を二分する。豊後岡藩の三代藩主中川久清は山が好きで、「入山」と号し、馬具を改造した「人鞍」に乗り、人に担がせて大船山を登山した。久清は、彼が愛した大船山の南中腹の鳥居窪にある御霊廟で眠っている。鳥居窪は鉄砲の射撃訓練をした秘密の演習場で「国観岳」（入山公廟）と呼ばれている展望抜群の山頂があるそうだ。一度訪れてみたい。私が、登るに当り大船山でなく久住山を選んだのは、当時は九州本土で一番高い山になっていたのが理由。「花の百名山」では大船山が高いと記されているが、今では、中岳が一番高い。「あっちが高い、こっちが高い」とは、九重山の特徴を表していることに気付いた。

豊後竹田駅前から朝一番のバスに乗り、終点の久住町の種畜場で降りた。案内を竹田在住の従兄に頼み、総勢５人で久住山を目指した。ルートは、この種畜場⇒（本山登山道）⇒沢水分れ⇒鳴子山⇒東千里浜⇒久住山⇒北千里浜⇒法華院温泉⇒鉾立峠⇒佐渡窪⇒鍋割峠⇒種畜場。五十数年前の遥か昔の二十歳の時であり、詳細はあまり覚えていないが、非常に感激した登山であった。そのとき使用した五万分の一の地形図と写真を取り出して当時を思い出してみた。当時の地形図には、二万五千分の一の地図が無かった。モノクロで、地名は右横書きの旧漢字、懐かしい。その後、四色刷りになり、さらに 2 万五千分の一の地図が発行されるようになり、入手して見易いのに感激した思いがある。しかし、このモノクロの地図は、私が始めて買った地図で、私には宝物である。写真を見る、服装・装備は、従兄は運動靴・我々学友の四人はキャラバンシューズ、アノラックに１リットル程の水筒を下げている。（今では考えられないが、学生時代は、この服装でテント担いで穂高や南アルプスの縦走をした。）　キッスリング一つに五人の弁当を入れて順番に担いでの登山。今では、多くの人が「やまなみハイウェイ」の「牧ノ戸峠」から久住山を目指すが、このときには、まだ「やまなみハイウェイ」はなく、「牧ノ戸峠」は山の峠で登山口ではなかった。

早朝のヒンヤリさを肌に感じながら、久住高原の真直ぐな一本道を進む。ひばりが鳴き・遠くに野焼きの煙が何本も立ち昇り、その先に阿蘇の五嶽が見える。のどかな景色を満喫する。

途中で野焼き後の原に大の字に寝そべると手も服も黒くなった。「沢水キャンプ場分れ」から上りに入る。途中、林の中に椎茸栽培のクヌギの原木が沢山立てかけられていたのが印象深い。干し椎茸は竹田の名産である。久住山頂上までの上りの辛さは記憶にない。頂上で暫し阿蘇を眺めて下山開始。北千里浜を下るが、ここで、前年ガスにまかれて遭難事故が発生したことを知っていたので緊張した。我々の登山の３年後の昭和３８年元旦にも７人の遭難死者が出たと「花の百名山」に記されている北千里浜である。法華院温泉の小屋に寄る。小屋は非常に小さく、おじいさんと二、三才ぐらいの和服の孫がストーブで暖を取っていた。この孫が現在の法華院温泉の主人であろう。当時の小屋からは、今の山荘の立派さにビックリ仰天ものである。非常に喉が渇いたのでカルピスを一本求めてゴクゴクと一気に飲んで息をついたことが忘れられない。法華院の下に、今は有名になっている「坊がつる」があることは知らなかったし、この原を眺めた記憶も無い。３月の風景は良かったであろうに残念なことをした。「坊がつる讃歌」が、NHK「みんなのうた」で放送され、芹洋子が、NHK紅白歌合戦に、初出場したのは、数十年後のことであり、「日本百名山」も、未だ発刊されていなかったのだ。今は「坊がつる」で野焼きが行われているそうである。鉾立峠から種畜場に戻りバスで竹田に帰る。この山登りが大学に入ってから最初の記念すべき登山である。

次に思い出深い九重登山は、６５歳からの百名山を達成するためのである。６月の「ミヤマキリシマノ」の時期を選んだ。牧の戸峠から登る。西千里浜は、濃霧でケルン頼りに進む。久住山の頂上は雨と強風で辺りには誰もいない。御池に降り中岳を目指す。池のすぐわきを歩くと強風による波飛沫で下からビッショリに濡れた。トムラウシの遭難事故で、北沼でズブ濡れになったと記録にあるが、それを体感した。霧の中、天狗ヶ城分岐で方向に注意して中岳に登る。中岳頂上では雨が上がり薄日が射した。眼下の東千里浜を下り、最短コースで坊ガツルを目指すが予想外の泥んこの悪路に閉口する。大船山を登る予定であったが、明るい内に牧ノ戸峠に戻れない危険性があり、登る気力はあったが大船山を断念した。法華院温泉に泊まる気持ちはなかった。「坊がつる」から北千里浜を登る。今は遭難防止に沢山のケルンがある。硫黄岳の噴煙の音を聞きながら一人黙々と歩を進める。噴煙と対照的に、足元をきれいな水が静かに流れている。北千里浜の景観が好きになった。西千里浜から先は一面満開のミヤマキリシマノの群落に圧倒される。朝の霧の西千里浜からは想像できない素晴らしさで、のんびりと歩く。天候の違いがこれ程の違いになるのかと、そのギャップに驚く。星生山も全面満開で、山上を多くの登山者が歩くのが見える。扇ヶ鼻に寄り道して花を楽しんだ。翌日は、登りたいと思っていた念願の由布岳を登る。ここもミヤマキリシマが全開であった。来九州市で用事を済ませて、英彦山を登る。運よく「オオヤマレンゲ」（山の貴婦人）に初めて出遭う。素晴らしい花山行であった。



北大船山を下る

大山さんの山行に参加すると、兎に角楽しい。昨年の北海道山行も素晴らしかったが、今回の「九重１７サミット」山行も非常に楽しかった。計画も緻密で、気配りが素晴らしく、山行前の打ち合わせも数回行われた。大山さんの登山技術レベルの高さや安全に対する感覚の鋭さ・的確さにも感心させられる。会員の女性陣にもてるのは、髭の笑顔だけが理由ではない。山行記録にも感心させられる。「九重１７サミット」山行の紀行記は、大山さんの「やまたん」の山行報告や「会のホームページ」を是非参照されたい。大山さんは知識も豊富である。今回の山行名に吃驚した。「１７サミット」とは。何遍も九重を訪れているが、九重山に１７００m以上の山が１０座あるとは、気が付かなかった。また、その１０座を全て登る計画のチャレンジ精神が好きである。地形図を見ても、どこまでが九重山の山域か、私には判らなかったが、九重には、１０００m以上の峠が１３あり、温泉が２０有ると、「日本百名山」に記されている。いろいろ調べたり、数えたりする人がいるものだと嬉しくなる。〇〇最高峰とか、列車名になった山、いろいろ見つけて愉しんでいる人が多い。深田久弥も田中澄江も地形図に登ったルー

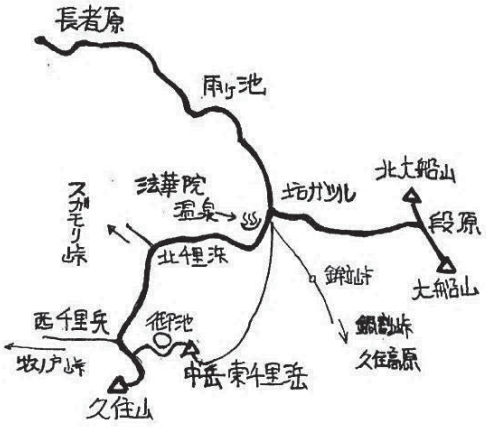
トを赤鉛筆で辿って、いろいろ愉しんでいると語っている。山登りは、登る前も、登山中も、帰宅後も楽しい事があり、楽しみ方がいろいろあるものだ。

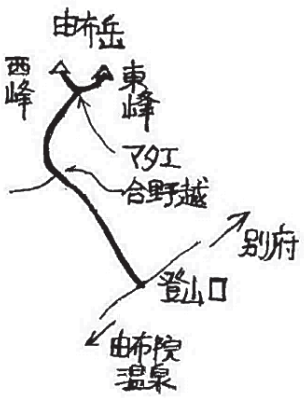
「良いもんだろう登山は。登山をモット楽しもうではないか。」山の会で揉めるなんて馬鹿らしいと思いつつ、悟らない自分に苦笑して、筆を置く。



午前 7 時前　誰もいない北大船山独り占め

概念図





概　要

山名	北大船山～大船山～ 久住山・由布岳			
月日	平成２７年６月９日〔火〕～１２日〔金〕			
山域	阿蘇国立公園	地形図 1/25000	大船山、湯坪、久住山、別府西部	
形式	山小屋泊、山麓泊		グレード	３Ｂ
目的	１．満開のミヤマキリシマを愉しむ　２．タデ原、坊ガツル湿原に山野草を探勝			
費用	52.000 円	交通機関	JR､京成､航空機ｼﾞｪｯﾄｽｰ､ﾚﾝﾀｶｰ	

行程	1日目	我孫子駅 5:35→JR→成田駅 6:15/6:19→JR→成田空港第２ﾀｰﾐﾅﾙ 6:30/6:40→ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ→第３ﾀｰﾐﾅﾙ→6:47/8:20→GX601→大分空港 10:00→送迎ﾊﾞｽ→ORIX ﾚﾝﾀｶｰ 10:20/10:32→大分空港道/高速道→やまなみﾊｲｳｪｰ→長者原 12:05/12:25⇒休憩 13:07/13:10⇒雨ヶ池 13:50/13:55⇒坊ガツル分岐 15:10/15:15:25⇒法華院温泉山荘 16:00 ＜歩行時間：３時間＞　天気：曇り
	2日目	山荘 3:00⇒坊ガツル分岐 3:05⇒休憩 3:40/3:45⇒休憩 4:30/4:40⇒段原 5:25/5:30⇒北大船山 5:35/5:50⇒段原〔朝食〕6:00/6:20⇒大船山 6:35/6:50⇒段原 7:20/7:25⇒坊ガツル下山口 8:45⇒山荘 9:05/9:30⇒休憩〔北千里が浜〕10:45/10:55⇒久住別れ 11:15/11:25⇒久住山分岐 〔昼食〕11:45/12:05⇒久住山 12:25/12:30⇒久住山分岐 12:40/12:50⇒久住別れ 13:05/13:10⇒休憩 13:35/13:40⇒山荘 14:45 ＜歩行時間：９時間５分＞　天気：高曇り
	3日目	③ 山荘 7:30⇒雨ヶ池 8:50/8:55⇒長者原 10:05/10:45→ﾚﾝﾀｶｰ→筋湯温泉・大黒屋旅館 11:00 ＜行動時間：２時間３５分、歩行時間：２時間３０分＞　天気：雨のち豪雨
	4日目	筋湯温泉 8:00→ﾚﾝﾀｶｰ→湯布院温泉ローソン 9:05/9:15→由布岳正面登山口 9:20/9:30⇒衣服調整／休憩 9:40/9:45⇒合野越 10:15/10:20⇒マタエ〔西峰/東峰分岐、昼食〕11:50/12:25⇒由布岳西峰〔主峰〕12:45/12:50⇒マタエ 13:10/13:15⇒東峰 13:35/13:45⇒マタエ 14:04/14:07⇒合野越 15:05/15:10⇒由布岳正面登山口 15:35/15:45→ﾚﾝﾀｶｰ→湯布院温泉「香椎荘」入浴 16:00/17:00→ﾚﾝﾀｶｰ ORIX ﾚﾝﾀｶｰ 17:55/18:00→送迎ﾊﾞｽ→大分空港〔反省会〕18:05/20:00→GX604→成田空港第３ﾀｰﾐﾅﾙ 21:30⇒第２ﾀｰﾐﾅﾙ京成線 21:50/21:57→京成線→京成成田駅 22:05⇒JR 成田:2208/22:16→我孫子駅 22:56 ＜歩行時間：４時間４０分＞　天気：快晴

ルート状況	1日目 ・前日の九州地方を襲った豪雨のために登山道はぬかるみ、多くの滑り易い捲き道が出来ていた。 ・長者原〔標高1,000m〕～雨ヶ池〔標高1,400m〕～坊ガツル〔1,300m〕は素晴らしい広葉樹林帯に覆われている。 ・登山道の多くは沢沿いで、その沢に雨水が流れ込み沢状になりぬかるみやすくなっている ・道は確りしているが木道が設置されているのは雨ヶ池周辺のみであった 2日目 ・道は良く踏まれているので迷うことはない〔泥道を避ける枝道が多いので注意〕 ・北千里ヶ浜から久住別れ、或いは諏我守越えの周辺は霧が地形的に発生しやすく過去何度にも亘って遭難者を出している為に数㍍間隔に真っ黄色の目立ちやすいペンキが足下の岩に塗られていた〔久住別れ、諏我守越には避難小屋有り〕 3日目 ・豪雨の中の下山、コースは「諏我守越」のルートと登って来た「雨ヶ池越」の両ルートが考えられたが前者はぬかるみは少なく歩きやすいが体力的には高度差があってキツく、霧が発生すると迷いやすい、後者は体力的には高度差も少なく楽だが足下がかなりぬかるんでいる、天気予報は豪雨、午後からは雷雨であったので殆どが樹林帯である後者を選んだ ・道が踝近くまで濁流となっていたが敢えて道を捲かずに川となった登山道の真ん中を歩いた。悪条件下にも拘わらず体力をロスすることなく下山出来た 4日目 ・ナビでは「由布岳正面登山口」で入力しても入力出来ない ・由布岳正面登山口はトイレと広い駐車場、水道があるが水道は「飲用不適当」の表示あり、地形的にはかなり急峻だがジグザグ道が大きく設けられているので長いが急坂ではない ・由布岳は西峰が主峰、鎖やロープの設置された岩稜地帯だが順相で確りしたホールド、スタンスが多く慎重に登った。 ・下りは鎖を利用して慎重に下った ・東峰の標高は西峰と同じだが、道は危険箇所は殆どない
参加者	大山(L)、中村育(SL)、斎田(SL)、本田、瀬田,石塚、高橋富、北田、桐生、矢澤 男性3名、女性7名　計10名

＜９０３＞ＢＯＭ研修

瑞牆山・金峰山

（2,230m）（2,598m）

外崎　蓮

険しい岩稜　瑞牆山
夏野菜カレーで乾杯



富士見平にて夕食

１日目

今回の山行は、当会としては２回目の「登山の基礎講座」の実技編として、「テントに泊まってみよう」というのが主目的である。そのために、前回の机上（５月）において、幕営技術の基本とテント泊の注意点について学習していただいた。実際に会議室内の空きスペースにエスパースを広げ、ポールの取り扱い方やペグの打ち方などを説明した。受講者の中にはテント初体験の人もいて、寝袋や大きめのザックなどを買いそろえ、この日に備えた。

総勢 13 名は新宿からあずさ１号に乗り、自由席に固まって座れた。韮崎駅前からは登山口の瑞牆山荘まで、茅ヶ岳みずがき田園バス（中型）が走っている。バスは途中、ハイジの村や増富温泉に寄るために結構時間がかかってしまうようだ。

出発の前に武内講師による地図読みの研修を受け、進行方向を確認しあう。現地での地図の読み方も研修目的の一つである。一行はいつもより重いザックを背負って、林の中へと歩き出した。１時間ほどで富士見平に到着し、小屋で受付を済ませる。少し前まではテント一張り 1000 円であったが、今や一人 1000 円の時代だ。

カラマツの木々の間に、4～5 人用のエスパース２張りと７人用のひさこテントを張る。予習をしてきたおかげで皆はテキパキと動き、短時間で張ることが出来た。
昼食後、サブザックで瑞牆山に向かう。富士見平小屋の横をゆるく登って、いったん沢に下る。天鳥川は砂が溜まって浅くなり、その上を歩いて渡ると瑞牆山の登りが始まる。登山道は沢の中にあり、降った雨はここを流れて崖がえぐられ、木の根がむき出しになっている。それでも足場の悪い個所には鎖や梯子が取り付けられ、よく整備されてあった。瑞牆山は岩峰のそそり立つ険しい山容から若者に人気があるようだ。我がグループも学生や若者のグループに負けず劣らず、空に突き上げる岩を見上げては感嘆した。手と足をフルに使って体を持ち上げ、薄暗い林の中からパッと外に飛び出した。目の前の重なり合った岩の上が頂上だ。山頂からの展望は今一であったが、皆は登れたという満足感で下山した。
夕食は夏野菜カレー。食事作りも研修の一環である。受講生がメニューを考え、食材を準備してきた。ご飯は近頃では、水を加えたり温めたりするだけの便利なものが出回ってきて、わざわざ炊くまでもない時代になっているが、今回は村松さん方式の 3、10、3、10 の時間配分で、無洗米で炊くようにお願いした。この炊き方は水加減が大切で、時間の配分通りにはいかないのが常だ。結構奥が深いのである。炊いたご飯は美味しい上、米はかさばらなくて持ちやすい利点もある。
ついに雨が降り出した。総勢 13 人はひさこテントにひしめきあい、賑やかに夕食を食べた。８時頃にはそれぞれのテントに引き上げ、雨の音を聞きながら就寝した。

２日目

４時前に起床。本日は金峰山を往復する。雨が上がっていたので、朝食は外で各自が持参したものを食べる。お湯をどんどん沸かすだけなので、共同食より時間が短縮できる。だが、皆が同じものを食べてこそテントの楽しさも倍増するので、時間のないときに限る。
天気予報では今日も不安定な空模様で、早い時間に雨が降り出すという。テントはそのままにして、行けるところまで行くことにする。富士見平小屋とトイレの建物の間から裏山に入っていく。鬱蒼とした暗い林の中は湿気が多く、足取りが重く感じられる。いっとき林の中に朝日が差し込んだが、それも束の間。１時間ほどで大日小屋に着いた。右手下方の窪地にしっかりした避難小屋があり水場もある。窪地は風を避けられるが、夏でも冷気が溜まり、その昔、板の間にテントを張っても尚寒い思いをしたことがあった。道の左手には小さなテントが 3 張りあり、こちらの方が快適のようだ。大日岩に来たところで、いよいよ空があやしくなってきた。この先はまだまだ長い。山行を続行したいほうに手を挙げた４人には気の毒だが、雨の中のテント撤収のことを考えて戻ることにした。
テント撤収も研修の一つである。私物を全部外に出してからテント内を点検し、手際よく畳む。空気で膨らまないように出入り口のチャックを少し開けておく。ポールは真ん中から折っていく。ペグは数を数え、泥を落として収納する。困ったことに、ひさこテントの下に敷いた敷物が昨夜の雨でカラマツの落ち葉と泥にまみれ、これだけでも相当の重量になってしまった。テント係の担当者は、研修とはいえ、帰宅後の後片付けが大変であろう。
10 時前には瑞牆山荘に下山し、バスで韮崎駅に戻る途中、増富温泉に寄った。休憩室でくつろいでいると、外はいよいよ本降りになっていた。
反省会のとき、今後もテントをやってみたいという人が何人かいた。当会ではテント山行が少ないので、もっとたくさんの人にテント泊を楽しんで頂きたい。

概念図





富士見平でテント張り研修



瑞垣山山頂から



富士見平にて研修



瑞垣山山頂から

概　　要

山名	瑞牆山　・　金峰山		
月日	平成 27 年 6 月 20 日（土）～21 日（日）		
山域	奥秩父	地形図 1/25000	瑞牆山・金峰山
形式	テント泊	交通機関	ＪＲ、バス
目的	BOM の研修山行（現地での地図読み・テント泊体験）		
費用	15,000 円	交通機関	ＪＲ、バス
日程 1日目	我孫子駅 5:31（常磐線快速）→新宿駅 6:48/7:00（あずさ 1 号）→韮崎駅 8:37/8:50（山梨峡北交通バス）→瑞牆山荘 10:05/10:30⇒富士見平 11:20（テント設営）/12:05⇒天鳥川 12:30⇒瑞牆山 14:05/14:20⇒天鳥川 15:30/15:40⇒富士見平 16:00 着（テント泊） ＜歩行時間:4 時間 20 分＞		
日程 2日目	富士見平 5:15⇒大日小屋 6:10/6:15⇒大日岩 6:50/7:00⇒大日小屋 7:20/7:30⇒富士見平 8:15（テント撤収）/9:15⇒瑞牆山荘 9:50/10:15（バス）→増富の湯 10:40（入浴・食事）/13:17（バス）→韮崎駅 14:10/14:32（高尾行き）→甲府駅 15:26（かいじ）→新宿→東京駅 17:32（上野東京ライン）→我孫子駅 19:05 着 ＜歩行時間:3 時間 10 分＞		
ルート状況	瑞牆山 ・急斜面を下った天鳥川は普段も水量は少ないが、上流からの砂で埋まり、砂の上を渡る。川はせき止められた感じで、水はほとんど流れていない。 ・登山道は岩や木の根が露出した沢状の中にある。足場の悪い個所には鎖や梯子が取り付けられてある。 ・山頂まで樹林に覆われ、薄暗い。木の根や岩をつかみ、足運びを慎重に。 ・上に来ると登山道脇に大岩がそそり立ち圧巻。ハーケンのような人工物が見える。 金峰山 ・富士見平から200ｍほど登った2000ｍ付近の斜面には何本もの登山道が出来ている ・大日小屋（避難小屋）は、登山道から下った沢のほとりにある。小屋の近くに水場もある。登山道の上部には、テント数張りが張れるテント場がある。 ・今回は大日岩から引き返したが、ここまでは道がよく整備されて歩きやすい。		
参加者	外崎(L)、村松、武内、田村、高橋英、末永、村越、石塚、(宮野浩)、高橋富、室崎、北田、藤家 男 7 名　女 6 名　計 13 名		

＜９０４＞

高ボッチ・鉢伏山～二ツ山

（1,665m）　（1,929m）（1,826）

大平　太計夫

思い出の山　高ボッチ

昨年度、「行きたい山」で私が希望した鉢伏山が企画され、日帰りで出掛けました。
６名なので新宿～茅野駅までの往復にあずさ回数券を使用し割安で行けました。
新宿７時発のあずさは夏山で良く使用する特急でいつも満席ですがシーズンオフの平日でもありガラガラでした。

茅野駅前で予約していたレンタカーを借りて私と村松リーダーが交代で運転して国道２０号線を北上して高ボッチを目指しました。塩尻峠からの進入口で少し迷いましたが舗装された狭く急勾配の道を約１時間で草競馬場や牧場を左手に見ながら高ボッチ駐車場に到着しました。トイレ休憩後、広々とした草原を約１０分の歩行で高ボッチ頂上に到着です。

高ボッチの名称はだいだらボッチと呼ばれる巨人が腰を下ろして一休みした処という説があります。山頂からは好天なら南側に諏訪湖の正面に南アルプスと八ケ岳にはさまれた富士山が見えるのですが高い雲に覆われて諏訪湖と周辺の山々が箱庭のように見えるだけでした。北側に見えるはずの北アルプスも残念ながら雲の中でした。暫し景観を楽しんでから車に戻り鉢伏山荘に向かいました。
もう少し早ければ沿線にコナシ（ズミ）の白花が咲いていたのですがもう散っていました。

鉢伏山荘の駐車場に５００円払って車を置き名残のレンゲツツジが咲く緩やかな道を２０分程で山容が鉢を伏せた形の鉢伏山に到着しました。私はこの鉢伏山が日本三百名山最後の３０１座目で２０００年１０月に２１名の山仲間と登頂し高ボッチ山荘を借り切って一夜の祝宴を開いて頂いた思い出の山です。二等三角点を確認し展望台で高ボッチと同様な景観を楽しみ昼食としました。平日なのに多くのハイカーに会いました。

食後、登ってきた道を少し下り、右手の林道に歩を進めました。左手に美ケ原の台地を見上げながら高原状の気持ちの良い道が続きますが山道になると笹原で道が怪しくなりました。踏み跡を拾いながらレンゲツツジを愛で爽やかな涼風に吹かれながら広々とした丘陵地をのんびりと進みました。上り、下りの勾配が結構きついです。アップダウンを繰り返して１時間１５分で二ツ山の分岐に到着です。

二ツ山の山頂は右手に少し入った処にありしっとりと落ち着いた感じで三等三角点があるのみで展望はありません。二ツ山から東方面にも縦走路は続いており三峰山を経由して美ケ原と霧ケ峰を結ぶビーナスラインまで約３時間の歩行です。私はこの縦走道をお客様と登山添乗で４回歩いていますが、殆ど行逢う人がいない静かな山道です。
今回は二ツ山から鉢伏山荘へ引き返しました。歩行の先頭は村松リーダーとサブの外崎さんが交代でしたが二人共結構早くて年齢を感じさせません。鉢伏山荘から往路の道を車で茅野駅まで戻り、駅前の居酒屋で反省会をし、ガラガラのあずさで帰途につきました。

概念図





高ボッチを目指す

概　　要

山名	高ボッチ・鉢伏山～二ッ山		
月日	平成 27 年 6月 25 日		
山域	中信高原国定公園	地形図 2 万 5 千	和田
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A
目的	展望と花の三名山を訪ねる。 募集した「行きたい山」の希望に応えて。		
費用	約 11，000 円 （反省会費別）	交通機関	ＪＲ、 レンタカー
日程	我孫子駅 5:31→日暮里駅→新宿駅（特急あずさ）7:00→茅野駅 9:08（レンタカー）→高ボッチＰ 10:35/10:40⇒高ボッチ山 10:50/10:55⇒高ボッチＰ 11:05→鉢伏山荘 11:20⇒鉢伏山頂 11:40/12:10⇒横川山分岐 12:45⇒二ッ山 13:25⇒鉢伏山荘 15:15→茅野駅 16:00/17:50（あずさ）→新宿駅→神田駅→我孫子駅 21:10		
ルート状況	・高ボッチ登山口及び鉢伏山登山口（鉢伏山荘）迄は舗装された車道があり、車山行には非常に便利です。 ・高ボッチ及び鉢伏山は登山口から晴れていれば山頂が見えるため間違えようがない。 ・鉢伏山から二ッ山間の縦走路は多くのアップダウンが有り、見た目よりシンドイ。道標は完備されている。 ・高ボッチ登山口の高原荘及び鉢伏山登山道入口の鉢伏山荘、いずれもトイレはある。但し、鉢伏山荘は有料（100 円）		
参加者	村松（L)、外崎(SL)、大平、高橋冨、小島、北田　　男 3　名　女 3　名　計　6 名		



高ボッチの頂上にて

＜９０５＞

唐松岳
(2,696m)

大山　冬臣

花々・・・唐松岳パノラマ山行





雲海に浮かぶ剱岳

ロープウエイは雲の中、足下は高山植物が色とりどりに咲き誇っている。雲海の上に出ることを祈りながらリフトを乗り継ぐ。時折右手に白馬三山が雲の切れ間に顔を出して呉れる。それに足下に展開する素晴らしいい花々・・・に見とれているうちにアッと云う間に第一ケルンのある八方池山荘に着いた。リフトの下に咲き乱れている花々・・・初めての経験だ。ハクサンコザクラの亜種？の透明な淡いピンク色の可憐な「雪割草」が特に目についた。花に詳しい田村さんも「これっ！あの「雪割草」！？」と感激していた。

私なりの今回の山行のテーマは、1．休むときは休む　2．休憩時間内にやれることをやっておく　3．ゆっくりで良いから止まらずに足を前に出す　・・・の三点だ。

歩行ペースが安定している外崎さんに先頭をお願いし、二番手を矢澤さん、三番手に斎田さん、四番手に高橋芳 SL、五番手に田村さん、そしてしんがりに私の順で登ることにする。

「ウスユキソウ」の群落が多いのだがチョット産毛が少ない。「アッ、〇〇だ！」と次から

次に現れる花花花に女性軍は興奮状態だ。確かにこんなに素晴らしい花々・・・が八方尾根に咲いていた記憶は私にはなかった。そう、花の季節には八方尾根に来ることはなかった？とても花の名前のすべては頭に入らないが、素晴らしい！「第三ケルン」が修復中のために立入禁止、八方池迂回ルートに誘導されるようになっていた。八方池なんてミーちゃんハーちゃんの行くところと決めつけていたが、遂に私もミーちゃんハーちゃんの仲間入りをすることになってしまった。瓦礫地帯に咲く高山植物が多い。この迂回ルートのお陰で「タカネバラ」の群落を見ることが出来た。雨は降っていないが正しく五里霧中状態。この時期、降られないだけでもラッキーなのかな？昼食を摂る。いつもの山行のように皆さんから差入れが廻ってくる。これも嬉しいし、有難い。晴れていれば白馬三山が真っ正面に見えてその端正な姿を、残雪が１／３位浮いている八方池に映し出す八方尾根の絶景ポイントの筈なのに残念。気持ちは完全にミーハー状態でした。

這松の道をゆっくりと登る。雲がうすくなり、明るくなって来たような感じがする。時折、上空に青空が見え始めた。渦巻くガスの中に白馬三山が見えた。梅雨時、平日ということもあってか殆ど登山者はいない。大きな岳樺の森に入った。「下の樺」だ。八方尾根の中でも私の大好きなポイントでこの森に入ると何故かホッとしてしまう。一抱えは優にある見事な岳樺の森で平坦で気持ちの良い休憩場所だ。無理すれば２~３人用のテントなら張れてしまいそうなところもある。長い年月を風雪に耐えて来た巨木の姿態は独特の魅力が滲み出ている！

樹幹越しに白馬三山がハッキリと現れて来た。この感じだと雲海の上に出たかな！？凄いパノラマが期待できそうだ！「下の樺」を抜けると急激に残雪が増えてくる。又、ガスの中を登るようになった。雲海の境目辺りを登っているようだ。尾根の左は「扇の雪渓」で夏遅くまで雪が残っている。登山道は尾根の右側の雪渓を登るように誘導され、雪渓上には長いロープと風と雨によって薄くはなっているがベンガラが撒かれ、踏み跡も残っているのでそれを辿りながら高度を稼ぐと再び這松帯の中の道を辿るようになり、「上の樺」に着いた。「下の樺」ほど立派ではないが岳樺の森だ。「上の樺」からは「扇の雪渓」の上部を直登したり、捲いたりしながら登って行くと「丸山ケルン」が手が届く距離に見えて来た。夏道は捲き道が多く、それだけ楽ではあるが迷いやすい、判らなくなったら冬道の尾根道を「丸山ケルン」を目指して登るようにすればキツいけれど、迷うことはない。冬道ではあっても昔の登山道なので踏み跡はハッキリ残っている。この「下の樺」から「上の樺」、「丸山ケルン」間が夏の捲き道、尾根道が絡み合っているので要注意だ。「扇の雪渓」を登り詰め、這松帯の道に入ると直ぐに「丸山ケルン」到着だ。八方尾根はケルンが多く、慰霊碑の場合もあるが、ガスに捲かれたときの標識としての意味合いが強く、特にこの「丸山ケルン」の存在は大きい。そして「丸山ケルン」まで登ると「唐松岳山荘」へはもうひと頑張りだぞ！と云うことにもなる。完全に雲海の上に出て、素晴らしい３６０度の大パノラマが拡がっていた。時間的な余裕もあったので此処で大休止。左手の鹿島槍ヶ岳、五竜岳、真ん中に唐松岳、右側に不帰の険、白馬三山と続くパノラマが拡がる！雲海がこれらの山に激しくぶつかり渦を巻いているのも壮観だ。振り返ると雲海の彼方に頸城三山、戸隠連峰、八ヶ岳、南アルプスが続いている！特に不帰の険の大岩壁は迫力満点、圧巻だ！さあ、もうひと頑張りだぞ。感激した女性軍からボーナスが支給された。ご馳走様。目前のＰ2,554m を目指す。これから夏山シーズンのピークを迎えるために登山客の安全を期して登山道の整備が行われていた。背の高いスマートな中年の男性が軽やかな足取りで下山してきた。物腰が柔らかく言葉遣いも丁寧で、これから上の道について詳しく説明をして呉れた。話の内容から唐松岳頂上山荘の方のようだ。夏道の崩落状況の確認や修復中のために登山道が変わっているので案内に従って尾根道を登って欲しいということであった。別れを告げ、高度を高めて行くと、圧倒的な迫力で峙っていた「不帰の険」が段々と同じ高さに見えるようになり、「鹿島槍ヶ岳」の双耳峰が「五竜岳」の背後に隠れて見えなくなって来た。Ｐ2,554m にあと一歩というところで、夏道であるＰ2,554m の捲き道が通行禁止になっていて急峻で崖登りのような道に誘導されている。此処が冬山の難所となるところだ。外崎さんが絶妙のバランスで此処を突破、切り抜けると「唐松山荘が直ぐ下に見えます！」の声に疲れも吹っ飛んでしまった。登り切るともう、足下と云っても佳い距離に赤茶色の「唐松岳頂上山荘」が見えていた。正面に「唐松岳」、そして黒部谷を隔てて圧倒的な迫力で「剱岳」の鋭鋒が、「立山連峰」が、膨大な「薬師岳」が

見えて来た！後立山連峰も豪雪地帯であり、今なお豊富な残雪があるが、対岸の「薬師岳」、「立山連峰」、「劔岳」の未だに真っ白な残雪の量は圧倒的に違っている。
「劔岳」と「立山連峰」に氷河が存在するのは、この膨大な積雪量のお陰だ。「立山」の「雪の大谷」はシーズン始めに行くと残雪の高さが２０ｍを越しているのを目にすることが出来る。「氷河」は氷河の存在する山に「雪線」という年間を通じて雪の降る高さが必要になるのが一般的。一年中を通じて、常に雪を氷を供給出来る高さが必要になるということで、そういう意味では立山、劔岳共に雪線は存在しないがそれを補う年間の膨大な降雪量があって、一説によると年間の降雪量は６０ｍを越え、更にこの積雪が雪崩となって谷に落下、谷を埋め尽くしその暑さは１００~１５０ｍに及び、その重みで谷を埋めた雪が氷化、谷の傾斜に依って僅かに流れ落ち、氷河の条件を満たし、世界的にも例をみない雪線のない「氷河」を誕生させている。「劔岳」の「窓」と呼ばれる鞍部は典型的な「氷河浸食地形」だ。劔岳の長治郎谷にしても三の窓雪渓にしても日本の渓谷、或いは沢のＶ字谷と違ってアルプスやヒマラヤと較べれば小規模ではあるがそこが平らなＵ字谷を形成している。

概念図



山荘に下ると左手から捲き道の夏道が合流してきた。当然だが、こちらからも通行止めになっている。黒百合始め高山植物が咲き誇っていた。チェックインを済ませ、山頂を目指す。「劔岳」の鋭峰を眺めながら「唐松岳」の山頂を目指すのは最高の気分だ。２０分程で山頂に着いた。明日、登る五龍岳への道もハッキリと見ることが出来た。厄介な牛首からのくだり、白岳の蔭にチョットだけ五竜山荘が見えている。晴れて呉れ！陽が差し始め、岩も暖まり、ついついウトウトしてしまう。芳恵さんが平らな大岩の上で横になって気持ちよさそうに眠ってしまった。劔、立山を越えて黒部側に雲海が流れ込みだした。黒部側に滝のように流れ込む「滝雲」だ！黒部側から雲が流れ出すと日本海側からの天気悪化に通じるので要注意だが、最高の贅沢なひとときを山頂で過ごすことが出来た。満ち足りた思いで山荘に戻った。


下の樺から雪渓を行く

頭の中は、「唐松小屋」のイメージしかなく、大変貌を遂げた「唐松岳頂上山荘」はビックリだ。今日の宿泊は私達のグループの他はテントに二組、単独の男性１名とのこと。食堂は清潔で明るくサンルーム、加えて黒部側の窓を思いっきり大きく取り、「劔岳」、「立山連峰」の贅沢すぎる借景の導入、水洗トイレ、電気パネルによる豊富な電気で一晩中、電気ＯＫ、食事も美味しく、山小屋ではなく、紛れない山荘であった。従業員のお嬢さん達はとても登山のプロとは思えないが、私達の質問は直ぐにトップ〔あの途中であったハンサムな男性？〕に連絡を取り、その指示で私達に出来る限り正確な情報を伝えようとしている。明日の朝食は弁当を頼み、３時起床、４時出発だ。私達の部屋は、蚕棚式は変わらないが、先ず確りした建て方になっているのでギシギシ音がしない、二段式の蚕棚で梯子で昇り降りするがこれも確りしている、加えて角度が垂直でなく６０度位の傾斜にしてあり、踏み板が１０cm 程の幅があるので私達年寄りでも不安なく昇り降りが出来るのが嬉しい。布団は残念ながら羽毛ではないが毛布とチョット重い綿布団だ。充電器さえ用意してくればコンセントもあるので充電ＯＫ。
夕食時に明日の日程チェック。矢澤天気予報士、田村さんに受付のＴＶ天気予報をチェックして貰う。　午前中は保ちそうなので早朝出発の予定に変わりなし。お休みなさい。
深夜、雨が降り出し、風が唸り始めた。午前３時、全員に五竜岳は断念、８時迄待機を告げる。矢澤予報士は「駄目だ、こりゃ」であった。
７時に食堂で「停滞」も含めて打合せを行う。「停滞」も良し、「停滞」して明日天気が良ければ五竜に登って下山も良し、「停滞」ムードに傾いていた時にテントを張っていた若者二

組がテントを撤収して逃げ込んできた。こりゃ駄目だ！念の為に 2,554mPに登って雨足と風力をチェックすると黒部側はかなりの強風だが、信州側は幾分、風雨共に弱い感じだ。そんな折に支配人から電話が従業員の方に入り、雷雨注意報が出たので、私達に下山するなら早めに、そうでない場合は停滞するようにとの内容であった。　難しい判断ではあったが、下山を決意し、皆さんに伝える。全身びしょ濡れになりながら往路を下山した。「上の樺」から「扇の雪渓」、「下の樺」は昨日は登りで、殆どは冬道を通ったが今日は下りで、夏道の捲き道を通るように変わっていた。捲き道は「扇の雪渓」を下ったり、捲いたりするので登山道から雪渓への取り付きが不明瞭であったり、雪渓が氷化していたのでアイゼンを着用して「下の樺」まで降りた。

「GORE-TEX」ってナンなんだろうと雨に濡れながら降りるときに考えてしまう。理論的には汗などの身体から発する蒸気は通すが雨は通さない理想的な雨具と云うことになっている。本当にそうなのか？確かに私は汗っかきではあるが、この雨でビショ濡れ、雨具なしと同じくらいに濡れている？それでも昔と異なり下着が速乾性を着用するようになっているので「汗冷え症状」は殆どない。

かなり佳いペースでゴンドラリフト乗り場へ降り、そのままビショ濡れの侭、下山した。判り辛い町中の道を白馬八方バスターミナルを目指した。有難いことにこのバスターミナルの直ぐ隣に「八方の湯」という「強アルカリ性」の温泉が出来、特に「美人の湯」として人気が高いと云うので女性軍の強いご希望で温泉に直行！バス時間を確認して冷え切った身体を温めて、着替えて水分を含んでかなりかさばり、重くなったザックを背負い込みバスターミナルへと向かった。反省会は長野駅駅ビルのそば処「みよ田」で、新幹線が来るまで昨日の素晴らしいパノラマと花々・・・の余韻に浸った。

概　要

山名	唐松岳		
月日	平成 27 年 6 月 30 日(火)～7 月 1 日(水)		
山域	北アルプス・ 後立山連峰	地形図	1/25000 白馬町
形式	１泊２日	グレード	3B
目的	1. 梅雨の合間に残雪の剱岳・立山連峰の大パノラマ ２．梅雨時の雪解けに咲く高山植物観賞 ３．今年３度目の唐松岳リベンジ登山		

	〔3.月、５月敗退〕		
費用	28000 円	交通機関	ＪＲ、北陸新幹線、ｱﾙﾋﾟｺ特急、白馬観光開発
日程 一日目	我孫子 5:31→上野 6:08/6:22→かがやき 501→長野 7:39/8:06 →ｱﾙﾋﾟｺ特急ﾊﾞｽ→白馬八方 B/T9:15/9:20⇒白馬八方 9:30/9:40 →ﾛｰﾌﾟｳｴｲ・ﾘﾌﾄ→八方池山荘〔第一ｹﾙﾝ〕 10:00/10:20⇒八方ケルン 11:05/11:10 ⇒八方池〔昼食〕11:20/11:40⇒下の樺 11:55 ⇒上の樺 12:30 ⇒丸山ｹﾙﾝ 13:35 ⇒ P2,554m14:35 ⇒唐松岳頂上山荘 15:00/15:20⇒唐松岳 15:40/16:25⇒唐松岳頂上山荘 高曇り、後晴れ　＜歩行時間：５時間＞		
日程 二日目	山荘 8:20⇒丸山ｹﾙﾝ 9:20⇒扇の雪渓〔上の樺〕⇒下の樺 9:45⇒八方池 10:40⇒八方池山荘 11:30 →ﾛｰﾌﾟｳｴｲ・ﾘﾌﾄ→白馬八方 12:00⇒八方の湯〔入浴〕12:25/13:35⇒白馬八方 B/T13:40/13:45→ｱﾙﾋﾟｺ特急ﾊﾞｽ→長野 15:10→ あさま 16:22→ 上野 17:46/17:53 →我孫子 18:27 強風雨　＜歩行時間：２時間５５分＞		
ルート状況	・夏期シーズンに向けて夏道の整備、崩壊箇所のチェック等が行われていて、立入禁止迂回ルートが頻繁に現れるの多くが捲き道の多い夏道が通行禁止で、踏跡は明快な尾根道〔冬道〕を登るので結構キツい！ ・残雪、雪渓、雪田が未だ多く残っていて、多くはベンガラが撒かれ、ロープが張られ、判り易いが部分的に氷化しているので軽アイゼンは効果的 ・念の為に、ピッケル一本、補助ザイルを持参したが使用箇所はなかった ・今回は、第三ケルン修復中で八方池への迂回ルート、下の樺から上の樺は尾根のロープが張られ、ベンガラが撒かれ、木の枝にテープが捲かれた雪田、雪渓の混在した冬道を登ったが、翌日の下山ではその登山道が閉鎖され、丸山ｹﾙﾝ～上の樺～下の樺間は扇の雪渓の上部と上の樺の遠見尾根側の捲き道に変更されていたので登山時に八方池山荘、又は唐松岳頂上山荘に直接問い合わせがお勧め ・丸山ｹﾙﾝ~頂上山荘はP2,554m を夏道は捲くように登っているがﾛｰﾌﾟで閉鎖され、今回は直接P2,554m の痩せ尾根を登り山荘に至る冬道ﾙｰﾄになっていた ・昭文社山と高原の歩行時間は山荘～頂上～山荘を含めて４時間１５分だが、私達は５時間と先ず先ずの健闘であった。		
参加者	大山(L)、高橋芳(SL)、田村光、斎田、外崎、矢澤　　男性２名、女性４名　計６名		

＜９０６＞県連ウイークデー

谷川　一の倉沢

末永　三江子
大山　冬臣



豊富な雪渓の一ノ倉沢を背景に



吉尾　弘さんの名碑

一の倉沢　吉尾弘さんの慰霊

末永　三江子

朝から雨模様の中「そのうち晴れるか」と家を出た。柏駅→新松戸駅→流通経済大学前へ。雨が止まない。バスに乗り込むと雨足は強くなるばかり。窓からの景観も悪いので、一眠りすることにする。佐野パーキングでトイレタイムと起きるとどんよりした雲だが雨つぶはなし。又バスに乗ると降る。谷川出口で高速道を降りると台風の豪雨の為土砂崩れで狭くなった道が３箇所あった。今年の７月に降った雨は、例年を上回る量だとか？

谷川ロープウェーに到着。身支度を整えている間に雨は止んだ。葉っぱや草で濡れるだろうと雨具を着る。５００mほど林道を行くと藪の茂った登山道に入り、２０分歩いてまた林道に出た。マチガ沢から湯檜曽川へ降りるが、増水と急流の為ここでの渡渉は中止になった。来た道を引き返すが、迷い探すというハプニング有り。無事林道に戻り一ノ倉沢へ向かう。

林道を進んで行くと大山氏が右に見える山を指差して「あれが、ゼ二イレ沢だよ」と教えてくれる。渡辺さんが「銭入れと覚えればいいね」と言った。（なるほどそのように覚えれば忘れない）と感心した。コンクリートと砂の入り混じる道を山を見ながら進んで行くと目の前に一ノ倉沢が現れた。天気が悪い予報だったがガスも無く良く見えた。「左から２番目は僕らが作ったんだよ（クライミングルート）」と指を指した「へぇーすごい」と声を揃えたように言った。（なんであんなに高いところ登りたがるんだろう）と思いながらその山を長いこと眺めていた。「この水飲んでごらん」と大山氏が言うので飲んでみるとなんて美味なんでしょう。すっきりとした喉ごしの良い水とでも言おうか！つい飲みすぎてしまった。川の右側に岩に掘られた名前が数カ所あった。崩れて落ちているものもある。（いつか朽ちていく。哀れに思えた。）雲も薄くなり、青空も出始めた。

場所を変えて昼食を摂る。皆が持ち寄ったご馳走を食べながら大山氏が故吉尾氏との関係を話してくれた。その後全員で集合写真を撮り、林道を通りロープウェー駅へと戻ると、又、雨が降り始めた。バスに乗り込むと大雨となった。慰霊碑についた時もかなりの雨が降っていたが、不思議なことに５分ほどで雨が上がり、日差しも指す。

岩山も見えない所に５００人以上の名前を刻んだ慰霊碑に花と線香を上げる（亡くなった方が刻まれているのなら成功された方の名前もどこかに書いてあっても良いのでは？）と思いながら手を合わせた。こんなに多くの方が線香をあげても濡れた石碑や土に置いた為、煙も殆ど出ないうちに消えてしまうことが悲しい。大きな花束だが大きな慰霊碑の前では寂しく感じた。

バスに乗ると又雨が降る。家路に向かう中、それぞれにおしゃべりが始まる。眠りに落ちる方様々だが、みんな元気に新松戸に着いた。駅の近くの中華の店に入り、反省会をした。

大山氏の偉大さが充分に感じられた山行であった。ありがとうございました。



滝沢、左端の藪リッジ/滝沢リッジ

谷川岳一ノ倉沢雑記

大山　冬臣

青春時代の多くを谷川岳と共に過ごした私は５０数年に及ぶブランクを経て当会にお世話になり、谷川岳ではポピュラーな天神尾根コース往復、懐かしい西黒尾根～天神尾根コースの２回の山行にご一緒させていただき、フラフラになりながらも感謝の気持ちでいっぱいでした。

当時と全く違っていたのは、上越新幹線「たにがわ」号でのアプローチです。夜行の四等寝台と自虐的に名付けた椅子の下、通路に仮眠を取り、真っ暗な土合駅のホームに着き、ヘッドランプで一ノ倉沢を目指したのとは大違いで、隔世の感がありました。

今回の県連の一ノ倉沢ハイクは、湯桧曽川沿いの道をゼニイレ沢に向かい、大先輩であり、我が国を代表するｽｰﾊﾟｰｸﾗｲﾏｰの一人である故吉尾　弘氏のゼニイレ沢出合の慰霊碑での献花があるとの計画を聞き、参加を決めました。私も山仲間二人がこの一ノ倉沢で墜死しているのでその半世紀ぶりの慰霊の気持ちもありました。

谷川岳が、世界に例をみない程に遭難者が多いのは一ノ倉沢の岩壁の質、そして日本海と太平洋の分水嶺〔日本一の信濃川と日本二位の利根川〕である特異的な気象条件にあると思います。岩の質は難易度の高いルートになればなるほどにホールド、スタンスの乏しい逆層とスラブ〔一枚岩〕で、ハーケンの効きが甘いルートが多く、墜落したときの衝撃を支えきれずにハーケンが抜けて墜落するケース、一方では衝立岩に象徴される、壁にドリルで穴を穿ち、その穴にボルトを打ち込んで「鐙：縄梯子」を懸け替えながら登る「人工登攀」と呼ばれるスタイルが現れました。より困難を目指し、やがて冬にこれらの岩壁ルートを競って登るようになり、岩壁の取付に行くまでに雪崩に巻き込まれたり、登頂後、下山ルートで４～５ﾒｰﾄﾙは張り出す「雪庇」を踏み抜いて墜死するケースなど遭難死するケースが多様化し、増加の一途を辿ったと云えます。又、こうした事故が増えれば増えるほど、谷川岳、特に一ノ倉沢、隣の幽ノ沢の岩壁群の登攀難易度が煽られるようになり「挑戦」する若者があとを絶たず、残念ながら「魔の山」の異名を取るようになりました。

井上　靖先生の「氷壁」、新田次郎先生の「孤高の人」などの名作によって作家の意図とは別に非常に残念ですが山での「死」が「美化」されて行ったのも事実です。

北アルプスの穂高岳、剱岳、南アルプスの北岳バットレスの岩壁も人気がありましたが何故、谷川岳、特に一ノ倉沢に遭難が集中したのか？私達は貧しく、私の記憶では確か土合まで当時片道４３０円？で行けたと思います。穂高に行くには松本まで、そこから上高地までは松電の電車とバスを乗り継いで漸く辿り着き、交通費は１，０００数百円であったと思います。剱岳に至っては２，０００円を遙かに超えていたと思います。キセルをして節約？をしながら登りましたが毎回成功する訳ではありませんので、必然的に私達の目と足は一ノ倉沢に向くことになりました。当時の標準的？青年の一人であった私がそうですから当然、多くの岩登りに憧れた若者の目も一ノ倉沢に向けられたのは極く極く自然でした。夜行列車の睡眠不足の侭、一ノ倉沢の大岩壁に登ったり、日本三大急坂を凌ぐような西黒尾根に登っているうちに天候が悪化し、GORE-TEX のない当時はビショ濡れで体力のない方は不幸にして低体温症で遭難死されました。私も遭難こそしませんでしたが遭難寸前の経験は四季を問わず幾度となくありました。

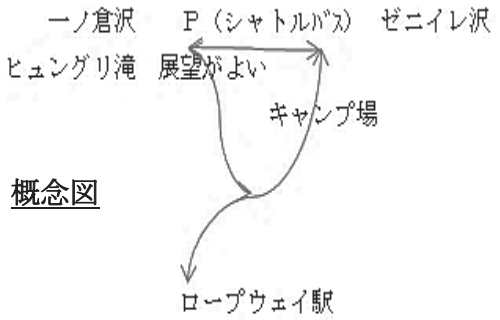
エベレスト女性初登頂の J.T さんは私と同じ山岳会で、医師の M.I さんも、M.I さんのガイド役であった T.K も南稜テラスというチョットしたテラス状の岩場でそれぞれが目指す岩場の順番待ちをしているうちに顔なじみになりお話しもするようになりました。此処に集まる誰もが当時としての先鋭的なクライマーの皆さんであったと云えます。このテラスから日本人登山家のヨーロッパアルプス三大北壁〔アイガー、マッターホルン、グランドジョラス〕登攀の挑戦が始まったと云えます。

当時の想い出が走馬燈のように頭の中を駆け巡りました。衝立岩を初登された南 博人さんの話、私達の会が初登した南稜フランケ、一ノ倉沢最大のオーバーハングのコップ状岩壁、夏は藪だらけのルートが冬は厳しい雪稜に一変する滝沢リッジ、標高がたかだか２，０００ｍの谷川岳一ノ倉沢に北アルプスに匹敵する大雪渓が未だに残っているのは何故か？等々色々な一ノ倉沢の話を、同じ会の先輩で山岳雑誌「岳人」にペンネーム「早川　幾子」で毎号ページを持っていた R.S さんが墜死され、身体の損傷も激しく、ご遺族の皆さんにお逢いしていただくための縫合、死に化粧は女性の皆さん

に担当していただいたこと等々、「遭難の美化」などは決してあってはならないという思いを一ノ倉沢の大岩壁を仰ぎながらこの山行に参加された当会の皆さんにお話ししました。

概　要

山名	谷川　一の倉沢		
月日	平成27年7月23日(木)		
山域	谷川	地形図	1/25000　谷川
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A
目的	県連行事に参加し、他会の会員と交流する		
費用	7,000円	交通機関	貸切バス
日程	我孫子5:56→新松戸6:10・流通経済大前6:40→佐野SA 8:35/50→赤城SA 9:55/10:05→水上IC10:20→谷川岳ロープウェイP10:4011:00⇒マチガ沢11:4012:20⇒一の倉沢出会い12:40・散策・昼食13:30⇒ロープウェイP 14:20/15:00→慰霊碑15:05/15:10→水上IC 15:35→高坂SA 16:45/17:00→新松戸18:35		
ﾙｰﾄ状況	・台風による豪雨のため湯檜曽からロープウェイ駅途中の道が土砂崩れのため片側通行となっており、ロープウェイも休止していた ・湯檜曽川から川沿いのコースを一の倉沢まで向かう計画であったが、増水と急流のため林道に戻り一の倉沢に向かった。 ・予定していた渡渉は川の増水のため中止。		
参加者	高橋芳(L)、大山(SL)、本田、末永、渡辺 男性１名　女性4名　計5名		



概念図



左/朝日岳、右/白毛門とゼニイレ沢

＜９０７＞

白馬三山
（白馬岳～　杓子岳～　鑓ヶ岳　）

（2,932m）　（2,812 m）（2,903 m）

中村　育子

雪渓点在、スケール大きな山



鑓ヶ岳から鑓温泉小屋へキックステップ

「青春１８きっぷ」を「アナログレトロ」と本田さんは言った。白馬村営の山荘まで電車とバスで７時間かかったが、各駅停車の旅は快適だった。午前の光注ぐ中央本線の車両は空いていて、各自好きな場所に好きなスタイルで座り、南アルプスの山々を眺めた。山荘に１５時着、すぐにビール・お茶で乾杯だ。山荘は空いていて、男女別に寛ぐことが出来た。

翌朝は快晴。アイゼンとヘルメットを装着して大雪渓を登る。登山者は切れ目なく続いた。九州の 30 人ほどのツアーと前後しながら歩く。途中で左手の斜面から大きな石が落ちていった。「ラクー」「ラクー」と大声で人々が叫んでいる。「ラクー」の声はやがて合唱になり、下方にいる人たちに注意を促していった。これが数年前の悲劇を起こした「落石」現象かと、驚いた。真夏の日に照らされた雪は溶け、道から外れるとスポスポと足が抜けてしまう。ぎらぎらした太陽を背中に受け、汗を流して雪渓を登った。室崎さんが 40 年前に登った時は「上の雪渓は溶けていた」そうだ。今年は上の方まで雪が残っている。

雪渓を過ぎ、お花畑を通るころに雲が空を包んでしまい、霧雨状になった。白馬山荘への道中はお花畑が続き、霧の中で見る花はとても美し

い。折よく、自然観察ガイドの青年たちが下りてきて、質問に丁寧に答えてくれた。名前がわかると楽しさが倍増する。とても得した気分だった。白馬山荘には３時前に到着。サロン室に食べ物を持ち寄って歓談する。夕食後、セミナーを聴いた。「雲と雷」「山の歩き方と登山道」「高山病と予防対策」。面白かったことは覚えているが、内容は忘れてしまった。

翌朝も台風の影響で雨。山頂に登ったが白い雨で何も見えない。白馬鑓ケ岳まで尾根を縦走する。次第に雨が上がり、杓子岳のあたりで雪渓の点在する雄大な山々が、ちらり、ちらりと見え出した。その時見えた山のスケールに驚いた。雪と緑の混在する素晴らしい景色が広がっていた。惜しいことに雲はすぐに全てを覆ってしまった。鑓ケ岳山頂は風が強く、急ぎ鑓温泉に向かう。下山道も花畑が続いた。ここは素晴らしい花の山なのだ。猿の群れに出くわす。

鑓温泉小屋は源泉かけ流しで、温泉はみんなの楽しみだったが、着いてみると露天風呂の周りは簡単によしずで囲んであるだけで覗くことができる。やむを得ず女性たちは狭い内風呂に入った。裕子さん「雄大な眺めのできる露天風呂をテレビで放映していたので憧れていた」。残念でした。男性二人は広々とした露天風呂で、妙高や戸隠山の景色を楽しんだようだ。小屋は満員で、蚕棚のような畳６枚に７人。室崎さんは気の毒に布団の狭間に寝たらしく、寒かったと嘆いた。ゲスト参加の室崎育美さんは、「雪渓も鎖も山小屋も初体験」だが、どれも難なくこなしていた。小島さんは白馬の雪渓は初体験とのことだが、小島さんの豊富な登山経験に教わることが多かった。白馬岳は花と雪渓が多く、スケールの大きな素晴らしい山だと実感した。

坂巻さんいわく「次回は静かな山を登りたい。山も小屋も人酔いしてしまうほどの込みようだった。夏山は曜日が関係する。」だが、良い仲間とののんびり山行はこれもまた楽しい。ﾘｰﾀﾞｰの坂巻さん、皆さん、有難うございました。



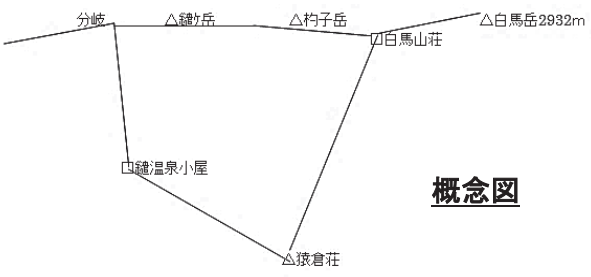
ハクサンコザクラ

概　　要

山名	白馬三山　（白馬岳～杓子岳～鑓ヶ岳　）			
月日	平成２７年７月 26 日(日)～7 月 29 日(水)			
山域	北アルプス	地形図	1/25000 白馬	
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３C	
目的	白馬三山を縦走し、雲上の温泉(白馬鑓温泉)、大出原のお花畑を楽しむ			
費用	約 34,000 円	交通機関	電車、バス、タクシー	
日程 1日目	我孫子駅 7:56→西国分寺→松本→白馬駅 15:48→バス 16:00→猿倉 14:30⇒村営猿倉荘（泊）　＜歩行時間　なし＞			
日程 2日目	村営猿倉荘 6:15⇒白馬尻小屋⇒白馬大雪渓⇒頂上小屋 13:40⇒白馬山荘 14:35（泊）　＜歩行時間　約７時間＞			
日程 3日目	白馬山荘 6:05⇒白馬岳 6:25⇒白馬山荘 6:40⇒杓子岳⇒白馬鑓ヶ岳 10:00⇒分岐⇒白馬鑓温泉小屋 13:25（泊）　＜歩行時間　約６時間＞			
日程 4日目	白馬鑓温泉小屋 6:15⇒小日向山⇒猿倉 10:35→タクシー10:50→白馬駅 12:26→松本→西国分寺→我孫子駅 20:30 解散　＜歩行時間　約４時間＞			
ルート状況	・注意箇所:白馬大雪渓（落石）・鑓温泉上部鎖場（滑転落）・鑓温泉～小日向のコル（スリップ・転倒） ・今年は落石事故が多い。 ・登山ルートは標識あり、サイドにロープがあるので迷うことはない ・山小屋、宿泊サイトは混んでいた。			
参加者	坂巻(L) 本田 中村育 小島 矢野裕 室崎宏 室崎育　　男性２名、女性５名　計７名			



雨の白馬岳山頂



概念図

＜９０８＞

石転び沢～烏帽子岳～飯豊山～三国岳

(2,018m)　(2,105m) (1,645m)

矢澤　節雄

２回めの挑戦　飯豊連峰



飯豊本山を望む



絶滅危惧種
イイデリンドウ

飯豊連峰は、丁度 10 年前の２００５年８月４日２泊３日に挑戦した。勤務先の会社では、その数年前から、社員健康のために、BMI 値の高い従業員に対し、スポーツクラブで運動するよう勧める活動をしていた。この活動の推進責任者である私も相当のメタボであり、当然のこととして、就業後に２時間ほどの筋トレとバイクの運動を始めた。しかし健康のためとはいえ、楽しい運動ではなく、時々スポーツクラブを退会したくなるが、従業員の手前、途中で止めるわけにいかない。そんな時、中学校の友達９人と、尾瀬の三平峠から鳩待峠までのトレッキングをした。これが切っ掛けで、自分が若い時に、山登りが好きであったことを思い出した。山登りの目的した身体作りのためならば、面白くない筋トレやバイクの運動も続けられるのではと、登山を始めることにした。スポーツクラブでの運動の目的は、健康な身体作りではなく、楽しい山登りが出来ることにある。また、山登りには、挑戦する要素があり、この挑戦が、リタイヤー後の生活に積極性を持たせ、生活を楽しくして呉れていると思う。喜寿になった今でも山登りが出来、しかも健康でいられることを幸せに思い、会社の健康活動にめぐり合えて、自分は運がよかったと感謝している。

６５歳から登山を始めても心臓や脳は大丈夫なのか、非常に心配であった。携帯用の血圧計や心拍計を求め、スポーツクラブでいろいろな負荷を掛けて身体のチェックをした。今では着けて登山はしないが、登山を始めてから暫くの間、登山中にもこの携帯計測器を着けて身体をチェックしていた。67 歳の時、キリマンジャロ登頂ツアーに参加した際、高所登山に耐えられるかの事前健康診断で、不整脈が見つかった。幸いツアーに参加出来たのだが、それ以後、毎年１回は、２４時間型ホルダー式心電計を着けて、スポーツクラブに行き、筑波山や宝篋山に登り、心臓のチェックをしている。

学生時代の登山は遊び程度で、山岳部やワンゲル部に入部して登山技術を習ったこともない。登山に関する知識はゼロである。登山に関する本を求め、NHK 趣味講座の登山ビデオを見て知識を増やした。また、月刊誌「岳人」を３年間購読した。この雑誌は、「山と渓谷」より為になった。登山のためにいろいろなことをするのは、年を取ったことに因るからか。

登山再開後の初登山は、６６歳になる数日前の５月ゴールデンウイークの北横岳と蓼科山・車山である。すずらん峠から蓼科山の頂上まで、コースタイムの二倍掛かり、道を空けてくれた登山者には歩行の未熟さを笑われた。頂上のゴロゴロした石の上は怖くて、一つ一つ石を跨いで歩いた。最後の車山で、一緒に連れて来てくれた、会社の同好会山岳部長M氏が、「矢澤さん。これで日本百名山二つ登ったぞ」と言った。私は百名山に関心がなかったが、彼は日本百名山の登頂を目指していた。その７年後に、彼より先に私が日本百名山を制覇するとは思ってもみなかった。

２回目の挑戦の登山がこの飯豊連峰である。６６歳での初めての記念すべき登山である。また、この山行で、山の魅力に捕りつかれたのである。登山に未熟な私が何故に飯豊山を選んだのか。ただ単純に、飯豊は深い山で、挑戦しがいがあると思ったからである。会社の同僚Ｔ氏を誘った。これが縁で、Ｔ氏とは山友達になった。当初の計画は、「石転び沢」を登り、「川入り」に下りる縦走コースである。実際にアイゼンも履いたことのない私の無謀な計画であった。計画後しばらくして、落石の多い「石転

び沢」は我々には危険過ぎるので「川入り」からのピストンにすることをＴ氏から提案され、私も怖くなり、それに従った。この変更後の計画でも、当時の私の登山能力では無謀であったかもしれない。現に、登山後にＭ氏から「飯豊はあなたにはまだ無謀な登山だ」と言われた。

梅雨明けの晴れを狙った計画であったが、この年は梅雨明けが遅くじりじりしていた。ようやく明けたので、台風７号が近づいているのに強引に決行した。早朝、我が家を車で出発した。雨の中、磐梯山の五色沼に立ち寄り、飯豊の帰りには、磐梯山か西吾妻山にも登りたいと思い、裏磐梯登山口と白布登山口の下見をした。両登山口ともガスっていて上は何も見えない。昼にラーメンで有名な喜多方で海鮮五目ラーメンを食べる。具が「鮮」でなく、味も期待はずれで、がっかりしたのを今でも覚えている。テレビで台風が関東地方を直撃する予測を報じていた。全くついていない。山行を諦めて自宅に戻ったら、馬鹿ねと女房に笑われた。Ｔ氏は奥さんに温泉でもつかってくれば良かったのにと言われたそうだ。

翌週再チャレンジする。「川入り」の民宿に入る。翌日の為に「御沢」登山口の調査に行くと、盛んに無線機と使って連絡を取っている人に出会う。どうしたのかと尋ねると、この人は高校の先生で、生徒が足を滑らせて捻挫し、ヘリコプターで救助されたことを関係者に連絡していたのだと。　民宿の夕飯時に、我々より年配の夫婦と会話をする。69 歳だという。「よく頑張りますね」とＴ氏が言うと、ご主人曰く。「なに女房の後を付いて登れば問題ありません。」さらに「昨年は、二人で朝日連峰を縦走しました。花が素晴らしいので、是非登りなさい。」と勧められた。自分は 66 歳であるから、これからも暫らく登山が出来るのではと嬉しくなった。翌年、我々は朝日連峰を縦走することになる。

翌日、長坂の十五里を登る。長坂の名のとおり長い上りが続く。また赤土の滑りやすい段差の大きい登山道に苦労した。昨日高校生が足を滑らせて捻挫したのが理解できる。すごい汗で、峰秀水で一息つく。剣ヶ峰の岩稜も恐怖感なく通過した。種蒔山の先で、花の群落に出会い感激する。疣岩山からの登山者が、これは「ニッコウシラネ」これは「マツムシソウ」と教えてくれた。彼は、途中熊に出会い恐ろしい思いをしたとも語る。若い時は、花に全く興味が無かったのに、夢中で写真を撮る。気がつくと登山道が分からなくなった。不安になったが、獣道のような木々の合間を潜って行くと登山道であることが確認出来てホッとする。地形図は持たず、「山と高原地図」が頼り、コンパスを使う習慣も身についていなかった。切合小屋に二日分の米６合を供出する。夕飯はカレー。昨日会話した夫婦の奥さんが、一人で休んでいた。「あれ、ご主人は」「今頃バスに乗って自宅に帰っているでしょう。」御主人は飯豊の登りに負けて戻ったとのこと。奥さんは事も無げに言うにビックリ。われわれが一番先に民宿を出発し、抜かれた記憶も無いのに、先に着いているのにもびっくりした。新しく出来た「小白布沢」登山口からの短縮コースを登ったのだと。そんなコースは登山地図に無い。知っていれば、苦労しなかったのにと残念に思った。

翌朝、飯豊本山から大日岳を目指す。難所といわれている「御秘所」も怖さを感じなかった。御西小屋を覗くとあの奥さんがザックを降ろして宿泊の予約をしていた。一人になっても平気で飯豊の縦走を続けるこの年配の女性に山好きと強さを感じた。小屋の前にザックをデポすると、管理人から、ザックが高山植物を傷めていると強く叱られ、反省して誤る。最高峰の大日岳を目指して進む。右手の「コバイケソウ」の群落が霧の中で美しい。この花は霧が似合う。大日岳頂上は、残念ながら雲で眺望には恵まれなかった。御西小屋に戻り、小屋前の水場の下りがきつく、水補給につかれた。往復約１２時間掛かって、薄暗くなる時刻に「切合小屋」に戻る。夕食時間は過ぎていたが、予約していたので出してくれたが、今夜も同じ美味しくないカレーだ。大鍋で米を炊くからであろう。弁当は頼まない。

三國岳の手前の一寸した岩場を登り詰めるとロープが張ってある。先をみると、三人が下りて行く。何も考えずにロープを跨いで続いて降りた。三人が振り返って道が無いから引き返せ手で合図する。戻ろうとするとガレ場でズルズルと下に滑って戻れない。腹這いになって無理に登らず横に進み、草つきを捕らえ辛うじて上に戻れた。反対側から登ってきた登山者から「道はこちら側ですよ。ロープが張ってあるではないですか」と。三國小屋で三人から「すみません」と謝られたが、私もロープの張ってある意味を理解していなかった。15 時ごろ民宿に戻る。民宿のクーラーが電力オーバーでブレーカーが落ち、ちょくちょく止まり、暑いのに閉口した。民宿に大滝の写真か貼ってある。行

きたくなり、翌日大滝に向かうことにした。

大滝遊歩道は往復２時間のコースで、途中長滝もある。大滝の先が沢登りのコースになっている。ここを訪れる人は少ないようで、我々以外誰もいない。大滝の眺めに満足する。帰路の鎖場で降りようと鎖を持ったら、鎖が抜けてビックリ。そのことをメモに書いて登山届けの箱に入れたが、心配になり、帰宅後福島県庁に状況の電話をしたが、反応が鈍かった。その後事故の話も聞かないので直してくれたのであろう。クサリも信用出来ない。車中で腕を見るとホクロがある。一瞬あれこんなところにホクロがあったかなと思って触ってよく見るとダニであった。大滝遊歩道の藪道で付いたのであろう。うまく摘まみ取れて助かった。

磐梯ゴールドラインに入ると眼前に磐梯山が見え、途端にＴ氏が磐梯山を登ろうと言う。行きの裏磐梯山登山口に寄った時には、彼は全く興味を示さなかったのに。え！と思ったが、「立派な山を見ると、やっぱり登りたくなっただろう」と彼に言って八方台登山口から登ることにした。予定外の登山で弁当はおろか、食料も持っていないが上に店が在るのを頼りに登る。時間的に遅いので、沢山の人が降りてくる。登るのは我々だけだ。弘法清水の小屋はすでに客は少なくなっている。食事を求めると、インスタントカップラーメンしか残っていないという。仕方がないのでラーメン２個を注文する。我々を気の毒がって、休んでいた年配の夫婦が「どうぞ」とパンを分けてくれた。腹が減っていても、カップラーメン二杯よりは、ラーメンとパンが良い。有難かった。これで頂上まで元気に登れて満足した。



石転び沢大雪渓にて

兎に角、飯豊のこの山行は、初級の山では経験できない、一度にいろいろなことを経験させてくれた思い出深い山行であった。

「岳人あびこ」の山行リーダになって、初めての記念すべき山行に「飯豊連峰の縦走」を計画した。偶然にも最初の飯豊の縦走から満 10 年の記念の年に当たる。この飯豊を再び登ることになるとは、最初の飯豊のときには思ってもみなかった。飯豊なら、やはり「石転び沢」を登りたい。しかし、傾斜 45 度３ｋｍの大雪渓のチャレンジにかなり逡巡した。「石転び沢」を登るビデオを何遍も観る。大山さんが支援をして下ることを確認し、意を決し「石転び沢ルート」に決定した。今回の山行の紀行記は、「飯豊連峰花紀行」（大山冬臣著）と題してホームページに掲載されているので是非参照されたい。私は、石転び沢の登行でヒヤリハットを二件起こしてしまったので、その関係部分を少し記す。

飯豊山荘の夕食後、大山さんから、「石転び沢」を登るに当たって、雪渓歩行やロープの取り扱いの講義を受ける。暖身平までは平坦の路なので、山荘を暗いうちに出発する。梅花皮沢の左岸を登る。沢沿いの道であるから緩やかな登りを想定していたが、アップダウンの激しい厳しい道が続く。「石転び沢出会い」に着き休憩する。ほっとしていると、登山者から「石転び沢は、右手か左手か」と問われた。上に小屋が見える段差の無いなだらかなに続く幅の広い雪渓を指して右手の方だと答えると、その人は梅花皮沢から直進の右手の雪渓を登っていった。大山さんが「矢澤さん地図を出して」と言って、大山さんが地図を見る。「違うな。右手が門内沢で、上の小屋は門内小屋だ。左が石転び沢だ」。仕舞った。間違えて教えてしまった。問うた人はもう見えない。事故でも起こされたら大変なことになると心配になった。暫くすると、「道が違う」とその人が戻ってきて、助かった。雪渓の地形図を何遍も見てきたのに間違えた。「北股沢出会い」で間違える人が多いとガイドブックに書いてあり、その印象が強い。「石転び沢出会い」は注意書きがないから、地形、方向の記憶が薄い。



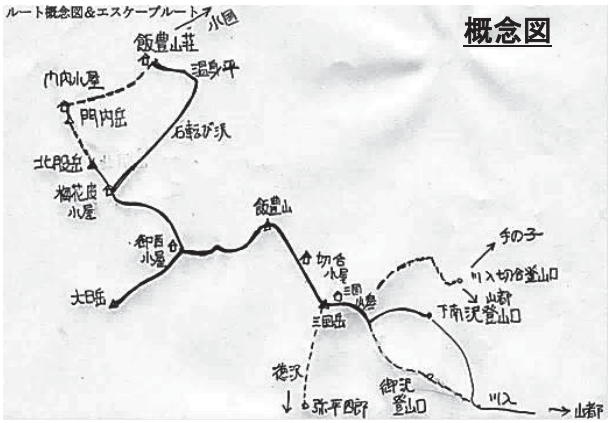
中ノ島のシナノキンバイのお花畑で一服

記憶を頼らず地形図で確認する行動が、まだ身に付いていないのだ。また、温身平からこの出

会いまで、一度も地図を出して見ていない。「地図を見るとこちらだと思うが、確認してください」と言うべきであった。

石転び沢雪渓は、取り付きの傾斜は緩やかで徐々に傾斜がきつくなるので、登る間に傾斜に慣れアイゼンの歩きにも慣れてくるので、思ったより恐怖感がない。六本歯の軽アイゼンでも確りと効く。アイゼンの効きを一歩一歩確認しながら登る。石が多く転がっている場所の特徴も分ってくる。雪渓の所々に小さな横の亀裂があり、慎重に避ける。下から大山さんが、「少し左を」、「少し右を」と指示してくださる。雪渓で冷やされた山風が吹くが上に行くに従って暖かくなってくるのを感じ、面白く思った。「北股沢出会い」の上の草付きでザックから雨具を取り出すとき、不注意にも、手の上をお手玉のようにして雨具を落とす。袋に入った枕状の雨具は、サッカーボールのようにコロコロと転がって落ちていった。止まってくれと念じて見ていたが、なかなか止まらない。諦めかけた時、幸いにも「北股沢出会い」近くの傾斜の緩やかなところで止まった。だいぶ下である。雨具は登山の生命線である。決死の覚悟で非常に傾斜のある雪渓を降りて拾い上げてきた。傾斜の場所や風が強いときはザックからの物の出し入れには細心の注意が必要である。この場合、雨具をザックの中で袋から出すべきであった。

草付き中ノ島の上部で、急な傾斜の雪渓をトラバースする場所はカッティングされていて安堵した。（ここは、滑落事故が多いと言われている）その先の雪渓で小屋まで直上するのだが、ガスで上りの取り付きが分り難かったが、ガスが動いて小屋が見え、無事に梅花皮小屋に着いた。これで念願の「石転び沢」を制覇できて、非常に満足した。この後も充実した楽しい山行であった。同行者のお二人に感謝する。



概　　要

山名	石転び沢～烏帽子岳～飯豊山～三国岳			
月日	平成 27 年 7 月 29 日(木)～8 月 1 日(土)			
山域	飯豊連峰	地形図	1/25000 飯豊山、大日岳、川入	
形式	山麓泊/避難小屋泊		ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3C
目的	夏の急峻な雪渓を登り、深山と花を楽しむ			
費用	約 35，000 円	交通機関	ＪＲ、バス、ﾀｸｼｰ	

日程	1日目	我孫子駅 9:05→上野 9:39/10:06→米沢 12:08/12:16→小国 13:46/14:23(バス) →飯豊山荘 15：22 （泊） （歩行時間　0 時間）
	2日目	飯豊山荘 4:00⇒温身平 4:30⇒砂防堰 5:00 ⇒石転び沢出会 8:50⇒（石転び沢） ⇒草付中島 12:00⇒梅花皮小屋 15:00（泊） （行動時間　約 11 時間）
	3日目	梅花皮小屋 5:20⇒梅花皮岳⇒烏帽子岳 6:45 ⇒御手洗ノ池 8:15⇒天狗の庭 9:15⇒御西小屋 11:00/11:40⇒飯豊山 13:15⇒飯豊山神社 13:50⇒御秘所 14:55⇒姥権現 15:15 切合小屋（泊）　（行動時間　約 10 時間）
	4日目	切合小屋 5:15⇒三国岳(三国小屋)7:30⇒剣が峰 8:00⇒横峰分岐 9:00⇒小白布沢登山口（下南沢登山口） 11:20⇒飯豊トンネル入口 11:50(ﾀｸｼｰ)→いいでのゆ(ﾀｸｼｰ)→山都駅 15:40→会津若松→郡山 17:35/18:05→大宮→日暮里→我孫子駅 20:30 （行動時間　約 6.5 時間）
ルート状況	・砂防堰から石転び沢出会までｱｯﾌﾟ・ﾀﾞｳﾝの繰り返しで累積標高が大きい。道は荒れ気味であるが、危険はない。 ・石転び沢出会では、雪渓の踏み抜きを注意し、左岸側から高巻き気味に右岸に渡り、雪渓に乗った。雪渓上にﾍﾞﾝｶﾞﾗは無い。数箇所横クレパスがある。雪質は 6 本爪ｱｲｾﾞﾝで歩幅を小にすれば滑る危険性を感じない。草付中島は急登である。転落事故の多い草付上部の雪渓横断は、山小屋管理人により、ｶｯﾃｨﾝｸﾞされており安全であった。霧の場合、梅花皮小屋直下の雪渓への取付き点の判断が難しい。 ・小白布沢ルートは国土地理院図に記載無いが整備された登山道である。途中、秀好清水への分岐標識板の文字が消えている。渡渉 3 箇所ある。	
参加者	矢澤(L)，大山(SL)，郷田 男 3 名	

＜９０９＞

岩小屋沢岳　～針ノ木岳　～蓮華岳
（2,630m）　（2,820m）　（2,798m）

矢野　貞子

憧れの針ノ木岳



針ノ木小屋前にて

針の木岳は長いこと憧れの山並みと雪渓でした。今回天気の良い中歩けて幸せでした。

前夜、竹橋から深夜バスで出発、朝５時に扇沢に到着。朝食を食べて出発。10 分ほど下ると柏原新道入口。登山届を出して出発。柏原新道はよく整備されて歩きやすい山道である。2時間ほど登るとわずかに残った雪渓を渡ると登りがきつくなった。種池山荘の屋根が見える。両側にお花畑が広がるが急登だ。息が上がる。やっとのことで種池山荘にたどり着く。目の前にこれから登る針の木岳とそこに続く稜線が見渡せる。ゆっくり景色を見ながら中食をとる。１時間ほど休んで新越山荘を目指す。暑い。風もない。太陽を遮るものがなくて足元からも熱風が上がり、顔が熱い。誰からともなく日陰があったら休みたいと声がかかる。剣岳側には風があるが扇沢側には風がない。右手に剣岳の山容がいつも見えるとものとは違う。小窓の頭、三の窓の雪渓が見える。新越山荘までは暑さとの闘いであった。１時過ぎには小屋に着いたが、瀬田さんが暑さに当たってしまった。夕食まで横になっていたが食欲がないとのことであった。夕食後、小屋前のやまに落ちる夕日が美しい。

２日目、瀬田さんも何とか回復。日が昇る前に出発し鳴沢岳を目指す。１時間ほどで鳴沢岳、少し下って登り返し１時間ほどで赤沢岳。赤沢岳の下りは崩壊が進んでいてガレ場を慎重に下る。新越山荘からはなだらかな稜線に見えたのだが、小さくアップ・ダウンを繰り返しながらの長く厳しい稜線をスバリ岳へ進む。最低鞍部からスバリ岳頂上までは高低差それほどないのだが、近くに来てみると結構高度感の岩稜の山が眼前に聳える。スバリ岳手前の砂礫斜面にコマクサが咲いていた。

右手に見える剣岳の雪渓が長次郎と平蔵谷に変わってきている。昨日と同じ快晴で太陽がジンジンと暑いが今日は黒部渓谷からの風があって、昨日より歩きやすい。黒部湖が大きく見えてくる。渓谷を挟んだ剣・立山をずっと眺めながらのスバリ岳から針の木岳稜線をあるく。針の木岳にはお昼に到着。黒部湖を挟んだ先には立山から薬師岳まで眺められる。奥には槍ヶ岳と穂高岳、燕岳などと、振り返れば鹿島槍から後立山連峰と今夜の宿の針の木小屋を挟んだ先には蓮華岳と四方を山に眺められた。ゆっくりと大展望を満喫しながら昼食を楽しんだ後、下山。一時間ほどで針の木小屋へ。最盛期の土曜日で混雑していて、幅広い布団に５人割り当てられ、互い違いに横になっても寝返りもままならない状態だった。



夜明け前(蓮華岳手前の丘　爺～鹿島槍へと続く後立山のやまなみ)

混雑をさけ、朝食をおにぎりに切り替え、4時前に出発。蓮華岳を目指す。途中、小高い場所

で待機し日の出を拝む。そのあと頂上へ、明るくなると、足元に白いコマクサがあちこちに咲いているのに気づく。お尻に敷いていたかもと心配になる。風が冷たいため、早々に写真を撮り、針の木小屋に引き返す。荷物を整え下山。針の木雪渓の取りつきは小屋から急なザレ場を一時間ほど下ったところからアイゼンを着用した。雪は腐っていて、特に危険個所はなかった。雪渓の末端、夏道に取り付く場所が分かりづらかった。途中、大沢小屋でコーヒーを飲んで一休みした。小屋から少し下ったところの湧水は美味しかった。扇沢まで下ると、5 分後に出発バスがあり乗ることができた。15 分ほど乗った処の大町温泉郷・薬師の湯で汗を流し、長野経由で我孫子に戻った。

今回、武内リーダーのもと、ゆっくりの行程で憧れの山稜を楽しむことができました。

武内さんをはじめ、同行した皆さんに感謝です。楽しい思い出が増えました。

概念図





針ノ木雪渓を下る

概　　要

山名	岩小屋沢岳　～針ノ木岳　～蓮華岳			
月日	平成 27 年 7 月 30 日(木)～8 月 2 日(日)			
山域	北アルプス	地形図	1/25000 黒部湖	
形式	山小屋泊	グレード	3C	
目的	① 剣･立山の展望を楽しみながら稜線を歩く ② コマクサの群落 ③ 針ノ木雪渓を下る			
費用	40000 円	交通機関	夜行バス、ＪＲ	
日程	前夜	我孫子駅 20:34→竹橋 21:36/22:35(毎日アルペン号)→		
	一日目	談合坂 SA0:30/0:50 → 梓川 SA 2:45/3:00→七倉ダム 3:15→扇沢 BT 4:15/5:00⇒扇沢出合(柏原新道入口) 5:15 ⇒ ケルン 6:40/6:45 ⇒ 駅見岬 8:20/8:25⇒種池山荘 9:50/10:30（昼食⇒岩小屋沢岳 12:45/13:20⇒新越山荘 13:50(泊) <歩行時間：約 7 時間>		
	二日目	新越山荘 5:35⇒鳴沢岳 6:25/6:35⇒赤沢岳 7:40/8:00⇒スバリ岳 10:45/11:15⇒針ノ木岳 12:15/13:00⇒針ノ木小屋 13:55(泊) <歩行時間：約 6 時間 30 分>		
	三日目	針ノ木小屋 3:45⇒蓮華岳手前の丘 4:20/5:00（ご来光 4:52）⇒蓮華岳 5:15/5:30⇒針ノ木小屋 6:30/7:00⇒大雪渓出合 7:40/8:00(アイゼン装着)⇒大雪渓末端 8:50/9:00(アイゼン取り外し)⇒大沢小屋 9:30/10:00⇒扇沢 BT 11:25/11:30(バス）→大町温泉郷・薬師の湯 11:45/14:25(バス）→長野駅 15:50/16:50（あさま 660 号）→上野駅 18:30/18:54→我孫子駅 19:30 着 <歩行時間：約 5 時間 20 分>		
ルート状況	・柏原新道はよく整備され歩きやすいが、種池山荘間近の鉄砲坂あたりの急登は結構ハード。種池山荘で爺・鹿島槍方面への道を分けた後は登山者も少なくなり静かな山旅となる。 ・赤沢岳からスバリ岳への下山路は崩落が進んでおり、落石に気を付けながらルートを外さないよう注意が必要。 ・針ノ木大雪渓は、小屋から 1 時間程度下ったところからアイゼンを着用した。雪は腐っていてピッケルは不要。雪渓の末端、夏道に取り付く場所は、リボンを見落とさないよう注意。 ・大沢小屋から扇沢方面へ10分程歩くとこんこんとわき出る湧水があり、とても美味。			
参加者	武内(L)、北田、外崎 矢野貞、桐生、 瀬田、高橋冨　　男2名　女5名　計7名			

＜９１０＞

木曽駒ケ岳～宝剣岳

(2,956m)　　(2,931m)

矢野　裕子

美しいカールの木曽駒へ



千畳敷カール　お花畠を登る

待ち遠しかった木曽駒山行。私は新米リーダーだが、経験のある三人に参加していただき大変心強い。新宿からの高速バスを駒ケ根 IC で下車。そこから徒歩 1 分のはずの乗り換えに、私達は手こずった。表示もなく、道路の向こう側のバス停は大変判り辛かった。焦る間に数分が過ぎ、既に発車して後方から来るしらび平行き路線バスに、大きく手を振ってその場で乗せてもらった。やれやれ、有難い。

その後は、心配したロープウェイの混雑もなく順調に千畳敷まで上がってきた。ひんやりと冷たい空気。一気に 2,600m まで上がってきてしまった。目の前に広がる雄大なカールに感動。心躍る思いを抑えつつ昼食を終え登山開始。曇り時々晴れ。雲が取れた時は、直ぐ真上にそびえる宝剣岳が猛々しい姿を現す。真夏の青空と見渡す限りの花畑、そして多くの観光客が散策している。その中を私達は、矢澤さん先頭に隊をなして八丁坂を上り乗越浄土へ。白い花崗岩の岩肌と、あれもこれもと欲張って咲いている高山植物図鑑のような花たち。何と贅沢なひと時だろう。乗越浄土で一息ついて写真を撮り、見上げると宝剣岳の頂にすくっと立つ人影。すごい！怖くないのだろうか。

間もなく宝剣山荘着。手続きを済ませて皆サブザックで駒ヶ岳へ向かう。私は衣類等を抜いて軽くした大きいザックだった。ロープもラジオも持っていなくては。ルンルンの気分だった。この頃はるか遠くに、小さい雷鳴が 1～2 回聞こえた。駒ヶ岳まではなだらかなハイキングコースだった。山頂は残念ながら霧の中で、期待した御嶽山の展望もなかった。木曾側と伊那側、少し離れて二つの社があり、その両方に神妙に手を合わせた。

帰りは中岳巻道を選択した。慎重にスタート。ゆっくりと手の位置、足の位置を選びながら全員緊張して渡っていく。その岩場の陰にコマウスユキソウがひっそりと咲いているのがとても可憐で美しかった。私は岩を掴む手を離せず、見るのが精一杯の場所だった。しっかりと目に焼きつけておこうと思った。無事に危険個所を通過することができた。岩場のスリルに気分が高揚していたと思う。

3 時 10 分、宝剣山荘前に戻る。明日はロングルートの為、暗いうちから出発予定である。目の前の宝剣岳に、今日のうちに登ってみることになった。一人は止めておくということで、六人でそのまま勇んで出発。さすがの宝剣岳だった。先頭の貞子さんと後ろの大山さんが何度かルート確認しながら、岩の間を導いてくれた。緑色の案内ロープも張られていた。何人かはストックを岩陰に置いておいた。しっかりと岩を持ち、片足ずつ上げていった。おお、皆立派なクライマーだね、と大山さんが笑顔の掛け声。半ば頃ガスが出た。返って怖くないからいいかも、などとも言い合った。その直後ぽつぽつ小雨。この先はもう止めておこうと、逆順で下り開始。急に大降りになり、安全な場所で合羽の上着だけを素早く着た。「しっかりと鎖をもって、岩から体を離し、足元が見えるように！」大山さんの言葉通りに下降していった。

今回は残念ながら、この後下山することになった。またいつか、空木岳へもチャレンジしてみたいと思う。

千畳敷カール全景





稜線の浄土乗越が見えました

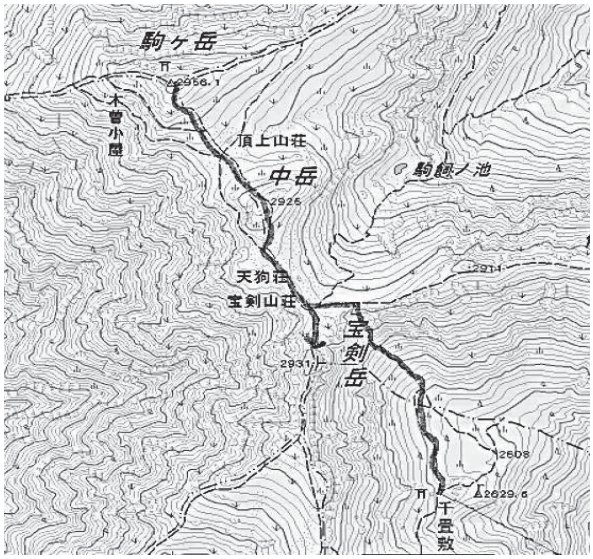


木曽駒ケ岳山頂にて



クルマユリ

概念図



概　　要

山名	木曽駒ヶ岳～宝剣岳		
月日	平成２７年８月６日（木）～７日（金）		
山域	中央アルプス	地形図 1/25000	木曽駒ヶ岳・空木岳
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	中央アルプスの展望と高山植物を楽しむ		
費用	約 35,000 円	交通機関	ＪＲ、高速バス、路線バス、ロープウェイ、タクシー

日程	1日目	我孫子 5:31→日暮里 6:01/6:04→新宿駅 6:25/7:00（西口高速バスターミナル）→中央道駒ヶ根 IC 10:30/10:37（バス:駒ケ岳ロープウェイ線）→しらび平 11:30 発（ロープウェイ）→千畳敷 11:40/12:30⇒浄土乗越 13:10⇒宝剣山荘 13:15/13:25⇒中岳 13:45⇒駒ヶ岳 14:10/14:30⇒宝剣山荘 15:10⇒（6 名）宝剣岳山頂手前 15:35⇒宝剣山荘 16:00（3 名）16:40（3 名）/17:15⇒千畳敷 18:00/18:10→しらび平 18:20→駒ケ根警察署 19:00/19:50→駒ケ根温泉ホテル ＜歩行時間　約 3 時間 45 分＞
	2日目	駒ケ根温泉ホテル 8:30→路線バス→駒ヶ根 IC（長野行高速バス乗換）9:25→松本 IC 10:25→タクシー→松本・相澤病院 11:00/12:00→松本 BT15:20→新宿 19:30→我孫子 21:00

ルート状況	・千畳敷～浄土乗越間は観光客の往来もあるのでよく整備されている。 ・宝剣山荘～中岳～木曽駒ヶ岳は部分的には急坂もあるが全体的には広い緩やかな道で、ロープが張られている。 ・中岳～宝剣山荘は「難所あり・注意」の捲き道を行く。１箇所スラブ状でホールド、スタンスの少ないところがあった。 ・宝剣岳はロープが張られているが、山頂下の鎖場、山頂直下のほんの数ﾒｰﾄﾙの部分が鎖もなく厳しい。
参加者	矢野裕(L)、矢澤（SL）、大山、矢野貞、本田、末永、石塚 男性 2 名、女性 5 名、計 7 名



シナノキンバイ

＜９１１＞

富士山
（3,776m）

武内　勇二

日本一高い山へ
馬返しから登る



須走り口　七合目

富士山にはこれまで3回登っているが、平成13年8月の岳人あびこ5周年記念山行で登ったのが一番新しい。その時は、富士吉田駅（今の富士山駅）から歩きはじめて7合目（富士一小屋）に一泊、翌日剣ヶ峰に登頂後、御殿場口新5合目に下山する1泊2日の行程だった。それから14年後の今回は、馬返しから歩き始めて5合目の佐藤小屋に一泊、翌日8合5勺（御来光館）で泊った後、3日目に剣ヶ峰を踏んで須走口新5合目に下山する計画。年齢相応のゆるゆる登山と判断して参加を決めた。

10時30分富士山駅前で馬返し行バス（ジャンボタクシーサイズ）に乗車、出発時は岳人あびこパーティ7名のみだったが、途中のバス停で1名の乗車客を拾って、11時前に馬返し（1430m）バス停に着いた。馬返しまで富士山駅から歩けば2時間はかかるので、かなり儲けた気分だった。

登山口の石の鳥居をくぐると禊所（みそぎしょ）、古来よりここから先は富士山の聖域とされ、登山する人はお祓いを受け、身を清めて登山を開始したという。鳥居の両側には狛犬ならぬ猿が合掌している石造がある。伝説で、富士山が一夜にして湧き出た年が庚申（かのえさる）であったことから、猿が神の使いとして崇められているとのこと。禊所からさほど時間もかからず1合目（1520m）に着く。

馬返から3合目までの登山道は土の斜面が多く、雨水や雪解け水による土の流出被害を食い止めようと登山道の各所に排水溝や浸透桝が設置されている。また、多くの人に踏まれて石の角が丸く磨かれている石畳も多く残り、道の両側のコメツガの大木と相まって歴史ある登山道の風格を漂わせている。2合目(1,700m)を過ぎて程なく噴火で流れ出た溶岩を跨ぐように橋が架かっている。3合目（1840m）は、江戸時代から2軒の茶屋があり三軒茶屋とよばれていた。麓から登ってきた人がちょうど昼食を食べるころにたどり着くため中食堂(ちゅうじきどう)とも呼ばれていたとのことである。茶屋は2軒とも今は廃屋になっている。我々もここで昼食休憩を取った。斜面の木が切り掃われており晴れた日には富士五湖方面の眺めが良いところであるが、あいにくの曇り空で眺めを楽しむことは出来なかった。

4合5勺(1,970m）の井上小屋は、今は営業していないが建物は残っている。5合目焼印所の看板が掛けられている。小屋の左手には、御座石と呼ばれる岩があり、信仰の対象となっている。岩には『日本橋』の文字が刻まれていた。登山道は、登るにつれて岩が多くなり、中宮と呼ばれ今は廃墟となっている四軒の山小屋跡を通過すると突然、舗装された林道に出た。林道を数分歩いてまた登山道に戻り、再び林道に出ると5合目標柱があった。なぜか標高は2,305mとなっているが、このすぐ上の佐藤小屋が標高2,230mということなので？？？。

標柱の場所から少し登ると、本日のゴール、佐藤小屋に到着。テキパキ・チャキチャキの女将さんが迎えてくれた。オウムのピーコもうるさいほどに歓迎してくれた。佐藤小屋は今年100周年を迎えた歴史ある小屋だが、富士スバルラインの登山口から外れているため、静かな山小屋の雰囲気を楽しめる。ただ、今夜は、高尾山薬王院（真言宗智山派の大本山）の富士登拝修行一行が佐藤小屋に宿泊予定とのことだった。小屋の前での夕食（バーベキュー）中、「ブォー」というほら貝の音とリズミカルな「六根清浄」の掛け声とともに山伏姿の一行が小屋を通過していった。六根（眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根）は人間の認識の根幹で、正しい行いのため我欲などの執着を断ち、心を清らかな状態（清浄）に保ちたいとの唱えで、

山登りの掛け声として使われたという。「どっこいしょ」の語源との俗説があるがさてどうだろうか。夕食後小屋のストーブを囲んで寛いでいるとき、一行が戻ってきた。明日は8合目に泊まりその後登頂するとのことである。

素晴らしい天気で朝を迎えた。5時15分日の出。今日の早立ちに備え、昨夜のうちに作っておいて貰った弁当を小屋で頂く。女将さんは暖かい味噌汁とお茶を用意してくれた。小屋前で 2230m（フジサン）の標識板を持って記念撮影の後出発。佐藤小屋のすぐ上に、里見平・星観荘があり、星観荘から6合目の間に、日蓮上人が『法華経』を埋経したといわれる経ヶ岳がある。八角のお堂（常唱殿）と、日蓮上人が説法を行っている銅像が建っている。ここから少し進むと姥ヶ懐入口の石碑がある。踏み跡を辿ると少し下に日蓮上人が 100 日間の修行を行ったという洞窟があるそうだ。6合目の手前で山頂までの展望が一気に開けた。

6合目（2390m）安全指導センターで富士山保全協力料1000円を払う。富士スバルラインから来る登山道と合流するので、ここから登山者が多くなる。擁壁と落石防止の石堤の殺風景な風景となり、土留めの板が階段状に組まれた坂を登って行く。

7合目（2700m）から急傾斜の岩場を断続的に登る。7合目から8合目まで一気には登りきれず、花小屋、トモエ館、富士一館の3軒の軒先を借りて休憩を繰り返した。前回、富士吉田駅から7合目の富士一館まで1日で登っているのに比べ、何ともゆったりしたペースなので助かる。

8合目大子館（3100m）で休憩中に小雨が降り出し、雨具を付けての登山となった。岩場は終わったが、砕けた溶岩にザクザクと足を取られ歩きにくい。本8合目（3400m）を過ぎても滑りやすい急傾斜の道が続くが、ゴールの御来光館が間近に見えるので頑張って歩いた。昼過ぎ、御来光館に到着。雨具、ザックの水を拭い、寝床として狭いカイコ棚を割り当てられた。「もっと広く使わせてくれないか」とお願いしたが、「夕方にかけてどっと来るから」と一蹴された。

夕方に雨が激しくなり、更に夜半から早朝にかけ益々風雨の激しさが増した。小屋出口から30 メートル先の野外のトイレに行くのに備え付けの傘もなく、なんとも気配りが無い。尤も傘があっても激しい雨風でビショ濡れになるのは必定だった。ギリギリまで我慢したものの辛抱たまらず、持参の折りたたみ傘を差して外に出たが、予想通りビショ濡れとなった。乾かす手立てもなくそのまま布団に潜り込んだ。山小屋としては改善すべき点だと思う。



富士山歴史の道

朝になっても風雨は止まず、天気図で前線通過中を確認、ＣＬの村松さんは登頂断念の決断を下した。富士山は初めての人が3人おり、あと残すところ 300ｍでの撤退は残念だったに違いないが、天気には勝てない。朝食の弁当を小屋で済ませ、6時45分下山開始。本八合目下江戸館で吉田ルートと別れ、須走ルートを下る。雨は落ちてはいるものの風は弱くなり、ザクザク道ではあるがよく踏まれているので、それ程難渋しなかった。逆に、雨で湿っているので砂埃が立たず、快適に思えた。雲が切れ、時折青空が覗くが頂上付近は相変わらず雲に覆われていた。

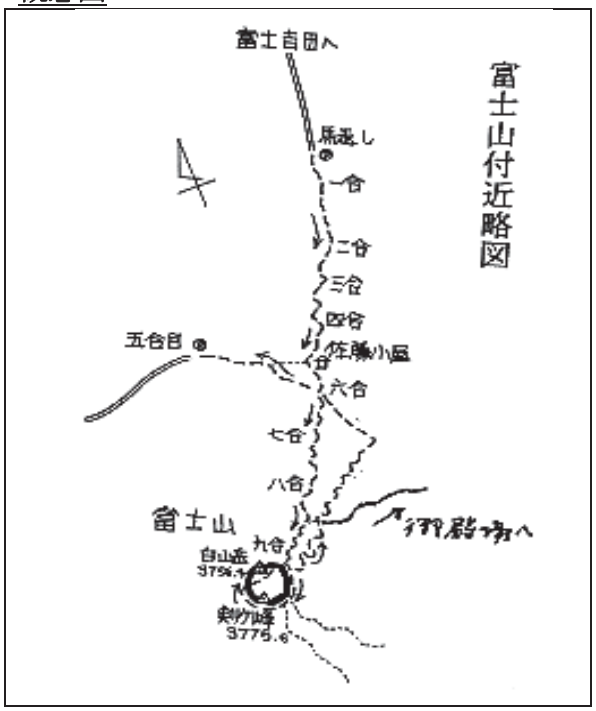
7合目太陽館を過ぎ10分ほど緩く下った後、愈々大砂走りの急な下りとなる。残雪期の腐った雪渓を下る要領でかかとに重心をかけ滑るように下る。最初は楽しかったが、延々と続くので、だんだんと飽きてくる。途中で外人 3人組に追い越された。御来光館に泊まり、風雨の中を5時に小屋を出て頂上に登ったが、風が強く吹き飛ばされそうになったとのことだった。

1時間ほどで砂払い5合に到着、さらに30分ほどで須走コース新5合目に着いた。土産屋東富士荘の女将さんの好意で、天恵の湯まで車で送って貰った。汗を流した後に、バスで富士山駅に戻り、富士急、ＪＲと乗り継いで7時前には我孫子に帰着できた。頂上には到達できなかったが、世界文化遺産の富士信仰登山の歴史を楽しんだ3日間だった。

概　要

山名		富士山　8合5勺		
月日		平成 27 年 8 月 24 日～8 月 26 日		
山域		富士国定公園	地形図	1/25000　富士山、須走
形式		山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的		・日本一高い山に下（馬返し）から登る。 ・冬の富士登山に欠かせない山小屋、佐藤小屋に泊る。		
費用		25000 円	交通機関	JR,富士急、バス
日程	1日目	我孫子駅 6:57→新松戸駅→西国分寺駅→高尾駅 8:46→大月駅 9:22/9:33→富士山駅 10:21/10:30（バス）→馬返し 10:55/11:10 ⇒3合目(三軒茶屋)12:25/12:40 昼食⇒5合目佐藤小屋(2,230m)14:00　（泊り） ＜歩行時間 2 時間 45 分＞		
	2日目	佐藤小屋 6:00⇒経ヶ岳 6:15/6:25⇒6 合目（登山安全指導センター）6:45⇒7 合目(花小屋)8:00⇒トモエ館、鎌岩館、富士一館、本 7 合目、東洋館を経て 8 合目（太子館、3100m）10:30⇒蓬来館、白雲荘、元祖室（(3,250ｍ）を経て富士山ホテル第一（3,350m）12:10/12:20⇒8 合 5 勺（御来光館、3,450m）12:30（泊り） ＜歩行時間 6 時間＞		
	3日目	御来光館 6:45⇒8 合目須走ルート分岐点 7:00⇒7 合目（太陽館、3090m）⇒砂払い 9:15⇒須走口 5 合目 10:00/10:15(ワゴン車)→天恵温泉 10:20/13:04（富士急バス）→富士山駅 14:00/14:35→大月駅→高尾駅→西国分寺駅→我孫子駅 18:40 ＜歩行時間 6 時間＞		
ルート状況		･夏のシーズン(7 月～8 月)には富士山駅(旧富士吉田駅)から馬返し迄バス(マイクロバス)が運行されているので便利(料金 500 円) ･各ルート共登山道及び標識とも整備されている。(コース毎に標識の色が違う) 但し、7 合目以降は岩場が現れ、慎重な登下降が必要です。 ･各山小屋ともトイレは整備されて、清潔になっていた。200 円の利用料金なので小銭の準備が必要。 ･昨年から任意だが登山者には、各登山口にて富士山保全協力金(1,000 円)と云う名で募金されている。我々も応じてバッヂと小冊子を頂いた。		
参加者		村松(L)、外崎(SL)、武内、坂巻、室崎、小島、塩原 男 4 名　女 3 名　計 7 名		

概念図



御座岩





富士嶽神社　↓



＜９１２＞

七面山　・　八紘嶺

（1,982m）　（1,918m）

外崎　蓮

宿坊・敬慎院に泊まる

七面山は山梨県の西部に聳える南アルプス前衛の山々の一つである。当会の５周年記念山行の際、富士周辺の山の一山に選ばれて、４名の会員が登ったのを記憶している。ただ、七面山が他の山と違う点は、法華経の聖地で、七面大明神の棲まわれる霊山であること。すぐ近くの身延山の西方裏鬼門に位置し、法華経の根本道場を守護する山だという。（七面山登詣のしおりより）それはともかく、細野さんが報告してくれたロール布団とはどんなものか、宿坊とはどんな所なのか、一度は訪れてみたいものだとずうっと思い続けてきた。動機の不純な私たちを大明神さま、どうかお許しあれ。

一行は中央線、身延線、ジャンボタクシーと乗り継いで、七面山登山口の角瀬に 10 時過ぎに着いた。ここは裏参道の入口で、登山者はこちらから登り、白装束の信者たちは、少し先の白糸の滝のある表参道から登っていくと運転手が教えてくれた。

角瀬は標高 320m、敬慎院は 1700mに建っているので、差し引き 1380mも登ることになる。神通坊の境内を抜け、赤い鳥居をくぐると、整備された裏参道の登りが始まる。所々に屋根付きの台があり、蛭退治用の塩水の入ったポリ容器が置かれてあった。蛭は鹿が運んできたものであろう。幸い誰も食いつかれなかった。1000mに建つ安住坊でお昼にする。宿泊者がいないのか雨戸が閉まったままだ。家主が留守の間に、艶やかな栗色の肌をした栃の実がそこかしこに落ちている。7～8 人が抱きついてやっと手が結べる見事な栃の木は、その昔、日朗上人のお手植えと謂われ、山梨県の天然記念物に指定されている。登り一辺倒からようやく解放されて奥の院に着いた。お参りより先に休憩所になだれ込み、参拝客のために用意されてある麦茶を何杯も頂いた。休憩所の脇に巨大な石（ようごう石）があり、この石に七面大明神さまが現れたのだそうだ。しめ縄が張られてあった。この先の敬慎院までは、ここが山上とは思えないりっぱな車道を行く。作業用のトラックが走っていて驚いた。どうやって山上に上げたのだろう。あとで聞くところによると、部品を解体して運び上げ、改めて組み立てたものらしい。

敬慎院の門をくぐった途端、鮮やかな白装束の集団が目に飛び込んできた。咄嗟のことで思わずたじろいだ。このような神聖な場所に、我々のような俗人が来てもいいのだろうか。勇気を出して社務所で名を告げると、上り口の板の間にお坊さんや半纏を着た雑用係風の男の人ばかりが 10 人ほども出てきて、にこやかに出迎えてくれた。通された部屋は 30 畳はあろうか。他にも廊下で仕切られた同じような広さの部屋が幾つもあって迷子になりそうだ。三方が障子戸の割には薄暗く、どこか落ち着かない。直ぐにお風呂を勧められた。一どきに大勢の人が入浴する広さはあるが、10 枚ほどの分厚い板の蓋が水気を吸って余計重くなっている。女性陣は二人で一組になり、２枚だけ動かして隅の方で温まった。石鹸は使えないが、山上で入浴ができるとは有難いことである。部屋に戻ると、すでに入浴を済ませた男性陣は輪になって、持参したウイスキーをあけていた。売店も自販機もないが、飲酒禁止の張り紙は見当たらない。時刻通り５時になると、部屋に９人分のお膳と電気釜と味噌汁の入った手桶が運ばれてきた。手桶は湯殿で湯を汲むアレと同じ物である。皆は目の前のお膳に唖然とした。これだけのおかずでご飯が食べられるのだろうか？いわゆる精進料理だが、メインは煮物で、人参、大根、ゴボウ、高野豆腐が一切れずつ。それに小鉢に盛られたひじきの煮物と刻んだたくあん少々。ご飯の前に杯で一杯ずつ日本酒が配られた。向き合って食事が始まった。煮物をちょっとかじってはご飯を食べる。これまで人参を舐めるように味わって食べたことがあったろうか。ごぼうがこんなに美味しいとは。一口で食べるところを少量ずつかじって、全員ご飯と味噌汁をお代わりして、（こんなこともあろうかと、先を読める大畠さんの持参したふりかけに飛びついたことは言うまでもない）電気釜と手桶を空にした。質素でも心を込めて大事に食べることの大切さを教えてもらった。

夕食後、遥拝所に上がってみた。信者が御来光を拝む場所である。夕焼け空に向かって明日も晴れますようにと祈った。遥拝所から石段を下った真正面の本堂は、七面造りといわれる重厚な建築様式で、重なり合った屋根がなんとも

重そうだ。昼間出会った信者たちがお経をあげていた。６時半になると放送が流れて、今度は宿泊者が本堂に集められた。20 人ほどだが、団扇太鼓をたたいて皆で南無妙法蓮華経を唱えた。恰幅のいい上人様は一人ひとりの名前を読み上げ、御祈祷をしてくれた。勤行は８時過ぎまで続いた。部屋に戻ると、名物の巻き布団が敷かれてあった。その上に同じサイズの掛布団がのっている。この間に何人でも寝られるという合理的な布団に感心した。布団を片付けるときも、くるくると転がせばいいのだから楽である。細野さんの時から同じ布団だったらどうしようと気になったが、どんなに汚れていようと一夜の宿として有難いことである。

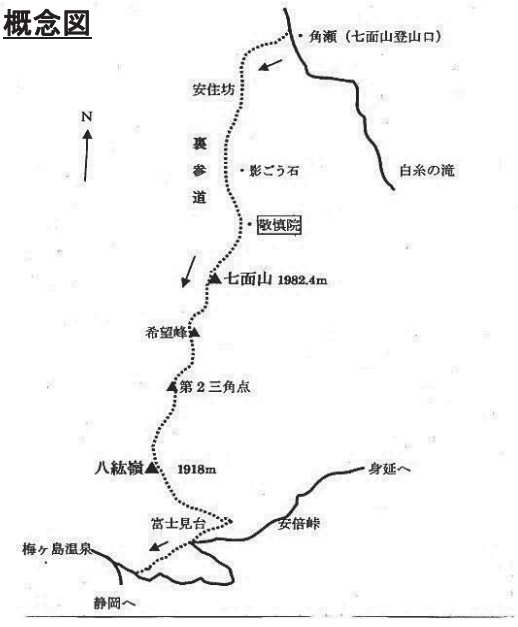


七面山頂上

朝食の時間が遅いので、おにぎりを作ってもらうことにした。支度を整えて社務所に出ていくと、あちこちからお坊さんや雑用係の人たちが集まってきた。「笹は二、三日前に刈っておきましたよ」「ピンクのリボンを見落とさないように」「気を付けてお帰り下さい」等など、大勢の人と温かい言葉に見送られて時間通り５時に出発した。石段を上がっていくと、遥拝所は白一色の信者で埋め尽くされ、霊峰富士に向かって一斉に祈りを捧げていた。日の出が近づくにつれ、読経はさらに大きく絶叫へと変わっていくようだ。はじき出されたように私たちはその場を離れ、七面山に向かった。途中、樹間から赤い空が見えた。先ほどの喧騒が嘘のように七面山は静まり返っていた。周りの木々が育ちすぎて、今や方位盤は役目を果たせなくなっていた。山頂は思いのほか平坦で、三角点のそばでおにぎりを食べる。この山は女人禁制であったが、お万の方（徳川家康公の側室）が白糸の滝で身を浄め、女性として初めて登って女人禁制が解かれたと伝わる。七面山の先の喜望峰は西側が開け、南アルプスの山々がすぐそこに見えた。コース中で一番の展望台かも知れない。登山道はきれいに笹が刈られてあった。南ア前衛の山域らしい黒木の原生林の中に、ダケカンバやブナ、カラマツの明るい林が登場すると思わず足も軽くなる。ピンクのリボンに守られて、無事に八紘嶺に着いた頃には空がどんよりと重くなってきた。梅ヶ島温泉まで何とか持ってほしい。八紘嶺を下った先のガレ場で、はじめて５人の登山者に出会った。彼らは車を下に置き、八紘嶺を往復すると言った。このスタイルが一般的のようだ。七面山もガイドブックを見ると、表参道を登って裏参道を下るコースが紹介されている。富士見台に下ったあたりから雨が降り出した。車道に下り、足早に梅ヶ島温泉に駆け込む。予定時間よりかなり早く着くことが出来た。番頭さんが温泉の隣の休憩所をあけてくれたので、静岡行きのバスを待つ間、入浴したり、濡れたものを始末するなどしてゆっくり過ごした。ところが旅の騒ぎはまだ終わらず、梅ヶ島温泉から乗ったバスは新静岡駅前に止まったのだ。東海道新幹線はここには止まらないのだ。駅前は人でごった返し、静岡駅がどこにあるのか余計わからない。近くの若い女性に聞くと、丁度そちらに行くところだから着いてきてと言われた。反対方向を歩き出した数人を大声で呼び止め、皆で彼女の後を着いて行った。こうして無事に新幹線におさまり、ハラハラドキドキの旅に終止符を打った。

余談だが、仙台に行った折り、慕っていた叔母の墓参りをした。それまで気付かなかったが、お寺の門には正式な名で七面山妙音院と書かれてあった。

概念図



概　要

山名	七面山・八紘嶺			
月日	平成 27 年 9 月 5 日(土)～9 月 6 日(日)			
山域	南ア前衛	地形図	1/25000　身延・七面山・梅ケ島	
形式	宿坊泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B	
目的	宿坊に泊まり、山岳信仰に触れる。 ロール状の布団に寝てみる			
費用	20,000 円	交通機関	JR,タクシー,バス	
日程	1日目	我孫子駅 5:31→新宿駅 6:48/7:00（あずさ 1 号）→甲府駅 8:28/8:44（特急ワイドビューふじかわ 4 号）→下部温泉駅 9:26/9:50 タクシー）→角瀬・神通坊（七面山登山口）10:00⇒敬慎院 15:20 着　（宿坊泊） ＜行動時間 : 約 5 時間 00 分＞		
	2日目	敬慎院 5:00⇒七面山 5:55/6:10（朝食）⇒喜望峰 6:30/6:35⇒第 2 三角点 7:30/7:40⇒インクライン跡 8:20⇒八紘嶺 9:20/9:40⇒富士見台 10:30⇒安倍峠分岐 10:40⇒林道出合 11:00⇒八紘嶺登山口 11:40⇒梅ヶ島温泉ホテル 11:45（入浴と休憩）/13:25（バス）→新静岡駅 15:15⇒静岡駅 15:25/15:52（新幹線こだま 660 号）→品川駅 17:12/17:22→我孫子駅 18：10 着 ＜行動時間：約 6 時間 45 分＞		



八紘峰頂　↑　　栃の木の大きさを人で実測　↓



ルート状況	角瀬⇒敬慎院（裏参道） ・裏参道は静かな上、よく整備されていて歩きやすい。信者のほとんどは表参道を登る。 ・七面山登山口の神通坊は標高 320m、敬慎院は 1700ｍにある。登山道沿いの立て札・丁目の案内が、登り一辺倒のつらさを癒してくれる。 ・1000ｍに建つ安住坊には見事な大トチの木がある。 ・1660ｍに建つ奥の院には、巨岩の影ごう石がある。奥の院は 40 丁目。 ・敬慎院は、奥の院から更に平坦な広い道を約 20 分歩く。ここが最終の 50 丁目。 敬慎院⇒七面山 ・本社の前の石段を上り、随身門をくぐった広場が御来光遥拝所で 49 丁目。七面山へは遥拝所のわきから登る。 ・登りがきつくなった頃、左手の樹林がきれて大崩落地のわきを通過するようになるが、登山道には影響がない。 ・七面山の広い山頂には三角点と方位盤があるが、周りの樹木が育ちすぎて展望はなし。 七面山⇒八紘嶺⇒梅ヶ島温泉 ・七面山から八紘嶺までは笹が刈り払われ、次々に目印赤テープが取り付けられてある。分岐には表示板もあって安心して歩ける。だが、樹林の中は薄暗いので、雨の日などは赤テープを見落とさないようにすること。 ・1980ｍの喜望峰は西側が開け、南アルプスの山々が間近に見渡せる。コース中で一番の展望台。 ・ｲﾝｸﾗｲﾝ跡には伐採した材木を搬出する鉄製の装置の残がいが放置されている。 ・1918ｍの八紘嶺も南アの展望台。まわりの木々が少しうるさいが。 ・1881ｍのピークを 50ｍほど下ったあたりからガレ場の急な下りになる。本コース中の　要注意個所。ザレに足を取られると、右下の安倍川本谷に落ちる危険がある。（山側に　ロープが張られてある） ・八紘嶺と安倍峠を結ぶ尾根に出たところが富士見台。富士見台から南下すると、安倍峠方面に通じる林道に出る。林道を少し下った右手に山道があり、この分岐に入山届出のボックスがある。 ・梅ヶ島温泉へはこの山道を 40 分ほど下る。
参加者	外崎(L)、村松(SL)、竹内、北川、大畠、 矢野貞、室崎、北田、小島 男 5 名　女 4 名　計 9 名

＜９１３＞

宝篋山
（461m）

箕輪　カオル

筑波山に並ぶ
地元の山に親しむ

９月２０日（日）晴れ

我孫子駅北口に６時集合し、１１名が乗用車３台に分散して乗車。宝篋山の登山口である小田休憩所に予定どおりに到着。早朝ということもあり、駐車場は余裕があった。休憩所で、お手洗いを済まして極楽寺コースを行く。駐車場のコスモスが咲きはじめ、見ごろはこれからというところであった。周辺の田んぼは、電機柵で張りめぐらされて、猪対策が講じられていた。極楽寺コースの登り始めに慈悲の滝があり、五条の滝、白滝、こころの滝、葵の滝とどれも小さい滝の流れではあるが残暑の候としては水音はとても心地よい。

特に白滝周辺が整備されとてもきれいな滝となっていた。また葵の滝近辺には太郎こぶしの木が立つ。早春には見事な開花となることだろう。富士山が見えるという富士見平、今回は見ることが出来ず富士の方向を見ながら通過した。この地点からほどなくして、このコース一番の急登を１０分ほど登る。そしてなだらかな道に戻る。富士山に見立てた大岩を過ぎると間もなくバイオトイレの設置場所となる。他のコースとの合流地点でもある。ここまで来れば頂上はもうすぐである。頂上からの筑波山が堂々として見える。眼下には、つくば市、土浦市、また霞ヶ浦方面が望まれる。宝篋山頂では30 分ほどおやつを食べながら歓談した。

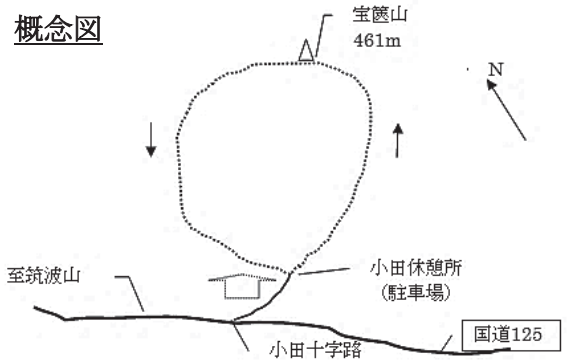
帰路は小田城コースを下る。このコースは滝とは無縁で緑いっぱいの林を抜ける。途中、下浅間神社があり見晴台ともなっている。その昔は、女性は山頂を踏めなかったそうで、女性はここで引き返したという説明がある。足もとに、まっ赤なきれいなたまご茸が一つお供えのように生えていた。食べられる茸らしい。桐生さんがみやげに持ち帰った。七曲り坂、硯石、堂平、中世の道を通り小田休憩所へと戻る。

帰路の途中、牛久沼の近くにある筑波レイクサイドホテルにたちより、入浴とランチをとり、我孫子へと帰った。天気に恵まれ、また筑波山に並ぶ地元の山として初参加のひともいて、よい山行となった。皆さんに感謝します。



宝篋山 （後方に筑波山）

概念図





宝篋山頂にてお楽しみ（後方は霞ヶ浦）



アケビ



タマゴダケ

概　　要

山名	宝篋山		
月日	平成２５年９月２０日(日)		
山域	茨城南	地形図	1/25000 筑波・八郷
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	地元の山に親しむ。秋の山行への準備		
費用	1,000円	交通機関	自家用車（3台）
日程	我孫子駅北口 5：58→小田休憩所 7:05/7:25 ⇒ 五輪塔 7:40 ⇒ 慈悲滝 7:45 ⇒ 白滝 8:00/8:10⇒こぶしの森展望所 8:40/8:46⇒宝篋山 9:01/9:35⇒バイオトイレ 8:39⇒下浅間神社展望所 9:58/10:05⇒船が城跡 10:45/10:55⇒小田休憩所 11:10/11:25 →レークサイド筑波 12:25/14:20→我孫子駅北口 15:17		
ﾙｰﾄ状況	整備されたコースで、ハイキングを楽しむには良いと思う。		
参加者	箕輪完(L)、本田(SL)、高橋芳、箕輪カ桐生、中村育、矢野裕、室崎、北田、高橋富、藤家		



下浅間神社展望所より実りの秋を



白滝前にて

＜９１４＞

北奥千丈岳～金峰山

（2,601m）　（2,599m）

新谷　直恵

北奥千丈岳からの紅葉の眺望と金峰山山頂にてご来光を迎える

塩山からジャンボタクシーで大弛峠まで行き、そこから夢の庭園を通って前国師岳、北奥千丈岳まで登る。といっても大弛峠はすでに標高2300メートルとあって、奥秩父最高峰2,601メートルの北奥千丈岳まで登ったかと思うと下り、また登り返していくうちにあっというまに頂上へ。心配したお天気もガスが晴れ、照葉樹林の紅葉が始まり、緑とのコントラストが目に美しい。別の道を通って大弛峠に戻り、朝日峠を目指す。朝日岳への道はやがて急登になるがここが頂上かと思えば、さらに道は続き、朝日岳の頂上とおぼしきポイントへ。賽の河原からはゴロゴロした岩が続き、巨大な岩に足を下ろすポイント探りながら目的の金峰山の頂に到着。時間はすでに16時10分前とあって、記念撮影後急いで山の北斜面に建つ金峰山小屋へと急ぐ。日は急速に傾き、大岩の続く斜面を道を探しながら降りた。小屋の前にとぐろ巻いた龍を思わせる大岩が目印のように鎮座していて、その奥に建つ小屋は清潔でじつに気持ちのよい佇まい。ストーブを囲むようにして敷かれた畳にちゃぶ台が３つ置かれている。ビールを買い求めて乾杯しながら今日歩いた変化に富んだ道を振り返る。大皿で出された夕食はご飯の上にチキンソテー、マッシュポテト、野菜サラダ、メロンになんと白ワインが付いていた。なんともオシャレで美味しい夕食に感激。窓の外、流れの速いガスの合間にスーパームーンが臨めた。

朝食はおかゆに佃煮や梅干しなど小皿が並ぶ。温かいおかゆに箸が進む。朝食前、山頂でご来光を拝むため５時に小屋を出た。５時25分の日の出は、厚い雲が滞留していたので少し遅れたが、紫色の空が赤るみ、やがて太陽が現れた。その右には雲の上から見事な富士山のシルエットに心洗われる。朝食のために再び小屋に戻り、朝食後再び登り返して五丈岩を仰ぎ見る。ここは古来、月山、大峰山と並ぶ山岳信仰

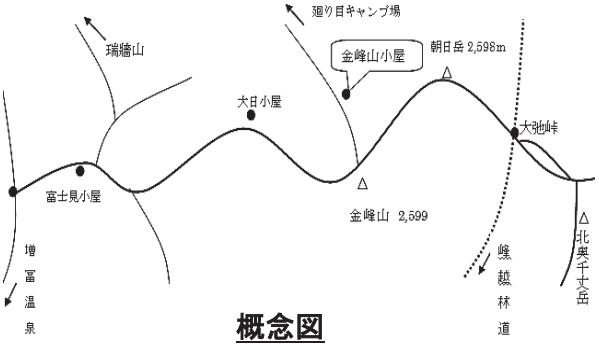
の聖地であり、巨大な石組でできた五丈岩はそのシンボルでもある。左右一望できる岩の稜線を越えて行く道はスリル満点。話し合いの結果、瑞牆山往復はとりやめ、ゆっくり秋の金峰山を楽しむことになったので、途中見晴らしのいいところでコーヒータイムをとった。お湯を沸かしていただくコーヒーは格別で、また女性ばかり５人の山行ということもあって優雅なひとときを持てた。そこから大日岩までは岩をまたぎながらの急な斜面をひたすら下山。巨大な傘のような大日岩で一休みし、富士見平までは１時間 40 分、そこから瑞牆山荘までは約１時間。最後の斜面で道を見失い、ただ降りてはいけるが谷は道を間違いやすいこともあり、一旦見失ったところまで戻ったため、バスの時間にギリギリであった。バスを途中下車して増富温泉で汗を流しながら疲労した足をゆっくり伸ばした。



北奥千丈岳山頂



金峰山山頂より日の出を見る



概念図

概　　要

山名	北奥千丈岳～金峰山		
月日	平成 27 年 9 月 27 日～9 月 28 日		
山域	奥秩父	地形図 1/25000	金峰山・瑞牆山
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	奥秩父の最高峰、北奥千丈岳からの奥秩父紅葉の眺望と金峰山山頂にてご来光を迎え眺望を楽しむ。		
費用	21,400(ミドル) 19500(ジパング)	交通機関	JR、バス、タクシー
日程 1日目	我孫子 5:34→新松戸 5:47→西国分寺 6:49→高尾 7:25→塩山 8:44→大弛峠 10:00/10:15⇒夢の庭園 10:30⇒前国師岳 10:50⇒北奥千丈岳 11:30⇒大弛峠 12:10/12:50⇒朝日峠 13:30⇒朝日岳 14:20⇒賽の河原 15:25⇒金峰山 15:50/16:00⇒金峰山小屋 16:20（泊） ＜歩行時間 4時間 30 分＞		
日程 2日目	金峰山小屋 5:00⇒金峰山山頂 5:30/5:45⇒金峰山小屋 6:05/7:05⇒五丈岩 7:30⇒大日岩 10:00 ⇒ 富士見 11:40 ⇒ 瑞牆山荘 12:45/12:55→増冨の湯 13:10/15:00→韮崎駅 16:00/16:23(スーパーあずさ)→新宿→東京→我孫子 19:07 ＜歩行時間 5 時間 30 分＞		
ルート状況	・土日は塩山駅からバスが出ているが我孫子からの電車の時間に間に合わない。 ・大弛小屋から北奥千丈岳へは、木道や階段が整備されていて歩きやすかった。 ・金峰山山頂直下の岩には目印が少ないと思った。		
参加者	齊田(L)、外崎(SL)、本田、新谷、村越 男０名　女　５名　計　５名		





↑金峰山山頂にて
←色づくナナカマド

＜９１５＞

南八ヶ岳縦走
（赤岳～横岳～硫黄岳）

（2,899m）（2,829m）(2,760m）

高橋　芳恵

八ヶ岳の紅葉を訪ねて

1日目

6 月の八ヶ岳の素晴らしさを教えてくれた亡きＳさんと辿った八ヶ岳のコースを今回は秋訪れた。同行いただいたのはいずれも健脚メンバーの 6 名で心強い限りだった。

美濃戸口には予定より早い 9:35 に到着し、美濃戸山荘に向かったが自家用車の多さにはいささかうんざりした。今まで気が付かなかったが美濃戸にこれほどの駐車場があったのか？日曜日でもあり、山から下りてくる人の車が満車であった。美濃戸山荘で軽く行動食を食べ南沢コースを回り行者小屋を目指した。本日は行者小屋からさらに 2 時間半をかけ赤岳頂上に向かうため「行者小屋を遅くとも 14 時には出発したい」とメンバーに伝え先頭を変わりながら時間配分をお願いした。道も次第に勾配のきつい上りに変わり呼吸を整えながら進むと川の流れがなくなり、そのうち枯れ沢となって広い河原に出た。このあたりが白河原であり、ここでもしばらく休息、行動食を摂った。「行者小屋はもうすぐ」と声をかけながら「今夜は行者小屋で十分だな」と内心思う頃到着した。目の前の赤岳、横岳の展望と勇姿に圧倒された。「これからあんなに遠くまで登るの？」と誰もが考えたと思うほど大きな、大きな赤岳であった。

稜線には水がないため行者小屋で水を補給し、さっそく文三郎尾根に取りついた。
阿弥陀分岐で道を分かれると、階段が始まり、上へ上へと続いている。中には足をかけるのが大変な高さの階段があり、足がつりやすい条件である。早速、異状が現れたメンバーには早めに薬を服用してもらい万全を期した。途中引き返すこともできないこのコースのため、頂上まではゆっくりと登ることをメンバーに伝え、休みを入れながら赤岳山頂に到着した時はうれしかった。ご褒美にブロッケン現象が現れ、二重に感激した。

赤岳頂上山荘はまさに頂上直下にあり、小屋の中からも展望が楽しめ、清潔でなかなか心地よい小屋である。若い管理人さんらしく、小屋内にＢＧＭが流れているのもよい雰囲気である。上りに時間がかかったためすぐ食事となった。食後は楽しい話題で大いに盛り上がり、大笑いして腹筋運動にもなった。



赤岳頂上

2日目

小屋に問い合わせた時には 6 時と言われた朝食が 5 時には準備され、天気が良ければご来光を見るため再度登頂をと考えたが、あいにく霧がかかっており展望が全くない。

出発を 6 時と決め、食後のお茶を楽しんだ。なかなか取れないティータイムであるが。昨日から小刻みな休憩を繰り返していたので朝のゆっくりタイムは有難かった。

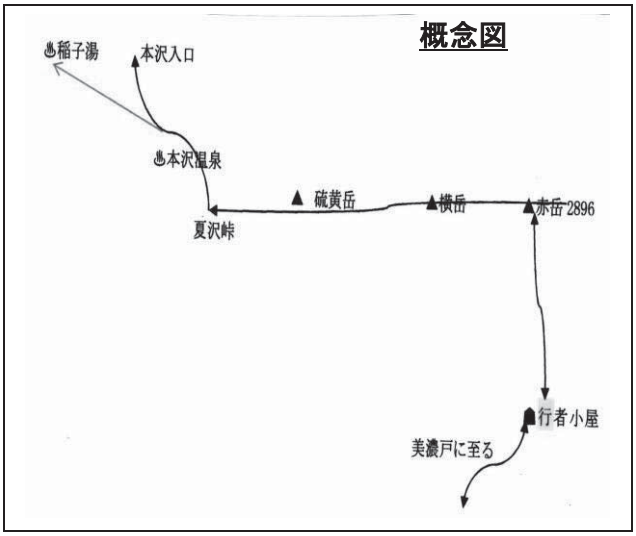
霧の中ではあるが視界ははっきりしており、岩稜トレールはしっかりしているため心配なく進むことができた。山頂から赤岳展望荘の間に 6 月は様々な高山植物が咲き、白馬にしかないといわれるウルップ草も咲いており今度は是非皆さんに見せたいと思った。

展望荘を過ぎ地蔵ノ頭を通り、横岳に向かう岩稜帯は今日の一番のスリルを楽しめる個所でもあり、十分気を付けなければならない所である。以前ではかなりの風で耐風姿勢を取って風を過ごしたが今回はさほどの寒さはなく、風も通常でよい条件といえる。ただ眺望が時折霧の間から眺める程度であるのが惜しまれる。程なく三叉峰、横岳頂上となり、何とか今日のメインを終えた。8 : 45 硫黄岳山荘に到着しトイレ休憩を取った。この小屋はかなり以前からウオッシュレットのついたトイレと従業員の接遇がよく私の好きな小屋であるが、何よりも皇

太子が浩宮時代に泊まったことが大きい。他には権現小屋にもお泊りになったとのこと。今回は外からの登山者が使用しやすいようトイレが増設してあった。
硫黄岳の上りも霧の中であったが、これで縦走コースの３山は達成した。

硫黄岳からは夏沢峠に向かい、一挙に天候がよくなり、視界が開けた。美しい紅葉に思わず声が上がった。夏沢峠から本沢温泉の道は唐松の紅葉が楽しめ、硫黄泉の匂いがして露天風呂が近いことが分かった。一番紅葉の良い地点で昼食とした。昨日テレビの「グレートトラバース」を見ていたら、有名な田中陽希君が天狗岳からの下山時、転倒ねんざし、本沢温泉で６日間停滞したとのことだったが、プロでもアクシデントあることで田中君をさらに身近に感じた。今回私の計画では本沢温泉から本沢入口としてその通り実行したが、景観的にはミドリ池を選ぶべきと反省している。但し、この後、メンバーの１名の持病が悪化し、近くの病院に向かうことになり、この点では計画の本沢入口コースを取ったのは正解であった。しかし稲子湯を利用するためには不便であり、旅館から車を出してもらって何とか予定通りの時間に入浴、反省会を行うことができた。

概念図





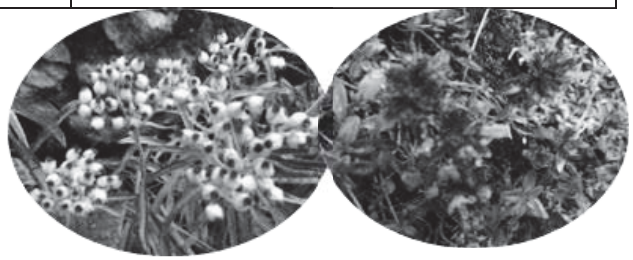
岩場　クサリあり



頂上小屋で見るブロッケン

概　　要

山名	南八ヶ岳縦走（赤岳～横岳～硫黄岳）		
月日	平成 27 年 10 月 4 日(日)～10 月 5 日(月)		
山域	八ヶ岳南部	地形図	1/25000 八ヶ岳西武・東部
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３C
目的	紅葉の八ヶ岳を縦走する		
費用	20,000 円	交通機関	JR(特急)タクシー
日程 1日目	我孫子 5:31→日暮里→新宿 7:00（特急あずさ）→茅野 9:07→（タクシー）美濃戸口 9:35/50⇒美濃戸山荘 10:50/11:10⇒白河原 13:30⇒行者小屋 13:40/13:55⇒阿弥陀分岐 14:10⇒権現分岐 15:50⇒赤岳山頂 16:00⇒赤岳頂上小屋 16:50（泊） ＜歩行時間　5 時間 30 分＞		
日程 2日目	赤岳頂上小屋 6:00⇒赤岳展望荘 6:30⇒石尊峰 7:10⇒三叉峰 7:40⇒横岳 8:00⇒硫黄岳山荘 8:45/9:00⇒硫黄岳 9:25⇒夏沢峠 10:15⇒本沢温泉手前昼食 11:00/15⇒本沢温泉 11:02⇒本沢入口ゲート 13:20⇒稲子湯 14:10/15:40（入浴・反省会）15:50(タクシー)松原湖 16:21→小淵沢 17:30/41（特急）新宿 19:35→上野 20:18→我孫子 20:50 ＜歩行時間　6 時間 40 分＞		
ルート状況	・美濃戸口から美濃戸山荘まで自家用車が絶えず登山道を通るのが気になった。 ・岩稜歩きには十分気を付けたが、崩落個所等はなかった。 ・稜線上は常に霧や風があり、強風の場合は十分配慮が必要となる。 ・今回、本沢入口のコースをとったが、本沢温泉からミドリ池コースの方が稲子湯には便利。小海線に直接出る場合は本沢入口から 1 時間 30 分で海尻駅に至り便利		
参加者	高橋芳(L)、田村(SL)、中村育、村越、石塚 室崎、北田　　男 2 名　女 5 名　計 7 名		



落葉松の紅葉



＜９１６＞

尾瀬・白尾山
（2,003m）

新谷　直恵

錦秋に染まる草紅葉の尾瀬

最初はテント山行の予定だったが男性たちのキャンセルで急遽山小屋泊まりとなった。尾瀬のテントも魅力的だったが、そのために増える荷物のことを考えると小屋泊まりはありがたかった。しかも弥四郎小屋はお風呂付き。初日は登り口の御池までレンタカーで入り、広大な駐車場の奥から登山口、裏燧林道を行く。大型台風が太平洋を北上している影響で、ときどき強い風と共に雨がぱらつく。道は樹林帯の登りが続くが、広葉樹は紅葉真っ盛り。ブナが多く、なかにはユニークな造形を見せる大木もあり見飽きることがない。樹林を抜けると一面に湿原の草紅葉が現れた。湿原を尾瀬では田代という。そのなかに出現する池塘はあたかも宝石のような存在だ。静寂に満ちて神秘的ですらある。道はノメリ田代、横田代、天神田代を過ぎて裏燧橋へ。深い谷をどこまでも降りていき、最後の長い階段を降りると、大きな水音と共に大きな滝が姿を現した。三条の滝だ。勢いよく流れ落ちる水の飛沫を浴びながら集合写真を撮り、別の道を通って赤田代へと出る。間もなく元湯山荘、温泉小屋に到着。尾瀬ヶ原はもうすぐそこだ。この日、燧ケ岳が初冠雪し山頂は白く雪化粧。その山容を紅葉の尾瀬から見上げた。15 時過ぎに弥四郎小屋に到着。別館の３個室を与えられたが、尾瀬が初めてという２人の女性に尾瀬ヶ原が見渡せる角部屋を提供。食後ストーブのある喫茶室で団欒後、20 時に床に入る。温まったおかげで安らかな眠りに付いた。なんとも贅沢な山小屋泊。

２日目の朝、小屋の前に広がる湿原にはガスがかかり、幻想的な世界が醸し出されていた。６時の朝食後、尾瀬ヶ原を行き、竜宮小屋から長沢新道に入る。入口に熊出現の注意書きがあるが、たしかに熊も出てきそうな人の気配のない藪道。だが、紅葉真っ盛りで、あまりの美しさに幾度となく足が止まり歓声が上げる。１時間半程で富士見小屋に到着。そこから稜線を20分ほどかけてアヤメ平へ。富士見下へ続く谷の紅葉はさらに見事。アヤメ平は湿原復元試験地域であり、十数年をかけて荒れた湿原が復元された様子が見てとれ尾瀬が人の手で復元されてきたことがよくわかる。ここから見える燧ケ岳は全容を現していてさらに美しい。ここでコーヒーブレイク。いったん富士見峠に戻って白尾山を目指す。アップダウンを繰り返すと山頂と記された小さな標識はあるが、周囲を見渡せない藪の中。日陰を求めて昼食をとる。戻りは長沢新道と平行した八木沢道を行く。行き違う人も少なく、尾瀬とは思えない深い樹林地帯だ。黄色のブナ、ダケカンバに混じって、モミジやカエデ、ナナカマドの朱がとびきり目を引く。

最終日は、燧ケ岳に登る見晴新道を横に見ながら（ルートは封鎖）、白砂峠を抜けて白砂湿原へ。やがて尾瀬沼が見えて沼尻平に来ると、１ヶ月前に不審火で燃え落ちた沼尻休憩所跡が現れた。山側には草紅葉のなか池塘が青い空と山の紅葉を写して色とりどりに染まっている。長蔵小屋でトイレをお借りし、尾瀬を守り抜いた平野長蔵一家のお墓に詣る。それは尾瀬沼と湿原を見渡せる小高い地に立っていた。尾瀬を歩く大勢の人をあの世から見守られているに違いない。尾瀬沼峠の急登を登ってバス停に出ると10時40分。５分後に出るというシャトルバスに乗ってレンタカーを留めた御池へ。途中の錦に染まった車窓風景がまた見事で、バスの運転手さんは撮影停車の心遣いも。那須塩原に戻る途中、檜枝岐温泉に立ち寄り、檜枝岐名物の裁ち蕎麦をいただく。その素朴な味は３日間の豊かな山行を見事に締めてくれた。

尾瀬というと２大山を登ったり、湿原の木道を行くのが通常だが、今回は色とりどりに染まった樹林地帯を堪能するという想定外の山行であったのは、やはり尾瀬を知り尽くしたリーダーの計画よるものであり、忘れがたい山行となった。新幹線とレンタカーを使用したため時間に余裕があったこともそれを可能にした。翌週には湿原にも初雪が舞うだろう。まさに尾瀬の最後の宴を堪能させていただいた。

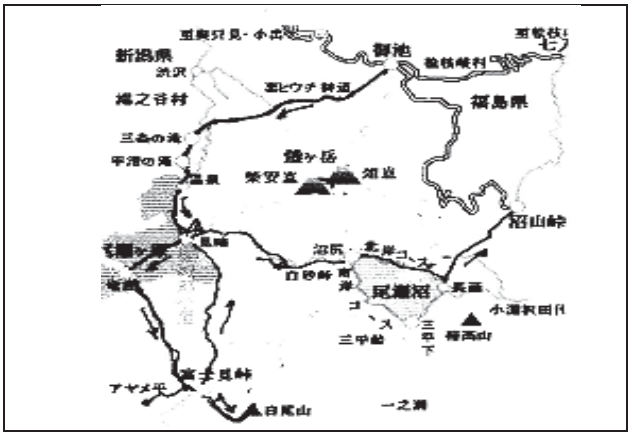


白尾山

概　要

山名		尾瀬・白尾山		
月日		平成 27 年 10 月 8 日(木)～10 月 10 日(土)		
山域		尾瀬・南会津	地形図	1/25000　尾瀬ヶ原・燧ケ岳
形式		山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的		錦秋に染まる草紅葉の尾瀬を訪ねる。ひっそりと尾瀬ヶ原の東面に佇むアヤメ平と白尾山に登る。		
費用		28,000 円	交通機関	JR・レンタカー
日程	1日目	我孫子駅発 5:31→上野駅 6:04/6:26（東北新幹線）→那須塩原駅（レンタカー）7:50→御池 11:00⇒（裏燧林道）ノメリ田代⇒横田代⇒天神田代⇒裏燧橋 12:35/12:50⇒三条ノ滝 14:05/14:20⇒温泉小屋⇒弥四郎小屋 16:00（泊り） ＜歩行時間：4 時間 30 分＞		
	2日目	弥四郎小屋 6:50⇒竜宮小屋 7:15⇒長沢新道分岐 7:15⇒富士見田代 8:30⇒富士見小屋 8:35/8:45⇒アヤメ平（1,969ｍ付近）10:05/10:30⇒富士見峠 10:48⇒白尾山 11:35/12:00⇒八木沢道分岐 12:50⇒弥四郎小屋 15:05（泊り） ＜歩行時間：7 時間 15 分＞		
	3日目	弥四郎小屋 6:35⇒白砂峠 8:05⇒白砂湿原⇒沼尻平・沼尻休憩所 8:40⇒大江湿原・平野家の墓 9:20⇒尾瀬沼山峠休憩所 10:43/10:45（シャトルバス）→御池 11:10（レンタカー）→燧ノ湯→那須塩原駅（東北新幹線）16:02→上野駅→我孫子駅 18:00 ＜歩行時間：3 時間 10 分＞		
ルート状況		・登山道等は整備され、道標もしっかり有るので問題ない。但し、姿の見えない怖い「熊」さんには充分注意が必要。（声出し、鈴鳴らし）白尾山への登山道は道幅も狭く、登山者が少ないためヤブッぽい。 ・見晴十字路から燧ヶ岳に登る見晴新道のルートは数年前の台風による、一部崩壊のため、現在も通行禁止になっている。 ・尾瀬沼湖畔の沼尻休憩所は先の火災によって（原因不明）全焼したためトイレ、その他は利用出来ない。再建は不明。 ・アヤメ平は一時登山者によって踏み荒らされ、地塘、及び田代が崩壊の危険にさらされたが、長い間の復旧作業のため完全ではないが大分元に戻ったようだ。		
参加者		村松(L)、竹内(SL)、外崎、本田、新谷、矢野裕、矢野貞、高橋富 男２名　女６名　計８名		

概念図





秘密にしておきたいルート　八木沢道↑



三条の滝　↑　　尾瀬沼手前　白砂田代↓



＜９１７＞ＢＯＭ研修

岩　山
（328m）

村松　敏彦

快晴の岩山にて
ＢＯＭの実技研修を行う

快晴の岩山にてＢＯＭの実技研修を終えました。受講生はしっかり学び今後の山登りに生かされる事と思います。

次の事を学びました。

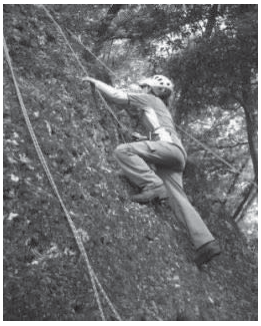
1．日吉神社にてロープの結び方の基本と装備の点検及び使用目的を復習した後
2．岩山に移動して
3．3点確保による岩場の登り降り。
4．ロープで確保しながら岩場の登り降り。
5．ハーネスとエイト環による懸垂下降の修得。
6．体とロープを連結するシステム。（支点の作り方、木、岩、その他）
7．悪場のトラバース、（支点を作る、ハーネスとカラビナ2個セットによる通過（カラビナの付け替え）
8．確保による登り降り。支点を作る。セルフビレイの必要性と作り方。
9．谷に遭難者又はケガ人が居る事を想定して、受講生2人1組で初めから支点を作り、ロープをセットしてセルフビレイを取り、登下降者を確保して、安全に遭難者を引き上げる。これ等の一連の動作を体験する。
10．受講者が自身で支点を作りロープをセットして岩の登り降りを行う。



日吉神社前で復習



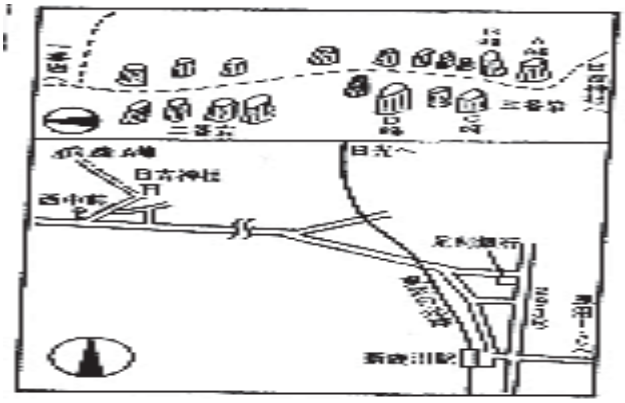
エイト環の使い方



三点確保



懸垂下降



概念図

概　　要

山名	岩山		
月日	平成27 年10月18日(日)		
山域	前日光	地形図	1/25000　鹿沼
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1Ｂ
目的	1. BOM 研修会実技としてのロープの使い方 2. 3点確保の登下降を修得する。 3. 岩登りの基礎を学ぶ。		
費用	3,000円	交通機関	JR,東武鉄道
日程	東武北千住駅快速電車ホーム 6:25 集合/6:31 発快速日光・田島行→新鹿沼駅 7:57⇒日吉神社 8：40/9:30⇒岩山にてトレーニング 14:30⇒日吉神社 15:00⇒みっちゃん⇒新鹿沼発臨時快速 16:01→春日部→柏駅→我孫子駅 18:30 ＜研修時間6時間20分＞		
参加者	村松(L)、高橋英(SL)、外崎、武内、田村、斎田、宮野誠、村越、室崎、高橋富、北田、藤家、小島　　男7名　女6名　計13名		



懸垂下降



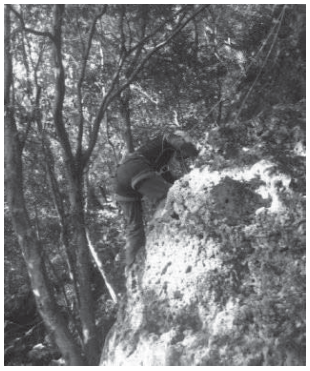
転落者の救助
のための下降







急な岩場の登り



急な岩場の下り



岩トレを終えて記念撮影

＜９１８＞

根本山～熊鷹山

（1199m）（1169m）

大平　太計夫

紅葉を楽しむ

晴れの特異日である文化の日、晴れて微風の心地良い山日和となりました。
我孫子駅から快速に乗車し、北千住駅で東武線特急りょうもう１号に乗り換えて新桐生へ。
車内はがらがらで座席もゆったりして快適でした。１２名なのでタクシー３台に分乗して繊維の街で古い土蔵が多い桐生市内を走行し３５分で石鴨林道の奥、登山口手前の駐車場に到着しました。田村リーダーの挨拶や注意があり各自身体をほぐして出発です。

右手に沢を見ながらの歩行で直ぐに不死熊橋に到着。直ぐ左手に根本沢コースがあり、長いザイルが伸びていました。リーダーと大畠さんが下見で歩いたら凄く荒れていて迷いそうとのことでこのルートを諦めて今日は中尾根コースを選択したそうです。
林道を進み少し先の分岐点には手書きの「倒木の為立ち入り禁止」との日光森林営林署の看板がありましたがここが登山口分岐なので無視して左の林道に入り少し先で中尾根コース登山口の標識を確認しました。

身支度を整え標高差約６００m を登り始めました。始めは緩やかな巻き道でしたが次第に急勾配になり軽やかに進む田村リーダーを必死に追いかけました。植林帯を抜けて自然林になると紅葉が出てきて赤や黄色の配色に歓声がわいてきました。落葉の尾根で休憩した後の根本沢コースとの合流点までが特にきつくあごがあがりました。木漏れ日が指す嬉しい樹林帯の尾根が見えるとあと一息です。

緩やかな丘陵地で気持ち良い根本山頂上には栃木百名山５１座の標柱がありました。
昼食としましたら収穫の秋にふさわしくリンゴ、柿、洋梨等の差し入れがあり嬉しかった。
急下降した根本山神社は荒廃していましたが奉納の大マサカリもありました。ここからも緩やかな丘陵地で華やかな紅葉を見ながらの楽しい歩行となりました。氷室山への分岐を過ぎ、十二山からは笹原や雑木の歩きやすい道を３

０分で熊鷹山に到着です。

栃木百名山５３座で二等三角点の頂上には展望やぐらがあり、赤城山、皇海山、袈裟丸等の展望が広がりました。残念ながら日光連山は雲に覆われて見えませんでした。

小憩後の林道への下りは急こう配でザイルが設置されていました。かなり下降して着いた林道歩きは楽ですが変化なくつまりません。１時間位会話をしながら歩を進めましたが駐車場手前で T さんが鉄板に乗って滑り転んだ際に右手首を負傷。三角巾と新聞紙とでの応急のテーピング処置で駐車場まで歩いて貰ってタクシーで救急医療施設に寄る予定でしたが生憎祝日で桐生市内に整形外科医師がいませんでした。

新桐生駅に着くと直ぐに特急がありましたのでそれに乗車し北千住経由で我孫子駅まで行き、近くの医療機関で治療して頂きました。アクシデントはありましたが紅葉の歩行を楽しんだ山行でした。

蛇足ですがこの山域、氷室山～熊鷹山～根本山縦走は日帰りツアーで企画されていて私も早春に１０回お客様をお連れして歩いています。



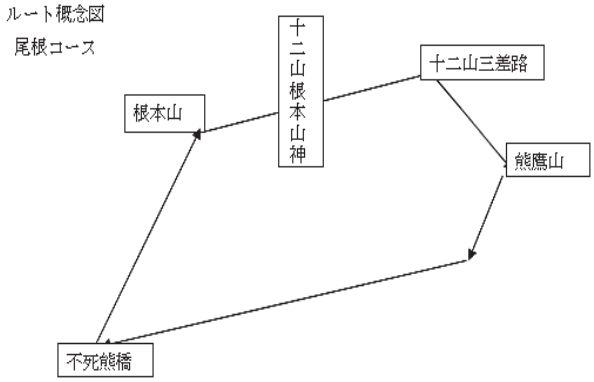
静かな根本山山頂





熊鷹山からは360度の大展望

概念図



概　　要

山名	根本山から熊鷹山		
月日	平成 27 年 11 月 3 日(火)		
山域	桐生	地形図	1/25000　沢入
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１B
目的	紅葉を楽しむ		
費用	9,000 円	交通機関	JR,東武, タクシー
日程	我孫子駅 6:12→北千住 7:11（特急りょうもう１号）→新桐生駅 8:47→タクシ―駐車場 9:35⇒根本山 11:30⇒十二山 12:00（昼食）⇒熊鷹山 13:10⇒駐車場 15:10→タクシー→新桐生駅（特急りょうもう 36 号）16:06→北千住 17:41→柏駅→我孫子駅 18:12 ＜歩行時間 4 時間 20 分＞		
ルート状況	・登山口には車を止めるスペースがある。 ・中尾根コースの登山口は林道を５００ｍ程行ったところにある。 ・登山道は整備されていてわかりやすく、痩せ尾根の急坂もあるが、気を付けて登れば問題はない。 ・分岐には標識があり間違えることはない。		
参加者	田村（L)、高橋芳(SL)、大畠、矢野貞 矢野裕、郷田、石塚、大山、大平、北田 藤家、小島 男 7 名　女 6 名　計 13 名		



中尾根コース登山道

＜９１９＞

棒ノ折山
（1,699m）

齊田　記代美

白谷沢谷を下る

今回の山行は、「のんびりおくたまの紅葉をたのしんだ後は、さわらびの湯に浸り、癒される」という緩い計画なのに、なぜか参加者は男性の方が多く男性4人女性2人のメンバーでした。

ＪＲ青梅線川井駅で下車後のバス待ち時間が 50 分とチョーのんびり。

土日・祭日ならば奥茶屋まで行くバスは上日向が終点。紅葉をたのしみながらのんびり林道を歩き登山口をめざした。

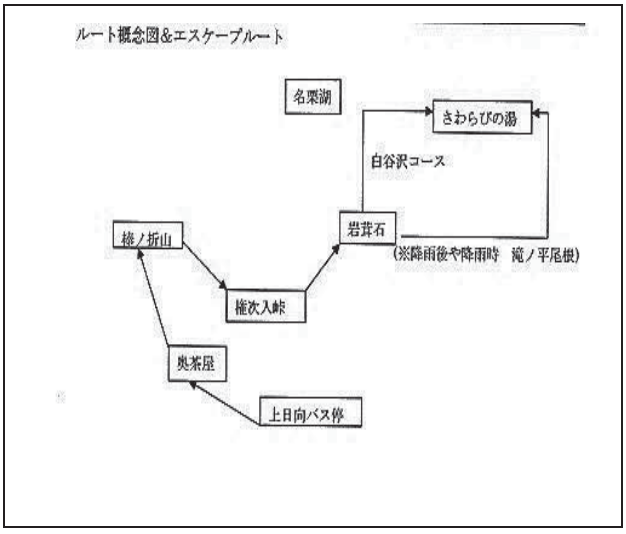
登山道に入ると始めはゴンジリ沢の水の音を聞きながら、登っていくと次第に杉の植林帯の急登になりました。しかし男性の皆さんの会話に笑わされながら登頂。幸いにも天気はまずまず。霞んではいましたが、奥武蔵の山々を眺めながら昼食をとることが出来ました。

登り始めたときは、登山道が濡れていて、沢コースの下山は難しく尾根コースになるかなと思っていましたが、アドバイザーの勇気ある進言を受けて沢コースを下りました。

沢の流れる音を聞いていると、生まれ育った家から歩いて 15 分位の所に、日本三大名園の一つに数えられる「兼六園」を思い出します。兼六園の名前の由来は、「宏大」（広々とした様子）と「幽邃（ゆうすい）」（静寂と奥深さ）、「人力」（人の手が加わったところ）と「蒼古」（古びた趣）、「水泉」（池や滝の水）と「眺望」の相反するかのような六つを兼ね備えているから、と言うことらしい。子供の頃はこんな難しい話は知らなかったが、今とは違っていつでも、どこからでも自由に出入りできて、こんなに素晴らしい庭園でありながら、通り道としてよく歩いた大好きな場所です。今でもこんなに美しい庭園は他にはないと思っています。とくに水の流れる音が一番好きです。

白谷沢は、水量もほどほどにあり、渡渉というほどのものではありませんが水の音を聞きながら沢を横切り、小さな滝を巻くために岩を下り・・・「沢は下るものではなく登るものだよ！」という声も聞こえてきましたが、あの兼六園の水の音が思い出され、そんなことは気にもならず屁っ放り腰ながら意気揚々と下りました。名栗湖のダムの上を渡って、さわらびの湯に浸かり、飯能駅から帰途に就きました。低山といえども感慨深い秋の一日でした。

概念図



概　　要

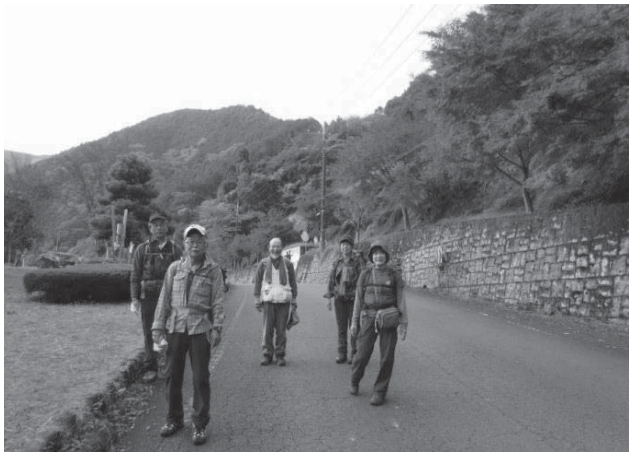
山名	棒ノ折山		
月日	平成２５年１１月２０日(金)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 原市場
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	のんびり奥武蔵の紅葉と展望を楽しむ		
費用	4,700 円 (入浴代含)	交通機関	ＪＲ・西東京バス・国際興業バス 西武池袋線
日程	我孫子駅 6:20→6:33 新松戸 6:37→7:39→西国分寺 7:46→立川 8:00→青梅 8:33→8:56 川井駅 9:45→(バス)→9:56 上日向⇒0:30 奥茶屋⇒1:35 山頂⇒0:15 権次入峠⇒0:25 岩茸石⇒白谷沢登山道⇒1:55 白谷橋⇒0:20⇒15:20 さわらびの湯 16:25→17:10 飯能駅 18:48→19:09 小手指 19:19→19:28 秋津⇒新秋津 19:31→20:30 新松戸→我孫子 20:43		
ﾙｰﾄ状況	・行きの電車は、平日 6 時台の為、かなり混んでいた。新宿に出ることを考えてもよかった。 ・標識はしっかりしていて、迷うことはない。白谷沢は、岩の崩落があると書いてあったが、鎖の手すりが取り付けてあり、慎重に歩けば問題ない。		
参加者	齊田(L)、本田(SL)、村松、大山、室谷、北田　　男性 4 名　女性 2 名計 6 名		



奥武蔵の山々を背景に記念撮影



三点確保で、沢を下る



下山後、名栗湖～さわらびの湯へ

＜９２０＞

奥久慈男体山
（654m）

村越　百々代

岩稜と紅葉をたのしむ

何日も前から天気が心配だった。天気予報ではずっと雨マーク。参加者が多くなったので中型バスをチャーターしていた。雨の場合は中止を予定していたが、バス会社の都合で中止の判断は前々日にしなければならなかった。何人かの参加者や山行部長にも相談し、前々日に『岩場の少ない一般コースでのピストンにする』ことにして参加者に決行の連絡をした。

23 日の朝、この日の天気予報では昼過ぎから雨のマークに代わっていた。雨が降るころには下山を済ませている状況が予想されたので、登りは当初の計画通りの岩場の登り（健脚コース）、下りは一般コースを歩くことにして大園地の駐車場を出発した。道路を歩き登山口に向かう途中で見上げると奥久慈男体山の荒々しい岩肌が見えていた。

民家の脇を抜けて登山口を歩き始めると、粘土質の道がぬれていて滑りやすかった。注意しながらゆっくりと歩いた。歩くうちに見えてくる黄色や赤の鮮やかな紅葉に「きれいね！！」という声がいくつも上がった。いつもの年だと一番紅葉の綺麗な時期だが、今年は少し遅かったようだ。それでも十分に楽しめそう。期待しながら歩く。

歩き始めて 15 分ぐらいで岩場が始まる。30 分を過ぎると上級者向けの結構きつい鎖場の連続になる。みんなで声を掛け合いながら、ゆっくりと登った。

大きな岩に出たところで山頂へ行くには右に曲がるが左側に行くと　とても景色のよい岩場になるので「絶景ポイントです。」と言って、そこで休憩をした。曇りの天気ながら、奥久慈の山並みから遠くは日光連山まで連なるのが見えた。

頂上を目指す道に戻り、岩場をもう一登りしたらあずまやのある平らな場所に出た。そこからは一登りで山頂になった。写真を撮ってその後ゆっくり休憩を取りたかったが、雨が降り始めたので急いで雨具をつけ、早目に一般コースで

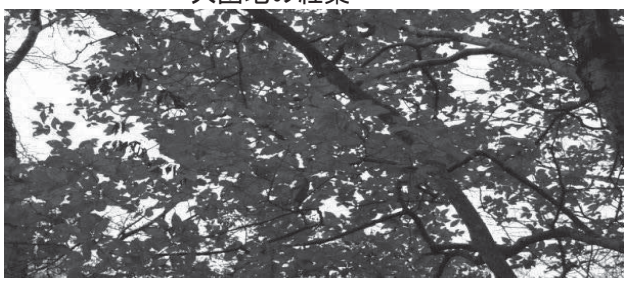
の下山を始めた。頂上からの稜線歩きは滑落の危険があるので慎重に歩いた。途中、標高 634 メートルの所に東京スカイツリーと同じ高さという表示があった。冬枯れが進んでいたがところどころに見える紅葉を楽しみながら歩いた。大園地越という広い場所ではテーブルやベンチがあり、休憩するのにはぴったりの場所で景色を楽しみながら最後の休憩をとった。
予定していた時間より 45 分も早く下山することができたので、その分森林の湯で入浴と食事を楽しむことができた。

初めてリーダーとして計画、実行した今回の奥久慈男体山、お天気が心配でハラハラドキドキの山行だったが、登りの健脚コースの岩登りと稜線の眺望、下りのなだらかな一般コースという変化にとんだ山歩きで紅葉も楽しむことができた。
計画、実行のためにアドバイスをくださった方たち、そして参加してくれた皆さん、ありがとうございました。

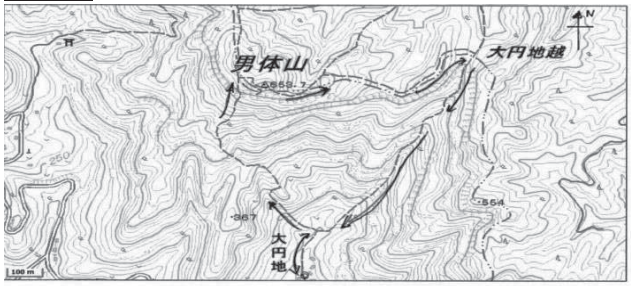


奥久慈男体山山頂

大園地の紅葉



概念図



概　　要

山名	奥久慈　男体山		
月日	平成 27 年 11 月 23 日(月・祝)		
山域	奥久慈	地形図	1/25000
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１B
目的	岩稜と紅葉を楽しむ		
費用	6400 円	交通機関	マイクロバス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場 5:45→矢田部 IC ー6:13→常磐道→友部 SA6:40/6:55→ 那珂 IC7:10→R118→大園地 8:00/8:18⇒男体山 9:50/10:15⇒大円地越 10:45⇒大円地 11:45→ 森 林 の 湯　12:32/14:35→ 那 珂 IC15:40→ 友 部　SA15:55/16:10→ 矢 田 部 IC16:40→我孫子 17:25 ＜歩行時間：3 時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・登山道は倒木が少しあったが、表示もあり、わかりやすかった。 土の部分が湿っていて滑りやすかったので注意して歩いた。 ・登りはロープや鎖場のある健脚コースを選び、岩場の登りをゆっくり歩いた。 下山はなだらかな一般コースを歩いた。 ・頂上からの稜線歩きは道が狭いので滑落の危険に注意した。		
参加者	A 班；村越(L)、箕輪完(SL) 、大畠、田村、中村育、室崎宏、室崎育、大山、藤家 B 班；郷田(L)、外崎(SL)、新谷、箕輪カ、高橋英、本田、石塚、北田 ＜男 7 名、女 10 名　　計 17 名＞		


色とりどりの下山道




森林の湯　ゆっくりと入浴・食事

＜９２１＞

金勝山～官ノ倉山

（264m）（344m）

箕輪　カオル

晩秋の里山と眺め抜群の低山

２０１５年１１月２９日（日）晴れ

肌寒い朝ではあったが、風もなく晴天の山日和。山が近くになると霜が降りているのが電車からもよくわかる。それだけに富士山もすっきり顔を見せていた。東武竹沢駅ホームには、「金勝山・官の倉山ハイキングコース」と書かれた大きく目立つ標識が立ち、駅からハイキングの絶好の場所と認識した。駅前ロータリーで軽いストレッチをして出発。１０分ほどで東登山口に。整備された道ながら思いの外、迷い道に会いそうでもある。仕方がない、里山は地元の人たちの仕事道でもあるのだから・・・・。分岐の箇所に星座のスタンプが置かれている。ここを訪れた人たち対象の「森とのふれあいスタンプラリー」なのだそうだ。おひつじ座・かに座・ふたご座・おうし座をゲットした。金勝山山頂には２０分ほどで着く。やまつつじの帰り花があった。これより下山、杉木立のほぼ平らを歩き、立派な避難小屋を通過して東登山口へと戻る。

また道沿いの皇帝ダリアを鑑賞しながら、市内を通過して歩くこと３０分。三光神社近くの天王池でおやつ休憩をする。この池には贅沢にも錦鯉が泳いでいるではないか、びっくりである。三光神社はいかにも古く歴史ある風に感じた。三光とは日・月・星のことで創建は鎌倉時代という。斜めになった境内の大杉を切ろうとしたら、突然起き上がったという伝説の場所という。天王沼からつづら折れに登り官の倉峠を左へ進むと、やがて標高３４４mの官の倉山頂となる。さらに１０分ほどで石尊山（３４０m）である。ここまで歩いてきたどこの頂も眺望の素晴らしいところであった。石尊山からは、赤城山はじめ遠く筑波山の双耳峰とわかるほど眺望の素晴らしいところであった。ここで昼食休憩をとる。官の倉山、　石尊山この二つの山は、ふもとからはラクダの瘤のように見えるとか？石尊山からの下りは短い距離だが要注意のガレ場だ。それを過ぎると北向不動に出て、少し下るともう林道だ。きれいに整備されたトイレもあり、憩いの場となっているところに出る。たわわに色づいた柚の木にはしゃぎ挑む時間もまた楽しであった。人家を過ぎて小さな橋を長福寺方面へと向かう。ここから歩くこと長く５０分ほどか、小川町の鎮守様である八坂神社へと進む。神木の欅、銀杏の実などを云々しながら境内で休憩させてもらう。小川町の造り酒屋「晴雲」で試飲と好みの酒を購入して武州うどんをめざして歩くこと１０分。目当てのうどんやで反省会をして一路我孫子へと帰る。

１１月後半の紅葉は今一つではあったが、山頂の眺めと晩秋の里山歩きは日頃の喧騒を忘れさせてくれた。久しぶりの会友とゲストとして参加の２名始め、みんなが協力し合い暖かい山行であった。リーダーに唯々感謝。

三光神社



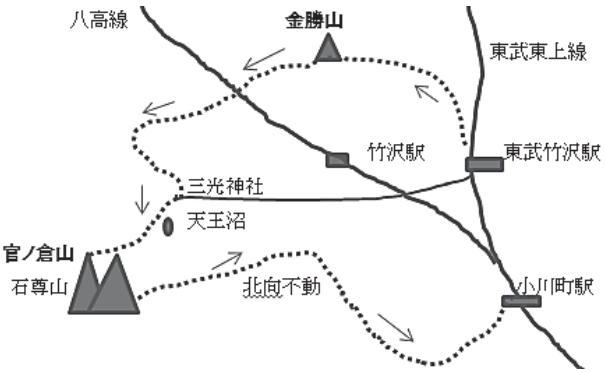
皇帝ダリア





金勝山山頂　小川町がよく見える

概念図



概　要

山名	比企丘陵　金勝山～官ノ倉山		
月日	平成 27 年 11 月 29 日（日）		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000 安戸・武蔵小川
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A
目的	晩秋の里山歩きと奥武蔵の展望		
費用	約 3,000 円	交通機関	ＪＲ・東武東上線・武蔵野線
行程	我孫子駅 5:31→日暮里 6:01/6:09→池袋 6:22/6:30→小川町 7:33/7:36→東武竹沢駅 7:40/8:00⇒8:30 金勝山 8:40⇒9:25 登山口⇒10:15 天王沼 10:30⇒10:55 官ノ倉峠⇒11:05 官ノ倉山 11:15⇒11:25 石尊山 12:00⇒12:30 北向不動 12:35⇒八幡神社⇒13:35 晴雲酒造⇒武州うどん 15:10⇒15:20 小川町駅 15:44→朝霞台→北朝霞→新松戸→我孫子駅 18:00		
ルート状況	・金勝山は駅近くの東登山口からが多いが山頂から下る分岐が幾つかのあり、前金勝山から少し下りた処の分岐で予定コースと違う方に下りて、東登山口に戻ってきたため、駅から直に官ノ倉山方向のルートに変更（分岐の標識が分かりにくい。） ・石尊山の下りが急な岩場で鎖があるので、後ろ向きで下りれば問題ないが初登山の方がいたのでベテランの方について頂いた。		
参加者	本田(L)、箕輪完(SL)、外崎、箕輪カ、斎田矢野裕、石塚、林、菊地（会友）、北田初美（ゲスト）・千葉亜矢子（ゲスト） 男 3 名、女 8 名、計 11 名		



石尊山山頂



長～い石段の北向不動には　↑
下から手を合わせる



真正面に赤城山



官ノ倉山山頂

＜９２２＞忘年山行

大福山・梅ヶ瀬
（292m）

やまたんより転載

地層の美しい秋の景観楽しむ
懇親会は山の温泉と炉辺焼き



大福山　日高邸跡



沢ルートを行く25人

１日を満喫　　ご協力に感謝
＜総括・A 班リーダー　郷田進＞

房総半島屈指の黄葉の名所梅ケ瀬渓谷と大福山のハイキングを愉しむ。天候にも恵まれ、青空の中浸食崖を彩る紅葉、大福山展望台から眺める房総の山々、車窓からの里山風景など美しい彩りと心の琴線に触れる懐かしさを満喫する山行だった。懇親会は山の温泉と囲炉裏焼きである。雨の心配の不要と食材さえ持ち込めば、負担（経費、労力とも）も少ない点から今回初めての試み、食担係の準備の賜物で大満足な楽しい宴会となった。いろいろあった今年１年だが締めくくり山行に相応しいものと思っている。各人のご協力に感謝します。そして来年もまた安全で楽しい山行ご一緒しましょう。



梅ケ瀬茶屋

深い谷と白く美しい地層
＜B 班リーダー　高橋芳恵＞

千葉の山は低山とはいえ馬鹿にできない、深い谷と白い地層の美しい景観であり、深い谷の中の美しい川を２０回ほど渡りながら楽しんだ。過日、自然保護セミナーでこのあたりの自然の成り立ちを学んだばかりであり、砂岩の地層からもこの山が海底から隆起したものであることが分かった。短いハイキングコースではあるが、なかなか変化に富み、日高邸跡ではこの山の中に著名人が仙人のように住んだものかと不思議に思った。もみじ谷を上り、大福山で房総の山なみ展望した後、なじみの七里川温泉で入浴、バーベキューといつもと違った趣向で集うことできた。食担の皆さんが一日がかりで集めた食材だけあり、どれもこだわりで「おいしい！」と膝を打つものばかり、さすがグルメで名高い皆様方でした。帰宅時間も早めで、無理がなくすべて満点のできの忘年山行でありました。

秋色に彩られた大パノラマ
＜C 班リーダー　大畠清江＞

忘年山行、いつもの山行と違ってのんびりとゆったりとして心地好い。
Ａ班から歩きだした。Ｃ班はしんがりを行く。その最後尾を英さんが名乗り出てくれた。これでＣ班は万全、心強い。梅ケ瀬渓谷はせせらぎ

に沿って両岸に切り立った断崖が続く。浸食崖だそうで断層が美しい。
その断層に山水が浸み出てこけを伝い滴り落ちている。仰ぎ見ると真っ青な空に楓の赤が輝いている。清流を何度も渡り返すが１から数えてみたら日高邸跡まで 23 回あった。途中２、３数え落としたらしいがさすがＣ班のメンバーしっかりとフォローしてくれた。螺旋階段を上り大福山展望台に立つと秋色に彩られた山々が大パノラマに広がっていた。295ｍの低山とも思えない光景に感激する。Ｃ班だけ離れ小島でちょっと寂しかったが炭火のいろり端でのＢＢＱ、食べきれないほどの御馳走に食担さんの心意気を感じる。前日の準備は如何許りかと感謝する。実行委員のお２人と食担さんの御苦労のお陰様で 1 年を締めくくるに相応しい楽しい山行だった。

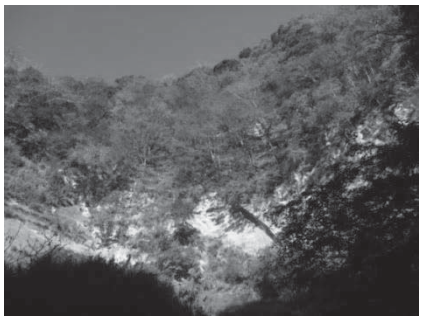


渡渉　↑↓





渡渉



見上げれば紅葉　↑



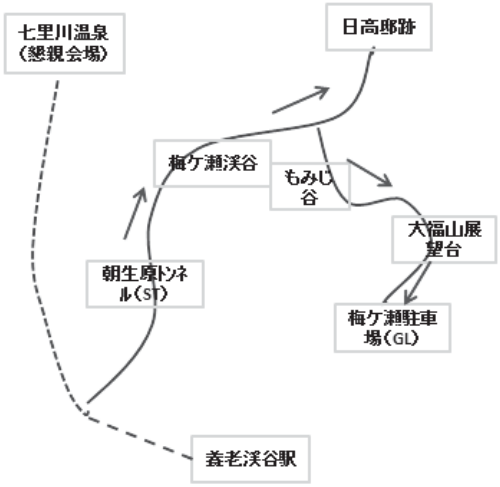
七里川温泉で炉辺焼き懇親会　↑　↓



概　　要

山名	大福山・梅ケ瀬		
月日	平成 27 年 12 月 5 日(土)		
山域	房総	地形図	1/25000 久留里
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	千葉房総の山 50 選を登る。 今年の締めくくり山行（忘年山行） 紅葉と温泉＆BBQ		
費用	約 6,200 円(含む懇親会)	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場 5:40→市原ＳＡ　6:50/7:00→木更津北ＩＣ7:13→梅ヶ瀬渓谷入口 8:00/8:20⇒梅ヶ瀬渓谷 8:30⇒日高邸跡 9:30/9:50⇒大福山（展望台）10:40/10:50⇒梅ヶ瀬駐車場 11:00→七里川温泉（入浴後懇親会）11:40/14:50→市原ＳＡ16:00/16:10→我孫子駅北口ふれあい広場着 17:55 ＜歩行時間:2 時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・駐車場～日高邸跡（梅ケ瀬渓谷）沢の渡渉を繰り返しながら、そして周りの紅葉を愛でながらのハイキングコース、足元に注意が必要だが、変化に富んだ楽しめるコース ・日高邸跡～大福山：（もみじ谷を眺めながら）よく整備された尾根道、危険箇所なし		
参加者	A 班：郷田（総括 L），桐生（SL），武内、外崎、矢野裕、坂巻、中村育、渡辺、室崎 B 班：高橋芳（L）村松、本田、高橋富、中村隆、箕輪カ、新谷、矢野貞 C 班：大畠（L）、高橋英、林、小島、田村、箕輪完、田村、大平 男性 10 名、女性 15 名　計 25 名		

概念図



＜９２３＞クリーンハイク

手賀沼一周

箕輪　完二

我孫子の文化に触れ　クリーン作戦
北千葉導水ビジターセンターも見学



今回の手賀沼一周は手賀沼のクリーンハイクと併せて手賀沼の浄化に大きな役割を果たしている北千葉導水ビジターセンターの見学をテーマにした。前々日までは雨天の予報であったが、その予報が前倒しとなり、当日は好天に恵まれた。今回は 11 人全員が水の館に集合してきた。手賀沼一周クリーンハイクは初めてという人もおり、新鮮味もあった。手賀沼には皆なんらかの形で関わっていると思うが一周すると約 24ｋｍになるのでなかなか大変である。準備体操を行った後、缶、ビン、プラスチック、ペットボトル等に担当を決め、クリーン作戦を開始した。

ハケの道と呼ばれる昔の手賀沼と崖地下に沿った道路を歩きながらのクリーン作戦である。合わせて我孫子の文化にも触れるということで、三角点のある子の神社に立ち寄り、落葉散る志賀直哉邸跡、句碑がある楚人冠公園にも立ち寄り、椎の三大木のある三樹荘跡の坂道を下り、アビスタに到着し小休憩。その後再びハケの道に入り、クリーン作戦をしながら進む。紅葉の残る武者小路実篤邸の門前で記念撮影。北柏ふるさと公園のベンチでおやつ休憩となった。

これから北千葉導水ビジターセンターの見学だ。ビジターセンターへ向かう途中に実物大の

模型が置かれている。大きな鋼管だ。ビジターセンターではビデオと係りの人から親切な説明を受けた。北千葉導水の役割は利根川と江戸川を結ぶ約 28.5ｋｍの人工水路で目的は水の調整をはかるとのこと。

①洪水を防ぐ。(大雨の時にポンプで手賀沼から利根川や江戸川に排水し洪水を防ぐ)

②飲み水を送る。(江戸川の水が足りないとき利根川の水を送る)

③手賀沼をきれいにする。(利根川の水を送って手賀沼をきれいにする)

そのために直径 3.2mの鋼管 2 本が手賀沼の柏側に埋設されている。その鋼管の上部は小公園となっており所々に空気弁室が設置されている。2 本設置することでメンテナンスも可能になるとのこと。北千葉導水路が本格的に使われるようになった平成 12 年度から手賀沼の水質は改善され、ほぼ 40 年前の水質まで回復されたという。ここで 25 分ほど見学した。その後は手賀沼遊歩道に出た。その脇の小公園の下に鋼管が延々と埋設されていると思うとその大きな構想に頭が下がる思いだ。沼南道の駅近くのベンチで昼食休憩とした。

カモやオオバンなどの水鳥をウオッチしながら、また対岸にある我孫子の緑やあちこちに残る紅葉を眺めながら後半のクリーンハイクを楽しんだ。今回は 1 週間前にもクリーンハイクが行われたということもあって、また地元ボランティアの皆さんが定期的に整備してくれていることもあり比較的きれいであった。

ゴミの総量は約 7 ㎏でした。全員最後まで歩き通せて良かっと思います。



滝の下公園で計量

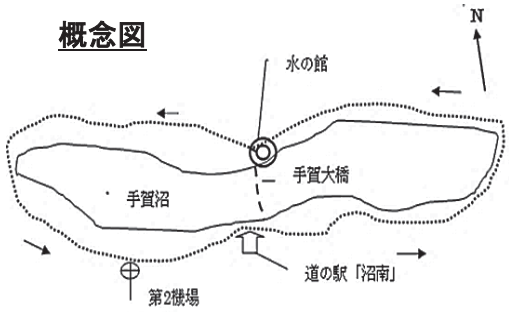
概　　要

山名	手賀沼一周		
月日	平成 27 年 12 月 12 日（土）		
山域	我孫子市 柏市	地形図	1/25000　取手
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的	手賀沼に親しむ。北千葉導水ビジターセンター（第２機場）を見学。初夏の花を探しに		
費用	約 0 円	交通機関	集合から解散まで徒歩
行程	水の館駐車場・集合、準備体操 7：50/8:00⇒子の神神社 8:15⇒志賀直哉邸 8:30⇒杉村楚人冠跡と公園 8:40⇒アビスタ玄関前 8:50/9:00⇒武者小路実篤邸跡 9:25⇒北柏ふるさと公園 10:10⇒北千葉導水第２機場（ビジターセンター）10:30/10：55⇒沼南道の駅 11：40/12：20⇒フィシングセンター13：30⇒滝ノ下公園 14：15⇒手賀沼大橋 14：30 ＜歩行時間　約 5 時間 30 分＞		
ルート状況	・整備されたコースで、クリーンハイクを楽しむには良いと思う。		
参加者	箕輪完(L)、外崎(SL)、箕輪カ、中村育、斎田、高橋富、石塚、大平、北田、藤家、小島、　男 5 名、女 7 名、計 11 名		



手賀沼自然ふれあい緑道

概念図



＜９２４＞クリスマス山行

荒倉山・入笠山

（1,132m）（1,955m）

矢野　裕子

入笠山は日本の真ん中



入笠湿原に出ると雪景色

秋からの高温続きで、クリスマスなのに今年はスキー場の雪もない。入笠はどうだろうか。白銀の眺望をかすかに期待して出かけた。

空は、最高だった。特急あずさ車窓からのスカイブルーと山並みに期待感が膨らむ。

一日目の荒倉山は A・B２台のレンタカーでくねくねと農道を走り、登山口の龍珠院までたどり着くのが一苦労の里山。麓からずっと、かわいらしい案山子の案内札に導かれた。あたたかい木漏れ日の中、落ち葉をさくさくと踏む。ひっそりと静かで、下山するまで出会ったのはほんの２～３人。高度を上げていくと冬枯れの木立の間から、八ヶ岳がよく見えた。そして、２度林道を横切り頂上に着くと、見事な富士の展望が待っていた。こんなに暖かな陽だまりごはんができるクリスマス山行が、今まであったかしら。

さて、下山してから車で一時間ほど北上し、入笠の登山口である沢入へ向かう。途中、道の駅でＢ車のメンバーが白州の美味しい水をたっぷり汲んでおいてくれた。これが大正解。辿り着いたテン場予定の駐車場は、凍結破損防止の為、トイレ・水道は使えなかったのだ。雪はうっすら２センチ位。まずテントを張り、ごちそうの準備。会長が流してくれた小型ラジカセからのクリスマスソングが、電池不足のためフニャフニャと鳴るので大笑い。とにかく楽しく賑やかに夕餉のひととき。この日の為にがまんして取っておいたという極上ワインで「メリークリスマス！」。ガスバーナーとワイヤースタンドを使ってチキンやウインナーやイカを炙り、たっぷり野菜のホワイトシチューとマシュマロで飾られたケーキもいただく。プレゼント交換で手足の動く木製操り人形のサンタが当たった彼女は大喜び。これは予算 108 円を大幅越えの大ヒットの品。本当に心温まる素敵なパーティ!!　その理由は、みんながこのひと時に思いを込めて、ていねいに準備してくださったからに他ならない。

さすがに冷え込んだ翌朝、分配された昨夜のシチューでたっぷりとお腹を温め、少ない雪を踏んで登山開始。樹林を抜けたら笹原の明るく広けた湿原に出た。小屋が幾つかあり、公衆トイレが一つだけ暖かく使えるようになっていた。これは本当に嬉しかった。

入笠山山頂は期待以上の見事な眺望。日本中の真ん中に立っているかのように、360 度方位盤の通りに北・中央・南アルプスに八ヶ岳に富士、くっきりと全部見ることができた。

私はこの山に、きっとまた登ってみたい。今度は花の咲く時期に。



入笠山山頂



賑やかにクリスマスパーティ



龍珠院から出発



荒倉山山頂　ここはかかしの里



概念図



概　　要

山名	荒倉山・入笠山			
月日	平成 27 年 12 月 19 日（土）～20 日（日）			
山域	南アルプス前衛	地形図	1/25000　信濃富士見、韮崎	
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ	
目的	１．クリスマスを雪とテントの中で祝う。 ２．白銀に輝く、展望の山に登る。			
費用	約 12,000 円	交通機関	ＪＲ，ﾚﾝﾀｶｰ	
日程 1日目	我孫子駅発 6:12→日暮里駅→新宿駅 7:08/7:30（あずさ 3 号）→甲府駅 9:08（レンタカー）9:35→韮崎→穴山橋→龍珠院駐車場 11:10⇒平川峠 11:45⇒荒倉山 12:45/13:05⇒龍珠院駐車場 14:05→沢入登山口 15:45（テント設営）　天候晴			
日程 2日目	沢入りテント場 7:15⇒入笠湿原 8:15⇒山彦荘 8:20/8:30（トイレ休憩）⇒入笠山 9:15/9:35⇒山彦荘 10:05/10:15⇒沢入テント場 11:00（テント撤収、昼食）/12:10→道の駅（信州葛木宿）12:45（入浴）/13:30→国道 20 号線→甲府駅 14:45/17:26→新宿駅→東京駅→我孫子駅着 20:31　天候晴			
ルート状況	・荒倉山：国道 20 号から登山口の龍珠院迄の里ルートは解りにくい。多くのあぜ道，農道が交差していると共に、部落が違うと目標の龍珠院すら定でない。 ・登山口の龍珠院には駐車スペースがあり、（約 5～6 台位）車ですと此処まで入る事が出来、アプローチが 40 分程短縮できる。 ・登山道はかって、御座石鉱泉を経て鳳凰三山を目指すルートだったため道標もしっかりあり、道も問題ない。 ・入笠山：沢入登山口迄は車で入る事が出来るがそれ以後は冬季一般車は通行禁止になり、すべてこの駐車場迄となる。トイレ使用不可 ・登山道は良く整備され、危険個所もなく余裕のある歩行が可能。山彦荘近くの公衆トイレは１箇所（他目的トイレ）のみ使用可。 ・山彦荘、入笠小屋、鈴蘭小屋等は冬季休業中。マナスル山荘のみ営業していた。			
参加者	村松(L)、武内(SL)、外崎、本田、新谷、斎田、矢野裕、室崎 男性３名　女性５名　計８名			



中央アルプス

＜９２５＞餅つき山行

景信山
（727m）

林　敏生

山頂で餅つき



新年最初の定例山行にあたって、(((餅つき)))と案内があり楽しそうだなと思ったのが第 1 感です。

案内を頂いた時点で食材分担の案内があっただけなので、(ウス)を皆で分担して登るのかと、不安になりました。友人より山行当日のゴルフ誘いがあり、断りの電話で餅つきの話を告げたら、<お前のところすごい会だな、山で餅つきするなんて>　結果は皆さんご承知の内容です。

今年の冬は近年にない暖冬でしたが、前日の夜から冬型の気圧配置になり寒気も日本列島を覆い始めるとの気象案内がありで、あれやこれや服装を考えましたが、結果は日頃の行いが功を奏して・・・。ほぼ無風、快晴、気温も冬とは思えないぐらいの登山日和。

我孫子➡新松戸➡西国分寺➡高尾➡小仏停留所と電車、バスを乗り継いで、いざ景信山(727m)へ。都心に近く、眺望もいい場所で、色々なサークル、家族連れ等沢山の登山客が次から次へと山頂を目指していました。登山道はとても整備され、一度も下りのない登山道を約 1 時間で到着。

山頂からの眺望は眼下に八王子の町並が広がり、その先に左手から筑波山、スカイツリー、サンシャイン 60、新宿のビル街、横浜ランドマーク、江の島と続き、想像するに夜景は見事なことでしょう。また山頂反対側からは富士山がくっきりと見えました。

いよいよ餅つきですが、人数が集まれば、指南役、つき手、合いの手、まち娘(だまってみている方)等色々な方がおられ、皆さん昔を思い出しながら楽しく餅つきも無難に終了。

ダイエット中の私は、正月も餅だけは控えめにしていましたが、今回のつき立ての餅の何とおいしいこと！。四升を十数人で分け合うので取り合いはなく、リーダーの手配量に感心しましたが、最後は他の登山客にチョット分配。今、やまなみを書いていますがお腹の出っ張りが気になります。

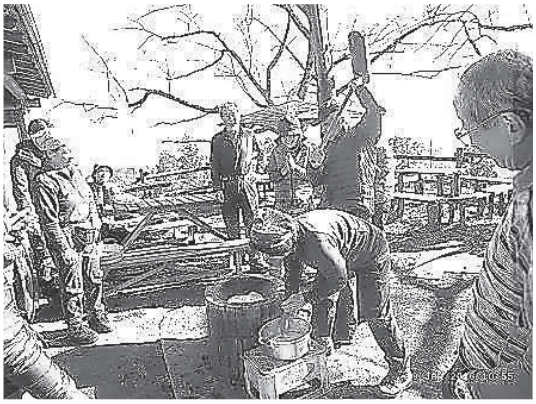
腹一杯お餅をいれて、小仏峠、城山へと予定通り足を延ばして、東海道自然歩道を下って、二次会改め反省会へ。

この東海道自然歩道は傾斜も結構きついところもありますが良くメンテされたハイキング道です。相模湖が間近に見えると自然道も終わりとなります。

年の始まり、幸先のよい最高の山行となりました。リーダー高橋芳恵さん、大先輩の会友の方々及びメンバーの皆さん楽しい山行ありがとうございました。

概　　要

山名	景信山		
月日	平成 28 年 1 月 9 日（土）		
山域	高尾	地形図	1/25000　高尾
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A
目的	新年を会友、ゲストの皆様と共に 景信山の餅つきで祝う		
費用	約 4,000 円	交通機関	ＪＲ　バス
行程	我孫子 6:10→　新松戸 6:23/28→　西国分寺 7:25/38→高尾 8:01/27→小仏⇒8:40/9:15⇒景信山 10:30 お餅つき 12:00⇒小仏峠　13:00⇒城山⇒13:10/20　東海自然歩道⇒千良木 14:25⇒反省会 14:40/15:40⇒相模湖 15:59→西国分寺 16:59→新松戸→柏 18:00→　我孫子 18:06 着　　＜歩行時間 4 時間＞		
ルート状況	・小仏～景信山への 1 時間は短いが急登 ・景信から城山　相模湖へのトレールは整備されているが急こう配があり、砂利に足を取られるため注意 ・千良木からは甲州街道を相模湖に向かう。		
参加者	高橋芳(L)、 矢野貞(SL) 、箕輪カ、大畠林、本田、石塚、高橋富　＜会友＞　細野、菊池、ゲスト　榊原、高橋　中野 男 4 名、女 9 名、計 13 名		



山形流合いの手



佐渡流餅つき

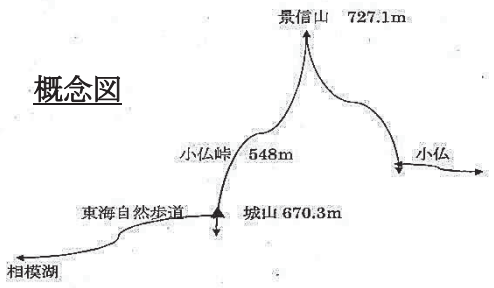
3色お餅→





町の寄合所で反省会

概念図



＜９２６＞ＢＯＭ研修

日光高山
（976m ）

やまたんより転載

雪のない雪山研修、落ち葉で代用



落ち葉の上で歩行研修

快適な陽だまり山行

リーダー総括　武内勇二

①暖冬のためルート上に積雪は全くなく、雪山の体験は出来なかったのは残念だったが、落ち葉だまりを利用して、一通りの実技研修を実施した。BOM 研修生以外の参加者も研修に協力してくれた。

②冬晴れで風も弱く、温かい陽射しを浴びながら、静かで快適な陽だまり山行を楽しむことが出来た。

（ＢＯＭ研修生感想文）

つぼ足歩き、一つ一つ学習

室崎宏治

高山登攀中の風景は、標高をあげるにつけ眺めがよく中禅寺湖を望む景色や、男体山を囲む風景はよくなり其の一点のみで望む以外ないという景色が多かった。温かく、風もほとんどなくいい山行であった。これが、雪山だったら、“雪の岩間に見る月しずかかな”よみひとしらずというのがいいなーと思った。

途中のフラットなところで、アイゼンの脱着、ワカンの脱着と歩き方、中でもツボ足歩きは非常に練習になった。それと、強風時における姿勢とピッケルの使い方、また登攀におけるピッケルの使い方、持ち方、適時休憩を入れながら学習し、一つ一つ学習実践した。また分岐点においては、標高の確認と方向の確認をおこなっ

た。前回の座学を実践する形で行われた。あらためて体が硬いなーと思いながらワカン脱着した。枯葉を踏みザクザクという音を聞きながら花魁歩きをおこなった。これはワカンを回し、外向きに下し、股間になにか挟まった状態で歩くのがいいという。例えば、棒とか、なかなかさまになった歩き方を習得したなと思った。



ワカン装着の練習

葉の落ちた、きれいな男体山

宮野誠司

忙しい中、貴重な時間を割いていただきましてBOM講師の皆様のお礼を申し上げます。奥日光の山にも雪はほとんど無かった。雪の上を新品のわかんで歩けると思っていたので、残念だったが、装着の仕方やピッケルの使い方を教えていただき大変よい勉強になった。下山途中で見た白樺林と男体山は葉の落ちている冬にしか見られない景色でとてもきれいだった。

装備調整、時間費やす

藤家一仁

暖冬の影響もあり雪のない訓練でしたが、座学と実技を行なっていただき雪山における基本的な歩きかた、用具の使い方を習得出来ました。反省点は、事前に自宅で装備を調整してなかったため、紐等の長さの調整に時間を要してしまいました。今後は、軽アイゼンやワカンを装着し雪山を歩く疲労度や寒さに対する工夫等を実践で覚えて行きたいと考えております。講師はじめ先輩の皆様には、貴重な時間をさいてご指導頂きありがとうございました。話しは変わりますが、先日、今回の雪山装備を揃えるため専門店に行き、話の流れで座学や研修もある話しをしましたら、「どこの会ですか？良いですね・・・」と大変羨ましがられました。改めて皆様に感謝いたします。

落ち葉でワカン初体験

村越百々代

雪山体験であるがこの雪不足である。参加者から「まるで陽だまり山行だね。」という声が聞こえるほど穏やかな山歩きになった。でも、そこは岳人あびこの研修。落ち葉の積もった場所でアイゼンをつけて歩き方を習い、実際に登ったり下りたりを繰り返す。その後は初めての体験となるワカンをつけての歩き。足を少し広げて大きな下駄で歩くようだった。「花魁歩きをするのよ」と先輩方からの教えを受け、足を外側に回すように歩く。ワカンは新雪の時に使うもの、ラッセルの仕方、暴風を受けた時の風のよけ方（風は生きているから弱まった時に動ける。）なども学んだ。暖冬の冬はドカ雪が降る…ということを聞いている。一昨年のような雪が降ったら、筑波山にでも出かけて今回の研修を実践したいと思った。（アイゼンのみだが…）



耐風姿勢

雪山は体力が要る

石塚あさ子

雪山の体験と基礎研修であったが、今年は暖冬で雪のない所での研修になってしまったのが残念でした。最初にピッケルの持ち方を教わり、バンドをたすき掛けして出発、山側に持ち替えながら登りました。落ち葉を雪に見立ててツボ足走行、キックステップ走行、ヒールステップ走行の実践、カサカサと乾いた音が何かさみしく感じました。それから、アイゼンを付けての歩き方、ガニマタ歩きの練習です。実際気温の低い雪山では、素早く確実にアイゼンを装着しなければならないので、時々練習して慣れておかなければと思いました。アイゼンは何度か履いた事がありますがワカンは初めてでした。田舎での昔のかんじきを思いだしました。おいらん歩きの外側に雪を散らしながら歩く歩き方

は足に力が要ります。今回の研修でいろいろ教えていただきましたが、雪山はやはりかなり体力が必要になると感じました。雪のある時に又研修してみたいと思いました。いろいろお世話になりました。

概　要

山名	日光高山		
月日	平成２８年１月１１日（祝）		
山域	日光	地形図	1/25000 男体山
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	①雪山体験　②雪山基礎（BOM 研修）		
費用	約 5500 円	交通機関	ＪＲ、東武
日程	我孫子 5:31→北千住 5:55/6:31(東武)→東武日光 8:25/8:37（バス）→滝上 9:40/10:00⇒衣服調整 10:25/10:35⇒標高 1565m付近 10:50/11:40(雪上歩行の研修）⇒高山 12:15/12:45(昼食)⇒分岐(1470m付近）で地図読み 13:25/13:35⇒林道 14:00⇒しゃくなげ橋 14:15⇒赤沼茶屋 14:30/15:08（バス）→東武日光 16:10/17:25（反省会）→北千住 19:02/19:08→我孫子 19:30 ＜歩行時間　3 時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・ルート上に全く雪がなく、無雪期登山となった。 ・高山頂上直下の小田代ヶ原への下りは、急峻な斜面のトラバース。		
参加者	村松（指導）、武内（総合）、外崎（L）、郷田、大山、矢野貞、本田、宮野誠、藤家、石塚、村越、室崎、高橋冨、小島（BOM 研修生 7 名）　男性 7 名、女性 7 名、計 14 名		

楽しく落ち葉の上歩く

高橋冨美子

ぽかぽか陽気の中　雪山基礎訓練の為、高山に来ました。ほとんど雪が無かったので、ふかふかの落ち葉を雪に見立てアイゼン、輪かんの着け方、歩き方、ピッケルの使い方を勉強しました。日がさして暖かでしたので、スムーズに装着することが出来、楽しく落ち葉の上を歩いてしまいました。雪山など、とても私には無理だと思っておりましたが、この訓練で今は本物の雪の上を歩いてみたいと思います。リーダー　講師の先生　皆様有難うございま した。

頂上到着　幸せな瞬間

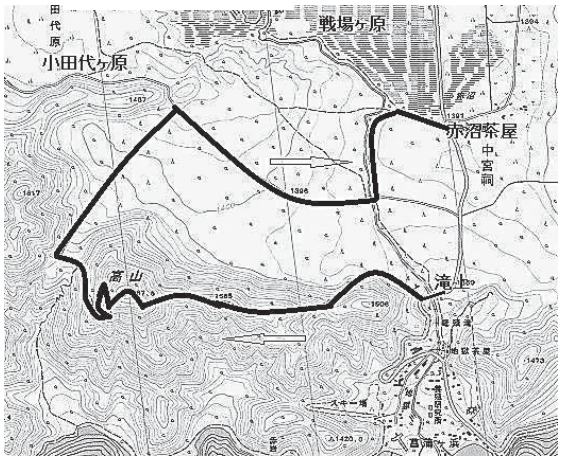
小島洋子

BOM 雪山体験の研修として日光の高山山行に行ってきました。我孫子発 5 時 31 分の電車です。私は春日部より乗車、日光駅に着き、湯元温泉行きバスに乗り滝上で降りました。いよいよ登山開始、雪山訓練なので雪が欲しいのですが、雪は 1 センチほどでした。残念です。雪山体験にはなりませんでしたが、しかし、葉っぱの上で講師の方々が親切に①アイゼンのつけ方。②ワカンのはきかた。③平面はツボ足で歩く。登りの時はつま先でけりながら歩く。下りは踵を着席して進む。④風の時の止め方。ラッセルの仕方。を、なだらかな傾斜で実践しました。実際にアイゼンを着けたりワカンを履いたりと簡単には行きません。雪が多いと寒いので尚更です。常日頃練習をすることだと思いました。さて、高山の頂上に 12 時 15 分到着。冬の空気の澄んだ青空と中禅寺湖が眼下に見えました。達成感と幸せな瞬間です。小 1 時間ほど歩きました。会長がここの位置はどこか、地図読みをしました。私は理解が不足でしっかりと覚えなくてはと反省をしました。赤沼茶屋に 14 時 30 分に到着。バスが出たばかりで 30 分ほど待たされました。標高が高いのでバスを待っている間、寒さがこたえました。日光駅近くのお店で反省会。名物のゆばそばを食べました。有意義な 1 日でした。色々研修をしてくださり心より感謝しております。ありがとうございました。



高山山頂

概念図



＜９２７＞新年山行

蛾ヶ岳・三方分山

（1,279m）　（1,422m）

武内　勇二

薄い踏み跡を辿って三方分山へ



暖かい日だまり

蛾ヶ岳～三方分山の縦走は、岳人あびこ５周年山行（富士周辺の山々）の一つとして 12 名が参加して行われている（平成 13 年４月）。今回、新年山行で同じルートを歩こうとの計画に乗っかり参加を決めた。参加者７名のうち前回に引き続いての参加は、外崎さん（L）、村松さん(SL)と合わせ３名だった。ルート状況は殆んど記憶になく、ただ２日目の三方分山を喘ぎながら登ったことと、三方分山女坂峠の下りでパーティメンバーの一人が怪我をした記憶ぐらいだった。冬晴れの富士山を間近に見るのも楽しみの一つでもある。

新宿発 7：00 のスーパーあずさ１号に乗り、甲府駅からワンマンの身延線に乗り替え、無人の市川本町駅に到着した。見事に晴れわたった天気はいいのだが、暖冬の影響で雪のかけらもないのはちょっぴり寂しい。駅舎を出て踏切を渡って石段を上がる。車道を真っ直ぐ登り市川中学校の横を過ぎて、20 分程で中国風の建物が建つ大門碑林公園に到着した。ここから四尾連湖への登山が始まる。急坂ではないがそれほど緩くもない林の中の切通し道を登る。先頭を行く村松さんのペースがやや速く、正月太りの体にこたえる。うっすらと汗をかいた。標高 568m 付近で一服して汗を止めた後、古城山の砦の分岐(標高 717m)を過ぎて程なく、烽火台に登る木の階段の下に出た。手摺につかまりながら階段を登り、小高くなった台地に出た。北方が開け、笛吹川一帯に広がる甲府盆地、八ヶ岳や金峰山、そして白色に輝く北岳を眺めながら昼食を採った。陽射しはあるが風はやや冷たい。南側斜面の木立の中に、崩れつつある東屋が立って居た。

ほどなく着いた四尾連峠には、湖の自然を唄った野沢一の立派な歌碑が立っている。石碑の歌詞を皆で読み解く。「ああ　されど湖のみはいつもながらの風光にかげうららかに　桃の枝は育ち栗鼠はないて　小鳥はあのたのしいさわがしい唱をうたい　やまは立ち　水はほとばしりいでて　とこしえに　しびれことたたえられてあれよ」。山行後に調べてみると、野口一は明治 37 年生まれ、大学中退後四尾連湖畔の丸太小屋で 5 年間独居生活を営んでいる。そのときの詩らしい。当時は、勿論電気などは通っておらず、近づいてはいけない暗い怖い湖だったらしい。ちなみに中学は日川中学で、村松さんの先輩でもある。



三方分山

峠から下ること約 10 分で本日の宿、水明荘に到着した。若主人に迎えられ、綺麗な女将さんに湯茶を振舞われた後、湖の散策に出かけた。清らかに澄んだ湖面に周囲の山が投影し、まさにシビレるほどの風景だ。日帰りのバーベキューを楽しむ家族も何組かはいたが、湖は静寂に包まれていた。

翌朝は６時半に出発、大きな駐車場脇から道標に導かれ登山道に入る。尾根に出たところに大畠山の標識があった。地図で確認すると大畠山の三角点は（1117m）少し左に入ったところにあるが、割愛して右へ蛾ヶ岳への道を進む。落葉が深く積もった山腹の道を巻くと、六地蔵が佇む西肩峠に着く。山頂までは 15 分ほどの

直登。祠の立つ山頂からは四尾連湖を挟んで真っ白な白根 3 山や薄雪の甲斐駒がよく見えた。しかし、期待した富士山はうっすらとした雲に隠れていた。

蛾ヶ岳から三方分山への道はロープが張られた急降下で、土が階段状に切られてはいるものの落ち葉が深く積もっているので、段差に注意しながら下る。急降下が終わると、陽だまりの中、樹間の眺望を得ながらの道である。「水場」の案内板や古くて読み難くなっている「鴨の狩場」の表示板を見て後、大平山の山腹を巻くと折門峠に出た。ここで道は急角度で左に曲がる。水明荘の主人から「真っ直ぐ行くと集落に出てしまうので注意してください」とアドバイスを受けた地点である。

大ツガが聳える地蔵峠からは、尾根を外して八坂の集落へ下っていく。途中、「**←蛾ヶ岳　・地蔵峠　八坂集落→**」の新しい標識があった。地蔵峠を通ってここまで下りてきたのに???立てる場所をまちがったのかな？　やがて車道に出た。ネットの国土地理院の地図には釈迦岳近くの稜線に出る登山道は分かりにくい。新しい車道が建設されているため、平成 7 年の地形図では対応できなかった。「精進湖」の道標の指示に従い車道を緩やかに登る。水明荘で貰った案内略図では 650m 程で右の登山道に入ると記載されている。B コース（三ツ沢・三方分山）の案内板があったが、昔の記憶を辿って先を行く村松さんに引きづられるように車道をそのまま直進した。しかし、曲がりくねった車道を進むも、一向に登山口が見当たらず、30 分ほど行ったところで引き返した。その途中、通りかかった 1 台の軽自動車を止め道案内を請うたところ、登山口まで案内するからと、わざわざ U ターンして引き返してくれた。まさに、地獄に仏とはこのことだろう。教えてくれた地点は、なんと我々が引き返した所より直ぐ先の地点だった。もう少し行っていればと悔しい思いをしながら、分岐点に着きそこで昼食とした。

そこには、三方分山の標識はあるものの、登山道の踏み跡は薄く、ザレている箇所もある代物だった。ほとんど廃道に近く、薄い踏み跡を辿り、藪漕ぎ紛いの登りを強いられたが、15 分ほどで稜線に出てほっとした。ややなだらかになった標高 1297m 地点を通過し、右方向から登ってくるルート（三ツ沢峠）に合流、更に 100m 強の標高を稼いで三方分山頂上に達した。貰った案内略図とは違うルートで、最初にあった標識のルートが正解だったと思えるが、その道もずるずるして歩きにくい辛い登りとの山行レポートもあるので、どっちもどっちだったのだろう。

三方分山から望む富士山は、雲の上に頂を屹立させていた。上空にも薄雲があり、必ずしも期待通りとは言い難かったが、見えただけでもラッキーだった。三方分山まで四尾連湖から 12km、ここから女坂経由精進湖まで 4kmの標識があった。笹の間の道はよく踏まれているが、女坂峠までの間には急降下や崩壊が道に迫っている箇所もあった。前の山行で、パーティメンバーが滑って怪我をしたのはどのあたりだったろうか。

女坂峠（別名阿難坂）には、峠の名前の由来を書いた案内板があった。「身重の女性が道中に出産後、母子ともに亡くなり、そこに埋葬され供養のため、子を抱いた石地蔵を立て、この石地蔵が女石と呼ばれた」ことに由来するとの悲しい話が綴られていた。ここからは道幅も広くなり更に歩きやすくなる。沢に出合い、堰堤が見えると精進の集落は近い。道に沿った集落も、半数ほどは空き家となり、痛々しい姿の家屋も見られる。

富士宮からのバスは定刻の 15:17 に到着、河口湖駅で殆んど待ち時間なしに 16:00 発の新宿行きホリデー快速に間に合った。

雪はなかったが、葉が落ちた冬枯れの木々の間からの眺望を楽しみ、室崎さん、大平さん差し入れの美酒（万寿並びに八海山）に酔いしれた楽しい新年山行でした。計画してくれた外崎さん並びに仲間に乾杯！！！



悲しい碑のある女坂

概　要

山名	蛾ケ岳・三方分山		
月日	平成 28 年 1 月 16 日（土）～17 日（日）		
山域	御坂山塊	地形図 1/25000	市川大門・精進
形式	山麓泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	①　新年を祝う　②初富士を愛でながら、四尾連湖から精進湖に向けて縦走する		
費用	約 18,000 円	交通機関	ＪＲ、バス

日程

1日目

我孫子駅 5:31（常磐線快速）→日暮里駅→新宿駅 6:48/7:00（あずさ 1 号）→甲府駅 8:28/9:05(身延線)→市川本町駅 9:41/9:50 ⇒市川中学校⇒古城山の砦への分岐 11:20 ⇒烽火台 11:45/12:10(昼食)⇒四尾連峠(文学碑公園) 12:50/12:55⇒水明荘 13:05 着　　四尾連湖周囲散策 ＜行動時間: 3 時間 30 分＞

2日目

水明荘 6:30⇒大畠山 7:10/7:15⇒西の肩・六地蔵 7:55⇒蛾ガ岳 8:10/8:25⇒折角峠 9:20/9:30⇒大ツガの木(地蔵峠) 9:40/9:45 ⇒杉林を下って車道へ 10:25⇒B コース（三ツ沢峠・三方分山）の案内板を見送る⇒長い車道歩き⇒三方分山の案内板 11:40/12:00（昼食）⇒崩壊地を登って稜線へ 12:15/12:20 ⇒ 1297 m ピーク 12:40/12:45⇒三方分山 13:25/13:40⇒女坂峠 14:10/14:20 ⇒精進バス停 15:00/15:17（バス）→河口湖駅 15:55/16:00（ホリデー快速、富士山２号）→大月駅 16:45/18:39（中央線快速）→西国分寺駅→新松戸駅→我孫子駅 21:08 着 ＜行動時間:8 時間 30 分＞

身延線市川本町駅→四尾連湖→蛾ガ岳

・駅の線路を渡り、戻り気味に左手へ。ｶｰﾌﾞになった所からｺﾝｸﾘｰﾄの階段を登って集落の中を南へ。左手に市川中学、山手に平塩源氏の館、その脇から登山道に入る。道は深くえぐられているが、歩き易い。
・浅間社（古城山の砦）に通じる分岐から 30 分ほどで烽火台。急な木の階段を上ると台地。今にも崩れそうな東屋がある。
・四尾連峠には野崎一の詩碑があり、文学碑公園とも呼ばれている。
・四尾連湖畔には２つの宿（水明荘と龍雲荘）とﾊﾞﾝｶﾞﾛｰ、ﾃﾝﾄ場、炊事場等がある。
・大畠山へは、駐車場から左手に 30mほど行った右手に標識あり。登りつめた地点が大畠山。地図上の大畠山はもっと左手にあり、山頂にアンテナがある。道が複雑なため、ここを大畠山にしている。
・蛾ガ岳は右手へ。積雪時には緊張するような両側が切れた細い道が出てくるが、西肩峠まではほぼ平坦。薄暗い峠の道の真ん中に一石六地蔵が立っている。小さいので見落としてしまいそう。

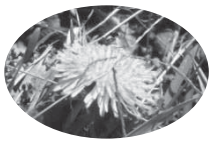
ﾙｰﾄ状況

蛾ガ岳→三方分山→女坂峠→精進バス停

・蛾ガ岳の直下は山側にロープが張られ、階段状にステップが切られてあるが、切れ込みが浅いので滑りやすい。
・大平山は山腹を巻く。折角峠に着いたら左へ鋭角に曲がる。直進はしない。
・折角峠から 10 分で地蔵峠。別名大ツガの峠。巨大な古木のツガの木が真正面に立っている。直進して、有るか無きかの踏み跡の尾根を進むには勇気がいる。ここは、檜林のよく踏まれた右の道へ。
・やがて八坂集落方面の車道に出る。左手へ。三方分山の登山口を探して車道を登り気味に進む。途中、左手の高台に一軒だけ小屋（民家）が出てくる。
・貰った略図を頼りに 650mほど行くと、車道が直角にカーブする箇所に新しい標識がある。「B コース（三ツ沢・三方分山)」
・さらに車道を登り、左手上部の峠に向かって道が曲がった基部に、三方分山の小さな標識が立っている。見落としやすい。
・基部から斜め上部の稜線までは登山道が完全に崩壊している。山砂がザラザラ崩れ、片足も置けないほど。今では歩かれていないもよう。稜線を左に行けば釈迦ヶ岳、三方分山は右手に行く。
・1297mピークの先で、右下方の三ツ沢峠からの道と合流する。合流点にはピンクのリボンがたくさんぶら下がっている。
・三方分山は、かつての古関村、八坂村、精進村が均等に三分割されていることから付けられたと言われる。東側一方向のみ開けている。
・三方分山を右に行けば精進山を経て精進峠へ。今回は左に行き女坂峠へ下る。山頂直下はザレたジグザグの急斜面で、疲れた足元には注意が必要。
・女坂峠（阿難坂）から 150mほど下ったあたりから沢沿いの道になる。堰堤を巻き、薄暗い林を抜けると精進の集落に出る。廃墟の建ち並ぶ中を真っ直ぐに行ってバス道路に出る。バス停はすぐ右手にある。

参加者

外崎(L)、村松(SL)、武内、矢野裕、石塚
室崎、大平
男性 4 人 女性 3 人 計 7 人





水明荘　豪華な夕食　　↑



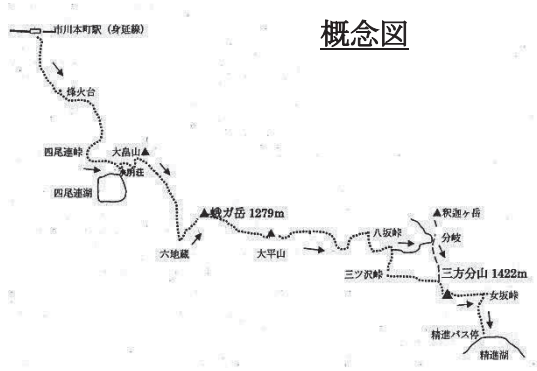
林道から直登　↑





蛾ガ岳山頂からは南アルプス
眼下には四尾連湖

概念図



＜９２８＞県連房総ロングハイク

津辺野山・石尊山～麻綿原～清澄妙見山
(259m)　　(348m)　　(377m)

箕輪　カオル
新谷　直恵

県連山行・東大演習林を歩く



とみやま水仙遊歩道

1日目（30日　　**箕輪　カオル**

全国的に雪又は雨の予報通り、我孫子も予報に違わず朝から小雨。我孫子駅北口をバスも予定通り出発。３０分ほどして鎌ヶ谷市役所駐車場で他の会の皆さんと合流。幕張サービスエリアで休憩して、一路ふらり道の駅に到着。バスの中でハイキング委員長から、雨ではあるが山歩き組と水仙ロード歩き組を提案される。私たち岳人あびこは、参加数１０人中４人が山組に他６人が水仙ロード組を選択。私は水仙ロード歩きを希望し、２時間弱の水仙散策を楽しんだ。

バスは８時３５分ふらり道の駅に到着。道の駅開店は９時だったので、買い物までの時間を身支度にあてた。山組を送り出した後、６人は七里川温泉での懇談用食材を調達してから散策に出る。今年は、暖冬なので水仙は見頃を過ぎていると思ってはいたが、奥の方に行くほどよく咲いていた。水仙の道なりを進んで行くと、さらに梅の花や彼岸桜、菜の花、椿等々に出会い心が和んだ。色鮮やかな蜜柑も目に付く。さらに坂道を進むと明るく開けた展望所。今、来た道の駅をはじめ、保田浦が一望出来た。それにしても、晴天の展望を満喫したかった。雨が

上がっても風が冷たく、歩いても中々体が温まらなかった。暖かい飲み物が癒しとなった。山組も同じ気持ちに違いないと思いながら･･･。

七里川温泉では、全体オリエンテーションまでの間、入浴と囲炉裏焼きをした。私たちも１２月の忘年山行を思い出しながら、再びの囲炉裏焼きを楽しんだ。オリエンテーションは、明日のコース説明や注意事項, 各会の紹介等を行った。東京世田谷区の山友会から３名の参加者が紹介され、約７０名の参加人数の報告がされた。高齢者の集まりとは感じさせないほど、県連の熱心な取り組みに、また参加者に唯々感じ入った。

２日目(31 日)　　新谷　直恵

山麓にある鄙びた温泉宿、七里川温泉を朝６時に出発することになっていた。私たちは５時に起床して準備を整え、用意されていた朝食、昼食と、暖かいお茶をロビーに受け取りに行く。前夜は千葉県連のそれぞれの山の会報告が続く交流会が催され、温泉で温まった体を岳人あびこ女子だけの個室でゆっくりと休ませていただいた。

装備を整えて外に出るとまだ暗く、それぞれにヘッドランプをつけて待機。総勢６６名のなか岳人あびこ１０名は、柏に続いて２番目にスタート。１時間ほどで石尊山に到着。その頃には夜も明け、林の向こうに明るく輝く朝日が昇る。

そこから道は尾根歩きになるが、前日まで降った雨のために道は滑りやすく、さらに倒木で道がふさがれているところも少なくない。道を選びながら、そしてところどころで起きる渋滞を待つため予定の時間は徐々に遅れていく。数年前はひたすら尾根を歩いたが、今回は倒木や崩壊の場所が多く、迂回路が増えていたように思う。

山の向こうに面白い風景が垣間見えた。みなが「くらげ山」と呼ぶが、なるほどヒョロッと伸びる細い幹の上に広がる杉の葉は、まさに宇宙船を思わせるくらげ状。やがて、待望のもみ二郎が現れ、続くもみ太郎の木の下で記念撮影。百年を超える見上げるばかりの大木にはさすがに圧倒される。

房総の山はいずれも標高２００メートル台と高くないが、この尾根道を歩く限り、その両側に広がる山の層は深く、まさに千葉の貴重な原生林だ。夏はヒルが出るとあって、ここを歩くのは冬に限るという。

麻綿原に着いたのは１１時。予定の時間を大幅に遅れたこともあり、昼食休憩後に中途打切りが決定された。計画では麻綿原より東大の演習林を４時間ほど歩く予定だったが、一杯水林道を経由して清澄寺に行き、裏山に当たる清澄妙見山に登ることとなった。長い参道でもある。さらに清澄寺境内を思い思いに散策した後、バス停まで歩く。バスは１３時半に出発したが、途中渋滞していたこともあり、我孫子着は１７時半となった。

天気予報が外れて、雨が降らなかったばかりか、お昼頃には暖かい陽射しもあり、素晴らしい山行日和になったことはじつにありがたかった。他の山の会の方々との交流があり、また８０歳を超えるリーダーご夫妻にはじつに多くを励まされた。



くらげ山
（千葉県連が名づけたオリジナルネーム）



津辺野山



清澄妙見山山上にて

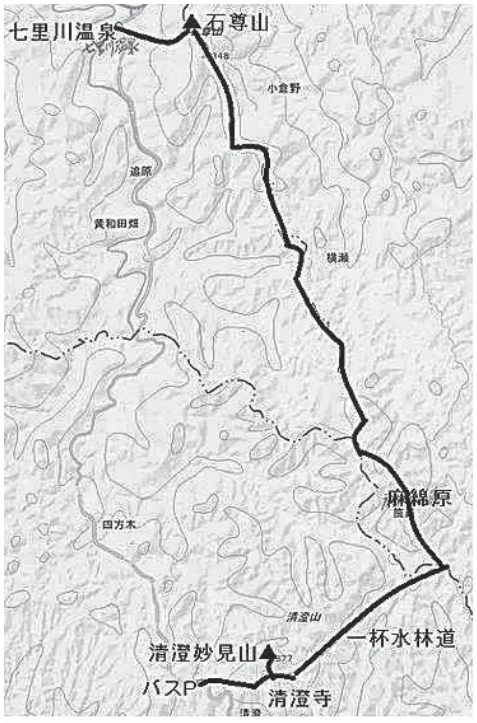


常緑広葉樹の原生林の尾根を行く モミ次郎

概　要

山名	津辺野山・石尊山～麻綿原～清澄妙見山			
月日	平成２８年１月３０日（土）～３１日（日）			
山域	南房総	地形図	1/25000 上総中野	
形式	テント	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	1A	
目的	①労山仲間との交流　②常緑広葉樹の原生林を歩く			
費用	約１２，０００円	交通機関	貸切バス	
日程 1日目	我孫子駅北口 6:00→鎌ヶ谷市役所 6:30/6:45→ふらり道の駅 8:35→①②別行動→ふらり道の駅 13:35→七里川温泉 14:00(泊) ①津辺野山コース（4名） ふらり道の駅 9:15→道路脇採石場 9:20/35⇒塚原登山口 9:40⇒西側絶景地 10:10⇒西峰山頂 10:35 津辺野山山頂 11:00⇒峰岡中央林道入口 11:50⇒別荘地分岐（昼食）12:00/12:20⇒道路脇採石場 13:30→ふらり道の駅 13:35 ＜歩行時間　３時間４０分＞ ②とみやま水仙遊歩道コース（6名） ふらり道の駅 9:45⇒とみやま水仙遊歩道⇒ふらり道の駅 11:45/13:35			
日程 2日目	七里川温泉 6:05⇒石尊山 7:05⇒もみ次郎 9:00⇒もみ太郎 9:45⇒麻綿原 11:00/11:20⇒清澄寺 12:35⇒清澄妙見山 12:45/12:55⇒清澄駐車場 13:30→我孫子 17:40 ＜歩行時間　約４時間４０分＞			
ルート状況	・石尊山～麻綿原は小さなアップダウンを繰り返しながら尾根を歩く。 ・常緑広葉樹の原生林は静寂に包まれ、房総の自然を堪能できた。			
参加者	高橋芳（初日L）、武内（２日目L）、北田、坂巻（SL）、本田、新谷、箕輪カ、石塚、矢野貞､桐生　　男性３名 女性７名　計１０名			

概念図



＜９２９＞

鐘撞堂山～羅漢山
(330m)

石塚　あさ子

羅漢五百体並ぶ



鐘撞堂山　山頂でのスナップ

前日の夜から雪の天気予報にはらはらしながらも、当日の朝は雪も積もる事もなく晴れの予報通りでホッとして出発しました。
池袋よりだんだん目的の駅寄居に近づくにつれて、電車の窓より見える景色は夜に降った新雪で真っ白な雪景色です。8 時過ぎ寄居駅で準備運動等身支度を整えて出発です。しばし街中を通り国道 140 号の天沼陸橋入口交差点を渡り、さらに進むと大正池に着きました。池には水が入っていませんでした。道すがらあちらこちらに梅の花が咲いておりとても綺麗です。このあたりまで来るとまわりに昨夜の雪があります。林道に入り後ろから 1 人のおじさんが私達に挨拶をしながら追い抜いていきました。それから少し行って竹炭工房に着きました。ここで一休みです。何とさっき追い抜いて行った人は、竹炭工房のおじさんでした。おじさんは火を焚いてお湯を沸かして、生の真竹を切ったカップでコーヒーをご馳走して下さいました。真竹のカップで飲むコーヒーはまろやかで美味しかったです。竹炭は脱臭効果等いろいろ効能があり、また炭にするのが難しく、注文に追い付かないそうです。
炭焼き小屋の横を右に曲がり竹林の間を進みます。周りの景色は木々に雪が霧氷の様に着いて白い花が咲いた様でとても綺麗です。何時もの冬枯れの景色と違って格別です。
尾根道に入り円良田湖への分岐を過ぎ急登になります。今日一番の急登です。階段状の登り道を何人か登り、後ろ半分は白い雪面に足跡を付けて右からの巻道の方へ。巻道の方も最後はロープの張ってある急登ですが、ここを登り切って鐘撞堂山の山頂到着です。一面雪で真っ白です。
寄居には昔鉢形城という城があり、城下町の見張り場として鐘撞堂を置いた事が、鐘撞堂山の名前の由来とか。その名の通り、天気も良く展望も素晴らしい山です。そしてさらに展望台に上ると遠くには東京の高層ビル、スカイツリー、左側には筑波山も確認出来ました。反対側からは、青い空と雪をかぶって真っ白な日光連山がまぶしいです。小さな鐘つきの前で記念写真を撮りました。傍らのベンチに誰かが作った小さな雪だるまがのってました。目鼻がなかったので、斎田さんと裕子さんと私で目鼻を付けてあげました。
下山は頂上より下り尾根を少し歩いた所の分岐から円良田湖の方へ下りました。沢沿いの道に入り、登ってくる人数人と会いました。樹木の上の雪の輝きがまぶしく気持ちの良い道を歩き広い車道に出ると円良田湖が見えてきました。車道を横切り羅漢山へと急な階段登りました。約 30 分で頂上に着きました。東屋がありここで昼食です。空気が冷たく寒いので早めに下る事にしました。ここからの下りが楽しいのです。羅漢様がジグザグの道に五百も並んでいます。笑っている顔、考え事している顔、一つとして同じ表情の顔がありません。どれ位の間ここを通る人を見守ってくれているのだろうか。羅漢様を見ながら皆でワイワイ言いながら下ると少林寺というお寺に着きました。お参りに行くとお年賀と書かれたポチ袋が置いてありご自由にどうぞと書かれてあります。お賽銭を上げお参りして頂いてきました。何と中身は干支の金太郎飴でした。ここからは、高台にあるかんぽの宿寄居まで、梅の咲く畑を抜け、民家の間の道を通り、最後の登り坂を頑張り着きました。
お風呂は展望風呂で 6 階にあり、とても眺めがよく、気持ちのいいお風呂でした。ゆっくりと休んで 14：30 分に宿のバスで寄居駅に向かい帰ってきました。竹炭工房、羅漢様等心和む山行でした。

＜９３０＞

北八ヶ岳・東天狗岳

（2,640m）

齊田　記代美

雪化粧の山頂、夜は満天の星



急斜面でのステップの切り方を練習しながら

朝５時、家を出ると道路が濡れていて、「あれ？天気予報通り雪降った！」と思いながらとても冷たい空気の中を柏駅へ急いだ。新宿駅からスーパーあずさ１号で茅野駅へ向かう。

八王子辺りの車窓は雪景色で木々や山が薄っすらと雪化粧した景色は素晴らしく美しく、みんなの口から感動の声が漏れてきた。「これで青空だったら最高だね」「今日の北八ヶ岳は新雪が期待できるかな？！」などと話しながら堂々とした甲斐駒ヶ岳が見える辺り来ると、麓には次第に「あぁ、雪がない」とため息に変わってきた。茅野は春のように暖かかった。

タクシーで渋御殿湯に着いた時、下山してきたグループに聞いてみると、山道は凍っているとのこと。さっそく橋の手前で、アイゼンをはいて出発した。

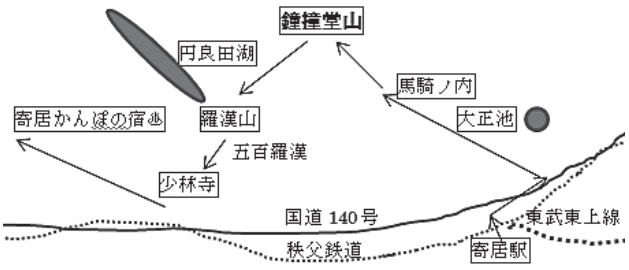
八王子辺りのような新雪は全く無く、氷と岩の山道を一歩一歩確実に歩かなければならなかった。唐沢鉱泉への分岐辺りからは、次第に締まった雪になりアイゼンが雪を噛んで気持ちよく歩け、みんなの足取りは快調だった。ただ沢に架けてある金網の橋には雪がついていないので、アイゼンの刃が引っかかりそうで慎重に渡らなければならなかった。（案の定、帰り道に私はしっかりそのアミに引っかかって飛ばされてしまった。膝小僧を打って痛っ！）

樹林帯を抜け、黒百合ヒュッテに着くと、風も無く雲一つない晴天となる。明日もこんな好

概　　要

山名	鐘撞堂山～羅漢山		
月日	平成 28 年 2 月 7 日（日）		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000 寄居
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	展望の良い里山と羅漢さまに癒される		
費用	約 3000 円	交通機関	ＪＲ・東武東上線・武蔵野線
日程	我孫子駅 5:31→日暮里 6:01/6:09→池袋 6:22/6:30→小川町 7:35/7:36→東武寄居駅 7:54/8:12⇒大正池 8:43⇒馬騎ノ内 9:05⇒/9:30⇒鐘撞堂山 9:55/10:05⇒円良田湖 10:35⇒羅漢山 10:47/11:10(昼食)⇒少林寺 11:30/11:35⇒寄居のかんぽ♨12:30（入浴・反省会）14:30→寄居駅 15:04→朝霞台 16:12⇒北朝霞 16:24→新松戸 17:02/17:11→我孫子駅 17:24		
ﾙｰﾄ状況	・寄居駅から大正池辺りまでは、住宅地を歩くが国道の看板に大正池方向があるので迷うことはない ・山頂から幾つかのルートがあるが、登って来た道を少し下りて円良田湖への下山を行くと円良田湖を右に見て左方向に行くとすぐに羅漢山への階段になる ・少し日陰では雪道を歩いたがアイゼンを履くほどではないが、凍っている個所もあったので、注意して歩いたので問題ない		
参加者	本田(L)、箕輪完(SL)、中村八、矢野貞、桐生、斎田、矢野裕、渡辺、大平、石塚、村越、室崎 男３名、女９名　計１２名		

概念図





鐘撞堂山山頂から下る

天とは限らない、好機を逃すことはないと、行動食を立ち食いし不要の荷物を置いて、３時半下山を目標に天狗岳を目指した。

訓練のために樹林帯では速足(私にとってであって、本当は早くないとリーダーは言っていた)に挑戦した。途中の急斜面ではピッケルの使い方や、ロープを張り一人一人ロープを使って登る練習をした後、登頂した。去年３月、山頂から雪煙が上がっていて風が強いということで登頂を断念した経緯があり、山頂からの眺望の素晴らしさに、さらに強く感動した。夜は、満天の星を眺めて床に就く。

翌朝は曇り空で、ヒュッテの前の斜面に下見に出かけた一人は、顔が歪むくらい寒いといって戻ってきた。今日は雪上訓練ということになり、ヒュッテの中で緊急の時にロープ、シュリンゲとカラビナを使ってどうするか、という練習をしたあと、向かいの斜面で雪上訓練をすることになった。

急斜面の斜め歩きとピッケルで斜面を削りながらの登りかた、急斜面での滑落の時のピッケルの使い方、ロープを使っての斜面の降り方、滑落と確保の方法など、役割分担しながらの実践練習をする。わざわざ、滑落をするのも難しいものです。また、滑落をする人を確保するために、自分も滑落してしまい、セルフビレーの大切さも実感した。すっかり冷えたところで、ヒュッテで食べたラーメンは格別の味でした。

朝、ヒュッテから帰りのタクシーの時間の確認電話をし、一時半に、渋御殿湯に迎えをお願いする。ぴったりの時間に下山したので、タクシー運転手さんに感心された。

そのくらいすべての面で順調な山行が催行され、本当に有意義で楽しい２日間を過ごすことができました。

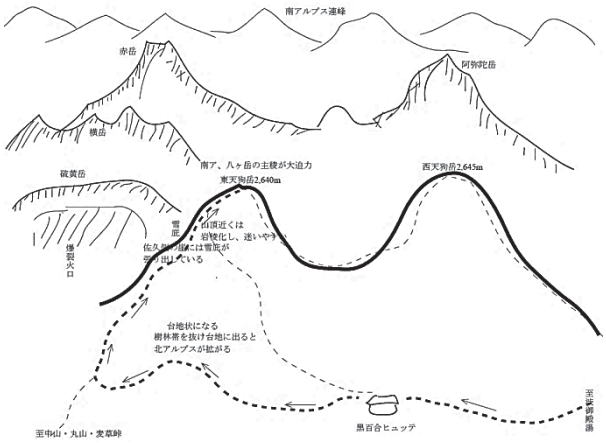


黒百合H前の急斜面を歩行訓練、キツク！



山頂は風が弱まり、赤岳、阿弥陀岳の八ヶ岳の主峰、南アルプスのジャイアンツのパノラマが拡がっていた。

概念図



概　　要

山名	北八ヶ岳・東天狗岳		
月日	平成２８年２月２５日〔木〕～２６日〔金〕		
山域	八ヶ岳連峰・北八ヶ岳	1/25,000 地形図	蓼科、松原湖
形式	山小屋	グレード	３Ｃ
目的	１．雪上訓練　　２．天狗岳登頂		
費用	約23､000円	交通機関	ＪＲ、第一交通Ｊタクシー
日程 1日目	我孫子駅5:31→日暮里駅6:01/6:04→新宿駅6:24/7:00→Ｓあずさ１号→ 茅野駅9:08/9:20（タクシー）→渋御殿湯1,880m9:50/10:10⇒唐澤鉱泉・八方台分岐 10:40/10:45⇒唐澤鉱泉分岐11:20/11:30⇒黒百合H12:15/13:30⇒東天狗岳15:20/15:30 ⇒黒百合H16:10 ＜歩行時間4時間30分＞ :晴れ〔風速最大１５m〕ｱｲｽﾊﾞｰﾝ		

	2日目	午前中:雪上訓練〔8:30～11:05〕黒百合H 12:00⇒唐澤鉱泉分岐12:30⇒唐澤鉱泉・八方台分岐12:50/12:55⇒渋御殿湯13:40/13:50（ﾀｸｼｰ）→茅野駅14:30〔反省会〕15:18（特急）→新宿駅17:27→神田駅→上野駅18:06→我孫子駅18:44 ＜歩行時間：1時間35分＞ 晴れ後曇り〔風速最大20m〕ｱｲｽﾊﾞｰﾝ
ルート状況		・茅野駅～渋御殿湯間は全く雪がなかった ・渋御殿湯で下山して来た人はアイゼン着用。登山道の状況を訊くとガチガチに凍っていると云う。直ちにアイゼン装着 ・北斜面を登るが雪は唐澤鉱泉分岐手前までは疎らで岩が露出、根雪の部分は完全に氷結 ・唐澤鉱泉の分岐から凍ってはいるが漸く雪が現れた ・頭上は風が舞う音がするが樹林帯で風が遮られ、快適にピッチは上がる ・アイゼンが確り氷に食いこみ実に快適なペースで黒百合Hに到着、風は強いが東天狗岳を登る時間はあるので、直ちに出発。 ・新雪は全くなく、ウッスラと付いたトレースを辿って樹林限界を抜け、大斜面を左側の崖に沿って登る。 ・氷雪でガチガチ、大斜面もルートはハッキリしている ・ストックも途中にデポし、ピッケルに持ち替えて登る ・五本指の手袋は岩登りのような作業を伴う場所では便利だが、低温での強風に煽られるところではミトンの効果を実感
参加者		大山(L)、田村(SL)、北田、中村育、矢澤、高橋富、齊田、本田、室崎 男性４名、女性５名　計９名



80センチシュリンゲ8の字使用ボディ摩擦を使った下降

＜９３１＞

大山
（1,252m）

高橋　芳恵

雪道　気持ちの良いサクサク歩き



ミズヒの頭への急登

久しぶりに秦野市在住の北川さんリーダーの山に参加をお願いした。大山は何度も登ったことがある山であるが、北尾根からは初めてで期待も大きかった。幸いにも土曜日でヤビツ峠までバスが運行されており、平日であれば蓑毛から 1 時間は余分に歩くことになったがラッキーであった。ヤビツ峠のトイレの裏側から沢沿いに道を下り、沢水はなかったが、枯れ沢にところどころに雪が残っているが気持ち良い歩きである。キャンプ場でもある青山荘の脇を抜け、林道を下って、地獄沢橋で登りとなる。ここから先はミツマタの群落に出会い、行けども行けどもミツマタが続く。ミツマタは地味な花であるが群落となるとそれは見事であった。紙の材料として植林されているかと考えた。

登りはいつでもきついが花の彩があることで大いに励まされた。880m地点で昼食を摂り、その後、稜線歩きとなったが、かなりの雪が残っており、雪山に出かけたような気分で雪道をサクサクと気持ちよく歩いた。湿った雪ではないので靴も衣類も汚れることなく快調に歩くことができた。ミズヒの頭、西沢の頭の先には大きなパラボラアンテナをつけた大山がそびえている。もう一息もう一息と進み、大山神社奥の院の横に到達した。それにしても楽しい山

行であり、山登りのツウの北川リーダー、山行部長ならではのコースであった。頂上でしばらくおしゃべりを楽しみ、丹沢の景色を堪能した。下社までのごろごろ石の下山がかなりきつく、うんざりさせられた。下社でしっかり今年の山行の無事を祈念し、今回の下山のお礼をしたおかげか、『この先はケーブルカーで降りる』とリーダー、会長、山行部長の話に『うそー！』ととても信じられない。『世の中変われば変わるものだ』と納得し、今回は諸先輩に従う事にした。それにしてもケーブルカーという文明の利器は何と楽なことであるか。次回からも適当に便利な手段を使って山を楽しむことを皆さんから教えていただいた。

帰路はバスで伊勢原駅に出て思いがけず、気の利いた反省会会場に巡り会い、これも大いに今後の学びとなり、おいしい料理に満足！満足！の締めくくりとなった。



大山山頂



縦走路のはるか先に大山が見えた

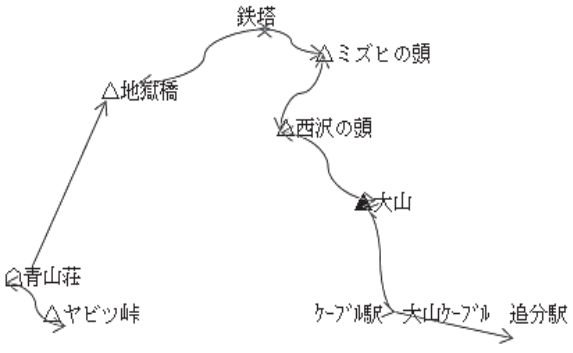
概　　要

山名	大山		
月日	平成 28 年　2 月 27 日　（土）		
山域	大山北尾根	地形図	1/25000 大山
形式	日帰り	グレード	2B
目的	地図読みとヤブ歩きの魅力を体験		
費用	4.000 円	交通機関	JR、小田急線、ﾊﾞｽ
日程	我孫子駅 5:33（千代田線）→代々木上原駅 6:41/6:44（小田急線）→秦野駅 7:51/8:18（バス）→ヤビツ峠 9:00/9:15⇒青山荘 9:40⇒地獄沢橋・大山登山口 10:10/10:25⇒880m付近 11:20/11:40（昼食）⇒鉄塔 11:50⇒ミズヒの頭 12:25⇒西沢の頭 12:40/12:50⇒大山山頂 13:40/14:15⇒大山下社 15:15/15:40（ロープウェイ）→追分駅 15:46⇒大山バス停 15:55/16:00（バス）→伊勢原駅 16:40/18:24（小田急線）→代々木上原駅 19:21/19:22（千代田線）→我孫子駅 20:29 着 ＜歩行時間：3 時間 15 分＞		
ルート状況	特に危険なところもないが、ミズヒの頭から西沢の頭の間がやせ尾根気味の箇所もあるので慎重な行動が必要であると感じた。ルートについては、上部では 10ｃｍ程度の積雪があり、多少わかりにくいところもあったので注意しながら行動する必要があると感じた。		
参加者	北川(L)、村松(SL)、武内、外崎、高橋芳矢野貞　男性 3 名、女性 3 名　計 6 名		



ミツマタの花

概念図



平成２８年度

平成２８年３月～平成２９年２月

＜９３２＞

日光白根山
(2,578m)

大山　冬臣

雪の日光白根山を登る



山頂にて　男体山、中禅寺湖

雪の日光白根山は、かつてX'mas山行で岳人あびこは樹林限界まで登ったが残念ながら強風のためにリタイアしているとのことなので今回はリベンジ山行も目的のひとつだ。

メンバーは、何でも詳しい矢澤さん、岩登りになると突如身軽に変身する齊田さんに私を加えた３名の少数精鋭？だ。

丸沼高原スキー場は、日本海からの湿った雪の多くを越後から上越国境の山々で降らし、湿り気の抜けた豊富な乾燥粉雪が降り積もることで知られたシーズンの長いスキー場として昔から人気が高く、日光白根山は６月のシラネアオイの群落を筆頭に豊富な雪解け水に咲く高山植物の数々で有名だ。

登山コースは最も長いのが奥日光湯本温泉から登るコースで、未だに白根山を登ったときの最大のステータスとなっている。菅沼から登るｺｰｽ、金精峠から上るｺｰｽ、それに標高2000mから登り始める最も省エネｺｰｽとして人気の高い丸沼高原高原コースがあり、標高差で600m未満のこのｺｰｽを当然のように私達は選んだ。

スキー場として定着してしまうとロープウェーの運行時間も朝８時畔から１５時半までと山屋への配慮は殆どないに等しいのが残念ながらこの丸沼高原スキー場と云うことになる。この運行時間を朝１時間早く、夕方１時間遅くそれぞれずらしてくれると本当に助かる。上毛高原駅からのシャトルバスも無料なのは大変に有難いが、他に交通手段がない以上、使わざるを得ないが、不便な時間帯１０時１５分発じゃ利用者が少ないのは仕方がないネ。新幹線の始発に接続してくれれば日光白根山もその標高に見合った人気の山になる筈だ。まあ、その場合は下山したら１泊しないでサッサと帰ってしまう可能性の方が高いのが判っているから色々と検討した結果この時間に決めたに違いない！私達も麓から自力本願で登り切るほどの元気もなく、スノーシューの皆さんに確りトレースをつけて貰ってその上を楽して歩きたいと願っている輩なので余り大声で文句を言えません。

前日にゆっくりと標高 1,400mの丸沼高原スキー場入りし、ゴンドラというのかロープウェーと云うのか良く判りませんが、これに乗ってたった15分で一気に標高2,000mまで登ってしまうことが出来るのだから最高！標高差 600mを15分！まあ、私達の足では早くても２時間は罹るかな？色々と文句はあるが、お互いに利用できるところは利用し合ってより愉しく快適な登山を楽しみましょう。今日は樹林限界まで下見を兼ねて登る予定だ。前々日に降った雪が氷雪を覆い一見、粉雪の新雪の森を演出してくれている。スカッとは晴れ上がっていないが真っ白な尾瀬至仏山も見えている。2,000mを僅かに越えた武尊も見えている。懐かしい山々の銀屏風だ！

入口の二荒山神社に軽く会釈をして森に入った。男体山は全山二荒山神社の所有で神域になっている。白根山もその二荒山神社の息が罹っている？ようだ。スノーシューでコースを踏んでくれてあるのでそれだけでも助かる。殆ど踏み抜くこともなく快適に歩くことが出来た。矢澤さんは矢張り急坂になると未だ苦しいようだ。勿論、矢澤さんだけでなく我々も息が上がる。今日は下見なのでロープウェーの時間に合わせて下れば好いので気は楽。緩やかな森の新雪に覆われた道が暫く続き、40分近くも歩くと急坂になる。結構長いこの急坂をジグザグに10分くらい懸けて登り切ると尾瀬の展望が一気に拓ける台地に出た。ご機嫌な眺めだ。

ここから10分も歩くと七味平湿原と避難小屋への分岐があってその直ぐ先に大日如来像が雪の下にその姿を現していた。大雪だと雪の下に隠れてしまうに違いない。それとも誰かが掘り出して呉れたのかも知れない。

ここまでゆっくり歩いて１時間かな・・・。

深い北八ヶ岳のタンネの森を思わせる見事な樹林帯が続き、この広大な樹林帯を端から端までグルッと大きなトラバースをしながら、ところどころ急坂を交えながら登って行くのが樹林帯コースと云うことになる。雪道が厄介なのは踏み抜きと急坂だ。急坂は先行者がいて呉れるとステップを切って呉れてあるのでそのステップを借用して登ると登りやすいのだが、今日のように気温が高いとそのステップが崩れやすく、足を乗せると 20cm も 30cm も落ちてしまい、これが体力を消耗して苦しい. 我々が苦しいのだから病み上がりの矢澤さんが苦しいのは当然だ。でも、頑張るしかない。

白根山の正面に深くえぐれた岩壁下の大きな沢を横切る。チョット嫌な予感がする。気温が高めなので雪崩を感じてしまう。安全を期して沢を渡るときは一人ずつ大急ぎで走るようにして渡り、残ったメンバーは見張り役で沢の上部に雪崩の兆候や落下物が発生をチェック、「大丈夫！大丈夫！」と大声を送った。今日は特に問題はないようだ。要雪崩注意箇所が４カ所ほどあったが、斜面の亀裂も上部の雪庇もなく、気をつけて渡った。１２月に心臓の不整脈のカテーテル手術をされた矢澤さんのペースが落ち始めた。樹林限界も間近で下見も兼ねて到達したかったが最終の 15 時 30 分のロープウェーの時間にも引き返すタイミングと判断。暫く休んで下山することにした。それでも矢澤さんはしぶとい！ネットで落札したＧＰＳを取り出して標高をチェック、「此処は標高 2,350m」、岳樺の巨木の森が増えてきて、頭上も明るくなってきた。森の樹林層が変わり始めたようだ。キッと樹林限界の標高とほぼ同じ高さまで登っている筈だ。でも今日はここまでだ。

岳人の先輩の皆さんもこの辺かもう少し上で撤退を決意されたに違いない。全く貸切状態で誰一人遭うことがなかったが、下山途中の凍った急坂でザイルを使って降りる用意をしていたところで中年のご夫婦？のパーティに抜かれた。お話をお伺いすると山頂に４Ｐほど居て、殆どがこちらに降りるようだとのことであった。彼らは難なくこの急坂を下って行った。折角ザイルも持ってきたのだから練習に使わないと勿体ない。20ｍザイルのほぼ半分くらいの部分的に 35~40 度くらいの氷化した急坂があり、ここをザイルにシュリンゲをセットして下った。ザイルをつけると思い切った躰の動きが可能となるのでスムースに二人とも降りることが出来た。急な箇所は此処と、大日如来像手前の、七味平への避難小屋の分岐から少し下の二カ所だ。此処を下るとその下は氷化していないのでアイゼンを確りと食いこませながら気持ちよく下ることが出来た。　因みに私と齊田さんのアイゼンは団子になりやすいが矢澤さんのアイゼンはプラスティックが貼ってある所為か全く団子にならず常時快適に上り下りしていた。何本のアイゼンを買うわけにはいかないが次回買うときは矢澤さんのモデルを参考に買いたいと思ってしまった。ＧＰＳは兎も角として、このアイゼンはお勧めアイテム！



３月１７日（木）　無風快晴

朝起きると快晴！やった！お天気はもう、運しかない。天に感謝するしかない。山小屋とかテントだと天気が良いと気持ちも一気に高まり、準備もサッサと済ませてしまうのだが、何せロープウェーの運行開始は天気が良かろうと無風だろうと８時半に決まっているのだから嫌になってしまう。天気が好い日は運行時間を１時間早めるなんて気の利いた運営をして頂戴よ！もう一風呂浴びて来てしまいたくなる！シャーレー丸沼は人数は兎も角、部屋はほぼ埋まっていたようだ。春休み？学生が多い。７時 15 分の朝食は和洋のビュッフェで、なかなか美味しかった。少しでも時間を稼ぐ意味も含めてスパッツも着用して一番のロープウェーに乗るつもりだがボーダーの中には一番狙いもいてトップを奪われ、二番電車？に乗り込んだ。今日も暖かい！天気予報でも５月初旬くらいの陽気になると云っている。雪崩に気をつけて登ろう。

下見をしてあるのは気持ちが楽だ。時間的にもロープウェーの最終便の時間までﾄｰﾀﾙで６時

間あるので我々には決して十分な時間とは云えないがナンとか山頂を極めることの出来るギリギリの時間と云える。

いわゆる標準夏ﾀｲﾑで往復４時間、雪道換算でノンビリ派の我々で５時間少々かな？

ロープウェーを降りると真正面に日光白根山の豪快な山頂と岩壁が聳えている。対峙するように真っ白な至仏山が輝いていた。昨日も素晴らしかったが今朝は真っ青な空の下に輝く雪山はその素晴らしさが変わってしまう。



真っ白な尾瀬至仏山

真っ青な空に煌めく太陽を浴びながら深い樅の樹林帯に突入する。実に爽やかで気持ちが良い。ロープウェーの掛りの方は「山頂まで４時間ですかね？殆どが樹林帯ですので危険箇所はないです」、危険箇所がないと云われるとそれだけでも安心してしまうが、本当にそんなこと云って良いの？とも思える。山は何があるか判らないのが山だよ、お兄さん。いずれにしても注意して慎重に愉しまなくっちゃ。

今朝は単独の男性２名と我々の３Ｐ、５名の入山だ。１名の方は最初の休憩でいなくなってしまい、もう一人の男性には先に行って戴いた。非常に密度の濃い樅の林で視界が殆どないので単調な登りだ。最初の急坂が始まった。昨日下山した皆さんの尻セードの跡が残り、尻セードは折角の踏み跡を壊してしまってある。このステップの脇を滑ってくれッ！これも、雪山下山の楽しみのひとつだから仕方がない。ところどころピッケルでステップを切り、最初の急坂を登り切った。チョットした台地になっていて、視界がここだけ拓けて尾瀬至仏山から燧ヶ岳へのパノラマが見事！その隣に真っ白に輝いているのは会津駒ヶ岳かな？至仏山の隣は谷川岳連峰、巻機山、越後駒ヶ岳へと続く山嶺かな？久しぶりの素晴らしい銀屏風だ。

再び黙々と歩く。最初の 10mほどの小沢を一人ずつ上方を確認しながら大急ぎで渡った。暫く行くと一番大きな沢で、上方は白根山の真っ黒な岩壁が聳えているのが見えた。此処も一人ずつ大急ぎで渡ったが雪崩の危険性は実感としては殆どない。唯、可能性のあるところでは確実にこうした行動を取り、少しでも雪崩からの身の守り方のひとつを学んで貰うだけでも意味がある。矢澤さんの歩き方がかなり遅くなって来た。息のつき方も激しい。昨日の最高到達点、標高２，３５０mは過ぎた。大きくトラバースしてきたので〔約２時間も〕かなり西へ移動したことになり、その証拠に歩き始めでは見ることの出来なかった浅間山も真っ白に見えて来た。

ご本人の申し出でもあり、気温も高いので平で陽射しがあり、樹幹越しの展望も得られる場所を選んで矢澤さんに待機して戴くことにした。衣類、食料、水の確認をする。大丈夫だ。これから私と齊田さんが運良く山頂を踏んで戻ってくるまで２時間は最短でも懸かる。天気の心配はない。ぐずぐずは出来ない。山頂を踏んでも踏めなくても２時間をリミットに戻ってくるようにしなくてはならない。齊田さんも頷いてくれた。歩き始めると直ぐに樹林限界だった。岳人あびこの先輩の皆さんはここまで登ったのだ。今日の私達は幸いにもこれ以上はないと云う好天に恵まれているので最高到達点の更新は間違いない。

夏は火山礫の登山道で、石楠花が多いところだ。雪の上にその石楠花が濃緑の枝葉を出していた。火山礫に覆われた斜面が今は雪に覆われて白一色だ。白い斜面に先行パーティの皆さんがつけてくれたトレースが山頂へと伸びている。だだっ広い斜面をよく見るとロープや標識も見えている。ところどころ、その踏み跡が錯綜している。ここからは齊田さんが快調なピッチで先頭を歩く。今まで緩やかだった傾斜が此処で一気にきつくなり、25~30 度くらいの斜度を感じる。山頂を見ると神社、祠が見えて来た。ところどころ氷化しているがアイゼンなしで、齊田さんは新調した靴を蹴込みながら、所々でピッケルを振り上げてステップを刻みながら快調に登って行く。オープンスロープから岩稜に囲まれた沢状地形に入る。夏は気持ちの良い湿性のお花畠に変貌するところだ。先に登った男性が降りて来た。小さな岩稜を登り切ると氷と雪に覆われた池の際に出る。暫く歩くと小さな祠の建つピークに着くことが出来た。

男体山、女峰山、山王峠、中禅寺湖が目に飛び込んできた。群馬県側と比べると雪が極端に少ない。日本海側の湿気の殆どが越後、上越国境、そしてこの白根山に雪となってもたらされ、

殆どお隣の男体山にも積雪がない！自然の不思議そのものを見ることが出来た。



青空へ一直線に頂上をめざす

本当の山頂はここから10mほど降りて更に20mほど登り直したところなのだが・・、私達にはこの山頂で十分であった。齊田さんが手袋を脱いで握手を求めて来て呉れた。矢澤さんも含めて岳人あびこの会山行としてこの頂きにいるのだ、と自分に云い聞かせる。無風快晴でこれ以上の天気はない。軽く食事を摂り下山の準備をしていると大日如来像の辺りでいなくなった方が登ってきた。スノーシューで殆ど登ってきたという。この男性に写真を撮って戴き、下山する。部分的に氷化していたところを注意して下った。登りと違って下山は早い！もう一度尾瀬の山々に浅間山に手を振って樹林帯に突入した。若い男性が一人休んでいた。天気が良いので七味平の避難小屋で泊まる予定がここまで登ってきてしまったと云う。矢澤さんは、元気に散歩をしていたと仰った。ホッとする。ここからホンの数分のところに矢澤さんはいた。矢澤さんに登頂報告をして三人で下山した。

気温の異常な高さは心配ではあったが、最初の小沢は殆ど問題は見られなかったが、次の沢に差し掛かると齊田さんが「亀裂が！」と指さす方を見ると斜面に亀裂が入っていた。上方を確認しながら大急ぎで一人ずつ走るようにこの沢を横切った。朝とは緊張感が違った。雪崩が現実に感じられた。次の沢は雪面に小さな雪崩の赤ちゃんみたいな跡が幾状も見られた。これはヤバい！今まで以上に注意して上方を監視し異常のないことを確認して沢を渡った。沢を渡りきったところで暫く観察していると、団子ほどの雪の塊が落ち始めるとそれがあっという間に雪だるまを創るように大きな塊に成長して加速度をつけて落下してきた。これは気温が高く湿雪状態で発生しやすい完全な雪崩の赤ちゃんのひとつだ。雪崩は新雪雪崩に始まって春の底雪崩、雪庇の崩れ〔ブロック雪崩〕など多くの種類があり新雪雪崩以外は発生場所は概ね特定できるので注意して避けることは可能だ。滅多に体験することの出来ない雪崩の初期症状を経験して緊張感を保ちながら下山した。

雪塊が　転がり落ちて　沢揺れる　暖かな空に　身を引き締め

概　　要

山名		日光白根山			
月日		平成２８年３月１６日～１７日			
山域		奥日光／群馬	地形図	1/25000 男体山	
形式		ロッジ泊１泊２日	グレード	2C	
目的		１．雪山トレーニング ２．北関東以北最高峰日光白根山登頂			
費用		24000 円	交通機関	ＪＲ、上越新幹線、シャトルバス、丸沼高原ロープウェー	
日程	一日目	我孫子7:01→上野7:36/7:54→とき305号→上毛高原8:54/9:15→丸沼高原ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ→ｼｬｰﾚ-丸沼10:15/10:30→山麓駅10:40/10:45→ﾛｰﾌﾟｳｪｰ→山頂駅11:10/11:15⇒二荒山神社11:20⇒衣服調整11:45/11:50⇒大日如来像12:10⇒樹林限界手前13:10/13:30⇒大日如来像14:10⇒山頂駅14:50/15:00→ロープウェー→山麓駅15:15⇒ｼｬｰﾚ-丸沼泊15:25 ＜歩行時間：4時間10分＞			
	二日目	シャーレ-丸沼8:10⇒山麓8:20/8:30→ﾛｰﾌﾟｳｪｰ→山頂8:45/9:00⇒二荒山神社9:05⇒大日如来像9:50⇒樹林限界手前矢澤さん待機場所11:10⇒森林限界11:15⇒白根山神社12:15/12:30⇒矢澤さん待機場所13:20⇒大日如来像14:00⇒山頂駅14:40→ﾛｰﾌﾟｳｪｰ→山麓駅14:55⇒ｼｬｰﾚ-丸沼15:00/16:00→ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ→上毛高原17:30/17:53→とき336号→上野18:54/19:33→我孫子 ＜歩行時間:６時間＞			
ルート状況		・スノーシュートレックのトレール、木々にリボンマークが付いている ・最近は積雪が少なく、薄い新雪の下は氷化していて急斜面ではピッケル、アイゼン、部分的にはザイルのお世話になる ・樹林限界を抜けるとオープンスロープになるが、雪は風に飛ばされ、付着が疎らであったり、氷化状態も一様でなく踏み抜いたり、ルートフィンディングがチョット難しかった			
参加者		大山（L）、 齊田 、矢澤 男性２名女性１名計３名			

＜９３３＞卒業山行

陣馬山
(855m)

藤家　一仁
北田　仁則

第２回基礎講座(BOM)　無事終了



山頂にて

平成 27 年 4 月より平成 28 年 3 月まで、受講者 9 名、講師 4 名により机上研修 5 回、実技研修 5 回のカリキュラムが組まれ、実施されました。締めくくりとして 3 月に陣馬山卒業山行を無事にｸﾘｱ。大変有意義な研修を受講できたことに感謝するとともに安全登山に努めてまいります。


BOM卒業祝の御膳

【1 班】　　**リーダー：藤家一仁**

1. 予定コース

藤野駅→橋詰向かい⇒一ノ尾根⇒陣馬山⇒明王峠⇒与瀬神社⇒相模湖駅

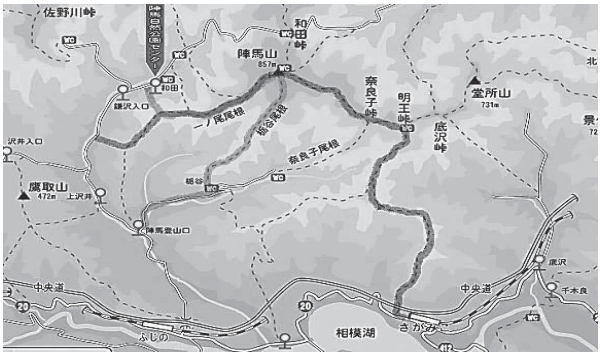
2. ルートの状況

・課題である橋詰向かいより取付け口を探して一ノ尾根へと合流したが、講師の想定ルートとは違っていた。今回は、以前炭焼き等に利用されたと思われる踏み跡をたどり、最後は尾根に向かい直登し一ノ尾根に合流した。
・下見の時(2/11)は日陰に残雪があり頂上付近は雪解けでドロドロの状態でとても歩きにくかったが、今回は残雪等も無く歩きやすかった。
・下山は、明王峠から相模湖駅に向かうルートを取ったが、集合時間(高尾駅 14:00)までに時間の余裕がなく休憩も十分に取れない山行となった。

3. リーダーメモ

・当初 BOM 卒業検定山行は 2/20 に予定され、受講生全員での山行予定だったが雨天のため 3/21 へ変更となり、全員参加で卒業検定山行ができなかった事は残念であった。
・藤野駅から和田峠行のバスが臨時増便され、全員座って登山口へ着くことが出来た。
・１年間をかけ、机上研修５回、実技研修５回と安全登山の基礎を学べて大変感謝しております。

概念図



【２班】　　**リーダー：北田仁則**

1. 予定コース

藤野駅→和田バス停⇒一ノ尾根⇒陣馬山⇒栃谷休憩所⇒陣馬山登山口⇒藤野駅

2. ルートの状況

・課題である和田バス停（陣馬自然研究ｾﾝﾀｰ）裏の階段より、始めはフェンスに沿って進む。フェンスの切れたところからは、道のない尾根を磁石で目標方向を確認しながら、ひたすら直登して一ノ尾尾根にとりついた。
・この時期はブッシュが枯れているので、登山道でないところでも歩きやすかった。
・１か月前の下見の際は降雪直後だったせいで、登山口から積雪があったが、この日はまったくなかった。

3. リーダーメモ

・事前の下見で山域の状況を把握していたので、あまり迷わずﾙｰﾄﾌｧｲﾝﾃﾞｨﾝｸﾞができた。
・下見の時は、頂上から富士山はじめすこぶる展望がよかったが、この日は曇っていて頂上からの眺めが楽しめなかった。
・冬枯れの景色の中で、サクラやマンサクの花

が咲いていて、早春の息吹を感じた。
・予定通り午後２時に高尾駅近くの中華料理店で１班と合流し、反省会、ＢＯＭ研修終了証書の授与式などで盛り上がった。

概　　要

山名	陣馬山		
月日	平成 28 年 3 月 21 日(月)		
山域	裏高尾	地形図	1/25000　与瀬
形式	日帰り	グレード	1A
目的	・BOM 卒業検定山行(計画書作成、装備の借り受け、山行実施、山行報告)2 班に分かれ､指示された地域から地図を頼りに山頂を目指す。 ・下山後、小テストと反省会を行う		
費用	約 3000 円	交通機関	JR 神奈川中央ﾊﾞｽ
日程	1 班： 我孫子(常磐線各駅) 5:33→新松戸 5:47/5:50→西国分寺 6:47/6:55→藤野 7:50/8:00→橋詰入口 8:13⇒一ノ尾尾根⇒陣馬山ピーク⇒奈良子峠⇒明王峠⇒大平小屋⇒子孫山ノ頭⇒与瀬神社⇒道路⇒相模湖 13:40→高尾駅 13:49(下車:反省会)→西国分寺→新松戸→我孫子 ＜歩行時間：3 時間 30 分＞ 2 班： 我孫子 5:33（常磐線各駅）→新松戸 5:47/5:50→西国分寺 6:47/6:55→藤野 7:50/8:00→和田バス停（陣馬自然公園センター）8:20/8:40⇒一ノ尾尾根 9:30⇒陣馬山山頂 10:25/11:05⇒栃谷休憩所 12:10⇒陣馬登山口⇒藤野 13:25/13:46→高尾 14:00（下車:反省会）16:36→西国分寺→新松戸→我孫子 18:30 ＜歩行時間：3 時間＞		
ルート状況	・下見の時は､平日だったので登山者は少なかった ・この日は祭日で、頂上と下山ルートの栃谷尾根は親子連れなどでにぎわっていた。 ・１か月前の下見の際は降雪直後だったせいで、登山口から積雪があったが、この日は全くなかった		
参加者	1 班　藤家(L)　室崎　高橋富　村松　外崎　　男性 3 名　女性 2 名　計 5 名 2 班　北田(L)　石塚　小島 武内　田村　男性 2 名　女性 3 名　計 5 名		

＜９３４＞

谷川岳・天神尾根
（1,966m）

大山　冬臣

山行敗退記



切れ落ちた斜面をアンザイレンで抜ける

冬山は「危険」と思っている皆さんが多いのは事実です。その先入観多くは「凍死」､「雪崩」と云う言葉に影響されているのではないだろうか。井上　靖先生の名著「氷壁」のモデルとなった「松濤　明」氏、新田次郎先生の代表作「孤高の人」のモデルとなった「加藤　文太郎」氏のいずれもが北アルプス特有の厳しい気象条件の下でのビバーグ中の遭難死でした。遭難死が文学作品になるとあんなにロマンティックになってしまうけれども、あの寒さと孤独の葛藤はとてもロマンティックとはほど遠いものです。

私達は安全第一に山を愉しむのが目的の山の会ですから決して遭難をしてはなりません。それを避けるための第一は冬山、雪山に近寄らないこと、まあ、これは安全ではありますが山登りそのものをしないことに通じてしまいますので、安全に登山をする、愉しむことを前提に考えますと実際の第一は悪天候、体調不良時は行動しない、行動中に天候が悪化したらツェルトのお世話になって乾いた衣類を身につけて防寒具、雨具を確り身に纏い、躰を必要以上に濡らさずに適度に食料を口にすることによって２～３日は保ちます。そのための装備、衣類は良いものを買いなさいよ、エルデさん、ゼビオさんのお世話になりなさいよ、と云うことに繋がります。高いのは難点ではありますが商品知識が確りしているので安心です。

無理な行動をすることによって体力を消耗し、

精神的な焦りを招きストレスによって、体力の消耗に追い打ちをかけることになります。そして食べる！ことはエネルギーを生んでくれますのでとても重要なことは良く判っているのですが、私の経験では疲れ切ってしまうと食欲が一気になくなってしまい、無理矢理詰め込んでも食べられないほどになってしまいますので、疲れ切る前に少しずつでも良いですからこまめに何かを口に入れることが重要です。そして最大限の努力をした後は運を天命に任せるくらいの心境でノンビリと構えて、ストレスを生じさせないことが重要です。

私は冬山の持つ素晴らしさ、魅力に魅せられて登っています。確かにそれらの危険性を否定出来ませんが、体力を消耗する以外に悪天候下ではルートがサッパリ判らなくなってしまいますので決して闇雲に行動しない、悪天候下で動き回っても碌なことはありません。躰は濡れると体力を消耗しますので汗を掻いたり、雨に打たれたり、ホワイトアウトのような所謂五里霧中状態では絶対に行動しないことが一番です。行動中に悪天候に遭遇した場合はできる限りの防寒対策と無理な行動をしない、食料を食べ繋ぐ等、古くから先輩達から云い伝えられていることを徹底することで「疲労凍死」の多くは防ぐことが出来ます。ツェルトを被って仲間と色々と話しながら過ごすと長い夜も意外と短かった記憶があります。そして出来れば少しでも眠ることです。うつむき加減に長時間座っていると内臓が肋骨の圧迫を受けて痛くなってきますので交代で躰を伸ばすようにして休むことも大切です。ビバークとか緊急避難とか考えずにチョット厳しい「野営」くらいに考える方が好いですね。

雪崩は確かに難しいです。何が難しいと云って場所、季節、雪質〔粘度〕が違うと雪崩の性質が違ってしまうからです。私なりに体験した雪崩を考えて見ますと次のようになります。

新雪雪崩は基本的には樹林帯では滅多に発生しないと云われていますがそれでも時々樹林帯の傾斜の緩やかな斜面でもチョットしたショックで発生することがあり、一番予測が難しく、避けにくい雪崩と云えます。然し一番助かる確率の高いのもこの新雪雪崩です。雪と雪の間の密度が薄く空気層が豊富で軽いことがあります。雪崩れている間は非常に流動的なので泳いでいる感覚で必死にもがいて上を目指すと躰が雪の上に浮上してくれることがあります。新雪直後の斜面はどこでも雪崩の可能性があると思って間違いありませんが、特にオープンスロープや樹間が疎らな斜面は要注意、リッジ〔痩せ尾根〕は比較的安全と云えます。だから雪山は尾根歩きが推奨されることになりますが、スキーコースのように比較的幅広く、斜度のある尾根は降雪直後は要注意の部類に入ります。

３月に入ると、気温が高くなり、尾根の斜面や谷底の雪渓状になっているところは雪の密度が高くなり、雪庇や斜面の雪が氷化、水分を多く含み、重くなり、自重を支えきれなくなってずれ落ちだし、山の斜面の雪が最初はホンの一握りほどの大きさの塊が何らかの衝撃で雪面に落下し、斜面をゆっくりと転がり落ち始め、斜度によってはアッと云う間に巨大な雪だるまを創るように成長し、どうすることも出来ないスピードに加速して落下が始まります。この巨大な雪の塊が谷に生えている木や岩に初期段階で衝突して壊れてくれれば良いのですが周囲の雪を巻き込んで落ち出すと「雪崩」に成長します。

雪庇は巨大な雪の塊となって斜面の雪を巻き込みながら落下、雪の上を転がり落ちるときは音が消されて音がしないので気がつくのが遅れるケースが多く、直撃を受けると殆ど助かる可能性はない打撃を受けることになります。巨大な石やコンクリートブロックに直撃されるのと殆ど同じ衝撃に相当します。雪庇のブロックが周辺の斜面の雪を巻き込みながら斜面が剥がれるように落下するブロック雪崩、いわゆる「底雪崩」は広範囲に崩れ落ちるので直撃を受けるケースが多く要注意です。唯、春の雪崩は新雪と違って突然発生することは少なく斜面に亀裂が入ったり、雪庇のある場合はその付近の雪庇の崩壊をチェックしておくことによってある程度はその危険性を予知することが出来ます。

雪庇の崩壊自体は雪庇が生成する新雪期からありますが、新雪期の雪庇は比較的密度が薄いので簡単に崩れ、衝撃も春のものとは比較になりません。唯、新雪雪崩の元のひとつですので要注意に変わりはありません。

上信越の山々、日本アルプス特に北アルプスの積雪量が多く、季節風の強い地域では雪庇の張り出し方が３～５ｍほどになりますので稜線を歩くときは雪庇の先端から出来れば１０ｍほど下方の斜面を歩くように心懸ける、ホワイトアウト状態ですと距離感が掴めませんのでアンザイレンして雪庇側と谷川に安全な距離を取って歩行する場合があります。万一、雪庇を踏み抜いて谷に落ちても谷川の人が確保することが出来るからです。５月頃でも雪庇が張り出して

いるのを見ることがありますので雪庇が登山道の上方に見えるときは十分に注意して下さい。５～６月の白馬の大雪渓でも雪庇の崩落による事故があります。

雪崩が谷底を埋め尽くして出来上がった雪渓も、雪渓の下を雪解け水が流れて雪渓を下から洗うように溶かすので雪渓が崩れ始めることも予測しなくてはなりません。雪渓を歩く場合は、雪渓の端と中央部は溶かされて薄くなり崩壊しやすくなっているので決して歩かないように注意することで崩壊に遭遇することが避けられます。　目安としては雪渓が橋桁のように雪渓を支えている最も厚い部分が端から右岸、左岸共に１／３くらいのところが比較的安全と云えますのでマーカーのない雪渓を歩くときの目安として知っておきましょう。

クレバスが開いている雪渓の周辺は、そこが薄くなっている証でもありますので絶対に近寄らないことが肝心です。気温が高くなる６月頃から急激に雪渓の溶解が進行し、薄くなる傾向があることも念頭に置くようにしましょう。カール状地形の雪渓は谷状の雪渓と違って雪渓の厚さの変動が比較的均一ですので谷状雪渓に較べれて安全と云えます。



天神尾根　トレースをたどって

天神平スキー場の天神峠リフト側の端の急斜面に天神尾根コースのトレースが切ってあり、これに従って登り始めるが、夏道は天神峠から谷川岳に向かって最初の鞍部に向けて登っている筈で、かなり天神峠よりにルートを取っている。新雪が１０㎝ほど積もり、その下はザラメ雪の凍ったアイスバーン。もう春だ。私の知っている天神平は８～１０ｍほどの積雪が今時は当たり前だったが１～２ｍ程度しかなさそうだ。山は真っ白に雪に覆われ藪は全く雪の下だったのが今日は藪が随分と出ている。稜線は藪が引っかかって歩きにくい。

高校生と思われる１０数名のパーティが降りて来た。引率の先生が三名もいる。高校の山岳部の合宿で稜線の下にテントと雪洞を掘って二泊、昨日は素晴らしい天気だったので谷川岳に登ってきたと云う。顧問の先生も、部活とは云え、こんな雪山で二泊も泊まらなくっちゃいけないんだ！ご苦労様でした。高校生でこんな雪山の経験が出来るなんて素晴らしい！

殆ど天神峠に登るのと同じくらい登ったところで稜線に漸く飛び出した。・・・、これは天神峠リフトの稼働率を上げるためのスキー場の戦略かな？と疑ってしまう。これでは天神峠リフトを利用して天神峠へ登り、鞍部まで降りて登り直すのと大して変わらない？私達とほぼ前後しながら登っている若者の三名のグループは秋に谷川岳に登り、今回が谷川岳登山の二回目だという。尾根を気をつけて見てみるとこのグループを入れて５Ｐが今日は天神尾根に取り付いている。「登るんですか？」リーダー格の若者が本田さんに訊いた。「気持ちは登りたいんですが、風と天気次第です。もう暫く登って、様子を見て決めたいと思っています」上手な受け答えに感心してしまう。これなら登りたいと云う意識と、天気次第で登らないかも知れないと判り易く説明していることになる。若者の一人が真っ赤な顔をして、咳き込んでいる。凄い！こんな体調で登るんだ！？

暫く歩くと、チョット広めのブナ林に出た。テントを張った跡が二カ所、雪洞が一カ所、あの高校生達のキャンプ跡に違いない。

今日の空模様は、気温－２℃、手袋を外していても余り寒さを感じない。トマの耳は肩の広場の大斜面の下部辺りからガスの中でかなり風は強そうだ。谷川岳の天気の面白いところは、天神平は太平洋側の天気に近く、谷川岳の山頂は新潟県側即ち日本海側の天気の影響下に入ることが多い。今日も俎嵓の山稜は万太郎谷側からの猛烈な滝雲が落ち込んでいる。

天神尾根は雪山入門コースと云われているが、よく観察すると雪庇が崩れて雪崩が谷川〔水上〕方向の斜面に落ちている跡が所々見ることが出来た。私達は稜線を歩くときに雪庇に乗らないように注意しながら歩いたが雪庇の張り出しを見ると５０～１００㎝と比較的小さい。稜線の端から１５０～２００㎝西黒沢側を歩くように心懸ける。トレースは稜線に忠実に付いているが例年に比べるとかなり雪庇の張り出しが少ないので注意深く稜線のやや右側〔西黒沢側〕を歩いても大丈夫のようだが敢えて斜度が急な沢側の斜面を歩くことにした。

部分的に４５度以上の急峻なところもあり、ピッケルに持ち替え、安全を期してアンザイレン、ピッケル或いは確りした大木の幹を支点に確保しながらトラバースする。雪に下草が隠されたブナ林は自然の芸術作品を見ているように美しい。特に谷川岳は他の山と違って針葉樹林帯がないままブナが主な落葉樹林帯から一気にドウダンツツジなどの低木帯の樹林限界になる特異な植物埴生地帯でもある。注意深く山頂を見るが時々ガスが切れて真っ白な肩の広場からトマの耳が見える。雪のない季節の天神尾根と全く違った急峻な雪の世界が続いている。ここから正面に見える尾根は、人によって日本三大急登に数える西黒尾根だ。西黒尾根は西黒沢方向に２～３ｍの雪庇が張り出している。あんな雪庇に間違って乗ってしまったら大変だ。注意して登らなくっちゃ。

本田さんの調子が実に好い！急坂になったり、微妙なバランスの必要なところになると直ぐに弱音を吐いたり、愚痴ったりマイナー発言が多かったのが一歩一歩が確りと踏みしめ、ステップを踏み抜くことが少ない。私の方がステップを踏み抜きがちだ。息づかいも楽そうだ。どうしたんだろう？ニコニコと笑いながら山頂を見上げ、「登れるかしら？」・・・だ。今日のこの調子なら登れるかな、相変わらず俎嵓山稜の頂上は万太郎側からの強烈な滝雲に覆われ、流れ落ちている。トマの耳も風が舞っているのが判る。そして一瞬一瞬で肩の広場までガスに隠れてしまう。

「天気、良くなりそうもないね」、「私、この新雪のブナ林と山頂が見えたので満足です」、上手に気を遣った表現をして呉れる。頷いてくれた。

今日の山頂からの展望は残念ながら何も見えないに違いない。水上方面の谷川温泉から谷川に沿って二股まで登り、若いときに登った恐らく谷川岳で最も急峻な中ゴー尾根の短い尾根を覗いて見た。腰までのラッセルをしながら登ったのを思い出す。南面で登っていないのはオジカ沢くらいかな？

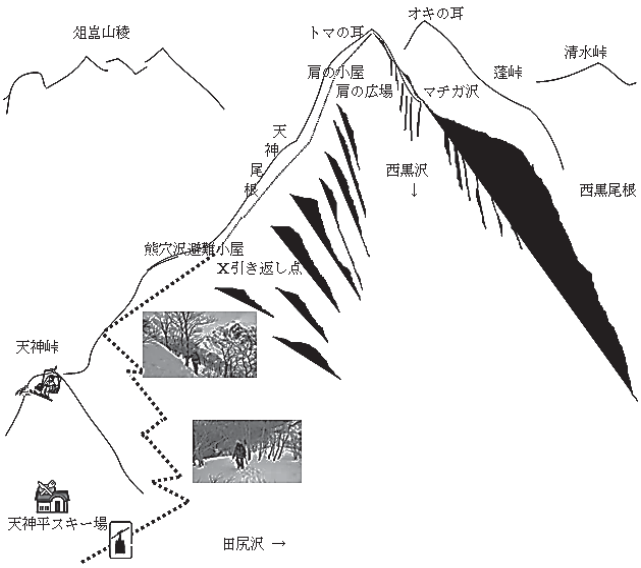
下山だ。若者三人組の真っ赤な顔をして咳をしていた若者が下山してきた。「皆に迷惑かけちゃいますから・・・」。暫く平らなところで休んでから降りて行った。

単独の中高年のスリムな男性がかなりスピーディに登って来て、私達を抜いていった。谷川岳は俺の庭だ！って感じでルートの取り方も慣れたものだ。

それなりに満足した天神尾根だった。今年の雪の谷川岳はおしまいだ。又、来年の宿題を残してしまった。私は私なりに愉しかったが、本田さんも満足の笑顔が嬉しい。本当は好い天気に恵まれて山頂を極めてもっと充実した笑顔を見たかったけれど・・・・・。

上毛高原駅近くのネオンが点滅している蕎麦・うどん店はやっていないことが多い。やっていないときはネオンの点滅を止めて欲しいね！温泉と反省会に良い場所がないのが上毛高原駅利用の最大の欠点だ。が、トヨタレンタカーが上毛高原駅にあった！レンタカーさえあれば温泉だって、反省会会場だって選り取り見取りで探せる！次回からはこの上毛高原駅のレンタカーを考えよう！

概念図





概　　要

山名	谷川岳・天神尾根		
月日	平成２８年　３月２３日〔水〕		
山域	上越国境・谷川岳連峰	地形図 1/25000	水上、茂倉岳
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｃ
目的	１．豪雪体験〔例年の半分以下？〕 ２．雪上トレーニング〔アイゼン歩行、ザイルワーク〕 ３．条件が整えば谷川岳登頂〔強風のため熊穴沢避難小屋近くで中止〕		
費用	約 13,000 円	交通機関	ＪＲ上越新幹線、関越交通、谷川岳ﾛｰﾌﾟｳｪｲ
日程	我孫子駅5:31→常磐快速④→柏駅5:35→上野駅6:06/6:42→たにがわ401号→上毛高原駅 7:53/8:00→関越交通→山麓駅8:50/9:00→ロープウエイ→天神平9:15/9:30⇒90⇒熊穴沢避難 小屋11:00/11:15⇒60⇒天神平12:15/13:15→ロープウエイ→山麓駅13:30/14:05→関越交通→ 上毛高原駅14:55/15:09→とき326号→上野駅16:14/16:24→我孫子駅17:00　　＜歩行時間：２時間３０分＞		
ﾙｰﾄ状況	・例年になく降雪が少なく藪が顔を覗かせている ・天神峠から山頂に向かう天神尾根最低鞍部手前に向かってトレースが付けられていた ・新雪が１０cmほど積もりその下はザラメ状のアイスバーンで急坂、崩れやすい稜線に出ると山頂部はガスが巻き、かなりの強風が吹き荒れている ・俎嵓山稜は激しい滝雲が新潟側から雪崩れ込んでいる ・天神尾根稜線は雪庇が張り出し、下を覗くと雪庇が崩れた雪崩が発生していた ・残置ロープのある小突起を越すとブナ林の雪原になる ・天神尾根の田尻沢側の斜面を捲くトレースが付けられていたのでそちらを選択 ・意外とその斜面が急坂で切れ落ちているので慎重を期してアンザイレンして抜ける ・熊穴沢避難小屋近くまで行ったところで天候は一進一退で好転しそうもなく、５Ｐほどの先行パーティはそのまま山頂に向かったが私達は下山を決意		
参加者	大山(L)　本田 男性１名　女性１名　計２名		

＜９３５＞

八ヶ岳連峰・硫黄岳
(2,760m)

本田　愛子



硫黄岳山頂にて

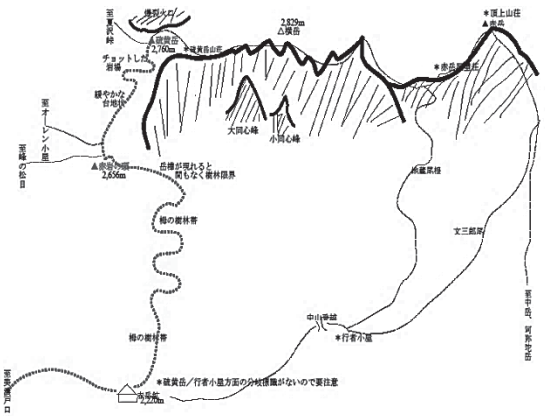
週末のお天気が芳しくないので、山行は諦めていました。前日の予報に傘ﾏｰｸが消えたのでﾒｰﾙを確認すると、ﾘｰﾀﾞｰから好転したので決行しますとあった。

朝 5 時うっすらと空が明るく春の空気を感じながら駅に向かった。新宿 7 時発あずさ 1 号に乗車 6 名がゆっくり座れた。車窓から所々桜が咲き始めていた。甲府を過ぎると八ヶ岳が見えてきた。真っ白に堂々とした山、あれが権現岳とﾘｰﾀﾞｰが教えてくれました。空は雲っていた。

9:08 茅野駅に着くとタクシー2 台が待っていた。駅を降りた時からお祭りムードの旗が並んでいた。今年は 6 年に 1 度の御柱祭が来週から始まると、運転手さんが説明してくれて、御柱の大木が運ばれる道を走ってくれた。道路脇に大木が 8 本置いてあり、周りに半被を着た人が大勢集まっていた。25 分程で美濃戸口に着いて 9: 40 支度を整え 9:55 出発した。雪のない林道を歩いていると時々車が下りてくる。美濃戸山荘までは車が入れるので 1 時間は林道歩きが省ける。おしゃべりしながら 50 分歩いていると赤岳山荘に着いた。少し先に美濃戸山荘があり、ここからは車止めになって、道が凍っているのでアイゼンを装着した。緩い坂の林道を 40 分ほど登っていくと、堰堤広場に到着 12:05 渡ると左に赤岳鉱泉への道標がある。渓流沿いに細い山道を登って行く。幾つかの橋を渡って川沿いを登っていくと、橋の上から凄い迫力で大同心と小同心の岩壁が見えた。若い頃ﾘｰﾀﾞ

ｰはあの岩壁を登ったと言う。暫くは雪道をひたすら登って行った。赤い屋根の小屋が見えて13:40 赤岳鉱泉に到着した。氷の人口壁のアイスキャンディィが小屋の横にそびえていた。中がブルー色でとってもきれいな氷の柱だったが春の訪れで少しずつ解けている。空が曇って風も出てきたので今日の行動は此処までとなりました。
赤岳鉱泉は豪華料理で有名な山小屋、冬の平日なので泊り客は少なかったが､それでも食堂のテーブルに何組かの用意があった。私達６名は大部屋の 2 段ベッドでゆとり充分でした。夕飯まで 3 時間もあるので、談話室でだらだらと過ごすことにした。夏場は満員になるのだろうと小屋には何か所も談話室があった。愉しいおしゃべりがあっという間に過ぎて、お楽しみの夕食の時間になった。献立はとり鍋と焼き魚･サラダ･果物 2 種のご馳走を頂いた。明日の天気の心配をしながら 9 時に就寝した。5 時半に起きると外が明るい。6時半に美味しい朝食を摂り 7:23 出発する。小屋の前から樹林帯へ入って行く。昨日は私が、今日は育子さんが先頭を歩くことになった。

概略図



空は明るく風もない穏やかなお天気のスタートだったが､歩いているとすぐに汗をかいて少し登った処で衣服調整をした。私は下着の上にｵｰﾊﾞｰﾔｯｹを着ただけでした。春の雪は崩れやすく雪崩の跡があった。雪崩の跡を通過する時は１人ずつ間を空けて速やかに通過するようにとﾘｰﾀﾞｰから指導があった。
急登の雪道をジグザグ登っていつの間にか立ち止まると大同心の岩壁が目の位置に並んだ。もう少しで稜線に出るのだと、最後の急登を頑張って一歩また一歩と登った。ようやく分岐の稜線に出た。少し先に赤岩の頭の標識が立っていた。9:05 南方に赤岳と大同心の岩稜がくっきり見え、北方はガスって何も見えない（天狗岳）硫黄岳山頂が見えている。そしてﾘｰﾀﾞｰが登れると判断した。



硫黄岳への最後の登り

皆ストックを置いてピッケルに替えるよう指示を受ける。田村ＳＬを先頭に山頂を目指した。険しい岩場を越えて行く時、大山Ｌがロープを使うため先に岩場の様子を見に行った。カモシカの足跡があったらしい…私達グループが今日の先頭なので、踏み跡がないためカモシカの踏み跡をたどった。
岩の間を慎重に登っていくと、もう広い硫黄岳山頂に来ていた。9:40 風がまったく無く、暖かで気持ちよくゆっくり休んだ。赤岳がエベレストのように雄大な景観だった。充分に達成感を味わって同じルートを慎重に下山した。10:05 まさか今日は山頂まで行けるとは皆思ってなかった（稜線は風が強いので、赤岩の頭まで）赤岳鉱泉に戻り、美味しいラーメンを頂き鉱泉小屋を出た。12:30 美濃戸口にタクシーが待っているので 15:00 までに下山する予定で、早足で黙々と歩いた。疲れた足に鞭打ってようやく美濃戸口に着いた。タクシーが待っていた。14:50 茅野駅西口のそば茶屋（先月お世話になった）で打ち上げをして､16:20 あずさ 26 号で新宿に帰る。今回は思いも寄らず条件に恵まれて、大山ﾘｰﾀﾞｰ指導のお蔭で雪の硫黄岳に登れました。山小屋で仲間との愉しいひと時を味わえたことも思い出になりました。大山ﾘｰﾀﾞｰ及び同行の方々に感謝。ありがとうございました。

概　　要

山名	八ヶ岳連峰・硫黄岳			
月日	平成 28 年 3 月 27 日(日)～28 日(月)			
山域	八ヶ岳	地形図	1/25000 八ヶ岳西部､東部	
形式	赤岳鉱泉１泊２日		グレード	２Ｃ

目的	1. 雪山経験　2. 硫黄岳に登る 3. 赤岳鉱泉のグルメを愉しむ		
費用	23000円	機関交通	ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞ倶楽部往復:ﾀｸｼｰ:茅野/美濃戸登山口10600円ｘ2、赤岳鉱泉9500円、他昼食、反省会
日程 一日目	我孫子駅5:31→常磐快速→日暮里駅6:01/6:09→新宿駅6:30/7:00→Sあずさ1号→茅野駅9:08/9:15→ﾀｸｼｰ→美濃戸口9:40/9:55⇒休憩10:20/10:25⇒赤岳山荘10:50/11:03⇒美濃戸山荘11:15⇒ｱｲｾﾞﾝ装着 11:18/11:25⇒堰堤広場12:05/12:15⇒北沢経由⇒赤岳鉱泉泊13:40　歩行時間 3時間20分		
日程 二日目	赤岳鉱泉7:23⇒衣服調整7:35/7:40⇒休憩8:10/8:15⇒赤岩の頭9:05/9:15⇒硫黄岳頂上9:40/10:05⇒赤岩の頭10:30/10:33⇒休憩11:15/11:20⇒赤岳鉱泉［昼食］11:40/12:30⇒堰堤広場13:30/13:35⇒美濃戸山荘13:55⇒ｱｲｾﾞﾝ取外し14:00/14:10⇒美濃戸口14:50/14:55→ﾀｸｼｰ→茅野駅15:25〔反省会蕎麦茶屋〕16:20→あずさ26号→新宿駅18:36/18:42→神田駅→上野駅19:02/19:06→我孫子駅19:45　歩行時間　5時間40分		
ルート状況	・赤岳山荘からの林道は殆どｶﾞﾁｶﾞﾁのｱｲｽﾊﾞｰﾝなのでｱｲｾﾞﾝを着用 ・林道終点の立派な堰堤が現れた。ここが堰堤広場 ・全体的に林道としては斜度があり、北沢沿いの堰堤広場から赤岳鉱泉間の登山道の斜度は更に強まる〔美濃戸口/赤岳鉱泉 標高差700m/2.5時間〕 ・北沢沿いで岳樺の林が現れると堰堤広場/赤岳鉱泉のほぼ中間 ・横岳の特徴的な大同心が見えるようになると堰堤広場・赤岳鉱泉間の2/3くらい迄登ったことになる ・赤岳鉱泉から硫黄岳方面、赤岳・行者小屋方面の分岐標識がないので要注意 ・硫黄岳への登山道は殆どが樅の林で展望もなく、岳樺の林が現れると樹林限界間近 ・樹林限界に出ると横岳方面の展望が拓け、急登を登れば赤岩の頭 ・赤岩の頭は峰の松目、硫黄岳の分岐点の便宜的な呼称と思われる〔特徴なし〕 ・赤岩の頭から硫黄岳は強風で霧の発生しやすい地帯であるにも拘わらず指標がなく、岩場を抜けるのもﾄﾚｰｽが風で消され、判り難いので悪天候時は要注意		
参加者	大山(L)　田村(SL)　高橋芳、中村育、本田、北田　　男性２名、女性４名 計６名		

＜９３６＞新人歓迎山行

難台山
(553m)

やまたんより転載

賑やかに新人迎え、春浅い１日楽しむ



小雨降る難台山にて記念写真

＜ﾘｰﾀﾞｰのメモより＞

ご協力に感謝
美術館鑑賞、ＢＢＱ好評
総合リーダー：大山冬臣

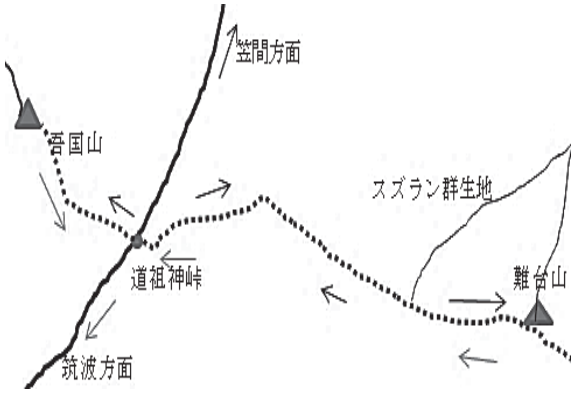
・難台山に絞ったので、時間に大幅に余裕が生じ、雨天対策として予定していた「笠間稲荷」と「日動美術館」を検討した結果、「日動美術館」に決定
・日動美術館を観賞した経験者は多く、この美術館は何度でも見たい、出来ればもっと時間が欲しかった、と云われました
・今回は没後３０年の鴨居玲の特別展であったが、テーマが「死を見つめる男」とチョット暗すぎたかな！？



・フランス館のドガの「踊り子」、ルノワールの「裸婦」、ユトリロの「モンマルトルの丘」、藤田嗣二、ピカソ、マチス、モネ等、国立西洋美術館、大原美術館に匹敵するフランス絵画の名画を小雨のお陰で鑑賞することが出来ました
・笠間と云えば「蕎麦」、食担の皆さんの負担が非常に大きいので、蕎麦屋さんでの歓迎会も考えていましたが、ネットで北山公園のＢＢＱ会場を発見、下見でチェックし、全員一致で合格！下見は大変ですが「百聞は一見にしかず」
・会旗と救急袋を別の袋に纏めて入れておいたのをそっくり忘れて来てしまいました、申し訳ありません、全く気がつきませんでした
・当日、Ａ班顧問の高橋英さんがインフルエンザに罹り、急遽欠席は残念でした
・ＢＢＱの席を盛り上げて戴いた食担の皆さん、有り難うございました、最高でした！
※たくさんのアルコール、お新香、サラダ類の差し入れ、有り難うございました
・残念ながら欠席の藤家さんアドバイスの最短コース、トイレは大助かりでした
※八重子さん、カオルさんの両花博士が未だ、ひっそりと目立たないように咲く山野草を見つけては紹介して下さり、春浅い山を愉しく有意義にして下さいました
・易しく、誰もが参加出来て愉しく盛り上がったゲームを村越さん有り難うございました
・実質的なＬとして企画から運営まで仕切って下さった本田さん、有り難うございました



概念図



概　要

山名	難台山		
月日	平成２８年４月３日〔日〕		
山域	筑波山系	地形図	1/25000 加波山 羽黒　岩間
形式	日帰り	グレード	1Ａ
目的	・２１期生新人歓迎及び会員親睦		
費用	6000 円	交通機関	貸し切りバス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場前5:30/5:40→千代田東PA6:35/6:55→千代田石岡IC→道祖神峠7:25/7:40⇒難台山8:45/9:00⇒道祖神峠9:45/10:00→笠間・日動美術館10:25/11:30→笠間・北山公園12:00/15:00→友部IC→千代田東PA15:30/15:40→谷田部IC→我孫子駅北口16:40 ＜歩行時間:１時間40分＞ 10:25~11:30　笠間・日動美術館 鴨居玲特別展、印象派作品等鑑賞 12:00~15:00　笠間・北山公園にてＢＢＱ＆新人歓迎会		
	・計画では難台山と、道祖神峠を挟んで向かい側にある吾国山の予定が、小雨模様で赤土で滑り易く、安全を期して階段が切ってある難台山に絞った ・吾国山はかなりの急坂に終始し、赤土で滑り易く、特に下山はかなり苦労することが予測され断念した ・岳人あびこはかなり昔〔やまなみ８号〕に縦走した記録がある ・難台山コースもかなりの急坂であるが普段の山行では苦手な階段に、濡れて滑り易い今日は助けられた ・1/25,000地形図では確認が難しいが50ｍ、20ｍ、10ｍほどのピークのアップダウンがある ・かなり広めの手入れの行き届いた登山道で、分岐には必ず標識があり、樹林帯の中を歩くので展望は殆どないが時折樹幹越しに筑波山が望める		
参加者	Ａ班　大山(Ｌ) 高橋芳(SL) 矢野裕　中村八　林　田村　高橋富　室崎　箕輪　根本(新人) Ｂ班　本田(Ｌ) 斎田(SL) 坂巻(SL)　矢野貞　新谷　大畠　北田　武内　深草(新人)　小林隆(新人) Ｃ班　村越(Ｌ) 郷田(SL)　大平　桐生　小島　中村育　渡辺　村松　小林安(新人) 横尾(新人) 男性12名　女性18名　計30名		

新人歓迎山行に参加して

B 班　深草茂美

楽しい一日を過ごさせて頂きました。計画実施して頂いた、大山さん、本田さん、それぞれの役割担当の方々、及び“岳人あびこ”の皆様方に、まずはお礼申しあげます。以下に「2016 年新人歓迎山行」に参加して感じた事を、記し報告とさせて頂きます。

当初、難台山から吾国山を歩きその後、笠間北山公園にてバーベキューを行う計画でした。しかし難台山山行中は、曇り時々小雨の天候であった為、我々新人に対する配慮から、吾国山山行を中止し、代わって笠間日動美術館での絵画鑑賞を行い、その後バーベキューが行われました。

B班



難台山山行」小雨が時々降る、あまり良くない天候でしたが、私にとっては去年の１０ 月以来、久しぶりの山歩きと言う事もあり、とても気持ちよく歩くことができました。この山行で、次の 3 点から‘岳人あびこ’は、安全に登山を





ヘイ、カモン！

楽しもうとしている会である事を実感し安心しました。休憩時に、服装直しに手古摺り出発時間に遅れそうになったので、「先に行ってくださいと」お願いしたところ、本田リーダーに「この会ではそれはしませんと」一喝され、出発を待って頂いたこと。

・武内会長から下山時、足運びについてアドバイスを頂いたこと。

・新人の力量未把握からの判断が大きいと思いますが、吾国山は、雨で道が悪くなっていることを予想し、笠間日動美術館での美術鑑賞に、臨機応変に計画を変更したこと。

「笠間日動美術館」は、ドガ、モネ、シャガール、ルノアール、ピカソ、等々、近代絵画の巨匠達の作品が多数展示してある美術館でした。この地にこんな“すごい美術館”があるとは知りませんでした。十分楽しませて頂きました。私の登山の楽しみの一つに、山々が見せる美しい光景から受ける感動があります。これは、絵画鑑賞に対する思いと通じるところがあると常々思っています。会員の方々の中には、少なからず、私と同じ思いの方々がいらっしゃると思いました。今後この思いを持った方々と登山を一緒にさせて頂く事に大いに期待がふくらみました。

「バーベキュー」会場の笠間北山公園は桜の花がきれいに咲いていて、山歩きの程良い空腹感も手伝い、美味しい昼食をさせて頂きました。また食後は、懇親の為のゲームもあり、大いに楽しませて頂きました。このバーベキューでは、新人の為に色々な企画を準備して盛り上げようと言う会員の方々の心優しい気配りを感じました。最後に、新人歓迎山行を通して‘岳人あびこ’が、登山を皆で安全に楽しむ会であること、そして登山に対する楽しみ方は、私と通じる所

があることを感じ取ることが出来きました。これにより今後、皆様方と一緒に登山をさせて頂く事が楽しみとなりました。ついては、私は今まで個人で自己流の登山しかしていません。登山の体系的な技術知識は皆無です。皆様方と安全で楽しく登山が出来る様に、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。



A班

新人歓迎山行に参加して

B班　小林　隆

朝、二度寝のせいで集合場所までウォームアップを兼ねて歩く予定が、ザックを背負って自転車で急ぐことになり、差し入れ予定のシャンパンが荷物かごの中で揺れるのを見て心配で仕方ありませんでした。
前日の天気予報では曇りと聞いていましたが、雨雲が重く垂れこめています。私は雨男ではないことを自負しているのですが、これは天気の悪そうなときには山に行かない、という日和見姿勢のお蔭で、今日は降られるなあ、と覚悟して向かいます。
5 時 30 分にはすでにみなさん集まっておられ、そのパワーに圧倒されつつバスに乗り込みます。道粗神峠への道筋は初めて辿るので早春の風景を眺めて飽きることがありません。B 班は
齊田さんを先頭に、同じく新人の深草さんに私が続き難台山に向けて出発しましたが、下りに先頭に立たれた本田さんもそうですが、歩行スピードが予想外に(失礼!!)早く、体力をつけておかないといけないと感じました。

難台山 553m は “登山”として登る山の中ではこれまでで最も低い標高の山でした。しかし、整備された登山道沿いに広がる豊かな植物相は、季節を問わず登山者を魅了するに違いなく、今回残念ながらスキップした吾国山とともにまた訪れてみたいと思う山域です。自分一人では見つけられない山々について、岳人あびこには 20 年の歴史の中で多くの山行記録が蓄積されていると伺い、今後の山行計画立案に参考にさせていただきたいと思います。

日動美術館見学と笠間北山公園での BBQ は、山行とは違った楽しい時間を添えていただきました。BBQ 会場で開けたシャンパンは心配した通り半分以上吹き飛んでしまったのは残念でしたが。　最後に、今回山行のリーダー、サブリーダー、会計、食担の方々、および新人担当、ならびに、B 班はじめ会員の皆様にあらためてお礼申し上げます。

山行を詠んで一句

「スミレ　カタクリ咲き急ぎ　寒霧にとまどう山桜」

字余り失礼しました。





C班

新人歓迎山行に参加して

C：班　小林安代

一番に思ったことは、何から何まで計画し尽されていて　安心して着いて行く事が出来たことです。
ありがとうございました。小雨の中の難台山、花は少なかったですが、登りでは見つけられな

かったマムシグサが下山では、あちこちに見つけられ、楽しみながら下山できました。
お昼の、バーベキューはとっても美味しかったです。的確な量と味付け、準備等　すごく感心しました。食後のゲームも楽しく過ごさせていただき、まとまりを感じました。
また、小雨の為、我国山を止めて笠間日動美術館に入館出来て良かったです。登山だけでなく、共に時を過ごすことでいろいろ有益なことが得られるのかなと思いました。
これからの山行がとても楽しみです。どうぞよろしくお願い致します。



バンダナリレー！岳人版

新人歓迎難台山に参加して

C班　横尾美知子

ブランクがあるのと、仕事中腰を捻って腰痛になってしまい、不安を抱えての「吾国山～難台山」初山行。お天気も曇り空、バスで現地へ向かう途中から雨も降りだしてしまいました。

登山口に到着し、リーダーの大山さんから「雨模様であるし吾国山は急坂で滑りやすいので、難台山だけにします」の説明があり、不調を抱えている私は内心ラッキーと思いながら、新人なのでC班のリーダー村越さんの直ぐ後ろについて登り始めました。

村越さんの歩調は早過ぎも遅すぎもせず、私にはとても歩き易くしっかりついて行く事を心がけて、滑りやすい道を一歩一歩踏みしめながら登りました。時々振り返って様子を見てくれるのも安心感がありました。

急な道を登りきったら、「頂上ですよ。お疲れ様でした」の声に、何年間のブランクも何処かへ飛んで行ってしまい、登りきった達成感に「山ってこんなに気持ちをスッキリさせてくれる」と言う想いが甦って来ました。

下りの帰り道ではマムシ草に沢山出会い、お花の無い時期にはマムシ草もちょっと感動でした。かたくりが一輪だけつぼみを見せてくれて、またえんれい草もひっそりと雨に打たれて咲き始めているのも健気でした。

その後は日動美術館で絵画鑑賞。「鴨居　玲展」の特別展示がありました。鴨居　玲の作品は以前見た時はとても重くてドッと疲れを感じましたが、山行の後に見た今回は、私に違う観方を感じさせてくれたように思います。
山も登りきるまではとても苦しい思いがあり、重い足を一歩一歩前に進めて行けば素敵な感動に出会えます。芸術も人の心に感動を与える作品を生みだす苦しさ、葛藤が人の心に響く作品になるのでしょうか？そんな気持ちで今回の鴨居玲の作品を鑑賞しました。

雨もすっかりあがった笠間北山公園で新人歓迎会を催して頂きました。先輩の皆さんが準備して下さったバーベキューとても美味しかったです。みんなでやったゲームもとても楽しく、素敵な一日でした。

吾国山は登れませんでしたが、山行・美術鑑賞・バーベキューと盛沢山の催しに充実した日を過ごす事が出来ました。会員の皆様が新人会員の為にとのお気持ちがしっかり伝わりました。とても感謝しています。

ありがとうございました。

「リタイア後　岳人あびこに　迎えられ」

食担さん　こんなに沢山の料理食べられません　でも残すともったいないので別腹に



＜９３７＞

坪山
(1,103m)

矢野 貞子



山頂で恒例の記念写真

過去に計画があり行きたいと申込みしたが雨で中止になってしまった。１９年度に再度計画がありましたがその時は参加できなかった記憶がある。

平成１３年４月から登山者が登り始め、「日陰つつじ」が綺麗な山として紹介されていて、いつか見に行きたいと思っていました。

また、かなり混み合うので休日はさけた方が良いとも聞いていました。

3 月末で完全にリタイヤしたので今年こそ行けると思い企画しましたが　平日なので参加者は桐生さん一人でした。行きたかったので二人でも行く実行した処、武内さんも参加してくれました。

上野原駅でバス停に行くと長い行列がありました。平日にかかわらず臨時バスを出るほどの混みようでした

谷ツ田登山口（花の時期だけの臨時バス停）で降りて、お手洗いの並び２０分もかかってしまいました。一か所で１部屋しかありませんでした。

西尾根コースの登山口から林の中を歩き始めて少し登ると細い尾根に着きます。登山道は両側が切れて急登、登山者が数珠繋ぎに登っています。しばらく登ると両側に薄く黄色がかった白いツツジが咲いていました。咲き方はツツジよりもシャクナゲのような花の付き方です。



山頂にて

そして足元にはイワウチワが可愛く咲いていました。交差は困難な狭い尾根とロープがあったりして雨の日では難しい道です。山頂では何組もお昼を食べていました。三頭山を眺めながら、私達も昼休憩をしました。

帰りは東コースを下山しました。案内ではビリュウ館コースを進めいて、危険なので下山しないようにと注意書きが有りましたが、敢えて険しいコースで下山しました。東コースも日陰ツツジが咲いていました。一か所だけ注意が必要な岩場がありましたが特に問題はありませんでした。

一時間程で谷ツ田の登山口に降りそこから３０分程歩いて、ビリュウ館から臨時バスに乗って帰ってきました。

薄緑の新緑に桜が咲く里山に珍しいツツジの花、天気が良くて気持ちの良い一日でした。

概略図



概　　要

山名	坪山			
月日	平成年 4 月 12 日			
山域	大月	地形図	1/25000 猪丸、七保	
形式	日帰り	グレード	1A	
目的	ヒカゲツツジ、イワウチワを見る			
費用	5838 円	交通機関	JR、富士急山梨バス	
日程	我孫子 7:34→新松戸→西国分寺→高尾→上野原 7:51/8:30（バス）→八ツ田バス停 9:25/9:40⇒西尾根コース尾根道 10:05⇒坪山頂上 11:20/12:10⇒東尾根コース⇒登山口（八ツ田）13:15/13:20⇒びりゅう館 13:50/14:10（臨時バス）→上野原 14:45/15:06→高尾→立川→西国分寺→新松戸→我孫子 17:15　＜歩行時間：3 時間 30 分＞			
ルート状況	・案内は要所にあり、迷うことはない ・西尾根コースは地元の人しか通らなかった道を平13年4月より登るようになった。登山道で急なところにはロープが張ってあった。 ・細い尾根道なのですれ違いがある場合は注意が必要 ・尾根の両側に日陰つつじと足元にイワウチワが咲いていた。2,3 日早かった。 ・現地案内で岩場があり上級者コースでお勧めしていない東尾根コースを下ったが、岩場らしき所は 1 か所で特に問題はなかった。西尾根より小ぶりな日陰つつじがあった。 ・トイレが登山口に一か所2つあるが一つ使えなくて20分程並んだ。登山道は細い尾根道なのでお花摘みは難しい			
参加者	矢野(L)　武内　桐生 男1名、女2名　計3名			



ヒカゲツツジ

＜９３８＞

御前山
(1,405m)

蟹江　和子

初めて会の山行に参加して



御前山山頂

前日の予報では、天気があまりかんばしくないようなので、「ひょっとしたら中止かな？」と勝手に判断したのも束の間、「山行実施」のメールが入り、気を取り直しました。というのは、今回の山行は初めてなので、かなり前から緊張があり、それが現実となり動揺しました。

御前山は、「花の百名山」・「奥多摩三山」の一つと言われ、春のカタクリで有名です。

今回のコースは、境橋の栃寄登山口からのコース、登山道が随分荒れていて、滑りそうになりながら栃寄沢の木橋を幾つか渡り進み、途中、ワサビ田のワサビの葉の鮮やかな緑色、栃寄ノ大滝を眼にしたときは、ホッとした気持ちになりました。林道交差点でトイレタイム、「行動食を食べたら？」と言われ、お菓子を口に入れたら、少し楽になったようでした。「体験の森」から山道に入り、しばらくすると、山崩れの修復作業が行われており、林道を歩くことになり、其の後、都民の森の中をジグザグに登り、避難小屋に到着。避難小屋での昼食中に、大粒の雨と強い風になり、急いで雨具を着用し、頂上に出発。雨の所為で頂上での眺望はなく、お天気が良ければ富士山や道志方面の展望がとても良いとの事らしいのですが、今日は、あいにくの雨で残念！。頂上から惣岳山（休憩）、サス沢山までの下りは少し余裕が出てきた所為か、周り

の花などが目に入るようになり、カタクリの可憐な姿に感激、雨に濡れひときわ緑が鮮やかなコバイケイソウの群落が、とても印象に残りました。

概　　要

山名	御前山		
月日	平成 28 年 4 月 17 日（日）		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩湖
形式	日帰り	グレード	2A
目的	カタクリの花を楽しむ		
費用	4000 円	交通機関	JR,西東京バス
日程	我孫子駅5:31→柏5:35/5:45新松戸 5:54/6:01→西国分寺6:57/7:03→立川 7:08/7:15→奥多摩8:21/8:31(バス)→境橋8:40/8:45⇒栃寄登山口9:10/9:15⇒林道交差点トイレ10:10/10:25⇒湯久保尾根分岐11:35⇒御前山避難小屋 11:55/12:30⇒御前山山頂12:40/12:45 ⇒惣岳山13:05⇒休憩13/40/13:45⇒サス沢山13:59⇒奥多摩湖14:48⇒バス停 14:58/15:04(バス)→奥多摩駅 13:14/16:18→西国分寺17:43→柏→ 我孫子18:53（歩行時間：4時間45分）		
ルート状況	・山崩れの修復途中の為、一部ルートが通行できず、林道を歩いた。 ・途中、都民の森の中を歩くが、登山道の案内と都民の森のハイキングコースの案内板がいろいろ混ざり合って、わかりにくかった。地図と案内板を確かめながら歩いた。 ・サス沢山から奥多摩湖への最後の下山が、急で滑りやすかったので、声を掛け合いながら慎重に歩いた。		
参加者	村越(L)　外崎(SL)　桐生　矢野貞 矢野裕　大山　高橋英　林　蟹江 男性3名　女性6名　計9名		



雨上がりのカタクリ

雨はやんだものの、強風が吹き荒れ飛ばされそうになり、一瞬、恐怖を感じました。さらに、サス沢山から奥多摩湖へはロープを使うハードな下り、雨で滑りやすくなっており、慎重にゆっくりと足を運びつつ、ふと、前方を見ると、コバルトブルーの奥多摩湖、新緑に染まった山、満開の山桜のピンクの素晴らしい光景に目を奪われ、感動。疲れも吹き飛びました。

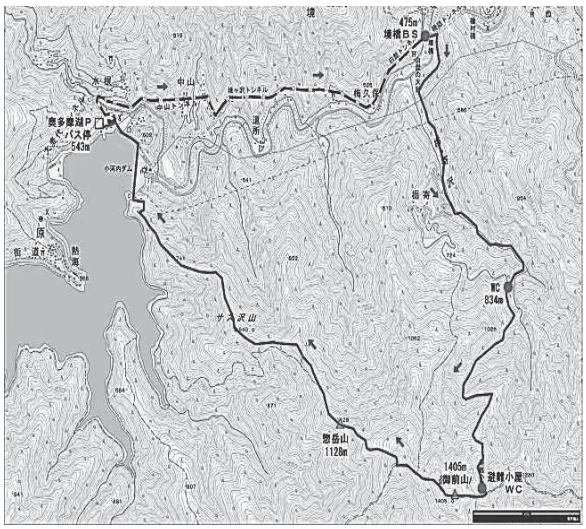
御前山は今の時期、カタクリで多くの登山者が訪れ、かなりの賑わいなのだが、天気予報の所為か、今日は人が少なく、静かな山歩きができました。

皆さまにたくさんのお花の名前（フタバアオイなど）を教えて頂き、有難うございました。

駅での反省会のおそばとビールは、本当に美味しく、ビールは一気に飲んでしまいました。

リーダーをはじめ皆さまに改めて感謝とお礼を申し上げます。

概念図





＜９３９＞

石裂山
（879m）

藤家　一仁

新緑とアカヤシオに包まれて



石裂山山頂

当日、朝方まで小雨が降り山行の実施が危ぶまれましたが、大畠リーダー三年越しの新・花の百山でもある石裂山山行が決行されました。私自身も、昨年、石裂山山行を申し込みましたが大雨で中止となり、再挑戦となりました。今回の石裂山は８名（女性７名・男性１名)の参加で、北千住駅には座席確保のため早めに着き、女子の皆さんは焼き立てパンを購入し石裂山へ向かった。ところが、乗り込んだ東武電車ではハプニングがあった。なんと、電車が雨漏りし、ポタポタ水滴が・・・新聞紙や乗務員が用意したタオルを網棚に引いて応急対応したが、日本の電車が雨漏りするとは・・・初めての経験だった。

新鹿沼駅到着時には雨もすっかり上がり、登山口である、加蘇神社社務所までは、市が各運行会社に補助金を出して委託し、割安な運賃で運行しているバスの利用となる。区間運賃制で300 円というとてもリーズナブルな運賃であるが、ＩＣカード使用出来ないため小銭は必須。（注：石裂山⇔新鹿沼間は１日に２本）

20 数台停まれる駐車場は新緑・アカヤシオの季節でもあり満車状態で、大型バスを貸し切り来ている団体グループもあった。

まずは加蘇神社社務所（石裂バス停）より 10 分ほど林道を進み加蘇神社本殿へ参拝。

加蘇神社は 767 年頃に勝道上人が開山したといわれる由緒ある古社で、御神木の 3 本の杉がとても印象的であった。参拝後、神社脇の沢沿いの林道から歩き始めると、二年前の大雪等の被害と思われる凄い数の倒木がいまだに沢に横たわっており、自然の驚異を感じた。

道を進むと高さ数メートルの清滝が落ちており、その先、竜ケ滝の休憩所でひと休みし、栃木県天然記念物に指定されている加蘇山神社の御神木である千本かつらの大木（樹高約 30 メートル・推定樹齢 1000 と 700 年の二株が成長して一株になっている）をみながら、中ノ宮の休憩所へ。ハシゴとクサリ場、スリルある登りの一枚岩（行者返しの岩）が現れ、その先が洞窟の加蘇山神社奥ノ院となる。

たまたま居合わせた、石裂山を整備されていた男性の話によると、今日は 3 名で山に入って点検・整備等しているとのこと、事故も多いのできちんとしたハシゴ等を設置せざるおえない等話をされていた。また、この先はずっと、岩場等になるのでトイレする場所は無いとのこと。こういう方々の、おかげで、安全に山に登れることを改めて感謝した。

前の登山客が登り終えたところで、ストック等をしまい行者返しの岩を慎重に登る。鎖がとても重かった。奥ノ院へは、アルミ製のしっかりとしたハシゴ（途中でパイプが外れている所もあり注意が必要）を登り、横に広がる洞窟に、鳥居と小さな祠が祀ってあった。

奥ノ宮前から左に巻いて痩せ尾根を登る。道は険しくなり登り応えを感じつつ、新緑に癒されながら東剣ノ峰へ。



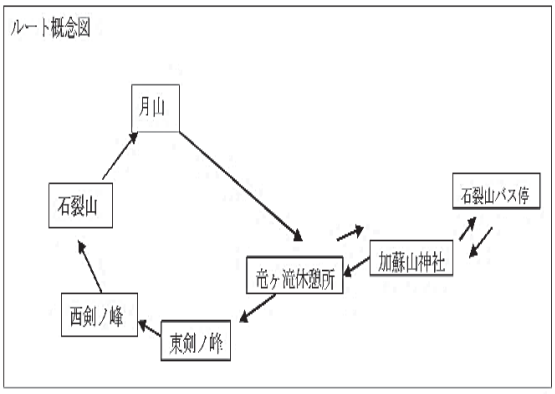
月山山頂付近

このあたりから、ピンク色の花がいくつも見られるようになってきた。今回の目的でもあるアカヤシオである。
東剣ノ峰から西剣ノ峰までは通常10分程であるが、30名ほどのグループが前に詰まっており時間を要した。長いハシゴを後ろ向きに慎重に降り、途中切れており横に乗り換える箇所もありスリルがあった。西剣ノ峰からも更にもう一回長いハシゴを降りることとなるが、また先が詰まっていたのでリーダーの判断で展望台にて、アカヤシオに囲まれながら早めの昼食とする。西剣ノ峰からは石裂山との鞍部までハシゴで下り、登り返し標高879mの石裂山山頂へ到着。ちょっと狭い山頂であった。そこからもうひとつ登り。先を進み15分程度で最後の山である月山山頂へ。

月山の方が石裂山より展望もよく、周囲は一面アカヤシオに囲まれたいへん美しかった。下りも相変わらず花を堪能しながら、声かけあいながら気を付けて急坂を下った。石裂山回遊コース全行程約6キロ、ハシゴやくさり場が数か所あり、急斜面のガケ地もある冒険とロマンのコースであった。

下山後は、新鹿沼駅「みっちゃん蕎麦」でニラ蕎麦と山菜の天ぷらをいただいた。岳人あびこならではの魅力のひとつでもある。

概念図



概　要

山名	石裂山		
月日	平成28年4月24日		
山域	前日光	地形図	1/25000　古峰原
形式	日帰り	グレード	1B
目的	アカシアを楽しむ		
費用	3600円	交通機関	ＪＲ　東武鉄道 リーバス
日程	我孫子 5:41→北千住 6:03/6:31→新鹿沼 7:57/8:15(リーバス) →石裂山バス停 8:30/8:40⇒加蘇山神社 9:05⇒竜ヶ滝休憩所 9:35/9:40⇒ハシゴ前休憩所 10:05/10:10⇒奥の宮 10:20⇒東剣ノ峰 10:40/11:05⇒展望台(西剣峰)11:30/12:05⇒石裂山 12:25/12:30⇒月山 12:50/13:00⇒竜ヶ滝休憩所 14:05/14:10⇒加蘇山神社 14:30⇒石裂山バス停 14:40/15:00→新鹿沼 15:30→蕎麦屋 15:30/16:40→ 新鹿沼 →16:40/17:15→越谷 18:29/18:37→新松戸 19:19/19:25→我孫子 19:30 歩行時間4時間30分		
ルート状況	・新鹿沼駅、上久我石裂行きリーバス乗り場は駅のまん前にある。 ・バス停のすぐ先の加蘇山神社社務所の前にトイレがあり利用出来る。 ・登山口の加蘇山神社の下には駐車ｽﾍﾟｰｽがあり約２０台位停められる。 ・登山口から下山口まで道票が完備しており道迷いの心配はない。 ・危険個所には頑丈な鎖や手すり付きの滑り止めが巻かれたハシゴが何カ所も設置されていて慎重に行動すれば問題はない。至る所で「危険、滑落注意」の立て札が目に入る。 ・奥ノ宮下から稜線までは木の根が縦横に露出し、ヤセ尾根の急登を行く。雨の後は注意が必要。		
参加者	大畠(L)　高橋芳(SL)　矢野貞　本田 矢野裕　石塚　藤家　小林安 女性7名　男性1名　計8名		



アカヤシオ

＜９４０＞

石老山
(702m)

林　敏生

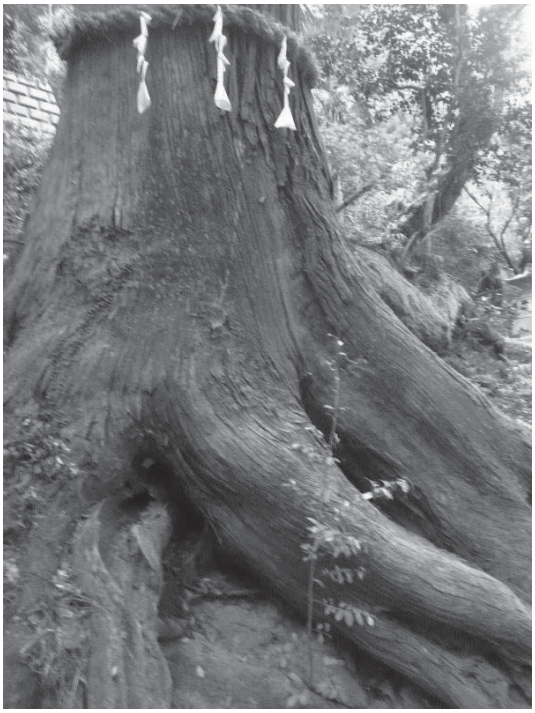
丹沢・富士・南アルプス展望
⇒残念、無念



石老山を目指して、我孫子駅発 5 時 33 分の電車に乗って出発。毎回思うのは我孫子は、秩父、奥多摩、丹沢は日帰りには遠いといっても、必須の反省会は楽しみ(個人意見)。
西国分寺乗り換えで相模湖駅に到着は我孫子を出て約二時間後、混むことを覚悟したバスでしたが雨予報の影響で出足悪くバスは全員ゆったり着席となりました。石老山入り口から車道をワイワイガヤガヤ、顕鏡寺は唸るような寺。メンバーの方々の登山道に咲く花談義は毎回素晴らしく、私は名前を覚えようと努力したことはありましたが結果はさっぱりです。最近は昔に戻って関心?なくなりました。

皇太子殿下が、昨年 11 月に歩かれたということで、皆でコースの整備状況談義をしながら蓮華岩、桜山展望台、八方岩を通過。融合平展望台を過ぎるとあとは山頂までは頑張りのみ!と気を引き締めはしたが、なんとあっという間に到着。雨も上がって石老山で早め(早すぎる)の昼食。パンフレットに下山道の大明神展望台でスカイツリーが展望とあったのは、今回の山行の楽しみの一つでしたがこの天候では到底無理でした。霧雨の山中の景色はとても風情があり、木々の新緑がとても神秘的でした。いくつかのピークを越えて車道へ。相模湖の横断渡し舟の看板を見たときは、乗ってみたいと思ったが皆さん反応なし(泣)。予定より一本早いバスで相模湖駅へ到着。〈反省会の必要はないけど〉とのリーダーのお言葉だったけど、あまりにも早く到着すぎたので。反省会改め懇親会に。帰りの 14 時 12 分の電車に乗ったころに、やっと相模湖周辺の山々が顔を出して、またおいでと見送ってくれました。

昔はいつも山行で登った帰路では次はどこに行こうと考えていました。岳人あびこに入会させていただいて、次から次と山行計画を案内していただき、計画性のない男になりましたが、皆さんとの山行を大切にさせていただきたいと思います。今回の山行も楽しく且つ思い出になるものでした。ありがとうございました・



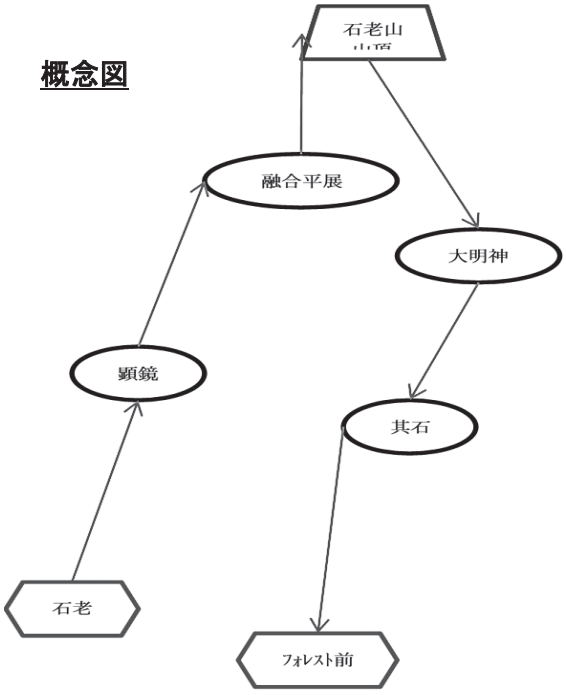
蛇木杉(樹齢400年推定)

概　　要

山名	石老山		
月　日	平成 28 年 4 月 24 日(日)		
山　域	道志山系	地形図	1/25000 上野原、大月
形　式	日帰り	グレード	1A
目　的	①　丹沢・富士展望 ②　里山・新緑の景色 ③　巨岩・奇岩		
費　用	約 3,060 円	交通機関	電車、バス

日程	我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:46/5:50 → 西国分寺駅 6:47/6:55→ 高尾駅 7:22/7:26→相模湖駅 7:35/8:05(バス)→ 石老山入口 8:15/8:30⇒顕鏡寺 8:50/9:05 ⇒蓮華岩 9:05⇒桜山展望台 9:13⇒八方岩 9:25/9:30⇒融合平展望台 9:35/9:45⇒ 石老山 10:15/10:35(昼食)⇒大明神山 11:10/11:15⇒大明神展望台 11:20/11:30 ⇒車道 12:00⇒ﾌﾟﾚｼﾞｬｰﾌｫﾚｽﾄ前バス 12:25/12:40(バ ス)→ 相 模 湖 駅 12:50/14:12→高尾駅 14:21/14:22→新松戸 15:52/15:57→我孫子駅着 16:10 （歩行時間：2 時間 45 分）
ルート状況	・(上り)よく整備されたﾊｲｷﾝｸﾞｺｰｽ、休憩用ベンチも各所にあり、山頂付近も急登はなくﾊｲｷﾝｸﾞﾏｯﾌﾟのｺｰｽﾀｲﾑはかなり余裕のある設定 ・(下り)4回ほどピークを超え下山口に、危険箇所もないよく整備されたﾊｲｷﾝｸﾞｺｰｽ
参加者	郷田（L）中村育（SL）桐生 田村 林 外崎 村松 男３名、女4名　計７名

概念図



＜９４１＞

軽井沢～碓氷峠～横川

矢野　裕子

中山道トレイル　昔人を偲んで



旧碓氷峠展望台　群馬県と長野県の県境

「中山道トレイル」こんな粋な山行には是非参加したい！そう思った仲間はやはりいっぱい。総勢 16 名で新幹線はくたかに乗り、朝 7：30 にはもう軽井沢駅に着いた。速い！

雨の予報が大きく外れて雲間に青空が覗き、駅舎のデッキに吹く風がなんとさわやかなこと。私はこの時点で今日一日が素晴らしい日であることを確信した。懐かしいゲストや会友さんのお顔があって嬉しい。

いつも混雑した軽井沢しか知らない私には、この静まりかえった早朝の商店街はひどく新鮮だ。軽井沢に魅せられたカナダ人宣教師ショー。第一号教会の記念礼拝堂を見て、いよいよ静かな山道に入る。芭蕉の句碑がある。新緑の美しい木立の中、ヤシオツツジ、ムラサキエンレイソウ、フデリンドウなども明るい色で楽しませてくれる。歴史あるこの街道を、いったい何人の人が歩いたのだろう。今はひっそりと静まり、会う人もない。

緩やかな上りが続いて、程なく着いた碓氷峠展望台からは、大きく開けた素晴らしい眺め。妙義山のギザギザの端から端までが目の前に聳えて大迫力。広場には大きな標識でしっかり県境が区切られていて面白い。

長野県と群馬県をまたいで記念撮影。この傍

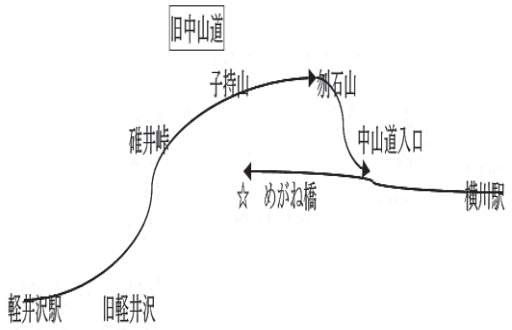
にある日本武尊が祀られた熊野神社で、昔から道中安全を人々が祈願した。

元祖力餅の店しげのやでも、店内のテラス席は床に赤テープで県境が記されていた。力餅は一口サイズでしっとり食べやすく、黄粉、くるみ、辛味、抹茶、胡麻…全部の味を皆で楽しんだ。元気をつけて、また出発。

その先も静かな歩きやすい街道が続く。山中学校跡、関所跡、茶店、合戦跡、座頭ころがし、馬頭観音…江戸の人たちが草鞋を履いて行きかう姿、参勤交代で列をなして歩いた図、信玄と謙信の戦。そこここに昔人の面影が想像される。ちょうど私の大好きだった NHK ドラマ「一路」も中山道が舞台であり、この深い新緑の森をわくわくする思いで歩いた。リーダー芳恵さんは博識で、これらの案内札のたびに歴史の場面をちりばめておしゃべりも弾む。

今回のトレイル、一般的には横川駅からスタートするようだが、その場合碓氷峠までの上りが延々と長い。それで逆コースをとってくれている。ほぼ下りの緩やかな小道を辿る。眺望の良い「覗」にて昼食。面白いことにこの道中出会ったのは、外国人ｸﾞﾙｰﾌﾟだった。男女の若者、国籍は様々で京都から日本橋までを繋ぐと言う。こうして森の中のトレイルを終え、開けた舗装道路に出た。これから「めがね橋」へと向かう。碓氷湖を左に見て、煉瓦のトンネルを抜けアプトの道を行く。これはアプト式鉄道時代の廃線敷を利用して、横川駅～熊ノ平駅の間の約 6 ㎞が遊歩道として整備されたそうだ。間もなく大きく見上げるめがね橋に倒着。これはわが国最大の煉瓦づくりアーチ橋で、新線開通に伴い廃線となったそうだ。

概念図



トレイルの締めくくりは、やっぱり峠の釜めし。良く味が染みてとても美味しかった。目にも足にも、舌にも優しく、限りなく想像の翼が広がる、本当に趣深い山行でした。



旧信越線アプトの道～4 連アーチのめがね橋

概　　要

山名	軽井沢～碓氷峠～横川		
月日	平成 28 年 5 月 7 日(土)		
山域	浅間、軽井沢	地形図	1/25000 軽井沢、安中
形式	日帰り	グレード	2A
目的	旧中山道屈指の難所歩き アプト式旧線路を訪ねる		
費用	約 6000 円 (ｼﾞﾊﾟﾝｸﾞ)	交通機関	北陸新幹線 JR 信越線、 高崎線
日程	我孫子 5:31→上野 6:04/6:34→軽井沢 7:34/740⇒記念礼拝堂 8:17/8:25⇒旧碓氷峠展望台 9:40/9:55⇒峠の力餅 9:57/10:30⇒覗（休憩昼食）12:47/13:05⇒旧中山道入口 13:40⇒めがね橋 14:05/14:18⇒峠の湯 14:55/15:05⇒横川 15:45⇒おぎのや(反省会)横川 16:30→高崎 17:02/17:05→18:40/18:58→上野 19:03→我孫子 19:35 ＜歩行 6 時間 20 分＞		
ルート状況	・軽井沢つるや旅館の前の旧中山道道標を確認、旧碓氷峠展望台遊歩道から旧碓氷峠に至った。ルート全体が古のトレイルであり危険個所はなかった。 ・歴史道だけに興味深い表示があり楽しめた。 ・旧信越線跡を歩いたが横川までの舗装道路が一番厳しい歩きになった。		
参加者	高橋芳(CL)，田村(L)，大畠(SL)，林(SL) 外崎、箕輪カ、中村、本田、矢野祐、新谷、室崎、北田、高橋富、蟹江、細野 箕輪完(ｹﾞｽﾄ)男性 4 名女性 12 名計 16 名		

＜９４２＞

川苔山
(1,363m)

林　敏生

奥多摩の新緑と花と景色



川苔山山頂の笑顔

新宿発6時46分のホリディー快速奥多摩1号に乗って約2時間で奥多摩駅到着。電車での込み具合からしてバスの混雑は覚悟しましたが、バス増便もありスタート地点の川乗橋まで予定通り到着しました。増便にも乗れない登山客も多数あったようです。

けっこう勾配のある舗装された林道をワイワイガヤガヤ、50分程度進むと登山道入り口へ到着。いくつかの滝を見ながら沢沿いの道を進み、落差80mの〈百尋(ひゃくひろ)の滝〉へ到着。

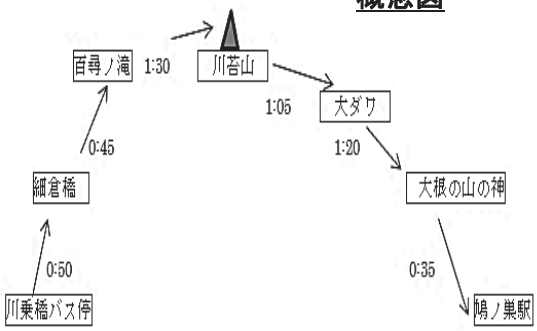
汗をかいた後だけになかなかの絶景でしたが、このコースは全然名所の案内板がなく途中の名の知れない滝がかわいそうに思えました。

その後登山道を約2時間山頂を目指して登り続けましたが、歩いている間の会話は、年齢に関する会話が多く〈年取ったから無理しないのよ〉〈最近足腰が弱くなった〉〈チョットケガして〉〈体力が無くなった〉等など。

しばらくして登山客で混雑している川苔山山頂へ。低木が視野に入りますが360度見渡せ、特に雲取山方面の展望が素晴らしかったですが、とても遠方に感じたのは意外でした。

鳩ノ巣駅への道は、杉木立の中のコースタイム2時間半の下りで、舟井戸を経て大根ノ山ノ神という地点を通過した時に、名のいわれに興味がありましたがここも説明等の看板はなく自宅に戻って検索したら、まずびっくりダイコンの山ではなく、〈おおねのやまのかみ〉と(笑)。

概念図



二時間半の下りといっても、半分以上巻き路でほとんどアップダウンのない平坦な整備された道で〈これでいいのだろうか〉と思いながら足を進めていましたが、時間とともに標高差1000mの下りも終わり、鳩ノ巣駅前の売店の一見怖そうな店主が笑って迎えてくれました。カンパーイ。

リーダー、メンバーの皆さん思い出に残る山行ありがとうございました。

追記　川乗川、川乗橋と地名にあったのに、山は川苔山。おまけに国土地理院の図中には川乗山と表示されているが、なんと間違っていて川苔山が正しいとコメントあり。国土地理院の言い分も聞いてみたくなりました。



百尋(ひゃくひろ)の滝

概　　要

山名	川苔山		
月日	平成 28 年 5 月 15 日(日)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩湖
形式	日帰り	グレード	２Ａ
目的	新緑の奥多摩で人気の山に登る		
費用	3040 円	交通機関	ＪＲ・バス
日程	我孫子（常磐線）5:31→日暮里→新宿 6:30/6:46（ホリデー快速奥多摩）→奥多摩 8:21 臨時バス→川乗り橋 8:55⇒細倉橋 9:45/9:55⇒百尋ノ滝 10:50/11:00⇒休憩 11:45/11:55⇒山頂 12:55/13:20⇒船井戸⇒大ダワへの分岐 14:05/14:15⇒大根の山の神 15:15/15:25⇒鳩ノ巣駅 16:10/16:41→青梅 17:08/17:09→西国分寺 17:48/17:52→新松戸 18:50/18:55→我孫子 19:08 ＜歩行時間 6 時間＞		
ルート状況	・百尋ノ滝まで渓流沿いを登って行くが、滝近くは岩や梯子が滑りやすいので、慎重に歩いた。稜線までの登山道が狭く片側の路肩が崩れてる箇所があった。 ・川乗り橋から百尋ノ滝を経て山頂に行くコースは 3 時間半の長さを感じさせないくらい変化があって良かった。 ・山頂からの下りで、本仁田山、大ダワ方面と巻道の分岐で、大ダワ方面の予定だったが、巻道を行くことになり、緩い下りで疲れた足には良かったと思う。 ・細倉橋に仮設トイレが一か所あるが、連休中は使えたが当日は使えなかった。途中は登山道が狭く稜線まで用を足す処がないので、登山口か駅でしかないようだ。人が多かったので、隠れる場所が無かった。		
参加者	本田(L)・大畠(SL)・村松・武内・外崎・新谷・大平・林・箕輪カ・北田・蟹江・横尾・小林安 男 5 名女 8 名　計 13 名		

＜９４３＞

燕岳
(2,763m)

大山　冬臣



平成２８年５月１５日〔日〕晴から曇り

高瀬川を隔てて槍ヶ岳を間近に眺める燕岳の魅力は、その花崗岩の奇岩と風化した白砂、緑のハイマツの絨毯を縫うように歩くことにあると思う。夏山であれば、コマクサの大群落もその魅力のひとつに加わることになる。今回の燕岳山行は、残雪の北アルプスの山々の大パノラマと宿泊する山荘・燕山荘の直ぐ傍のハイマツの中に雷鳥の巣があって、人懐っこく身近に見ることが出来、未だ完全に夏毛に生え替わっていない白と灰色の入り交じった雷鳥を見るのも目的だった。

山行では早朝の、５時３１分我孫子駅発の常磐快速に乗ることが多いが、今回は全員が我孫子駅乗車と云うのも珍しい。駅に着くと、同じ今日出発の本田Ｌの奥多摩・川苔山山行参加の皆さんが集まっていた。同じ日の出発は判っていたが、同じ電車と云うのはビックリ、こんなこともあるんだ。日暮里まで一緒だ。柏駅に着くと又、続々と川苔山組の皆さんが乗車してきた。総員で私達の三倍強の１３名の大所帯だ。今年度入会の皆さんも４名参加している。次の山行では是非、ご一緒したい。日暮里駅でお互いの山行の好天と愉しい山行を祈って別れた。

一般的には、アルプス山行は新宿発のあずさ号を利用するのだが、私達は３０分ほど時間が短縮出来る北陸新幹線の全席指定席のかがやき５０１号を利用した。ジパング倶楽部の利用の仕方が十分に理解できていないので乗車券だけを皆さんには購入して戴き、新幹線改札前のみ

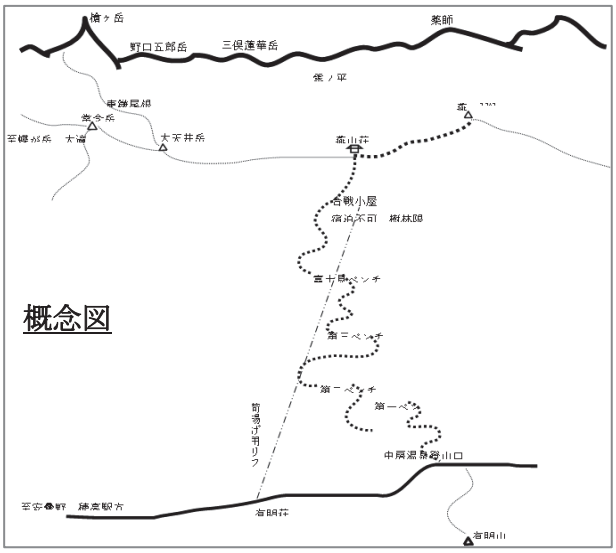
どりの窓口でジパング倶楽部で、同じボックスの坐席を購入した。ジパング倶楽部に電話をすると空席を調べて呉れるので助かる。ガラガラだった。

長野駅からローカル線の篠ノ井線に乗り換えた。段々畑の景色が楽しみだった。「姥捨て山」で知られる「姥捨」の駅があるのはこの線だ。「姥捨」からは段々畑をイメージさせる「田毎の月」が近い。長野駅からドンドン高度を上げて登り、箱根登山鉄道に残されているのと同じスイッチバック式がこの線にもあった。ＪＲでは確か、旭川駅～網走駅間にもあったような記憶がある。利便性から云えばトンネルにした方が好いのは判るが、懐かしい、旅心を刺激してくれるスイッチバックだった。新緑の山肌を喘ぐように登り、そして安曇野へと下る約１時間の電車だった。

安曇野の中心都市である松本駅で大糸線に乗り換えるのだが、大糸線は６番線の発着なのだが私達が乗る便だけが５番線発着になっているのに案内がなく、暫く６番線で待っているとアナウンスがあって５番線に移動した。荷物を担いで階段の上り下りは山道でも厳しい。

松本駅から穂高駅へは１０駅ほどだ。沿線はアカシアの白い花が満開で素晴らしい。車窓からは常念岳、有明山が見えている。高山は雪で覆われ、私の気持ちも弥が上にも盛り上がってくる。穂高駅に着くと改札口に運転手さんが迎えに出て呉れていた。陽気な運転手さんで、山にも詳しく見える山を案内してくれた。何でもこの安曇野に住むのが夢で定年退職後、引っ越し、タクシーの仕事に就いたと仰っていた。今年は雪が少ない所為か登山客も少なく、例年だと中房温泉の駐車場が満杯で狭いこの路肩に駐車してしまい、バスが登れなくなるほどなのだそうだ。特に紅葉の秋は酷く、運転手さんの一日あたりの中房温泉への往復回数の最高は１０往復したことがあったと仰っていた！

標高１，４６２ｍの中房温泉登山口から２，７６３ｍの燕岳までの合戦尾根の標高差は１，３０１ｍある。日本三急登にノミネートされているが、剱岳の早月尾根の標高差２，２００ｍ、甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根の２，３００ｍは文句なしだが、南アの赤石岳・赤石尾根２，２００ｍをはじめ合戦尾根以上の急登はかなりあるように思える？でも、急登であることは間違いなかった。特に登山口から第一ベンチ間はガンガンと高度を上げて呉れる！救いは新緑の素晴らしさと想定外の山野草の多さだ。花に詳しい田村さんが説明してくれるのだが、聞いたときは判ったような気分になるのだが手帳に書こうとする瞬間にはその名前が頭から吹っ飛んでしまっている。哀しいかな！そんな田村さんでも？？？の花が多い。下山してからホームページの高山植物・山野草の監修委員に就任して下さった八重子さんにお訊きするしかない。それにしてもこんなにたくさんの山野草が燕岳の山麓で見ることが出来るとは思ってもいなかったので感動、ついつい鑑賞時間が長くなってしまい、ピッチが鈍る。



概念図

今日は、トップを育子さん、二番手を石塚さん、三番手に田村さんと最強メンバーに、私・大山がくっついて行く。漸く、第一ベンチに到着した。尾根道の水場は短くても５～１０分ほど下るのが普通だが此処の水場はホンの２～３分ほど下ったところの小沢が水場になっていた。折角の貴重な水場ではあるが登山口から６０分ほどなので利用する人は少ないかもね。第一ベンチまではコメツガの見事な林と眩しいほどの新緑の落葉松に覆われ、展望は殆どない。

第一ベンチから第二ベンチは傾斜が緩くなって比較的短い感じがした。登山口の出発時間が１１時近かったので此処でランチにする。私は、最近の昼食はコンビニの冷やしうどん、蕎麦の類いが多い。ボリュームは物足りないが疲れた山での喉の通りが良く、併せてニンジンのサラダスティックを持参している。両方とも山ではあまり馴染みがないので皆さんの視線を感じる。此処まではあまり樹相に変化はない。登る人は見かけないが、下山して来る人は多い。土曜日に燕山荘に登り、今日、燕岳に登って下山して来ているようだ。タクシーの運転手さんの話ではガラガラと仰っていたが、駐車場はそこそこ

停車していたので、下山してくる皆さんはマイカー登山のようだ。我々の同世代の皆さんよりも若者の姿が多い。やはり土曜日に登るという云うことはサラリーマン、ＯＬの皆さんが多いと云うことのようだ。

第二ベンチから第三ベンチも樹相は変わらない。傾斜は強いのだが、急斜面を登ると傾斜が緩くなりの繰り返しなので心なしか気分的には楽だ。それにしても休みたくなる感覚で休憩場が設けられているのは有り難い。これも燕山荘の「おもてなし」なのかな？登山道が湿りだした。下山してくる皆さんはスパッツを着用している。登山道の深い掘られたところには吹きだまりのように雪が見え始めた。今年は雪が少ないと云ってもさすがに北アルプスの一角だ。

晴れていれば富士山が見えるところから次のベンチは「富士見ベンチ」なのかな？生憎、今日は富士山は見えなかったが、代わりに雪に覆われた常念岳が新緑の唐松林の上に現れた。思わず歓声が挙がる。雪のアルプスは素晴らしい！この景色に憧れて今日を迎えたのだ。もう、登山道の雪は珍しくなくなっていた。相変わらず山野草が咲いている。深い樹林は相変わらずであったが心なしか樹相が低くなり、細くなり、岳樺が目立つようになってきた。そろそろ合戦小屋も近い筈だ。

合戦小屋の緑の屋根が樹林越しに見えるとヒョコッと合戦小屋の前に飛び出した。夏はこの小屋は登山者のオアシスになってしまう。なんといっても水をたっぷり含んだ甘い八分割の一切れ８００円のスイカを売っているのだ！思わず誰もが歓声を上げてこのスイカには値段に関係なく飛びついてしまう。岳人あびこの古い「やまなみ」にもこのスイカが記載されていた。それも一切れでなく２～３切れ買ってしまう人も多いようだ！素晴らしいアイデアだ。そのために麓の有明荘から荷揚げ用のリフトまで建設してしまい、噂ではスイカを荷揚げし、莫大な売り上げをドラム缶にギュウギュウ詰めにして有明荘に下ろしていると云う。それで有明荘を改築出来たのかな？燕山荘グループは偏に「おもてなし」だけでなく、経営的な感覚も優れているのだ。そのリフトの試運転を行っていた。此処で大休憩にした。合戦小屋は宿泊は出来ない。

氷小豆のシャーベット食べたさ一心で持ってきた粒あんを開封して、表面の薄汚れた雪田をピッケルで削り、きれいな氷状の雪を掘り出してカップに入れて茹で小豆と混ぜ合わせてシャーベットにして食べた。疲れた身体には効く！お汁粉の方が良いという声もあった。さあ、ここからは本格的な雪道だ。合戦小屋まで登ると樹相が一気に変わり、灌木帯になり、空が一気に明るくなってきた。今まで青空だったのが雲が出始めた。気持ちは早く稜線に出なくてはと、焦り始める。

雪道は緩んでいたので、アイゼンなしでストックのままで燕山荘を目指す。直ぐに樹林帯は終わり、ハイマツ帯に変わった。展望は一気に良くなり、尾根に出ると燕山荘から大天井岳に続く尾根の向こうに槍ヶ岳が右肩に子槍を乗せて見え始めた。またしても大歓声だ！この槍ヶ岳を見るために苦しい登りに耐えて来たと云っても過言ではない。本当に感動し、嬉しかった。雲が厚くなり始めていたが間に合った！雪道と槍ヶ岳、岳樺の森、頭上高くに姿を現した燕山荘に励まされるように疲れた足に鞭打って登る。燕山荘はガスの中に見え隠れしている。

折角の景色を５分休憩を取りながら愉しみながら登った。夏道と冬の燕山荘への道はちょっと違っているようで尾根を忠実に登る冬道は階段になっていて厳しい。それでも一歩一歩頑張った。燕山荘の一角に漸く辿り着いた。左から大きく燕山荘を捲くように玄関に向かった。燕岳も、槍ヶ岳もガスの中だ。今日の燕岳への登頂は断念した。明日があるさ・・・。明日の天気予報は曇りのち雨だった。今日の泊まり客は１５名、ガラガラだった。昨日はほぼ満室状態だったようだ。

平成２８年　５月１６日〔月〕　快晴



槍穂高のモルゲンロート

起床は４時、窓の外は明るかった。もしかしたら、晴れているのかも・・・淡い期待を抱いて表に飛び出した。ご来光にもモルゲンロートにも未だ、早かったが、さすがに寒い。ダウンと河童を着込み、手袋をして長期戦に備えた。寒風の中、育子さんがスマホで写真を撮りまくっていた。石塚さんも飛び出してきた。田村さんも現れた。

小槍を肩に乗せ、北鎌尾根を高瀬川まで一気に伸ばした槍ヶ岳の真っ黒い姿がそこにはあった。良かった！奇跡だった。私には奇跡だった！そしてご来光だ。東の安曇野の方角から朝日が昇ってきた。安曇野は雲海に覆われ、浅間山が噴煙を上げていた。妙高山、火打山、雨飾山と続く頸城の山々が、鹿島槍ヶ岳から
白馬へと続く真っ白な雪に覆われた後立山の稜線が、薬師から雲ノ平、鷲羽岳、槍ヶ岳、笠ヶ岳へと続く北アルプスの殆ど全山が見えていた。アレッ！八ヶ岳と南アルプスの間に・・・、間違いない富士山だ！残雪が見えている。凄い！日本の主な山々の殆どが見えていた！今日一日の快晴はほぼ間違いない。ほぼ私達の思いは満たされた。寒さに我慢出来ずに小屋に入った。

５時半の朝食を今や遅しと待ち構え、合図と共に一番乗りで食堂に飛び込んだ。夕食も美味しかったが朝食も美味しかった。山小屋の食事で満足したのは八ヶ岳の赤岳鉱泉、黒百合ヒュッテ、そして燕山荘かな・・・。


下山

荷物置き場を指定して貰って、空身で燕岳の山頂を目指した。皆さん、ものすごいスピードだ。ついて行くのに必死だ。息が切れてくる。我慢しかない。昨日のゆっくりがまるでウソのようだ。ハイマツに覆われた花崗岩の風化した白砂の道を登る。燕岳の代名詞とも云える奇岩の間をすり抜けながら登る。ちょっと高度を上げるだけで景色が一変する。見えなかった穂高連峰の前穂高も姿を現してきた。剱岳が未だ、現れない。これから登る燕岳の後になっている筈だ。双六岳、三俣蓮華岳、雲ノ平と平行して登って行く。雲ノ平も今は真白に雪に覆われている。もう、二ヶ月もしないうちに緑一色に変わってしまうのだ。田村さんが雲ノ平の思い出話をして呉れる。武内代表の雲ノ平山行も７月下旬に予定されている！今年も私の計画の中には雲ノ平はない。人っ子一人いない北アルプスの今日の貸切バージンロードだった！石塚さんがトップで山頂に飛び込んだ。本当に嬉しい握手を交わした。真っ白な圧倒的な残雪に覆われた立山・剱連峰が見えた！膨大な積雪を誇る北アルプスの山々の中でも群を抜いて残雪が多い。一説には一冬に６０ｍの積雪がその得意な地形からあると云う。その膨大な積雪のお陰で万年雪を持たない地形にも関わらず氷河が形成されているのだ。その氷河も見ることが出来た。今年の私自身のＢＩＧ登山として定例山行に剱岳を申請したが、行きたい！

遅れて登って来た単独の二番手の若者に私達の記念写真を撮って戴いた。彼とは昨日、合戦尾根で一緒だった。私達よりも一時間は早く燕山荘に入り、昨日のうちに霧の中の燕岳に登ったが、やはりこの素晴らしい快晴の燕岳に改めて登って来たと云う。いつまでもこの素晴らしい景色に浸って居たかった。東鎌尾根から槍ヶ岳、そしてキレットから穂高へと続く豪快な展望は圧巻だ。憧れの氷河公園・天狗池の位置もはっきりと指摘できるほどだ。残念ながら下山だ。

毎回、感じることだが, 登りの苦しさに比べると下りは本当に楽ちんだ。登りでは苦しくて見落としがちな景色も、可憐な山野草も余裕を持って見ることが出来るのも嬉しい。あれだけたっぷりと眺めた槍ヶ岳も私達をまるで見送るように合戦小屋上部まで見えていた。登りでは背中になってあまり観ることの出来なかった有明山の特徴的な姿もじっくりと観賞しながら降りることが出来た。これ以上の新緑はないと云うほど鮮やかな新緑を愉しみながら中房温泉からの舗装道路を有明荘まで下った。有明荘自体は経営的に楽ではなさそうだが、燕山荘グループに入ったお陰で、あの大人気のちょっと高めのスイカのお陰？で改築が適い、清潔で素晴らしい宿舎に変身していた。大浴場も立派に広くなっていてこの設備なら家族旅行でも十分に喜んで貰えそうだ。秋は混むので新緑の季節かな？

大王のワサビ田の湧水が川となって水車を回す景色と、安曇野の代名詞でもある道祖神を帰りのタクシーの運転手さんにお願いして回って貰った。アカシアの素晴らしい満開の白い花が印象的だった。

長野経由で帰る予定であったが、穂高駅に停車するあずさがちょっと待てば乗れることが判り急遽、あずさに乗ることに変更した。新宿駅からは、神田駅に抜けて上野駅から毎度お馴染みの常磐快速で先頭号車に乗ったら座って帰ることが出来た。

概　　要

山名		北アルプス南部・常念山脈		
月日		平成 28 年　5 月 15 日～16 日		
山域		北アルプス南部・常念山脈	地形図	1/25000 穂高
形式		1 泊 2 日	グレード	2C
目的		1．残雪期の北アルプスを登る 2．雪景色の槍・穂高、北アルプスのパノラマを見る		
費用		26000 円	交通機関	ＪＲ、北陸新幹線、タクシー、
日程	一日目	我孫子5:31→上野6:04/6:22→かがやき→長野7:38/7:50→松本9:04/9:22→穂高9:51/10:00→南安ﾀｸｼｰ→中房温泉登山口10:30/10:50⇒第一ﾍﾞﾝﾁ11:36⇒第二ﾍﾞﾝﾁ〔昼食〕12:00/12:35⇒第三ﾍﾞﾝﾁ13:10⇒富士見ﾍﾞﾝﾁ13:50⇒合戦小屋14:45/15:05⇒燕山荘16:39 ＜歩行時間：4時間50分＞		
	二日目	燕山荘5:55⇒燕岳6:45/7:05⇒燕山荘7:30/7:50⇒合戦小屋8:40⇒富士見ﾍﾞﾝﾁ9:10⇒第三ﾍﾞﾝﾁ9:35⇒第二10:15⇒第一ﾍﾞﾝﾁ10:45⇒中房温泉登山口11:20/11:30⇒有明荘〔入浴、反省会〕11:40/13:30→タクシー→大王わさび田14:10/14:30⇒穂高14:45/15:22→あずさ26号→新宿18:36→上野19:00/19:18→我孫子19:43 ＜歩行時間：4時間55分＞		
ルート状況		・雪は第三ﾍﾞﾝﾁを越えてから現れ、合戦小屋からは殆ど雪の上を登る ・階段が雪面になっているので登り易い ・ルート案内補助、立ち入り禁止用のロープはあるが岩場の鎖、ロープは無 ・北アルプスの代表的な登山道のひとつでもあり、道標、テープは確り付けられていて迷いやすい所はなかった ・合戦小屋～燕山荘は雪道を登るが燕山荘～燕岳は富山側を登り、雪は皆無 ・日本三急登にﾉﾐﾈｰﾄされているが、本当に急なのは登山口から第一ﾍﾞﾝﾁ間		
参加者		大山(L)　中村育　石塚　田村 男1名　女3名　計4名		

＜９４４＞

薬師岳～三ノ宿山
(1,420m)　(1,229m)

村松　敏彦

シロヤシオと禅頂行者道



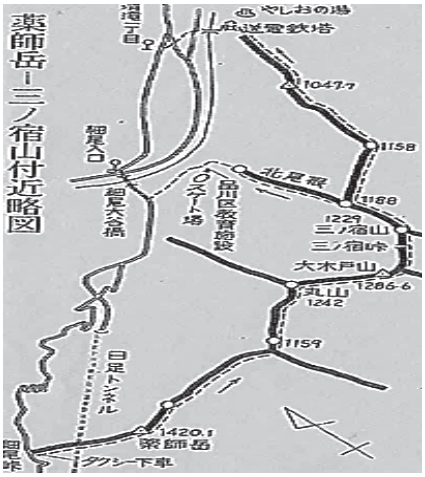
道標のないヤブ道　地図を頼りに尾根を忠実に拾って～三ノ宿山

日光地方は多くの山々が峰を貫いて、多くの登山者、観光客で一年を通して賑わっています。但し、それも一部の場所で広い日光山塊にはまだ魅力のある、静かなルートが多く残されています。

今回のこのルートも古くは禅頂行者道として、修験者たちの回峰修業の道として、日光を開山した勝道上人及びその弟子たちが歩かれた道を目的は違うが花を訪ねて､8 名の仲間と歩きました。登山口の細尾峠は茶の木平からのルートの交点に当たり、日足トンネルの上（旧国道 122 号）にあり、車が通らなくなったため、静かな風情のある峠に変身しました。

周囲は長い、厳しい冬から目覚めて新緑が太陽に照らされて美しく輝いていた。道標が薬師岳を指す明瞭な笹原の中の登山道に入るとすぐにピンクのアカヤシオが点々と現れる。登るにつれてその数は増し、予想はしていたが開花時期にぴったり会ったようだ。夕日岳、地蔵岳方面の道の分岐を過ぎると程無く､3 等三角店の薬師岳に着く。足下には小さな２基の石の祠がひっそりと置かれていました。目の前には男体山、女峰山、太郎山など日光の名峰が青空にくっきりとその大きさを誇示するがごとく見せてくれた。

概念図



ここから三ノ宿方面は南東の県境尾根を忠実に拾っていく。丸山の手前に行くと今度はシロヤシオ（愛子さまのお印の花らしい）が数を増し、ミツバツツジに混じって花のトンネルを行くようになる。目を谷の方に向ければ奥の方まで白いカーテンで埋もれ、思わず「すごい」の声が出る。

木の枝に小さな山頂板のある丸山（1159m）で昼食にする。3 等三角点のある大木戸山（1,287m）に向かうルートには今度は赤いヤマツツジが背景に夕日岳を添えて素晴らしい光景だ。2 本のブナの巨木を背に禅頂行者道らしく 2 基の石祠がここにもひっそりと置かれていた。ここから振り返ってみる夕日岳は圧巻だ。ヤマツツジを前衛に大きく高く見える。

木の枝に山名板にひっそりぶら下がっている大木戸山（1287m）を過ぎると間もなく道は二股に分かれる直進すると三ノ宿峠を経由して林道に出る。左の笹藪の尾根に入る。新芽の初々しいカラマツ林が見えると個性豊かな山名板のある三ノ宿山（1,229m）に着く。ここから急降下な道をヤシオの湯を目指す。この下山路にもヤマツツジとシロヤシオの饗宴は続く。

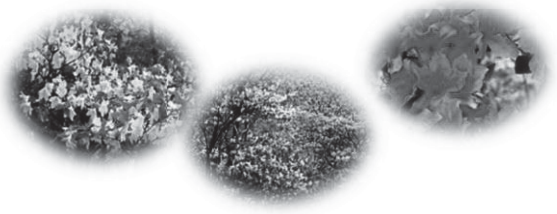


誰にも逢わない静かすぎる山

概　　要

山名	薬師岳～三ノ宿山		
月日	平成 28 年 5 月 20 日（金）		
山域	日光	地形図	1/25000 日光南部
形式	日帰り	グレード	2A
目的	・静かな縦走路を辿ってシロヤシオの群落に逢う ・新緑の美しい修験者の回峰終業の道を歩く		
費用	6000 円	交通機関	ＪＲ、東武鉄道、タクシー
日程	東武北千住駅快速電車ホーム 6:25 集合 6:31 発快速日光・田島行→東武日光（ﾀｸｼｰ）8:25/8:35→細尾峠 9:15⇒薬師岳 9:55⇒丸山 11:40/12:00⇒大木戸山 12:25⇒三ノ宿山 12:55⇒やしおの湯下山口 15:30⇒清滝バス停 15:50→東武日光駅 16:05/17:39→春日部 19:30→柏 20:17→我孫子 20:27		
	・細尾峠の登山口は日足ﾄﾝﾈﾙの上、(旧国道 122 号）にある。ﾄﾝﾈﾙを出た後、地蔵坂を戻るようになる。(日光～細尾峠間約 6,000 円）ﾄﾝﾈﾙ手前でも旧道に入る事が出来るが時間が掛る。 ・左に行くと茶ノ木平方面、右の登山道に入る。 ・薬師岳迄は道標はあり、尚、且つ登山道ははっきりしているが、その後は道標はない。地図を頼りに県境尾根を忠実に拾って行くしかない。 ・3 等三角点の薬師岳の山頂からは右に戻ると夕日岳、地蔵岳、鹿沼方面へ行くが，三ノ宿方面へは北東方面のヤブ道に入る。 ・三ノ宿を過ぎると右方向に尾根が伸びているがこのルートは林道に行くので北東方面の尾根に入る事。 ・1,047ｍピークを過ぎると尾根が二つに分かれるが左の尾根に入る。上部に（見えにくい）エフがある。		
参加者	村松(L)、矢野貞(SL)、外崎、高橋富林 小林安、室崎、室崎育（ｹﾞｽﾄ） 女性 5 名　男性 3 名　計 8 名		

見事なシロヤシオ　アカヤシオ、ヤマツツジ



＜９４５＞

畦ヶ丸・菰釣山
（1,293m）（1,348m）

高橋　芳恵

女子隊、念願の菰釣山に挑戦



遂に山頂！ヤッター！

1日目

山の会に入会して長年となるが、ぜひ行きたい山の一つである菰釣山に行く機会を与えられた。初日は西丹沢自然教室から畔ヶ丸を目指した。権現山登山口までは西沢にかかる橋を何回も渡りながら水音と共に軽快な沢歩きとなった。新緑の山は緑に染まるように心が洗われ、山歩きとして最も心地よい季節である。沢伝いの下棚沢、本棚沢のうち本棚沢に立ち寄ることにした。本棚沢には二つの見事な滝があり、その景観の素晴らしさを堪能し、滝からのマイナスイオンを全身に浴びた。善六のタワを越えて昼頃、畔ヶ丸山頂（1292.6m）に到着した。山頂は狭く昼食を摂る登山者が多かったため私たちはその先の避難小屋まで進むことにした。

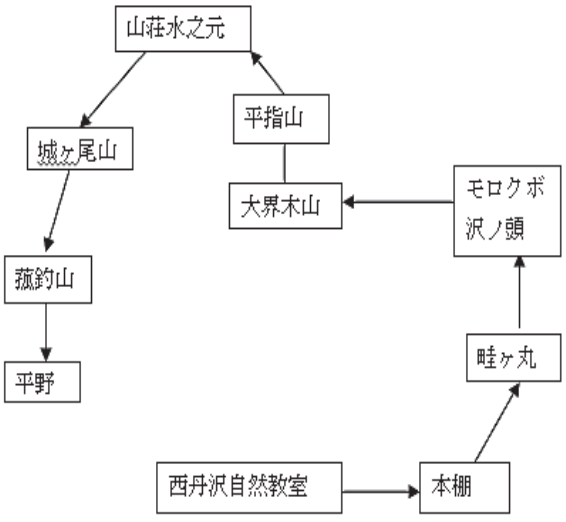
神奈川県の避難小屋はどれも立派な小屋ではあるが、水がないのが惜しまれる。今夜この小屋で宿泊予定の単独者は一人でゆっくり過ごす予定とのこと。私たちはここから東海自然歩道に入り、モロクボ沢の頭から大界木山（1246m）に至った。ここからは今夜の宿のある道志温泉にいったん下り、翌日再び稜線上に戻ってくる計画である。同じ道を戻るはつまらないとの意向もあり、鳥の胸山方向をめざし浦安峠に下りた後の上りには泣かされた。しかし歩きやすい道で緑の森歩きで何とか歩き切ることができた。下山口は道志の森キャンプ場であり、当日は貸し切りのイベントでにぎわっていて、私たちは山から下りてきた熊のような心持であった。このキャンプ場は個人所有としてはかなりの規模であり、道志道にはいくつものオートキャンプ場が連なっている。宿の若主人の迎もあり、料理民宿山荘水之元に向かった。

2日目

料理民宿だけあり昨夜の料理は山菜、ヤマメを中心としたなかなかのものであり、早朝から用意された朝食にも心がこもっていた。しかも安価で是非再訪したいお勧めの宿である。昨日のキャンプ場まで送ってもらい 50 分程の城ヶ尾山（1198.1m）を目指した。昨日の下りと異なり難なく稜線に戻ることができ、昨日の下りはかなりの回り道であったことが分かった。早朝でもあり、メンバーの足取りもよく軽快の歩きであることが何よりうれしい。一帯はブナ林となり地名もブナ沢の頭（1229m）、ブナ沢乗越とブナ特有の明るい森である。しかしピークの前には必ずアップダウンが続く。程なく菰釣避難小屋に到着した。避難小屋は新しく、清潔な立派なものであった。ここで本日唯一の登山者に出逢った。『頂上は誰もいなくて静かですよ』の言葉には励まされ、あこがれの菰釣山（1379m）山頂に立つことができた。『ヤッター！』どこから入ってもアクセスが遠く、避難小屋での泊りを強いられ、なかなか容易に来られない山であるからこその威厳が感じられた。

展望もよく山中湖、富士山、道志の山々を存分に眺めた。

概念図



さらに東海自然歩道を下り大棚の頭(1265m)を目指した。ミツバツツジのトンネルが続く下りとなり、同行者の歓声が響いた。下るはずのトレイルは何故かアップダウンの連続であり、ブナノ丸　,油沢の頭、樅の木沢の頭(1306m)、西沢の頭、西保土山（1297.3m）とすべて急な登りの連続であった。歩き続けた割にはほとんど標高が下りていないことにも当日の暑さと共に体に堪えたがハルゼミの鳴き声が励ましてくれている。



迫力の水しぶき(本棚沢)

一路、高指山方向に進み、ついに分岐の富士岬に到着した。山中で岬とは面白い。ここからの山中湖の展望はよく、新しく切り開かれた下山道がまっしぐらに下りている。下山は難なく、別荘地に到着した。石割の湯で入浴して帰ろうと話は決まり、平野へ続く舗装道路を 20 分ほど温泉まで向かう間が何よりも厳しい歩きとなり、『これならアップダウンの方がマシかな』と考えながら納得した。石割の湯で 2 日間頑張ってくれた 2 本の我が足に感謝し、ゆったりと休息することができた。

今回の長い縦走の山旅を終え、充実感で満たされたのはメンバー全員の思いであろう。
それにしても東海自然歩道はなかなか手ごわいトレイルであり、今回の旅でやっと高尾山（東京）から平野（山梨）につなげることができた。今後も是非続けて歩いてみたいと思っている。何より両日とも晴天であり、天候の心配がなかったこと。気のおけない仲間とともに楽しく歩くことができたこと。そして新緑とツツジの美しさ、私にとってベスト 5 に入る最高の山旅であった。リーダー、同行の皆様に心から感謝いたします。

概　　要

山名		畦ヶ丸・菰釣山		
月日		平成２８年５月２２日～２３日		
山域		西丹沢・道志	地形図	1/25000 中川・御正体・駿河小山
形式		１泊２日山小屋	グレード	2B
目的		シロヤシオ・新緑を楽しむ		
費用		16000 円	交通機関	ＪＲ・小田急・富士急タクシー・バス
日程	一日目	我孫子 5:33→代々木上原→新松 8:00→タクシー→西丹沢自然教室 9:00/9:15⇒本棚 10:10/10:20⇒善六ノタワ 11:25⇒畦ヶ丸 12:30⇒避難小屋 12:38/13:05⇒モロクボ沢ノ頭 13:25⇒大界木山 14:10/14:20⇒浦安峠 14:50/14:55⇒ 雑木ノ頭 15:33/15:40⇒道志の森キャンプ場 16:25→山荘水之元 16:30 歩行時間　６時間		
	二日目	之元 6:30→落合橋 6:35⇒ 城尾峠登山口 7:15/7:20⇒城ヶ尾 7:53/8:00 城ヶ尾山 8:07⇒中ノ丸 8:47/8:55⇒ブナ沢ノ頭 9:07⇒避難小屋 9:35/9:40⇒菰釣山 10:10/10:30⇒ ブナノ丸 10:55⇒油沢ノ頭 11:20/11:30⇒樅ノ木沢の頭 12:47⇒水の木分岐 13:30⇒ 山伏峠分岐 13:40 富士岬平 14:27/14:30⇒石割の湯 15:30/16:56→バス富士山駅 18:00→大月→高尾→国分寺→新松戸→我孫子 21:30 歩行時間　７時間 30 分		
ルート状況		・自然教室から畦ヶ丸の登山道は何回か丸太の橋を渡る。 ・大界木山から道志の森キャンプ場までは急登・急下降となっているので注意が必要 ・水晶橋から城ヶ尾峠間に数か所ザレ場がある、慎重に通過すれば問題ない。 ・登山道は整備されていてわかりやすく、痩せ尾根の急坂もあるが、気を付けて登れば問題はない。 ・分岐には標識があり間違えることはない。富士岬平からは急下降なので注意が必要		
参加者		田村(L)、高橋芳(SL)、大畠、中村育 小島　　女性５名　計５名		

＜９４６＞

守屋山・入笠山
(1,650m) (1,955m)

郷田　進

素晴らしい展望楽しむ



守屋山は入笠山から続く稜線上に存在し、南アルプス最北端並びに伊那山地の最北端とも位置づけられる山である。八ヶ岳や南アルプスの展望（東峰）と中央アルプスや御嶽山の眺めが素晴らしい西峰の二つの山頂からなる諏訪方面で人気の山である。当初、日帰り山行の予定であったが、折角の伊那方面の散策でもありテント泊に入笠山をつけて一泊テント山行した。参加者は、7名（男性3名、女性4名）となり、4～5人用テント×2ハリ他の共同装備を全員で分担した。大月駅から現地までの移動は、レンタカーを利用し、負担は出来るだけ少なくした。

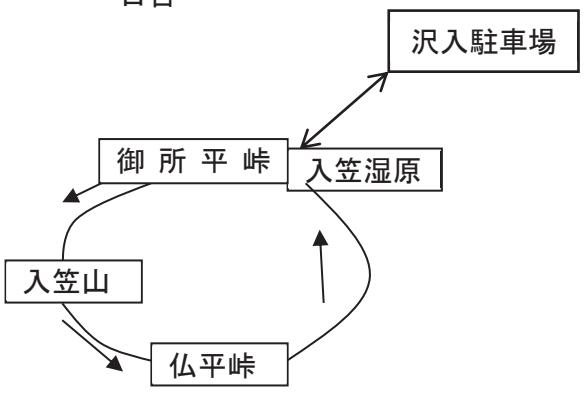
小雨交じりの中、早朝我孫子・柏を出発し、列車を乗り継ぎ、大月駅でレンターカー×2台に分乗し目的地の諏訪を目指す。気になる天候も次第に回復する。天候等の理由から1日目入笠山、2日目守屋山の行程に変更する。

沢入駐車場からの入笠山コースは、昨年のXマステント山行のコースであり、同山行の参加者が3名おり、その時の話などを聞きながらの山頂を目指す。途中地元の元気な小学生グループが大きな声で意味不明な歌？を歌っていた。山頂にも多数のハイカーがおり、人気の高さが解る。八ヶ岳など展望を楽しみながら昼食をとる。咲き始めたすずらんを愛でながら下山、いよいよ待望のキャンプ場へと車を進める。

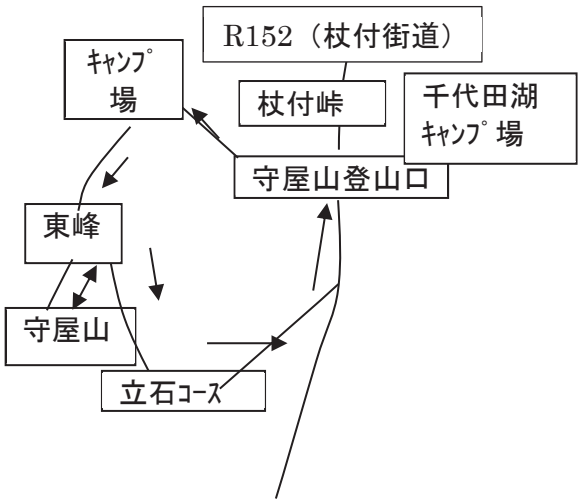
今回の千代田湖キャンプ場は、景色、水、トイレ、ベンチ等かなり良く整備されたキャンプ場であった。早速にテント設営、夕飯の準備等全員で手際よく進められる。ゆっくりした時間、楽しい語らい、自然の中での脱日常性などキャンプの醍醐味を満喫した。今回の夕食は、負担軽減の観点から、食担をあえて設けず各人一品持ち寄り方式をとる。主食のカレーに加え、野菜サラダ、ステーキ、枝豆、缶詰、フルーツ、出雲の珍味など各人の創意のつまったバランス良い夕食を美味しく頂く。山のベテラン大平さんから山でのレトルトカレーの正しい食べ方を学ぶ。

概念図

一日目



二日目



翌日の朝食は、早朝の湖畔で鳥のさえずりを聞きながら、贅沢でお腹に優しいおかゆをミートボール、梅干、わざび漬け、漬物などといっしょに食べる。食後のコーヒーも格別であった。テントを撤収し、荷物を車におき、ツツジとテント場をバックに記念撮影後、今回山行の目的である守屋山登山口を目指す。



入笠山（すずらん咲いていました）

守屋山登山道は、明るい樹林帯の中よく整備された道が山頂まで続く。途中キャンプ場があり、大きな木標と鳥居が印象的であった。守屋山東峰では八ヶ岳、南アルプスなどの山々の展望が楽しめた。また祠では地元の方々がお神酒をあげており、運良く諏訪の地酒を全員で頂く。東峰から西峰に向かう約２０分程の道を「癒しの尾根道」と呼ぶ。ブナの木の中に可愛らしい櫛難観音があったり、オオカメの木並木や奇岩などあり周りの景色と伴に本当に癒される道であった。西峰山頂は、東峰で見れなかった中央アルプスが見られる他、御嶽山、乗鞍岳、北アルプス、浅間山、霧ヶ峰など大展望を楽しむことができた。



癒しの尾根（東峰～西峰の間）

概　要

山名	守屋山・入笠山			
月日	平成 28 年 5 月 27 日(金)～28 日(土)			
山域	南アルプス北部	地形図	1/25000 茅野　高遠	
形式	一泊二日テント泊	グレード	2B	
目的	① 八ヶ岳、南アルプスの展望 ② ベースキャンプを楽しむ			
費用	10000 円	交通機関	電車、レンタカー	
日程 一日目	我孫子駅 5:34→新松戸 5:47/5:52→西国分寺 6:47/6:55→高尾 7:22/7:26→大月駅 8:14（レンタカー）/8:32→大月 IC8:40→双葉 SA9:13/9:30→諏訪南 IC9:57→沢入登山口 P(1450m) 10:17/10:30⇒山彦荘 11:30/11:38⇒マナスル山荘 12:52⇒入笠山(1955m)12:16（昼食）/12:35⇒首切登山口 12:52⇒沢入登山 14:10/14:20→ｺﾝﾋﾞﾆ 14:35/14:45→千代田湖ｷｬﾝﾌﾟ場 15:30(テント設営 夕食 就寝 20:00) 歩行時間：3 時間			
日程 二日目	起床 4:30、朝食、テント撤収、千代田湖ｷｬﾝﾌﾟ場 7:00→杖突峠 P(1230m) 7:10/7:20⇒守屋山ｷｬﾝﾌﾟ場 8:00/8:05⇒守屋山東峰（１６２０ｍ）8：48/9：05⇒西峰(1650m)9:29/9:53⇒東 10:15/10:20⇒立石ｺｰｽ⇒浅間の滝分岐 10:50/10:55⇒石畳岩 11:00/11:05⇒立石 11:18⇒立石登山口(国道 152 号)11:38⇒杖突 11：52/12：02→道の駅信州蔦木宿 12:43(入浴・反省会) /14:30→小淵沢 IC14：37→大月 IC15：30→大月駅 15:40/16:13→西国分寺 17:23/17:26→新松戸 18:26/18:28→我孫子駅 18:42 歩行時間：3 時間 31 分			
ルート状況	・守屋山　歩き始め高度差 100m の急登、途中一部林道歩きあり、その後座禅草ｺｰｽ経由してｷｭﾝﾌﾟ場に大きな標柱あり、広い登山道を登り途中立石ｺｰｽへの分岐あり（下山に利用）、傾斜がきつい所（胸突き坂）まで来ると残り 10 分ほどで東峰に到着、周辺のやまなみ 360 度の大パノラマ、その後癒しの尾根を経由して西峰(守屋山)まで 20 分ほど、山頂は一等三角点大きな広場あり当然大パノラマが楽しめる ・(帰路) 立石ｺｰｽ：急な割に歩きやすく、足への負担は少ない、巨岩・奇岩等見所十分 ・入笠山：大変よく整備されたハイキングコース（ｺﾞﾝﾄﾞﾗもあり）			
参加者	郷田(L)　矢野貞(SL)　室崎　大平　斉田　本田　石塚　　男３名　女4名　計７名			

＜９４７＞市民山行

日光白根山
（2,578m ）

やまたん特集号より転載

関東以北の最高峰　穏やかな一日楽しむ



丸沼高原ロープウェイ山頂駅



ザレ場を登る



山頂から見えたきれいな沼

無事終了　ご協力に感謝
景観と高山の花々楽しむ

市民登山実行委員長
武内　勇二

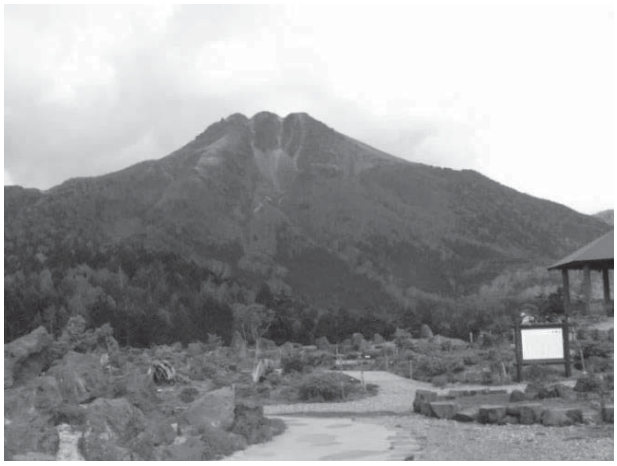
市民登山を、これまで21回も続けてやっていると、近郊の主だった山は、殆んど行きつくしており、今年はどこにしようかと結構悩みましたが、これまで市民登山で行ったことの無い山ということで、日光白根山を検討しました。この山は大きな山で、登山口も湯元温泉、金精峠、菅沼といくつもあるが、いずれも歩行時間が長く、市民をお連れして日帰りするには結構きつい山です。しかし、ロープウェーを使う丸沼ルートが開発されたことで日帰りが容易に出来るようになったことでもあり、今年はここに決めました。標高は２５００ｍを超える高山で、歩行時間も5時間を越すので、市民参加者の募集にあたっては67歳以下、6時間以上歩ける方を条件とさせていただきました。そのせいか、今年の市民参加者は15名とここ数年では最も少ない参加者に留まりました。体力面を考えればやむを得ないことと思っています。

岳人あびこの市民登山は、６月第１週の日曜日と会の年間計画で決められているので、いつもお天気には気を揉みますが、雨や風でロープウェーが運休になることもあるので、今年は殊更でした。家を出る時、小雨がぱらついていましたが、目的地山麓の片品村の当日の天気予報は「曇り」、丸沼高原のライブカメラの映像でも山頂付近に雲はかかってはいるが空が明るかったので、迷うことなく日光白根山に向けて出発出来ました。幸いにも予想通り、雨にも降られず、稜線でも風にあおられることなく登山を楽しめる天気になり、本当に良かったと思います。

日光白根山のもう一つの気がかりは残雪でした。例年ですと、6月になっても所によっては雪が残ることもあるからです。5月８日の下見の時は、樹林帯の中には30cm位雪が残っていましたが、市民登山までの１ヶ月の内には消えるだろうと予想できました。今年は例年に比し、積雪が少なかったのが幸いしました。

少しガスってはいましたが、関東以北の最高峰の景観、高山に咲く花々を楽しむことが出来たと思います。今年も大きなトラブルや事故なく、無事に市民登山を終えることが出来、胸をなでおろしています。バス内でお願いしたアンケートで、皆様全員から「とても満足している」との感想を得て、市民登山実行委員としてこれ

ほどうれしいことはありません。改めて、市民の皆様のご協力に感謝申し上げるとともに、今後もご一緒できる機会があるよう、願っております。バスの中でお話しした通り、岳人あびこは自然と山を愛する方々にいつでも門戸を開いております。ホームページで山行計画を公開していますので、ご覧になってください。そして気になる山を見つけたらお気軽にご連絡ください。今後とも山の会「岳人あびこ」へのご支援をよろしくお願いします。



日光白根山ロープウェー山頂駅から
見る日光白根山



大群落のシラネアオイ



コイワカガミ

A班



山頂にて

山頂で晴れ晴れとした班員の顔

A班リーダー：武内勇二

A班は市民参加者３名、会員４名のパーティ、鳥居をくぐり神社に「安全登山」を祈願して出発。傍らに、ご当地の花シラネアオイが咲き誇っていた。なだらかで歩きやすい道である。不動岩を過ぎると急な階段となり、登りきったところに大日如来の小さな祠がある。少し先に行き、七色平への分岐で小休止。予定したコースタイム通りで、パーティメンバーの体調は問題なさそうである。

ここから斜面のトラバース道となり、30分ほどは緩やかな登りであるが、やがて急勾配の道をジグザグに登る。展望も利かず、このルートでは一番キツイところである。

樹林帯を抜け、稜線に出る（標高2450m辺り）と展望が開け、眼前に日光白根山の頂が現れる。ここから砂礫のザレ場となり、足元が不如意となる。焦らずにゆっくりと歩を運んで、奥白根神社の祠のあるピークを通過、岩壁を捩って12時過ぎに日光白根山の山頂に立った。頂上付近は、霧がかかっていて期待した展望は無かったが、登りきった達成感で、メンバーの顔は晴れ晴れとしていた。

頂上直下の小広いところで昼食。風もなく穏やかで、暫しの休憩を楽しむ。突如として、霧が晴れ中禅寺湖やうっすらとベールを被った日光連山が見えた。必ずしも満足できる景観とはいえないものの、梅雨時としてはこんなものと諦め、下山にかかった。「昼食後の１時間は魔の時間帯」と気を引き締め、岩の壁を縫うように下った。第１のピークに建つ奥白根神社に手を合わせ、滑り易いザレ場でトップをSLに譲った。樹林帯に入り、会員の一人が木の根に躓きバラ

ンスを崩す場面もあったが大事には至らず、2時間10分ほどで、無事下山できた。

この日に関東地方の梅雨入り宣言が出た旨下山後に知ったが、「岳人あびこの市民登山は雨で中止したことはない」との過去連続21回の記録を更新することが出来て何よりと思う。

頂上直下の岩場と変化楽しむ

徳井哲雄

普段はテニスと近場の日帰りハイキングを楽しんでいますが、今回は市の広報に日光白根山登山の案内があり、以前より登りたかった山でしたので早速申込みをさせて頂きました。

バスで我孫子を出発する時は小雨が降って、天候が心配されましたが、晴れ間ものぞくようになり、まずまずの登山日和となりました。

麓より丸沼ロープウェイで一気に２千メートルの山上駅に到着、しらねあおいの花が満開でした。登山道は樹林帯、尾根筋のザレ場、頂上直下の岩場とその変化を楽しむうちに、２時間半ほどで頂上に到着、頂上直下の少し開けた場所で昼食となりました。ガスが切れると眼下には中禅寺湖や戦場ヶ原、遠くには燧岳等の山々が望め，絶景を楽しむことができました。

戻りは山上駅の足湯で疲れを癒した後、事故渋滞に巻き込まれたものの無事に我孫子に帰着しました。お世話頂いた岳人あびこの皆様のおかげで楽しい一日を過ごさせて頂きました。本当に有難うございました。



笑顔で日光白根山頂に

暖かな日溜り　山頂の景色堪能

B班リーダー：郷田進

当会にとって22回目の市民登山は、日本百名山の一つ「日光白根山」である。B班は、会員5名、市民3名の計8名の編成である。市民3名のうち向井ご夫妻は3回続けての参加、季さんは富士登山のみ経験とのこと、ゴンドラに4名ずつ分乗し山頂駅にむかう。山頂駅広場で白根山の勇姿を眺めながら自己紹介、集合写真撮影、準備体操のあと登山を開始する。

七色平まではなだらかな森林の中を各所の花々（白根あおいなど）を愛でながら進む。その後森林限界を過ぎ岩場急登を超えれば山頂である。着いた時点では視界不良であったが、昼食休憩中一転して雲がはれ武尊など山々や弥陀ヶ池などの展望が楽しめた。風もなく日溜まりの暖かさの中2500mの山頂を十分に堪能する。季さんの「富士山よりここが良い」という言葉は実感だろう。

下山は、矢野貞SLのリードで先頭に立ち、山頂駅では「天空の足湯」につかり、山々を眺めながら、疲れをとる。

参加者の皆様お疲れ様でした。そしてご協力本当にありがとうございました。「岳人あびこ」各種レベルに応じた山行を年間50程計画・実施しています（HP岳人あびこ参照）。関心のある山行がありましたら、いつでもお声かけ下さい。きっと新しい世界が広がると思います。

昼食時ガス晴れ　素晴らしい景色

向治男

朝４時に起きると屋根を叩く嫌な音・・・、外を見るとやっぱり雨。気分がブルーになりながら、成田線の１番電車で我孫子駅へ。我孫子からは、バスで北柏を経由して一路尾瀬丸沼に向かいます。途中の高坂SAで休憩したあたりから雨が上がり、尾瀬丸沼に到着する頃にはすっかり良いお天気に‼　山麓駅から山頂駅に向かうロープウェイでは、エゾハルゼミの鳴き声に気分が盛り上がります。

山頂駅にて、班ごとに準備体操を行い、見事に咲いたシラネアオイを見ながら登山スタート。木階段、ガレ場、ザレ場を登って行きます。普段草花には興味が無い自分ですが、高山植物となると別物で、常にカメラを手に撮影してました。カタバミ等は憎き草むしりの対象なのが、ミヤマカタバミは写真撮影の対象です（笑）。

頂上に近づくに連れて段々とガスってしまいましたが、昼食の間にガスが晴れ、弥陀ヶ池や中禅寺湖等素晴らしい景色が見られました。下山後、天空の足湯にて足の疲れを取って、帰りのバスではビールを戴き、気分良く帰宅しました。今回で、３回目の市民登山参加になりますが、企画運営をされている岳人あびこの皆様、いつも楽しい山行をありがとうございます。

C班



結束して全員登頂　大成功

C班リーダー：大平太計夫

前夜からの雨は朝になっても止まず霧雨の中での集合となったが我孫子駅、北柏駅では予定していた市民１５名、会員２４名の計３９名の全員が揃って出発できた。向井観光の大型バスは快適で早朝でもあり高速道路はスムーズに走行でき休憩の高坂 SA を過ぎると雨が止み沼田 IC を降りる頃には青空も出てきて車内は笑顔で満ちました。丸沼高原に到着し準備を整えてゴンドラで山頂駅に登る途中では燧ケ岳も見えました。

山頂駅広場に集まり全員で日光白根山をバックに記念写真を撮り身体をほぐし ABCDE 班の順で出発です。C 班の登りは私がトップで下りはサブの外崎さんが担当です。二荒山神社の周囲にはシラネアオイの大群落があり歓声が上がりカメラの出番です。途中の樹林帯にはコミヤマカタバミ、オオカメノキ、山桜、コイワカガミ、ヒメイチゲ、エンレイソウ等の花々が咲き目を楽しませてくれました。カニコウモリは飽きる程の群落がありました。５月８日の下見時は歩き出しから残雪がありましたが流石に１ケ月経過で山頂まで一切ありませんでした。

頂上までの標高差あと 200m 近くから火山灰と溶岩の歩き難い道となり冷たい風も吹いてきました。霧に包まれて約５０分掛けて 2577m の山頂に到着。各班毎に記念撮影し、広場で昼食にしました。途中で霧が薄れて中禅寺湖が見えだしたが男体山は姿を見せてくれませんでした。尾瀬の山々や上州武尊等はうっすらと見えました。

下山は足元が滑り私は古靴で靴底の溝があまり無く数回こけてしまいました。他にも転んだ方がありましたが大きな怪我もなく幸いでした。登りに２時間半、下りに２時間１０分のほぼ予定時間で山頂駅に戻ってきて足湯を楽しみ写真を撮ったりして暫し休息。ゴンドラで山麓駅に戻り帰途につきました。

無事下山を祝し缶ビールや紅茶で乾杯し歌集で美声を披露しながら我孫子を目指しましたが寄居 PA の前後から事故渋滞に巻き込まれ約 60 分程ロスしました。それでも北柏駅経由で 20 時 35 分には我孫子駅前に戻って来ました。天候に恵まれ全員の結束で全員登頂でき市民登山は大成功でした。

さすが関東一の山！

小竹茂

定年後、若い頃行っていた登山を始めましたが、古キズであるヒザ痛を再発。重傷になる前に一旦登山を止め平坦で一人で出来る旧街道歩きをし、ヒザの痛みも取れたのでそろそろ山でも…そんな時この企画を知り参加いたしました。

朝自宅から傘をさしての始まりでしたが、バスにて北上するにしたがい青空も見えて私の行いが良いのかな？丸沼高原ではまずまずの天気。ロープウェイ山頂駅でＩ＋Ｉは「ニコ」後スタート。山道脇に色々な小さな花が咲いていましたが名前すっかり忘れましたが、カニコウモリだけは覚えました。登りペース配分は良くバテずに山頂。狭い山頂でハイチーズ。ちょい下で昼食時雲も去り中禅寺湖も眺め、遠くの山々も見られさすが関東一の山！　山でのおにぎりも美味しい！　いよいよ山下りヒザが心配。途中一転びしましたが、２年間街道歩きで鍛えたのが実ったのかヒザは笑わず痛みもなく山頂駅の二荒山神社に着いてホッと。足湯でほっこりしたメンバーもいました。登り時には気付かなかったが神社周辺にシラネアオイの群生、おまけに満開で微笑んでくれ楽しい山行でした。

ここで一句　　山下りヒザは笑わず顔笑う

D班



山頂でガス晴れ、展望望む

D班リーダー：北田仁則

関東地方は、この日に梅雨入りしたことを帰宅してから知った。

出発前は雨模様の天気だったので心配だったが、丸沼高原に到着したころには薄日が差して風も弱く、登山日よりとなった。ロープウェイの山頂駅からは目指す日光白根山の山頂がくっきり見えて、参加者の喜びの声が聞こえた。

１か月前の下見山行の際にあった雪は、予想通りすっかりなくなっており、歩きやすい。D班８人の体調は良好で、全員が快調に登る。樹林帯を抜けたあたりで、ガスに包まれて山頂からの展望が危ぶまれた。しかし、山頂に到着するころには、ガスは切れて中禅寺湖も見えてきた。梅雨のこの時期に、こうして山頂から眺望が望めるとは本当にうれしい。おかげで、山頂での昼食は、穏やかな天気のもとでゆっくりと味わうことができ、大いに満足した。

頂上を後に下山を始めようとすると、見えていた中禅寺湖をガスが包みはじめ、あたかも劇場の幕が閉じるように、視界から消えていった。

市民登山として、日帰り登山で日光白根山のような高山を選び、４０名近くの大勢で行くことの大変さを、実行委員として初めて経験させてもらい、事故もなく無事全員下山できたことを心から喜ぶことができた。

初参加　大変良かった

内藤常雄

初めての「岳人あびこ」の市民登山に参加させて頂き、天気にも恵まれ楽しい山行ができ岳人あびこの皆様に感謝申し上げます。

以前は、ツアー会社主催又は単独による山行でしたが本格的な山岳会での山行に同行させて頂いたのは初めてでした。参加して感じたのは、きめ細かな計画及び実行をされていたので、関心させられました。私のレベルには、コース設定、グレード設定も大変良かったと思いました。一番に思ったことは、山岳会の皆様はベテランぞろいであるにも関わらず、一般参加者のためを考えて５班に分割して頂き、更には其々に役割分担も担って頂き感謝しております。

岳人の皆様の親睦の厚さも、帰りのバス内で拝見させて頂き２０年の間の市民登山も含め無事故とのこと納得致しました。また一般市民も市民登山以外でも山行企画に参加させて頂くことが可能と伺いましたので今後は是非登ってみたい山がありましたら申し込みさせて頂きたいと思います。これからも「岳人あびこ」の皆様のご健康と更なるご発展をお祈り申し上げ感想とさせて頂きます。　ありがとうございました。

E班



ゆっくり歩き　全員登頂

E班リーダー：室崎宏治

日光白根山下見の時は根雪が残っていて、天候的には森林限界を超えたあたりから風が強くなっており、ここからはウインドウブレカ―が必要とか、どこで休憩するか、コースタイムを計りながら岩崩れがないところを休憩場所に選びながらコース設計をおこなった。この日は、すこぶる天気が良かった。

市民登山当日も晴れて、高速道もすいて予定より速めに登山口についたので安心した。心配した根雪も解けており登りやすかった。

班の先頭を歩き班全体のスピードを見ながら周りの景色全員で堪能しながら、ゆっくり歩き、岩場の足の置き場所とかを配慮しながらゆっくり歩き全員が登頂した。心配した眺望も森林限界をこえたあたりからガスがかかったが頂上辺りで写真を撮るころには、ガスが切れ食事を取りながら裾野のひろさと、中禅寺湖をふくんではるかかなたの眺望を、みんなで登山の喜びを堪能した。全員で市民参加の方々をサポートしていただきありがとうございました。

不安の中の参加　皆さんに感謝

大沼美智子

２月の柏市の広報で会の存在を知った後、５月に草津白根山に行く機会がありました。ただ、登れ無かっただけに山への思いは募っておりました。そのため、頂いたお誘いのはがきが、ずーと気がかりで、直前に申し込みをさせて頂きました。

6月5日　早朝の雨。色々な不安の中、集合場所へ向かいました。ほぼ経験がなく、いきなりの2577m、しかもグレード2B。もし途中まで登って、ご迷惑を掛けたら、いや、市民登山だしと、自問自答の中、ロープウェーを降りました。

登りは、緊張もあり、リーダーの方、E班の皆様の声掛けも、あまり耳に入らず、花を見る余裕もありませんでした。無事、頂上に立ち、雲がスッーと消え、眼下に沼が見えた時のうれしさ。歩き方も、杖の使い方も、いちから教えて頂き、無事、下山でき、帰宅できたのも、班の皆様はじめ、会の方のお陰と感謝しております。本当にありがとうございました。

翌日、心地良い（？）筋肉痛と、帰りのバスの中お付き合い出来る体力が無かったことを、残念に思っております。また、機会がありましたら、参加させて頂ければと思っております。



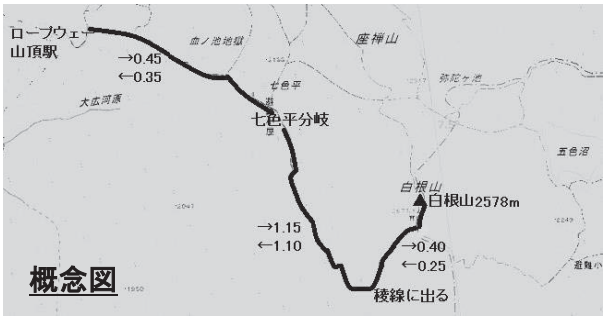
足湯でほっこり



登山口神社で安全祈願

実行委員

委員長：武内
委員：大平、桐生、矢野貞、北田、室崎



概念図

概　　要

山名	日光白根山		
月日	平成２８年６月５日（日）		
山域	奥日光	地形図	1/25000 男体山、丸沼
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	①関東以北最高峰の山に登る。 ②市民とのふれあい（市民登山）		
費用	11,000円	交通機関	貸切バス､ﾛｰﾌﾟｳｪｰ
日程	我孫子駅南口5:40→北柏駅南口5:55→柏IC6:10→高坂SA7:00/7:15→沼田IC8:09→丸沼高原ロープウエー山麓駅9:10/9:20→山頂駅（全体写真）9:32/ 以降、A～E班に分かれ、登山開始 （A班の例）出発9:50⇒血の池地獄分岐10:10⇒七色平分岐10:20/10:25⇒日光白根山山頂12:12⇒昼食12:20/12:50⇒⇒休憩13:32/13:37⇒七色平分岐14:20/14:25⇒山頂駅15:00/15:30→山麓駅15:40/ （D班の例）出発9:50⇒休憩10:07/10:25⇒休憩11:25/11:35⇒稜線に出る11:40⇒日光白根山山頂12:10/13:00⇒休憩13:35/13:45ー七色平分岐14:24⇒山頂駅14:40/15:15→山麓駅15:20/ （全員）15:50（バス）→コンビニ（吹割滝付近→沼田IC16:58→上里SA17:33/17:50→嵐山PA19:00/19:10 → 柏IC20:07 北柏駅20:15→我孫子駅北口20:35 歩行時間<約５時間>		
参加者	【A班】武内(CL)、桐生(SL)、矢野裕、林、(一般)徳井、吉沢、栗城 【B班】郷田(L)、矢野貞(SL)、中村八、宮野誠、深草、(一般)向治、向智、李 【C班】大平(L)、外崎(SL)、石塚、新谷、小林隆、(一般)豊島、小竹、小野 【D班】北田(L)、高橋英(SL)、齊田、本田、小林安、(一般)内藤、松下、森 【E班】室崎(L)、村松(SL)、中村育、村越、高橋富、(一般)岡、塩原、大沼 市民参加者15名　会員24名 （男性18名　女性21名）合計39名		

＜９４８＞

三ツ峠山～清八山
（1,785m）（1,593m）

矢澤　節雄

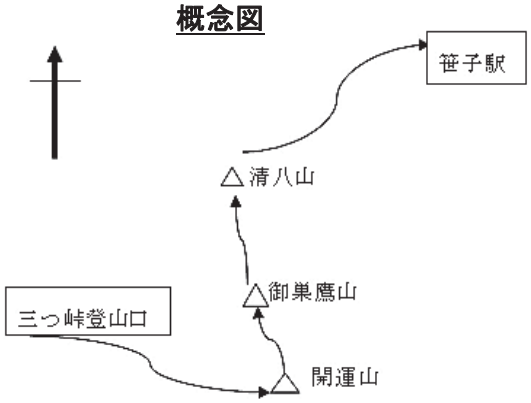
色々な花に出会う



三ツ峠山頂

昨年後半、諸々の事情から、登山を控えた。その結果、年明けの定例集会で「矢澤さん丸くなったね」と言われてしまった。本年 2 月に、６ヵ月ぶりの山行で八ヶ岳・西天狗岳に挑戦した。登山開始から一時間はコースタイムで歩き、休憩、その後は徐々にスピードダウン、喘ぎ喘ぎ「黒百合ヒュッテ」に到着。天気が良いので、昼食後、早足に西天狗を目指す。仲間のスピードに付いて行けず、即リタイヤーを宣言。後は、安全な西天狗岳が見える処までと、一人ゆっくりと登ってみた。中山峠の少し先の僅か 5m程の急な坂が喘いで登れなく完全に断念。３月の日光白根山でも森林限界の手前でリタイヤー。仲間が頂上から戻るまで待つことにした。その間、登山道 30m程を繰り返し登り降りしてみたが息が上がり辛い。足が攣って登れない経験は何度もあるが、喘いで登れないことは初経験、大変なショックである。次の八ヶ岳･硫黄岳の山行もピストン山行で、訓練のためにと思って参加申し込み「迷惑だ。参加を辞退して」と言われてしまった。尤もである。「訓練するなら筑波山」と田村さんの助言、本田さん･石塚さんの支援で筑波山を登る。その後一人で **14 キロ**を担ぎ、足にはアイゼン相当の錘 500ｇを着けて何遍か登る。節酒もして体重減に努める。その甲斐があり、山に登れる手ごたえを得た。登山能力確認

概念図



のため、会のピストン山行に参加をと考えていた。リーダーの大畠さんがこの山行に誘って下さった。山越え山行であり、ブレーキを起こすと皆さんに大変な迷惑を掛けるので、参加に逡巡したが、大畠さんから強く勧められ、恐る恐るチャレンジした。結果は、迷惑を掛けずに登れて安堵した。矢野貞子さの登攀スピードの巧みさにも助けられた。皆さんのご支援に感謝します。

前置きが長くなってすみません。以上の前置きを書きたくて、「やまなみ」を引き請けた。

三ツ峠山に登るのは今回で 2 回目である。1 回目は入会した年度の新年山行で、いろいろな思い出がある。大雪の降る中、美しい雪景色を愛で、和やかな会話をしながら下山した楽しい記憶が鮮明に残っている。この時も「やまなみ」を担当したのを思い出した。今回は 6 月初旬の新緑と花の季節である。時期もコースも前回と全く異なる。また、三ツ峠山の山行は会として 7 回目となるが初コースである。さすが「オオタムコンビ」の決めるコースだと思った。下見山行をし、参加者に見せたいところを決めている。行事山行でもないのに、下見など私には考えられない。お陰でいろいろな花に出遭った。「レブンアツモリソウ」は有名で知ってはいたが、「アツモリソウ」があることは初めて知った。お陰でこの花の語源も知る。三ツ峠山は「日本 200 名山」で「新花の百名山」であり、清八山は「秀麗富岳 12 景」、良いコースな訳である。



峠からの富士

大畠さんの「やまたん」山行報告メモ欄は、コースや道中の情景および出遭った花など紹介・感想を、簡潔かつ時系列に記載され、素晴らしい内容です。写真は、やはり大山さんのホームページです。両方を読み、観ていただければ、今回の山行の素晴らしさがご理解いただけると思います。
素晴らしい山行に参加でき幸せでした。感謝

概　　要

山名	三ツ峠山～清八山		
月日	平成２８年６月１１日(日)		
山域	富士 周辺	地形図	1/25000 河口湖東部　笹子
形式	日帰り	グレード	2A
目的	花と富士の展望		
費用	6300 円	交通 機関	ＪＲ　富士急行 バス　タクシー
日程	我孫子 5:33→大月 8:14/8:21→河口湖 9:16/9:40（バス）→三ツ峠登山口バス停 10:05/10:10⇒三ツ峠山登山口 10:24/10:27⇒展望台（木無山方面）11:34/12:00⇒開運山 12:25/12:30⇒御巣鷹山 13:00⇒茶臼山 13:50⇒大幡山 14:10⇒大幡峠 14:27/14:35⇒清八山 14:47/15:05⇒清八峠 15:10⇒東電東山梨変電所 16:20（タクシー)→大月 16:45/17:06→西国分寺 18:07/1817→我孫子駅 19:35 歩行時間 5 時間 10 分		
ルート状況	・このコースは登山口と四季楽園裏の 2 カ所にトイレがあり、どちらもきれいに管理されている。 ・登山口から三ツ峠山荘下までは、やや急登の車が通れる位の広い道を行く。 ・開運山直下はざれた急騰を行く。土止めは設置されてはいるがあまり用をなさず慎重を要す。 ・御巣鷹山からは約 300m位急下降する。粘土質で一部岩混じりもあり雨天時は注意が必要。 ・御巣鷹山から清八山までの登山道は自然林の続く素晴らしい森の中にある。その登山道両脇の林床にレンゲショウマの葉っぱが続く。真夏にはレンゲショウマロードとなるに違いない。		
参加者	大畠(L)　田村(SL)　中村育　村越 矢野貞　矢野裕　矢澤　高橋富　北田 林　横尾　蟹江 女性９名　男性３名　合計１２名		

＜９４９＞

小川山
(2,418m)

室崎　宏治

小川山に登る



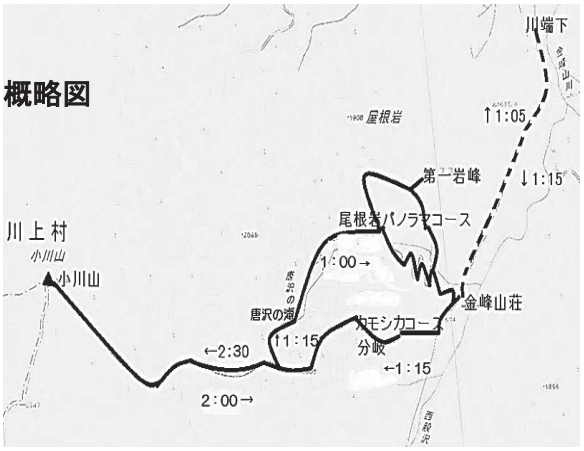
山頂での記念写真

久々に川上村を訪れた。学生時代からの知人が村長をやっていて、その縁で何度か訪れた。この村は、村営のバスが走り、村営のヒュッテがあり、川上犬もいて、今は高原野菜のレタス、キャベツの栽培が盛んであるが、早くから文明の開けたところで古代遺跡もある（深山遺跡）千曲川の源流があることで知られている。早くから有機農業も行われているとこである。山あり畑ありである。少し前までは長野県の三大そばの産地の一つであったそうである。

信濃川上駅につき村営のバスで川端下までいった。そこから先は、今はいかないそうである。テント場の廻り目平の金峰山荘まで歩くと、１時間半かかる。そこで近くの農家と交渉して軽トラに乗せていってもらうことになった。テントを張り、残りのエルギーで周遊した。夕食は薪で火をおこしお湯を沸かし、ご飯を炊き食べて。薪で火をたけるのはすごく久しぶりで火の暖かさを思い出した。
次の日は、小川山登山である。やさしい山かと思えば、岩がごつごつして急登であった。
登りきると、瑞牆山の方から来た２人組がいてあまり訪れる人も少ないのだろう。道は荒れていた。景色は岩が大きく良かった。なかでも岩の上に生えている樹はよかった。生命力の強さ

を感じた。昔はの人の往来で賑わっていた炉であろうか。

概略図



今西錦司氏はいう「登山者の型に遠心的なものと求心的なものがあるとし、前者は自己開放的、浪漫てきであり、後者は自己集中的、技術的であるとのべている。」現在のヒマラヤ登山をこの言葉をかりてみると、初登頂主義には前者の表現が、すでに登られた山に別の手をつくして挑む登山には後者の表現がそのまましっくりとあてはまるように思える。

現在の探検はという行為を振りかえってみれば、どちらかというと前者にぞくするであろう。私たちの行動の根源にあるものは、一貫して、遠心的、自己開放的、浪漫的な色合いが濃く、一連の流れのなかで、その色合いをとどめてきたといえるのではないだろうか。基調の一つにはロマンチシズムがある。

遠き樹の上なる雲とわが胸とたまたま逢ひぬ静かなる日や　　尾上柴舟

カモシカコース



概　　要

山名	小川山			
月日	平成 28 年 6 月 18 日(土)～19 日(日)			
山域	奥秩父	地形図	1/25000 瑞牆山、井倉	
形式	テント泊	グレード	3C	
目的	① 岩峰群の展望 ② テント生活を楽しむ			
費用	約 14,000 円	交通機関	ＪＲ,路線ﾊﾞｽ	
日程 一日目	我孫子駅 6:28→日暮里→新宿駅 7:25/8:00(ｽｰﾊﾟｰあずさ 5 号)→小淵沢 9:53/9:57（小海線）→信濃川上駅 10:40/10:45（ﾊﾞｽ）→川端 11:20/11:44（レタス畑ご主人の軽トラ）→廻り目平キャンプ場(テント設営、昼食) 11:53/12:50⇒尾根岩パノラマコース⇒キャンプ場 14:10（泊） ＜歩行時間：約 1 時間 30 分＞			
日程 二日目	キャンプ場 4:00 起床、出発 5:15⇒小川山登山口 5:25⇒カモシカコース分岐 6:40/6:45⇒展望台 6:53⇒小川山 9:14/9:30⇒展望台 11:28/11:40⇒カモシカコース分岐 11:50⇒唐沢ノ滝 12:05⇒キャンプ場（ﾃﾝﾄ撤収、入浴等）13:03/14:30（ｼﾞｬﾝﾎﾞﾀｸｼｰ）→信濃川上 15:00/15:49→佐久平（反省会）17:07/18:05（北陸新幹線）→上野 19:26/19:39→我孫子駅 20:11 ＜歩行時間:約 7 時間＞			
ルート状況	・カモシカ分岐手前付近の岩場の通過（ロープ・梯子あり）と展望台の直前の岩場に脆い所あり。上り下りに注意が必要 ・展望台～小川山間は、樹林帯（シャクナゲ多い）で危険個所はない。 ・カモシカ分岐より唐沢の滝へのルート（カモシカ遊歩道）は、荒れていて歩きにくい。 ・廻り目平キャンプ場は快適（炊事棟、トイレ、シャワー設備完備）　利用料 700 円/人　焚火（直火）ＯＫ			
参加者	武内(L)、村松、大平、室崎、外崎、石塚 男4名、女2名、計6名			



展望台にて休憩

＜９５０＞

入笠山
（1,955m）

林　敏

〈日本 100 名山〉のうち
22 山の見える山



入笠山山頂

今回は入笠山(ニュウカサヤマ)というユニークな名前の山を目指しての山行です。由来を調べてみると、山の形が冬に積み重ねておかれる麦わらの束に酷似しているという説が有力ですが他にもあるようです。

我孫子駅を 5 時半過ぎの電車に乗って、乗り継ぎ、乗り継ぎで大月に到着。ここから二台のレンタカーで、中央高速諏訪南ＩＣ経由して、約一時間で目的地の入笠山登山口へ。

林道入り口で登山口の駐車場満杯という看板を無視して、新谷リーダーはためらわず車を走らせ駐車場へ。まず最初のサプライズは、男性の管理人に X のしぐさをされたにも関わらず無理やりスペースを作ってもらい駐車完了。リーダーのサングラス姿が魅力的だったのかなぁ(噂ではすごみがあったとか(笑)。反省　写真を知らなかったのは残念。

まず〈スズラン山〉とも呼ばれる入笠湿原に向けて出発。80 万株のスズランの群生が有名ですが結果は一面に咲き誇るとまではいかなかったが、スズランの華麗な小さい白い花はかわいらしかった(表現不足かな)。また様々な高山植物が目を楽しませてくれました。雨脚も強くなりとにかく入笠山目指して登山開始。すぐに一般コースと岩場迂回コースの分岐点へ到着。カラマツ林を抜けると山頂まではすぐ。

山頂は木々がないので、ガイドブックによると〈天候次第で八カ岳、富士山、諏訪湖、御岳山、乗鞍岳が展望できる 360 度の大パノラマで、深田久弥の「日本百名山」の中で 22 山を見ることができます〉と書いてあったのだが雨ではどうしようもなかった。天気予報では一切雨情報がなかったのに。〈山の天気と女心は変わりやすい〉とよく言ったものだ。九人中七人が女性だから無理もないかな。

山頂より入笠湿原より広い大阿原湿原に向かう標識に併記して、〈首切り清水〉とあった、なんとも物騒な湧水ですが、由来説明はなく誰も気が付かず通過したようです。



スズラン

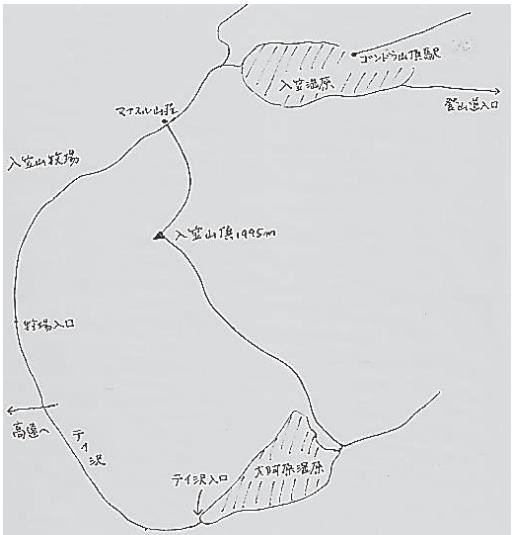
キバナノヤマオダマ





レンゲツツジ

概念図



入笠湿原～御所平の花畑



大原湿原は、近い将来クリンソウ〈久輪草〉で一面おおわれることが想像できるような場所でした。湿原を横切り、入笠山の賑わいが嘘のようなテイ沢という渓流を歩き、林道へ。雨具を着たり脱いだりして…….。雨の中をもくもくと足を進め、入笠牧場を通って、朝通ってきた入笠山湿原へ到着。

この時間帯になると雨の影響もあり登山者もほとんどいなくなり、後は大月の反省会のことが頭を横切り始めました。30 分ほどで下って駐車場到着。

中央高速は小仏トンネルが上り線 30 ㌔の渋滞で手前の大月でレンタカーを借りたことは素晴らしい判断と感心しました。店の名前を忘れましたが大月駅前のもち入りの餃子は今回の山行の最後の思い出です。リーダー、山行メンバーの皆さんお世話になりました。

〈参考〉　スズランはスズラン鈴のような花をつけるが蘭ではなくユリ科の植物



苔むしたテイ沢

概　　要

山名	入笠山		
月日	平成２８年６月 19 日		
山域	南アルプス前衛	地形図	1/2500　茅野 信濃富士見
形式	日帰り	グレード	1A
目的	すずらん等の花を楽しむ		
費用	5670 円	交通機関	JA　ﾚﾝﾀｶｰ
日程	我孫子 5:33→新松戸 5:46/5:50→西国分寺 6:47/6:55→高尾 7:22/7:26→大月 8:14/8:30→ﾚﾝﾀｶｰ→大月 IC→中央道→諏訪南 IC→入笠山登山口 10:00⇒入笠湿原⇒11:10⇒入笠山山頂 12:15⇒大阿原湿原(昼食)13:10⇒テイ沢 13:25⇒入笠牧場 14:00⇒登山口 15:47→諏訪南 IC→中央道→大月 IC→大月 17:47（反省会 18:56→我孫子 21:31 ＜歩行時間５時間＞		
ルート状況	・花が多く見られるのは、ゴンドラ駅の近くにある入笠湿原と、入笠山登山口と、大阿原湿原だが、花の多さはこの順番。すずらんは多かったが、花はすでに終わり近くで、そのかわり可憐なクリンソウがあちこちで見られた。 ・ゴンドラで入笠山登山口まで来れるとあって入山者が多く、山頂まで人が繋がっていた。 ・晴れの予報だったが、山頂近くから雨が降り出し、山頂での３６０度展望は残念ながら望めなかった。山の天気は予想がつかない。 ・大阿原湿原から入るテイ沢は、地図に明記されていないだけに、あまり人が入っていないようで荒れていた。 ・大月まではお出かけパスを利用し、大月から登山口までレンタカーを使用したが、帰りは笹子トンネル前から渋滞が始まったため予定は１時間ほど遅れた。		
参加者	新谷(L)　田村(SL)　高橋英　中村八箕輪カ　矢野裕　村越　林　横尾 男性２名　女性７名　計９名		

＜９５１＞

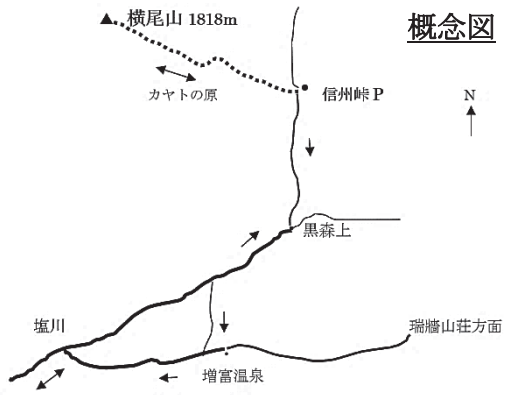
横尾山
(1,818m)

外崎　蓮



横尾山山頂

横尾山は信州峠から東側へ、小川山、金峰山、甲武信岳、雲取山へと奥秩父の山並みが延々と続く最初のピークで、北面は長野県の川上村、南面は山梨県北杜市須玉町との県境にある。知名度の低いこの山に初めて登ったのが平成８年６月。リーダーとして16名を案内した。その１ヶ月前の下見のとき、ガイドブックを見て、女山とのコルから山頂を目指そうと林道を１時間歩き、赤いリボンの下がった付近から山頂を目指した。そのうちリボンが消えたので諦め、藪から抜け改めて正規のルートを登った。６月の半ばで、春蝉が賑やかだったこと、レンゲツツジが原っぱ一面に咲いていたこと、山頂手前の道の両側いっぱいに、丈の短いスズランがびっしりと白い花をつけていたのを思い出す。
あれから20年（キミマロは40年)、あの時のスズランに再会してみようと思い立った。だが、知名度のない山に高い交通費をかけてわざわざ同行してくれる人がいるだろうか。ところが山の仲間とはありがたいもので、いかに安く行けるか、いろいろと知恵を与えてくれた。室崎さんが新宿から甲府までの往復切符を金券ショップで安く手に入れてくれた。また甲府からは本田さんのお世話でレンタカーを手配した。お陰で当初の計画より大分安くなった。
信州峠に着くと7～8台置ける駐車場はすでに満杯で、川上村方面に下った沿道にレンタカーを止めた。横尾山の人気度がアップしたようだ。古びたコンクリートの階段を上がって林の中



に入ると、ひんやりした空気が心地よい。ミズナラやカラマツの緑のシャワーを浴びながら30分ほどゆるゆる登ると、本格的な登りが始まる。だがこれも30分ほど頑張れば、広々とした原っぱがお待ちかねだ。咲き残りの真紅のヤマツツジに迎えられてカヤトの原に飛び出した。レンゲツツジはすでに咲き終わっていたが、萱の間からアヤメとグンナイフウロが顔を覗かせていた。遠くの空の下には、富士や南ア、八ヶ岳、上信高原の山々が頭を並べていたし、振り返れば近くの天狗山と男山の麓に広がるレタス畑のビニールが白く光っていた。20年前と変わったのは、ここに再び立ってこの光景を眺めている我のみ。赤い帽子にチェックの上着を着て、この原っぱをとび回ったあの日の自分が眩しく思えた。
気を取り直して山頂に向かう。小さなアップダウンの続く楽しい尾根道を40分ほど行くと、わずかに高い位置に横尾山の標柱と二等三角点があった。このまま西方に行けば飯盛山を抜けて清里に下山できるとか。先ほど黒ずくめのカッコいい若者のグループがそちらに向かって行った。静かな山頂で昼食にする。食事のあとは湯を沸かして皆でコーヒーを飲んだ。最近、山頂でお湯を沸かすことがほとんどないが、ゆったり山行もいいものである。
今回の一番の目的は、スズランに出会うことだ。芳しい芳香を今一度嗅がせてもらえるだろうか。山頂が近くなると、道端の草に目を凝らした。女性のグループにも聞いてみた。あれほどのスズランはどこに姿を消したのだろう。花の時期が多少ずれても、葉っぱぐらいは残っている筈。20年前の山のノートにその時の光景が記録されてあるので、夢や幻ではない。何が起こったのか。よく街角で山野草を売っている人を見かける。怪しい。富士市から来たという３０人グループを追い越し、信州峠に戻る。思い入れのこ

の山に、もう来ることはない。麓の黒森鉱泉の老婦人はお元気だろうか。大鉢に盛られた花豆のふっくら煮と、、茶色いラジューム鉱泉のお風呂が忘れられない。下山後、瑞がき山荘前を経由して「増富の湯」に寄る。



快適な樹林帯

概　　要

山名	横尾山		
月日	平成 28 年 6 月 26 日（日）		
山域	奥秩父	地形図	1/25000 瑞牆山
形式	日帰り	グレード	１Ａ
目的	展望随一の明るい山に登る。 スズランに出会う。		
費用	8000 円	交通機関	ＪＲ、レンタカー
日程	我孫子 5:31（常磐線快速）→日暮里→新宿 6:30/7:00（特急）→甲府 8:28/8:50（ﾚﾝﾀｶｰ）→塩川ダム 9:50→信州峠 10:10/10:20⇒カヤトの原 11:25/11:35⇒横尾山 12:10/12:50（昼食）⇒カヤトの原 13:10/13:20⇒信州峠 14:10/14:20（ﾚﾝﾀｶｰ）→増富の湯 14:45/15:30(レンタカー）→甲府 16:55/18:33（特急）→新宿 20:07→東京 20:21→我孫子 21:02 ＜行動時間：３時間 50 分＞		
ルート状況	・横尾山の登山口は、山梨県北杜市須玉町と長野県川上村の境界の信州峠から。峠の車道わきには 6～7 台置ける駐車場がある。満杯の場合は川上村方面に下った坂の曲がり角に空き地あり。駐車場にトイレはない。 ・広葉樹林のなだらかな道を 30 分、滑り易い岩がちの急坂を 30 分登ると、開放感 100%のカヤトの原に出る。 ・山頂は西方に尾根を 30～40 分、岩がちの小さなｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝを繰り返す。わき道のない一本道で間違うことはない。 ・横尾山から西へ丸山、飯盛山へ縦走することも出来る		
参加者	外崎(L)、室崎(SL)、村松、箕輪カ、箕輪完、石塚、小林安 男性3人名　女性４名　計7名		

＜９５２＞

蓼科山～双子山
(2,530m)　(2,224m)

矢野　貞子



蓼科山頂

横岳から赤岳までは１０周年記念山行で硫黄岳や赤岳も単独では行いきましたが蓼科山に登る機会がありませんでした。

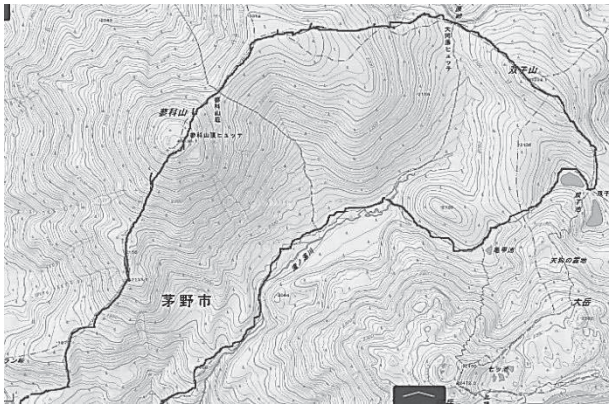
八ヶ岳の一番北に綺麗な三角錐の姿に憧れていました。

蓼科山登山口でタクシーを降りると小雨が降っていました。休業中の茶屋の軒先で雨具を付けて出発。

森林限界まで急登、一ヶ月ぶりの山登りの私は足が上がらない。休憩や昼休憩を入れ３時間半ほどで雨が止んで夏空が広がる森林限界についた。木立の中の道とは変わり大きな岩から岩を、ペンキを辿りながら登ると蓼科山頂ヒュッテについた。そこから５~６分で頂上があった。頂上は岩がゴロゴロしている一番高い所に記されていた。私は少し先の祠にお参りしてきた。頂上から岩がゴロゴロして非常に歩きづらい道を下って蓼科山荘に着いた。

水は天水らしいが全体に清潔で食事も美味しかった。テラスでお茶していると綺麗な鳥が止まっていた。「うそ」という鳥で餌付けしているとのことであった。

概念図



２日目は蓼科山荘から大河原峠に下りそこから双子山から双子池に回った。雄池で写真を撮り雌池を半周して亀甲池をめざした。双子池から峠までの道には両側が苔むした林が続き、まるで屋久島のようだった。苔の美しさに魅せられました。幽玄な雰囲気が漂う山上湖の亀甲池では湖底の石や砂が亀甲状や五角形六角形の構造土が観察できるそうです。長い年月凍結と融解を繰り返すうちにできたものらしいです。(残念ながら気が付きませんでした。次行ったら絶対に観察したい)

バス便は２便と少なく行はタクシーを利用したが、帰りは竜源橋からバスで共同浴場に行き汗を流し、

地元の人が置いていったという大根を頂いて、次のバスで茅野駅へと上手く乗り継ぐことができた。

目的はニッコウキスゲを見るとしましたが、キスゲは一本もなく残念でしたが、夏山シーズン始まりの山としては、参加者６名とまとまりがあり天気も良く楽しい山行でした。



概　要

山名		蓼科山～双子山		
月日		平成 28 年 7 月 22 日～23 日		
山域		北八ヶ岳	地形図	1/25000 蓼科山　蓼科
形式		山小屋一泊	グレード	2B
目的		日光キスゲを見に		
費用		約 22000 円	交通機関	ＪＲ．タクシー．バス
日程	一日目	我孫子 5:31→新宿 6:31/7:00（特急あずさ 1 号）→茅野 9:08/9:15（ﾀｸｼｰ）→蓼科山登山口 9:55/10:25 ⇒ 昼休憩 11:45/12:15⇒森林限界 13:40⇒蓼科山頂 14:00/14:20⇒蓼科山荘 15:00（泊） ＜行動時間 4 時間 30 分＞		
	二日目	蓼科山荘 6:35⇒分岐 6:45⇒大河原峠・大河原ヒュッテ 7:50/8:00⇒双子山 8:25 ⇒ 双子池 9:10/9:20 ⇒ 亀甲池 10:10/10:20⇒天祥寺原分岐 10:50⇒昼休憩 11:25/11:55 ⇒ 竜源橋 12:35/12:53(ﾊﾞｽ)→プール平（入浴）13:25/15:16(ﾊﾞｽ）→茅野 15:56/16:20（特急あずさ 26 号）→新宿 18:36→我孫子 20：00　＜行動時間 6 時間＞		
ルート状況		・蓼科山登山口からの登りは森林限界まで急登 ・森林限界からは大きな岩を登る ・下山も蓼科山荘までは大きな岩がゴロゴロしている歩きづらいルート ・大河原峠は駐車場もあり、トイレは無料で水洗 ・双子池から亀甲池への登りはまるで屋久島の森に迷い込んだ様なコケの世界だった ・蓼科山荘で初めて「うそ」という鳥を間近に見た。餌付けしてる。		
参加者		矢野(L)、大平（SL)、小林安、桐生、深草、新谷 男２名　女４名　計６名		

こんにちは　僕が「うそ」です
会いに来てください



＜９５３＞

硫黄岳～赤岳～権現岳～編笠山
(2,760m) (2,899m) (2,715m) (2,524m)

大平　太計夫



赤岳山頂

１日目（7/26）岳人あびこ入会後初のリーダーとしての山行でした。八ヶ岳には過去季節を変えて何度も入山していますが赤岳～権現岳の間は歩いていませんでしたので硫黄岳から小淵沢まで南下するルートを企画実行しました。

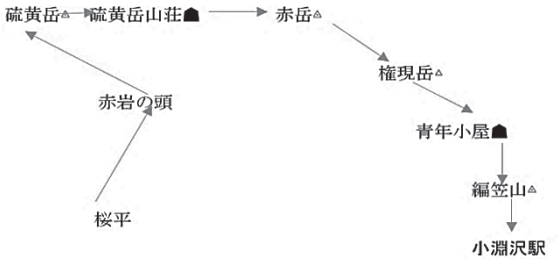
新宿駅７時発のあずさは夏山定番の特急でいつも混んでいますがウイークデーの為３０分前に並んでも全員着席できました。茅野駅から桜平のルートはバスがないのでタクシーを予約しました。予約の折５名なら悪路なので２台をと勧められましたが予算もあるので１台でお願いしました。茅野駅前のタクシー乗場に着くとジャンボタクシーが用意され、「今回限り」中型料金で良いと言われ好意に甘えました。

夏沢鉱泉で登山届を出し、冷えたキュウリを食べ小休止。ｵｰﾚﾝ小屋で昼食中に雨が降り始めました。夏沢峠経由の予定がテント場経由で赤岩ノ頭方面に登ってしまいました。途中でおかしいと気付きましたがそのまま急登を行き硫黄岳を目指しました。白砂の赤岩ノ頭で赤岳鉱泉からのルートと一緒になり一登りで硫黄岳です。山頂は雨で寒く爆裂火口も見えません。写真を撮って大きなケルン沿いにコマクサ咲く道を足早に硫黄岳山荘に向かいました。山荘は予約時にも言われていましたが地元、茅野中学２年生の学校登山で生徒+先生と父兄約 140 名で混雑していました。トイレはウオシュレットでシャワー室もあります。談話室で懇談し玄関先のストーブで暖を取り夕食は１８時過ぎ。片付けた後に布団を敷き男性３名はそこで寝ましたがゆっくり休めました。

２日目（7/29）朝起きたら雨は上がり青空でした。日の出を見ながらガスコンロで全員のテルモスのお湯を沸し５時半に朝食です。支度をして歩き出すと霧が沸き始め終日展望はダメでした。山荘から直ぐにコマクサの大群落が延々と現れ皆撮影に忙しい。

中学生の団体と前後しながらロープ沿いを岩稜帯の横岳に向かう。右手に霧に霞む大同心が見える。梯子や鎖場もある痩せ尾根ですが足場はしっかりしていて怖くはないが慎重に登りました。横岳からも岩稜は続き地蔵の頭まで気が抜けない、天望荘から赤岳への急登は中学生達と競争しながら登り５回目の山頂で熱い紅茶を飲み寛ぎました。

概念図



文三郎尾根から下山する中学生達と別れて権現岳経由で青年小屋を目指しました。

岩稜地で鎖、梯子の連続で緊張する箇所が多く時間が掛りました。岩陰に点在する可憐な花々が癒しになりました。ルンゼ状の岩棚の下りは足掛かりもなく一歩一歩慎重な歩行となりました。歩きやすくなって樹林帯を抜けると鞍部でキレット小屋です。ようやく着きほっとして昼食とし若い小屋番と少し会話もしました。キレット小屋から赤岳のルートは下るより登る方が安全なようです。小屋から登りを頑張りツルネに着いたら旭岳が眼前に立ちふさがっていました。岩峰のピークから足元が不安定な道を行くと長い鉄梯子です。足元を見ないように登ると権現岳です。直ぐ下の権現小屋を過ぎた処で青年小屋に到着が遅くなる旨の電話をしました。ギボシのヤセ尾根を通り鎖場やガレ場を下って樹林帯を抜けるとようやく青年小屋が見えてきました。明日の水を確保すべく水場の「乙女の水」を往復しました。冷たい美味な水が喉にしみました。青年小屋では一室を頂き直ぐに夕食。居酒屋風のメニューで先ずは無事

到着の乾杯。比較的空いていました。疲れていたので皆熟睡したようです。



長～い 梯子

３日目（7/30）４時３０分に起床し５時３０分朝食。昨日梅雨明けが発表されたそうで青空が広がり気持ち良い朝です。朝食後、遠い居酒屋の提灯がぶら下がる小屋前で記念写真を撮り出発。歩き難い大石を飛び超える道から樹林帯を抜けると編笠山の頂きです。青空の下、昨日苦労した赤岳から権現岳が見えて皆大喜びです。下山に掛かると沢山の登山者が登ってきてすれ違いに手間取りました。急下降で岩がらみの歩き難い道を歩み押手川に出るとゆるやかな道となりました。カラマツ林を進むと観音平。駐車場は満杯で先の道路の両側にも車が駐車されていました。道の駅小淵沢隣接の日帰り温泉まで歩こうと富士見平まで下がると手持ち無沙汰そうなマイクロバスがおり聞くと群馬県伊勢崎市の登山グループの車で権現岳まで往復して戻るのを待っているとのこと、寸志を渡し温泉まで乗せて貰いました。延命の湯で３日間の汗を流しバスで小淵沢駅まで乗ろうとしたら帳場の女性が無料のバス券５枚を下さり感謝です。小淵沢駅で青春18切符を購入し鈍行を乗り継ぎ帰途につきました。結構きついルートでしたが５名で助け合い和気あいあいの楽しい山行でした。

概　　要

山名	硫黄岳～赤岳～権現岳～編笠山			
月日	平成２８年7月２８日～３０日			
山域	八ヶ岳南部	地形図	1/25000 八ヶ岳西部、同東部、小淵沢	
形式	山小屋泊		グレード	３Ｂ
目的	・富士山や南アルプス等の展望を楽しむ稜線歩き ・梅雨明け、コマクサ等高山植物の最盛期を楽しむ			

費用	29000 円	交 通 機関	JR、ｼﾞｬﾝﾎﾞﾀｸｼｰ、バス、マイクロバス
日程 一日目	我孫子 5:31→新宿 6:30/7:00（特急）→茅野 9:11/9:16（ジャンボタクシー）→ 桜平 9:55/10:05⇒夏沢鉱泉 10:32/10:40⇒ｵｰﾚﾝ小屋（昼食）11:25/11:55⇒硫黄岳 13:38/13:42⇒硫黄岳山荘 14:05 宿泊 <歩行時間：３時間２３分>		
日程 二日目	硫黄岳山荘 6:15⇒横岳 7;14/7:20⇒天望荘 8:53/9:00⇒赤岳 9:48/10:20⇒キレット小屋 12:28/(昼食)13:00⇒権現岳 15:20/15:30⇒青年小屋 17:00 宿泊 <歩行時間：９時間１８分>		
日程 三日目	青年小屋 6:15⇒編笠山 7:00/7:15⇒押手川 8:35/8:45⇒雲海展望台 9:20/9:25⇒観音平 10:02/10:10 ⇒富士見平 10:30/10:40（マイクロバス）→延命の湯 10:45/11:47（入浴・反省会）バス→小淵沢 12:08（青春 18 切符）12:30→高尾 14:51/14:53→西国分寺→新松戸→柏 16:35/45→我孫子 16:50 <歩行時間：３時間３７分>		
ルート状況	・硫黄岳へのルートは一般的には美濃戸口からだが５時間以上掛り山荘到着が遅くなるので歩行時間が短い桜平までジャンボタクシーで走ったが登山口手前は凄い悪路でした。 ・夏沢峠経由で硫黄岳に行くつもりが赤岩の頭方面の急登を登ってしまいました。結果的にほぼ同じ時間で硫黄岳に到着しました。 ・２日目朝歩き出すと直ぐに一面のコマクサ。あちこちの山々で見ましたがこれだけの群生は初めてでした。 ・横岳は岩稜のヤセ尾根で鎖場もあり慎重に通過し急登を赤岳に登頂。 ・赤岳からは喧騒から逃れ行会う登山者も少なくなったが青年小屋は遠く赤岳からのコースタイム４時間を６時間４０分も掛かってしまいました。 ・岩場、鎖、梯子の連続を下降で緊張する箇所多く特にキレット小屋手前のルンゼ状の岩場は足掛かりなく不安定で慎重に下降しました。 ・赤岳～キレット小屋は下るよりも登った方が楽のようです。		
参加者	大平(L)，郷田(SL)，新谷，高橋，大西（ゲスト） 男性３名、女性２名　計５名		

＜９５４＞

雲の平～鷲羽岳～三俣蓮華岳～双六岳
（2,600m）（2,924m）（2,841m）（2,860m）

本田　愛子

黒部源流域ダイナミックな景観とお花畑



一列に整列してハイポーズ　雲の平

出発の前日になって梅雨明けがあった。いよいよ夏山シーズンだ。
以前、雲ノ平に行こうと双六小屋に 2 日間大雨で足止めになり、諦めて下山した事がある。
今年こそと希望を出していたら、武内リーダーから少し先の水晶岳方面に行くのでとお誘いを頂き、計画書を見てロングコースなので歩けるかと不安を抱えて参加しました。
7/28　20:30 柏駅に着くと、常磐線が人身事故で動いていなかった。
柏駅から乗車する 5 人と我孫子からのリーダーと矢野さんの連絡で松戸までは動くので千代田線に乗り換え、なんとか上野駅に予定通りに着いた。ところが、入谷口のバス停を探して歩きまわり、後から到着したリーダーや外崎さん達に待ってもらいバスに飛び乗った。
夜行バスで富山まで寝て行かなくてはならないのに、ひと汗かいてしまいなかなか寝付けなかった。ウトウトして窓のカーテン越しから光が差してきた。5:50 富山駅で降りる。
10 分位でジャンボタクシーが迎えにきたので、9 名（男 3 名、女 6 名）を乗せて折立へ向かった。予定より 40 分も早く着いた。
折立には多くのマイカーや大型バスが駐車していた。トイレも 2 か所あって大勢の登山者で賑わっていた。朝の挨拶と準備体操や支度をして、7:35 に矢野さんを先頭にゆっくり歩きだした。
登り始めから急登が続く。樹林帯で展望がなく足元が濡れていて滑りそうな木の根元に気を付けて登っていく。しばらく急坂が続く。下ってくる登山者があと少しだからの声に励まされて一歩ずつ登って行くと、明るく開けた場所三角点(1871m)に出た。多くの人が休憩をとっていた。10 分休憩をとって、高原の花が咲く中を緩やかに登って行くと、薬師岳の展望が良い処で今日は雲の中だったが、五光岩ベンチで昼食タイムを摂った。折立から 2 時間頑張ったので腹ペコだった。稜線を歩いている先に太郎平小屋の屋根が見えてきた。
太郎平小屋は薬師岳方面と黒部五郎岳方面と薬師沢へとの分岐点にある小屋で混んでいた。小屋の人から今夜の薬師沢小屋の予約を入れてもらった。
薬師沢への木道を下っていくと、薬師沢の源流の出会いに第一渡渉がある。橋を渡って湿地帯を行くと、すぐに第二渡渉のしっかりとした橋を渡った。樹林帯や笹の草原の中を進み、小さな沢が流れ込み第三渡渉を過ぎると、木道が続き、ピンクのフウロやイチゲやチングルマ、キンポウゲなど色とりどりの花たちに足がとまる。要所にベンチが置かれ水分補給を摂って小休憩をした。
太郎平小屋から 2 時間半、下っていくと薬師沢小屋に着いた。（15:20）
薬師沢小屋は薬師沢と黒部川の 2 つの谷の尾根を少し下った処の黒部川の断崖の上にある。小屋の前のテラスで夕食時間まで、今日の長かったコースを振り返り乾杯をした。予約していたので、一部屋と 2 人ゆっくり寝場所を確保できた。明日は早出のため、朝食のお弁当をもらって、早く寝床についた。
二日目（7/30）
3 時半に起床。まだ空は真っ暗で渓流の音を聞きながらヘッドランプの明かりで身支度をして 4:30 出発した。小屋の前の渓流にかかる吊り橋を渡り、鎖につかまり岩壁沿いの鉄梯子を下りて河原沿いを少し下ると、雲ノ平への道標が立っている。右手の樹林帯に登っていくが岩のゴロゴロした急登がどこまでも続く。途中で朝食のお弁当を摂るが、水分ばかり取ったので私はあまり食べられなかった。飽きるほど 3 時間も登って樹林帯をでると、ようやく平らなアラスカ庭園の標識がある雲ノ平の一角にきた。
嘘のように快適な木道が続く中を、黒部五郎岳や水晶岳を眺めながら暫くいくと、薬師岳の展

望の良い奥日本庭園を過ぎるとアルプス庭園とギリシャ庭園の分岐がある。イチゲやチングルマの花の中を木道が続いて、斜面を上がったら雲ノ平山荘に着いた。

リーダーがお餅とアンを担いできてくれて、お汁粉と蜂蜜につけたレモンを皆にふるまってくれた。おいしくて体力も回復して元気がでてきた。まだまだ先が長い。

黒部五郎岳が近くに良く見えた。花畑の木道が続く中を行くと、分岐がありスイス庭園へ寄り道した。目の前に高い山々と草原が広がりスイスの高原のような場所に出た。薬師岳が大きく、反対側は水晶岳から赤牛岳の稜線が続いている。眼下に高天原の小屋が見える眺望が素晴らしい所だった。元の分岐に戻り木道を進んでいくと祖父岳への登りが始まる。だんだん急登になって石がゴロゴロした道をらせん状に 30 分頑張ると山頂に着いた。



カラマツソウ

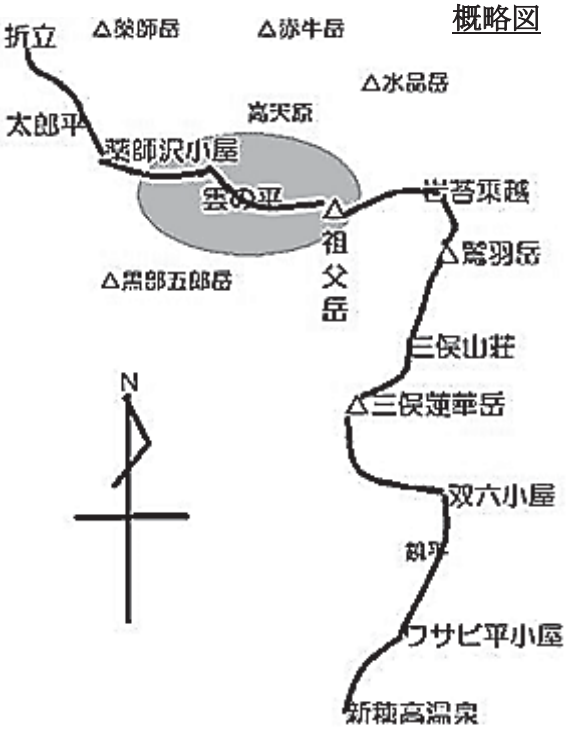


ハクサンチドリ

これから下って登るワリモ岳から鷲羽岳の長い稜線が見えた。

祖父岳から稜線を見ながら下ってくると、左は高天原へ右は黒部源流に下りて行く岩苔乗越の分岐がある。私達はジグザグと直登して水晶岳との分岐で、右に折れワリモ岳へ進む。山腹の岩肌の狭い道を慎重に通り過ぎて頂上へ着くと、先に鷲羽岳が大きく構えていた。ワリモ岳から少し下って登り返す。今日の最後の登りと頑張るが足が重く一歩がつらい。やっと山頂に着いた。皆、達成感と感動を味わった。霧が立ち込めてきて視界が見えなくなった。晴れていれば水晶岳、槍ヶ岳、穂高連峰、鷲羽池…凄い展望なのにと、リーダーが悔しがる。天候が怪しくなってきたので、早めに下りる。急なざらざら道で気を付けて下りて行くと、ぽつぽつと雨が振り出してきた。そのうちザアーときたので皆急いで雨具を着てどんどん下った。暫くいくと、雨も小降りになって、先に小高い丘の上の三

概略図



俣山荘が見えてきた。疲れた足も気持ち足早になって、ようやく山荘に到着した。

三俣山荘は鷲羽岳と三俣蓮華岳の鞍部で裏銀座コースの中心部でもあり、黒部源流を経て雲ノ平に行く道や三俣蓮華岳の北斜面を巻いて黒部五郎岳への道も分岐になる。

予想通り混んでいたが、夕食は 3 回の交代で布団は一組ずつ割り当てられたので、この時期では良い方だと思った。夕食後の食堂で美味しいコーヒーを飲みながら初代オーナーでもあり、勤労者山岳連盟を立ち上げた伊藤正一さん達が苦難を乗り越えて、水晶小屋や三俣小屋の建設工事の模様を写したスライドを観賞した。9 時消灯

三日目　（7/31）

朝 5 時食堂の窓から槍ヶ岳がくっきり見えた。身支度して小屋の外に出た。三俣蓮華岳が小屋の前に大きくそびえ、後方には昨日の鷲羽岳を下山してきた道が急峻なのに驚いた。

80 歳のご夫婦が登って来ていて、周りにいた登山者が一緒に写真を撮ってもらっていた。

今日は緩いアップダウンはあるが、急登は少なく下りが長いロングコースになる。(5:40)

テント場を過ぎゆっくり登って行くと、下りてきた岳人の北川さんにバッタリ出会った。

新穂高から登ってきて、双六岳～三俣蓮華岳～鷲羽岳～水晶岳～高天原～雲ノ平のコースを歩

くそうだ。一緒に記念写真を撮って別れた。
一時間登ると三俣蓮華岳頂に着いた。頂上は富山県・岐阜県・長野県の県境になっている。
黒部五郎・雲ノ平・薬師・鷲羽・水晶・笠ヶ岳・槍・穂高と 360 度はっきり見えた。
双六岳へ向かって鞍部まで下りる。鞍部から丸山を超えて双六岳へ登り返す途中、双六の山腹をいく脇道の分岐があり登らず行く道もとれる。少し登っていくと山頂に着いた。
展望も気持ちも良くずっと居たい気分になるが、風が冷たいので 10 分位で双六小屋へ向かって出発した。前方に槍ヶ岳が雲に見え隠れし、穂高連峰を見ながら広い稜線を気持ちよく進む。振り返ると鷲羽岳から三俣蓮華岳と双六岳の歩いた道が続いている。暫しパノラマルートを楽しんだ。小屋への急な下りになると、左手に雪渓が見えてきた。今年は雪が少ないが例年は雪渓をアイゼン付けて渡っている。　巻道ルートと合流してまもなく小屋の屋根が見えてきた。ゴロゴロした石の道を下りて行くと、小屋の前に出た。
双六小屋は槍ヶ岳への西鎌尾根の起点でもあり、多くの登山者が集まるので小屋も大きい。
休憩して少し先にある広いテント場の横を過ぎ、双六池のほとりを通過すると弓折岳へと緩い登りを行く。黒百合が多く咲くクロユリベンチという西鎌尾根の稜線が目の前に見える平らな場所で昼食タイムを摂った。あいにく今年は黒百合が咲き終わっていた。
少し先へ進むと、お花畑という場所に沢山の花々が咲いていた。
笠ヶ岳への分岐を過ぎ、どんどん下って鏡平小屋の池に着いた。リーダーがカキ氷を食べようと言ってくれて、小屋の前のベンチで食べたカキ氷は、喉の渇きと汗で参った体がよみがえった。本当に美味しかった！
最後の宿のわさび平小屋まで小池新道を 3 時間下る。鏡平小屋からすぐに逆さ槍ヶ岳が映る鏡池がある。その横を通り過ぎると樹林帯に入り、沢沿いを下って行く。暫くいくと、沢の水が流れ落ちて、シシウドが咲くシシウドが原で休み、どんどん下って行くと小さな沢を２ツ渡り、少し先に進むと、急流の大きな沢が秩父沢で暫しの休憩をとった。まだ一時間以上は下る。橋を渡り樹林帯に入り左側に開けた所にくると、遙か先の眼下に林道と橋が見えた。小池新道入口に下りてきて、林道を歩き上から見えた橋を横切ってやっとわさび平小屋に着いた。小屋の向かいに小川が流れていてタオルを絞って汗を拭いた。小屋は空いていて私達のほかは２組だけだった。お風呂があると聞いて、早速部屋へ荷物を置いて３日振りに入浴して足の疲れを癒した。
最後の宿で明日は平湯温泉に入って帰るだけなので、３日間のロングコースを歩いた達成感と安堵感で美味しく夕飯を頂けた。



裏銀座稜線　（左より三俣蓮華岳、祖父岳、水晶岳、ワリモ岳、鷲羽岳、野口五郎岳）

四日目　（8/1）
朝までぐっすり眠った。朝食をゆっくり頂き、7 時に出発。林道を一時間ほど歩いて、新穂高温泉ロープウェイ乗り場から 30 分バスに乗り平湯温泉で下車。バスターミナルから 5 分の所に古民家を改修した民俗資料館で露天風呂に入った。公営で決まっていないが一人 200 円気持ち払った。温泉は鉄分を含んだ赤い湯だった。
茅葺屋根の炉端に並び生ビールで乾杯して、名物のお蕎麦を味わって、ゆっくり散策しながらバスターミナルに戻った。13:50 発のバスで松本駅ターミナルに 15:15 分に着いたが、少しバスが遅れたため、寸前で発車した新宿行のバスを見送った。
急いで松本駅で割引切符を購入して、特急あずさに乗車することができ座って帰れた。
3 日間のコースでたくさんの花が咲いている中をずっと歩いてきた。立ち止まって写真を撮ったり、名前を教えあったりしてかなり覚えた。（チングルマ・イチゲ・シナノキンバイ・キンポウゲ・御前たちばな・衣笠草・トリカブト・シオガマ・イワウメ・コバイケイソウ・岩かがみ・白山ふうろ・ウサギギク・ハハコグサ・車ユリ…他数種あり）
今回雲ノ平～鷲羽岳～三俣蓮華岳～双六岳のコースを歩いて、急峻な登りを頑張ったからこそ素晴らしい景色とたくさんの花々に出会えた。

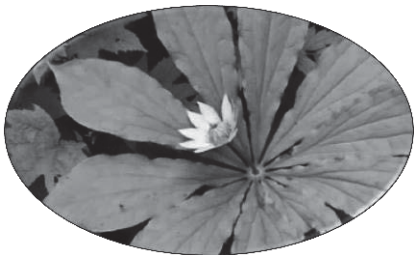
経験豊富な武内リーダーが計画した今回のロングコースは、北アルプスの夏山を十分に堪能した思い出の山行になりました。



黎明の槍ヶ岳

概　　要

山名		雲の平～鷲羽岳～三俣蓮華岳～双六岳		
月日		平成 28 年 7 月 28 日（木）夜 ～8 月 1 日（月）		
山域		北ｱﾙﾌﾟｽ	地形図 1/25000	有峰湖、薬師岳、三俣蓮華岳、笠ヶ岳
形式		山小屋	グレード	3C
目的		・北ア奥座敷の黒部源流域を歩く ・槍穂を楽しみながら稜線歩きを楽しむ。		
費用		約 50,000 円	交通機関	夜行バス、タクシー、路線バス、ＪＲ
日程	一日目	我孫子 21:10（常磐線各駅）→西日暮里駅（山手線）→上野→上野入谷口 22:15/22:20（バスドリーム金沢）→		
	二日目	富山駅南口 5:50/6:00（ジャンボタクシー）→折立 7:15/7:35⇒三角点 9:35/9:45⇒五光岩ベンチ（昼食）11:15/11:45⇒太郎平小屋 12:35/12:45⇒薬師沢小屋 15:20（泊）　<歩行時間:7 時間>		
	三日目	薬師沢小屋 4:30⇒アラスカ庭園 7:55⇒奥日本庭園 8:30⇒雲の平山荘 8:55/9:45（お汁粉タイム）⇒スイス庭園 10:10/10:20⇒祖父岳（昼食）11:45/12:00⇒岩苔乗越 12:50/12:55⇒ワリモ岳北分岐 13:15⇒ワリモ岳の鎖場 13:35⇒鷲羽岳 14:30/14:40⇒三俣山荘 15:50（泊） <歩行時間:9 時間 50 分>		
	四日目	三俣山荘 5:40⇒三俣峠 6:30⇒三俣蓮華岳 6:55/7:10⇒中道稜線分岐 8:15⇒双六岳 8:50/9:00⇒双六小屋 10:10/10:25⇒くろゆりベンチ（昼食）11:15/11:35⇒弓折乗越 12:10/12:15⇒鏡平山荘 13:10/13:30⇒シシウドヶ原 14:15/14:20⇒イタドリヶ原 14:45⇒秩父沢 15:20/15:30⇒小池新道入口 16:20⇒ワサビ平小屋 16:40（泊） 〈歩行時間:9 時間 30 分〉		
	五日目	ワサビ平小屋 7:00⇒新穂高温泉ロープウエイ乗り場 8:10/8:55（バス）→平湯温泉民族資料館（入浴・昼食）9:30/13:50(バス)→松本バスターミナル 15:15/15:47（特急）→立川 18:30/18:41→西国分寺→新松戸 19:49→我孫子 20:05 <歩行時間:1 時間 10 分>		
ルート状況		・薬師沢～雲の平（木道末端）標高差約 450m の急峻な登り。岩がゴロゴロし濡れているので結構きつい。 ・ワリモ岳直下の鎖場は、高度感あるものの気をつければそれほど危なくはない。 ・夏場の山小屋は混雑が激しく、靴の取り違えのトラブルがたまにある。今回も双六とワサビ平小屋入口に靴のトラブルの貼り紙があった。リボン等目印で防衛する注意が必要。 ・宿泊料金（1 泊 2 食）薬師沢小屋 9,200 円、三俣山荘 9,500 円、ワサビ平小屋 8,500 円（三俣とワサビは、労山カード提示で 500 円引き）		
参加者		武内(L)、北田、室崎　外崎、矢野貞、本田、石塚、小林安、室崎育（ｹﾞｽﾄ） 男性３名　女性６名　計９名		



キヌガサソウ

＜９５５＞

鹿島槍ヶ岳
(2,889m)

北田　仁則



鹿島槍ケ岳

前夜、竹橋から「毎日アルペン号」で扇沢へ、ここから柏原新道を登って主稜線に取り付く。

天気は快晴、針ノ木岳、蓮華岳を眺めながら快調にすすむ。去年もこの時期に同じように、アルペン号を利用してこのルートを登っているので、すっかりお馴染みの道となった。

登山道は良く整備されており、３千メートル近い後立山連峰の稜線に、簡単にとりつくことができる。だからこの時期大勢の登山者がこのルートを利用しており、我々のあとから来た人が次々と追い抜いていく。出発したときにはよく晴れていた天気は、稜線が近づくにつれてガスが出てきて、周囲の景色が見え隠れしてきた。種池小屋に到着すると絶景が待っていた。

黒部渓谷をはさんで、眼前に剣岳・立山が現われ、周囲は色とりどりの可憐な花が咲いており、夏山の素晴らしさを存分に味わうことができる。進行方向には目指す鹿島槍ヶ岳の姿が見える。わくわくして爺が岳南峰、中峰、北峰と登り下りを繰り返し、この日の宿泊地である冷池山荘に着いたのは午後１時前、歩行時間は７時間だった。さすがに、前夜夜行バスで寝不足なので疲れた。到着したころには、周囲の景色はガスに覆われて視界が制限されていた。いかにもこの時期特有の気象で、早朝は雲一つない晴天、そして、日が昇るにしたがってガスが発生して視界をさえぎる、しかし、日が沈むにつれてまたガスが消えていくといった状況を演出してくれる。

翌日は鹿島槍ヶ岳をこえて、五竜山荘までの計画をたてていた。しかし、メンバーの体力と難路、さらに天気が下り坂になることを考えて計画を変更した。

早朝に小屋から鹿島槍ヶ岳を空身往復して、冷乗越から赤岩尾根を下って、一気に下山することにした。まだ夜明け前の４時に小屋を出発した。真っ暗な中をヘッドランプで足元を照らしながら歩く、徐々に明るくなり、行く手に鹿島槍ヶ岳の美しい双耳峰がくっきりと見える。夜明けとともに周囲の山々が赤く染まって、感動的な景色を映し出す。

そして、足元には最盛期を迎えた高山植物が咲き乱れて我々の目を楽しませてくれる。これが夏山の醍醐味、これだから苦しい思いをしながらも山登りをやめられない。鹿島槍ヶ岳の頂上で展望を楽しんだ後、冷池山荘に戻って下山を始める頃には、もうガスが下から湧き始めて３千メートルの山々は見えなくなった。

赤岩尾根の下りは、最初のトラーバースで崩落が進んでいて緊張する。さらに、急な下りが続き梯子が連続するが、ルートは整備されており歩きやすい。その割に利用者が少ないのは、登りのきつさにあるのだろう。この日は鹿島槍ヶ岳の頂上である 2889mから下山場所である大谷原 1080mまで、実に 1800mを一気に下ったことになる。メンバーの最長老である矢澤さんの奮闘ぶりには頭が下がった。



鹿島槍ヶ岳

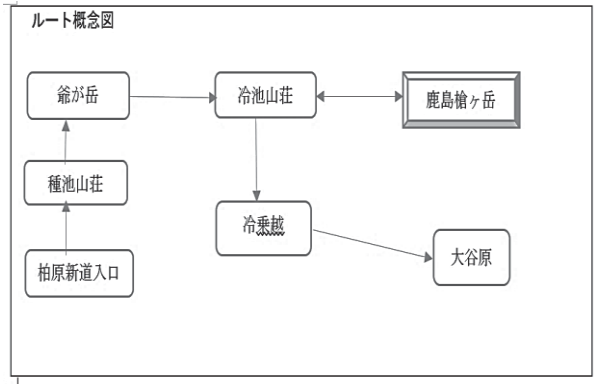


槍ヶ岳の遠望

＜９５６＞

大菩薩嶺
(2,057m)

箕輪　カオル



概　　要

山名		鹿島槍ヶ岳			
月日		平成 28 年 8 月 6 日～8 日			
山域		北アルプス後立山連峰	地形図	1/25000 大町、神城	
形式		夜行、山小屋 1 泊	グレード	3B	
目的		後立山連峰の盟主である鹿島槍ヶ岳に登る 剣岳を間近に眺めながら、夏山縦走登山の醍醐味を味わう			
費用		25000 円	交通機関	夜行バス・バス タクシー・新幹線	
日程	行夜	千代田線我孫子発 20:05→東西線竹橋 21:00/22:30（毎日アルペン号）			
	一日目	扇沢 P 4:30/4:55⇒柏原新道登山口 5:05⇒ケルン 6:20⇒種池山荘 9:20/9:30⇒爺ケ岳中峰 11:00/11:30⇒冷乗越 12:30⇒冷池山荘 12:45 ＜歩行時間:７時間＞			
	二日目	冷池山荘 4:07⇒鹿島槍ヶ岳南峰 6:30/6:45⇒冷池山荘 8:10/8:45⇒冷乗越 9:00⇒西俣出合 12:30/12:45⇒大谷原 13:30/14:00（ﾀｸｼｰ）→大町温泉郷（入浴）14:20/15:25→長野（はくたか 570 号）17:00/17:34→上野 19:06/19:23→我孫子 20:00 ＜歩行時間:８時間 20 分＞			
ルート状況		・登りの柏原新道は整備が行き届いていて、歩きやすく快適なルート。 ・下山に利用した冷乗越から赤岩尾根ルートは、最初のトラバース部分がかなりガレていて緊張した。その後はかなり急な下りで、梯子が連続している利用者は少ないが、終点の大谷原からはタクシーが利用でき効率的だった。			
参加者		北田（L）矢澤 深草 男性３名			



大菩薩嶺(百名山)

台風が去って次の台風が近づいている不安定な天気予報。奇しくも私たちの山行はこの渦中であった。リーダーの悩みはいかばかりかと案ずる。しかし、全員が予定の電車に乗った。リーダーは、みんなの意見を聞きながら、当初計画のコースを最短にして登頂することにした。甲斐大和駅からタクシーで福ちゃん荘にゆく。雨にも関わらず他の登山者も山荘に待機していた。唐松尾根を直登し雷岩分岐、大菩薩嶺とゆく。登山道は、滝となり水たまりも半端ではない。雨具を着ているために蒸し暑さと歩き難さにも拘わらず、岳人面々の足取りは軽い。

私は暑さに耐えきれずみんなの隊列から遅れて登頂。桐生さんの差し伸べてくれた自家製の西瓜のひと口と藤家さんの冷たいひと口ゼリーの味は忘れられない。

帰りのコースは介山荘を通り福ちゃん荘ロッジ長兵衛バス停へと辿ることにした。雷岩を越えて大菩薩ののびやかな尾根を下り上日川峠に位置するロッジ長兵衛バス停だ。晴天であれば雷岩から直下の花畑が広がり富士山が見えるのだが、今日に限っては皆無であった。さかりを過ぎたマルバタケブキ、コウリンカ、ウメバチ

ソウ、ハナイカリ等が辛うじて見られた。介山荘で昼食をとる。相変わらず大勢の登山者にであった。ここからも富士山や南アルプス、甲府盆地､東京の夜景､空気の澄んだ時にはスカイツリーも見えるとのこと。ここまで下って来る途中に小説「大菩薩峠」作者の中里介山文学碑があるということだが、下る足もとに注意が行き気がつかないで来てしまった。

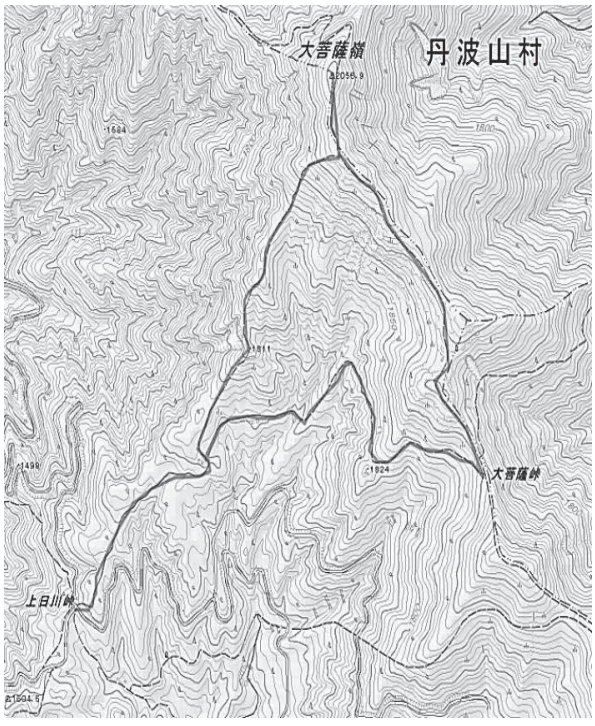
バス停まで来ても雨は止まず、そんな中でバスのシートを濡らさないために雨具を脱いで乗車した。ここから天目山温泉までのバス料金一人１０００円だ｡高アルカリ泉美肌の湯とある。汗を流し冷えた体を暖めた。そしてバスで甲斐大和駅まで来る｡数回の乗継で我孫子へと戻る。やっと雨が上がっていた。

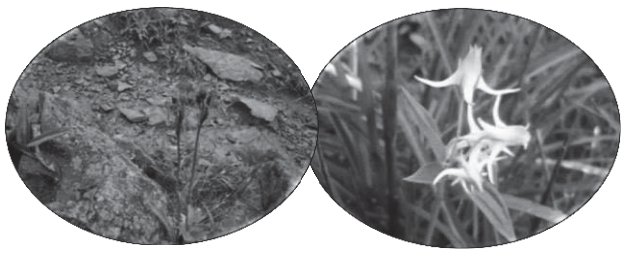
帰ってきてから､「雨の中での学びがあった」という声があった。仲間で行ける山旅の素晴らしいところだと思う。晴れた日の大菩薩嶺をもう一度踏みたい。

概　　要

山名	大菩薩嶺		
月日	平成 28 年 8 月 20 日		
山域	北八ヶ岳	地 形 図	1/25000 大菩薩峠､柳沢峠
形式	日帰り	グレード	2B
目的	夏の日帰り山行		
費用	約 5900 円	交通機関	JR　ﾀｸｼｰ ﾊﾞｽ
日程	我孫子 5:33→柏 5:39→新松戸 5:50→西国分寺 6:55→高尾 7:26→甲斐大和 8:33→ﾀｸｼｰ 8:35→9:20　福ちゃん荘 9:30⇒休憩 9:50/9:55⇒雷岩 10:35⇒大菩薩嶺 10:45/11:00⇒賽の河原 11:30⇒親不知 11:35⇒介山荘 11:43/11:55⇒勝緑荘 12:20⇒富士見山荘 12:23⇒福ちゃん荘 12:25⇒上日川峠 12：40 ﾊﾞｽ→13:00/13:35 やまと天目山温泉 13:40/14:31→バス 14:31(遅れて 14:40 着)→甲斐大和 14:55/15:31 高尾 16:30→立川 16:53→西国分寺 17:06→新松戸 18:09→柏 18:17→我孫子 18:28　歩行時間 2 時間 40 分		
ルート状況	雨天のためコースを変更 ･唐松尾根を登る（ほぼ森林帯のため雨は気にならなかった。）登山道は水たまりがおおくあった。 ･下山は滑りそうな登山道をさけ、介山荘を回った。		
参加者	矢野(L)　外崎(SL)　高橋英　新谷　箕輪　桐生　林　郷田　藤家　蟹江　横尾　小林安　室崎 男 5 名､女 8 名　計 13 名		

概念図





コウリンカ　　ハナイカリ(花錨)



雨中稜線歩き

＜９５７＞

越後駒ヶ岳
(2,003m)

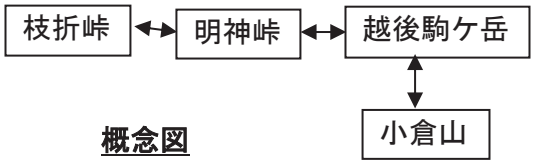
北川　勝久



駒ヶ岳山頂

上野発 7:06 の新幹線で越後湯沢に向かう。越後湯沢まで約 1 時間で到着。ずいぶん便利になったものである。越後湯沢で予約のﾚﾝﾀｶｰを捜すために駅前に出てしまったがちょっとした失敗で、越後湯沢駅の駅ﾚﾝﾀｰは構内にあった。事務所で予約を確認して枝折峠に向けて出発。車はｽｽﾞｷのｽｲﾌﾄ。5 人乗りではあるが小型車なので、ザックを積んで（多少無理やり）車に乗り込むと狭い感じではあるが我慢、我慢。2 日間借りて 14000 円弱なのでﾀｸｼｰよりも割安。村松さんの運転で小出ｲﾝﾀｰから 352 号を走っていく。天気は曇り空から雨が降ったり止んだりの生憎の天気である。352 号はｶｰﾌﾞの多い細い山道。約 1 時間弱で枝折峠に到着する。枝折峠は結構広い駐車場でトイレもあります。10:30 いよいよ越後駒ケ岳への登山開始。雨が降っているのでﾚｲﾝｽｰﾂを着ての登山となる。展望も全くない中歩き出すが登山道は比較的整備されているので問題なし。歩き出してから 1 時間もすると外からの雨と中からの汗で体はぐっしょり濡れてしまった。明神峠の手前の大明神？を祀ってある小屋で昼食をとる。明神峠を越えて小倉山、百草池へと向かうが小さなｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝの繰り返しでほとんど高度が変わらないのである。時計の高度計を見ると 1200～1300mのあたりをうろうろしている感じなのです。今日の目的地駒の小屋の高度は 1900m前後なのでいきなりの急登が待っているのでは？と思うとゾットするのでありました。

百草池を越えてからは、木道や急な階段を登り続けていく。雨の切れ間からようやく駒の小屋の一部が見えてホッとするがこの先小屋までの道のりが岩場であり、雨も本降りになり慎重な歩きが必要であった。ルートにはペンキで矢印が書かれているので間違えることはない。やっとの思いで岩場を越えるとぽっと小屋前に出る。6 時間弱の行程であった。



概念図

小屋に着いてから、濡れたﾚｲﾝｽｰﾂ、ｻﾞｯｸｶﾊﾞｰなどを小屋の入口に乾かす。2 階建てのきれいな小屋である。小屋の先着は 2 名だけで私たちは 2 階に上がることにする。
女性陣が用意してくれたおつまみを肴に無事到着したことを乾杯する。ビールは 500ｍｌを 2 本持ってきたが、小屋で販売があった。ひと段落してから女性陣が晩御飯の支度をしてくれた鍋を美味しく戴きました。小屋番の方に肉入り鍋、ハムの差し入れをしたところお返しに缶ビールを人数分いただきました。20：00 頃には就寝。宿泊者がほとんどいないので、毛布は利用し放題の状況であった。



駒の小屋2階を占領して食事準備

翌日 4：00 起床。昨日の雨は止んでおり快晴である。小屋前の展望場所からは、滝雲が見られて素晴らしい景色である。遠くには会津駒ケ岳、近くには荒沢岳などが見渡すことができる。簡単な準備をして駒ケ岳へ向かう。5:20 の日の出を登っている途中で迎えて景色を堪能する。中ノ岳への分岐を過ぎて約20分程で駒ケ岳の山頂に到着する。天気は最高、山頂も適度な広さ

でいつまでも居たい様な場所であった。15 分程山頂での展望を楽しみ下山する。小屋に戻ってから、昨日のお鍋をもとに朝食の雑炊をおいしくいただく。
枝折峠への下山の支度をして､7:00 過ぎに駒の小屋を後にする。昨日の雨の中とは、打って変わって天気は快晴で、右手に荒沢岳を見ながら快適に下山していく。
枝折峠には 12:20 頃に到着。約 5 時間の行程で結構長く感じた。15:00 前に越後湯沢に到着。入浴してさっぱりと汗を流し居酒屋で反省会を行う。名物の「へぎそば」や地酒をいただき大満足であった。
17:00 過ぎの新幹線で我孫子へ 19:00 前後に到着することができた。初日は雨の中の登山で、翌日は快晴でありトータルで良い登山ができたと思う。

概　　要

山名		越後駒ヶ岳		
月日		平成 28 年 8 月 27 日		
山域		越後山塊	地形図 1/25,000	八海山
形式		避難小屋泊	グレード	2B
目的		避難小屋泊りを楽しむ 越後 3 山（八海山、中の岳、駒ケ岳）の山に登る		
費用		20000 円	交通機関	新幹線　レンタカー
日程	一日目	我孫子 6:12→上野駅 6:45/7:06（新幹線線）→越後湯沢駅 8:10/8:50（ﾚﾝﾀｶｰ）→小出ｲﾝﾀｰ 9:25→枝折峠 10:15/10:30⇒明神峠 11:10/11:30⇒道行山分岐 12:30⇒小倉山 13:30⇒百草池 14:25⇒駒の小屋 16:15（泊） ＜行時間 5 時間 45 分＞		
	二日目	駒の小屋 5:10(日の出 5:20）⇒駒ケ岳山頂 5:30/5:45⇒駒の小屋（朝食 6:10/7:10）⇒小倉山 9:10⇒道行山分岐 10:25⇒明神峠 11:50⇒枝折峠 12:20/12:55→越後湯沢駅 14:55（入浴、反省会/17:12→上野 18:08→我孫子 18:44＜歩行時間：5 時間 10 分＞		
ルート状況		・折峠の駐車場は約 20 台可能。トイレあり。 ・登山道は整備されていた ・百草池までは小さなアップダウンの繰り返しで多少うんざりする感あり。今回は雨であったので駒の小屋直下の岩場は注意が必要である		
参加者		北川(L)　村松(SL)　武内　外崎蓮 高橋富　　男性 3 名女性 2 名計 5 名		

＜９５８＞

飯縄山～黒姫山
（1,917m）（2,053m）

本田　愛子

山岳信仰と伝説を残す秀麗な山



飯縄山山頂にて

北信濃には北信五岳（戸隠山、妙高山、飯縄山、黒姫山、斑尾山）と呼ばれて地元の人に親しまれている山がある。山岳宗教の修験道場の飯縄山と黒姫伝説や複式火山でできた黒姫山の二山に登れるチャンスがきたので楽しみにしていた。

台風が次々にやってくる為、連日天気が不安定で数日前まで実施するのか気になっていた。我孫子出発の朝は、結構雨がふっていた。新幹線で長野駅に着いた頃は、雨は降っていなかった。戸隠方面は山の神のお蔭で、お天気が回復しているようだ。今回の参加者は 7 名、男性は大山さん一人　美女？に囲まれて嬉しそう…長野駅からジャンボタクシーに乗り 30 分で飯縄登山口駐車場に着いた。右折して一の鳥居を過ぎ、別荘地の林道を少し行くと二の鳥居のある登山口まで行ってもらえた。
南登山道は昔からのルートで、十三体の石仏が山頂までの登山道に鎮座している。二の鳥居をくぐり、樹林帯をゆっくり登って行くとすぐに林道にでる。横切って三の鳥居をくぐると、第一不動明王を見つけた。手を合わせ通り過ぎ登っていくと、第二、第三の石仏を見つけながら楽しく登れた。第十阿弥陀如来を過ぎ、第十一阿しゅく如来がある駒つなぎの場という広い場所に出た。右にトラバースして山腹の急登をジグザグいくと、富士見の水場があり、ちょろちょろ流れていた。ジグザグ登って行くと、天狗の硯石という平たい大岩がある霧がなければ見

晴らしの良い場所だった。お腹も空いたので休憩を摂った。リーダーは駅で買ったおやきを美味しそうに食べていた。すぐ上に十三虚空蔵菩薩が鎮座していた。少し登ると笹原の尾根道に出た。南側の展望が開けて眺望を楽しみながらの尾根歩きができる筈なのだが、あいにく真っ白な尾根道歩きだったが、秋のリンドウや白玉の実、赤い御前たちばなの実、おおかめの木の実が歩道を彩り、もう少しだからと励ましてくれる。中社へ下る西登山道の分岐を過ぎ急登を少し登りきったら､鳥居があって 1,900ｍのピークに着いた。東側の低い場所に飯縄神社の社が見えた。三角点のある山頂は 15 分先の奥の頂きになる。少し下った場所にトイレブースが立っていた。回収は各登山口に設置されている。さすが山岳信仰修験の山だ。山頂はあいにく霧の中で眺望はなく白い大きな標識の前で記念写真を撮った。(11:50/12:05)
登ってきた道を分岐まで戻り、中社へ下る西登山道は粘土質の急坂で注意しながら 1 時間くらい下りて行くと、萱の宮という小さなお社が祀ってあった。古い木の鳥居をくぐり、緩やかに下って行くと、林道に出て右に行くと、戸隠忍者村があり通過して中社の集落へ続いていた。道沿いに私達が泊まる旅館で荷物を置いて、取り敢えず中社へお参りとお蕎麦屋へと急いだ。（時間切れでお蕎麦屋が閉店になるので…）
14:30　老舗のうづら屋で戸隠蕎麦を味わって、荘厳な社殿まで長い階段を上がって、今日の無事に登頂したお礼と明日の無事登山を祈願した。杉の大木が 3 本そびえ太い幹からは中社の歴史が伝わり、パワーを感じてきた。宿に戻り、お風呂に入り、お楽しみの夕食は信州の味覚を堪能した。

翌朝、6:30 に旅館の車で大橋黒姫登山口まで送って頂いた。ここから新道分岐まで 2 コースあるが、時間短縮で林道を歩いた。1 時間 10 分を緩やかに登って新道分岐で池コースと合流した。ここからは樹林帯へ行く本格的な登山道へ入って行く。ブナの大木の尾根を緩やかに登ってだんだん急登になってきた頃、しなの木が看板をさげて立っている場所で水分補給を摂った。針葉樹の急登をしばらく登って行くと、白玉平という展望がよい場所に着いた。霧であまり眺望はなかったが気持ちの良い場所で一休みをした。此処から南側が開けた笹原の尾根道を緩いアップダウンを繰り返し進んだ。道端に白玉の実が沢山なっていた。大池への分岐の鞍部に着いた。此処から 15 分ほど岩の多いルートを乗り越えて山頂に到着した。(10:30)

だんだんと空が明るくなって、周囲の山々が見えてきた。昨日の祈願の効果かパワースポットを感じた。眼下に野尻湖がはっきり見えた。目の前に飯縄山と戸隠連峰、奥に北アルプスの山並と槍ヶ岳が見えた。西方には高妻山、乙妻山が近くに、北方に火打山と三角形で迫力のある妙高山がくっきり見えて 360 度の展望に感動した。平日で殆ど人に会わずに登ってきたが、暫くすると男性が一人で登ってきた。すかさずカメラをお願いして記念写真を撮ってもらった。(11:10)

山頂を後に大池への分岐まで戻る。分岐から火口原に下り始めると、針葉樹の急斜面で木の根や石で滑りやすいため、慎重に一歩づつ下りて 15 分が 30 分かかり、峰の大池と七つ池の分岐に下りた。峰の大池に少し寄り道して、元の分岐から七つ池方向へ緩やかに少し登って、樹林帯が開けると笹原が広がり景色が一変した。背の低い笹原を気持ちよく歩いていくと、地糖が点在する場所が七つ池だった。夏に雨が降らないと涸れてしまうらしい。外輪山に囲まれた窪地を横切って再びおおしらびその樹林に入って行くと、黒姫山頂から尾根伝いにくる道と合流する黒姫乗越に着いた。しばらく休憩をする。乗越から再び岩と木の根が混在する急な下りが続いた。越見尾根の看板まで慎重に下る。
緊張が続き喉が渇く。此処から右に折れ山腹を水平に行くが、岩と木の根っこで歩きにくい道が続く。同じ道を繰り返しているようで飽きるほど長く感じる。不安になって地図を広げ確認する。時間がかかり過ぎているが、他にルートがなかったので多分、根っこや岩の乗り越えに時間を要したと思った。やがて、先頭を歩いていた大山さんが少し先に行って確認してくれて、姫見台に着いた…と声が聞こえてきたので、ひと安心した。ゲレンデまでもうひと頑張りとどんどん下って行くと、スキー場のリフトが見えてきた。高い処のリフトは動いてなかった。登山道より斜度はあるが歩きやすいし、早いのでゲレンデを一気に下りた。下の方のリフトは動いていた。地元のおじさんが 2 人もいて、空のリフトを動かしている。疲れているのでリフト代で乗せてくれるようお願いしたがコスモス園とリフトはセットで 1,100 円払わなければ乗せないと言うので、対応に気分を悪くした。意地でも…と自力で満開のコスモスを横目に黒姫高原ロッジに着いた。(16:20)
バスはもう終わって来ないためタクシーを呼ん

だ。その前に入浴できる所を探した。タクシーの方から近くのホテルを教えてもらって、汗だらけの体を流しゆっくり入浴できた。タクシーで黒姫駅に降りて、信越本線で長野駅に着いた。駅弁を買って 18:45 新幹線に無事乗れて、駅弁を食べながらの反省会とした。
飯縄山も黒姫山も昔から信仰と伝説で多くの信者たちが登った痕跡を感じ、山の神のパワーをいただいて無事に楽しく登れたことを感謝し、心に残った山旅でした。計画してくださった高橋リーダーに深く感謝します。

概念図





七ツ池の明るい笹原

概　　要

山名	飯縄山　～　黒姫山			
月日	平成 28 年 9 月 15 日～16 日			
山域	信越	地形図	1/25000 戸隠　若槻 高妻山　信濃柏原	
形式	旅館泊		グレード	3B
目的	200 名山をつなぎ、おいしい蕎麦と黒姫高原のコスモスを楽しむ			
費用	22000 円	交通機関	ＪＲ，新幹線、タクシー	

日程	一日目	我孫子 5:42→上野 6:34(はくたか)→長野 8:06/8:18(タクシー)→飯縄山登山口 8:50⇒別荘地登山口入口 8:58⇒駒つなぎの場 10:14⇒天狗の硯石 10:43/10:52⇒中社分岐 11:20⇒飯綱神社 11:30⇒飯縄山 11:50/12:05(昼食)⇒西登山道分岐 12：28⇒萱の宮 13:30⇒戸隠中社 14:30 ＜歩行時間　約 5 時間＞
	二日目	旅館 6:30→大橋 6:45⇒新道分岐 7:50/7:55⇒しらたま平 9:45/9:55⇒大池分岐 10:17⇒黒姫山 10:45/11:10(昼食)⇒大池分岐 11:30⇒大池 12:05⇒ しらびそ平 12:30⇒黒姫乗越 13:00/13:10⇒姫見台 14:20/14:25⇒ 黒姫高原 16:20/17:35(入浴)（ﾀｸｼｰ）→黒姫駅 17:50/18:08→長野駅 18:45/19:08（あさま）→上野駅 20:52/20:55（成田）→我孫子駅 21:35 ＜歩行時間　約 8 時間 30 分＞
ルート状況		・飯縄山のルートは迷うことはない。途中 13 仏が次々に現れ楽しみのうちに頂上に至る。 ・信仰の山であり、携帯トイレを使用するようトイレブース、下山路には回収箱が用意されていた。頂上は広く気持ちがよく 360 度展望が楽しめる。 ・下山路は西登山路から中社に至ったが地図にも記載されているように滑りやすい道で要留意。他には瑪瑙山からスキー場に至るルートがあり、雨天時はそちらの方が無難。 ・黒姫山には戸隠側の大橋から林道は林の中の気持ちの良い道で他には古池を回るルートがあり 15 分ほど回り道となるが、登山道入り口で合流する。入口から 20 分ほどで新道分岐となり、2 時間程で山頂に至る歩きやすいルートだった。 ・山頂からは 360 度とはいかないが北アルプス、北信の山々の展望がよい。 ・帰路は火口原の大池、七つ池ルートとトラバースルートがあるがどちらも歩きにくい滑りやすい道であるがガイドブックでは火口コースを勧めている。静かな池と池塘の七つ池、火口原の歩きは快適。 ・予定時間はほとんど変わらないが水を含んだ粘土土と苔の岩に難渋した。黒姫高原のスキー場の急斜面を駆け下り終着した。
参加者		高橋芳(L)　田村(SL)　大畠　大山　本田　新谷　高橋富　男性1名　女性6名　計7名

＜９５９＞

白峰三山縦走

（北岳～間ノ岳）

（3,193m）（3,191m）

郷田　進

日本第２・第３の高峰からの眺望 3,000m の稜線を歩く

日本の標高第 2 位の高峰・北岳を踏み、第 3 位の間ノ岳、連なる農取岳を結ぶルートを白峰三山と呼び南アルプス北部で人気の縦走コースである。これまでの鳳凰三山、荒川三山に続く南アルプス三山シリーズのまとめとして登山を計画した。かなりハードでのぼり応えのある山行であるが中村育さん、小林安さんの女性陣に室崎さんを加えての 4 名の山旅である。今年は台風の当たり年か多くの台風がにぎわす中、台風の間隙をぬっての山行となった。

初日、特急あずさ回数券（指定席）を使用し、ゆったりと甲府に向かう。大きな荷物をもっていても快適な移動である。甲府から路線バスに乗り換え広河原を目指す。増発 2 号車のため乗客は 8 名ほど、専属の観光ガイドつきで、途中ホウホオウシャジンなどの解説もありこちらも快適なバス旅であった。

広河原で準備を整え、大樺沢ルートで二股を目指す。北岳を眺めながら、涼風の心地よさを感じながらの登山である。二股から白根御池小屋までは、木の根、軽いアップダウン等あり予想に反して苦戦するも、御池のテンバ場を見て疲れがとれる感じがする。予定通り 15 時ころ小屋に到着する。その後、小屋前の広場で周りの山々を眺めながらのやま談義､M さん差し入れのタイ産しょうちゅうを皆でおいしく頂く至福の時間を過ごす。新築されたばかりの御池小屋は、布団、個室、食事、トイレなど山小屋と思えない快適さを味わう。一方で明日の名物山小屋農鳥小屋が少し心配になる。

2 日目､長い行程のため朝食を弁当にしてもらい早出の 4:30 小屋を出発する。朝食前暗い中でのいきなりの急登のため、喘ぎながら稜線をめざす。途中感動の夜明けを迎える。小屋泊での素敵な景色は朝焼けに夕焼けそして星空を楽しみにしている。写真ではなかなか表せない景色である。富士が顔を出したところで周りの山々を眺めながのら朝食（弁当）も格別な味である。鳳凰三山、甲斐駒ケ岳、仙丈ケ岳などの南アルプスの山々を眺めながら肩の小屋につき、ティタイムをとる。乾いた喉にお茶やコーヒーは格別な味がする。北岳への登りは、かなり急登な岩稜帯であるが周りの山々を眺めながらの楽しい登山である。北岳山頂に立ち中央アルプス、北アルプス、なにより第 2 位の高峰からの富士の眺めを満喫する。さらに間ノ岳へ続く弓なりの稜線の美しさを楽しむ。天候に恵まれ風もなく素晴らし展望に皆感激の様子である。

その後、山頂直下の北岳山荘を目指す。小屋で最新の天候情報を入手し今後のコースを検討する。今後天候は下り坂で明日は雨の予想をあり、翌日の農鳥岳は今回見送り、間ノ岳ピストン、北岳山荘宿泊、明日八本歯のコル経由広河原を目指すコースに変更する（当初のエスケープルート）。名物小屋である農鳥小屋のオヤジに会えないことや美肌の湯で有名な奈良田温泉に入れないことなど心残りがするが、次回の楽しみとした。

北岳山荘に荷物を置き、身軽になって間ノ岳を目指す。待望の３０００m稜線歩きである。濃霧のため視界は良くないものの、約２時間の行程で第 3 位の高峰間ノ岳山頂に立つことができた。記念撮影後、北岳山荘に戻り、2 日目の小屋での時間を楽しむ。

3 日目、強風の中、八本歯のコルに臨む。あまりの強風に耐風姿勢を取りながら、風の息が収まるタイミングを見計らって前進する。途中強風の中、かなり急峻で狭い所でテント 2 張りの若者グループに合う。おそらく前夜小屋到着を諦めビバークしたものと思われる。常に時間的余裕が重要と再認識する。急降下の中丸木の梯子、岩場等かなりの難所を通過しえたのもよい経験となった。下りであったので良かったが、上り行程ならば、かなり応えたものと思う。

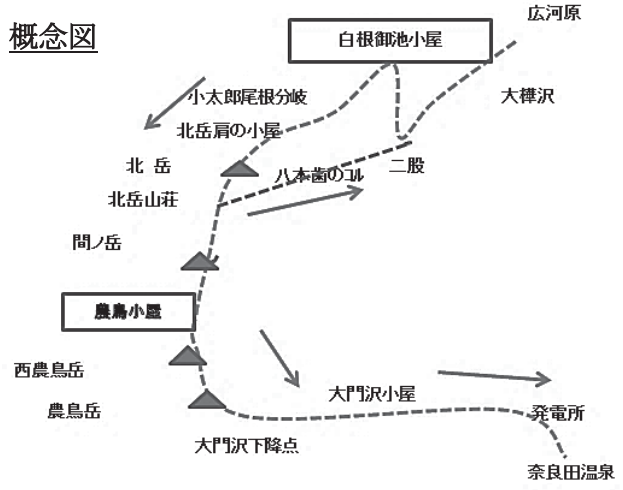
広河原からジャンボタクシーで甲府へ直行、バスに比べ 30 分ほど早く甲府に到着する。北口からほど近い所にある「喜久の湯」は、文豪太宰治も通った由緒ある銭湯である。この「喜久の湯」で 3 日間の汗を流し、その後駅ビル内のラーメン店で生ビールで喉を潤す。

往路と同様、甲府駅から新宿まで特急スーパーあずさ指定席でゆっくり甲州の景色と甲州ワインを楽しみながら帰路に就く。

あこがれの南アルプス白峰三山山行を無事終了した。農鳥岳は残ってしまったが、中白根山

（3055m）を登ったこと更には6月に（日光）白根山を既に登っていることで良しとすることでまとまった。各人の頑張りと 4 名という少人数で足並みが揃っていたこと、なにより各人の積極的なサポートのおかげで計画通り山行が行なえ充実した 3 日間を過ごすことができた。同行メンバーに感謝します。また南アルプスにごいっしょできればと思っています。

概念図



エスケープルート：間ノ岳ピストン（八本歯のコル経由下山）



北岳山頂（3193m）　日本第2位の高峰

概　　要

山名	白峰三山縦走（北岳～間ノ岳）		
月日	平成 28 年 9 月 16 日～9 月 18 日		
山域	南アルプス北部	地形図	1/25000 仙丈ケ岳、鳳凰山、間ノ岳、北岳
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3C
目的	日本第２・第３の高峰からの眺望、3000m 稜線歩き		
費用	27000 円	交通機関	電車、バス、タクシー

日程	1日目	我孫子駅 5:42→日暮里 6:12/6:17→新宿 6:39/7:00（特急あずさ 1 号）→甲府駅 8:28/9:00（バス 2 号車）→広河原 10:53/11:1）⇒分岐（大樺沢コース）11:45⇒昼休憩 12:10/12:20⇒大樺沢二俣 14:15⇒白根御池小屋 15:00（泊） ＜歩行時間:約 3 時間 20 分＞
	2日目	白根御池小屋 4:30⇒朝食 5:30/5:40⇒小太郎尾根分岐 6:50⇒北岳肩の小屋 7:30/7:45⇒北岳 8:30⇒北岳山荘 10:00/10:45⇒中白峰 11:30/11:50 昼休憩⇒間ノ岳 13:00/13:05⇒北岳山荘 14:40（泊） ＜歩行時間:約 8 時間 20 分＞
	3日目	北岳山荘 6:00⇒八本歯のコル 7:30⇒大樺沢二俣 9:05/9:10（大樺沢コース）⇒分岐 11:00/011:10⇒広河原 11:30/12:05 タクシー→甲府駅（入浴・食事）13:30/15:55（特急あずさ 22 号）→新宿駅 17:32/17:53→日暮里駅 17:57/18:30→我孫子駅（18:30） ＜歩行時間:約 5 時間＞
ルート状況		・登山口～（大樺沢コース）～白根御池小屋：当初、樹林帯の中を進む、その後沢沿いを二股まで進む、何回か橋を渡る、川原の道などで足元に滑らないよう注意が必要、二股から小屋までの道は滑りやすい木の根っこ、軽いアップダウンあり。 ・御池小屋～肩の小屋～北岳～北岳山荘：当初かなりの急登、登山道はよく整備されている。小太郎尾根分岐点で視界が開ける。富士や、鳳凰三山、八ヶ岳、甲斐駒など素晴しい眺望、肩の小屋から岩稜帯を登る山頂を目指す。 ・北岳山荘～間ノ岳：途中何箇所か注意を要する点あるが、3000m 級の稜線歩きが楽しめる。 ・北岳山荘～八本歯のコル～樺沢コース～下山口：八本歯のコルは、丸木のはしごなどが整備されている。雨天時には特に慎重さ（滑落注意）を要する。大樺沢コースを経て広河原までのんびり下れる。ただし、滑りやすい足元注意
参加者		郷田（L）中村育（SL）室崎、小林安 男２名、女２名　計４名



草すべりからの朝焼け

＜９６０＞

鳥海山

（2,236m）

村越　百々代

鳥海山の山頂から
日本海を眺める

9 月 25 日(日)　晴れ

我孫子駅 8:30 発の品川行きで出発する。東京駅で駅弁を買い、9:22 発の MAX とき 315 号に乗り込む。車窓からの景色と北田さんお勧めの「いなりずし弁当」を楽しみながら 12:23 には新潟に到着。そこから 12:33 発の特急のいなほに乗り換えて 14:39 に酒田駅に到着する。

駅には、すでに今日宿泊する鳥海山荘のマイクロバスが迎えに来てくれていた。乗客は他の女性客１人を含めて４人。さっそく鳥海山荘に向かう。なんとこのバスは無料。しかも明日の宿から登山口までの送迎と帰りの酒田駅までの送りまでを含んだ(鳥海山登山パック)そうだ。タクシーを頼んだら相当の出費になるはずだから、まずは北田さんに感謝！である。

鳥海山荘の山小屋風の素敵な部屋に入ると窓からは月山と庄内平野が見渡せる。さっそく荷物を置いて山荘の周りを明日の足慣らしも兼ねて 3 人で散歩する。北側には雲のかかった鳥海山のどっしりとした姿が見える。お天気がいいのに、広いすそ野は見えているが山頂まで見えないのがちょっと残念。家族旅行村の広々としたグランドゴルフ場や、釣りができるという渓流をのぞき込んだりしてのんびりと歩いた。宿に戻ってからは、かけ流しの温泉にゆっくりと浸かって、おいしい夕食(海が近いので刺身がとても美味！)をいただく。岳人あびこで来る山行でこんなにゆったりとした気分になれるなんて、思いもよらなかった。ラッキー！！

9 月 26 日(月)　曇り

4:50 真っ暗な中、送迎バスに乗り込み、滝の小屋下登山口に向かう。薄暗い中、登山口から歩きはじめる。25 分ほどすると滝の小屋に着く。トイレ休憩と水分補給をする。クマザサに交じって周りの灌木がところどころ色づいていて目を楽しませてくれる。ナナカマドの実も赤く色づいている。50 分ほど登ると河原宿小屋に着く。朝食を食べてしばし休憩。ここで一人で来たという男性の登山者と会う。私たちがまだ休んでいるうちにその人は出発する。少し時間をおいて私たち 3 人も歩きはじめる。しばらくするとその男性が戻ってきた。「登山道がぬかるんでいて危ないので下山してきた」という。

そうなのかと思いながらも私たち 3 人はぬかるんで歩きにくい道を登る。我慢して登って行くとだんだんぬかるみも少なくなり、「あの人、下山しちゃって残念だったな。」と思う。しばらく進むと本来は大雪渓があるはずなのだが、今年は雪が少なかったと見えて渡るはずの雪渓がなく、ところどころに石が埋まっている道を進んでいった。脇にわずかに残った雪渓の名残を見ながらひたすら歩く。はるか遠くには酒田の市街や海岸や港も見渡せるようになる。後ろを振り返ると先ほど登ってきた河原宿小屋や滝の小屋、遠くの林の中に今朝バスを降りた駐車場まで見えてきた。リンドウの花がみごと。白いリンドウまで咲いている。標高が高くなって、低くなった木々の葉を見ているとなんとドングリを見つける。

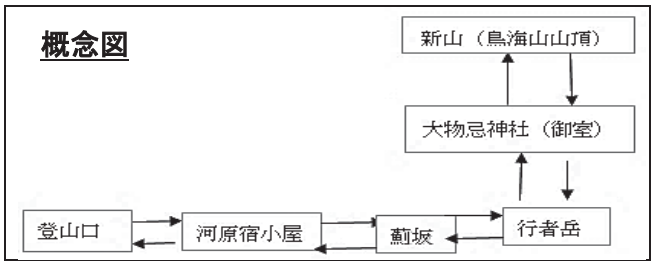
ドングリは高い木から落ちてきたものを拾うものだと思っていたし、実際によく拾って楽しんできた。まさかドングリを摘み取ることになるなんて思ってもいなかった。一人で感激してドングリ摘みを楽しむ。アザミ坂が近づいてくると登りがきつくなってきた。ひたすらおしゃべりもせずに登って行く。伏拝岳～行者岳を過ぎるころにはごつごつとした新山の岩場が見えてきた。ふもとから見える鳥海山はなだらかでどっしりとしているのに、ここから見える姿は全く違う。山頂に続く大きなごつごつとした岩の重なりをペンキのしるしを頼りに一歩一歩注意深く登って行った。狭い足場を回るように渡って行ったり、岩の間をくぐったり、ひやひやしながらスリル満点だった。

やっと山頂にたどり着く。山頂は狭く記念写真を撮ってしばし休憩。山頂からの眺めは最高。360 度見事に見渡せる。ここまで標高差 1000 メートル余り。あこがれていた鳥海山の山頂から日本海を見ることができてよかった。

下山は肩の小屋を通って、もと来た道を戻ることにする。小屋では小屋じまいの準備だろうか、上空にヘリが来て荷物を下げて麓の方へ飛んで行き、しばらくするとまた登って来るというのを繰り返していた。荒々しい岩場を一歩一歩降り、薊坂では来た時よりもたくさんの花が咲いているように感じた。時間帯の違いだろうか、色づいた木々の葉も多くなっているように

思えた。日本海と少しずつ近づいてくる山小屋を見ながらひたすら降りてきた。予定していた時間より30分ほど早く14:30に登山口に着くことができた。迎えのバスに乗り鳥海山荘で温泉に入り、さっぱりとして帰路に就いた。

鳥海山はなかなか登りがいのある山だった。そして、山頂からあこがれの日本海を見ることができてとても幸せな山行だった。北田さん、藤家さんに感謝です。ありがとうございました。





山頂にて

概　　要

山名	鳥海山		
月日	平成 28 年 9 月 25 日(日)～9 月 26 日(月)		
山域	出羽山地	地形図	1/25000 鳥海山、湯の台
形式	山荘泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3B
目的	①　日本百名山である東北の名峰に登る。 ②　山頂から日本海を眺める。		
費用	37000 円	交通機関	上越新幹線、特急「いなほ」、送迎バス
日程 1日目	千代田線我孫子発 8：30→東京駅 9：11/10：16(MAX とき 315 号)→新潟 12：23/33 (いなほ 5 号)→酒田駅 14：39/45(送迎バス)→鳥海山荘 15：20 ＜行動時間 8 時間 30 分＞		
日程 2日目	山荘（送迎バス）4：50→滝の小屋下登山口 5：20/25⇒滝の小屋 5：40⇒河原宿小屋 6：30/45⇒薊坂 7：20⇒伏拝岳 8：45/50⇒鳥海山山頂 9：50/10：15⇒大物忌神社 10：35/45⇒伏拝岳 11：50⇒薊坂⇒河原宿小屋 13：00/25⇒滝の小屋 14：10⇒滝の小屋下登山口（送迎バス）14：30→鳥海山荘（送迎バス）15：05/35→酒田駅（いなほ１４号）16：12/18：04→新潟駅（MAX とき 348 号）20：07/18→上野駅 22：22/40→我孫子駅 23：14 ＜歩行時間：8 時間＞		
ルート状況	・雪渓は登山道のわきにわずかに雪が残っているだけ。 ・河原宿小屋は無人、トイレが比較的きれいでつかいやすい。 ・標高 1500mあたりから樹林帯をぬけて見通しがよく、眼下には日本海の海岸線が美しく、庄内平野も一望できる。また、南には月山など出羽三山、西には岩手山などの山なみが連なって、素晴らしい展望が開ける。 ・新山頂上付近は巨大な岩が折り重なっており、ガスがかかった時にはわかりにくいので、ルートのペンキ印を見失わないように気をつける必要がある。 ・登山口が標高 1200mなので、頂上まで標高差約 1000mで鳥海山荘に泊まれば、登山口までマイクロバスで送迎してもらえるので、その日のうちに我孫子に帰ることができる。		
参加者	北田(CL)、藤家、村越 男 2 名、女 1 名　合計 3 名		


鳥海湖方面の紅葉

＜９６１＞２０周年記念山行

尾瀬ヶ原～至仏山

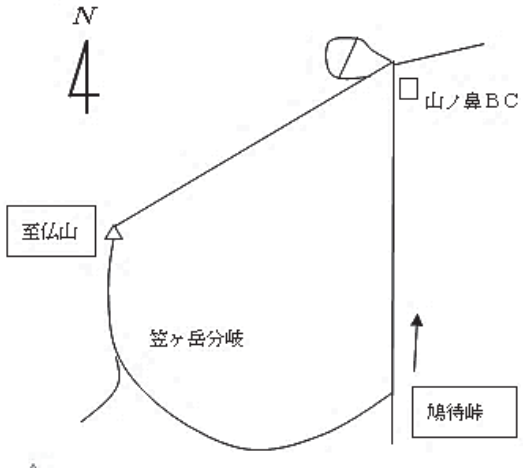
（2,228m）

吉澤　こう

紅葉や尾瀬ヶ原の景色楽しむ

日帰り登山チーム、男性２名、女性２名の４名で新宿発２２時の夜行バスに乗り戸倉へ到着。戸倉始発の専用バスで鳩待へ、山荘を５：４５に出発、明るくなっていたのでランプは使わなくても大丈夫でした。木道は滑りやすく足元に気をつけて歩きました。一方通行の登山道は入ったら戻れないと聞き、大きな岩の鉄鎖をしっかり握り登りました。休憩のとき下を見ると、もやのあいだから湿原や近くに多くの山々が見え、赤く染まった木々や小さな花を見る事ができ、また至仏山頂上と子至仏からも影色をながめられ、よい天気とは言えませんでしたがすばらしかったです。
下山にはぬかるみや石のあいだを抜け、滑りやすいのと他のツアーの人を先に行って頂いたりして、コースタイムは予想よりかかりましたが鳩待山荘に着いた時は安堵しました。
リーダーの坂巻さん、大山さん、斉田さんに支えられ、入会して初めての山行を無事に出来ました事を感謝いたします。ありがとうございました。

概念図



概　　要

山名	尾瀬ヶ原～至仏山		
月日	平成 28 年 10 月 2 日（日）		
山域	尾瀬	地形図	1/25000 尾瀬ヶ原、至仏山
形式	夜行 日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
目的	百名山のひとつ、紅葉や尾瀬ケ原の景色を楽しむ。		
費用	13,000 円	交通機関	夜行バス、バス
日程	我孫子駅 20:22→ターミナル 22：00→尾瀬戸倉 3：30/4：40→鳩待峠 5：15/5：45⇒山ノ鼻ビジターS6：45/6：00⇒登山口⇒森林限界⇒高天ヶ原⇒至仏山 10：45⇒子至仏山 12：00/12：05⇒笠ヶ岳分岐⇒鳩待峠 14：05/14：15→戸倉 14：30→宴会場→バス 17：00→我孫子駅 21：00 ＜歩行時間 7 時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・山道の標識はしっかりしていて道迷いはしにくい。 ・登山道の整備が行き届いている ・高千五百メートルを超えると森林限界が見えてくる。		
参加者	坂巻（L）、大山、齊田、吉澤 計４名　（男２名、女２名）		



山頂にて



至仏山下山中、秋色に染まる尾瀬原を一望

＜９６２＞２０周年記念山行

尾瀬ヶ原～至仏山
（2,228m）

石塚　あさ子

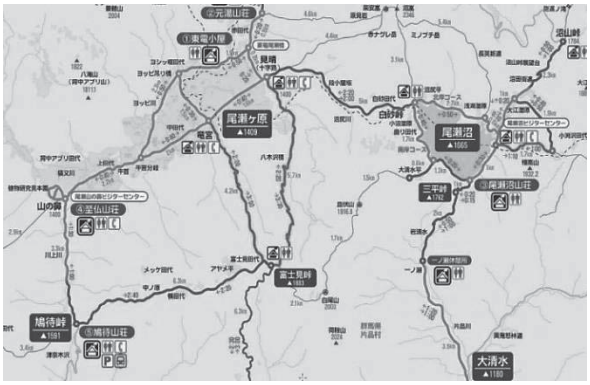
１泊２日組　至仏山山行

上毛高原駅に迎えに来てくれた車に乗り鳩待峠の駐車場に着きました。駐車場は新しく作られた所で､鳩待峠休憩所まで 200m位下の所にありました。トイレ等身支度を整え山の鼻へ出発しました。前日の雨で木道はやはり滑りやすく注意しながらの歩きです。
木道はよく整備されていて、特に下り坂の木道にはゴムの網状になった滑り止めがついており、これはよく効果がありました。それでも時々滑りそうになりながら歩きました。
人気のコースです。沢山の人が行き交います。紅葉は残念ながら遅れている様ですが、樹木に絡まる蔦の赤色や沢沿いの黄色など所どころに見られました。そして山の鼻の至仏山荘には１１時２０分頃到着。至仏山荘は近年新築されてとても綺麗で快適です。昼食を取り、荷物をデポし、尾瀬ヶ原散策に出発しました。くもり空ながら雨の心配はなさそう。
草もみじの中木道の先に燧ケ岳（残念ながら頭は雲の中）の雄大な眺め。振り返れば至仏山の大きな山（こちらも頭はくもの中)。池唐の中の羊草の色とりどりの紅葉、草紅葉の中の小さな花等を見ながら竜宮小屋に着きました。一休みして元来た道を戻り至仏山荘には４時前に着きました。入浴、夕食後、明日の出し物の花笠音頭等の練習です。山荘の計らいで２つの部屋の間の稼働式の戸を開けて頂き、全員参加で３曲練習しました。とても熱心に取り組みました。
２日目、朝５時起床、朝食後６時５０分出発。夜雨が降っていたが今はとりあえず止んでいます。至仏山荘前で夜行日帰り山行組の人達と会い先に出発しました。樹林帯の登りになりました。石ごろごろ、水たまりの登山道、急登です。途中振り向いても尾瀬ヶ原は曇っていて見えません。登るにつれさすがに回りは紅葉で綺麗です。２時間ほどで樹林帯を抜けると、木の階段です。階段はななめになっていたり、朽ちていたり、滑りやすく慎重に登りました。やはり自然の厳しさを実感させられます。途中２泊３日のテント組の精鋭男子４人に追い抜かれてしまいました。１０時半頂上到着です。山頂は登山者で大混雑でした。
急いで記念写真を撮り（テント組の皆さんと一緒にもう１枚）とても休憩する場所もないので、頂上より少し下った所で一休み。その間も鳩待の方から登ってくる登山者がぞくぞくで渋滞模様です。天気は回復、雨は上がっていますが展望はあまり良くありません。下山の道もぬかるみ、蛇紋岩の石は滑るので注意しながらです。
１時間程下った小至仏山あたりから展望も開けてきました。草もみじの尾瀬ヶ原も見える様になりました。広く雄大、とてもすばらしいです。樹木の紅葉も綺麗で快適な下山といきたいが、登ってくる登山者も多く擦れ違い等少し時間がかりました。笠ヶ岳分岐を 12 時 20 分に通過し鳩待休憩所に 13 時４５分到着。バスで竜宮旅館 14 時 30 分到着しました。



山頂にて

概念図





ヒツジグサ浮かぶ池塘と草紅葉

＜９６３＞２０周年記念山行

燧ヶ岳～至仏山

（2,356m）　（2,228m）

矢澤　節雄
深草　茂美

概　　要

山名		尾瀬ヶ原～至仏山		
月日		平成 16 年 10 月 1 日～10 月 2 日		
山域		尾瀬ヶ原	地形図	1/25000 尾瀬ケ原　至仏山
形式		山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2A
目的		20 周年記念山行		
費用		22000 円	交通機関	ＪＲ　バス
日程	1日目	我孫子駅 5:45→上野駅 5:14/6:42 新幹線（MaX たにがわ 401 号）上毛高原駅 7:53 無料送迎バス→鳩待峠着 9:30/9:55⇒山の鼻 11:20/12:00 尾瀬ヶ原散策⇒竜宮小屋着 13:50/14:15⇒山ノ鼻着 15:45 ＜歩行時間 4 時間 45 分＞		
	2日目	起床 5:00　朝食 6:00　山ノ鼻発 6:50⇒樹林帯通過 8:50 至仏山頂 10:30/10:45 小至仏山通過 11:45⇒笠ヶ岳分岐通過 12:20⇒鳩待峠着 13:45/14:00→竜宮旅館着 14:30 入浴 ＜歩行時間 6 時間 40 分＞		
ルート状況		・山の鼻を出発して森林地帯に入ると木道があり腐れかかったり、斜めの所や濡れて滑りやすい所を抜けると石の登山道所々に水がたまってのぼりにくい ・頂上近くになると木の階段が多くなり斜めになってる箇所が数か所あった。 ・頂上は登山者で大混雑。集合写真を撮るのに精一杯。少し下った所で小休憩。その間に登りの登山者が次々と登ってくる。早めに切り上げて下山、石が多くぬかるみあり登りの登山者すれ違いで苦労する。 ・笠ヶ岳手前あたりから楽に歩けるようになりようやく鳩待峠に着く。 ・１日目の行動は山の鼻から竜宮小屋間での往復で木道の近くの花を観察しながら往復であった。小生の感じでは草紅葉は例年と比較するとあまり綺麗でないような気がした、又廻りの木々は紅葉には１週間位早いように感じた。		
参加者		桐生(L)、高橋英(L)、高橋芳(SL)、本田、村越、大平、中村八、箕輪、矢野裕、石塚 男性 2 名　女性 8 名　計 10 名		

青春の思い出の尾瀬　ふたたび

矢澤節雄

「やまなみ」を担当するなら、「思い出の山」または「思い入れの山」をと考えている。昔の写真を眺め、今では音信不通になってしまった友の顔を思い浮かべ、その山旅を懐かしむ。また、深田久弥や田中澄江が、その山について、何を著しているかを読み、両者の比較をして楽しむ。そして新たなをこと知る。「花の百名山」「新花の百名山」では、至仏山・尾瀬沼・燧ケ岳でミズバショウについて記述されているが、挿絵の花は、アズマギク・ギョウジャニンニク・キンコウカである。尾瀬なら、ミズバショウと思うが、田中澄江の意図が分らない。もっとも、深田久弥は、桧枝岐小屋でギョウジャニンニクを腹一杯食べて風呂に入り夕暮れの山々を眺めたと著している。この偶然が面白い。

尾瀬は都合 6 回訪れている。最初に訪れたのは、1960 年 5 月下旬、5 月祭の全学休講の時である。この年の春休みに九州一周旅行をし、久住山や韓国岳を共にに登った友から誘われての 3 人の山旅である。まだ見たことのないミズバショウを求めて尾瀬に行く。夜行列車で沼田へ。三平峠から尾瀬沼に下る。運良く小船に乗せて貰い、尾瀬沼対岸の沼尻に渡る。途中、気まぐれに燧ケ岳の登頂にチャレンジしたが雪深く直ぐに断念した。そんな道草をしながら温泉小屋に着いたのは、日暮れ近くであった。直ぐに三条の滝を観に下る。大きな松の木にぶら下がり、日が暮れて、かすかに見える白い滝の豪快さに感激した。翌日「山の鼻」を目指し、尾瀬ヶ原を行く。今では、立派な橋が架けられているが、当時は、丸太の一本橋や一枚板のつり橋で、恐る恐る渡る。尾瀬ヶ原はまだ雪原であったが、雪解けの水辺には可愛らしいミズバショウが芽吹いていた。暗紫色のミズバショウを、これは変種だと思い、喜々として写真を撮る。ザゼンソウである。その後の山旅でも、何遍もミズバショウに出遭うが、その感激はだんだん薄れてくる。特に 8 月のミズバショウの大きくなった

葉は、雪解けに咲くミズバショウからは想像できない驚きであった。友が幅20～30ｃｍ程の一枚板を置いただけの木道を踏み外し、湿原に落ちた。ズボンを脱いで絞る姿を笑いながら写真に撮る。誰もいない寒い原での出来事である。山の鼻小屋では、枯れ枝で飯盒飯を炊く。生まれて初めての経験である。翌日、至仏山を目指すが霧が降りて来て怖くなり、直ぐに下山する。臆病なのに無茶をやる良き青春時代の思い出である。その後の尾瀬の山旅も、其々思い出があり、懐かしい。

尾瀬 6 回目に当る今回の記念山行は、燧ケ岳・至仏山の 2 山は厳しいかとも思ったが、50 数年前に訪れた三条の滝を再度見たく、また燧裏林道コースも初めてなので、このグループに参加した。

一日目、荷が重いキャンプ組が出発するのを余裕で見送りながら、御池で昼食を取る。途中の池塘を楽しみ、燧裏林道を進む。「予定では、三条の滝に行かないのですね。」と問うと、「行きません。」とリーダー。Y さんが「最近、三条の滝に行ったけど、昔と違って面白くないですよ」と言う。多少残念に思ったが、明日のためには、楽な段吉新道がよいと、自分を納得させて燧小屋に向う。

二日目、燧ケ岳を目指して見晴新道を登る。泥の悪路に悩ませられる。「柴安嵓」直下で、北川さんが笑顔で迎えてくれた。柴安嵓ではガスで見晴らし無し。隣の俎嵓には行かない決定に安堵する。キャンプ組を待つというやさしい眼差しの北川さんに見送られて下山開始。ニコニコ顔の外崎さんを先頭に登って来るキャンプ組に出遭う。彼らの足元の綺麗さにビックリ。我が組は皆泥だらけである。燧小屋で足元を洗うが、泥を除ける行為の無駄を悟る泥だらけであった。草紅葉と池塘を楽しみながら、山の鼻を目指し、滑る木道を行く。まだ泥が落ちていないズボンを見て、出遇ったガイドが「すごい戦果ですな」と言う。向から来る集団はどんな人達かと思った途端、足を踏み外して木道から転び落ちた。「濡れなくて良かったわね。若い人いなかったわよ。趣味なの」と O さんに言われてしまう。大学の友がずぶ濡れになったことを思い出した。

至仏山からみた尾瀬ヶ原、輝く

深草　茂美

三日目は 20 周年記念山行の最終日である。山の鼻小屋から至仏山を登り鳩待峠に出でる。鳩待峠からは、乗り合いタクシーで、戸倉竜宮館に向う。竜宮館では入浴後、20 週年山行記念親睦会に参加、その後チャータバスにて我孫子に向け岐路につくコースである。

朝の天気予報は、本日も昨日と変わらず雨が降ったり止んだりの予報であった。雨具を着用すべきか朝の身支度に迷う。曇り空であったが、雨具を着用し山の鼻小屋を出発した。30 分ほど登ったところで雨雲の中に入り雨に濡れた。森林限界を過ぎたあたりで雨雲を抜けた。至仏山山頂への登山道は、いたるところに、木道と木の階段が設置してあった。晴れた日は歩きやすいのだろうが、当日のような雨混じりの天候では足もとが滑り易く歩行に難儀した。しばらく歩いて山頂付近に到達すると雲が切れた。そして頭に雲をいただいた燧ケ岳と至仏山に挟まれた尾瀬ヶ原が見えた。雲間から顔をだした太陽に照らされ、尾瀬ヶ原の池塘がキラキラと美しく輝いていた。山々の紅葉は始まったばかりで、紅葉した木々が、紅葉を待つ緑の木の間に点在していた。紅葉については、ちょっと期待はずれだったが、至仏山から見た尾瀬ヶ原の景色は相変わらず美しい。至仏山頂から小至仏山頂の間は、登り下りのパーティーで混雑していた。行きかうパーティーを何度も待ち合わせながらの歩行となった。このあたりで中原山、会津駒ヶ岳、越後の山々が、薄っすらと展望が出来た。快晴であれば富士山まで見える筈だが残念ながら今回はそこまでスッキリした展望得られなかった。小至仏山頂からオヤマ沢までは、木の階段と、岩が濡れていたので、滑って転倒しない様に気を抜かず慎重に歩いた。それでも雲が切れ太陽が顔を見せていたので、遠くの山々が見とうせて気持ちよく歩けた。オヤマ沢の木道も濡れていたので、鳩待峠に出るまではやはり慎重に歩かざるを得なかった。しかし 3 日目は全行程コースタイム通りに、転倒者無しで無事鳩待峠に到着できた。鳩待峠からは乗り合いタクシーで戸倉の竜宮館へむかった。タクシー出発時間までは、洗い場の水道で、歩行中についた、スパッツと登山靴の泥落としに精をだした。

概　要

山名	燧ケ岳～至仏山		
月日	平成 26 年 9 月 30 日～ 10 月 2 日		
山域	尾瀬	地形図	1/25000 燧ヶ岳・三平峠・尾瀬ヶ原・至仏山
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	3B
目的	尾瀬の秋を楽しむ。 尾瀬の百名山 2 山に挑戦		
費用	28000 円	交通機関	東武・野岩鉄道・会津バス・シャトルバス・戸倉より貸切バス
日程 1日目	我孫子駅 5:42→北千住駅 6:31→会津高原尾瀬口駅 9:25/9:50(バス)→御池 11:35/12:05⇒上田代 12:35/12:40⇒ノメリ田代 12:55⇒天神田代 13:30⇒裏燧橋 13:45/13:55⇒三条ノ滝分岐①14:35⇒三条ノ滝分岐②15:30⇒燧小屋 16:10　＜行動時間　4 時間 5 分＞		
日程 2日目	燧小屋 6:00⇒尾瀬沼分岐 6:15⇒⑤1,900m地点 7:50⇒⑧2,158m地点 9:00⇒⑨2,200m地点 9:20⇒燧が岳山頂(柴安嵓)9:55/10:20⇒⑨2,200m地点 10:45⇒⑥2,000m地点 11:40⇒④1,800m地点 12:15⇒②1,600m地点 12:50⇒燧小屋 13:30/14:00⇒竜宮十字路 14:25⇒牛首分岐 15:10/15:20⇒山ノ鼻小屋 15:55　＜行動時間　9 時間 55 分＞		
日程 3日目	山ノ鼻小屋 6:25⇒中間地点 8:00⇒至仏山頂 9:40/10:00⇒小至仏山頂 10:55/11:05⇒笠ガ岳分岐 11:30⇒オヤマ沢 11:40⇒鳩待峠 12:45/13:05→竜宮旅館 13:30/17:15→我孫子駅 21:15　＜行動時間 6 時間 20 分＞		
ルート状況	・北側の為裏燧林道は木道が濡れていて滑りやすい。 ・見晴新道は登山道が田んぼ状態ですべりやすく、足の置く場所に苦労する。 ・刈り取った後の笹の根が少し伸びていて非常に歩きづらい。 ・尾瀬ヶ原の木道は良く整備されていて歩きやすい。 ・山の鼻からの至仏山への登山道は上り専門で、岩稜帯ではあるが下山者がいないので歩きやすい。 ・至仏山から鳩待峠への下山は、蛇紋岩ですべりやすく最善の注意が必要である		
参加者	田村(L)、矢野貞(SL)、大畠、中村育、矢澤、深草、小島、高橋富、横尾、小林安 男 2 名　女 8 名　計 10 名		



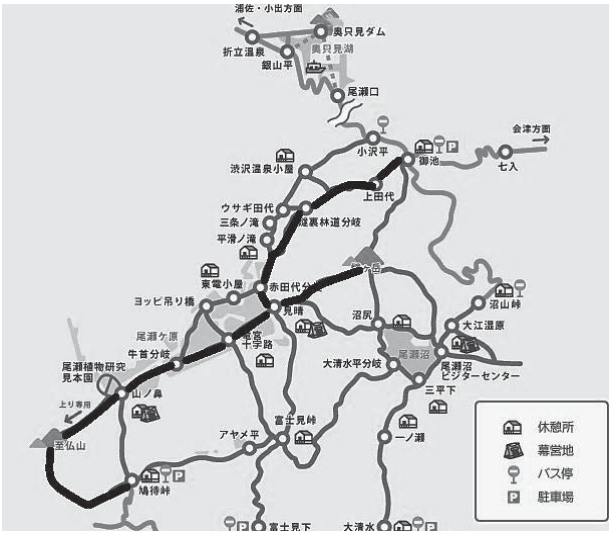
燧ケ岳山頂↑　　至仏山山頂





至仏山下山中
眼下に尾瀬ケ原一望

概念図



＜９６４＞２０周年記念山行

燧ケ岳～至仏山～アヤメ平
（2,356m）（2,228m）（1,969m）

武内　勇二

尾瀬の秋を楽しみ
１００名山２山に登る



20周年バンザーイ（燧ケ岳柴安嵓にて）

9 月 30 日早朝、北千住駅で会津田島行き直通に乗った。テント組は 7 名、一日遅れで出発する北川君とは明日燧ヶ岳頂上付近で合流することになるだろう。燧ヶ岳までは、小屋泊まり組（田村リーダー）11 名と、ほぼ同一の行程を行く予定。

会津高原尾瀬口で会津バスに乗り換え、尾瀬御池にほぼ定刻の 11 時 35 分に到着した。昼食を済ませ、小屋泊まり組に見送られ、11 時 55 分に出発した。御池田代手前で、燧ヶ岳登山コースを左に分け、小さな姫田代を横切り、大きな湿原の上田代に出た。湿原越しに平ヶ岳が遠望され、その左にあるでこぼこの山稜は八海山と思われる。横田代を過ぎたあたりで、ブナ研究家の坪田さんにばったり出会った。岳人あびこでも、5 周年記念の講演会や市民登山（カヤの平や奥裾花）などの講師をお願いしたこともあり、当会の古い友人でもある。この 8 月村松さんと共に、ブナ研究のため春から秋にかけてのみ会津若松に住む坪田さんを訪問して、志津倉山と在所平（朝日連峰）のブナ林を案内して貰ったばかりである。立ち話を交わしているうちに、後続の田村パーティに追い抜かれた。

裏燧の静かなブナ林を楽しみながら、小さく開けた天神田代からは燧ヶ岳の双耳峰を仰ぎみて先に進むと、シボ沢にかかる裏燧橋で休憩している田村パーティと再び合流した。

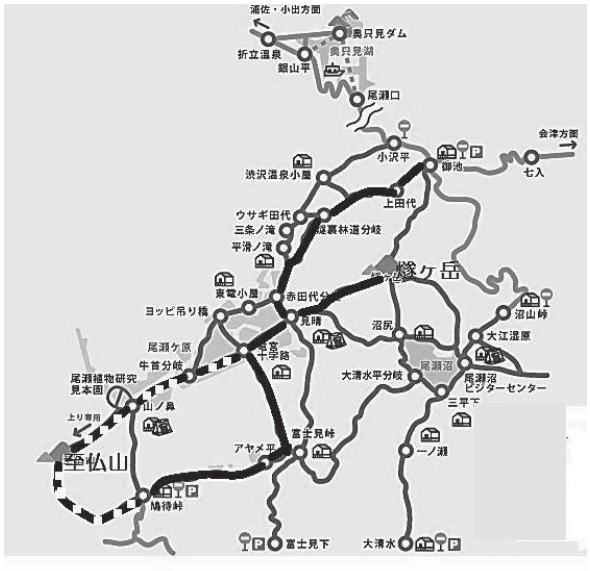
更にブナ林を行くと、三条の滝への分岐がある。出発時、三条の滝廻りで行こうという威勢の良い声が出ていたが、荷物の重さからかその声はここでは消え失せていた。高低差が少なく見通しも利かない段吉新道の単調さに飽きたころ、眼前が開けて温泉小屋の前に出た。ここは尾瀬ヶ原の端っこ、今日の宿営地・見晴まではあと 30 分ほどの道のりである。

見晴のテント場（下田代テント場）は国営のテント場、燧小屋が管理している。センターの一角に休憩スペースが設けられている。テント設営後、燧小屋でビールを買い、休憩スペースで早速乾杯、20 周年のお祝いと明日の燧ヶ岳登山の英気を養った。

翌朝、未明から降り出した雨は朝になっても降り続いていたが、幸いにもそれほど強くはない。雨具の必要はあるものの、予定に従い燧ヶ岳登山を決断した。見晴新道は 10 分ほど尾瀬沼への道を行き、道標に従い左に折れる。程なく土石流のため閉鎖されている旧道を左に分け、テープに導かれて今年 7 月に開通したばかりの（新）見晴新道に入った。笹竹は切り払われてはいるが根っこが残っており滑り易い。高度を上げるにつれ泥濘がひどくなった。靴が潜らない場所を選って歩を進めるが、限界がある。樹林の道で、展望は全くなくあまり面白くはない。標高差 100m毎にある標識を探しながら、ひたすら我慢の歩みが続く。標高 2156mと中途半端な標識を過ぎると山腹を巻くようになり、やがて開けたところに出た。廃道となった旧道との合流点の様だ。この辺りから樹相が変わり這い松などの低木となり、大岩のゴロゴロした急斜面の直登になる。登りの途中で、下山中の田村パーティに出会った。我々よりも 1 時間早く、6 時に小屋を出発したとのこと。北川君とは頂上付近で出会ったといい、我々の来るのを待っているという。エールを交換た。

程なくして、下山してくる北川君に出会った。暫く山頂に止まっていたが、寒くなって下山してきたとのこと。頂上まであと少しのところだったので、一緒に再度頂上に向かった。柴安嵓頂上には結構大勢の人が憩っていた。それも皆若い。中高年は我々以外見当たらなかった。さすが人気のある尾瀬の山と感心する。

概略図



昼食後、下山にかかる。また、泥濘の道かと気が進まないが、しようがない。テント場で会った大阪からの女性 3 人組は、泥濘道を回避すべく、長英新道を下りテント場へ戻ると言っていた。距離は大分長くなるので帰りつくのは遅くなるのは覚悟という。若い人のパワーが羨ましい。

2 時間ほど､泥濘と格闘して尾瀬沼分岐に降り立った。頂上からは 3 時間かかったが、悪路ということを考えればこんなものだろう。燧小屋の洗い場を使わせてもらって、靴の泥を落とした後、テントに戻った。明日の希望を皆に確認した結果、至仏山コースとアヤメ平コースの 2 コースに分けて行動し、鳩待峠に 1 時集合を目標とするために、起床 4 時出発は 6 時とした。

翌朝、予想外のことが起きた。テントの番号札が 1 個見当たらない。徹底的に探したということだが出てこなかった。燧小屋に紛失した旨謝り、許してもらった。それやこれやで、慌ただしく時間が過ぎたが、予定より僅かに遅れて、至仏山コース 4 名は 6 時 5 分に、アヤメ平コース 4 名は 6 時 10 分に出発した。番号札騒ぎが無ければ、もう 20 分は早く出発出来たろうが、起きたことは仕方がない。アヤメ平までは、昨年も歩いている。真っ盛りの紅葉に、感動した記憶がよみがえる。今回も龍宮小屋まで行き、長沢新道を経由してアヤメ平までは同じルートを行く。その後、鳩待ち通りを経由して鳩待峠へのルートを歩む予定とした。富士見田代まで約 500m標高差の登りはあるが、その後は殆ど下り道で、コースタイムは 3 時間 45 分、休み休み行っても　12 時には鳩待峠に着けるだろうとの目算だ。長沢の頭までは登り道だったが特に問題なかった。その後、緩やかな登り道となり富士見田代まで続く。木道が施設されているのは良いのだが、雨に濡れてとても滑り易くなっており、実際は 1 時間足らずだったが、随分長く歩いた感じがした。富士見田代で一服の後、アヤメ平に向かう。昨年、紅葉に染まる木々の見事なモザイク模様を楽しんだ道だが、うっすらと雲に覆われ、昨年ほどの見事さはなかった。

アヤメ平は、昭和 30 年代「天上の楽園」と呼ばれる人気コースで、当時は木道も整備されていなかったため、湿原に大勢の人が入り込んで裸地化したとのこと。昭和 40 年代から復元作業が進められ、今はきれいな湿原によみがえっているが、荒れた湿原の復興には 50 年の歳月がかかっている。後世に美しい自然を残すため、大事にしたいものである。雲がかかり、期待したアヤメ平からの展望は無かった。このコース最高点の中原山を過ぎ、横田代辺りからようやく雲が取れ、至仏山を大きく望めるようになった。頂上付近に僅かに雲がかかっているが、至仏山からは雄大な尾瀬ヶ原を展望出来ていることだろう。

再び樹林帯に入る。木道が濡れており、油断するとつるっと滑る。大抵は持ちこたえたが、1 回派手に転んだ。幸いにも怪我は無かった。12 時 15 分ほぼ予定通り鳩待峠に到着、至仏山を下りてくる仲間を待った。荷物と長丁場だけに予定の 1 時に合流できるか心配だったが、杞憂だった。ほぼ予定の時間に至仏山コースの 4 名と合流出来、トラブル無く記念山行を終えることが出来たのは何よりだった。



下田代湿原と至仏山

概　要

山名	燧ヶ岳～至仏山～アヤメ平			
月日	平成２８年９月３０日～１０月２日			
山域	尾瀬	地形図	1/25000 燧ヶ岳　三平峠 尾瀬ヶ原　至仏山	
形式	テント泊	グレード	3B	
目的	①２０周年を祝う ②尾瀬の秋を楽しむ ③尾瀬の１００名山２山に登る			
費用	16000 円	交通機関	東武、会津ﾊﾞｽ、連絡ﾀｸｼｰ、貸切ﾊﾞｽ	
日程 一日目	我孫子 5:42→北千住 6:04/6:31（東武快速）→会津高原尾瀬口 9:25/9:50→尾瀬御池 11:35/11:55⇒裏燧橋 13:50/13:55⇒三条の滝分岐 14:43/14:50⇒三条の滝から合流 15:37/15:45 ⇒ 見晴ﾃﾝﾄ場 16:15(泊) ＜歩行時間３時間４０分＞			
日程 二日目	見晴 6:55⇒尾瀬沼分岐 7:10⇒標高 1900m 地点 8:55/9:05⇒標高 2156m 地点 10:20/10:30⇒燧ヶ岳山頂 11:20/11:55⇒旧道(廃道)分岐 12:20⇒標高 2000m 地点 13:10/13:20 ⇒ 標高 1800m 地点 13:45/13:55⇒尾瀬沼分岐 14;50/14:55⇒見晴 15:10（泊） ＜歩行時間７時間＞			
日程 三日目	至仏山コース 見晴 6:05⇒山の鼻 7:25⇒至仏山⇒鳩待峠 13:05　＜歩行時間６時間＞ アヤメ平コース 見晴 6:10⇒竜宮小屋 6:40/6:50⇒長沢頭 8:20/8:25⇒土場 8:40/8:50⇒富士見池 9:25/9:35⇒アヤメ平 9:55/10:15⇒中原山 10:25⇒鳩待峠 12:15/13:30（乗合ﾀｸｼｰ）→竜宮旅館 14:10 ＜歩行時間５時間＞			
ルート状況	・燧ヶ岳見晴新道は、崩落個所を避けて新しく付け替えられたルートのぬかるみ状態がひどく歩くのに難渋した。 ・濡れた木道は滑り易くバランスを崩し転倒するケースが幾度となくあった。 ・見晴のテント場はトイレ・炊事場完備しており快適。(燧小屋が管理。利用料1人1泊800円)			
参加者	アヤメ平コース 武内(L)　村松　郷田　外崎 至仏山コース 北川(L) 北田　室崎 小林隆 男性7名　女性1名　計8名			

尾瀬ヶ原を歩く（坂巻班）





至仏山へ　難所を登る（高橋・桐生班）



燧ヶ岳下山（田村班）

御池を出発
（武内班）



＜９６５＞

森吉山・桃洞渓谷

（1,454m）

外崎　蓮

日本最高級の
ブナの紅葉を見に行く

心残りの山は残すまいと、今年思い切って森吉山の計画を立てた。麓の森吉町や阿仁町はマタギの里として知られている。当会では 2006 年にヒバクラ岳方面から一度だけ登られている。今回は現地を紹介している「NPO 森吉山ネイチャー協会」の情報を全面的に活用させてもらった。

10/8　一日中雨　　**またぎの里へ**

新幹線「こまち」が全席指定であることに気がついたのが出発の 3 日前。慌てて湖北駅に走り、立ち席を辛うじてゲット。上野から田沢湖駅まで 3 時間弱を、皆は通路にテントマットを敷いて凌いでくれた。そんな折り、トイレに立った見知らぬ男性が話しかけてきて、自分は父親が猟師で阿仁町出身だと言った。以前誰かの本で、猟師の世界の厳しい掟を興味深く読んだことがあった。田沢湖駅からレンタカーに分乗し、鉛色の水をたたえた田沢湖を左手に湖畔の道をしばらく走って、今度は国道 105 号線を北上した。途中道の駅で休憩。所変われば品変わるで、熊の肉が塊で売られていた。阿仁前田駅付近から十字路を右折し、秋田内陸縦貫鉄道の陸橋を渡って県道を東へと走る。森吉ダムの湖岸をしばらく走り、橋を渡った先から妖精の森キャンプ場へ向かう。ようやく探し出した管理棟は静まり返っていた。朝から降り続いている雨は止む気配がないので、管理人さんにログハウスの空き具合を聞いてみた。8 棟は埋まっているが、研修用の建物なら空いているという。直ぐにとびついた。引き戸を開けると、広いたたきの両脇に何やら物が積み重なっているが、板の間がきれいで 8 人が過ごすには勿体ないほどである。車から荷物を運びこみ、部屋を整えた。炊事棟とトイレが目と鼻の先にあり、これで一人一泊 1000 円也。夕食は矢野さんの献立で、きりたんぽ鍋のご馳走に舌鼓を打った。夜になって雨足は弱くなったが、ブナの木々が一晩中ゴーゴー唸り声をあげていた。

10/9　小雨一時曇り　　**満足度 70%の森吉山**

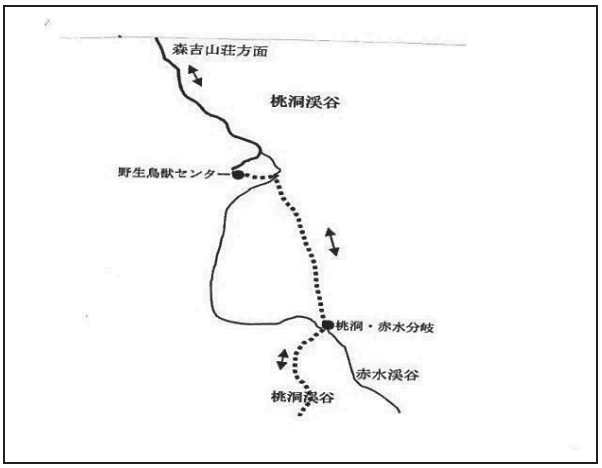
今日は、こめつがコースから森吉山に登る。どんよりした空模様の中、サブザックで出発。草深い林道を車で 4～5 分行くと、駐車場の上の方にりっぱな山荘が建っていた。中もきれいなのに人の気配がない。最近、管理人が不在になったらしい。人が住まないと荒れるというので、早く後任が見つかってほしい。山荘の裏手のカラマツ林を抜けると、旧スキー場のゲレンデに出た。ここを斜めに横切って、薄暗い登山道に入った。あとで知ったが、ほとんどの登山者はゲレンデを登るようだ。二つの道は六合目で合流した。ここから一の腰までがコース中で一番のがんばりどころ。沢が急な上、踏まれて角のない石が連日の雨でよく滑る。足元が湿っぽくなったころ、一ノ腰に着いた。小さなピークだが、このコース一番のビューポイントらしい。あいにく今日は、顔にへばり付くような濃いガスが立ち込めて辺りは真っ白である。目に霞がかかった感じだ。稜線を 30 分ほど行くと、右手に森吉山避難小屋と神社が出てきた。さらに 20 分行った先にも避難小屋があった。こちらは二階建ての小さな小屋だ。木道の両側には所々に池塘があり、花の時期はさぞ見事であろう。先頭を歩く私は、目の前に黒い物体が現れないよう、しゃかりきに鈴を鳴らした。山頂直下に来ると、急にミゾレが降り出し風も強くなってきた。山頂は強風が吹き荒れ、念願の標柱に駆け寄るのがやっと。集合写真を撮り 5 分ほどで退散した。阿仁避難小屋の前を通りかかると、大勢のツアー客が休憩していた。この後もゴンドラで上がってきた何組かのツアー団体とすれ違った。山頂の風が弱くなっているといいのだが。山門をくぐり、森吉山避難小屋で昼食。中はシンプルな作りで木の香りがした。50 人は泊まれるらしい。一の腰からの沢の下りでは、皆で代わる代わるよく転んだ。六合目からはゲレンデを下って、こめつが山荘を後にする。途中、管理棟に寄ってもう一泊の手族きをし、ついでにビールを仕入れる。ログハウスの我が家がポッと暖かく感じられるほど気温が下がっていた。夕食は今晩も矢野さんの献立でハヤシライス。とびっきり美味しかった。

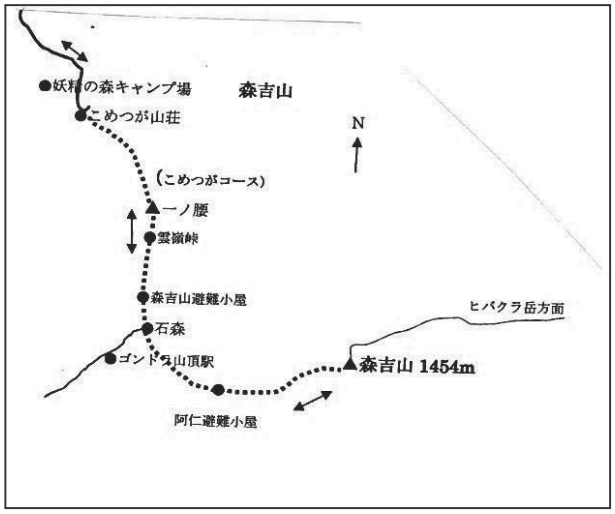
10/10　曇のち晴　　**桃洞渓谷の滝に見とれる**

さすがに今朝は雨が上がっている。朝食後、部屋を整頓し管理棟に挨拶に行った。今日は赤水渓谷の沢歩きである。レンタカーに分乗して森吉山ダムに戻り、湖岸を右手へ更に 1 時間走る。

途中、プチホテル風の洒落た森吉山荘で赤水渓谷の入口を聞いた。県道を右折して標識のない道をくねくねと下って行くとゲートがあり、そのわきに古ぼけたクマゲラ保護センターの建物があった。空き地に車を止め、赤水渓谷の入口を探してウロウロしていると、運よく作業用の車が通りかかった。駆け寄って聞くと、この山の裏に広い駐車場があるから、そちらから沢に入った方がいいと言う。教えられたように駐車場に向かうと、警官が待ち構えていて、昨日、赤水渓谷に入ったグループが遭難したもようで、駐車場は報道関係の車でごったがえすから、車道脇に止めてくれとのこと。こんな騒ぎでも行くのかと言いたげである。駐車場の下の野生鳥獣センターに寄ると、女性の職員が小走りにやってきて、声を張り上げて沢の道順を説明してくれた。センター前の沢には飛び石があったが、渡る自信がない。そこで標識通り古びた道を奥に進むと、何と先ほどのクマゲラ保護センターの前にやって来た。入口の看板もあった。先ほど、保護センターの前をもう少し進めば、この入口を探し当てたのであった。ぐるりと一周したことになり、皆で苦笑いしたが、お陰で遭難騒ぎを知ることになったのである。ブナ林のぬかるみと降り積もった落ち葉の道を渓谷に向かう。赤水・桃洞渓谷の分岐に来ると、警官が立っていた。今日は遭難騒ぎもあるので、赤水渓谷には入らないようにとのこと。そこで桃洞の滝を見に行くことにした。沢沿いの遊歩道をしばらく行くと、沢幅いっぱいに天然の堤防のような見事な横滝が現れた。雨後なのに水が澄み、両岸の色づいた木々が柔らかな光を浴びていた。遊歩道はやがて丸太を飛び石状態にして対岸に渡る地点に差し掛かった。飛び石が危ういことから決を採った。沢シューズに履き替えて対岸に渡りたい人が 4 人、ここで終わりにしたい人が 4 人。ところが終わりにしたい人の一人が沢シューズを履き出したので急に活気づいた。流れの優しい水の中は気持ちがいい。対岸を詰めると滝が二つ出てきた。そのうちの一つが有名な桃洞の滝である。一旦広がった滝が一つ所に吸い込まれるように滑り落ちていく。このような滝を見たのは初めて。滝見物のあとも水量の浅い沢歩きを楽しんで渓谷をあとにした。とき折り、ヘリコプターが頭上のブナ林の上にやってきては旋廻している。まだ見つかっていないのかも知れない。野生鳥獣センターの職員に戻ったことを伝え、阿仁前田駅に向かった。町が近くになってやっと電話がつながり、留守宅と我が家に無事を報告した。と同時に、例のグループが自力下山したことをスマホで知った。同じ趣味を持つ仲間として本当に良かったと胸をなで下ろした。阿仁前田駅構内で入浴し、一路田沢湖駅へ戻ってレンタカーを返す。来る時は立ち席だったので、いの一番に指定券を購入した。所定場所に収まって仙台へ。ここまでは良かった。仙台駅で乗換え時、車内アナウンスをしっかり聞いていた矢野さん唯一人が、隣の番線から定刻通りの新幹線に乗って行った。それとは知らずに 7 人は金魚の糞よろしく、階段をかけ下り、かけ上がり、停車していた電車に滑り込んだ。こともあろうに、誰かが所定の座席に座っていた青年を追い出してしまった。ふと車内の電光掲示板を見ると、持っていた切符と車両の番号が違っている。慌てて全員降り、後部の車掌室へ走った。彼女曰く「その電車なら少し前に出発しましたよ。自由席が空いていますから、そちらに乗って下さい」新幹線アレルギーになりそうである。

概念図





概　要

山名	森吉山・桃洞渓谷			
月日	平成 28 年 10 月 8 日(土)～10 月 10 日(日)			
山域	秋田県北部	地形図	1/25000 森吉山・大平湖・阿仁合	
形式	ログハウス泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ	
目的	①日本最高級のブナの紅葉を見に行く ②一枚岩の赤水渓谷を散策する　①			
費用	35,000 円	交通機関	ＪＲ、レンタカー	
日程 1日目	我孫子駅 5：31（常磐線快速）→上野駅 6：04/6：38（秋田新幹線こまち 1 号）→田沢湖駅 9：21/10：00（駅レンタカー）→県道小滝・阿仁線→阿仁前田→県道小滝・阿仁線→様田駐車場手前を右折→森吉山妖精の森キャンプ場の管理棟 12：30 着 ログハウス（物置同様）泊			
日程 2日目	ログハウス 6：30（レンタカー）→こめつが山荘 6：35/6：45⇒六合目 7：25/7：30⇒一ノ腰 8：20/8：30⇒雲嶺峠 8：40⇒前岳（森吉神社・森吉避難小屋）9：00/9：05⇒ゴンドラ乗り場分岐 9：15⇒阿仁避難小屋 9：25/9：35⇒森吉山 10：10/10：15⇒阿仁避難小屋 10：45⇒森吉避難小屋 11：05/11：45⇒一ノ腰 12：20/12：25⇒こめつが山荘 13：55→妖精の森キャンプ場 14：05 着 ログハウス泊 ＜行動時間：7 時間 10 分＞ ＜歩行時間：5 時間 45 分＞			
日程 3日目	ログハウス 5：40（レンタカー）→国民宿舎森吉山荘 6：40/6：45→くまげら保護センター6：55/7：10→車道に駐車 7：45⇒野生鳥獣センター7：50/8：00⇒赤水・桃洞渓谷の分岐 9：10⇒桃洞横滝 9：25/9：30⇒桃洞の滝 10：30/10：50⇒野生鳥獣センター11：40/11：55→森吉山荘 12：20→阿仁前田駅・クウインス森吉（入浴）13：00/14：00→田沢湖駅 15：40/17：14（こまち 28 号）→仙台駅 18：29/18：44（やまびこ 156 号）→上野駅 20：48/20：56→我孫子駅着 21：30 ＜行動時間：4 時間＞ ＜歩行時間：3 時間 20 分＞			

ルート状況	田沢湖駅→森吉山妖精の森 ・田沢湖駅前から湖畔の道を走り、国道 105 号線に出て 1 時間半程ひたすら北上する。秋田内陸縦貫鉄道・阿仁前田駅付近の十字路を右折し、小又川に沿って走る。間もなく四季美湖が現れ、橋を渡って対岸の様田駐車場手前から左折。阿仁前田駅から妖精の森キャンプ場まで車で 40 分ほど。 妖精の森→森吉山 ・妖精の森キャンプ場から少し戻った先の標識に従って右折。草深い細道の先に、今は無人のこめつが山荘と 20 台ほどの駐車場がある。こめつがコースは山荘の横から登る。 ・山荘の裏手にスキー場あとの原っぱが広がっていて、このまま登り詰めるコースと、原っぱを横切り、林の中を登るコースがあって 6 合目で合流する。 ・一ノ腰までは沢状の中のゴロゴロした石の道が続く。稜線に出るとパッと展望が開ける。 ・前岳には森吉山神社と避難小屋があり、裏手に奇岩の冠岩がある。ここから 20 分行った先にもう一つ避難小屋（阿仁）がある。木道の両脇には、小さな池が点在している。 ・阿仁避難小屋から森吉山山頂までは、疎林の整備された道を緩やかに登る。 妖精の森→赤水・桃洞渓谷 ・いったん四季美湖に戻り、四季美湖の橋を渡らずに右折。国民宿舎森吉山荘前を通過して間もなく右折し、ゆるい坂道を登る。標識に沿って進んだ先に森吉山野生鳥獣センターと広い駐車場がある。ここが赤水・桃洞渓谷の入り口。 ・ノロ川に沿った道は湿地帯で至る所に水溜りがあって歩きづらい。また細道があちこちにあり、迂回路があったりして迷いやすい。 ・赤水・桃洞渓谷の分岐でコースが別れる。赤水渓谷はここから川床に入って左手へ。桃洞渓谷は遊歩道を右手に進む。
参加者	外崎（L）、村松（SL）、武内、矢野裕、石塚、矢澤、北田、高橋富 ＜男性 4 人＋女性 4 人計 8 人＞



第一目標、一の越にて



↑横滝が綺麗です　　桃洞滝目指して　↓





桃洞左滝←　美しさに立ち止まる→



＜９６６＞

那須岳
（茶臼岳～朝日岳～三本槍岳）
（1,915m）（1,896m）（1,917m）

大平　太計夫

茶臼岳と朝日岳に登り
三斗小屋温泉で露天風呂

10/10（月・祝）

深田久弥が名著「日本百名山」で「那須連山の中枢部の茶臼、朝日、三本槍を所謂那須岳と見なしていいだろう」と記載している那須三座を企画し登頂しました。

紅葉が期待できる１０月で晴れの特異日である１０日から１泊２日で７名の参加者でした。

３連休の前半２日間は悪天候でしたが最後の１０日は雨があがりました。曇り空の我孫子駅から上野駅に出て国府津駅から上野東京ライン経由で来る快速ラビットに乗車。幸い空いていて９０分乗車で宇都宮駅。２分待ちで乗り換えて４０分で那須塩原駅へ。

西口のバス停発まで待ち時間５分なのでトイレは電車で済ませて頂き何とか那須岳登山口のロープウエイ山麓駅行きに全員着席できました。途中の黒磯駅では沢山の乗客が待っていましたが幸い臨時便が出ました。途中は順調に走行しましたが東北道の那須 IC との分岐信号以降は凄い渋滞となりロープウエイ山麓駅手前は道路の両側に駐車している車両がびっしりでバスもノロノロ。運転手が歩いた方が早いと言うので手前で下車し歩いて山麓駅へ。トイレを済ませ予定より１時間遅れで歩き出しました。

霧が出てきた緩やかな登山道を峰の茶屋まで歩きました。かなりの登山者で賑わっていて少し寒かったです。ここで休憩昼食としました。岩屑の歩き難い道を進み霧で見えないが噴煙の匂い漂う那須岳の鳥居に到着。看板前で記念写真後は来た仏道を朝日岳に向かう。鎖の岩場を通りザレ場を登ると朝日岳の肩だった。鞍部にザックを置き空荷で右手の山頂を目指した。朝日岳山頂は好展望なのですが霧で写真のみで鞍部に戻った。宿の女性露天風呂入浴時間は 16 時 30 分までなので少し足早に熊見尾根、隠居倉を越えて三斗小屋温泉へ下った。源泉の噴気孔を過ぎると程なく今宵の宿、煙草屋に到着しまし

た。

三斗小屋温泉には大黒屋と煙草屋の２軒があります。私は７月に大黒屋に宿泊しているので今回は煙草屋を選びました。大黒屋対比 500 円安く食事は大広間（大黒屋は部屋食）が違いますが大きな露天風呂があるので選びました。受付後、女性は露天風呂に、男性は狭い内風呂で熱い温泉を楽しみました。露天風呂は混浴で一日中入浴できますが15時からの1時間半のみ女性専用になっています。男性も翌早朝入浴しました。16 時 30 分、太鼓の合図で夕食です。１階の食堂で宿泊者全員が揃って食べます。食後には部屋でビールや焼酎で懇談し早めに寝ました。

10/11（火）

大峠～三本槍岳の紅葉を楽しみ
北温泉で入浴

早朝に温泉入浴し、６時半の朝食後大峠に向け出発しました。晴れて青空が見える絶好の登山日和です。途中、ブナ林とクマザサの道に赤岩沢、中ノ沢、峠沢の３箇所の渡渉がありますが飛び石伝いに渡れましたが増水時は困難と思われます。又、この間は熊の出没も多いとのことで笛や鈴を鳴らして歩行しました。

大峠は会津から関東への通路として会津藩主が開いた会津街道の要衝で可愛い石仏があります。この７月にはお客様をお連れしてお花畑の中を流石山から音金まで縦走しています。休憩後、福島県と栃木県の県境沿いの稜線を那須山塊最高峰の三本槍岳目指して登り始めました。標高差 467mの急登ですが樹木は殆どなくササやハイマツで視界が良く紅葉が陽に映えて素晴らしかったです。緑のチシマザサと錦の紅葉の写真を撮りながらゆっくりと歩き三本槍岳到着。峰の茶屋方面から来た登山者で賑わっていました。

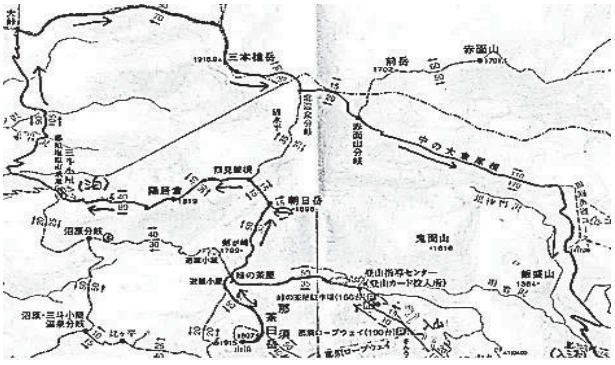
大展望を楽しみ一等三角点の山頂で記念写真を撮り休憩後は北温泉まで 837m の大下降です。登ってくる登山者とすれ違いながら清水平からは中の大倉尾根の下降です。ここからは行逢う登山者は少なくなりましたが紅葉は未だ早そうでした。整備されていますが金網の道は歩き難い。長く単調な道をひたすら下りスキー場分岐で昼食。ﾏｳﾝﾄｼﾞｰﾝｽﾞｽｷｰ場のゴンドラが動いていて散策中の方々もおりました。この辺はシロヤシオが多く咲くと見事だそうです。この先も熊が出没するとのことで笛や鈴を鳴らして歩きました。駒止めの滝の轟音が聞こえてくると北温泉は近いです。

北温泉は江戸時代に建てられた母屋と明治や昭和時代に建てられた３つの棟がレトロな雰囲気を作っていて湯治もできる低廉な料金の宿で源泉かけ流しの湯はとても温まります。今度は機会を作って泊まりたい宿です。ゆっくり入浴して約 30 分歩いてバス停へ。生憎満席で黒磯駅まで立ちんぼでしたが始発の快速電車にはぎりぎり間に合い談笑しながら上野駅経由で帰途につきました。紅葉と２か所の温泉で入浴でき皆様には喜んで頂きました。



茶臼岳山頂

概念図



概　　要

山名	那須岳（茶臼岳～朝日岳～三本槍岳）		
月日	平成 28 年 10 月 10 日(月)～10 月 11 日(火)		
山域	那　須	地形図	1/25000 那須岳、那須湯本
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的	・紅葉最盛期の那須連山を縦走する。 ・秘湯三斗小屋温泉に宿泊し、北温泉で入浴する。		
費用	19,000 円	交通機関	ＪＲ(快速)、バス

日程	1日目	我孫子駅 6:01→上野駅 6:34/49（快速ラビット）→宇都宮駅 8:18/20→那須塩原駅 9:05/10（バス）→ロープウエイ山麓駅手前 10:35⇒ロープウエイ山麓駅 10:45/55⇒峰の茶屋跡 11:50（昼食）12:10⇒茶臼岳 12:45/55⇒峰の茶屋跡 13:22/25⇒朝日岳 14:03/10⇒能見尾根 14:25⇒隠居倉 14:50/55⇒三斗小屋温泉・煙草屋 15:40(宿泊) ＜歩行時間：４時間３０分＞
	2日目	三斗小屋温泉 6:55⇒大峠 8:40/50⇒三本槍岳 10:35/50⇒清水平分岐 11:15（中の大倉尾根経由）スキー場分岐 12:18/12:40⇒北温泉（1080m）13:35/14:55⇒北温泉バス停 15:22/15:39→黒磯駅 16:34/39（快速ラビット）上野駅 19:10/19→我孫子駅 19:57 ＜歩行時間：６時間３０分＞
ルート状況		・三連休の最後の祝日で那須塩原駅～ロープウエイ山麓駅のバスが大渋滞で到着が６０分遅延し、終点手前で下車しロープウエイ山麓駅まで歩いた。 ・ロープウエイ山麓駅周囲の駐車場はもちろん路上も駐車がびっしりでした。 ・ロープウェイ山麓駅～峰の茶屋跡までは風の通り道で有名で私の山友が強風で飛ばされて亡くなっていますがそよ風で幸いでした。 ・終日霧で展望なく多くの登山者で峰の茶屋跡～茶臼岳は大混雑でした。 ・峰の茶屋跡～朝日岳～三斗小屋温泉は登山者少なく朝日岳の岩場も問題なく通過し露天風呂に入浴する為に少し早めに歩いた。 ・三斗小屋温泉～大峠間に３つの沢渡渉があるが水量少なく問題なく渡れた。 ・大峠～三本槍岳までの登りは 467m あるが紅葉が見事で写真休憩が多く歩みも滞りがちで楽しかった。行逢う登山者は少ない。 ・三本槍岳はさすがに大賑わいで大展望を楽しめた。 ・下山道の中の大倉尾根は標高差 837m の大下降でしたが整備された道でほぼコースタイムで歩けて北温泉でゆっくり入浴できた。
参加者		大平（L）、矢野貞（SL）、林、小島）、横尾、小林、新谷 ＜男性２名　女性５名　計７名＞



三本槍岳山頂



三斗小屋温泉、煙草屋



煙草屋・露天風呂



北温泉　天狗の湯



大峠のお地蔵様



沢の渡渉

＜９６７＞

乾徳山

（2,031m）

田嶋　まり

紅葉とスリリングな岩場楽しむ

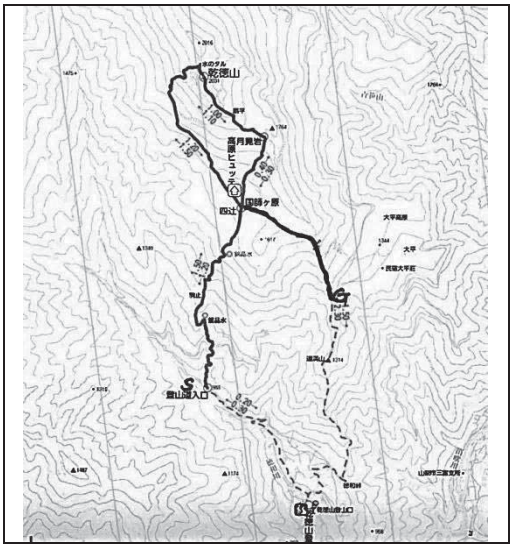
去る１０月１６日、「岳人あびこ」での初めての山行で乾徳山登山に参加させて頂きました。友人との山歩きの経験は５年ほどありますが、岩登りは初めて。果たして登れるかしら、そして皆さんの歩きについていけるかしらと不安を抱えて早朝家を出ましたところ、当日は久々の快晴に恵まれ、真っ青な秋空のもと、同行の皆さんのにこやかな笑顔に迎えられて、私はるんるん気分で歩き出すことができました。

石だらけで歩きにくい長い樹林帯を超え、やっと開けた扇平へ。歩行はゆっくりペースでしたので、まずまず皆さんに付いて歩くことが出来ほっとしたのもつかの間、登山道は終盤に差し掛かる頃から岩場が出現し、これでもかこれでもかと登らされ、最後は高さ２０メートルの覆いかぶさるような岩の壁！（後で調べましたら斜度は５０度だそうです。私には９０度に思えました）後ろからは北田さんと大山さんの「ゆっくりでいいですよ～、気をつけて登って下さ～い。」の声。ゆっくりって言ったって、どうやって登ればいいのか。最初はチェーンを握りしめ岩に張り付き、全身の力を振り絞ってよじ登る。そして足場を探しながら無理な格好をして思いっきり腕に力を入れて・・エイッ！そしてなんとか登頂！やったー！！　雲が多くなってきてはいましたが、山頂からは３６０度の絶景。富士山も雲から頭だけ出して私たちを見守ってくれていました。この達成感、爽快感は本当に格別でした。

翌日は身体の疲れはありましたが、不思議なことに時間が経つにつれ、気持ちも身体も前よりずっと元気になっていることに気がつきました。これは森林浴のお陰？山の大地の力？和気あいあいとしたグループ山行の力？　たぶん全ての力が私に元気をくれたのだと思います。

山登りを達成する度、自然の力が私に小さな自信を与えてくれているような気がします。これが山に登りたいという気持ちの原動力になっているのでしょうか。これから岳人あびこの皆さまに色々教えて頂きながら山行が出来ることをとても楽しみにしています。まだまだ何もわからない未熟者ですが、どうぞ宜しくお願い致します。

概念図



概　　要

山名	乾徳山		
月日	平成 28 年 10 月 16 日(日)		
山域	奥秩父前衛	地形図	1/25000 川浦
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	紅葉とスリリングな岩場を楽しむ		
費用	5,450 円	交通機関	ＪＲ・タクシー
日程	我孫子駅5:33→新松戸駅5:47/5:50→西国分寺 6:47/6:55→ 高 尾 駅 7:21/7:26→ 塩 山 8:44/9:00(タ ク シ ー)→ 乾 徳 山 登 山 口 9:15/9:20⇒銀晶水10:07⇒駒止10:25/10:32⇒錦晶水11:05⇒国師ヶ原11:15/11:27(トイレ)⇒扇平(昼食)11:58/12:20⇒⇒乾徳山山頂13:25/13:35⇒扇平14:33/14:35⇒大平P 分 岐 15:15 ⇒ 登 山 口 15:28 ⇒ 大 平 荘 着 15:40(タクシー)→塩山駅16:25/17:51(反省会）塩山駅17:51→高尾駅→西国分寺駅 →新松戸駅→我孫子着21:08 （歩行時間：5時間30分）		
ﾙｰﾄ状況	道標がポイントごとにあって迷うことはなかったが、登山道の一部が岩と落ち葉でわかりにくいところがあった。また、下山道は林道を何度も横切る部分があり、そこの部分が少しわかりにくかった。		
参加者	村越(L)、北田(SL)、高橋英、大山、矢澤 室崎、小島、蟹江、田嶋 男５名、女４名、　計９名		



扇平



岩場登り



乾徳山山頂



マムシ草

＜９６８＞

平標山～仙ノ倉山～三国街道

（1,984m）（2,028m）

高橋　芳恵

紅葉の谷川を楽しみ
古の旧街道を訪ねる

1 日目

紅葉真っ盛りの谷川、平標山～仙ノ倉に登り古の旧三国街道を訪ねた。越後湯沢の新幹線駅は閑散として駅横にあった日本海の魚の店はいつの間にかなくなり、周囲はシャッターが目立つ。湯沢がこれだから、地方の衰退はどこへ行っても感じられる。待つこともなくバスに乗り、平標登山口で下車した。同行 5 名と人数が多いので割引の回数券を求めたが運転手さんが『内緒にしてね』というような話をした。合計で 400 円の割引。平標へは今日の予定の松手山コースの他、平元新道と平標新道がある。松手山登山口から木の階段が続き、急坂をぐんぐん上っていく。少し高度を上げる毎に紅葉の山が広がり、皆で『きれいねー』と声を上げ、疲れを知らずに 1 時間歩き鉄塔の地点に到達した。苗場山は雲が覆っていたが周囲の紅葉は素晴らしい。H さんから高級な上用饅頭が配られ、温かいお茶とおいしいお饅頭で何よりも豪華な自然の中で秋の喫茶となった。「だから女子隊は好きよ」。松手山で昼食としたが山々の錦繍の素晴らしさは例えようもない。紅葉は緑があるからこそ映えるのだ。平標山までには幾重にも山が重なり、最後には山頂に続く階段を上り 4 時間かけ到着した。思った以上の結構な歩きであったが登り始めから我がグループ以外誰もいない完全貸し切の贅沢な山行であった。仙ノ倉は霧の中だったため皆さんに『仙ノ倉はどうします?』と尋ねると『行きます！！』と二つ返事。頼もしい女子隊の皆さんです。小屋到着が 4 時過ぎるため小屋に連絡すると『行ってらっしゃい』と気さくな女将さんの元気な声に励まされた。約 1 時間で仙ノ倉到着。夏はお花畑でどれほど美しいかと想像する程の草原の中で笹原がビロードのように美しい。広い山頂で思いっきり万歳！ここは新治村とのこと。再び平標山に戻り山の家に 16 : 40 に到着した。途中の笹原と白樺と紅葉のコントラストの素晴らしさは例えようがない

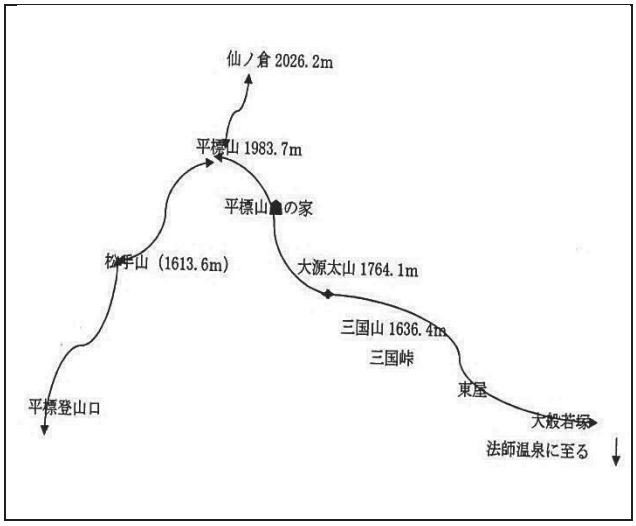
ほどでこの感動を小屋の女将さんに話すと『あれ―そー』と意外な反応だった。毎日絶景を見ていると当たり前になるようである。小屋は私たちだけで火の気のない炬燵に足を伸ばし、自宅にいるようなくつろぎがあった。この夜、Ｉさんは『寝床の中で月の光がまぶしかったとのこと』何たる贅沢なことか。

2 日目

平標山の家には今までに数回訪れているが、いつも清潔で気持ちの良い小屋である。沢水をくみ上げ常に流れるほど水があるのもうれしい。後でわかったことだが管理人の山口さん夫妻は猿ヶ京近くの永井宿の方であり、10 月末で冬に備え小屋締めをする予定とのことである。朝食後、たっぷりとした素敵なマグカップでおいしいコーヒーをいただき 7 時に出発した。昨日の霧はすっかり晴れ上がり、昨日登った平標山、仙ノ倉から谷川主脈の山々がしっかり見える。大源太山からは万太郎、谷川岳に連なる山々の展望を楽しんだ。今日のコースも昨日に増して素晴らしい紅葉！　三角山、三国山分岐から三国峠に下った。こちらは急な階段が続き、ここで初めて４～５名の登山客に出逢った。これだけの豪華さを昨日から我われ５名で謳歌できたことに感謝した。真下に三国峠の社が見えるほどの急な階段だった。三国峠は古来、平安初期、坂上田村麻呂が東北征伐をした時からの峠であり、弘法大師、上杉一族　良寛などの著名人の碑が残されている。ここから旧三国街道を関東に向かって下る。街道だけあり歩きやすく紅葉の中を快調に進んだ。時折、昔をしのぶ説明があり、「長岡藩の藩士が罪人を護送中、雪崩に会い藩士が８名遭難した」「ある日の記録によると長岡藩の奥方が江戸の向かった総勢５７０名程の一行であった」「戊辰戦争で、会津藩と官軍が戦った跡を大般若塚とした」など昔日に思いを馳せるにはもってこいの古道であった。今回は法師温泉の日帰り湯が休みということもあり、永井宿に下ることにした。途中の街道をイノシシが道を掘り返し、こね返した道となったが、宿まで1.8ｋｍの地点で熊が 4～5 匹 20～30ｍ先を横切ったのに遭遇した。先頭の私は最後の 1 匹のみ見かけたが、発見者の 2 番手のＨさんはしっかり確認したとのこと。地元のバスの運転手からも今年の熊の遭遇の多さの話を伺った。翌日の新聞でも「熊と遭遇したら」の特集があり、今年は熊遭遇数が過去最高とのこと。ブナの実の不作だけでなく、里の高齢化、人口減少で動物が里の中や近くまで出てくるようになったのだと実感した。永井宿からは水上村営バスで猿ヶ京温泉に出て、かけ流し温泉でゆっくり過ごし、関越バスで上毛高原に出たが両バスとも乗客は我グループだけの貸切りで3000 円のカードで 4300 円分使用でき、1300 円安くなった。これでは田舎のバスがますます廃止されるのではないかと心配しながら旅を終えた。これからも是非路線バスを利用し守っていこうと固く決意をしている。

地元地域の皆様、いろいろお世話になり、ありがとうございました。

概念図



概　　要

山名	平標山～仙ノ倉山～三国街道			
月日	平成 28 年 10 月 18 日～ 10 月 19 日			
山域	谷川	地形図	1/25000 三国峠	
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	３Ｂ	
目的	紅葉の谷川を楽しみ、古の旧街道を訪ねる			
費用	19,000 円 (ジパング)	交通機関	ＪＲ、新幹線、バス	
日程	1 日目	我孫子 5:42→上野 6:42(Ｍａｘ谷川 401 号)→越後湯沢 8:06/8:20(バス)→平標山登山口 9:00/9:10 ⇒ 鉄塔 1010/20 ⇒ 松手山 11:40/12:00⇒平標山頂 13:15/25⇒仙ノ倉 14:45/15:00⇒平標山頂 16:00/10⇒平標山の家 16:40　<(歩行時間　約 6 時間 30 分>(行動時間　7 時間 30 分)		

	2日目	平標山の家 7:05⇒大源太山分岐 8:00⇒大源太山 8:20/30⇒三角 8:55⇒三国峠 11:05/30⇒東屋 12:05/30⇒大般若塚 13:10/20⇒永井宿 14:35/15:17(バス)→猿ヶ京温泉　まんてん星の湯(入浴・反省会)15:30/17:18(バス)→上毛高原 17:44/46→上野駅 18:54/19:03→我孫子駅 19:35　<歩行時間　約 6 時間 30 分> (行動時間　7 時間 30 分
ルート状況		・平標山登山口のトイレが改修中で仮設が設置してあった。松手山登山口は 5 分にある。木の階段が続き危険個所はない。 ・平標山から仙ノ倉の往復は広い草原の中を歩き夏は高山植物が楽しめる ・大源太山から谷川主脈の展望が楽しめ紅葉も素晴らしい ・三国峠までは急な階段が続き、旧街道は歩きやすいトレイルとなっている ・般若経塚から永井宿まではイノシシが掘り返した道で途中、熊ファミリーが横断するのを見かけた。
参加者		高橋芳(L)、桐生(SL)、本田、中村育、石塚 女性 5 名



静かで穏やかな平標山頂　↑



谷川最高峰仙ノ倉山(2028m) 広々とした頂上

＜９６９＞

谷川岳
（1,963m）

新谷　直惠

紅葉と霧氷の巌剛新道

新幹線を水上駅で降り、上越線に乗り換えて土合駅で下車。１駅手前から列車は深い地下を走り抜け、降りると改札口まで４８６段続く階段にはほんとうに驚いた。まさに日本一地下深いモグラ駅だ。エレベータもエスカレーターもないのは乗客のほとんどが谷川岳を目指すからと思われる。これでウォーミングアップはバッチリねと互いにねぎらい合う。

谷川岳登攀ルートはいくつかあるが、今回はそのひとつ巌剛新道から登る。リーダーの選択理由は、マチガ沢沿いに登るため、その風景に登攀のきつさも癒されるだろうということだった。

だが、マチガ沢出合いまで来てみると天気予報ははずれて空は暗く、山上は雨雲に覆われて見えない。戻って天神尾根から登ることも検討されたが、戻る時間を考慮すると予定通り登った方がいいということになった。登り始めるとやがて小雨が降ってきたが、ときどき雨雲が消えてつかぬまの青空に大きな虹がかかった。

一本道をひたすら登ると、クサリのかかる岩場が増え、西黒尾根と合流するラクダのコルまで来ると、尾根を渡る雨風が激しくなり、山を這うように姿勢を低くしてひたすら登る。１メートル先が見えないので、岩に記された黄色のマークを探しながら進んだ。

ようやく到着した肩の小屋では、ご主人があたたかく出迎えてくれ、食後もストーブを前にして谷川にまつわるいろいろな話をしてくれた。外の風の音は夜通し強く、小屋はそのたびに揺れた。外にあるトイレに行くのが一苦労だった。

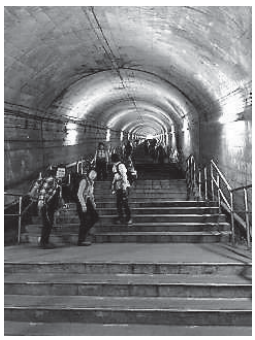
翌朝も風の音で目がさめた。目を凝らして外を見ると真っ白で何も見えない。山頂からご来光を拝む予定だったが、しばらく小屋にとどまり様子を見ることになった。先発隊が戻ってきてから、私たちも８時過ぎに山頂を目指す。昨日までの紅葉の世界は、一瞬にして一面霧氷の世界に様変わりしていた。山頂で深い霧が一瞬

晴れると、向かい側の山肌に丸い虹がかかった。ブロッケン現象だ。それも１０数回続き、これまで見たことのない幻想世界が出現したのである。感動のあまり歓声があがる。さすが山人の多くが目指す谷川岳だ。

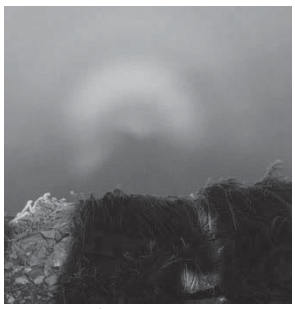
下りは天神尾根を降りる。目の前の群馬県側の山は最後の紅葉に赤く燃えている。昨日の厳しさがまるで夢のようで、その足どりの軽さに底知れぬ喜びが湧いてくる。日本海側と太平洋側の分岐点に立つ山故に、両極面の天候を味わうことになったが、女性５人の山行が無事遂行されたことに大きな喜びがあった。また、この山行は生涯忘れないだろうと思った。

トマの耳山頂の岩も霧氷



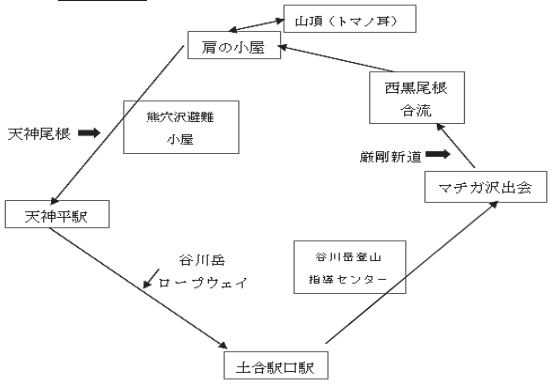


日本一長い 486 段
のモグラトンネル



－3℃の谷川岳

概念図



概　要

山名	谷川岳		
月日	平成 27 年 10 月 23 日～10 月 24 日		
山域	谷川連峰	地形図	1/25000　水上
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B
目的	谷川岳山頂から紅葉の展望を楽しむ		
費用	11,000 円	交通機関	ＪＲ・バス ・ロープウェイ
日程 1日目	我孫子 5:31→上野 6:04/6:14 (とき 301 号) →高崎 6:58 /7:10→水上 8:14/8:24（JR 上越線長岡行→土合駅 8:33/9:00⇒10：00 マチガ沢出会い⇒(厳剛新道)⇒ラクダのコル(西黒尾合流地点)13:00⇒肩の小屋 15:00 ＜歩行時間約 5 時間 30 分＞		
日程 2日目	肩の小屋 8:20 ⇒山頂トマノ耳 8:30⇒肩の小屋 8:50/9:10 ⇒天神尾根⇒天狗の留まり場 9:50 ⇒10:35 熊穴沢避難小屋 ⇒谷川岳ロープウェイ天神平駅 11:30 →土合口駅 12:20→バス→水上駅⇒松葉屋ホテル(入浴)⇒ 水上駅 14:57→高崎 16:00/ 16:15(あさま 622 号) →上野 17:16/17:24 →我孫子 18:00 ＜歩行時間約 2 時間＞		
ルート状況	・厳剛新道は、道迷いするところはなく一本道。鎖場が 2 か所ほどある。西黒尾根との合流後は岩場が多いが、黄色で登山道はしっかりマーキングしてある。 ・鎖やロープも設置されているが岩の手掛かりを探した方が登りやすかった。		
参加者	齊田(L)、外崎、新谷、石塚、小島 女 5 名		



霧氷で輝くナナカマド

＜９７０＞

鳥首峠～蕨山
（1,044 m）

中村　育子

奥武蔵の眺望と紅葉を楽しむ

この５月、会の仲間５人で行った蕨山が素晴らしかったので秋にまた来ようと話題になった。木を切り払った見晴らしの良い尾根を、春の光を浴びながら歩いていると気持ちが明るく弾み、良い汗をかきながらの快適な山行だった。

それではと、紅葉のベストシーズンを飯能市観光課に問い合わせた。１１月３日ごろが最適期とのこと。参加者 14 人で、飯能駅から白岩登山口までタクシーに乗る。鳥首峠までは植林の中。鉄塔まで登るがまだ日があたっていない。休憩するとおいしいお菓子が回ってきた。たくさん食べたら体が温まった。西は秩父、東は伊豆ヶ岳方面がよく見える。が、寒いので日差しのあるところまで急ぐ。

この日、関東一円は小春日和。風のないポカポカ陽気だった。申し分のない快適な天気のうえに、遠方の山々も紅葉が始まって美しい。しばらくきれいな紅葉と秩父の山なみを楽しみながら歩いてゆくと、春には新緑だった山々が一変してきた。山の稜線をススキが席巻し、一面のススキの原になっていく。ススキの穂が太陽の光を浴びて白く輝き、風に揺れる。秋風がさやさやと体を吹き抜けてゆく。するとみんな無口になってきた。秋は人を感傷的な気分にさせるのか。ススキの風景に日ごろ賑やかな人も次第に寡黙になり、黙々と歩くご一行様になった。

しかし、参加者の足並みは力強かった。アップダウンの尾根道はほとんど休憩なしに橋小屋の頭（有馬山頂）まで一気に歩いた。逆川乗越で昼食。果物や漬物等の差し入れをいただく。そして蕨山山頂へ。山頂は４、５メートル登ると「これが本物の蕨山１０４４m」と書かれた朽ちた標柱があるだけだった。拍子抜けする。その先の展望台には「蕨山１０３３m」と書かれた立派な標柱がたっている。景色が一望できて素晴らしい。山頂が複数あるのは、この辺一帯を「蕨山」と呼ぶからだということだ。

さて下山、期待の紅葉はここから始まる･･･はずだったが、ガイドブックの「落葉樹の美しい道」を下る間、紅葉は全くなかった。期待が大きかった分、みなの落胆も大きい。本田さんや大畠さんも「３週間は早かったわね」と、慰めとも何ともつかぬ言葉をかけてくださる。金比羅神社跡からは鳥居観音の道を下った。

運慶橋バス停はさわらびの湯バス停の一つ前なので、全員座ってゆくことができた。バスは満員のまま飯能駅に１時間かかって着いた。

この日は飯能祭りだった。駅近くの中華料理店は登山客で一杯。人手不足の店員さんに代わり、室崎さんがラーメンや餃子を運んでくれたおかげで楽しく、賑やかな反省会になった。



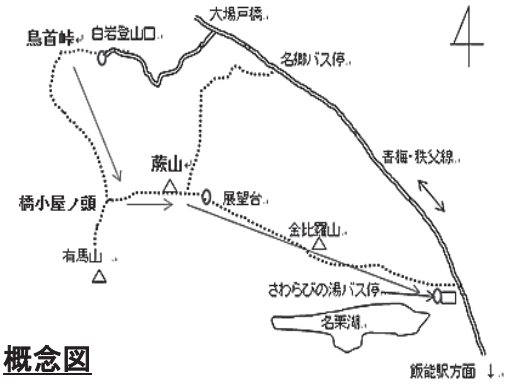
展望台の蕨山（1033m）


↑「本物の蕨山 1044m 」と書いてある標柱


快適な尾根歩き　奥の山は両神山

有馬山山頂（1063m）





概念図

概　　要

山名	鳥首峠～蕨山		
月日	平成２６年１１月５日(土)		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000 原市場　武蔵日原
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２A
目的	奥武蔵の眺望と紅葉を楽しむ。		
費用	5,000 円	交通機関	電車、バス、タクシー
日程	我孫子駅北口 5:31→日暮里駅 6:01/6:09→池袋駅 6:22/6:30→飯能駅 7:24/7:35(タクシー) →白岩登山口 8:20/8:30⇒鳥首峠 9:40/9:55⇒滝入ノ頭 10:35⇒ヤシンタイノ頭 10:55⇒橋小屋ノ頭(有間山) 11:15/11:20⇒逆川乗越 11:40/12:10⇒蕨山(1044ｍ) 12:20/12:25⇒展望台 12:35/12:40⇒藤棚山 13:05/13:10⇒大ヨケノ頭 13:40/13:45⇒小ヨケノ頭⇒金比羅神社 14:40/14:50⇒連慶橋バス停 15:30/15:33→飯能駅(反省会) 16:35/17:54→池袋駅→日暮里→我孫子駅 19:57 ＜歩行時間約 5 時間 50 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・登山道はよく整備されて危険箇所はない。(鳥首峠からの稜線はやせ尾根。悪天候時には要注意) ・白岩登山口からの樹林帯で熊を見たという情報あり。 ・小ピーク多く、アップダウンの繰り返し。 ・「蕨山」の表示は、目立たない小ピーク１０４４ｍ地点と明るい展望台１０３３ｍ地点の二箇所にある。 ・「金比羅神社跡からの下山は、運慶橋バス停(鳥居観音方面)の道は急斜面だが、さわらびの湯バス停コースより１０分ぐらい短縮できる。		
参加者	中村育(L)、本田(SL)、北田、林、小島、高橋富、室崎、高橋英、大畠、桐生、深草、小林安、蟹江、田嶋 計 14 名　(男 5 名、女 9 名)		

＜９７１＞

鬼ヶ岳～十二ヶ岳
(1,738m)(1,683m)

小林　安代

富士山の展望、岩稜歩き

今日の天気は、昨日の雨と寒さから打って変わって、小春日和の予報。早朝、男性三人と私の四人で大月駅に到着。村松さんが前日に得た観光協会の情報によると、毛無山からの十一ヶ岳～十二ヶ岳のコースは急降下してキレットと最低暗部でアルミの吊り橋の辺りが凍結して危険とのこと。リーダーと先輩方の判断で急遽十二ヶ岳岩稜歩きのコースから鍵掛峠～鬼ヶ岳～十二ヶ岳山頂、山頂から十二ヶ岳登山口に下山するコースに変更。

大月駅からタクシーで、西湖の端の魚民荘から少し入った鍵掛峠登山口である四所神社前でタクシーを下車。そこは古民家と火の見櫓の間から覗かせる富士山が絶景な場所。ここで山行前のウォーミングアップと深呼吸。

整備された林道を歩き始めて急登になった頃、村松さんが冷えのためか腰痛を発生してリタイア。残念ながら、河口湖駅で待ち合わせる約束を交わし、ここから三人でつづら折りの急坂を登る。

ブナ原生林を抜け鍵掛峠で昼食。眼下、西湖の眺めはよいが裾野を引いた富士山は雲の上に頭だけ出している。全貌が見えなくても霊験あらたかであり、気持ちも上向きになる。また気温も上がってきてぽかぽかしてきた中、アップダウンを繰り返し、緊張しながらの岩場と稜線歩きを楽しむ。

鬼ヶ岳山頂はパノラマがひろがり清々しい。北には、八ヶ岳や奥秩父の山々が眺められ、西側には頭に新雪の南アルプスが展望でき、冬の気配を感じる。

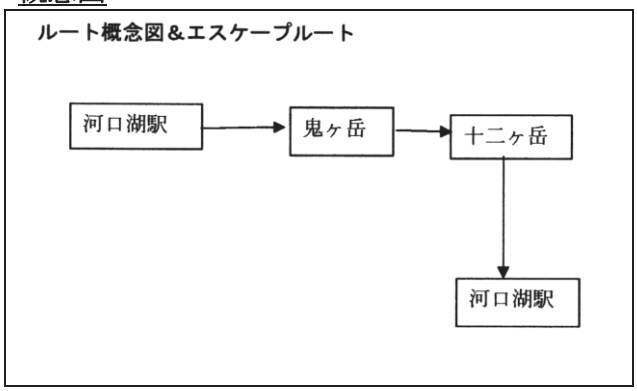
金山の分岐から節刀ヶ岳を往復する予定を時間短縮の為、割愛。十二ヶ岳山頂直前の岩壁は、垂直に近く湿っていて逆層で滑り易い。縦横に張られているロープが頼りで慎重を要する一番の難所である。懸命に登りつめた十二ヶ岳山頂は、広くはないが石で造られた古い祠があり数人の登山者が休憩をとっていた。西湖が真下に見え、足和田山の上には富士山が顔を出してい

る。素晴らしい眺望を楽しみながら、持ってきた柿を頬張り立ち休憩をした。下りは十二ヶ岳山頂からすぐの下山コースを辿り、桑瑠尾の分岐を過ぎ、急勾配を急ぎ足で十二ヶ岳登山口バス停に向かう。

河口湖駅で合流する村松さんを思いながら、十二ヶ岳登山口バス停から循環バスに乗車して河口湖駅に行くと、観光地らしく沢山の外国人をはじめ観光客でごったがえしていたが、すぐに村松さんに再会できた。四人で無事を喜び富士山特急の電車に乗り、大月駅経由で帰路に着いた。

村松さんがリタイヤされたのはとても残念でしたが、お天気に恵まれ展望良く、富士山に見守られながら無事に山行ができ、感謝の一日でした。

概念図



概　要

山名	鬼ヶ岳～十二ヶ岳		
月日	平成 28 年 11 月 12 日(土)		
山域	富士周辺	地形図	1/25000 河口湖西部
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	富士山の展望、岩稜歩き		
費用	6,000 円	交通機関	JR,富士急、タクシー
日程	我孫子駅 5:33→新松戸駅 5:50→西国分寺→高尾駅 7:21/7:26→大月駅（富士急）8:15/8:21→河口湖駅（タクシー）9:40→登り口（四所神社）10:00/10:10⇒鍵掛峠 11:35/11：55⇒鬼ヶ岳 13:00/13:15⇒金山 13:40/13:45⇒十二ヶ岳 14:25/14:40⇒十二ヶ岳登山口（バス停）15:50/16:05→河口湖駅 16:40/16:48→大月駅 17:36（反省会）19:06→我孫子駅 21:40 着 ＜歩行時間約 6 時間>		

ﾙｰﾄ状況	・鍵掛峠から十二ヶ岳のルート上は所々岩場があり注意が必要です。 ・十二ヶ岳頂上手前の垂直に近い岩場の登りは最大の難所と思われます。ロープが垂れていますが、岩が濡れており慎重に確実に足場を確認しながら登る必要があります。
参加者	北川（L)、村松（SL)、武内、小林安 男性３名　女性１名　計４名

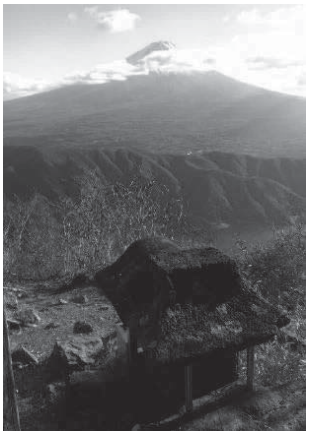


十二ケ岳の頂上

鍵掛峠登山口　根場(ねんば)



↓十二ケ岳の頂上より富士山





十二ケ岳の
岩場に挑む

＜９７２＞

杓子山 ～ 鹿留山

（1,598m）　（1,632m）

矢野　裕子

雲に隠れる富士
麓舞うハンググライダー着地に見入る

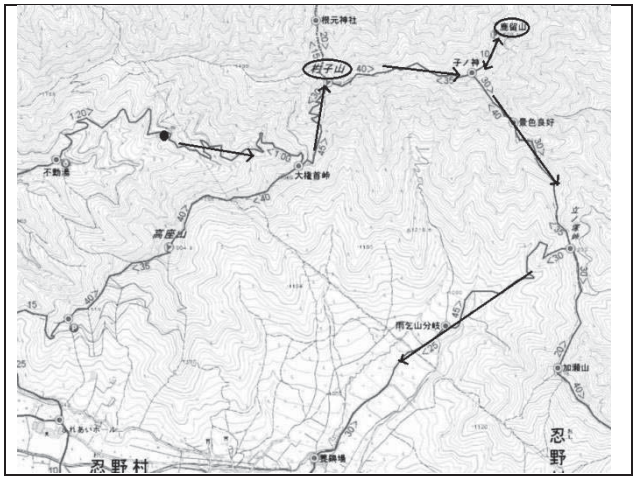
富士山展望の山である杓子山は、今までの会山行でも一回きり。登山口までが遠いためだろう。富士急の下吉田駅からタクシー4 台で不動湯奥のゲート近くに着いたのは、家を出てからちょうど 4 時間後だった。杓子山へのコースは高座山経由が多いようだが、今日は短縮できる不動湯からのルートだ。前日の天気予報は芳しくなく迷った末、決行した。しかし、朝から小雨がぱらついて空はどーんと雲に覆われていた。本当に残念。

ゲートの先は、幅広い林道を経て尾根に登り着いたところが大ザス峠だ。ここは展望が開けていて、ハンググライダーの離陸地点である。この日も、白とオレンジの翼のグライダーがフワフワと気持ちよさそうに飛行して、遥か麓で小さくなって着地するのを皆でじいっと見入ってしまった。その後辛抱して急登を上ると山頂に出た。広場には鐘があり、富士の絶景ポイントだが、今日は冷たい風が強く吹いているため、早々に子ノ神へ向けての尾根を辿る。途中風のないところで、昼食をとった。子ノ神から直ぐの鹿留山はミズナラやブナの巨木の山頂だった。ここで20 人近くのツアーパーティと一緒になりその後、二十曲り方面への急降下が大渋滞となってしまった。大声で足の置き方を注意している団体のグループに比べて、当会メンバー16 人はいつも通り慎重にスムーズに難路をこなすのが、実に頼もしい。前のパーティのガイドさんが、待たせて申し訳ないと随分気を使ってくれた。やがて静かな立ノ塚峠に着き、林道へ折れて内野バス停へまっすぐに歩く。私は夏に来た時の、このバス停までの一本道の正面にずうっとそびえる、親しみ深い富士が気に入った。忍野村は観光地だけにバス便もあちこちにあり、ちょうど時間遅れで通ったレトロバスに乗れた。おかげで新宿直通のホリデー快速に間に合い、帰路はのんびり大変助かった。



杓子山山頂にて

概念図



概　要

山名	杓子山～鹿留山		
月日	平成 28 年 11 月 23 日(木)		
山域	富士周辺	地形図	1/25000 富士吉田
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	富士山展望		
費用	6,000 円	交通機関	JR、富士急、タクシー、バス
日程	我孫子駅 5:33→柏駅 5:39→新松戸駅→西国分寺駅→高尾駅 7:21/7:26→大月駅 8:14/8:21→下吉田駅 9:00/9:05(タクシー)→不動湯奥ゲート前 9:25/9:40⇒大ザス峠 10:25/10:35⇒杓子山 11:15/11:25⇒子ノ神手前(昼食)12:00/12:20⇒鹿留山 12:35⇒子ノ神 12:50⇒立ノ塚峠 14:10/14:20⇒内野バス停 15:10/15:25→富士山駅 15:50/16:08→東京駅 18:28→我孫子駅 19:06 ＜歩行時間：約 5 時間 30 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・上りの大ザス峠手前までと下りの立ノ塚からは、林道歩き。 ・子ノ神からの下りは急勾配だが特に危険箇所はない。		
参加者	矢野裕(L)、大畠(SL)、村越(SL)、武内、箕輪カ、本田、新谷、大山、渡辺、林、小島、北田、小林安、蟹江、吉沢、箕輪完(ゲスト) 男性 5 名、女性 11 名　計 16 名		



鹿留山山頂のブナの巨木と一緒に



急坂渋滞の下山路



晩秋を艶やかに彩るまゆみの実



落ち葉の絨毯を踏んで



杓子山山頂の鐘

＜９７３＞

鍋割山
（1,273m）

田村　光子

念願の鍋焼きうどんで幸せ気分



渋沢駅からタクシーで西丹沢県民の森まで行く予定であったが、タクシーの運転手さんから「途中通行止めで西丹沢県民の森まではいけないかも」と言われ、行ける所まで乗せてもらうと言うことで出発する。途中にある病院の所で降ろされ、40 分の林道歩きとなった。県民の森から二股までは林道で紅葉を見ることが出来た。二股で名物のペットボトルを各自 1 本リュックに詰め、2 回ほど渡渉をして登山道に入る。後沢乗越まではじぐざぐに歩きやすい登山道を上る。乗越から鍋割山に行く途中、木の枝越しに真っ白な富士山を見る事が出来た。12 時前に頂上に着き、早速鍋割うどんを注文する。何分も待たずに全員の分が出来上がり、あつあつのうどんを食べる事が出来た。何回か鍋割山には来ているが、やっと念願のうどんを食べることが出来、幸せな気分になりました。

鍋割山から小丸・大丸にいく尾根はブナの林が広がっていて、気持ちのいい尾根歩きができ、木々の葉が落ちているので相模湾も見ることが出来ました。金冷シからは大倉尾根を下るが、木と石の階段や石がごろごろした急坂で歩きずらくいやになる。登山道には 3，4 軒の山小屋があり、トイレも綺麗で休憩しながら下る。下山するにつれ周りのもみじの紅葉がめだってきて、疲れた体を癒してくれた。この時期にしてはめずらしく 1 週間前に降った雪がいくらか残っていて初冬の雰囲気であったが風もなく穏やかで、日没前にバス停に到着出来、1 日楽しい山行がで

きました。ありがとうございました。

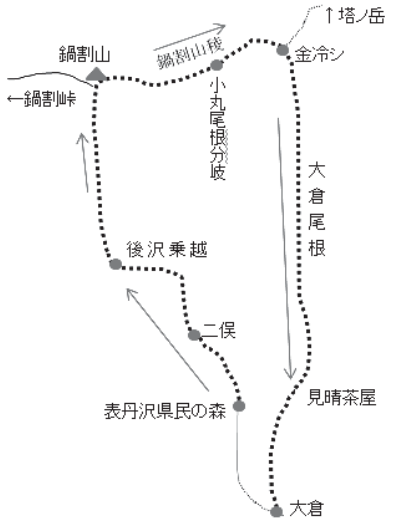
本日のお目当て
「鍋焼きうどん」



概　　要

山名	鍋割山			
月日	平成２８年１１月３０日（水）			
山域	丹沢	地形図	1/25000　大山　秦野	
形式	日帰り		ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
目的	晩秋の山歩きを楽しむ。			
費用	約3700円	交通機関	電車、ﾀｸｼｰ、バス	
日程	我孫子駅5:34→代々木上原駅6:42/6:43→渋沢駅 7:53/8:15（タクシー）→みくるべ病院 8:25/8:30⇒表丹沢県民の森 9:10/9:20⇒二俣 9:45⇒後沢乗越 10:45/10:50⇒鍋割山 11:55/12:40(昼食・鍋焼きうどん)⇒小丸尾根分岐 13:20⇒金冷シの頭 13:45/13:50⇒堀山の家 15:00/15:05⇒見晴茶屋 15:50/15:55⇒大倉バス停 16:35/16:52(バス)→渋沢駅 17:10(反省会)18:12→代々木上原 19:21/19:23→我孫子 20:37 ＜歩行時間約６時間４５分＞			
ルート状況	・登山道はよく整備されている。標識もしっかりあって迷う所はない。 ・一週間前に降った雪はほとんどなかった。 ・大倉尾根は木と石の階段が延々と続く。膝を痛めないよう歩きたい箇所。 ・表丹沢県民の森への林道は、タクシー利用の場合、みくるべ病院まで。			
参加者	中村育(L)、大山(SL)、田村、桐生、村越、蟹江、矢野貞 男性１名、女性６名　計７名			

概念図



＜９７４＞忘年山行

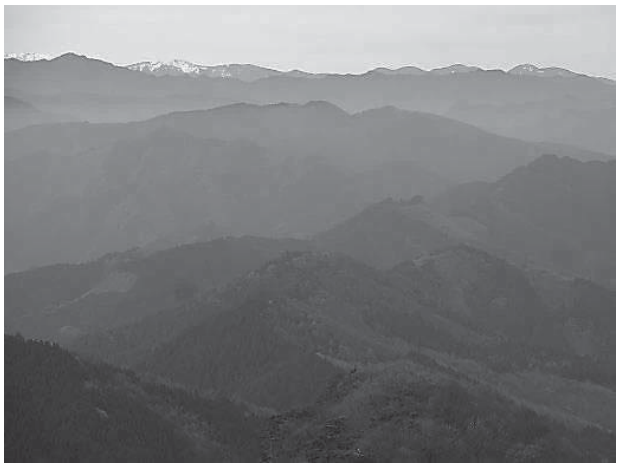
城峯山
(1,038m)

吉澤　こう
やまたんより転載

山頂の眺望　パノラマの広がり
懇親会　スライド上映で１年振り返る



冬桜の宿「神泉」にて



山頂は360度の素晴らしい展望

冬桜を訪ねて　楽しい１日過ごす

吉澤こう

忘年山行で城峰山へ、頂上での３６０°見渡せる展望台は大パノラマ、秩父や奥武蔵の山々、遠くには浅間や八ケ岳、日光連山、筑波山が見えました。

この日はお天気にも恵まれて、山行には丁度良い気候でした。紅葉も少しあり、落ち葉の中

を歩いての登山、足の下でのカサカサ、サクサクの音を聞きながら心地よい気分できつい登りも軽やかに登れました。

下りは落ち葉の下にある石や枝に足を取られることもありましたが、川の水が流れる音、風の音を聞きながらの下山も風情があり良かったです。

林道に出たら桜の花が咲いていて、みんなで眺めたり写真を撮って懇親会場へ、お風呂とおいしい食事をいただきながらの山行報告の映像は良いところばかりで花の美しさにも心をひかれ、これからの山行の参考となり、語っている方々の山を愛する熱い思いが伝わってきました。

庭には桜の花が咲いていて楽しい日を過ごさせていただきました。下見や会場の準備等大変なことをして下さった方々には感謝します。

ありがとうございました。

＜各リーダーのメモより＞

持参のスライド、バスで映せず残念

総合リーダー：矢澤節雄

・バスの AV 装置の操作方法を運転手が知らず、持参した資料を映すことが出来なく残念であった。
・予定のタイムスケジュールで山行が終了した。

きれいな写真で１年振り返る

総合リーダー：矢野裕子

・食担係だった新谷さん、齊田さんと 9 月に付近のキャンプ場を見て回り、BBQ を諦めて「神泉」に決めた。
・写真提供：大山さん他、映像編集：矢澤さんのおかげで、きれいな写真を見ながら今年を振り返ったのが忘年会らしかった。

A班

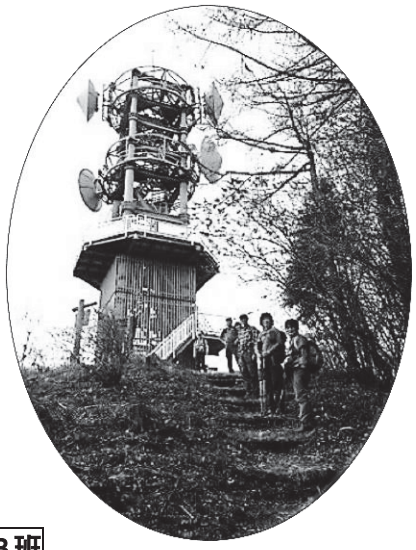


山頂にて

３６０度展望の山頂と冬桜の宿

A班リーダー：中村八重子

・晩秋の静かな山は、紅葉も登山者も数える位だった。
・石間峠には東屋とトイレ、路肩に数台の駐車スペース有り。
・城峯山の頂上は、電波塔が展望台を兼ねている。上るとおもてなしの山岳展望 360 度の大パノラマでした。
・冬桜の宿「神泉」はおもてなしの宿でした。三波石を使ったお風呂、確認忘れました。



頂上展望台

B班



山頂にて

秩父のやまなみ楽しみながら昼食

B班サブリーダー：武内勇二

・門平バス停から、鐘掛城を経て城峯山に登り、神川町の登仙橋バス停に下る道が「関東ふれあ
いの道 将門伝説を探るみち」として整備されており、今日はそのルートを辿る。
・西門平バス停で、鐘掛城跡への道標に従い林

道に入る。舗装はしてあるがいきなりの急坂に戸惑う。程なく林道と分かれ山道に入る。鉄塔で休憩中の A 班と落ち合った。鉄塔からも急な登りで、ペースを一定にゆっくりと登る。先行する A 班は見え隠れしていたが、やがて視界から消えた。

・鐘掛城跡（鐘掛峠）は、登山口から標高差約600m 登った小高い山のテッペンにある。山頂部はそれ程広くなく、小さな山城だったのだろう。木々が育っていて見晴しは良くない。急な木の階段を注意しながら下り、小さなピークを巻くと石間峠の分岐に出た。



頂上まであと一息

・城峰山頂には展望台（電波塔）がある。ここからの眺めは 360 度遮るものはない。東西南北それぞれに山名入りの看板が掛けられていた。看板を見ながら展望を楽しんだ後、城峰神社に下り、社の縁側に座って、両神山を正面に秩父のやまなみの展望を楽しみながら昼食をとった。

・林道を経由して石間峠分岐に戻る。峠から 5 分ほど林道を下ったところで、道標に従い登仙橋へ向かう山道を下る。宇那室バス停付近で待機中のバスに乗車し、懇親会場に向かった。車窓からは冬桜が咲いているのが見えた。



ちょっと休憩

C班

落ち葉踏みしめ、のんびり歩く

C班リーダー：外崎蓮

・ゆっくり、のんびりとおしゃべりをしながら、落ち葉を踏みしめて歩く心地よさを充分に味わいました。

・展望台からの 360 度の眺めに感激しました。この一年の締めくくりにふさわしい山だと思いました。

・趣向を凝らした懇親会は、マンネリ化を破る意味でも良かったと思います。



山頂にて



お賽銭あげたの？



懇親会の会席料理　おいしかった！



スライド説明中

概　　要

山名	城峯山		
月日	平成２８年１２月４日(日)		
山域	秩父	地形図	1/25000 皆野
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	一年の締めくくりを楽しむ		
費用	9,500 円(懇親会含む)	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場前 5:40→(外環・常磐道・関越)→関越道花園 IC→西門平登山口 8:20/8:30⇒鐘掛城跡 **【A 班】**9:55⇒石間峠 10:10⇒城峯山 10:25/10:35⇒城峯神社城峯山キャンプ場(昼食)10:50/11:20⇒石間峠⇒宇那室バス停手前 12:55/13:10→ **【BC 班】**岩間峠 10:20⇒城峯山 10:45/11:00⇒城峯神社 10:20 ⇒城峯神社 10:45/11:00 **【C 班】**キャンプ場（昼食）11:10/40⇒石間峠 ⇒宇那室バス停手前 12:55/13:05→ **【B 班】**キャンプ場(昼食) 11:20/11:35⇒石間峠⇒宇那室バス停手前 12:55/13:05→ 冬桜の宿「神泉」13:30/16:15→関越道本庄児玉 IC→我孫子駅北口 19:30 ＜歩行時間　約４時間＞		

ﾙｰﾄ状況	・西門平入り口まで、中型バス（28 人乗り）、ぎりぎり乗り入れ出来る。入り口の先の町営バス終点で、U ターンできる。大型バスは、ホイルベースが長いので無理である。 ・林道から鉄塔 23 号に向う登山道は、林道沿いに戻る鋭角方向の坂道を登る。（鉄塔 23 号への表示あり） ・鐘掛城跡～石間峠間のピークは、見晴らしが無く、巻き道を行くことを薦める。 ・トイレは、石間峠とキャンプ場にある。 ・城峯山頂上にある電波搭の展望台の眺望は 360 度あり、必ず登ることを勧める。 ・石間峠から下り、林道から登山道に入る入り口の標識は、林道端の奥まったところにあり、見落とし易いので要注意。（下山道は、入り口は急なので、林道からは気付かない。） ・下山道は、打ち枝が多く足元に注意が必要、また渡渉 4 箇所あり、雨天時は、往路を戻ることを薦める。(↑矢澤) ・送電線手前の林道に出たところは登山道が二手に分かれる。左回りの直登を選ぶ。 ・鐘掛城と石間峠を経て城峯山頂までは、歩きにくい丸太の階段が多い。 ・下山の石間峠から宇那室方面への登山道入口が分かりにくかった。(↑中村八)
参加者	Ａ班：中村八(L)、桐生 SL)、矢野裕(総Ｌ)、郷田、林、北田、田島 Ｂ班：高橋英(L)、武内(SL)、本田、齊田、石塚、渡辺、吉澤 Ｃ班：外崎(L)、大畠(SL)、矢野貞、中村育、矢澤(総Ｌ)、大平、小林安 男性 7 名　女性 14 名　計 21 名

概念図



＜９７５＞

西丹沢・檜洞丸

（1,601m）

大山　冬臣

冬枯れの日没山行



石棚山稜近く檜洞丸を背に

西丹沢は幕府直轄のいわゆる“天領”であったためにお金になる杉や檜などの植林を行うことが出来ず、今日まで素晴らしい雑木林が手つかずに残され、その見事な自然林、山頂部のブナ林に覆われた豊かな自然が評価され国定公園に指定された、と云われています。

丹沢山麓名物の４月に咲き始めるミツマタ〔三椏〕の黄色い花の群落から一斉に淡い新緑と共に山野草が咲き始めます。５月になると西丹沢の代名詞にもなっているシロヤシオを筆頭にツツジの類いからミネザクラ等々の花が山腹から尾根筋を彩って呉れます。

丹沢山塊の最高峰・蛭ヶ岳の名の謂われが“蛭”の存在を示していますが、梅雨時の登山では要注意となります。夏は気持ちの好い清流を遡行する沢登りがお勧めですが・・・。

全山雑木林の西丹沢の秋は１０月中下旬をピークに徐々に艶やかな紅葉が山頂部から山肌を降りて、年によっては１１月の中旬くらいまで山麓の紅葉を愉しむことが出来ます。特に人気が高いのが玄倉から入る「ユーシン渓谷」です。渓谷を彩る紅葉、そして澄み切ったユーシン渓谷の清流、滝、たくさんの隧道を抜ける都度変わる景色、、真っ赤に真っ黄色に染まった楓の落ち葉が林道を覆っています。

そして冬、西高東低の気圧配置の厳冬であっても神奈川県に位置する関係で雪が少なく、“こもれび”とフカフカの“落葉”を踏みしめての登山を愉しむことが出来ますが、一度降った雪は根雪になり、４月頃まで雪山を愉しむことも出来ます。山小屋は檜洞山頂近くの青ヶ岳山荘が予約を入れておくと入山して食事も用意してくれますので是非、ご利用下さい。立派な避難小屋も畦ヶ丸の麓に、犬越路にも設置されています。

湘南の夜景は塔ノ岳が特に有名ですが青ヶ岳山荘からの夜景もなかなかです。

そして冬のお勧めはナンと云っても“霧氷”です。霧氷は雑木林に咲く霧の冬の贈り物です。気温が下がり、霧が発生すると霧は雑木林の枝に凍り付き、気象条件によって厚く生長して真っ白に雑木林を染め上げます。そして圧巻は、霧が晴れて快晴に恵まれるとため息の出るような素晴らしい青空を背景にした一面の真っ白い霧氷の森に大変身します。私の最も好きな西丹沢の冬景色です。霧氷の命は短く、早いものは半日で、長くても二日くらいで散ってしまいます。霧〔湿気〕と気温の低下こそが生命です。青空の下、ハラハラと散る霧氷の花も又、見事です。

残念ながら、今山行では気温が高く期待した霧氷を見ることは叶いませんでした。



丹沢山塊最高峰蛭ヶ岳

成田線新木駅、東我孫子駅から各々１名、我孫子駅から３名の計５名乗車、北柏駅から３名乗車、計８名の皆さんが揃い、真っ暗な中、都心を抜けて代々木上原で乗り換え。ウイークデー山行の長所は静かな山行が愉しめること、欠点は下り電車であっても東京に続く大都市の横浜、川崎方面への通勤、通学時間帯なので確実には坐れないことを何回か経験。そんな経験を踏んで、小田急線の最後部に乗ればほぼ確実に坐れることを先輩の皆さんが気がつき、アドバイスして呉れた。小人数の山行では確実に約１時間坐って行くことが出来たが、今回は８名の大人数で心配、案の定、奥様方が多くて慌てず騒がず、乗換えがゆっくり、仲間同士で一緒に坐れる坐席を探している内に坐れない方が２

名、途中交替を考えている内に有難いことに早々に下車する方が現れ全員着席出来、ホッ。車両が別れているので秦野駅下車を徹底。相模大野辺りで漸く明るくなった。車窓に大山はじめとした丹沢の山々が見え始めた。

１２月の山行は一年の内でも特に日が短いので、明るい内に下山できるように路線バスでなく、レンタカーの利用を検討してみた。路線バスは山北駅や谷峨駅などに立ち寄り、更に丹沢湖の奥の玄倉集落まで立ち寄るので登山口の西丹沢自然教室到着が遅いのが欠点で、これを解決するため、もうひとつは他の山行では下山後の入浴が楽しみであったが、西丹沢では適当な施設があってもバス便が悪く利用することが出来なかったので、レンタカーを利用することでこの二つの問題を解決して、更に登山口出発時間を早くすることによって日没山行を避けることが出来るのではないかと考えた。

今回のメンバーで、私・大山と田村、高橋芳の三名は今回のコースは何度となく登っているので万一、日没山行になっても余り心配をしていなかったが、それでも明るい内に下山することを最優先したかった。結果的には路線バス利用よりも３０分ほど早く西丹沢自然教室に着くことが出来、先ずは成功！の筈であったが生憎の空模様で、本降りになってしまい、西丹沢自然教室の係の方に登山申請書を提出すると共に今日の空模様を確認すると首を傾げながら「我慢の一日ですね・・・」だった。小降りになるのを待ってカッパの上下を着用し、ゴーラ沢出合まで様子見に出発。途中で雨はやんだ。丹沢名物のミツマタの花の蕾が雨に濡れて銀色に輝いているのが見事だ。緩やかな径でゴーラ沢に到着。前日の雨にも関わらずゴーラ沢の水量は並みで徒渉点も快調に渡ることが出来た。気温が予想以上に高く、衣類の調整を行う。雨も上がったのでもう少し上の展望園地まで目指すことにする。展望園地で下山ならば日没山行を避けることは出来る。いきなりの急登であったが、本田さんがトップで濡れた落葉を気持ちよく踏みしめながら登る。展望園地は生憎、展望もなく富士山を見ることも出来なかった。日没山行を避けるためには此処で下山することがベストではあったが、空は青空が覗き始め、富士山の７合目辺りまでは見えるようになって来ていた。SL の北田さんはリーダー一任、他の皆さんは好転しつつある空模様を見ながらランプも持参しているので登りたい・・・の意思表示に思えた。日没山行を避けるためにピッチを上げることも考えたが、私も含めて高齢者の多い我がパーティは体力的に厳しく、それよりも日没山行を覚悟してゆっくり登ることの方が無難であり、この時間帯とピッチならゴーラ沢の徒渉は明るい内に渡れそうで、明るい内にゴーラ沢を徒渉することにポイントを絞ることにして山頂を目指すことにした。檜洞丸のツツジ新道は急坂が続くので、登りよりも下りが厳しいが、段差を注意して最大限ゆっくり慎重に下れば大丈夫だ。ランプが直ぐに取り出せるように指示し、登り始めた。展望園地からは傾斜が緩やかになり、空も明るくなってきたので確りとした力強い足並みを感じた。木道が続くようになると直ぐに山頂であった。山頂からはひときわ高く蛭ヶ岳が仰がれた。此処よりも７０ｍほどしか高くないのに随分と高く感じる。

全員にこれからのポイントを確認する。日没山行になるのは間違いないので、いつでもランプが取り出せるようにしておく、急坂が続くので急ぐ必要はない、ゆっくり慎重に安全に下ることを第一とし、傾斜が緩やかになったところではチョットピッチを上げる、先頭は私・大山がそのスピードを調整するので付いて来て欲しい、いつもヘロヘロしている私がいつになく厳しい確認をするので皆さんもチョット緊張気味かな？全員が確りした足取りで付いて来て呉れた。大笊、小笊、犬越路の稜線に斜陽が当り、日暮れを告げている。私がピッチを上げないのに安心したように付いて来て呉れている。このピッチなら大丈夫だ。展望園地は休憩無しでパス。時々立ち止まり、給水と深呼吸を取った。薄暗くなってきた頃、瀬音が聞こえ始め、やがて沢が眼下に見えてきた。更に慎重に声を掛け合い、注意点を指示し合いながらゆっくりと下った。ゴーラ沢からの梯子が現れた。先に降りて徒渉点の確認を行う。徒渉点で待機し、全員が集まるのを待った。留守宅本部の大畠さんに連絡するが圏外で不通、既にヘッドランプを付けている人もいたが、此処で全員がヘッドランプを着用する。徒渉が終わり、緩やかな尾根の山腹を捲く径に入る頃には真っ暗になった。漆喰の闇に浮かぶ七ッのヘッドランプが揺れている。心配して下さった大畠さんからの電話が受信できた。状況報告だけ行い、詳細は下山してからにする。山腹から登山口に続く沢への急な径を更に慎重に下る。林道が近づいて来たようだ。林道を走る車のライトが見えるようになった。一斉に声が挙がる。一気に緊張感から解放される。林道の右端を一列になって歩く。時々

車が我々を追い抜いて行った。

初めての日没山行を経験した皆さんが殆どだったが皆さん、落ち着いて協力して呉れて唯々、感謝しかなかった。ご来光を見るためにも、早朝出発の山行等にヘッドランプを利用する山行は決して珍しいことではない。折に触れてヘッドランプを使う山行経験を積んで欲しいと願った。



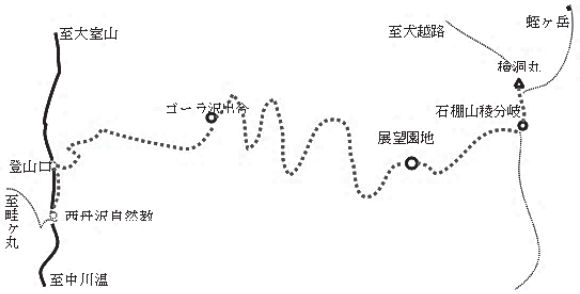
山頂近く周囲5mの大木の洞

西丹沢自然教室はトイレ周りだけが電気が点いていた。全員の乗車を確認して出発。シートベルト未着用のコールがなり、暫く下ったところで待避場に入り、シートベルト着用、再び道に出ようとしたところ、不注意で縁石を乗り越してしまった。そのまま走っていると妙な音が聞こえだした。近くの待避場に再び車を寄せて確認すると左後輪がパンクしていた。直ぐにニッポンレンタカー秦野営業所に連絡、状況説明を行う。先方からこちらからレンタカー会社の事故対応部門への連絡、ロードサービスとの状況確認、事故証明を取るための警察への連絡指示があり、それぞれに連絡と確認を行う。ロードサービスのタイヤ交換はプロとは云え、実に鮮やかで正味１５分程度で終わってしまった。

分担して連絡や確認を行ったが、通じたのはdocomoだけ！こんなところで外部との連絡が取れなかったら・・・・？私もsoftbankからdocomoに昨年、変えたばかりであったが、本当に良かった！結果的に２時間のロスタイムになってしまったが辛うじてその日のうちに帰ることが出来た。

レンタカーを利用する目的が何一つ解決できない結果になってしまい、皆さんに多大な迷惑を懸けてしまい、改めて御礼とお詫び申し上げます。

概念図



概　　要

山名	西丹沢・檜洞丸		
月日	平成２８年１２月１４日（水）		
山域	西丹沢	地形図	1/25000 中川
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	①新雪と霧氷 ②天領の雑木林とブナの原生林		
費用	約６，０００円	交通機関	ＪＲ、東京メトロ、小田急電鉄、レンタカー
日程	我孫子駅5:34→千代田線⑧→北柏駅5:36→代々木上原駅6:42/6:43→秦野駅7:49/8:15→Nﾚﾝﾀｶｰ →西丹沢自然教室9:10/9:35⇒登山口9:45⇒ゴーラ沢出合10:35/10:45⇒展望園地〔昼食〕12:00/ 12:20⇒石棚山稜分岐点近くのベンチ13:28/13:33⇒檜洞丸4:15/14:30⇒展望園地16:00⇒ゴーラ沢出合6:55/17:00⇒登山口17:40⇒西丹沢自然教室17:50/18:00→Nﾚﾝﾀｶｰ→中川温泉付近パンク 18:15/20:45→秦野駅21:00/21:37→代々木上原駅22:36/2239→北柏駅23:45→我孫子駅23:47 ＜ 歩行時間：７時間１０分＞		
ルート状況	・良く踏まれている径で、標識も整い、鎖、梯子も整備されている ・登山口～尾根取り付きに一部、踏み跡不明瞭なところがあるが注意すれば問題なし ・ゴーラ沢出合に徒渉点があるが石が積まれ、若干靴を濡らす程度で渡れる ・トイレは山頂から５分のところに青ヶ岳山荘があり、使用可〔有料@１００円〕 ・展望園地〔ベンチあり〕からは傾斜も緩くなり、ブナが現れる ・石棚山稜との合流点近くにベンチがあり、ブナが落葉しているので空が明るい ・木道、階段は滑り易いのでストックのゴム栓を外して使用した		
参加者	大山(L)、北田(SL)、大平、高橋芳、田村、本田、齊田、村越 男性３名　女性５名　計８名		

＜９７６＞クリーンハイク

手賀沼一周

室崎　宏治

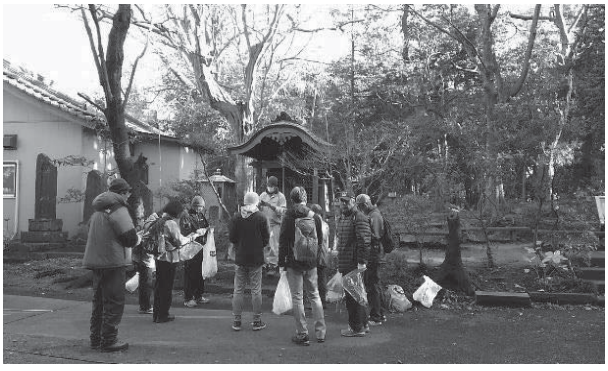


道の駅そばの土手で全員集合

総じて毎年の年末の手賀沼清掃は身近な環境の生態系を考えていくのに非常にコンパクトにまとまったものだと考えられる。北千葉導水路が出来て汚染度は低くなったが利根川水系の外来種のものも水と一緒におくられてくるので生態系が変わってくるのではないかという懸念もあった。ビオトープを考えていくのに最適の地区である。

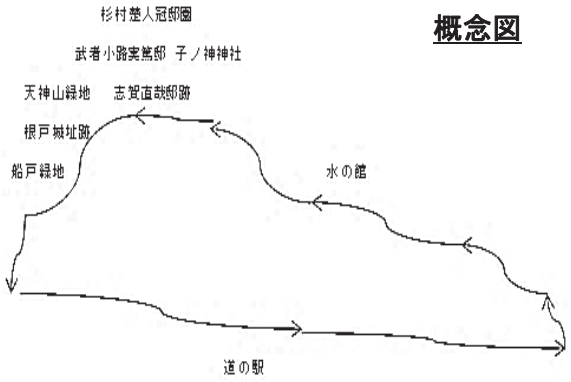
我孫子地区の白樺派の館と活動を見学と清掃、旧沼南側の手賀のキリスト教会の跡を今後は見学するのもいいと思った。

岳人あびこの清掃活動は何回目になるかわからないが素晴らしいことである。今後も続けてほしい。



子の神神社前で打ち合わせ

概念図



概　　要

山名	手賀沼一周		
月日	平成２８年１２月 17 日（土）		
山域	我孫子市、柏市	地形図	1/25000 取手
形式	日帰り	グレード	1A
目的	・手賀沼を一周し、足慣らしとゴミ拾い〔クリーンハイク〕 ・手賀沼の自然に親しむ。		
費用	無	交通機関	徒歩
日程	水の館（集合・スタート）8:00⇒子ノ神神社 8:15⇒志賀直哉邸跡 8:40⇒杉村楚人冠邸園 8:50⇒天神山緑地⇒アビスタ 9:00⇒船戸緑地 9:30⇒旧武者小路実篤邸跡 9:40⇒根戸城址跡 10:00 ⇒北柏ふるさと公園 10:15⇒柏ふるさと公園 10:40⇒沼南道の駅（昼食）11:30/12:05 ⇒フィッシングセンター13:15/13:30⇒滝下広場（ゴミの計測）14:10/14:20⇒ココス（ゴール・反省会）14:55/15:50 ＜行動時間 6 時間 55 分＞		
メモ	・個人装備：日帰り装備一式 ゴミ袋とトング、軍手 ・Aｸﾞﾙｰﾌﾟ（水の館～水の館）及びBｸﾞﾙｰﾌﾟ（アビスタ～水の館）に区分。途中半周でも可。B グループなし。 ・立ち寄り地は、子ノ神神社、志賀直哉邸跡、杉村楚人冠邸園　天神山緑地、船戸緑地　根戸城址跡　武者小路実篤邸は留守で入らなかった 全般総活　。ごみは少なかった。ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ、ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ、ｶﾝ、ﾋﾞﾝ、燃えるごみ、不燃に分別した。合計 9.5kg		
参加者	室崎(L)、郷田(SL)、 高橋英、外崎 中村育、石塚、大平、藤家、小林隆、小林安　蟹江　村越、林 男性７名、女性６名　合計１３名		

＜９７７＞

塔ノ岳～丹沢山～鍋割山稜縦走
（1,491m）（1,567m）（1,273m）

高橋　芳恵



富士を眺めつつ、ノンビリと登る

12 月 21 日（晴れ）

久しぶりの冬の丹沢表尾根に挑むことで気分は高揚し、いつもギリギリの駅への到着も今回は十分余裕を持って臨んだ。平日とあって早朝の千代田線は混んでいたが最後尾の乗車は年金受給者として現役世代への配慮として必要なことと思った。

秦野からタクシーでヤビツ峠から先の登山口（富士見山荘跡）まで行けたことで 40 分程早く 8 : 45 には出発できた。登山口から急こう配の道が続くが何よりも空気が心地よい。この時期私は持病の軽い喘息があり、治療には山の空気が一番と信じている。今回はその効果も期待しての山行である。二の塔までは苦しい上りが続くが稜線に出ると富士山の展望があり、今日の行程が一望できることが楽しい．二ノ塔の展望所のためかメガネなどの忘れ物が目立った。三ノ塔までは15分程ではあるがやはり登りは厳しい。三ノ塔からの富士山はこれまた素晴らしい、南アルプスの山々、八ヶ岳、箱根、丹沢連山の眺望をゆっくりと楽しんだ。鳥尾山までの急な下りや階段、木道はすべりやすく十分気を付けた。塔ノ岳も山小屋も見えているのになかなか距離が縮められない。尾根上にいろいろな小屋や茶屋跡があることが往年の丹沢の人気を物語っている。新大日茶屋跡には 13 : 25 に着き目標はすぐ前であることを確認した。この周辺のブナ林は素晴らしく、こもれびの林を気持ちよく歩いた。塔ノ岳の最後の上りをひと頑張りすると 14 : 15 目的の尊仏山荘に到着した。予定していた丹沢山は明日にして山頂からの富士の絶景を飽きるほど眺めた。夕暮れると赤富士と名物の夜景が部屋の窓から眺められる贅沢さは最高！本日は朝から暮れるまで富士山と過ごせたことの一日の幸に感謝した。幸せとは美しい風景に巡り合い感動することと思った。少しの頑張りと楽しい仲間があれば、これ以上のものはない。

尊仏山荘は以前から何度か利用したことがある人気の小屋だがこれ程満足感を感じたことは初めてで、しかも 2 月 23, 24 日頃には夕暮れにダイアモンド富士となるとのこと。オーナーの人柄に感銘し、再訪は即決した。



塔ノ岳山頂にて

12 月 22 日（曇りのち小雨）

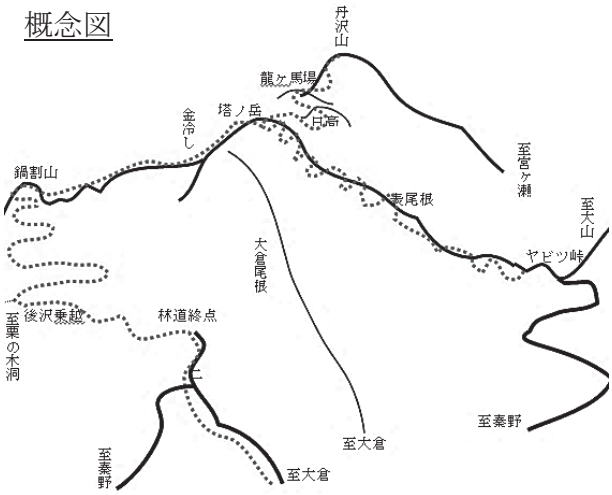
朝食後、6 : 50 荷物を小屋に預け丹沢山に出かけた。霧氷を見るのが目的でもあったが強風ながらも暖かいためかなわなかった。泥でぬかった道を避けながらブナ林を楽しみ、丹沢山頂上のミヤマ山荘でお茶タイムをして引き返した。本日の復路は鍋割山荘から大倉に下る。金冷やしから大丸、小丸を越え、鍋割山への雑木林はこれぞ冬の丹沢の醍醐味というほど実に心地よい。枯葉をサクサク踏みしめながら都心から近いところにこれほどの自然が残っていることに感慨を持った。小雨が降り始め鍋割山荘の軒を借りて雨具を付け、「鍋焼きうどん」には目もくれず後沢乗越まで急降下した。ここから栗の木洞への分岐となるが是非栗の木洞にも行ってみたいコースである。ようやく二俣まで下り立ち、ここからの林道がやたらに長く感じた。今日も一日なかなかの歩きがいのあるコースであった。14 : 45 終着地大倉バスセンターはさすが登山の基地であり、靴洗いの桶やたわしのサービスが有難かった。

渋沢駅近くのスーパー銭湯湯花楽はなかなかの日帰り湯であり、入浴と反省会にはもってこいの場所であった。今後は丹沢山行の定番になりそうである。いろいろご手配いただいた大山リーダーのご指導に心から感謝し、同行者で今年の山を振り返り来年の抱負を語りあった。

概　要

山名	塔ノ岳～丹沢山～鍋割山稜縦走		
月日	平成２８年１２月21日(水)～２２日(木)		
山域	東丹沢	地形図	1/25000　大山
形式	山小屋	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ｂ
目的	①新雪の富士山展望 ②丹沢を代表する表尾根登山とブナの森の鍋割山稜の「霧氷期待」縦走		
費用	１６，０００円	交通機関	ＪＲ、東京メトロ、小田急、神奈川中央交通、タクシー
日程 1日目	我孫子駅5:34→快速⑩→北柏駅5:36→柏駅5:38→代々木上原駅6:42/6:43→秦野駅7:49/8:00→ﾀｸｼｰ→富士見山荘跡8:40/8:45⇒二ノ塔10:05/10:20⇒三ノ塔〔昼食〕10:40/11:05⇒鳥尾山11:44/11:50⇒小ピーク12:15/12:20⇒政治郎の頭12:50⇒新大日岳13:24/1313:30⇒木の又小屋13:43⇒塔ノ岳〔尊仏山荘〕14:15　＜歩行時間：３時間３５分＞		
日程 2日目	塔ノ岳6:50⇒龍ヶ馬7:34/7:37⇒丹沢山7:50/8:20⇒日高9:05⇒塔ノ岳9:35/9:50⇒金冷やし10:05⇒大丸10:19⇒小丸分岐10:42⇒鍋割山11:15/11:30⇒後沢乗越〔昼食〕12:30/12:45⇒二股13:35⇒大倉BS14:45/15:22→神奈中バス→渋沢駅北口15:40/15:45→ﾀｸｼｰ→Ｓ銭湯・湯花楽〔入浴／反省会〕16:00/17:45→ﾀｸｼｰ→渋澤駅北口17:50/18:03→小田急①→代々木上原→北柏駅→我孫子駅20:30頃　＜歩行時間：６時間３５分＞		
ルート状況	・丹沢を代表する登山道で、標識、補修も確り行われて迷う心配は殆どない ・単純標高差は７６０ｍだが５０~１００ｍのアップダウンが５~６回あり、厳しい		
参加者	大山(L)、北田(SL)、田村、本田、高橋芳 男性２名　女性３名　計５名		

概念図



＜９７８＞クリスマス山行

四方原山・茂来山
（1,633m）（1,718m）

矢野　裕子

波乱万丈、霧氷のクリスマス山行



茂来山山頂の小さな祠

信州佐久にある茂来山は、姿形も整った展望のいい山…という紹介記事を読んで､7年前の５月に行ったことがある。初夏の空に映える八ヶ岳の展望が見事だった。下山の道で美しい渓流に足を浸して幸せだったことが忘れられない。大好きな山になった。クリスマス山行なら雪があるかもしれないと期待を胸に参加した。

雨上がりの当日、新幹線あさまの車窓から見えたのは大きな虹！街並みの上にくっきりと、しかも二重になっていて感激。佐久からのレンタカーでは、いつもながら登山口探しに苦労する。山間の北相木村は標高 1000ｍの由緒ある小さな集落。辿り着いたトワタリ沢の脇から始まる道は、スタートから困難そうに見えた。右からも左からも大きな倒木が横たわるが、かすかなピンクテープが先へ先へと導いている。えー、ここを行くのか…というような道なき道。右岸へ左岸へと渡渉を繰り返して急登を詰め、ようやく尾根に出た。山頂かと思いきやまたぐるりと周るように導かれて、樹木の中のぽっかり平らな四方原山に着いた。この尾根は明日の茂来山への縦走路となっている。来た道はもうこりごり、ということで林道へ出る短縮ルートをとり、あっという間に下山した。

ありがたい車移動で間もなく到着した長者の森。広くて立派な施設のキャンプ場で貸切。冬場閉じているけれども、リーダーが了解をとってくれていたので堂々と一等地に宿営した。

まだ３時、ゆっくり始めましょうと、暖かいテント内でチキンとビールでクリスマスのお祝い。コッヘルの湯で温めたワインは、ちょい飲みゲームで当たった人がわあわあ言いながらチョコチョコ飲む。歌って山を語って、野菜たっぷりポトフとクリスマスケーキでお腹も満たされて就寝。冷え込んだが夜空は満天の星だった。

翌朝、残りポトフとパン、雑炊で体もしっかり温まり、撤収作業の後、茂来山のスタート霧久保沢へ。でこぼこの林道を走ってやっと着いた、…と思ったら何と前のタイヤがぺったんこ。パンクです。さもありなんの山道ではあったが、びっくり。しかし、我らの仲間は頼もしい。地面にめり込んだタイヤを、力持ちの北川さんが苦労してジャッキを回して持ち上げ、スペアに交換することができた。駅レンタカーへの携帯も大変つながりにくかった。

ハプニングを乗り越えて出発。トチノキの巨木コブ太郎を見学。登山道には予想外にもうっすらと雪。昨夜積もった雪の上に、小さな動物の足跡がある。狸かな、イタチかな。早朝にここを走るかわいい姿を想像する。初めは粒々だった足元の雪が、針葉樹の葉の形になった。白糸のような繊細さに見入ってしまう。大王トチノキを過ぎて急登になると滑る。全員軽アイゼンは置いてきた、残念！踵を岩に引っ掛けたり、蹴りこんだり、一歩一歩苦労してようやく尾根に出た。明るく輝く何と美しい霧氷。白いトンネルを潜っていくと開けた山頂に出た。きれいな空の色。陽に眩しい白銀の梢と深い緑の峰々に感動。遠くの山には雲がかかっているが、両神山や妙義山の形が見て取れる。風も弱く大展望での昼食。リーダーの助言で下りに備えてアイゼン代わりに、ロープやストッキングを靴底に巻いて安全を図る。慎重に無事に下山できた。帰路北へ向かう車の正面に浅間山が見えた。佐久はこのおおらかな弧を描く美しい浅間山に見守られている。波乱万丈の楽しいクリスマス山行だった。



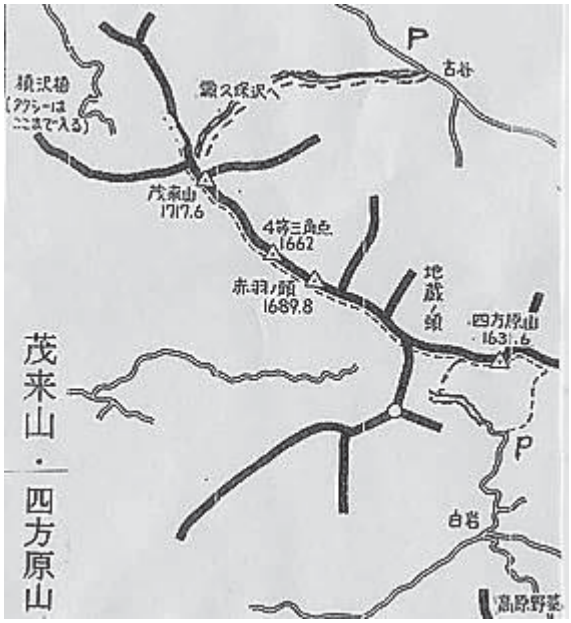
四方が平らな山頂（四方原山山頂）



美しい霧氷の尾根道

茂来山山頂↓





概念図

概　　要

山名	四方原山・茂来山			
月日	平成 28 年 12 月 23 日（金）～24 日（土）			
山域	佐久平	地形図	1 /25000 海瀬, 信濃中島	
形式	テント泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ	
目的	１．展望抜群の佐久の２名山に登る。 ２．恒例のテントの中でクリスマスを祝う。			
費用	約 18, 000 円	交通機関	ＪＲ、レンタカー	
日程 1日目	我孫子駅発 6:12→上野駅 6:45/6:58（長野新幹線あさま 601 号）→佐久平駅 8:18/8:35（レンタカー2 台)→国道 141 号→東山林道→トワタリ沢出合 10:20/10:35 ⇒沢の中の荒れた登山道⇒源東部⇒四方原山 12:20/12:45（昼食）⇒茂来山分岐⇒林道 13:15⇒トワタリ沢出合（駐車場）13:45→長者の森キャンプ場 14:40 （テント設営泊り）			
日程 2日目	キャンプ場 7:15（レンタカー）→茂来山駐車場 8:35/9:05 ⇒コブ太郎 10:25⇒茂来山 11:45/12:10 ⇒コブ太郎⇒駐車場 13:40→佐久平駅 15:30/17:57（はくたか 570 号） →上野駅→我孫子駅 19:57			
ルート状況	・四方原山（よもっぱらやま）：佐久平から 2 台のレンタカーで国道 141 号、県道、白岩部落から東山林道に入るが、とにかく標識がないため解かりずらい。 ・白岩からの林道はダートでがたがた道を 20 分程でトワタリ沢登山口に着く。(案内板あり）林道は先に続いているがどこに行くか不明。 ・最初はトワタリ沢に沿って歩くが、沢は荒れ放題、まるで障害物競争をしているようだ。このルートを登る人は少ないことが想像できる。 ・渡渉を何回か繰り返す、沢歩きから最後の稜線までの急登は厳しい。帰路は茂来山へ続く稜線の分岐を林道に向けて 15 分降りると登山口（トワタリ沢）の先の林道に出る。 ・茂来山：登山口は幾つかあるが、我々は霧久保沢ルートに入る。駐車場は広く（約 20～30 台）は駐車できる。昨夜、降った雪がうっすらと積もっている。 ・この山は標識も登山道も整備されているため、迷う心配はない。但し、県道から登山口までの林道が狭く、荒れているため走行は充分注意したい。			
参加者	村松(L)、外崎(SL)、北川、武内、矢野裕、斉田､小林安　男性 3 名　女性 4 名　計 7 名			

＜９７９＞初詣山行

日光赤薙山
（2,016m）

矢野　裕子

新雪の日光初詣



赤薙山を背に風花舞う
ツツジの大群落の中を降りる

新年のたくさんの願い事と安全登山の思いを込めて日光へ。当日は冬型の気圧配置。日光駅前から見えた女峰山方面は、薄い雲の間に見え隠れしていた。冷え込みの厳しい日光のことだから、吹雪いたら山頂までは無理かもしれない…と不安だった。

タクシーで着いた霧降高原レストハウスは、昨夜の新雪がうっすらと積もり、広々として静かな冬山らしい風情だった。真新しいしっかりした階段がすぐそこから始まっている。植生保護、そして人にも優しく足元は幅広のステップ、手元は二段(子供用)手すり。1, 445 段を数える表示もあり楽しみながら、意外とあっさり展望台まで上がれた。すぐ目の前に丸山があって、スキー場らしく見晴らし抜群。私は何度も立ち止まって澄んだ空気で深呼吸。風も弱く時折ひらひらと雪が舞う。焼石金剛で昼食をとり、軽アイゼンを付けたので、その後はずっと歩きやすくなった。大きな岩や深く窪んだ登山道があるが、雪のおかげで歩きやすいところを選んで進むことができる。わざわざ真っ平らな新雪に足を踏み入れてみたり、雪道を存分に楽しむ。タンネの樹林帯に入ると急登になり大きな木の根を跨いだり少々難儀したが、間もなく山頂へ出た。

こんもりした木立の中に二等三角点と小さな鳥居。神様に手を合わせ今年の安全登山をお祈りした。木にぶら下がっていた温度計は氷点下

10℃。けれどもゆっくりと上り続けた体は、ほかほかに温まり全く寒いとは思わなかった。

４人パーティは声も届いて動きやすく、2～3回の立休憩で当初の予定通りぴったり２時３０分に下山した。！！間に合います。油源という湯葉屋さんへ直行。湯葉づくし御膳は見た目もきれいで上品な味付け。大喜びで舌鼓を打ち、その後ステーションホテルの駅スパでゆったりと温泉に浸かり汗を流すことができた。

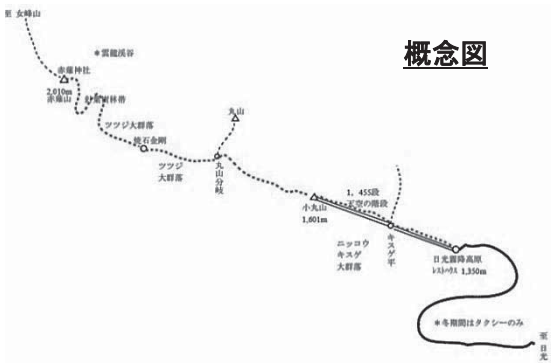
山良し、お天気良し、雪良し、お腹良し。本当に満足の日光新年山行でした。こんな素晴らしい一日の企画をしてくださった大山さんには感謝でいっぱい。そして心に残るシーンをきれいにカメラに収めてくださり、振り返ってまた幸せに浸りました。今年はきっといい年になります！



山頂の赤薙神社



2017年1月5日(木)赤薙山



概　要

山名	日光赤薙山		
月日	平成２９年１月５日(木)		
山域	日光山群	地形図	1/25000 日光北部
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２A～B
目的	①平成 29 年安全登山祈願、 ②日光名物湯波フルコース、 ③温泉入浴		
費用	９，３００円	交通機関	ＪＲ、東武鉄道、タクシー、東武ﾊﾞｽ
日程	我孫子駅6:01→常磐快速⑤→柏駅6:05→北千住駅6:23/6:31→東武電車快速⑤→春日部駅6:52→東武日光駅8:25/9:20→三英ﾀｸｼｰ→霧降高原ﾚｽﾄﾊｳｽ9:50⇒キスゲ平〔避難小屋〕10:20/1025⇒小丸山展望台〔階段最上段〕10:30/10:35⇒小太郎山10:40⇒焼石金剛〔昼食、ｱｲｾﾞﾝ装着〕 11:30/12:00⇒赤薙山12:45/1250⇒焼石金剛13:35⇒小丸山14:10⇒霧降高原ﾚｽﾄﾊｳｽ14:30→神橋・油源〔反省会〕14:55/15:49→東武ﾊﾞｽ→JR日光駅⇒駅スパ〔入浴〕⇒東武日光駅17:00/17:12→下今市駅17:20/17:35→きぬ136号→春日部駅18:41→北千住駅19:02/19:14→柏駅19:33→我孫子駅19:37　　＜歩行時間：４時間＞		
ﾙｰﾄ状況	・有名な？1,455段の階段は、それほど段差が高くなく、気持ちよく登れる、１００段毎に色々とコメントがあり、気持ちが楽になる。展望台や、ニッコキスゲの散策道も設けられてキスゲ観賞には親切だ ・中央部から一気に階段の傾斜が高まるが、一歩一歩の高さは変わらない ・土台は鉄骨だが板敷きなので感触が柔らかく、心地好い ・高度が上がるに従って積雪が有り、滑り易くなるが、二段構えの手摺りが中央部以上には設置されているので安心、大雪のあとは階段がスロープになるのでアイゼン必携 ・階段の終了点が「小丸山展望台」、そこからチョット平坦な道を歩くと「小丸山」の山頂 ・所々標識やﾃｰﾌﾟがあるが、急な樹林帯でのﾙｰﾄの取り方も勉強になった ・焼石金剛では薄日も差し、此処から赤薙山山頂までは樹林帯なので風は避けられる、所々に残っている残置ロープ、テープを頼りにスッカリ消えてしまったトレースを極力尾根筋から離れないように歩き易いところを選んで登った ・山頂は、他の神社は大混雑しているのにこの赤薙山神社は私達の貸切だった。		
参加者	大山(L)、矢野裕(SL)、新谷、小島 男性１名、女性３名、　計４名		

＜９８０＞

高尾山
(1,256m)

林　敏生

早春の山行、天気申し分なく･･･やったあ



説明を聞きながらゆっくりと

新年早々の〈高尾山山行〉はよく仲間に言われた〈年に何度登っても飽きることのない観光者数世界一の登山スポット〉と！四季折々に表情をかえ、登山客を楽しませてくれる大自然高尾山！多種にわたるルートが年間 300 万人の観光者数も当然のように思えました！

毎回山行は我孫子駅発 5 時 30 分頃が定番だが約一時間遅い出発。まず車内で会員同士の新年のあいさつが終わったころ、いざ電車が出発。京王線高尾山口駅に予定通り到着。総勢 12 名で今回は稲荷山ルートにて高尾山山頂を目指して 8:30 に登山開始。ガイドブックに〈このコースは稲荷神社からの名前が由来で高尾山のコースでは一番日当りが良く、展望台が途中にありそこからの眺めはまさに絶景〉とあったが、今回は何とバッチリ、富士山も高度が上がるにつれて登山道の樹木の間から、ちらちら。

稲荷山コースは高尾山へのルートの中では急な木段を登る事が多いので、下りより登りのほうがいいなぁと思いながら足を進めました。特別に厳しいコースなわけではないが、急な木段をドシンドシンと下り続けると膝を痛めてしまう場合もあるかなぁ。

今回は高橋重さんが沿道に咲く花を丁寧に紹介して下さり、花好きの女性陣にはサプライズ。花には全然関心のない私ですが、シロダモの葉をマッチで炙ったときは、びっくりあえて説明はしませんが皆さん体験しに行ってください。その間いろいろ説明していただいた花の一部は、アブラチャン/クロモジ/キジョラン/ゴンズイ/ミヤマシキミ/ヤブコウジ/ミヤマフユイチゴ/ヤブムラサキ等ですがまだ沢山あったかなあ。

そうしているうちに 11:00 に山頂到着、天気も雲一つない日本晴れ、富士山を背景に集合写真も笑顔でバッチリ。山頂から一丁平へ、当初の目的の一つに〈シモバシラ・氷の花〉がありましたが残念ながら次回に持ち越し。

◎氷の花ができるしくみ

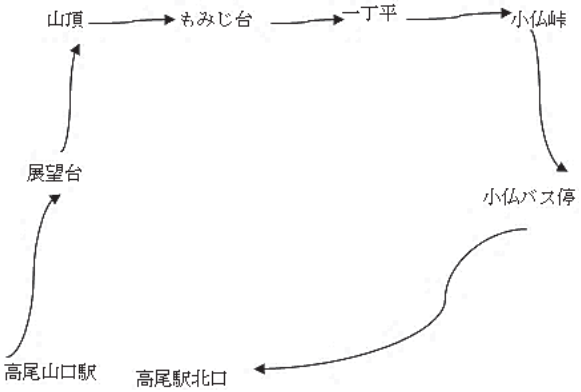
氷の花はシモバシラの根から吸い上げられた水分が枯れた茎からしみだし、 冷たい外気に触れて凍っていくことで作られていきます。水が凍らなければいけないので、気温が氷点下でなければいけません。

その後昨年 1 月 9 日の新年山行で立ち寄った城山へ、小仏峠を経て小仏バス停に向かったが、この下山コースは平日でもあり登山客はパラパラ。

高尾駅で恒例の反省会会場を探して回って駅を一周、目的の店も 14 時 30 分ではアウト。ワイワイガヤガヤの楽しい山行でしたが、桐生リーダーの陽気なキャラも大切でした。皆さん本年も楽しくやりましょう、ありがとうございました。

〈参考〉小仏峠は明治21年まで甲州街道が超えていた場所でもあり、江戸時代には小仏峠を越えた富士講の人たちの、遥拝(ようはい)所でもありました。

概念図





高尾山山頂にて



ヒイラギの花（高橋重氏提供）

概　要

山名	高尾山		
月日	平成２９年１月１０日(火)		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 与瀬・八王子
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	シモバシラの観察		
費用	約 3,000 円	交通機関	JR
日程	我孫子 6:20→新松戸→西国分寺→高尾 8:13/8:19(京王線)→京王線高尾山口 8:21⇒稲荷山コース登山口 8:30⇒展望台 9:50/9:55⇒休憩(山頂手前)10:50/10:55⇒高尾山山頂(昼食)11:00/11:30⇒一丁平 12:15/12:25⇒休憩 12:45/13:00⇒小仏峠 13:15⇒小仏バス停 14:00/14:10→高尾駅北口 歩行時間約４時間３０分		
ﾙｰﾄ状況	・登山道は整備が行き届いている。 ・前日降雪があったようだが、ビジターセンターに確認したところ山頂は降雪無し 稲荷山コース奥高尾に処によりぬかるみがあると言われた。 ・城山辺りの北斜面に少し雪が残っていた。		
参加者	桐生(L)、矢野貞（SL）、村松、高橋英、箕輪カ、田村、本田、林、渡辺、石塚、箕輪完（ゲスト）、高橋重（ゲスト） 男性５名　女性７名　計１２名		

＜９８１＞新年山行

鳥の胸山・菰釣山

（1,208m）（1,379m）

武内　勇二

幸先良い今年のスタート



菰釣山頂にて

山梨県道志村は人口 1,700 人の小さな村である。ここに富士見荘という 10 年来の馴染みの民宿があり、これまで 3 回お世話になっている。気風のよい女将さんの魅力にひかれて、2 年ぶりに行ってみようと村松さん(リーダー)に提案した。通常は行く山を決めて宿を決めるのだが、宿中心に山を計画するのはここしかない。今年は酉年。酉の年の手始めに、鳥の胸山が選ばれたのは、単なる偶然だったようだ。

富士急・都留駅からｼﾞｬﾝﾎﾞﾀｸｼｰで道坂峠を抜けて「道の駅どうし」へ向かう。道志川に架かる橋を渡って程なく、小さな川を渡る橋を挟んで道が二岐に分かれるところに鳥の胸山の道標が掛けられていた。ここでタクシーを下車。地図で確認すると、どちらの道も鳥の胸山へ行けるが、左側の方が若干近い。準備を終え、グリーンロッジ方面への林道を行く。凍てついた雪が滑り易いので、アイゼンを装着した。程なく林道が尽き、登山道に入った。沢沿いに手入れされた杉林の道を行く。やがて道標とテープに導かれて尾根道を辿るようになる。一旦林道に出た。出発時に右側の道を取った場合はここで合流することになる。50m 程左に行くと、林道を離れ再び登山道に入る。雪はそれ程でもないが急坂で、正月明けの鈍った体にはきつかった。ブナ斜面のジグザグを繰り返し、頂上直下の稜線に出た。右に折れ、急な尾根を行くと鳥の胸

山頂だ。頂上は西側斜面が開け、御正体山とその左後方に頂上付近を雲に隠した富士山が聳えていた。山梨百名山の景観を楽しみながら、昼食を採った。山行計画では、鳥の胸山から一旦尾根を北に下り、秋葉山（麓の案内板には秋葉様と表記してあった。地形図には鳥居マークがあるので、神様を祭っているのだろう）を経て唐沢に下る予定だったが、下り口にトレースが全くないので、リーダーの判断で来た道を戻ることになった。

登りに難渋した道も下りは早い。１時間ちょっとで「道の駅どうし」に戻った。ところが近くの中山バス停を通過する２時台のバスは冬季運行中で、夕方５時台までバスはないとのこと。途方にくれていると､道の駅従業員のＹさんが、車で送ってあげるとの暖かい申し出があり、他に選択肢もないことから、有り難くお受けさせていただいた。富士見荘までは車でも 10 分ほどかかり、歩けば半日仕事になる所だった。まさに､「地獄に仏」だった。せわしない都市部ではめったに経験することのできない田舎の人の温かい心に触れた気がした。

富士見荘の女将さんは、これまで同様、明るく迎えてくれた。２階の幾つもある部屋の「どこを使って貰っても良いよ」だったので、窓から大室山の見える明るい角の部屋を居間とした。大きな炬燵とお茶の用意がしてあった。

女将さんから「道志の湯」の入浴券を頂いた上に、車で送ってくれた。当然ながら、１時間後の迎えもお世話になった。バスの便が殆んどないので車でなければ動きが取れない。

翌朝８時に宿を出て、道志の森キャンプ場まで女将さんの運転する車で送って貰った。12 時頃から雪の予報が出ている。今日は菰釣山へ登った後、大棚の頭まで縦走し、山伏峠に降り平野まで行く計画だが、天気によっては菰釣山往復に止め､「道の駅どうし」へ下山する案も検討されていた。道志の森キャンプ場で車を降り、三ヶ瀬川西沢沿いの林道を進む。除雪した路面は凍てついており、サクサクとアイゼンの刃が小気味よい音を立てる。大西沢とブナ沢の出合にあるゲートを潜った後も、林道を行くこと約 10 分、菰釣山登山口の道標から山道に入った。積雪は20～30㎝あるがトレースがあり迷うことはなさそうだ。ブナ沢をさか登る。沢の源頭部になるに従い急斜面になった。沢の名の通り、ブナ林の中を喘ぎながら登った。稜線上の縦走路に合流した。ブナ沢乗越である。ここから 10 分足らずで菰釣山避難小屋に到着した。この小屋には 2006 年 11 月に泊まったことがある。その後、立て替えられている。新しい小屋に泊まろうと 3 年前に計画されたことがあるが、その時は大雪のため山行が中止となった。新しい小屋を訪れるのは今回が初めてである。

黒い雲が上空を覆って雪が舞い出したこともあり、大棚の頭までの縦走は断念し､「道の駅どうし」へ下山することになった。小屋にザックをデポして、空身で菰釣山に向かう。菰釣山山頂は、小屋から約 800m、だらだらとした登りで 30 分ほどかかった。頂上は西側斜面が開け、天気が良ければ富士山を楽しめるのだが、あいにくの天気で展望は全くなかった。

小屋に戻り、昼食。富士見荘差し入れのジャンボサイズのおにぎりを頬張った。朝食で食べきれなかったエビフライやシャケ、肉じゃが、餃子等々パック詰めのおかずもふんだんにあるのだが、そんなに食べられるものではない。殆んどはまたリュックに仕舞われて、結局は家まで持ち帰りとなった。


富士見山荘前で

昨日同様、下山は早い。1時間 10 分足らずで出発地点の道志の森キャンプ場に戻った。ここから道の駅まで 20～30 分と予想して、ｼﾞｬﾝﾎﾞﾀｸｼｰを呼んだ。迎えの時間をゆったりと設定したつもりだが、途中、道を間違えてしまった。約束の 2 時ギリギリに道の駅に到着し、都留市経由大月駅に直行した。富士急電車を使うより、多少割高となるが、時間は大いにセーブできた。心配した雪も、大月で反省会の時間中にちらついた程度で済んだ。富士見山荘泊まりの新年山行を今回も幸せな気分で終えることが出来た。今年も幸先良い出足に満足一杯だった。女将さん有難う。そしてパーティメンバーの皆さん、有難うございました。

概　　要

山名	鳥の胸山・菰釣山		
月日	平成 29 年 1 月 19 日（木）～20 日（金）		
山域	西丹沢、道志	地形図	1／25000 大室山、御正体山

形式	民宿泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２B
目的	１．静かな西丹沢の峰々を歩く。 ２．富士見荘に宿泊して人生（山）を語る。		
費用	約 12,000 円	交通機関	ＪＲ富士急タクシー
日程 1日目	我孫子駅発 5:33→新松戸駅（武蔵野線経由）→高尾駅 7:16／7:27→大月駅 8:12/8:15 (富士急行)→都留市駅 8:30（ジャンボタクシー）→道志村・鳥の胸山登山口 9:20/9:30⇒稜線（富士見平）11:10⇒鳥ノ胸山山頂 11:30/12:00 ⇒沢の道志・道の駅 13:10/13:30→道志村・富士見荘（泊）		
日程 2日目	富士見荘 8:05（宿の車）→道志の森キャンプ場 8:15/8:30 ⇒西沢渡渉 9:20⇒ブナ沢乗越 10:20⇒菰釣避難小屋 10:30/10:40⇒菰釣山 11:10→菰釣避難小屋 11:35/12:00（昼食）⇒ブナ沢乗越 12:05⇒ゲート 12:40⇒道志・道の駅 14:00/14:05（ジャンボタクシー）→大月駅 14:50/16:13→西国分寺駅経由→新松戸駅 18:30→我孫子駅着 18:55		
ルート状況	・鳥の胸山：道志道の駅の脇の道志川を渡った所が登山口（小さな道標がある）になっている。林道がグリーンロッジ迄続く。 ・道標は少ないが赤エフが所々に付いているので忠実に辿れば良い。 ・富士見平直下の急坂は厳しい。積雪は深い所で 20 ㎝位か ・三角点標識のある山頂は富士山を手前に御正体山，道志山塊、南アルプスの峰々が太陽に照らされて輝いていた。 ・秋葉山から唐沢に下山の予定だったが、トレースがないので安全を期して往路を戻る。 ・菰釣山：道志の森キャンプ場迄、民宿の車で送ってもらう。東沢を 2 回ほど渡渉するが水量は渡るのに問題ない。 ・小雪が降る中をブナ沢乗越直下の急坂を登ると稜線は近い。積雪量は深い所で 30 ㎝位。菰釣避難小屋は新しくなっていた。 ・風が出て小雪が降ってきたので山中湖へ下山することを中止して往路を戻る。		
参加者	村松（L）、外崎（SL）、武内、郷田、大平、石塚　　男性４名　女性２名　計６名		



＜９８２＞

北八ヶ岳・東天狗岳

（2,640m）

矢野　貞子

北・中央・南アルプス、奥秩父一望



唐沢鉱泉分岐過ぎのタンネの森
夏は巨大な岩ゴロの道が･･･

今回で 4 回目となる真冬の天狗岳である。大山リーダーの企画で毎回欠かさず参加の本田さん、経験者の北田さんと初参加の私の四人であった。茅野から乗ったタクシーの運転手が渋御殿湯に到着した時「ああ、無事について良かった」と漏らした。道は急坂で凍っているところがあり、前日エンストしたタクシーがあったそうだ。

身支度をした後、橋を渡り樹林帯の登山道を登る。雪があり歩きやすい。先頭を行く本田さんが、快調に歩を進め 1 時間程で最初の唐沢鉱泉分岐到着。軽い中食休憩をした。

数日前の大寒波来襲で、木々の枝に雪が積もり垂れて、登山道は雪のトンネルになっていた。歩を進める毎に「キュキュ」となる。「素敵、幻想的だ」としか言葉にならない。夏ならば石ころがゴロゴロ歩きにくい道も歩きやすい。崖にかけられた金網にアイゼンをひっかけないようにしながら進むと雪がさらに深くなり黒百合Hに到着した。ここで先頭を歩いていた本田さんが体調不良で小屋で休んでいたいと申し出であった。

天気は快晴、明日は崩れる予報なので、不要な物をデポして 3 人で山頂に向かう。樹林帯を抜けると遠く鹿島槍、槍ヶ岳、穂高、御岳山、中央、南アルプス、奥秩父の山々が見える。さらに登るとニュウ越しに煙をたなびかせた浅間山、四阿山が見える。更に登ると蓼科山越しに火打、

妙高岳、焼山なども現し 360 度の山並みを見渡たせた。夏はハイマツの道も雪で白い斜面になっている。そこを登り岩場を抜けると東天狗岳の頂上に到着。頂上からは赤岳、阿弥陀岳の雄姿が望めた。　風が強く冷たいので写真を撮って下山。途中の岩陰で本田さんが持たせてくれたおやつを食す。小さなお饅頭が美味しい。景色を見ながら黒百合H帰着。夕食までの時間、ストーブや暖炉で暖められた部屋の炬燵で山談義。贅沢な時間であった。本田さんも体調が良くなったとのこと。ホット安心する。

二日目の朝、風の音で目が覚める。黒百合Hの表の温度計はマイナス 10 度を指している。雪山訓練をしてから下山予定であったが、強風のため早々に下山することにした。風で木々に積もった雪が舞い落ちる中を 1 時間あまりで下山。迎え予約を 5 時間も早めたタクシーに乗り温泉に入り、リーダーが行きたいと願った更科蕎麦で打上げと誕生祝をして 4 回目の雪の天狗岳を締めくくった。

雪道、眺望、山小屋の団欒と楽しい山行だった。雪の天狗岳は当会で本格的な雪山、５、6回と重ねて続けて行けることを願った。



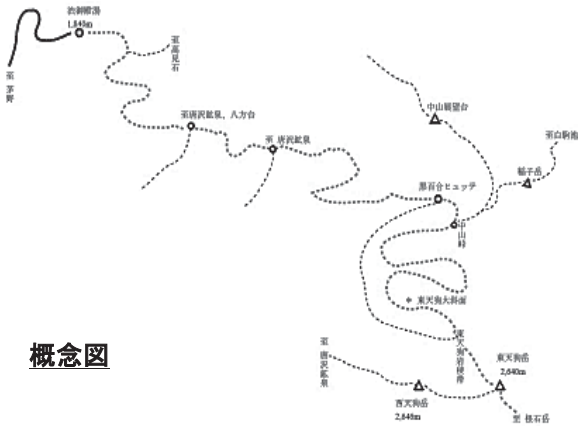
爺岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳



登頂間違いなし！



黒百合ヒュッテにて



概念図

概　　要

山名	北八ヶ岳・東天狗岳			
月日	平成２９年１月２６日(木)～２７日(金)			
山域	八ヶ岳連峰 北八ヶ岳	地形図	1/25000 蓼科「南」、「東」	
形式	山小屋泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	2B～C	
目的	①モミ、栂、トウヒなどの針葉樹林帯の素晴らしい雪綿帽子　②冬山登山の醍醐味 ③北ア、中央ア、南ア、南八ヶ岳、浅間山、四阿山・根子岳、頸城山塊の大パノラマ			
費用	１８，０００円	交通機関	ＪＲ､タクシー	
日程	1日目	我孫子駅5:31→常磐快速⑤→柏駅5:36日暮里駅6:01/6:09→新宿駅6:30/7:00→Ｓあずさ１号→茅野駅東口9:08/9:15→第一交通タクシー→1,880m渋御殿湯9:45/10:05⇒高見石分岐10:20⇒休憩⑤⇒八方台分岐〔昼食〕11:04/1115⇒唐沢鉱泉分岐11:40⇒黒百合H12:26/13:05⇒休憩⑤x2⇒東天狗岳14:15/14:25 ⇒ 黒 百 合 ヒ ュ ッ テ 15:10 天気：快晴　　＜歩行時間：４時間＞			

	2日目	黒百合ヒュッテ 7:50⇒休憩⑤x2⇒唐沢鉱泉分岐 8:25/8:30⇒八方台分岐 8:45⇒高見石分岐 9:00⇒渋御殿湯 9:20/9:50→第一交通→アクアランド茅野〔アルカリ湯〕10:15/11:20→第一交通→茅野駅前蕎麦処更科 11:30/12:15⇒茅野駅 12:18/12:30→Sあずさ 16 号→新宿駅 14:41→日暮里駅 15:13→柏駅 15:34→我孫子駅 15:41 天気:曇､強風 ＜歩行時間:１時間１５分＞
ルート状況		･茅野駅から積雪があった ･登山口の渋御殿湯からアイゼンを着用 ･トレースは確りと付けられていた ･歩きづらい切り株、ゴロゴロ石はすべて雪の下で非常にフカフカの新雪に覆われ、歩き易い ･黒百合H近くの賽の河原のゴロゴロ石もすべて雪の下で夏道よりも遙かに歩き易い ･黒百合Hからサブザックで登る予定であったが、Hさんが体調不良で黒百合Hで待機することになり、チェックインを済ませて呉れ、出発を早めることが出来た ･メンバーが経験者でもあるのでストックは小屋に残し、ピッケルだけ持参 ･今まで経験したことがないほど風も弱く〔恐らく６～７m〕､快晴に恵まれ､殆ど汗をかくこともなく快適にピッチが上がった ･樹林限界を抜けると先ず、真っ白な北アルプスが右手やや後方に霧ヶ峰、美ヶ原越に見え、暫く高度を上げると後方に浅間山が見え、奥秩父が左手に見えだした ･更に高度を上げると噴煙を上げる御嶽山が見えて来た ･山頂直下の急斜面は崖際を登る、右手に西天狗が見え、トレースが付いている ･太い岳樺を過ぎると岩稜帯に到達、山頂まで一息 ･ラクダ岩のような特徴的な岩稜帯を捲き気味に行く箇所で上方に行くトレースと下部を取るトレースに別れるが、上に行くトレースも途中から引き戻し下部のトレースに合流。此処を越えると山頂が見える ･此処を越えると山頂が見える ･ホンのひと登りで山頂であった ･山頂からは今まで見えなかった赤岳、阿弥陀岳、硫黄岳そして南アルプスのジャイアンツ、中央アルプスが突然に見えた ･蓼科山の影に隠れていた白馬の山々から妙高を初めとした頸城山塊の山々も見えた ･下りでアイゼンのズレが生じて何回か直すことになったのでアイゼンの靴に合わせる調整、締め方は要トレーニング
参加者		大山(L)、北田、 矢野貞、本田 男性２名、女性２名、 計４名

＜９８３＞県連房総ロングハイキング

水仙ロード（勝山～江月～ばんや）

石塚　あさ子

自然豊かな千葉の山 河津桜・菜の花咲く



烏帽子山近く

1 日目　ロングハイキングの前日になる 1 日目は例年の様に東葛地区（柏・我孫子・松戸・鎌ヶ谷市）はバスで（岳人あびこ：我孫子駅北口公園前　6：30）目的地に向けて出発しふらり道の駅に 9：30 到着しました。そこで、干物等の買い物をして又バスで採石場に向かいました。ここから本日のコース江月水仙ロードのハイキングに出発です。天気も良くのどかな田園風景の中人家の間をぬって歩きます。残念ながら水仙の花は咲終わっている所が多く、日蔭に少し清楚に咲いるくらいです。河津桜が咲き始めており黄色の菜の花ととても綺麗です。地蔵堂の所では富士山も望まれ、日本の原風景という景色の中、昼食場所である水仙広場に向かいました。ゆっくりと昼食を取り「ばんや」に向かい、迎えに来てくれたバスで今晩の交流会、宿泊会場となる七里川温泉に向かいました。
宿に入り部屋に荷物を置いてすぐ温泉に入り、その後炭火の囲炉裏で、買った干物を焼いて美味しく頂ながらみんなと楽しく談笑。オリエンテーション、交流会後又温泉（露天風呂）入り、星空を見上げながらゆったり床に着きました。
2 日目　今年のコースは昨年時間切れで途切れてしまった残りのコースを歩きます。その為朝もゆっくり出発です。7 時 50 分バスで清澄寺に向かいました。清澄寺は日蓮宗の大本山で、大杉の木は国の天然記念物に指定されています。お参りをして記念写真後班毎 9 時 10 分に出発。清澄寺の後ろから一杯水林道を歩き約 1 時間でツクバネ樫に着きました。ここからは東大演習林の中で許可なく入る事が出来ない場所です。

林道に分かれを告げ大平歩道に入り深い樹林の中烏帽子山を目指します。Ｗ６～Ｗ４５までの番号が民有地との境にふられた小さな杭が打たれています。さすがに手つかずのうっそうとした樹林帯の中、所々崩壊の後が残る所があり、注意しながら歩いて 11 時 20 分烏帽子山に到、そこで昼食となりました。ここから鶏毛山に向かうコースは多少のアップダウンを繰り返しながらの快適な尾根道、所どころ木の根っ子が地面を這うようにむき出しで綺麗な網目模様になっています。途中標識の石の上にキジョランの実がはじけた綿毛が落ちていてビックリ（高尾山山行で学習）こんな風に植物は子孫を残すのだと改めて感心、どこから飛んできたのでしょう。午後 1 時 20 分鶏毛山に着きました。マテバシイの木々の美しい道を歩きます。常緑樹で幹が根本から幾つにも分岐して生えているちょっと植生が変わっている？木です。今までアップダウンしながら縦走してきた道も下りに入ります。東大演習林を抜け民有地に入りました。ここからは昨年下りたコースではなく新しいコースです。実行委員長の中原さんが開拓したコースです。下りる途中小さなジンチョウゲに似た花が咲いていました。後で植物に詳しい中原さんにお聞きしたところ、コショウの木の花だそうです。調味料のこしょうではなく、赤い実が辛い所から名前がついたようです。坂本駐車場に午後 2 時 20 分下山しました。

房総の山､まして東大演習林の中は幾つもの分かれた道があり素人では簡単には入り込めないルートである事を実感しました。又自然豊かな千葉の山に感動をもらいました｡坂本駐車場にはバスが迎えに来てくれていて､干物センターでお土産のお花を買い､又濃溝の滝を観光し帰ってきました。

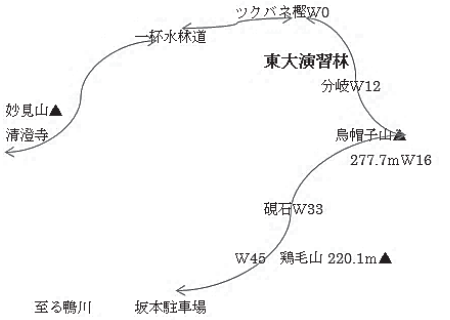



ロングハイクメンバー　清澄寺近く

概　要

山名	水仙ロード（勝山～江月～ばんや）を歩く			
月日	平成２９年１月 28 日(土)～29 日(日)			
山域	房総	地形図 1/25000	保田 上総中野　安房小湊	
形式	山麓泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２A	
目的	恒例の房総ロングハイクに参加し他会の皆さんと交流する			
費用	約 11,000 円	交通機関	貸切バス	
日程 1日目	我孫子駅北口公園前 6:30→鎌ヶ谷市役所 7:05 / 7:15→幕張ＳＡ7:50/ 8:10→鋸南富山 9:20 →ふらり道の駅 9:25 / 9:50 →採石場 9:55/10:00 ⇒みかえり峠 10:35/10:45⇒地蔵堂 11:15 / 11:20 ⇒水仙広場（昼食）11:35/12:10⇒水仙ロード 12 :10⇒ばんや買い物 12:50 / 13:05→七里川温泉 14:30 入浴・炉端焼き 14:30 / 17:00 オリエンテーション 17:30　夕食・交流会 18:00 / 19:45			
日程 2日目	七里川温泉前 7:50→清澄寺 8:45 / 9:10⇒一杯水林道 9:25 ⇒ツクバネ樫 大平道入口 9:55 / 10:00 ⇒烏帽子山（昼食）11:20 /11:45⇒鶏毛山 13:20⇒民地⇒13:40 / 13:50 ⇒ 下 山　14:10 ⇒ 坂 本 駐 車 場 14:20/14:25→干物センター14:30/14:45 ⇒濃 溝 の 滝　15:15/15:45　⇒ 市 原 Ｓ Ａ 16:55/17:05 ⇒鎌ヶ谷市役所 18:45/18:50⇒我孫子駅北口 19:15			
ルート状況	・昨年は道の崩れ等があり清澄寺で終了したが後半の一杯水林道からの東大演習林を通り坂本までの 11 キロのコースとなった。 ・演習林入口は「ツクバネ樫」が目印でW0 の記号がありW45 まで 100ｍごとの記号をたどりながら歩く。 ・派生する道が多く、演習林関係者以外はなかなか分かりにくく、県連ロングハイクは房総の山を知る良い機会となっている。 ・鶏毛山からは新ルートとしてマテバシイの林を抜け坂本に下りるコースをとり時間短縮できた。			
参加者	高橋芳(L) 外崎蓮(SL) 箕輪カ 高橋英 石塚　大平、深草　蟹江 吉澤　小林安 男性 3 名　女性 7 名　　計 10 名			

概念図



＜９８４＞

倉岳山

（990m）

横尾　美知子

冠雪した周りの山にワクワク



峠道文化の森へ　↑



山頂にて

前日リーダーの坂巻さんから「天気予報ではお昼ぐらいまで持ちそうなので、山行は実施します」のメールを頂き、午後からは倉岳山付近は雪マークの予報も出ていたが出発時は薄日もさしてまずまずの登山日和。

無人の鳥沢駅で降りてまずトイレ探し、25m位歩いた小学校の脇に本当に臨時のトイレがありました。

今日は総勢８名のメンバーです。坂巻リーダーの掛け声でまずラジオ体操をしてから出発です。桂川に架かる虹吹橋を渡って古い大きな屋敷が並ぶ集落を抜けるとかわいい鳥居の「山の神神社」があり、そこで今日の山行の無事をお願いしておきました。土手を上って行くと小篠貯水池にでました。

深いエメラルドグリーンの静かな水面に山が写し出されて、とても神秘的な感じでした。

飲み水に利用されていると言う、とてもきれいな水の流れのオシノ沢に沿って枯葉を踏みしめながら登って行くと石仏のある分岐に出た。これから穴路峠へと向かう。昔の人は旅の無事を石仏にお参りしながら歩いたであろう道に歴史の深さを感じる。

穴路峠から急登が続き、周りの樹木の間から雪を冠った山が連なって間近に見えるのが何だか凄い山に来ているようなワクワクした気持ちになった。

倉岳山まで苦しい登りが続き、なかなか頂上へはたどり着かない。漸く三度目の正直で道標が見えて到着。その頃には天気予報通り雪もちらついて来た。

大月市の「秀麗冨嶽十二景」にも選ばれている富士山の姿は残念ながら今日は眺められない。でも富士山の見える方向を向いてそれぞれのマイ富士をイメージしながら昼食を済ませた。

「ストックは長めにして」のアドバイスを受けて、ここからは急な坂道を滑らないように慎重に下る。立野峠からは植林帯を歩くので雪除けになって濡れないのが助かる。

枯葉の下に所々雪があったり、凍ったりした箇所があるので緊張して歩く。

月夜根沢を何度か徒渉を繰り返しながら深川大橋を渡り、無事に梁川駅に着いた。

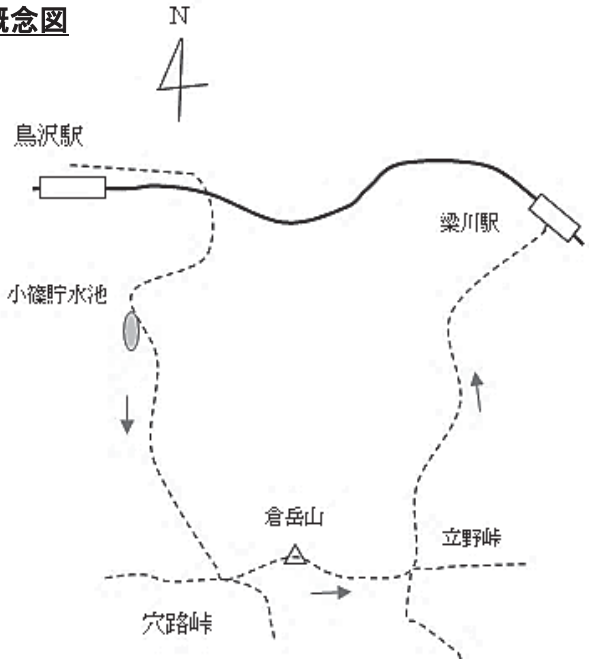
富士山は見られなかったが、村と村を結ぶ生活道路として昔から歩かれていた歴史ある穴路峠と立野峠、どちらの峠も昔の人はどんな思いでこの峠を越えたのであろうか当時に思いを馳せながらの山行は充実したとても楽しい山行でした。



概　　要

山名	倉岳山		
月日	平成２９年２月５日（　日　）		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000　大月
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２Ａ
目的	穴路峠、立野峠の古の旅路を歩く。　陽だまり山行		
費用	約　３，０００円	交通機関	ＪＲ
日程	我孫子駅 6:10→新松戸 6:23/6:28→西国分寺 7:25/7:38→ 高 尾　8:01/8:07→ 鳥 沢 駅 8:38/9:00⇒小篠貯水池 9:40⇒穴路峠 11:20⇒倉岳山 11:50/12:10⇒立野峠 12;40⇒梁川駅 14:00/14:26→高尾駅 14:51/16:09→西国分寺駅 16:31/16:35 新松戸 17:33/17:39→我孫子駅 17:51　解散 ＜歩行時間　４時間１５分（正味）＞		
ﾙｰﾄ状況	・登山道の標識はしっかりしていて道迷いはしにくい。 ・登山道の整備が行き届いている ・雨にぬれると、登山道の石や岩は滑りやすい。		
参加者	坂巻(L)、高橋英、高橋芳、石塚、室崎、横尾、小林安、蟹江 男３名、女５名　計８名		

概念図



＜９８５＞

大野山
（723m）

室﨑　宏治

箱根、金時山、相模湾も一望



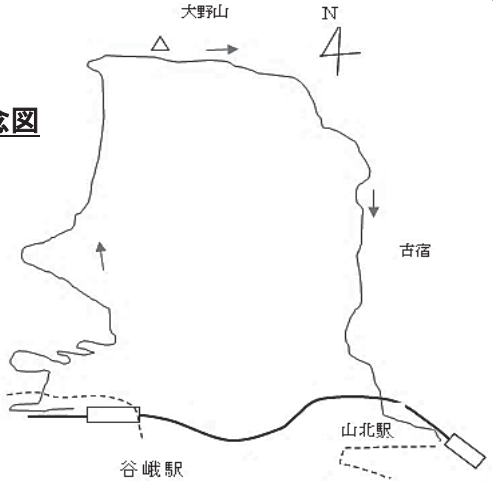
箕輪完二さんの、 伊豆半島･礫岩の話







概念図



常磐線より上野で湘南ラインに乗り換え一気に国府津まで行き、御殿場線で谷峨まで行った。無人駅である。駅前ここでラジオ体操第一をし橋を渡って林道を超え登山道をとうり頂上まで。途中に地産のものを売っているところがあった。トイレもログハウス風で綺麗。ところどころ一木彫のものがあった。頼朝桜の大木がある。景色は素晴らしいほど良かった。富士山や、箱根連山や、また相模湾が一望。伊豆大島と。

田子浦ゆ うちいでてみれば 真白にそ
不二の高嶺に 雪は降りける　　山部赤人

田子の浦まで行かなくてもここでよく見える頂上付近に上るとカヤが狩ってあった。近所の女性が登ってきて、少し前まではみんなで刈ったのだそうだ。今は高齢化で。林道と交差し登山道を登る。おばちゃんはしんどいから林道を登る。途中屋根付きの休憩所がある。電波塔を過ぎると頂上である。余り人はいない。雪はこの辺りには積もっていた。記念写真を撮る。まわりを見ると丹沢山塊や丹沢湖がみえる。箱根の山も、金時山も尾根が綺麗にみえる。大涌谷から噴煙を上げている蒸気もみえる。駿河湾も一望、伊豆大島もみえる。

ここで箕輪完二さんにこの辺りの地形について説明を受ける。

「伊豆半島は遠い昔島だった。それがプレートに乗って日本列島に衝突(1 年で 4cm 移動)した。丹沢山系もそれにより形成された。礫岩は海底で砂礫や土砂が堆積し、長い年月をかけ圧力を受け岩石となった。サンプルの石をもつて説明を受けた。写真参照。」

食事を取り下る。富士山のよくみえる草原で、おにぎりとあたたかいお茶だけであるが爽快な自然の中で食べる食事は美味しい。草原の先は牧場の小屋がある。ここで種付けをした後、下に降りるころはお腹が大きくなっているそうだ。人と山との深いつながりを感じた。

駐車場がある。トイレも。ここにも一木彫の作品が並んでいる。草原の先は急な坂になっている。長々の階段を下がる。うねりながらさがる。途中猟師が鹿を射止めていた。鹿が谷に落ちて、応援を呼んでいるようだった。道なりに下がると炭焼き小屋があり、竹炭をやいているものがいくつかあった。林道を下り、所々に花が咲いている、ミツマタ、ジンチョウゲ等。

何の木の花とは知らず匂い哉　　芭蕉

桜の蕾も、近道をとおるため路地に入ると民家の花が咲いていた。

名の付かぬ所かわゆし山桜　芭蕉

ガール下をとおり車道をとおり鉄道ぞいに行くと山北駅がみえる。其処の近くの桜湯に入る。綺麗なお風呂である。

御殿場線に乗り国府津駅前のラーメン屋さんに入る。ここは餃子が美味しい。ラーメンの種類も豊富である。いまは梅祭りをしていてシャトルバスが出てそうだ。



富士山

概　　要

山名	大野山		
月日	平成２９年２月１２日（日）		
山域	丹沢	地形図	1/25000
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１A
目的	①　冬の低山を歩く。 ②　陽だまり山行御殿場線に乗る。		
費用	３３１０円	交通機関	JR
日程	我孫子駅 5:31→上野 6:04/6:17 小田原行→東海道線国府津 7:37/JR 御殿場線 7:47→谷峨駅 8:19/8:35 ⇒登山道入口 9:00/9:08⇒林道 9:25 大野山山頂 11:00/11:40⇒地蔵岩ルート入口 12:30⇒共和小学校 12:40⇒都夫良野入口 13:00⇒温泉入浴 13:35/14:25　⇒山北駅 14:43⇒東海道線国府津 16:34→品川駅 17:34/17:46→ 柏 駅　18:31→ 我 孫 子 駅 18:41→東我孫子駅 18:46→湖北駅 18:50→新木 18:53　　＜行動時間４時間 20 分＞		
ﾙｰﾄ状況	・ルートは標識がはっきりしていてわかりやすい。 ・谷峨駅からの登り坂途中にログハウスの綺麗なトイレと頂上にトイレ有った。 ・途中に頼朝桜の巨木があった ・雪は頂上のみあった。 ・頂上から山北駅迄の途中に炭焼き小屋あった。現在稼働中。炭焼を見たい人にはお進め。竹炭焼き小屋。		
参加者	室崎宏（L)、外崎（SL)、藤家、小林安、村越､箕輪完（ゲスト)、室崎育（ゲスト） 男性３名、女性４名　計７名		

＜９８６＞

三国山稜縦走・石割山

（1,325m）　（1,413m）

蟹江　和子

一面の銀世界　雪山満喫



公園墓地を出発　かすかなトレース

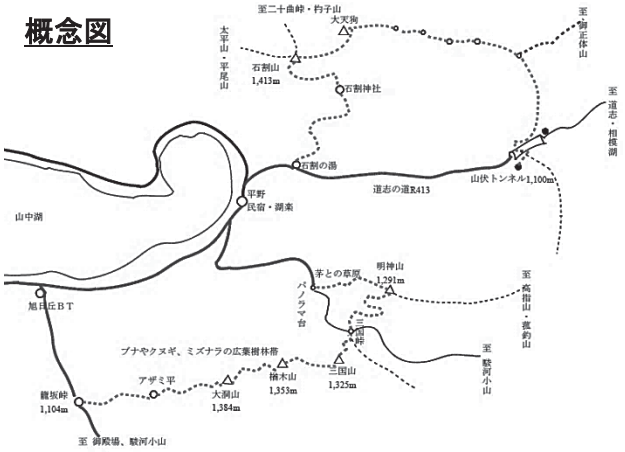
東京駅八重洲南口バス発着所から小田急１号で御殿場乙女口に、タクシーで篭坂峠に行き歩き始めました。

一面の雪景色の雪山登山は、私にとって初めての経験で、とても緊張しましたが、天候に恵まれ、寒くもなく風もなく雪山初心者の私には、登山日和でホッとしました。歩き始めから、足元の雪ばかりが気になり歩いていたのですが、皆さんに「真っ青のきれいな空を見てごらん！」と言われ、初めて空を見上げ、素晴らしい空の色に感動しました。一面の銀世界の景色に、童心にかえったような楽しさ嬉しさが起こり、それまでの緊張感が少しですがほぐれました。また夏山とは違う自然の景色を味わうこともできました。

石割山の頂上から見た富士山の雄大な姿には圧倒されました。真っ青の空と真っ白な頂きの富士山の素晴らしい光景を初めて見ました。その富士山を目の前にして、おにぎりをほうばった時の至福のひと時は、生涯忘れることのない思い出に残る事でしょう。

あんなにお天気が良かったのに、ダイヤモンド富士を見られなかったのは残念でしたが、緊張しながらも、素敵な仲間との山行で雪山を満喫できました。参加する直前まで、「初めての冬山、雪は大丈夫だろうか？」緊張の毎日でしたが、「雪山の歩き方」、「アイゼンの付け方」など、皆さまのきめ細かいアドバイスで２日間怪我もなく、山行を終了することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有り難うございました。民宿の「ワカサギのから揚げ」も、とても美味しかったです。

概念図





大洞山（角取山）



石割山山頂　富士山と南アルプス連峰

概　要

山名	三国山稜縦走・石割山		
月日	平成 29 年 2 月 12 日（日）～13 日（月）		
山域	忍野／道志山塊	地形図 1/25000	御正体山
形式	民宿泊	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	２A～B
目的	①新雪の広葉樹林帯を散策　②富士／南アルプス展望　③ダイヤモンド富士		
費用	16,500 円	交通機関	ＪＲ、小田急箱根高速バス、タクシー、富士急行、民宿送迎車
日程 1日目	我孫子駅 5:31→柏駅 5:35→上野駅 6:04/6:11→東京駅 6:20⇒八重洲南口 6:50→首都高・東名自動車道→御殿場駅 8:20/8:35→ﾀｸｼｰ→1,100m 籠坂峠 9:08/9:20⇒あざみ平 10:25⇒衣服調整 5min.⇒大洞山〔角取山〕1,383m〔昼食〕11:25/11:50⇒楢木山 1,353m12:35/12:38⇒ズナ坂峠 12:55⇒三国山 1,325m13:00/13:15⇒三国峠 13:50/13:55⇒明神山〔鉄砲木の頭〕1,291m14:25/14:28⇒パノラマ台 15:00/15:25→送迎車→民宿湖楽 15:30/16:10→送迎車→石割の湯 16:15/17:30→送迎車→民宿湖楽 17:35 ＜歩行時間:4 時間 40 分＞		
日程 2日目	民宿湖楽7:20→送迎車→山伏トンネル脇神社入口7:35/7:40⇒衣服調整5⇒ｱｲｾﾞﾝ装着5⇒御正体山分岐9:10/9:15⇒水休憩5⇒大天狗／石割山分岐〔⇒大天狗往復〕⇒石割山 1,413m11:30/12:00⇒石割神社12:30/12:35⇒石割の湯13:15/14:45→ﾀｸｼｰ→旭日丘ﾊﾞｽﾀｰﾐﾅﾙ14:45/15:20→富士急高速ﾊﾞｽ→中央高速経由→東京駅八重洲北口降車場18:25⇒上野東京ﾗｲﾝ14号車19:03→柏駅19:42→我孫子駅19:50　＜歩行時間：4時間35分＞		
	・籠坂峠からこの縦走路の入口は公園墓地の中を通っているので最初は？？！！ ・登山口の籠坂峠の標高が1,100m、樹霜する山々の標高が1,300～1,400なので緩やかな雪原を逍遙できる ・展望はないと云われていたが今回は落葉期で樹幹越しに富士も南アルプスも愉しめた ・標高が高いので雪質が良く殆ど濡れることはなかった ・入山者が少ないのかトレースが全体的に乏しく、顕著な山ではないのでリボン探しを始めルート探しには苦労したがそれがとても愉しかった ・無線をやる方が大洞山の山頂でアンテナを張っており、その方のトレースを辿ることが出来た		

ルート状況	・大洞山~三国峠は地図読みと山勘でクリアすることが出来た ・三国峠へは一気に急下降、アイゼンを付けないで歩いていたのでチョットキツかった ・鉄砲木の頭〔明神山〕は茅戸に覆われた山で道は明瞭、山頂からの富士、山中湖のパノラマは素晴らしい ・翌日も快晴に恵まれ、宿の車で登山口まで送って戴いたが、登山には余り詳しくないご様子で、我々が登る登山口が山伏トンネルの山中湖側で好いのか、道志側なのか？唯、山中湖側から登り始めた方もいた様子なので挑戦してみることにした。旧山伏トンネルの先に立入禁止の工場のような建物が有り、その手前に朽ちかけた神社が有り、踏み跡が残されていた。この踏み跡を追ってみると暫く登ったところに再び神社が有り、そこで踏み跡は終わっていた。途中で踏み跡が別れたところがあったのでそこ迄下り、そこから分岐した側に登ると踏み跡は怪しくなるも道状になり、所々リボンも下がっているのでこれを登ると尾根に飛び出し、右に行けば御正体山の標識があり、道志側から細い踏み跡が登ってきて小さな四つ辻になっていた！ ・石割山へは殆ど踏み跡はなく、交替でトレース踏みを行う。①リボンのチェック、②境界線のチェック、③木立がアーケード状になっているところ、④雪面の固まってるところ、⑤地図とチェックしながら登りは山頂を目指す、踝から時折膝くらいまで潜る。なかなか経験することがないので大喜びで交替し合った ・地図に出てこない〔アップダウン20m以内〕ピークがいくつか現れ、苦戦する ・未公認最高峰の大天狗に登ったあと、ピークを捲き気味の道を行くと直ぐに鉄塔のある山が石割山で、富士山と山中湖が真っ正面に、南アルプスの聖岳、赤石岳、悪沢岳、白根三山、甲斐駒ヶ岳が突然に現れた ・石割山から石割神社への下りは急降下！ ・ほぼ林道状になった道を30分も歩くと別荘やグランドが現れると石割の湯は直ぐだった
参加者	大山(L)、桐生(SL)、矢野貞、齊田、本田、矢野裕、田村、蟹江 男性1名、女性7名、　計8名

＜９８７＞卒業山行

日和田山～物見山
（305m）　（375m）

深草　茂美

新人教育研修総仕上げ
絶好のハイキング日和
青空の奥武蔵の山々、雪の富士山



日差しが透けて通る明るいテントの中での昼食は格別



物見山山頂

“はじめに”

本山行は､昨年３月から今年２月にかけて、新入会員向けに月 1 回開催して頂いた教育研修会の一環として、新人担当指導者の郷田さん、外崎さんよりアドバイスを頂きながら実施しました。山行の企画から実施は、教育研修会受講者７名が主体となって行いました。

又、山行計画書は、新人会員教育研修の総括の山行であることを踏まえ、昨年 10 月 5 日より定例集会後の 3 回の打ち合わせと、メールによる意見交換を行い、参加者全員で作成しました。また当日用事のある方 2 名を除いた５名で、１月 21 日（土）に下見を行い、山行計画書の不備の見直しを行っています。

当日はよく晴れた、風のない暖かい、絶好のハイキング日和となりました。目的地の高麗駅に向かう電車の中では、日本山岳検定協会「山の知識検定」ブロンズコースから出題のペーパテストを行いました。本テスト結果については、当日反省会の席で指導者の方より、山行内容と合わせて講評を頂いています。

高麗駅から集落を抜けて、日和田山登山口で、郷田さんと外崎さんより丁寧な説明を受けながら、コンパスと地図をもとに、1 回目の地図読みを行いました。女坂に入る前の鳥居付近で 2 回目の地図読みを行いました。女坂を登って、林の中を進み日和田山山頂の前にある金毘羅神社にて 3 回目の地図読みを行いました。この 3 回の地図読みで「国土地理院 2 万 5000 分の 1 の地図」を読みながらの山行の実際を、学習しました。

金毘羅神社からは、高麗駅周辺の家々、その先に高層ビル群と奥武蔵の山々、さらに先に白い雪を冠した富士山のパノラマを目の前に展望し感動しました。

金毘羅神社に参拝後、樹木が茂る日和田山山頂に登り、山頂標識の前で集合写真を撮りました。日和田山から林道を下りアンテナ鉄塔脇を通過し後、車道を数分歩き、公衆トイレと東屋がある、展望が開けた場所で休憩をとりました。ここでも、春を感じさせる少しカスミがかかった青空を背景に、富士山と奥武蔵の山並みの、美しい眺めを楽しむ事が出来ました。再び林の中の山道に入り 30 分弱歩いて、テント設営実習と昼食予定地の物見山山頂付近の広場に到着しました。広場は、10 名位のハイカーが、三々五々休憩をとっていました。まずは、広場から 2 分ほど離れた林の中にある三角点のある場所に行き、山頂標識の前で、集合写真を撮りました。

その後、広場に戻り、指導者の方と、新入会員ながら登山経験豊富な小林隆さんから、アドバイスを頂きながら、テント設営とあらかじめ下ごしらえをした材料の豚汁をバーナーで煮る等の野外調理をしました。調理した豚汁と、外崎さんから差し入れて頂いた“ちらし寿司”を､皆でテントの中で頂きました。日差しが透けて通る明るいテントの中での昼食は格別に美味しい味がしました。

昼食後テントをたたんで､物見山を後に樹林帯を下って、北向き地蔵に出ました。そこから車道を暫く歩き、途中、五条の滝を見て、予定時間通り武蔵横手駅に到着し卒業山行は無事終了ました。

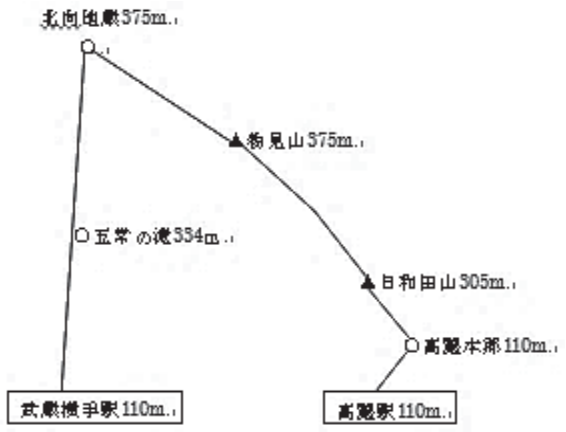
“総括”

当日は好天となり、新入会員教育研修会の最後を締めくくる山行を、気持ちよく行うことが出来ました。外崎さんからは、手料理の桜の香がする美味しい“ちらし寿司”を、3段重箱で持参して、差し入れて頂きました。郷田さんからは登山知識整理のためのペーパテストを準備して頂きました。同行して頂いた、指導者の方々には、本山行にこの他色々と格別のご気遣い頂いた事を、お礼申しあげます。

今回実施できなかった学習項目で実技実習ができてない項目に岩登り（ロープワーク）と雪上山行があります。岩登り（ロープワーク）は 5 月に実技指導の為の山行を予定して頂いています。また雪上山行については、別途、定例山行にて個別にご指導をよろしくお願い申しあげます。

“おわりに”

１年間新人会員を面倒見て頂いた、郷田さん、外崎さん及び、講習のため貴重な時間を割いて頂いたリーダ各位に、新入会員一同より感謝を申し上げます。教育研修を通して登山技術を高めて頂くばかりでなく、新人会員同士の絆も深めることができました。大変有難う御座いました。今後、先輩会員の皆様と、楽しく安全な山行を行いたく、一層の登山技術向上に努める所存です。今後とも引き続きご指導程よろしくお願い致します。以上



概　　要

山名	日和田山～物見山		
月日	平成 29 年 2 月 25 日(土)		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000　飯能
形式	日帰り	グレード	１Ａ
目的	第 21 期卒業研修山行（机上学習事項を実山行で再確認する）		
費用	4,340 円	交通機関	JR、東武東上線
日程	我孫子駅 6:01→日暮里→池袋駅 7:05（車中ペーパテスト）→高麗駅 7:58/8:15⇒高麗本郷 8:30⇒日和田山登山口（衣服調整、地図読み)8:40/8:50⇒女坂[鳥居]（地図読み）8:55/9:00⇒金刀比羅神社（地図読み）9:10/9:20⇒日和田山山頂 9:30⇒鉄塔下（休憩）9:55/10:05⇒物見山山頂（テント設営、調理、昼食） 10:20/11:55⇒北向地蔵 12:25/12:35⇒五常の滝 13:05⇒武蔵横手駅 13:35/13:47→飯能駅 13:58/14:06→池袋駅 15:15/15:25→我孫子駅 16:13 反省会とペーパテスト指導者講評：我孫子コ・ビアン　16:30/18:10 ＜歩行時間：2 時間 55 分＞		
	・ルートは、よく・整備れた緩やかなハイキングコースである。分岐点には、全て最近設置したと思われる道標があり、道標に沿って歩けば迷うことない。但し、両山とも三角点があるが、なぜか三角点を示す道標がなく道標頼りに歩くと、三角点を見逃す可能性がある。 ・日和田山山頂手前の金毘羅神社及び、物見山山頂に向う途中の公衆トイレとあずまやがある場所は、見渡がしよく、広大な関東のやまなみの先に富士山も望める絶景ポイントがある。 ・行程に記載ある女坂、北向地蔵の名称は国土地理院 1/2.5 万の地図には標記はない。		
	深草(L)、小林隆(SL)、横尾、小林安、蟹江、吉澤、渡辺、郷田（指導者）外崎（指導者） 男性 3 名、女性 6 名　計 9 名		

日和田山山頂



＜９８８＞

鎌倉ハイキング・衣張山

（120m）

齊田　記代美



山頂

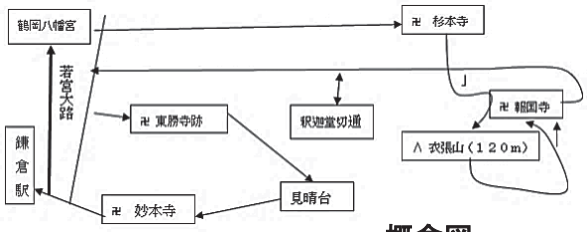
我孫子駅７時１９分発品川行きに乗車する。いつもの山行よりずっと遅い出発だ。その上お天気も良く、のんびりした気分になる。品川で乗り換え９時過ぎには鎌倉駅に到着。

先ずは鶴岡八幡宮に参拝。駅からの参道「若宮大路」の段葛を歩く。歴史をたどりながらのんびりハイク。本宮前の大イチョウに生命の継承を感じ、参道では雅楽の演奏に合わせて挙式の入場を見せていただき、幸先の良いスタートとなる。全員が、地図と案内板を見ながら、一列になって歩くが車の往来が激しい。

次に鎌倉で最古の寺といわれる杉本寺を参拝する。梅の花は終わりかけていたが、本堂の萱葺き屋根とはとても山寺らしい雰囲気が漂っていた。

いよいよ住宅地と別れ、山道に入る。石像や“やぐら”という中世のお墓などがあり、古くからの信仰を感じさせる。山頂は海に向かって開け、霞んではいたが、雲の中から頭を出した富士山を眺める。箕輪さんが餡子とお餅を、室崎さんがコッヘルとガスを持ってきてくださり、お汁粉を作っていただく。山頂からの眺望とお汁粉を楽しんだ後、住宅地に下る。途中竹の庭園で有名な報国寺もあったが、竹のきれいな時期に来ようと宿題を残す。次に釈迦堂切通を見に行く。崩れる可能性があり通り抜けられないと聞いていたが、ずっと手前で完全にバリケードで封鎖されていた。カフェに入り、お茶とケーキで休憩する。オシャレな気持ちで“鎌倉“を楽しめた。

再び祇園山ハイキングへ向かう。ちょっとした山道で、雨上がりの時は靴底のしっかりした靴がよい。下山した所が八雲神社の細い脇道で、ここから登るときは道がわからないのではと思えるところである。その後、鎌倉駅に向かう。途中の妙本寺も由緒あるお寺で、まだまだ鎌倉は見どころいっぱい、また来たいねといいながら帰路についた。



概念図

概　要

山名	鎌倉ハイキング・衣張山		
月日	平成２９年２月２６日(日)		
山域	伊豆・箱根・湘南	地形図	1/25000 鎌倉
形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	１Ａ
目的	鎌倉の歴史をたどる		
費用	３，０００円	交通機関	ＪＲ　上野東京ライン・横須賀線
日程	我孫子駅 7:19→（上野東京ライン）→8:10 品川 8:14→（横須賀線）→9:03 鎌倉駅 9:15 ⇒鶴岡八幡宮 9:40⇒杉本寺 10:30⇒犬懸橋（衣張山ハイキングコース入口）10:35⇒衣張山山頂 11:00（昼食・お汁粉タイム）11:40 出発⇒報国寺 12:25⇒13:20　鎌倉カスター（ティータイム）13:55 出発⇒　宝戒寺入口 14:05⇒　東勝寺跡 14:10⇒見晴し台 14:40⇒　八雲神社 15:00⇒妙本寺 15:20⇒鎌倉駅 15:30＜歩行時間：３時間３０分＞		
ﾙｰﾄ状況	・往復上野東京ライン利用。乗り換え一回。 ・案内板はしっかりあり、迷うことはない。 ・標高１２０mといえども、山道であり、濡れていると滑りやすいと思った。		
参加者	齊田(L)、本田(SL)、箕輪カ、中村八、矢野裕村越、石塚、室崎、高橋富、箕輪完(ゲスト) 男性１名・女性８名・ゲスト１名計 10 名		



創立２０周年記念行事

イベント　7月16日（土）

式典
講演　「遭難事故」
演奏　マンドリン
落語　古典落語
展示　やまたん史・山行地域地図一覧
懇親会

集中登山　9月30日（金）～10月2日（日）

番号	山行	期間
961	至仏山（夜行日帰り）	10/1（夜行）-10/2
962	尾瀬ヶ原～至仏山（1泊2日）	10/1-2
963	燧ケ岳～至仏山（2泊3日）	9/30-10/2
964	燧ケ岳～至仏山～アヤメ平（2泊3日）	9/30-10/2
	懇親会	10/2

イベント

来賓・OB迎え

多彩な催しで20年を祝う



プログラム

日時：7 月 16 日（土）13:30～18:30
会場：我孫子南近隣センター９階ホール
参加人数：６２名
（来賓 5、会員・会友 37、OB13、家族・知人 7 名）

式典　13：30～
会長挨拶　武内勇二
会創立者挨拶　村松敏彦
来賓祝辞
千葉県労山連盟会長　広木国昭氏
ﾊｲｷﾝｸﾞ委員長　桑原年一氏
元会長　柴勇氏
元会長　大串秀雄氏
元会長　中村隆泰氏

講演　14：05～
演題「すぐそこにある遭難事故」
講師　金邦夫氏
（前警視庁青梅署山岳救助隊副隊長）

演奏　15：45～　マンドリンと歌
出演　イフマンドリーノ

落語　16：05～
演題「粋」
講師　三遊亭左圓馬師匠（真打）

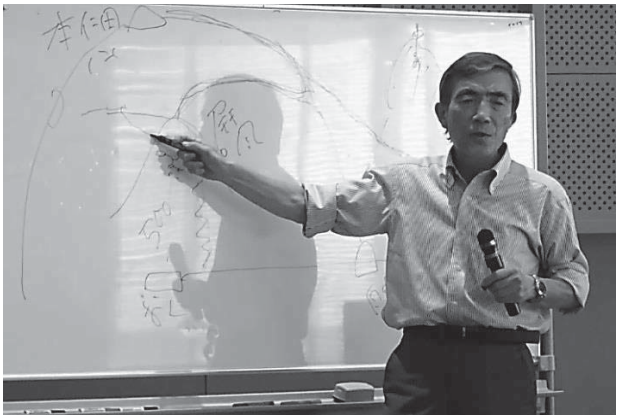
懇親会　17：10～



左から、歴代会長中村隆泰氏、大串秀雄氏、柴勇氏
挨拶する武内会長、県連の桑原氏、 広木氏



挨拶する村松氏



講演「すぐそこにある遭難事故」 事故例を DVD でわかりやすく説明する講師の金邦夫氏



時事問題を軽妙な語り口で　三遊亭左圓馬師匠



懐かしい曲を演奏　イフマンドリーノの皆さん

式典　会長挨拶

創立時の志継ぎ、「成人」に成長した会

会長　武内　勇二

労山千葉県連会長広木様、県連ハイキング委員長桑原様、元岳人あびこ会長の柴様、同じく大串様、同じく中村様、同じく石垣様、岳人あびこ会員・会友、OB ならびに関係者の皆様、本日は、岳人あびこ創立２０周年祝賀会にご出席賜り厚く御礼申し上げます。岳人あびこ会長の

武内でございます。会を代表して、一言ご挨拶申し上げたいと思います。岳人あびこは１９９６年１０月に、志を同じくする８名により創立、第１回山行は、そぼ降る雨の会津朝日岳へのテント山行だったと聞き及んでいます。以後年を重ね、人間でいえば２０歳の成人に成長いたしました。創立当初の熱気は、会則第２条に「この会は安全登山を基礎に、一人ひとりの好みと能力に応じた楽しい山行を目指し、自然との関わりを通して仲間との親しみを育むと同時に豊かで質の高い登山を目指すことを目的とする」と高らかに宣言されています。現在は、創立メンバー８名の内、会員１名、会友２名を残すのみですが、その志は後輩たちに受け継がれ、会山行のバックボーンになっております。

登山は危険と隣り合わせのスポーツです。危険を事前に察知し、回避する能力が必要です。これまで、こうした能力を身につけた「自立した登山者」となるために、登山の基礎講座や研修、山行等様々な機会を通じて、会員の意識を高める努力を続けてまいりました。この２０年間、事故で２名の友を失ったことは痛恨の極みですが、教訓を無駄にせず安全登山の意識を高める心掛けが必要です。

この後、永年に亘り奥多摩の遭難救助にご尽力された金邦夫先生よりご講演いただくことになっており、安全登山について今一度真剣に考えてみる良い機会になればと願っています。

現在、当会には我孫子、柏両市の住民を中心に４０名の会員と７名の会友が在籍しています。創立以来１度でも会員として当会と関わりを持たれた方は１４５名の多きを数えますが、シニア―層が多いこともあり、ここ数年、会員数は良くて横ばい、手を打たなければ徐々に減る傾向にあります。創立２０年を一つの通過点として、これからの会の活性化のためには、あらゆる機会、手段で会員勧誘を続けてゆく必要があると痛感いたしております。

岳人あびこは、地域社会との交流にも注力して参りました。一般市民参加を目的とした市民登山は毎年休まずに実施、今年で２２回を数えるに至りました。毎回好評で、市民の延べ参加者は今年で４４９名を数えています。また、市内の施設に通う障害をもつ人たちと、共にハイキングを楽しもうと２００２年から始めたボランティア山行も、台風や洪水で中止になることもありましたが、１１回実施し延べ１４８名の方に山の自然を楽しんでいただきました。

創立以来２０年の間に、岳人あびこは９５０の定例山行、準定例山行を実施し、山行の概要・記録は、すべてやまたんに収録してきました。やまたんは、創立後半年後の、１９９７年４月に、会の情報誌として創刊号が発行されて以来のこの１９年間、１号の欠落もなく発行され、当月で２３２号を数えるに至っています。やまたんに加え、当会はもう一つの財産を有しています。山行の紀行文集「やまなみ」です。やまなみは、原則、１～２年に１冊のペースで発行され、現在までに１５号が発行され、２０１５年３月までの会山行８９０山行の紀行文が洩れなく掲載されています。２０周年を機会に、これら貴重な会の財産の散逸を防止し、今後に繋げていくために、やまなみ、やまたんの全号のＰＤＦ化が行われました。1枚のCDで、これらすべてがＰ／Ｃで閲覧可能となります。会員の皆様にどのような方法で配布するか目下検討を進めているところです。

登山を楽しむには１に健康、２に理解、３にお金の３つの要件が必要だとよく言われます。１の健康は、自分はもとより家族を含めてのことです。２の理解は、もちろん家族、そして３は、装備や交通費等山を楽しむだけのお金というところでしょうか。ここにお集まりの皆さんはこれら３要件を満たされている幸運な方々と思います。周囲の理解に支えられ、これからも安全に楽しい登山が出来るよう祈念して２０周年祝賀のご挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。



交流会で乾杯の音頭をとる　前会長石垣氏

イベント総括

創立 20 周年記念イベントを終えて

イベント委員長：高橋芳恵



会員、会友の皆様のご協力のもと、無事 20 周年記念イベントを終えることができ心から感謝申し上げます。今回の準備から当日の催事、終結までを簡単に報告いたします。

① 2 か月前の 5 月 16 日、会場確保のため 5 か所の近隣センターを同日同時間に申請し、第一希望の我孫子南近隣センターホールを確保しました。新谷さん、大畠さんの力でした。しかし他の近隣も 3 か所成功しましたがこれはお詫びをしてキャンセルとしました。

② イベント委員のほとんどが現役組のため会議は定例集会前 30 分として全体で 6 回 3 時間半の短時間で内容を共有しました。時間がない分、話が集約できたかと思います。

③ 各担当は責任感と創意、工夫の効果で当日素晴らしい働きができました。その裏には皆さん方のなみなみならぬ熱意の準備がありました。

④ 飯沼さんの習字、村越さんのプログラム、大山さんの文化力、所用のある中出席された小島さんの力も大きかったです。

⑤ 県連の皆様、元会長の皆様、ＯＢの皆様も快く参加いただき、改めて 20 周年の重みを感じました。村松さん、坂巻さん、外崎さん、大畠さん、田村さんには皆様を接待いただきました。また当日早くから北田さん、箕輪カオルさんの協力もいただきました。ホールでは会員すべての皆様に設営等ご協力いただき、盛り上げていただきました。

⑥ 講演、音楽、落語と盛りだくさんの内容となりましたがそれぞれ異なった趣が楽しめたのではないかと思います。

会場設営、展示、交流会、会計の各責任者からの報告をさせていただきます。

やまたん表紙と山行地域地図作成

展示担当　矢野貞子

２０周年記念行事を無事終えることができてホットしています。これは皆の力を纏めた芳恵さんの力の賜物です。また、たくさんのＯＢの方々にも出席いただけたのも、先輩達と山に行き今も現役で頑張る芳恵さんからの声掛けが功を奏したものと推察しています。

私は暇になったら、やまなみをＰＤＦ化してみたいとかねてから思っていました。創刊号から４号まで会長からお借りして４月から少しずつ進めながら、２０周年記念イベントに何を掲示したら良いか探していました。

また、やまたんの創刊号から昨年１２月分までのデータを会長から２０周年記念イベントに活用してほしいと預かりました。写真を飾るなら、古い写真の実物があるよと言われました。

やまなみをデータ化しながら見ているうちに一番登っている山はどこだろうと思い資料を纏め始めましたが、縦走等もあり複雑で、限られた時間の中での整理は難しいと断念しました。資料を纏めている段階で、岳人ではどの方面に行っていたのだろうと興味がわきました。そしてこれを２０周年記念イベントで皆さんに見て頂くことにしました。

会場を下見に行って、飾れる総量が分かった時点でやまたんから何を飾るかを検討しました。選ぶ基準は会場に来た方が掲示物の中に自分を見つけられること、その年の一番の山が表現できている表紙に拘って選び、印刷担当の矢澤さんにお願いしました。

やまなみからの掲示物はデータの整理に大幅な時間がかかりました。見せ方も考えました。日本地図をＡ４で印刷したあとＡ３に拡大、さらに大きくと拡大コピーしましたが思うようにはできませんでした。思考錯誤したあげくエクセルで日本地図を作りました。もう少し拡大すると線がぼやけてしまい限界でした。もう少し大きい地図ならば、場所を地図に示しその周辺に記録を置ければ良かったと思っています。

岳人あびこの２０年間の山行は、あと少しで１０００件になろうとしています。地域は北海道から九州の全国に及んでいます。一番多くは中央線を利用する沿線の山々１００件以上あ

りました。次に奥多摩、日光方面、北アルプスもかなりの数がありました。

山の位置を確認しながら地図上に落としていくのはとても楽しい作業でした。ただリーダーによっては方面の表現がバラバラで一山一山確認しながらの作業は大変でした。

当日の掲示はみなさんに手伝って頂き、スムーズに終わって良かったです。

ＤＶＤやＣＤの担当でしたがリハーサルで聞いていたのに、肝心なことを忘れてしまい出だし囃子が出ないで左圓馬師匠にご迷惑をおかけしてしまいましたが、全体的には上手く出来たかなと思います。皆様も楽しんでいただけましたか？

また、副産物のやまなみ、やまたんのＰＤＦ化の完了に伴い、何らかの形で会員にお配り出来れば２０周年の記念になるなと思っています。



20 周年記念式典を終えて

会場設営担当　林敏生

無事に式典を終えてホッとしています。式典グループと記念山行グループの希望担当仕分けの際には考えもなく前者を選択しました。式典、表彰式、講演会様々な会議等を、サラリーマン時代に数多く担当させられた(笑)こともあり、何かの役割担当になっても何とかなるのではと考えておりました。ただ一番不安だったのは希望日に会場予約が確保できるかでしたが、メンバーが分担して５か所の会場に申し込みに行ってみたものの、意外にも簡単に予約できたことは、メンバーの日ごろの善行が幸いした事としましょう。

南近隣センターはシンボルの手賀沼の眺めもよく、最高のロケーションでした。

私の担当は会場設営でしたが高橋芳恵リーダーと事前に会場視察を行い、ステージの移動、スクリーンの上げ下げ、音響の確認等をしたこと、当日式典グループ以外の方の積極、献身的なご協力もあり、短時間で５回に及ぶ設営もスンナリできました。皆さんお世話になりました。

式典において、会の発展を願う来賓、先輩のお言葉は大変ありがたかったです。

講演≪すぐそこにある遭難事故≫は、登山経験者であれば誰もが頭では理解していることを、再確認、再認識する上においてとても有意義であったと考えます。マンドリン演奏曲は、会員ほとんどの方の青春時代?の曲で非常に癒されたと思いました。アンコールもホッとしました。落語・≪粋≫は、一瞬古典落語かと思いきや、場を和らげて頂きさすが噺家だと改めて感心もしました。その後の懇親会での余興もサービス精神たっぷりでした。写真展は 20 年間の歴史を感じさせ、継続して発行された方々の熱意を感じました。懇親会料理は女性陣の細やかな気配り手配を感じたものですが、〈食べず嫌い〉の私はアルコールの消費に積極的に勤めましたが、あまりの量の多さに白旗です。

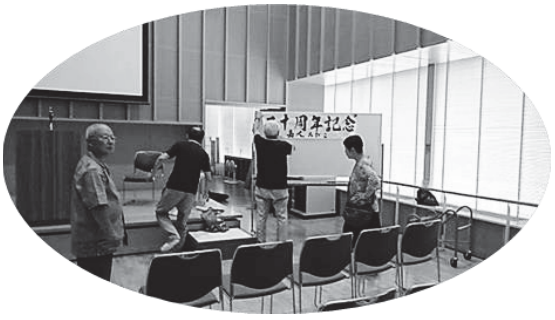
毎年開催するのでないので、都度違った式典もいいのではと思っています。最初から最後まで全部よかったです。毎年開催するのでないので、その都度一からの仕切り直しになるとは思いますが、都度違った式典もいいのではと思っています。

追記　5年後に開催されるであろう25周年に向けての反省点ですが、

①. 椅子は参加者数をぎりぎりに想定して配置

②. 前から詰めて座っていただく（前側の席が空き、後方に立つ方があった）

③. 式典前に携帯電源ＯＦＦの告知



20 周年記念イベントが終わって

交流会担当　　本田愛子

式典は来賓の方々のご挨拶、山岳遭難対策の講演、やさしい音色のマンドリン演奏、楽しい落語とイベントに相応しい内容と企画で大いに楽しめて好評でした。

そして、お楽しみの交流会が始まりました。

来賓６名･OB　１２名･会友、会員が４２名　総勢５９名でした。皆、懐かしい方達との再会で、お喋りと笑い声で司会のマイクの声が届かないほど賑やかな中、　前会長の石垣様のご挨拶

と乾杯の音頭で宴が始まりました。
交流会の準備にあたっては限られた予算だったので、人数の確認、料理のメニュー、配膳等を検討しながら立食パーティー形式にしました。心配しつつ当日を迎え、8 階の調理室に飲物等を運び、急いで冷蔵庫に入れて冷やし、漬物や乾き物をパーティー皿に分けて 9 階の会場の隅に運びました。手の空いてる人達がスピーディーに手伝ってくれたので、式典の時間には準備が整っていました。OB の S さんからのお惣菜や会員からお酒・ワイン・漬物・サラダ・果物・饅頭等‥の差し入れで、思っていた以上に豊富なメニューをテーブルに並べられて、皆さんに喜んで頂けたのではないでしょうか？
それはまた皆さんが会を盛り上げて下さる気持ちがあったからだと思います。
岳人あびこの為に記念イベントに来てくださった皆さんに感謝しています。これからも、会の発展のためによろしくお願いします。そして、また何年か後にお元気な姿で再会したいと願っております。



「なぞかけ」をする左圓馬師匠
サービス精神たっぷりの問いかけに、交流会はなごやかな雰囲気

イベント委員

委員長：**高橋芳恵**
会場設営:：**林　藤家**
展示・音響：**矢野貞　矢澤**
会計：**中村育　矢野裕**
諸準備：**小島**
交流会：**本田　石塚　飯沼　新谷　村越　渡辺**

講演・落語・演奏風景


「他人事ではない事故例」のDVDを
熱心に観ている参加者

交流会

大盛況の交流会
盛りだくさんの料理が並び
懐かしい人たちとの話は尽きず





山行懇親会

秋の尾瀬満喫

集中登山成功と20年祝う







記念山行懇親会

日時：平成 28 年 10 月 2 日（日）
15：00～17：00
会場：竜宮旅館（片品村戸倉 652）

プログラム

① 司会・進行　… 大畠清江
② 実行委員長挨拶… 村松敏彦
③ 会長挨拶　… 武内勇二
④ 乾杯音頭　… 高橋英雄
⑤ 演芸の進行　… 外崎　蓮
⑥ 閉会の挨拶　… 中村八重子



彩り豊かな弁当・演芸で賑やかな祝宴

実行委員　外崎蓮

秋色の尾瀬を堪能し、4 つの班が戸倉の竜宮旅館に集合した。（尾瀬ヶ原の中田代に竜宮小屋がある）用意して頂いた 3 階の和室にザックを置き、到着した班から直ちに入浴する。和室のテーブルにはお茶の支度もされていて、しばし、懐かしい面々との情報を交換しあった。3 時になり、1 階の食堂に集合し、班毎にテーブルに着く。一人前 1000 円のお弁当は彩りも良く、満足のいくものであった。大畠さんの司会でプログラムが進み、食事をしながら賑やかに歓談する。

4 時から演芸の部に移り、それぞれの班が趣向を凝らした出し物を披露し合った。いつ練習したのであろうか、手の込んだ芸や笑いを誘う踊り？で、和やかなうちに幕が下りた。

記念挨拶

創立 20 周年記念尾瀬山行終える

実行委員長　村松敏彦

「岳人あびこ」が創立 20 周年を迎えるに当たり、記念行事として、会員に行先についてアンケートを取り、尾瀬に決定したのは 5 月でした。早速、役員及びリーダーを決め、具体的な作業を始めました。
実行委員長：村松敏彦。副委員長：田村光子・大畠清江、事務係：外崎蓮・箕輪カオル、
山行リーダー：A 班坂巻、前夜発（日帰り）、至仏山、B 班桐生・高橋英、1 泊 2 日（小屋泊）至仏山、C 班田村、2 泊 3 日（小屋泊）燧ガ岳・至仏山、D 班武内、2 泊 3 日（テント泊）燧ガ岳・至仏山・アヤメ平。
懇親会は司会係：大畠清江、出し物係：外崎蓮、会計係：箕輪、北田。以上のスタッフで計画、実行して無事終えることが出来ました。各位の協力ありがとうございました。

創立者 8 名の中の一人として、この 20 年間はあっという間でした。振り返ってみると決して楽しく、愉快なことばかりではありません。個人的には創立以来、山行部長を 20 年間、会長を 1 期、千葉県連の遭難対策副部長を 6 年間、まさに「岳人あびこ」漬けでした。

色々な考え、個性、環境を持った成人が一歩間違えれば命を失ないかねない登山を趣味とするグループが、事故なく、一つの山行を終わらせることには多くの時間と会員の協力が必要でした。特に登山の基礎には多くの機会を作って事故の無い会を目指して来ました。

しかし、入会して来る人には個人的には過去の経験と個性を表面に出して、会の規則、慣例等、無視して独自に行動する人等が現れ、会の内部に軋轢等が生じ、会運営及び山行にも問題が生じたことがあったことも否定できませんでした。

今後、この会がどの様な進み方をするか解りませんが、山の会としての絶対条件として無事故で、自然を楽しみ、慈しみ、謙虚な心で仲間と接する人たちの集まりであることを切に希望します。

創立者として「岳人あびこ」の会員一同が協力しあって、20 周年を期にますます発展することを願わずにいられません。

20 周年記念行事を終えて

会長　　武内勇二

20 周年記念山行「尾瀬」は如何でしたでしょうか。計画時目論んだ、「ばっちりと快晴」、「最盛期の紅葉」とまではいきませんでしたが、至仏山・燧ガ岳登頂、尾瀬ヶ原散策等尾瀬の魅力を堪能されたかと思います。事故、怪我もなく、

全員、時間通りに下山して戸倉・龍宮旅館での祝賀パーティを楽しむことが出来ました。山行の実行委員と各リーダーの皆様の周到な準備と全員の協力の賜物と思います。これにて、7月の祝賀会（講演・音楽・落語）開催と合わせ、20周年記念行事は、全て盛況裡に終了することが出来ました。

一口に 20 年と言っても、その過程は決して平坦なものではありませんが、諸先輩の強力なリーダーシップのもとで、総じて活動が停滞することはありませんでした。東北大震災後の自粛ムードで 40 山行を割り込んだ年以外、年間の会山行数は常に 40 回を超え、創立以来の山行数は960回を超えるに至っています。ピーク時 70 名（2003 年）いた会員数が 32 名（2013 年）に落ち込み、現在は 42 名に回復していますが、入れ替わりは、激しく進んでいます。現会員の平均在籍年数は7年、10年未満の在籍者は28名と、全体の2／3を占めています。一方、在籍15年以上の会員も10名おりますが、10年～15年未満の中堅どころの会員数が4名と極端に少ないことです。高齢化とともに、これからも会員の入れ替えは進むものと思われ、会の運営体制は必然的に在籍年数の若い会員中心の運営に代わり、ベテランはサポート役に回ることとなるでしょう。全員の参画意識を高めることが望まれます。

今回の一連の 20 周年行事の盛り上がりを見て、会の底力を改めて感じました。岳人あびこの未来は明るいと信じる次第です。



演芸の部プログラム

・日帰り組　…　阿波踊り
・山小屋 1 泊組　花笠音頭、東京音頭、炭坑節
・山小屋 2 泊組　聖徳太子になれるかな？
・テント組　…　どぜうすくい

日帰り組



山小屋 1 泊組

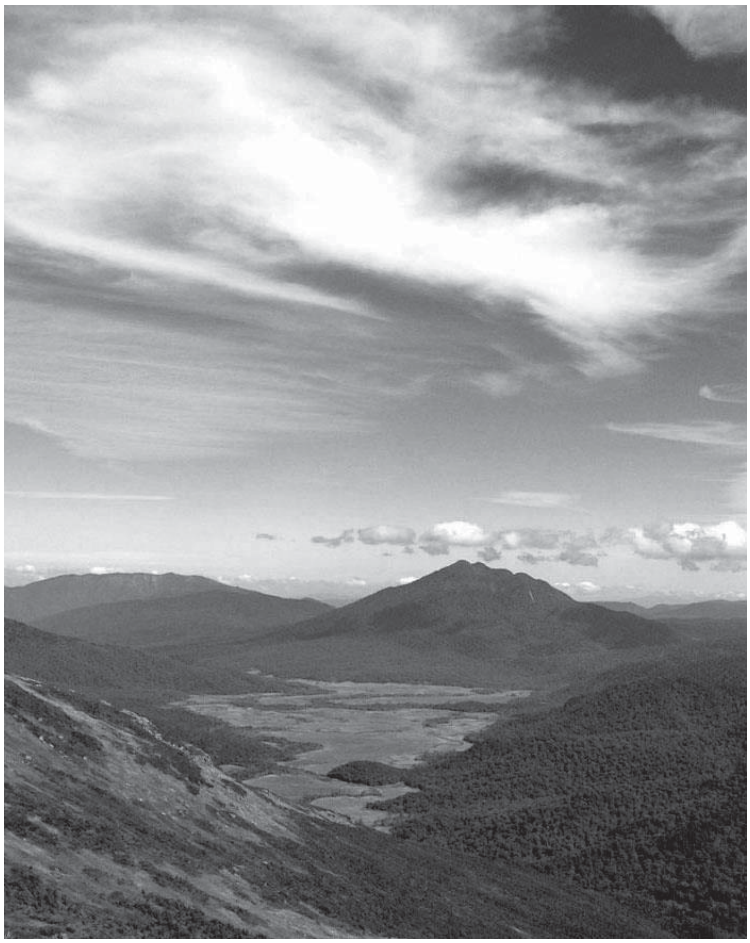


山小屋 2 泊組



テント組





新谷直恵氏 「至仏山を目指して」
（写真コンクール優秀賞）

資　料

山行一覧表（2015 年 3 月～2017 年 2 月）

活動の記録(2009 年度～2016 年度)

山行(山名)索引（1996 年～2017 年 2 月）

山行一覧表

平成２７年度　　（２０１５年3月～２０１６年2月）

No.	山　　名	山域	月　日	山行形式	G	リーダー	参　加　者	会員	一般
891	三角山～二子山	奥武蔵	3/14	日帰り	1B	村松敏彦	村松（L）外崎(SL) 武内 村越 大平 室崎 高橋富 北田	8	
892	鳴神山（新人歓迎）	桐生市北部	4/5	日帰り	1A	外崎蓮	**A班：**外崎蓮(CL) 坂巻(SL) 矢野裕 中村育 中尾 大平 高橋英 宮野(新人) 藤家(新人) **B班：**郷田(L) 本田(SL) 矢澤 矢野貞 齊田 高橋富 内田 武内 小島(新人) **C班：**箕輪完(L) 村越(SL) 高橋芳 末永 室崎 中村隆 村松 渡辺(新人)	26	
893	生藤山～陣馬山	中央線沿線	4/12	日帰り	2A	齊田記代美	齊田(L)大畠(SL)矢野貞(SL) 箕輪カ本田, 矢野裕, 村越, 石塚, 北田	9	
894	日向山	南アルプス周辺	4/26	日帰り	1A	郷田進	郷田（L）桐生（SL）高橋芳, 大畠, 田村, 本田, 村越, 矢澤, 林, 高橋富, 藤家, 高橋英, 箕輪完, 齊田, 外崎, 中村八, 武内, 大山, 矢野貞, 箕輪カ, 室崎, 北田, 小島, 室崎育（ゲスト）	23	1
895	伊豆ヶ岳	奥武蔵	4/28	日帰り	2A	中村育子	中村育(L) 瀬田(SL) 大山 室崎 北田 石塚	6	
896	毛無山～十二ヶ岳	御坂山塊	5/6	日帰り	2B	大畠清江	大畠(L) 高橋芳(SL) 中村育 矢野貞 矢野裕 大山 矢澤 村越 石塚 林 小島	11	
897	滝子山	南大菩薩	5/10	日帰り	2B	村松敏彦	**A班：**村松(L)大畠(SL) 大平 高橋富 北田 小島 **B班：**武内(L) 田村(SL) 郷田 石塚 藤家 矢野貞	12	
898	大山	丹沢	5/13	日帰り	1A	末永三江子	末永(L) 高橋英(SL) 箕輪カ 中村育 齊田 新谷 林 北田	8	
899	愛鷹連峰(越前岳)	富士周辺	5/17	日帰り	2A	高橋芳恵	高橋芳（L）大畠（SL）田村（SL）大山 箕輪完 矢澤 外崎 箕輪カ 瀬田 本田 林 室崎 中尾 矢野裕 細野(会友) 石塚 渡辺 高橋富 小島	19	
900	新三国峠～十文字峠～甲武信ヶ岳～西沢渓谷	奥秩父	6/4-5	山小屋	3B	高橋芳恵	高橋芳(L) 田村(SL) 大畠 中村育 矢野貞 末永 大山 矢澤 大平	9	
901	黒檜山（赤城山）～駒ケ岳（市民山行）	上州赤城山	6/7	日帰り	1A	武内勇二	**【A班】**村松(L) 高橋芳(SL) 中尾 矢野裕 林 ＜一般＞豊島 川端 関根 北田 上原 **【B班】**箕輪完(L) 外崎(SL) 大平 中村隆 小島 〈一般＞向治 向智 小野 三浦 **【C班】**郷田(L) 桐生(SL) 石塚 北田 〈一般＞大井 平柳勉 平柳美 松下 阿保 **【D班】**高橋英(L) 矢野貞(SL) 矢澤 宮野誠 〈一般＞小板橋 湯原清 湯原八 藪中由 **【E班】**武内(L) 中村育(SL) 室崎宏 藤家 〈一般＞岡 大内 室崎育 吉川	22	22
902	北大船山～大船山～久住山・由布岳	阿蘇国立公園	6/9-12	山小屋・山麓泊	3B	大山冬臣	大山(L) 中村育(SL) 齊田(SL) 本田 瀬田 石塚 高橋富 北田 桐生 矢澤	10	
903	瑞牆山・金峰山	奥秩父	6/20-21	テント	2B	外崎蓮	外崎(L) 村松 武内 田村 高橋英 末永 村越 石塚 （宮野浩） 高橋富 室崎 北田 藤家	13	
904	高ボッチ・鉢伏山～二ツ山	中信高原国定公園	6/25	日帰り	1A	村松敏彦	村松（L）外崎(SL) 大平 高橋冨 小島 北田	6	
905	唐松岳	北アルプス	6/30-7/1	山小屋	3B	大山冬臣	大山(L) 高橋芳(SL) 田村光 齊田 外崎 矢澤	6	
906	谷川　一の倉沢	谷川	7/23	日帰り	1A	高橋芳恵	高橋芳(L) 大山(SL) 本田 末永 渡辺	5	
907	白馬三山（白馬岳～杓子岳～鑓ヶ岳）	北アルプス	7/26-29	山小屋	3C	坂巻明	坂巻(L) 本田 中村育 小島 矢野裕 室崎宏 室崎育（ゲスト）	6	1
908	石転び沢～烏帽子岳～飯豊山～三国岳	飯豊連峰	7/29-8/1	山小屋・避難小屋	3C	矢澤節雄	矢澤(L)，大山(SL)，郷田	3	
909	岩小屋沢岳～針ノ木岳～蓮華岳	北アルプス	7/30-8/2	山小屋	3C	武内勇二	武内（L） 北田 外崎 矢野貞 桐生 瀬田 高橋冨	7	
910	木曽駒ヶ岳～宝剣岳	中央アルプス	8/6-7	山麓泊	2B	矢野裕子	矢野裕(L) 矢澤（SL） 大山 矢野貞 本田 末永 石塚	7	
911	富士山	富士国定公園	8/24-26	山小屋	2B	村松敏彦	村松(L) 外崎(SL) 武内 坂巻 室崎 小島 塩原（ゲスト）	6	1
912	七面山・八紘嶺	南ア前衛	9/5-6	宿坊泊	2B	外崎蓮	外崎(L) 村松(SL) 武内 北川 大畠 矢野貞 室崎 北田 小島	9	
913	宝篋山	茨城南	9/20	日帰り	1A	箕輪完二	箕輪完(L) 本田(SL) 高橋芳 箕輪カ 桐生 中村育 矢野裕 室崎 北田 高橋富 藤家	11	

914	北奥千丈岳～金峰山	奥秩父	9/27-28	山小屋	2B	齊田記代美	齊田(L) 外崎(SL) 本田 新谷 村越	5	
915	南八ヶ岳縦走(赤岳～横岳～硫黄岳)	八ヶ岳南部	10/4-5	山小屋	3C	高橋芳恵	高橋芳(L) 田村(SL) 中村育 村越 石塚 室崎 北田	7	
916	尾瀬・白尾山	尾瀬・南会津	10/8-10	山小屋	2B	村松敏彦	村松(L) 武内(SL) 外崎 本田 新谷 矢野裕 矢野貞 高橋富	8	
917	岩山	前日光	10/18	日帰り	1B	村松敏彦	村松(L) 高橋英(SL) 外崎 武内 田村 斎田 宮野誠 村越 室崎 高橋富 北田 藤家 小島	13	
918	根本山～熊鷹山	桐生	11/3	日帰り	1A	田村光子	田村 (L) 高橋芳(SL) 大畠 矢野貞 矢野裕 郷田 石塚 大山 大平 北田 藤家 小島	12	
919	棒ノ折山	奥多摩	11/20	日帰り	1A	齊田記代美	齊田(L) 本田(SL) 村松 大山 室崎 北田	6	
920	奥久慈男体山	奥久慈	11/23	日帰り	1B	村越百々代	A班；村越(L) 箕輪完(SL) 大畠 田村 中村育 室崎宏 室崎育（ゲスト） 大山 藤家 B班；郷田(L) 外崎(SL) 新谷 箕輪カ 高橋英 本田 石塚 北田	16	1
921	金勝山～官ノ倉山	奥武蔵	11/29	日帰り	1A	本田愛子	本田(L) 箕輪完(SL) 外崎 箕輪カ 齊田 矢野裕 石塚 林 菊地（会友） 北田初美（ゲスト） 千葉亜矢子（ゲスト）	9	2
922	大福山・梅ヶ瀬	房総	12/5	日帰り	1A	郷田進 桐生恭子	**A班**：郷田（総括L） 桐生（SL） 武内 外崎 矢野裕 坂巻 中村育 渡辺 室崎 **B班**：高橋芳（L） 村松 本田 高橋富 中村隆 箕輪カ 新谷 矢野貞 **C班**：大畠（L） 高橋英 林 小島 田村 箕輪完 田村 大平	25	
923	手賀沼一周	我孫子市・柏市	12/12	日帰り	2A	箕輪完二	箕輪完(L) 外崎(SL) 箕輪カ 中村育 齊田 高橋富 石塚 大平 北田 藤家 小島	11	
924	荒倉山・入笠山	南アルプス前衛	12/19-12	テント	2B	村松敏彦	村松(L) 武内(SL) 外崎 本田 新谷 齊田 矢野裕 室崎	8	
925	景信山	中央線沿線	1/9	日帰り	1A	高橋芳恵	高橋芳(L) 矢野貞(SL) 箕輪カ 大畠 林 本田 石塚 高橋富 細野（会友） 菊地(会友) 榊原（ゲスト） 高橋(ゲスト) 中野(ゲスト)	10	3
926	日光高山	日光	1/11	日帰り	1A	武内勇二	村松(指導) 武内(総合) 外崎(L) 郷田 大山 矢野貞 本田 宮野誠 藤家 石塚 村越 室崎 高橋冨 小島 (BOM研修生7名)	14	
927	蛾ヶ岳・三方分山	御坂山塊	1/16-17	山麓泊	2B	外崎蓮	外崎(L) 村松(SL) 武内 矢野裕 石塚 室崎 大平	7	
928	津辺野山・石尊山～麻綿原～清澄妙見山	房総	1/30-31	山麓泊	2A	高橋芳恵 武内勇二	高橋芳（初日L） 武内（２日目L） 北田 坂巻（SL） 本田 新谷 箕輪カ 石塚 矢野貞 桐生	10	
929	鐘撞堂山～羅漢山	奥武蔵	2/7	日帰り	1A	本田愛子	本田(L) 箕輪完(SL) 中村八 矢野貞 桐生 齊田 矢野裕 渡辺 大平 石塚 村越 室崎	12	
930	北八ヶ岳・東天狗岳	北八ヶ岳	2/25-26	山小屋	3C	大山冬臣	大山(L) 田村(SL) 北田 中村育 矢澤 高橋富 齊田 本田 室崎	9	
931	大山	大山北尾根	2/27	日帰り	2B	北川勝久	北川(L) 村松(SL) 武内 外崎 高橋芳 矢野貞	6	
合計（山行数41）								430	31



室崎宏治氏「日光白根山」(透明水彩)

山行一覧表

平成２８年度　　（２０１６年３月～２０１７年２月）

No.	山　　名	山域	月　日	山行形式	G	リーダー	参　加　者	会員	一般
932	日光白根山	奥日光 群馬	3/16-17	山小屋	2C	大山冬臣	大山（L）、齊田 、矢澤	3	
933	陣馬山	東高尾	3/21	日帰り	1A	藤家一仁 北田仁則	**１班：**藤家(L)　室崎　高橋富　村松　外崎　**２班：**北田(L)　石塚　小島　武内　田村	10	
934	谷川岳・天神尾根	谷川岳連峰	3/23	日帰り	2C	大山冬臣	大山(L)　本田	2	
935	八ヶ岳連峰・硫黄岳	八ヶ岳	3/27-28	山小屋	2C	大山冬臣	大山(L)　田村(SL)　高橋芳、中村育、本田、北田	6	
936	難台山	筑波山系	4/3	日帰り	1A	大山冬臣 本田愛子	**A班：**大山(L)　高橋芳(SL)　矢野裕　中村八　林　田村　高橋富　室崎　箕輪　根本（新人）**B班：**本田(L)　齊田(SL)　坂巻　矢野貞　新谷　大畠　北田　武内　深草(新人)　小林隆(新人)　**C班：**村越(L)　郷田(SL)　大平　桐生　小島　中村育　渡辺　村松　小林安(新人)　横尾(新人)	30	
937	坪山	大月	4/12	日帰り	1A	矢野貞子	矢野(L)　武内　桐生	3	
938	御前山	奥多摩	4/17	日帰り	2A	村越百々代	村越(L)　外崎(SL)　桐生　矢野貞　矢野裕　大山　高橋英　林　蟹江	9	
939	石裂山	前日光	4/24	日帰り	1B	大畠清江	大畠(L)　高橋芳(SL)　矢野貞　本田　矢野裕　石塚　藤家　小林安	8	
940	石老山	道志山系	4/24	日帰り	1A	郷田進	郷田（L）中村育（SL）桐生 田村 林 外崎 村松	7	
941	軽井沢～碓氷峠～横川	浅間・軽井沢	5/7	日帰り	2A	高橋芳恵	高橋芳(L),田村(L),大畠(SL),林(SL)外崎、箕輪カ、中村､本田、矢野裕、新谷、室崎、北田、高橋富、蟹江、細野、箕輪完（ゲスト）	15	1
942	川苔山	奥多摩	5/15	日帰り	2A	本田愛子	本田(L)・大畠(SL)・村松・武内・　外崎･新谷･大平･林･箕輪カ･北田・　蟹江･横尾･小林安	13	
943	燕岳	北アルプス南部	5/15-16	山小屋	2C	大山冬臣	大山(L)　中村育　石塚　田村	4	
944	薬師岳～三ノ宿山	日光	5/20	日帰り	2A	村松敏彦	村松(L)、矢野貞(SL)、外崎、高橋富林 小林安、室崎、室崎育（ｹﾞｽﾄ）	7	1
945	畦ケ丸・菰釣山	西丹沢・道志	5/22-23	山麓泊	2B	田村光子	田村(L) 高橋芳(SL) 大畠 中村育 小島	5	
946	守屋山･入笠山	南アルプス北部	5/27-28	テント	2B	郷田進	郷田(L) 矢野貞(SL)室崎 大平､齊田､本田､石塚	7	
947	日光白根山	奥日光	6/5	日帰り	2B	武内勇二	【A班】武内(CL)、桐生(SL)､矢野裕、林、(一般)徳井、吉沢、栗城、 【B班】郷田(L)、矢野貞(SL)、中村八宮野誠、深草、(一般)向治、向智、李 【C班】大平(L)、外崎(SL)、石塚、新谷、小林隆、(一般)豊島、小竹、小野 【D班】北田(L)、高橋英(SL)、齊田、本田、小林安、(一般)内藤、松下、森 【E班】室崎(L)、村松(SL)、中村育、村越、高橋富、(一般)岡、塩原、大沼	24	15
948	三ツ峠山～清八山	富士周辺	6/11	日帰り	2A	大畠清江	大畠(L)　田村(SL)　中村育　村越　矢野貞　矢野裕　矢澤　高橋富　北田　林　横尾　蟹江	12	
949	小川山	奥秩父	6/18-19	テント	3C	武内勇二	武内(L)、村松、大平、室崎、外崎、石塚	6	
950	入笠山	南アルプス前衛	6/19	日帰り	1A	新谷直恵	新谷(L)　田村(SL)　高橋英　中村八　箕輪カ　矢野裕　村越　林　横尾	9	
951	横尾山	奥秩父	6/26	日帰り	1A	外崎蓮	外崎(L)、室崎(SL)、村松、箕輪カ、箕輪完(ゲスト)、石塚、小林安	6	1
952	蓼科山～双子山	八ヶ岳北部	7/22-23	山小屋	2B	矢野貞子	矢野(L)、大平（SL）、小林安、桐生　深草、新谷	6	
953	硫黄岳～赤岳～権現岳～編笠山	八ヶ岳南部	7/28-30	山小屋	3B	大平太計夫	大平(L),郷田(SL),新谷,高橋,大西（ゲスト）	4	1
954	雲の平～鷲羽岳～三俣蓮華～双六岳	北アルプス	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	武内(L)、北田、室崎　外崎、矢野貞、本田　石塚、小林安、室崎育（ｹﾞｽﾄ）	8	1
955	鹿島槍ヶ岳	北アルプス	8/6-8	山小屋	3B	北田仁則	北田（L）矢澤 深草	3	
956	大菩薩嶺	北八ヶ岳	8/20	日帰り	2B	矢野貞子	矢野(L)　外崎(SL)　高橋英　新谷　箕輪　桐生　林　郷田　藤家　蟹江 横尾　小林安 室崎	13	
957	越後駒ケ岳	越後山塊	8/27-28	避難小屋	2B	北川勝久	北川(L) 村松(SL) 武内 外崎蓮 高橋富	5	

山行一覧表

958	飯縄山～黒姫山	信越	9/15-16	山麓泊	3B	高橋芳恵	高橋芳(L)　田村(ＳＬ)　大畠　大山　本田　新谷　高橋富	7	
959	白峰三山縦走（北岳～間ノ岳）	南アルプス北部	9/16-18	山小屋	3C	郷田進	郷田（Ｌ）中村育（SL）室崎、小林安	4	
960	鳥海山	出羽山地	9/25-26	山荘	3B	北田仁則	北田(CL)、藤家、村越	3	
961	尾瀬ヶ原～至仏山	尾瀬	10/2	日帰り	2A	坂巻明	坂巻（L）、大山、齊田、吉澤	4	
962	尾瀬ｹ原～至仏山	尾瀬	10/1-2	山小屋	2A	桐生恭子 高橋英雄	桐生(L)、高橋英(L)、高橋芳(SL)、本田村越、大平、中村八、箕輪、矢野裕、石塚	10	
963	燧ケ岳～至仏山	尾瀬	9/30-10/2	山小屋	3B	田村光子	田村(L)、矢野貞(SL)、大畠、中村育、矢澤、深草、小島、高橋富、横尾、小林安	10	
964	燧ケ岳～至仏山～アヤメ平	尾瀬	9/30-10/2	テント	3B	武内勇二	武内(L) 村松 郷田 外崎　北川　北田 室崎 小林	8	
965	森吉山・桃洞渓谷	秋田県北部	10/8-10	ログハウス	2A	外崎蓮	外崎(L)、村松(SL)、武内、矢野裕、石塚、矢澤、北田、高橋富	8	
966	那須岳（茶臼岳～朝日岳～三本槍岳）	那須	10/10-11	山小屋	2B	大平太計夫	大平(L)、矢野貞(SL)、林、小島、横尾、小林、新谷	7	
967	乾徳山	奥秩父前衛	10/16	日帰り	2B	村越百々代	村越(L)、北田(SL)、高橋英、大山、矢澤、室崎、小島、蟹江、田嶋	9	
968	平標山～仙ノ倉山～三国街道	谷川	10/18-19	山小屋	3B	高橋芳恵	高橋芳(L) 桐生(SL) 本田 中村育 石塚	5	
969	谷川岳	谷川	10/23-24	山小屋	2B	齊田記代美	齊田(L)、外崎、新谷、石塚、小島	5	
970	鳥首峠～蕨山	奥武蔵	11/5	日帰り	2A	中村育子	中村育(L)、本田(SL)、北田、林、小島、高橋富、室崎、高橋英、大畠、桐生、深草、小林安、蟹江、田嶋	14	
971	鬼ヶ岳～十二ヶ岳	富士周辺	11/12	日帰り	2B	北川勝久	北川（L）、村松（SL）、武内、小林安	4	
972	杓子山～鹿留山	富士周辺	11/23	日帰り	1A	矢野裕子	矢野裕(L)、大畠(SL)、村越(SL)、武内、箕輪カ、本田、新谷、大山、渡辺、林、小島、北田、小林安、蟹江、吉澤、箕輪完(ゲスト)	15	1
973	鍋割山	丹沢	11/30	日帰り	2A	中村育子	中村育(L)、大山(SL)、田村、桐生、村越、蟹江、矢野貞	7	
974	城峯山	秩父	12/4	日帰り	1A	矢澤節雄 矢野裕子	**A班**：中村八(L)、桐生SL)、矢野裕(総Ｌ)、郷田、林、北田、田嶋　**B班**：高橋英(L)、武内(SL)、本田、齊田、石塚、渡辺、吉澤　**C班**：外崎(L)、大畠(SL)、矢野貞、中村育、矢澤(総Ｌ)、大平、小林安	21	
975	檜洞丸	西丹沢	12/14	日帰り	2B	大山冬臣	大山(L)、北田(SL)、大平、高橋芳、田村、本田、齊田、村越	8	
976	手賀沼一周	我孫子市・柏市	12/17	日帰り	1A	室崎宏治	室崎(L)、郷田(SL)、　高橋英、外崎　中村育、石塚、大平、藤家、小林隆、小林安　蟹江　村越、林	13	
977	塔ノ岳～丹沢山～鍋割山稜縦走	東丹沢	12/21-22	山小屋	2B	大山冬臣	大山(L) 北田(SL) 田村 本田 高橋芳	5	
978	四方原山・茂来山	佐久平	12/23-24	テント	2A	村松敏彦	村松(L)、外崎(SL)、北川、武内、矢野裕、齊田、小林安	7	
979	赤薙山	日光山群	1/5	日帰り	2A～B	大山冬臣	大山(L)、矢野裕(SL)、新谷、小島	4	
980	高尾山	中央線沿線	1/10	日帰り	1A	桐生恭子	桐生(L) 矢野貞（SL）　村松 高橋英 箕輪カ 田村 本田 林 渡辺 石塚 箕輪完（ゲスト）　高橋重（ゲスト）	10	2
981	鳥の胸山・菰釣山	西丹沢・道志	1/19-20	山麓泊	2A	村松敏彦	村松（Ｌ）、外崎（SL）、武内、郷田、大平、石塚	6	
982	北八ヶ岳・東天狗岳	北八ヶ岳	1/26-27	山小屋	2B～C	大山冬臣	大山(L)、北田、　矢野貞、本田	4	
983	水仙ロード(勝山～江月～ばんや)	房総	1/28-29	山麓泊	2A	高橋芳恵	高橋芳(L) 外崎蓮(SL) 箕輪カ 高橋英 石塚　大平、深草　蟹江 吉澤　小林安	10	
984	倉岳山	中央線沿線	2/5	日帰り	1A	坂巻明	坂巻(L)、高橋英、高橋芳、石塚、室崎、横尾、小林安、蟹江	8	
985	大野山	丹沢	2/12	日帰り	1A	室崎宏治	室崎宏（L）　外崎（SL）　藤家 小林安 村越 箕輪完（ｹﾞｽﾄ）　室崎育（ｹﾞｽﾄ）	5	2
986	三国山縦走・石割山	忍野・道志山塊	2/12-13	山麓泊	2A～B	大山冬臣	大山(L)、桐生(SL)、矢野貞、齊田、本田　矢野裕、田村、蟹江	8	
988	日和田山～物見山	奥武蔵	2/25	日帰り	1A	深草茂美	深草(L)、小林隆(SL)、横尾、小林安、蟹江、吉澤、渡辺、郷田（指導者）外崎（指導者）	9	
989	鎌倉ハイキング・衣張山	伊豆・箱根・湘南	2/26	日帰り	1A	齊田記代美	齊田(L)、本田(SL)、箕輪カ、中村八、矢野裕、村越、石塚、室崎、高橋富、箕輪完(ｹﾞｽﾄ)	9	1
合計（山行数57）								472	26

活動の記録

年	月	日	行　　事	場　　所	備　　考
１９９６年	10	12－13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
平成８年	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

会の創立から平成21年（2009）2月までの活動の記録はやまなみ第１０号に記載

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議		備　　考
第１４期	3	8	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	10	市民プラザ	
２００９年	4	8	アビスタ	14	市民プラザ	
平成２１年	5	13	アビスタ	19	市民プラザ	
	6	4	湖北近隣センター	16	市民プラザ	
	7	8	アビスタ	14	市民プラザ	
	8	5	アビスタ	18	市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	15	市民プラザ	
	10	4	アビスタ	13	市民プラザ	
	11	4	アビスタ	10	市民プラザ	
	12	6	湖北近隣センター	15	アビスタ	
２０１０年	1	6	アビスタ	12	アビスタ	
平成２２年	2	3	アビスタ	9	市民プラザ	
	2			14	久寺家会館	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２００９年	3	8	第14回総会	湖北台近隣センター	
平成２１年	3	29	新人歓迎山行	元清澄山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	6－7	市民登山	湯の丸山・四阿山	一般7名、会員30名、計37名
	7	8	山行文集「やまなみ」第10号発行		平成20年3月～平成21年2月
	8	1	「やまたん坂口よし江さん追悼号」発行		
	9	5	ウィズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	4	岳人祭	五本松公園	
	12	6	忘年山行	雪入山	
２０１０年	2	14	入会説明会	市民プラザ	

教育研修	月	机上研修	実技研修	
２００９年	3	オリエンテーション	新人歓迎山行	山のマナー、山の歩き方など
平成２１年	4	山歩きの装備と衣服	天狗岳（北八ヶ岳）	春山のステップアップ（残雪の山）
	5	地形図の読み方（磁北線の引き方）	石割山	地形図を見ながら歩く
	6		流石山～大倉山	地形図を見ながら歩く
	7		水根沢谷	沢の基礎
	7	夏山に向けての注意事項	木曽駒～三の沢岳	高所登山での体調管理と注意点
	8	生き生きシニアの栄養	越後駒ヶ岳	豪雪地の山の花と写真を撮ろう
	9		岩山（鹿沼）	岩場の3点確保の訓練（初級）
	10	ザイルを使って斜面の登下降の練習	大菩薩嶺	個人装備と山小屋の生活
	11	山行計画の立て方		
	12	山の気象（気象遭難を起こさないために）	忘年山行	行事山行時の食事の作り方
２０１０年	1	地形図の読み方（記号、等高線など）	吾妻耶山・今倉山	冬山の基礎とテント生活
平成２２年	2	坂口さんの遭難時の気象について	鍋割山～丹沢山	冬山の初級
	2		伊豆ヶ岳	新人による山行計画の作成と実行

	月	定例集会		運営委員会・山行部会議		備　　考
第１５期	3	14	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	16	市民プラザ	
２０１０年	4	7	アビスタ	13	市民プラザ	
平成２２年	5	12	アビスタ	21	市民プラザ	
	6	10	湖北近隣センター	15	市民プラザ	
	7	7	アビスタ	13	市民プラザ	
	8	4	アビスタ	17	市民プラザ	
	9	9	湖北近隣センター	14	市民プラザ	
	10	3	五本松公園	14	市民プラザ	
	11	10	アビスタ	19	市民プラザ	
	12	2	湖北近隣センター	14	市民プラザ	
２０１１年	1	12	アビスタ	18	市民プラザ	
平成２３年	2	2	アビスタ	8	市民プラザ	
	2			13	市民プラザ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１０年	3	6～7	市民活動フェアーin我孫子	アビスタ	当会活動の紹介（写真展示他）
平成２２年	3	14	第15回総会	湖北台近隣センター	

活動の記録

	4	4	新人歓迎山行	高鈴山	
	5	23	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	5-6	市民登山	茶臼山～三本槍岳～朝日岳	一般１３名、会員２４名、計37名
	7	7	山行文集「やまなみ」第１１号発行		平成21年3月～平成22年2月
	9	4	ウィズハイク	雨引山	一般19名、会員26名、計45名
	10	3	岳人祭	五本松公園	
	12	5	忘年山行	御前山	
２０１１年	2	13	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月		机上研修		実技研修
２０１０年	4		新人のオリエンテーション	新人歓迎山行	山のマナー、三点確保の練習
平成２２年	4		山歩きの衣服	アモウ沢・滝子	山菜と調理とキャンプ体験
	5		地図の読み方・コンパスの使い方	唐松岳	春山のテント生活と雪上歩行
	6		山の歩き方とストックの使い方	鶏頂山	地形図を見ながら歩いてみる
	7		山で事故にあった時の対処法	御岳山～日の出	夏場の低山歩き
	7			白砂山・八間山	ブナの持つ働きを知ろう
	7			八ヶ岳	八ヶ岳の魅力を味わう
	8		山行中の食事摂取と水分補給	常念岳～槍ヶ岳	山行中の食事と水分補給の実践
	9		山歩きの体力とトレーニング		
	10		ザイルを使って斜面の登下降の練習と担架の	天狗角力取山	避難小屋に泊ってみよう
	11		天気図の基礎と天気予報の見方	手賀沼一周	手賀沼のゴミを拾い、景観を大事にしよう
	12		雪山の装備と歩き方	忘年山行	行事山行時の食事の作り方
２０１１年	1		ストレッチングで体を柔らかく		
平成２３年	2		三角点について知ろう		
	3			新人卒業山行	15期生による山行計画の企画と山行

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議	備　　考
第１６期	3	13	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	15 市民プラザ	
２０１１年	4	3	市民プラザ	12 市民プラザ	
平成２３年	5	11	アビスタ	17 市民プラザ	
	6	9	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	14 市民プラザ	
	7	6	アビスタ	12 市民プラザ	
	8	3	アビスタ	9 市民プラザ	
	9	8	湖北近隣センター	13 市民プラザ	15周年記念山行の延期決定
	10	5	アビスタ	11 市民プラザ	
	11	9	アビスタ	15 市民プラザ	
	12	8	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	13 市民プラザ	
２０１２年	1	11	アビスタ	17 市民プラザ	
平成２４年	2	1	アビスタ	12 市民プラザ	
	2			13 久寺家通り会館	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１１年	3	13	第16回総会	湖北台近隣センター	
平成２３年	4	3	東日本大震災義捐金		5月に30,000円を労山に送金
	4	10	新人歓迎山行	赤雪山	
	5	11	山行文集「やまなみ」第１２号発行		平成22年3月～平成23年2月
	5	22	市民登山説明会	アビスタ	
	6	5	市民登山	榛名山	一般29名、会員25名、計54名
	6	19－20	我孫子市民フェアーに参加	アビスタ	山の写真展示
	6	19－20	我孫子市民フェアーに参加	アビスタ	山の写真展示
	6	17－19	県連の東日本大震災石巻支援に参加		会員２＋家族１
	7	15－18	県連の東日本大震災石巻支援に参加		会員２
	10	5	15周年記念T-シャーッ配布		
	10	5	やまたん　青山寿子さん追悼号発行		
	12	5	忘年山行	達澤山	
２０１２年	2	13	入会説明会	市民プラザ	
教育研修	月		机上研修		実技研修
２０１１年	3		新人のオリエンテーション		
平成２３年	4		BOM研修　登山計画書作成	BOM　滝子山南稜	行動中の注意、山での歩き方
	5		BOM　地図の読み方・テント泊装備		
	5		地図の読み方	黒金山	地図を見ながら歩く
	6			BOM　瑞牆山	地図読み山行、テント泊
	7		BOM　装備と服装		
	7			岩木山・白神山	無雪期の危険
	7			岩手山・八幡平	避難小屋に泊る
	7			甲斐駒ヶ岳	地図を見ながら歩く

活動の記録

	8	装備・ﾛｰﾌﾟ ワーク	常念岳～蝶ヶ岳	無雪期の危険
	8		雲の平～高天原	北アルプスに遊ぶ（黒部源流と花）
	8		BOM　葛葉川本谷	沢登りを楽しむ
	10	ホームページ・やまたんなどのメディア		
	10		BOM　岩山	岩登り体験
	10		横隈山	リーダーの役割・取るべき行動
	10		羽黒山	観天望気
	11	山行グレード判定基準		
	11	BOM　山行中のアクシデント対応		
	12	BOM　雪山の技術		
	12	山行中のアクシデント、応急手当		
	1		BOM　高山	雪山の体験
	1	雪中の技術	大蔵高山	
	2	山のアンダーウエア		積雪期の危険
	2			卒業検定（山行計画と実行）

年	月	定例集会	運営委員会・山行部会議	備　　考
第１７期	3	11 湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	13 市民プラザ	
２０１２年	4	4 アビスタ	10 市民プラザ	
平成２４年	5	9 アビスタ	15 市民プラザ	
	6	7 湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	12 市民プラザ	
	7	4 アビスタ	10 市民プラザ	
	8	1 アビスタ	7 市民プラザ	
	9	6 湖北近隣センター	11 市民プラザ	
	10	3 アビスタ	9 市民プラザ	
	11	7 アビスタ	13 市民プラザ	
	12	6 アビスタ	11 市民プラザ	
２０１３年	1	9 アビスタ	15 市民プラザ	
平成２５年	2	6 アビスタ	12 市民プラザ	
	2		17 市民プラザ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１２年	3	13	第17回総会	湖北台近隣センター	
平成２４年	4	8	新人歓迎山行	物語山	
	5	27	市民登山説明会	アビスタ	
	6		PDF配信開始		
	6	10	市民登山	浅間隠山	一般19名、会員19名、計38名
	7		山行文集「やまなみ」第１３号発行		平成23年3月～平成24年2月
	8	19	青山さん追悼山行	三ノ木戸山	
	9	1	ウイズハイク	御前山	一般20名　会員19名　計39名
	10	5	15周年記念山行	**谷川岳**	
	10	11	15周年記念行事	清澄山（東大演習林）	
	12	2	忘年山行	八溝山	
２０１３年	2	17	入会説明会	市民プラザ	

教育研修	月	机上研修	実技研修	
２０１２年	3	新人会員のオリエンテーション		
平成２４年	4	疲れない歩き方・休憩のとり方	仏果山～経ケ岳	疲れない歩き方・休憩のとり方の実践
	5	山での食事（日帰りとテント泊）		
	5		守門岳･浅草岳⇒鋸岳	山での食事作り（テント泊の場合）
	6	地図の読み方・コンパスの使い方		
	7	雷から身を守るには？		
	8	低体温症について		
	8		立山～奥大日岳	高山植物を楽しむ。種類と特徴
	8		仙丈ケ岳	地図の読み方
	9	山の成り立ち（地震と火山にも関連して）		
	9	ウイズハイク	御前山	施設通所者と一日を過ごそう
	9	谷川岳集中登山	谷川岳	15周年記念登山を成功させよう
	10	山の成り立ち（地震と火山にも関連して）		
	10		鼻曲山	山名の由来
	11	①山の成り立ち　②鼻曲山の山の由来		
	11		手賀沼一周	ゴミを拾って美しい故郷をいつまでも
	12	人が転落した！まず何をすべきか		
	12		甲武信ヶ岳	冬山のテントでクリスマスを祝う
２０１３年	1	雪山登山の危険　大蔵高丸山行を振り返って		
平成２５年	1		三ツ峠山	風景写真を写そう（富士山）

活動の記録

	2	日本百名山のよもやま話			
	2			宝篋山	新人による山行計画の作成と山行
	2			甲東三山	地図で進行方向を確認しながら歩こ

年	月	日	定例集会	運営委員会・山行部会議		備考
第１８期	3	3	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	12	市民プラザ	
２０１３年	4	3	アビスタ	9	市民プラザ	
平成２５年	5	8	アビスタ	14	市民プラザ	
	6	6	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	11	市民プラザ	
	7	3	アビスタ	9	市民プラザ	
	8	7	アビスタ	20	市民プラザ	
	9	5	湖北近隣センター	10	市民プラザ	
	10	5	湖北近隣センター	8	市民プラザ	
	11	6	アビスタ	12	市民プラザ	
	12	5	湖北近隣センター	10	市民プラザ	
２０１４年	1	8	アビスタ	14	市民プラザ	
平成２６年	2	5	アビスタ	11	市民プラザ	
	2			15	市民プラザ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１３年	3	3	第18回総会	湖北台近隣センター	
平成２５年	4	7	新人歓迎山行	大小山･大坊山	
	5	19	市民登山説明会	市民プラザ	
	6	2	市民登山	荒船山	一般29名　会員23名　計52名
	6	6	山行文集「やまなみ」第１４号発行		平成24年3月～平成25年2月
	7	3	やまたん「第19回市民登山特集号」発行		
	9	7	ウイズハイク	筑波山	一般20名　会員17名　計37名
	10	5	岳人祭	湖北台近隣センター	
	12	1	忘年山行	伊予ケ岳	
	12	5	臨時総会	湖北台近隣センタ	年会費･入会金の削減について
２０１4年	2	15	入会説明会	市民プラザ	

教育研修	月	机上研修	実技研修
２０１３年	3	新人会員のオリエンテーション	新人の自己紹介・オリエンテーション
平成２５年	4	登山の計画と計画書の作成	
	4		大小山･大坊山　新人を仲間に迎え、皆で歓迎しよう
	5	富士山と日本の火山	
	5		今倉山・二十六夜　疲れない歩き方・休憩の取り方
	6	地図の読み方・コンパスの使い方	
	6		瑞牆山　瑞牆山の成り立ちと中央構造線
	7	「岳人あびこ」創立時の労山加盟の経過	
	7		月山・蔵王　花の宝庫の山で美しい写真を撮ろう
	8	山行中の怪我と病気の応急手当	
	8		南岳～槍ヶ岳　夏山の危険
	9	瑞牆山の成り立ち、北岳と中央構造線	
	9		至仏山　地図読み
	10	スクワット（岳人祭）	
	10		岳人祭　スクワット（岳人祭実行委員）
	11	会費問題でのアンケート調査	
	12	山でのヒヤリ・ハット	
	12		笠取山　冬山のテントの中でクリスマスを祝う
２０１４年	1	世界の山々とプレート造山運動	
平成２６年	1		大菩薩　冬山の歩き方
	2	行事、山行、その他１年間を振り返って	
	2		臨時研修　ロープワーク

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議		備　　考
第１９期	3	9	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	11	市民プラザ	
２０１４年	4	2	アビスタ	8	市民プラザ	
平成２６年	5	7	アビスタ	13	市民プラザ	
	6	5	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	10	市民プラザ	
	7	2	アビスタ	8	市民プラザ	
	8	6	アビスタ	19	市民プラザ	
	9	4	湖北近隣センター	9	市民プラザ	
	10	4	五本松公園	14	市民プラザ	
	11	5	アビスタ	11	市民プラザ	

活動の記録

	12	4	湖北近隣センター	9	市民プラザ	
２０１５年	1	7	アビスタ	13	市民プラザ	
平成２７年	2	4	アビスタ	10	市民プラザ	
	2			15	市民プラザ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１４年	3	9	第19回総会	湖北台近隣センター	
平成２６年	4	6	新人歓迎山行	宝篋山	
	5	25	市民登山説明会	市民プラザ・柏中央公民館	
	6	5	市民登山	浅間山	一般28名　会員25名　計53名
	7	2	やまたん「第20回市民登山特集号」発行		
	9	6	ウイズハイク	南山展望台～愛宕山	一般16名　会員14名　計30名
	10	4	岳人祭	五本松公園	
	12	7	忘年山行	御殿山・愛宕山	
２０１５年	2	15	入会説明会	市民プラザ・柏中央公民館	

教育研修	月	机上研修	実技研修
２０１４年	3	新人会員のオリエンテーション	新人の自己紹介・オリエンテーショ
平成２６年	4	高山植物の紹介	
	4		宝篋山　新人を仲間に迎え、皆で歓迎しよう
	5	地図読み	
	5		両神山　山座同定
	6	金時山と箱根火山	
	6		半月山　ヤシオツツジを楽しむ
	7	ヒヤリハット（道迷い）	
	7		西吾妻山　食事と水分補給
	8	事故対応、応急手当（三角巾の使い方）	
	8		北穂高岳～奥穂　夏山の危険
	9	山の気象と観展望	
	9		妙高山　山の成り立ち
	10	ロープワーク（岳人祭）	岳人祭　キャンプファイアのたき方
	11	計画書の作り方	
	11		三頭山　現地での地図読み・歩き方・服装
	11		手賀沼一周　クリーン作戦・地図読み
	12	最近の地震について（山の成り立ち）	
	12		倉岳山　現地での地図読み
２０１５年	1	H２７年度の当会の役割を決める	
平成２７年	1		高川山　アイゼンの装着
	2	会運営その他１年を振り返って	
	2		高水三山　新人による山行計画の作成と山行

年	月	定例集会	運営委員会・山行部会議	備　　考
第２０期	3	1 湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	17 市民プラザ	
２０１５年	4	1 アビスタ	17 市民プラザ	
平成２７年	5	7 アビスタ	19 市民プラザ	
	6	3 アビスタ	16 市民プラザ	
	7	1 アビスタ	21 市民プラザ	
	8	5 アビスタ	18 市民プラザ	
	9	2 アビスタ	15 市民プラザ	
	10	3 五本松公園	20 市民プラザ	
	11	4 アビスタ	17 市民プラザ	
	12	2 アビスタ	15 市民プラザ	
２０１６年	1	6 アビスタ	19 市民プラザ	
平成２８年	2	3 アビスタ	16 市民プラザ	
	2		21 アビスタ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１５年	3	1	第19回総会	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	
平成２７年	4	5	新人歓迎山行	鳴神山	
	5	24	市民登山説明会	市民プラザ・柏中央公民館	
	6	3	山行文集「やまなみ」第15号発行		平成25年3月～平成27年2月
	6	7	市民登山	黒檜山	一般22名　会員22名　計44名
	7	1	やまたん「第21回市民登山特集号」発行		
	10	3	岳人祭	五本松公園	
	12	5	忘年山行	大福山・梅ケ瀬	
２０１６年	2	21	入会説明会	アビスタ・柏公民館	

教育研修	月	机上研修	実技研修

活動の記録

２０１５年	3	新人会員のオリエンテーション		
平成２７年	4	地形図の読み方（１）		
	4		鳴神山	新人を仲間に迎え、皆で歓迎しよう
	4	BOM研修　ガイダンス　登山計画書作成		
	4		伊豆ヶ岳	春の花を楽しむ
	5	地形図の読み方（２）		
	5	BOM研修 地図の読み方 幕営技術の基本 食料計画	BOM 滝子山南稜	行動中の注意　山での歩き方
	6	天気図の種類とその活用		
	6		BOM 金峰山 瑞牆山	テント泊を楽しむ
	7	「山行準備とパッキング」の工夫と確認		
	7	BOM研修 山でバテないために　ロープワーク		
	7		飯豊山峰	夏山雪渓の危険を知る
	8	事故対応（三角巾の使い方）		
	8		富士山	山の疲れない歩き方
	9	花を知る（名前の由来、特徴など）		
	9		七面山	山岳信仰
	10	（岳人祭）	岳人祭 五本松公	ロープワーク
	10		BOM 岩山	岩登り体験
	11	山登りのための体力づくり		
	11	BOM研修　山行中でのアクシデント対応		
	12	疲れない山の歩き方		
	12	BOM研修　雪山の技術と危険		
	12		手賀沼クリーンハイク	街中の地図読みで地図記号を知る
	12		入笠山	クリスマス山行（冬山を知る）
２０１６年	1	山と花の写真コンクール		
平成２８年	1		BOM　高山	雪山の体験
	1		景信山	山の楽しみ方（餅つき山行）
	2	２０周年記念事業に向けて分科会ミーティン		
	2		大山北尾根	冬のヤブ歩きを知る
	3		BOM　陣馬山	卒業山行　ペーパーテスト

年	月	定例集会		運営委員会・山行部会議	備　　考
第２１期	3	13	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	15 市民プラザ	
２０１６年	4	6	アビスタ	19 市民プラザ	
平成２８年	5	11	アビスタ	17 市民プラザ	
	6	1	アビスタ	21 市民プラザ	
	7	6	アビスタ	19 市民プラザ	
	8	3	アビスタ	16 市民プラザ	
	9	7	アビスタ	20 市民プラザ	
	10	5	アビスタ	18 市民プラザ	
	11	2	アビスタ	15 市民プラザ	
	12	7	アビスタ	20 市民プラザ	
２０１７年	1	11	アビスタ	17 市民プラザ	
平成２９年	2	1	アビスタ	14 市民プラザ	
	2			19 市民プラザ	（拡大委員会）

年	月	日	行　　事	場　　所	内　　容
２０１６年	3	13	第19回総会	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	
平成２８年	4	3	新人歓迎山行	笠間・難台山	
	5	22	市民登山説明会	市民プラザ 柏中央公民館	
	6	5	市民登山	日光白根山	一般15名　会員24名　計39名
	7	6	やまたん「第22回市民登山特集号」発行		
	7	16	20周年記念イベント	我孫子南近隣センター・ホール	講演：金邦夫氏（元警視庁青梅警察署山岳救助隊副隊長）「すぐそこにある遭難事故」 落語：三遊亭左圓馬師匠 演奏：「1Fマンドリーノ」の会
	9	7	やまたん・やまなみのDVD　希望者に実費配布		
	9-10	9/30-10/2	20周年記念山行	尾瀬ヶ原･至仏山･燧ケ岳	懇親会場：竜宮旅館（片品村）
	11	2	２０周年記念山行懇親会・アンケート特集号		アンケート「初恋の山・最も好きな山」
	12	4	忘年山行	城峯山	
	1	14-15	県連50周年記念交流会参加(4名)	清和県民の森	
２０１７年	2	19	入会説明会	市民プラザ 柏中央公民館	

教育研修	月	机上研修	新人研修	実技研修	
２０１６年	3	新人会員のオリエンテーション			

活動の記録

平成２８年	4			笠間・難台山	新人を仲間に迎え、皆で歓迎しよう
	4	雷を知る	無雪期の山の服装･装備		
	5	電子国土基本図の紹介	山行計画の立て方		
	5			畦ヶ丸・菰釣山	シロヤシオ・新緑を楽しむ
	6	山登りのための体力づく	無雪期の山の歩き方		
	6			小川山	岩稜群の展望・テント泊を楽しむ
	7	登山のための最新装備と服	地図の読み方		
	7			雲の平～鷲羽岳～三俣蓮華岳	山の疲れない歩き方
	8	ファーストエイドキットと事故対応	山行中のアクシデントの対応		
	8			鹿島槍ヶ岳	小屋泊まりを楽しむ
	9	花を知る（１）	エネルギー補給の仕		
	9			飯縄山･黒姫山	信仰の山を知る
	10			森吉山	東北の秋を楽しむ
	10	花を知る（２）	一般的なロープワーク		
	10			森吉山・桃洞渓	東北の秋（ブナの紅葉）を楽しむ
	11	登山事故から学ぶ（１）	山行計画を作成してみ		
	12	登山事故から学ぶ（２）	テントに泊まってみよ		
	12			手賀沼	手賀沼の自然
	12			四方原山・茂来	冬山を楽しむ
	1	山の天気	雪山の装備と歩き方		
	2		山でのｹｶﾞの応急手当	大野山	冬の低山を楽しむ
	2	行事･山行等の１年を振り			
２０１７年	2		新人卒業山行	日和田山～物見	新人による山行計画の企画と実施
平成２９年	2			鎌倉アルプス	歴史を訪ねて山を歩く



大山冬臣氏
「道なき道踏み分けて」



郷田進氏
「荒川三山からの富士」

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
1	あ	**会津朝日岳**　（創立山行）	会津	1996	10/12-13	テント	B	細野省二	1	4
298	あ	**会津朝日岳**	会津	2002	12/21-23	テント	C	川下敬史	4	253
492	あ	**会津朝日岳**	会津	2006	7/1-2	避難小屋	3C	外崎　蓮	8	46
110	あ	**会津駒ヶ岳**	会津	1999	6/26-27	民宿泊り	B	大串秀雄	2	60
269	あ	**会津駒ヶ岳**・平ヶ岳	会津	2002	6/21夜-24	テント	B+	武内勇二	4	161
781	あ	**会津駒ヶ岳**～中門岳	南会津	2012	6/30 - 7/1	山小屋	2B	村松敏彦	14	46
959	あ	白峰三山縦走（北岳～**間ノ岳**）	南アルプス北部	2016	9/16-18	山小屋	3C	郷田進	16	155
121	あ	荒川三山・**赤石岳**	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
225	あ	**赤石岳**～聖岳	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
497	あ	荒川三山～**赤石岳**	南ア	2007	8/4-7	山小屋	3C	外崎　蓮	8	61
862	あ	荒川三山～**赤石岳**	南アルプス	2014	8/1-5	山小屋	3C	武内勇二	15	120
258	あ	**赤岩尾根**	西上州	2002	4/20-21	テント	D	柴　勇	4	133
316	あ	**赤岩山**～古賀志山	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴　勇	5	26
445	あ	岩菅山～**赤岩山**	上信	2006	6/25-27	避難小屋	4B	外崎　蓮	7	47
582	あ	**赤岩尾根**・烏帽子岳	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
789	あ	**赤岩滝**	前日光	2012	8/26	日帰り	1A	原田和昭	14	69
284	あ	烏帽子岳～水晶岳～**赤牛岳**	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
56	あ	**赤城山（黒桧山）**	上州	1998	6/21	日帰り	A	外崎　蓮	1	98
323	あ	**赤城山（黒檜山）**	上州	2003	6/1	日帰り	A	柴　勇	5	42
571	あ	**赤城山（黒檜山）**	上州	2008	1/19-20	テント	3C	高橋　重	9	119
524	あ	朝日山・**赤鞍ヶ岳**	道志	2008	2/3-5	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
883	あ	秋山二十六夜山～**赤鞍ヶ岳**・今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
641	あ	編笠山～権現岳～**赤岳**	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
694	あ	硫黄岳～**赤岳**	八ケ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
915	あ	南八ヶ岳縦走(**赤岳**～横岳～硫黄岳)	八ヶ岳南	2015	10/4-5	山小屋	3C	高橋芳恵	16	60
953	あ	硫黄岳～**赤岳**～権現岳～編笠山	八ヶ岳南部	2016	7/28-30	山小屋	3B	大平太計夫	16	142
560	あ	**赤薙山**（県連平日ハイク）	日光	2007	10/11	日帰り	1A	斎藤清一、県連	9	91
979	あ	**赤薙山**	日光北部	2017	1/5	日帰り	2A～B	大山冬臣	16	194
378	あ	**赤ぼっこ**～天狗岩	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
728	あ	**赤雪山**（新人歓迎山行）	足利北部	2011	4/10	日帰り	1A	外崎蓮	13	1
330	あ	**阿寒**・斜里・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
174	あ	**秋田駒ヶ岳**	東北	2000	9/16-17	旅館	B	外崎　蓮	3	76
271	あ	**秋田駒ヶ岳**～乳頭山・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
545	あ	**秋田駒ヶ岳**・八幡平・岩手山	奥羽	2007	6/30-7/2	山麓泊	3B	柴　勇	9	52
883	あ	**秋山二十六夜山**～赤鞍ヶ岳・今倉山～道志二十六夜山	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
483	あ	熊野古道･**悪四郎山**	熊野	2007	5/14-17	山麓泊	3B	細野清子	8	18
153	あ	**浅草岳**･守門岳	会越	2000	5/3-6	テント／民宿	D	村松敏彦	3	20
346	あ	**浅草岳**･守門岳	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴　勇	5	130
21	あ	白馬岳～**朝日岳**	北ア	1997	8/7-10	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	細野清子	1	33
22	あ	**朝日岳**・白毛門	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	あ	**朝日岳**・白毛門	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎　蓮	2	63
399	あ	**朝日岳**～白馬岳	北ア	2004	9/16-19	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
524	あ	**朝日山**・赤鞍ヶ岳	道志	2007	2/3-4	山麓泊	2B	村松敏彦	8	135
686	あ	茶臼岳～三本槍岳～**朝日岳**（市民登山）	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
695	あ	白馬岳～**朝日岳**	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎　蓮	12	65
966	あ	那須岳（茶臼岳～**朝日岳**～三本槍岳）	那須	2016	10/10-11	山小屋	2B	大平太計夫	16	170
757	あ	**旭山**～達沢山（忘年山行）	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13	87
99	あ	**朝日連峰**（ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ合宿）	朝日連峰	1999	5/1-4	避難小屋	D	村松敏彦	2	29
165	あ	**朝日連峰**	朝日連峰	2000	7/28-30	テント	C	柴，清家	3	47
500	あ	**朝日連峰**	朝日連峰	2006	9/16-18	避難小屋	3C	千葉有子	8	69
204	あ	鼻曲山～**浅間隠山**	上州	2001	5/12-13	山荘／テント	A+, C	細野清子	4	12
242	あ	**浅間隠山**	上州	2001	11/18	日帰り	A	外崎蓮	4	95
778	あ	**浅間隠山**（市民山行）	上州	2012	6/10	日帰り	1B	石垣吉朗	14	34
852	あ	**浅間山**（市民山行）	浅間連峰	2014	6/8	日帰り	2B	村松敏彦	15	93
644	あ	仙丈ヶ岳～**アサヨ峰**	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	4C	外崎蓮	11	72
411	あ	矢倉岳～**足柄古道**	箱根	2005	11/8	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
2	あ	**愛鷹山連峰**	富士周辺	1996	12/14-15	無人小屋	C	柴　勇	1	5

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
211	あ	**愛鷹連峰**縦走＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/16-17	旅館	C	清家三保子	7	34
899	あ	**愛鷹連峰(越前岳)**	富士周辺	2015	5/17	日帰り	2A	高橋芳恵	16	17
355	あ	**足和田山**	富士周辺	2003	12/7	日帰り	1A	斎藤・中村	5	151
660	あ	**足和田山**～紅葉台	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
446	あ	烏帽子・湯ノ丸・**四阿山**・根子岳	上信	2007	6/26-29	山麓泊	5B	高橋　潔	7	49
630	あ	湯の丸山・**四阿山**（市民登山）	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
848	あ	**四阿屋山**・両神山	奥秩父	2014	5/9-10	山麓泊	3B	矢野貞子	15	86
379	あ	**畦ガ丸**	丹沢	2004	5/29	日帰り	2B	斎藤清一	6	26
727	あ	**畦ヶ丸**～加入道山～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
945	あ	**畦ケ丸**・菰釣山	西丹沢・道志	2016	5/22-23	山麓泊	2B	田村光子	16	124
670	あ	日ノ出山～**麻生山**	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
266	あ	**阿蘇山**・九重山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
29	あ	**愛宕山**	房総	1997	10/19	日帰り	A	県連、高橋英	1	56
260	あ	**愛宕山**～吾国山	常陸	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
566	あ	**愛宕山**・ポンポン山	京都	2007	11/20-22	山麓泊	2A	細野清子	9	105
704	あ	**愛宕山**（ウイズハイク）	茨城	2010	9/4	日帰り	1A	石垣吉朗	12	95
881	あ	御殿山・**愛宕山**（忘年山行）	房総	2014	12/7	日帰り	1A	中村育・瀬田	15	157
138	あ	**安達太良山**	福島	2000	1/15-16	山小屋	C	柴　勇	2	131
267	あ	**安達太良山**（公開登山）	福島	2002	6/9	日帰り	A	大串秀雄	4	153
359	あ	**安達太良山**	福島	2004	1/10-11	山小屋	4C	川下敬史	5	162
854	あ	**安達太良山**	安達太良	2014	6/15	日帰り	2A	斉田記代美	15	103
14	あ	**吾妻連峰**	吾妻連峰	1997	5/17-18	山小屋	C	柴　勇	1	22
74	あ	一切経山～**東吾妻山**	吾妻連峰	1998	10/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1	149
228	あ	**吾妻連峰**	吾妻連峰	2001	9/15-16	避難小屋	B+	外崎　蓮	4	60
109	あ	湯の丸山・**四阿山**	上州	2000	6/19-21	民宿泊り	B	外崎　蓮	2	58
512	あ	大峰山～**吾妻耶山**	谷川	2007	11/6	日帰り	2B	青山寿子	8	104
663	あ	**吾妻耶山**・今倉山	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋 重	11	120
764	あ	雨ヶ立山・**吾妻耶山**	上州	2012	3/17-18	山麓泊	3C	高橋重	14	1
213	あ	**雨ヶ岳**＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	7/1	日帰り	A	外崎　蓮	7	37
177	あ	**雨飾山**	頸城	2000	10/8-9	民宿	B	大串秀雄	3	84
559	あ	**雨飾山**	頸城	2007	10/8-9	山小屋	2B	清家三保子	9	89
867	あ	**雨飾山**	頚城山塊	2014	9/20-21	山小屋	2B	外崎蓮	15	132
764	あ	**雨ヶ立山**・吾妻耶山	上州	2012	3/17-18	山麓泊	3C	高橋重	14	1
443	あ	**尼ヶ禿山**～迦葉山	上州	2005	6/16	日帰り	2B	斎藤清一	7	41
772	あ	玉原高原～**尼ヶ禿山**～ブナ平（県連）	上州	2012	5/10	日帰り	1A	小川誠二郎	14	20
97	あ	**天城連山**	伊豆	1999	4/24-25	民宿	B+	細野清子	2	26
818	あ	**甘利山**～千頭星山	中央線沿線	2013	6/16	日帰り	1A	中村育子	15	23
337	あ	西岳～**編笠**～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎　蓮	5	93
614	あ	西岳～権現～**編笠**(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎 蓮	10	110
641	あ	**編笠山**～権現岳～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
953	あ	硫黄岳～赤岳～権現岳～**編笠山**	八ヶ岳南部	2016	7/28-30	山小屋	3B	大平太計夫	16	142
405	あ	**阿弥陀岳**	八ヶ岳	2004	10/11	日帰り	4D	千葉有子	6	93
645	あ	**雨引山**（ウイズハイク）	茨城	2009	9/5	日帰り	2A	石垣吉朗	11	76
673	あ	**アモウ沢**～滝子山	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
871	あ	七ケ岳・**荒海山**	南会津	2014	10/24-25	テント	2B	村松敏彦	15	141
32	あ	七ヶ岳・**荒海山**	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
121	あ	**荒川三山**～赤石岳	南ア	1999	9/12-15	山小屋	C	大串秀雄	2	86
497	あ	**荒川三山**～赤石岳	南ア	2006	8/4-6	山小屋	3C	外崎　蓮	8	61
862	あ	**荒川三山**～赤石岳	南アルプス	2014	8/1-5	山小屋	3C	武内勇二	15	120
924	あ	**荒倉山**・入笠山	南アルプス前衛	2015	12/19-20	テント	2B	村松敏彦	16	76
341	あ	未丈ヶ岳･**荒沢岳**	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
344	あ	荒島岳･能郷白山	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
190	あ	**荒船山**	西上州	2001	2/4	日帰り	A+	川下敬史	3	104
351	あ	**荒船山**	西上州	2003	11/9	日帰り	1A	榊原文子	5	142
539	あ	**荒船山**	西上州	2007	6/3	日帰り	1A	武内勇二	9	35
816	あ	**荒船山（市民山行）**	西上州	2013	6/2	日帰り	1A	村松敏彦	15	13
200	あ	**有間山**～蕨山	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎　蓮	4	5
527	あ	**有馬山**～蕨山	奥武蔵	2007	4/8	日帰り	3B	青山寿子	9	8

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
239	あ	**安房高山**　（ふれあいハイキング）	房総	2001	11/3-4	日帰り	A	県連、外崎	4	90
642	あ	摺古木山～**安平路山**～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	5C	村松敏彦	11	66
292	い	北信三山（黒姫山、戸隠山、**飯縄山**）	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	い	戸隠山・黒姫山・**飯縄山**	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
958	い	**飯縄山**～黒姫山	信越	2016	9/15-16	山麓泊	3B	高橋芳恵	16	152
908	い	石転び沢～烏帽子岳～**飯豊山**～三国岳	飯豊連峰	2015	7/29-8/1	山小屋・避難小屋	3C	矢澤節雄	16	43
220	い	**飯豊連峰**縦走	飯豊連峰	2001	8/2-5	テント	C+	柴　勇	4	48
554	い	**飯豊連峰**縦走（北股岳～大日岳～飯豊山）	飯豊連峰	2007	8/24-27	テント	4C	武内勇二	9	75
45	い	天狗岳～**硫黄岳**	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
694	い	**硫黄岳**～赤岳	八ケ岳	2010	7/24～25	山小屋	3B	外崎蓮	12	63
915	い	南八ヶ岳縦走(赤岳～横岳～**硫黄岳**)	八ヶ岳南	2015	10/4-5	山小屋	3C	高橋芳恵	16	60
935	い	**硫黄岳**	八ヶ岳	2016	3/27-28	山小屋	2C	大山冬臣	16	102
953	い	**硫黄岳**～赤岳～権現岳～編笠山	八ヶ岳南部	2016	7/28-30	山小屋	3B	大平太計夫	16	142
555	い	**五十沢**～金城山	上越	2007	9/1-2	避難小屋	4C	千葉有子	9	78
291	い	**石鎚山**	四国	2002	10/25夜-28	民宿	B	斎藤清一	4	235
194	い	**石割山**	富士周辺	2001	2/25	日帰り	A	斎藤清一	3	110
627	い	**石割山**	道志	2009	5/17	日帰り	2B	外崎　蓮	11	18
986	い	三国山稜縦走・**石割山**	丹沢	2017	2/12-13	山麓泊	2A～B	大山冬臣	16	206
55	い	**伊豆ヶ岳**　（新人研修）	奥武蔵	1998	6/7	日帰り	A	外崎　蓮	1	97
16	い	**伊豆ヶ岳**　（新人研修）	奥武蔵	1997	6/8	日帰り	A	柴、細野清	1	26
619	い	**伊豆ヶ岳東尾根**	奥武蔵	2009	2/8	日帰り	1B	堀口昭二	10	125
669	い	**伊豆ヶ岳**	奥武蔵	2010	2/28	日帰り	1A	矢野裕子	11	134
895	い	**伊豆ケ岳**	奥武蔵	2015	4/28	日帰り	2A	中村育子	16	10
327	い	船形山～**泉ヶ岳**	船形連峰	2003	6/21 - 22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
906	い	谷川　**一の倉沢**(県連ウイークデー)	谷川	2015	7/23	日帰り	1A	高橋芳恵	16	39
578	い	子の権現・**伊豆ヶ岳**（新人歓迎）	奥武蔵	2008	3/30	日帰り	1A	やまたん	10	6
74	い	**一切経山**～東吾妻山	吾妻連峰	1998	10/31-11/1	山小屋	B	村松敏彦	1	149
685	い	古峰原高原・横根岳～**井戸湿原**	前日光	2010	5/28-29	ﾛｯｼﾞ泊	1A	柴　勇	12	35
313	い	**稲含山**･御荷鉾山	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
332	い	**伊吹山**･賤ヶ岳	近江	2003	7/25-27	テント	2A	武内勇二	5	77
77	い	**今倉山**～二十六夜山	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
663	い	吾妻耶山・**今倉山**	谷川	2010	1/23-24	山小屋	3C	高橋重	11	120
813	い	**今倉山**～道志二十六夜山	道志	2013	5/6	日帰り	1A	大畠清江	15	8
883	い	秋山二十六夜山～赤鞍ケ岳・**今倉山**～道志二十六夜山	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
870	い	**威守松山**・巻機山	南魚沼	2014	10/11-12	山麓泊	1A･2B	外崎蓮	15	138
870	い	威守松山・**巻機山**	南魚沼	2014	10/11-12	山麓泊	1A･2B	外崎蓮	15	138
515	い	**伊予ヶ岳**・富山（県連４０周年）	房総	2006	11/18-19	テント	1A	高橋英雄	8	112
835	い	**伊予ヶ岳**（忘年山行）	房総	2013	12/1	日帰り	1A	矢野貞子	15	58
388	い	**易老山**～光岳	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎　蓮	6	48
233	い	**祝瓶山**・大朝日岳	朝日連峰	2001	10/5夜-8	テント	C	細野省二	4	74
340	い	**岩木山**･八甲田山	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
448	い	**岩木山**・白神岳・藤里駒ヶ岳	津軽	2005	7/22-24	テント	3D	細野清子	7	56
738	い	**岩木山**・白神岳	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴　勇	13	34
909	い	**岩小屋沢岳**～針ノ木岳～蓮華岳	北アルプ	2015	7/30-8/2	山小屋	3C	武内勇二	16	47
445	い	**岩菅山**～赤岩山	上信	2005	6/25-26	避難小屋	3B	外崎　蓮	7	47
402	い	**岩手山**・姫神山	東北	2004	9/18-20	宿	3B	高橋英雄	6	85
545	い	秋田駒ヶ岳・八幡平・**岩手山**	東北	2009	6/30-7/4	山麓泊	3B	柴　勇	9	52
601	い	**岩手山**～三石山～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
741	い	**岩手山**～三ツ石山～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎　蓮	13	41
237	い	**岩殿山**	中央沿線	2001	10/21	日帰り	A	日下芳十	4	86
311	い	**岩殿山**	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	日下芳十	5	14
417	い	**岩殿山**	中央沿線	2004	12/19	日帰り	1A	高橋英雄	6	121
478	い	宮地山～**岩殿山**	中央沿線	2007	4/3	日帰り	3B	青山寿子	8	7
845	い	**岩殿山**	中央沿線	2014	4/13	日帰り	1B	桐生恭子	15	82
532	い	**岩櫃山**	上州	2007	5/3	日帰り	2B	原田和昭	9	17
51	い	**岩山**　（リーダー研修）	前日光	1998	5/24	日帰り	B	村松敏彦	1	91
105	い	**岩山**　（ﾘｰﾀﾞｰ研修）	前日光	1999	5/30	日帰り	B	村松敏彦	2	47
162	い	**岩山**　（新人研修）	前日光	2000	7/2	日帰り	A	高橋英、安田	3	42

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
202	い	**岩山**（新人研修）	前日光	2001	4/29	日帰り	A	細野省二	4	6
307	い	**岩山**	前日光	2003	3/16	日帰り	A+	柴　勇	5	1
318	い	**岩山**	前日光	2003	5/11	日帰り	A	坂口よし江	5	31
418	い	**岩山**(登山教室)	前日光	2004	6/12	日帰り	1B	柴　勇	6	141
429	い	**岩山**	前日光	2005	4/3	リーダー研修	1B	村松敏彦	7	10
456	い	**岩山**　（登山教室）	前日光	2005	8/28	日帰り	1B	村松敏彦	7	131
531	い	**岩山**	前日光	2007	4/29	日帰り	2B	柴　勇	9	15
646	い	**岩山**	前日光	2009	9/13	日帰り	1B	高橋英雄	11	80
750	い	**岩山**(BOM研修)	前日光	2011	10/2	日帰り	2B	柴　勇	13	69
877	い	**岩山**	前日光	2014	11/15	日帰り	1B	桐生恭子	15	151
917	い	岩山	前日光	2015	10/18	日帰り	1B	村松敏彦	16	64
941	う	軽井沢～**碓氷峠**～横川	浅間・軽井沢	2016	5/7	日帰り	2A	高橋芳恵	16	115
279	う	木曾駒ヶ岳～**空木岳**	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	う	木曽駒ヶ岳～**空木岳**～越百山	中ア	2005	8/19-23	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	う	木曽駒ヶ岳～宝剣岳～**空木岳**	中ア	2009	8/12-16	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
732	う	乗鞍岳・**美ヶ原**（春山山行）	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13	13
205	う	雁ヶ腹摺山～**姥子山**	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
369	う	**馬立山**～九鬼山	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
464	う	**裏高尾縦走**	中央沿線	2005	10/16	日帰り	2A	千葉有子	7	100
354	う	**裏妙義**	西上州	2003	11/15-16	国民宿舎	4D	柴　勇	5	148
280	え	越後三山（**越後駒ケ岳**、中の岳、八海山）	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
465	え	**越後駒ヶ岳**	越後	2005	10/16-18	避難小屋	3C	大串秀、高橋潔	7	102
639	え	越後駒ヶ岳	越後	2009	8/6夜-8	山小屋	3B	高橋　重	11	60
957	え	**越後駒ケ岳**	越後山塊	2016	8/27-28	避難小屋	2B	北川勝久	16	151
195	え	**越前岳**　＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	3/18	日帰り	A	武内勇二	7	14
348	え	**恵那山**	中ア	2003	10/25-26	避難小屋	3B	石垣吉朗	5	135
493	え	樽前山・**恵庭岳**・羊蹄山	北海道	2007	7/2-8	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
115	え	**烏帽子岳**～穂高岳縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野清子	3	111
446	え	**烏帽子**・湯ノ丸・四阿山・根子岳	上信	2005	6/26-27	山麓泊	3B	高橋　潔	7	49
536	え	霧島・祖母山・**烏帽子岳**	九州	2009	5/21-26	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
582	え	赤岩尾根・**烏帽子岳**	西上州	2008	4/26-27	テント	3C	柴勇、坂巻明	10	20
284	え	**烏帽子岳**～水晶岳～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
908	え	石転び沢～**烏帽子岳**～飯豊山～三国岳	飯豊連峰	2015	7/29-8/1	山小屋・避難小屋	3C	矢澤節雄	16	43
841	え	嵯峨山・石尊山～**烏帽子山**（県連）	房総	2014	1/25-26	山麓泊	2A	小川誠二郎	15	70
621	お	**小出俣山**	谷川	2009	3/14-15	テント	4D	高橋 重	11	1
203	お	大笠山・**笈ヶ岳**	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
707	お	津梅川・**追良瀬川**	白神山地	2010	9/22－26	テント	3C	千葉有子	12	101
633	お	**奥入瀬渓谷**・八甲田山・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	2B	細野清子	11	43
722	お	曾倉山～**扇山**	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
233	お	祝瓶山・**大朝日岳**	朝日連峰	2001	10/５夜-8	テント	C	細野省二	4	74
285	お	**大洗海岸**水族館（ウイズハイク）	常陸	2002	9/28	日帰り	A	外崎　蓮	4	217
437	お	塔の岳～**大石山**～檜洞丸	丹沢	2006	5/14-16	山小屋	4B	柴　勇	7	28
203	お	**大笠山**・笈ヶ岳	白山	2001	5/2-6	テント	D	村松敏彦	4	8
41	お	**扇山**（公開登山）	中央沿線	1998	3/8	日帰り	A	三浦七郎	1	78
249	お	**扇山**	中央沿線	2002	2/10	日帰り	A	松本　豊	4	114
561	お	百蔵山～**扇山**・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2008	10/21-23	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
769	お	**扇山**～百蔵山	中央線沿	2012	4/21	日帰り	2A	大畠清江	14	14
575	お	**大霧山**	奥武蔵	2008	2/10	日帰り	1B	高橋英雄	9	128
885	お	**大霧山**	奥武蔵	2015	1/17	日帰り	1A	矢野裕子	15	165
10	お	**大楠山**（新人歓迎）	三浦半島	1997	4/20	日帰り	A	細野清子	1	16
281	お	**大雲取谷**	奥多摩	2002	8/31-9/1	テント	C	川下敬史	4	203
543	お	**大雲取谷**	奥多摩	2007	6/23夜-24	夜行日帰り	3D	堀口昭二	9	48
372	お	**大蔵高丸**～ハマイバ丸	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
561	お	百蔵山～扇山・**大蔵高丸**～滝子山	中央沿線	2009	10/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
761	お	**大蔵高丸**	大菩薩	2012	2/4	日帰り	2B	高橋 重	13	101
631	お	三本槍岳～流石山～**大倉山**	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
676	お	鈴ヶ尾山～**大桑山**	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
140	お	大洞山～**大沢山**	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
95	お	**大鹿山**（新人歓迎山行）	大菩薩	1999	4/18	日帰り	A	細野省、清家	2	22
101	お	大峰山～**大台ケ原山**	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
628	お	大峰山・**大台ケ原**	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
528	お	**大高山**	奥武蔵	2007	4/15	日帰り	2B	中村隆泰	9	10
776	お	**大高山**～天覚山～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆康	14	29
791	お	**大滝沢**	吾妻連峰	2012	7/8	山麓泊	4C	高橋重	14	74
42	お	**大岳山**（２期生卒業山行）	奥多摩	1998	3/15	日帰り	A	日下芳十	1	80
455	お	**大岳山**	奥多摩	2005	8/21	日帰り	2A	中村八重子	7	77
495	お	**大岳山**	奥多摩	2006	7/16	日帰り	3B	中村隆泰	8	57
243	お	奥多摩三山（**大岳山**、御前山、三頭山）	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
551	お	**大岳山**～鋸尾根	奥多摩	2007	8/12	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
151	お	**大塚山**～中塚山	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎　蓮	3	13
762	お	**大塚山**～御岳山～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
373	お	鬼ヶ岳・釈迦ヶ岳～**大栃山**	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
842	お	岳ノ山～**大鳥屋山**	足利山塊	2014	3/21	日帰り	1A	村松敏彦	15	75
587	お	**大行沢**～カケス沢	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
87	お	**大岱山**	甲州	1999	2/7	日帰り	A++	細野省二	2	9
766	お	**大野山**	丹沢	2012	4/1	日帰り	1A	坂巻　明	14	6
985	お	**大野山**	丹沢	2017	2/12	日帰り	1 A	室崎宏治	16	204
380	お	**大幡川四十八滝沢**	富士周辺	2004	5/30	日帰り	4D	堀口昭二	6	28
403	お	南岳～中岳～**大喰**岳～槍ヶ岳	北ア	2006	9/25-30	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
366	お	**大平山**～晃石山	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
557	お	**太平山**（ウイズハイク）	北関東	2007	9/23	日帰り	1A	小川誠二郎	9	83
140	お	**大洞山**～大沢山	中央沿線	2000	1/23	日帰り	B+	細野省二	2	135
765	お	**大洞山**～中沢山～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
606	お	奈良倉山～鶴寝山～**大マティ山**	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
342	お	女峰･**大真名子山**･太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
101	お	**大峰山**～大台ケ原山	台高山脈	1999	5/1-3	テント	C	細野省二	2	40
512	お	**大峰山**～吾妻耶山	谷川	2006	11/5	日帰り	2B	青山寿子	8	104
628	お	**大峰山**・大台ケ原	紀伊山地	2009	5/24-28	山麓泊	3B	大串秀雄	11	20
774	お	**大室山**～加入道山	丹沢	2012	5/19	日帰り	2B	田村光子	14	24
347	お	**大室山**･加入道山	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	お	加入道山～**大室山**～檜洞丸	丹沢	2006	3/20-22	避難小屋	4B	青山寿子	7	5
616	お	**大室山**・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
616	お	**大室山**・赤鞍ヶ岳	西丹沢・道志	2009	1/17-18	山麓泊	2B	小川誠二郎	10	116
727	お	畦ヶ丸～加入道山～**大室山**	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
832	お	**大持山**～子持山～武甲山	奥武蔵	2013	11/9	日帰り	2B	田村光子	15	54
18	お	**大山**～三峰山	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	お	**大山**～三峰山	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
302	お	**大山**	丹沢	2003	1/19	日帰り	A	高橋芳恵	4	263
625	お	**大山**	丹沢	2009	4/26	日帰り	2A	柴　勇	11	14
898	お	**大山**	丹沢	2015	5/13	日帰り	1A	末永三江子	16	16
931	お	**大山**	大山北尾根	2016	2/27	日帰り	2B	北川勝久	16	91
564	お	**小川山**	奥秩父	2007	11/10-11	テント	3B	柴　勇	9	100
484	お	**小川谷**・悪谷	奥多摩	2006	5/21	日帰り	3B	堀口昭二	8	21
949	お	**小川山**	奥秩父	2016	6/18-19	テント	3C	武内勇二	16	135
102	お	**奥久慈男体山**	常磐	1999	5/9	日帰り	A+	中村隆泰	2	43
309	お	**奥久慈男体山**	常磐	2003	3/30	日帰り	A	堀口・青山	5	6
920	お	**奥久慈男体山**	奥久慈	2015	11/23	日帰り	1B	村越百々代	16	68
231	お	**日光白根山**	日光	2001	9/29-30	避難小屋	B	武内勇二	4	69
703	お	戦場ヶ原～小田代ヶ原・**奥白根山**	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴　勇	12	92
759	お	**日光白根山**(X'mas山行)	日光	2011	12/17-18	テント	3D	村松敏彦	13	94
541	お	カヤの平・**奥裾花**（市民登山）	北信濃	2008	6/9-10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
786	お	立山～**奥大日岳**～大日岳	北アルプ	2012	8/7 - 10	山小屋	3B	高橋重	14	60
229	お	**奥秩父の沢**、川胡桃沢・鶏冠谷右俣	奥秩父	2001	9/23-24	テント	B,D	村松敏彦	4	64
170	お	**奥穂高岳**・北穂高岳	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
390	お	前穂高岳～**奥穂高岳**	北ア	2004	7/24-26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
598	お	**奥穂高岳**	北ア	2008	8/22-24	山小屋	4C	坂口よし江	10	69

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
864	お	北穂高岳・**奥穂高岳**	北アルプス	2014	8/21-24	テント	3C	村松敏彦	15	125
61	お	西穂高岳～**奥穂高岳**～前穂高岳	北ア	1999	7/18-21	山小屋	D	村松敏彦	1	107
787	お	前穂高岳～**奥穂高岳**	北アルプ	2012	8/9 - 11	山小屋	3C	矢野貞子	14	64
47	お	**石裂山**	前日光	1998	4/19	日帰り	A+	柴　勇	1	87
430	お	**石裂山**	前日光	2005	4/10	日帰り	2B	高橋芳恵	7	12
603	お	**石裂山**	前日光	2008	10/5	日帰り	2A	高橋重	10	82
939	お	**石裂山**	前日光	2016	4/24	日帰り	1B	大畠清江	16	112
486	お	那須旭岳・**大白森山**	那須	2007	5/27-29	テント	3C	村松敏彦	8	25
602	お	**尾瀬沼**～黒岩山～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
703	お	戦場ヶ原～**小田代ヶ原**・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴　勇	12	92
577	お	**お天気山**～羽賀場山	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
391	お	燕～**大天井**～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
700	お	常念岳～**大天井岳**～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
783	お	燕岳～**大天井岳**～常念岳	北アルプ	2012	7/27 - 30	山小屋・ﾃﾝﾄ	3C	武内勇二	14	52
856	お	**乙女高原**～小楢山	中央沿線	2014	6/21	日帰り	2A	中村育子	15	107
537	お	**鬼石沢**	丹沢	2007	5/27	日帰り	3C	青山寿子	9	31
479	お	**鬼ヶ岳**～節刀ヶ岳	富士周辺	2006	4/9	日帰り	2B	武内勇二	8	9
373	お	**鬼ヶ岳**・釈迦ヶ岳～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
971	お	**鬼ケ岳**～十二ケ岳	富士周辺	2016	11/12	日帰り	2B	北川勝久	16	179
617	お	大室山・**赤鞍ヶ岳**	中央沿線	2009	1/25	日帰り	1B	瀬田映子	10	120
180	お	**小野子山**～十二ヶ岳	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎　蓮	3	90
683	お	**小野子山**～十二ケ岳	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
858	お	子持山・**小野子山**	上州	2014	7/12-13	テント	1B	武内勇二	15	110
857	お	**小野岳**・二岐山	阿武隈	2014	6/29-30	山麓泊	2B	村松敏彦	15	108
481	お	**帯那山**	甲州	2006	4/30	日帰り	1A	高橋英雄	8	13
425	お	**お坊山**	中央沿線	2005	3/13	日帰り	3B	村松敏彦	7	1
17	お	**表妙義縦走**	上州	1997	6/15	日帰り	C	柴　勇	1	27
238	お	**表妙義**	上州	2001	10/27-28	テント	C+	柴　勇	4	88
371	お	表妙義	上州	2004	4/25	日帰り	2B	榊原文子	6	10
401	お	**表妙義**	上州	2004	9/18-19	夜	4D	青山寿子	6	83
654	お	**表妙義**	西上州	2009	11/8	日帰り	2B	中村隆泰	11	100
361	お	**恩若峰**･源次郎岳	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
338	お	**御嶽山**・乗鞍岳	木曽・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
594	お	木曽**御嶽山**	木曽	2008	8/2-3	山小屋	3B	坂巻明	10	59
66	か	**甲斐駒ヶ岳**	南ア	1998	9/11-13	ﾃﾝﾄ&無人小屋	C	細野省二	1	125
218	か	**甲斐駒ヶ岳**～仙丈岳	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
504	か	**甲斐駒ケ岳**	南ア	2006	8/9	山小屋	3C	佐藤健一	8	81
860	か	**甲斐駒ケ岳**～仙丈ケ岳	南アルプス	2014	7/21-24	山小屋	3C	大山冬臣	15	114
744	か	**甲斐駒ヶ岳**	南アルプス	2011	7/29-30	山小屋	3B	小川誠二郎	13	51
407	か	宮之浦岳・**開聞岳**	九州	2004	10/21-24	山小屋	2C	細野清子	6	97
198	か	**蛾ヶ岳**～三方分山＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
275	か	**加賀白山**	白山	2002	7/19夜-7/2	テント	B+	細野清子	4	181
824	か	**加賀白山**	北陸	2013	8/7-10	テント	3B	村松敏彦	15	34
698	か	**餓鬼岳**～燕岳	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
587	か	大行沢～**カケス沢**	東北	2008	6/14-15	テント	4D	千葉有子	10	41
155	か	**景信山**～高尾山	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
251	か	**景信山**～陣馬山	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本　豊	4	118
678	か	陣馬山～**景信山**～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
724	か	陣馬山～**景信山**	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146
889	か	陣馬山～**景信山**～城山	高尾山系	2015	2/14	日帰り	1A	北川勝久	15	173
925	か	**景信山**	高尾	2016	1/9	日帰り	1A	高橋芳恵	16	78
163	か	**籠ノ登山**･水ノ塔山	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
820	か	高峰山～**篭ノ登山**～三方ケ峰	浅間連峰	2013	7/7	日帰り	2B	村松敏彦	15	26
27	か	尾瀬集中登山(創立記念) A：**笠ヶ岳**－至仏山	尾瀬	1997	10/9-11	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	柴勇、川名	1	47
345	か	**笠ヶ岳**･至仏山	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎　蓮	5	127
553	か	**笠ヶ岳**	北ア	2007	8/17-20	山小屋	3C	高橋　重	9	70
708	か	北ノ俣岳～黒部五郎岳～**笠ヶ岳**	北アルプス	2010	9/23－27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
828	か	**笠ヶ岳～**至仏山	尾瀬	2013	9/27-28	山小屋	3B	箕輪完二	15	46

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
36	か	**笠取山**、雁坂峠(ｸﾘｽﾏｽ山行)	奥秩父	1997	12/20-21	テント	B	村松敏彦	1	68
326	か	**笠取山**	奥秩父	2003	6/15	日帰り	A	原田君子	5	58
487	か	**笠取山**～和名倉～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2006	2/5	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
838	か	**笠取山**（X'mas山行）	奥秩父	2013	12/21-22	テント	3C	村松敏彦	15	64
853	か	雲取山～和名倉山～**笠取山**～雁坂峠	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
626	か	堂平山～**笠山**	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
263	か	**甲子山**～三本槍岳～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	か	**甲子**～三本槍～茶臼岳	那須	2004	10/16-17	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
278	か	**鹿島槍ヶ岳**	北ア	2002	8/13夜-17	山小屋	C	高橋英雄	4	190
533	か	**鹿島槍ヶ岳**	北ア	2007	4/6	テント	4D	村松敏彦	9	19
593	か	爺ヶ岳～**鹿島槍ヶ岳**～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749	か	爺ヶ岳～**鹿島槍ヶ岳**～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
955	か	**鹿島槍ヶ岳**	北アルプス	2016	8/6-8	山小屋	3B	北田仁則	16	148
389	か	**霞沢岳**	北ア	2004	7/23-25	テント	4C	武内勇二	6	51
861	か	**霞沢岳**～徳本峠～島々宿	北アルプス	2014	7/30-8/2	山小屋	3C	高橋芳恵	15	117
217	か	鳥海山・**月山**	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
823	か	**月山**・蔵王（熊野岳～刈田岳）	出羽	2013	7/31-8/2	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	32
148	か	四ッ又山～**鹿岳**	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
347	か	大室山･**加入道山**	丹沢	2003	10/23	日帰り	2B	原田君子	5	133
427	か	**加入道**山～大室山～檜洞丸	丹沢	2005	3/20-21	避難小屋	3B	青山寿子	7	5
727	か	畦ヶ丸～**加入道山**～大室山	丹沢	2011	2/19-20	避難小屋	3B	北川勝久	12	153
774	か	大室山～**加入道山**	丹沢	2012	5/19	日帰り	2B	田村光子	14	24
812	か	茅ｹ岳～**金ｹ岳**	中央沿線	2013	4/27	日帰り	1A	郷田進	15	6
83	か	**鐘撞堂山**（新年鍋山行）	奥武蔵	1999	1/10	日帰り	A	細野清子	2	2
929	か	**鐘撞堂山**～羅漢山	奥武蔵	2016	2/7	日帰り	1A	本田愛子	16	88
408	か	**鹿野山**	房総	2004	10/23	日帰り	1A	原田和昭	6	102
297	か	**加波山**　（忘年山行）	常陸	2002	12/8	日帰り	A	原田和昭	4	250
476	か	**兜山**～棚山	中央沿線	2006	3/12	日帰り	2A	村松敏彦	8	1
305	か	**鎌倉アルプス**天園	湘南	2003	2/9	日帰り	A	細野清子	4	270
726	か	皇鈴山～登谷山～**釜伏山**	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
232	か	**上高地**～涸沢	北ア	2000	10/6-7	山小屋	B	大串秀雄	4	71
70	か	**神峰山**ふれあいハイク	常磐	1998	9/27	(雨の為、水族館他)	A	県連東葛	1	135
672	か	**神峰山**～高鈴山(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4
649	か	甑山・**神室山**	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
796	か	**神室山**～小又山～火打岳	東北	2012	10/5 - 7	避難小屋	3C	武内勇二	14	87
595	か	**掃部ヶ岳**～杏ヶ岳	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
122	か	**茅ヶ岳**	中央沿線	1999	9/19	日帰り	A	清家三保子	2	91
608	か	**茅ヶ岳**	甲斐	2008	11/2	日帰り	2B	小川洋子	10	95
812	か	**茅ヶ岳～金ケ岳**	甲斐	2013	4/27	日帰り	2A	郷田進	15	6
385	か	**樋ノ木山**～鷹ノ巣山	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
541	か	**カヤの平**・奥裾花（市民登山）	北信濃	2007	9/10	山麓泊	1A	堀口昭二	9	39
232	か	上高地～**涸沢**	北ア	2001	10/6-8	山小屋	B	大串秀雄	4	71
423	か	諏訪岳～**唐沢山**	両毛	2006	2/10-12	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
583	か	**涸沢**･蝶ヶ岳	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
431	か	モミソ沢・新茅の沢～**烏尾山**	丹沢	2007	4/16-19	テント	5B	佐藤健一	7	14
416	か	**烏場山**	房総	2004	12/5	日帰り	1A	細野清子	6	118
806	か	**烏場山（花嫁街道）**	房総	2013	1/20	日帰り	1A	箕輪完二	14	115
227	か	**唐松岳**～五竜岳	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
452	か	**唐松岳**～鑓ヶ岳～杓子岳	北ア	2005	8/13-15	山小屋	3C	高橋英雄	7	71
454	か	**唐松岳**～五竜岳	北ア	2005	8/21-22	山小屋	3B	原田和昭	7	75
679	か	**唐松岳**（春山山行）	北アルプス	2010	5/1-4	テント	4D	村松敏彦	12	23
749	か	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～**唐松岳**	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
905	か	**唐松岳**	後立山連峰	2015	6/30-7/1	山小屋	3B	大山冬臣	16	35
729	か	三ノ木戸山～**狩倉山**	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13	6
81	か	切込湖・**刈込湖**	日光	1999	12/14	日帰り	A	柴　勇	1	162
640	か	切込湖～**刈込湖**	日光	2009	8/10	日帰り	2A	細野清子	11	62
853	か	雲取山～和名倉山～笠取山～**雁坂峠**	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
7	か	**川苔山**	奥多摩	1997	2/22	日帰り	A+	清家三保子	1	11

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
100	か	**川乗山**	奥多摩	1999	5/2	日帰り	A+	高橋英雄	2	39
356	か	蕎麦粒山～**川苔山**	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
439	か	**川乗谷・逆川**	奥多摩	2005	5/22	日帰り	3C	村松敏彦	7	32
655	か	**川苔山**	奥多摩	2009	11/15	日帰り	2A	清家三保子	11	102
815	か	**川苔山**	奥多摩	2013	5/26	日帰り	2B	田村光子	15	12
942	か	**川苔山**	奥多摩	2016	5/15	日帰り	2A	本田愛子	16	117
205	か	**雁ｹ腹摺山**～姥子山	大菩薩	2001	5/19	日帰り	A	斎藤清一	4	17
513	か	大菩薩嶺～**雁ヶ腹摺山**	大菩薩	2007	5/7	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
874	か	黒岳～**雁ｹ腹摺山**	中央線沿線	2014	11/3	日帰り	2B	高橋芳恵	15	146
580	か	**勘七の沢**	丹沢	2008	4/13	日帰り	3C	佐々木侑	10	16
89	か	**官ノ倉山**	奥武蔵	1999	2/21	日帰り	A	日下芳十	2	12
921	か	金勝山～**官ノ倉山**	奥武蔵	2015	11/29	日帰り	1A	本田愛子	16	70
199	か	高山不動と**関八州見晴台**	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
468	き	**菊花山**	中央沿線	2005	11/3	日帰り	1B	中村隆泰	7	109
266	き	阿蘇山・**九重**山・由布岳	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
167	き	**木曾駒ヶ岳**～宝剣岳	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
246	き	**木曾駒ヶ岳**	中ア	2001	12/22-24	テント、避難小屋	C+	村松敏彦	4	105
279	き	**木曾駒ヶ岳**～空木岳	中ア	2002	8/23-25	山小屋	C	大串秀雄	4	196
394	き	**木曽駒ヶ岳**～空木岳～越百山	中ア	2004	8/19-22	山小屋	4C	大串秀雄	6	67
552	き	**木曽駒ヶ岳**～宝剣岳～空木岳	中ア	2007	8/12-14	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638	き	**木曽駒ヶ岳**～宝剣岳～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	2B	村松敏彦	11	56
910	き	**木曽駒ｹ岳**～宝剣岳	中央アルプ	2015	8/6-7	山麓泊	2B	矢野裕子	16	49
376	き	瑞牆～金峰～**北奥千丈**～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
914	き	北奥千丈岳～金峰山	奥秩父	2015	9/27-28	山小屋	2B	齊田記代美	16	58
902	き	**北大船山**～大船山～久住山・由布岳	阿蘇国立公園	2015	6/9-12	山小屋・山麓泊	3B	大山冬臣	16	27
76	き	**北高尾山稜**	中央沿線	1998	11/3	日帰り	A++	細野清子	1	153
494	き	**北岳**	南ア	2006	7/13-15	山小屋	3B	原田和昭	8	54
549	き	塩見岳～**北岳**	南ア	2008	7/28-32	山小屋	4C	外崎　蓮	9	62
702	き	**北岳**	南アルプス	2010	8/26-28	山小屋	3C	村松敏彦	12	88
959	き	白峰三山縦走（**北岳**～間ノ岳）	南アルプス北部	2016	9/16-18	山小屋	3C	郷田進	16	155
708	き	**北ノ俣岳**～黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23－27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
170	き	奥穂高岳・**北穂高岳**	北ア	2000	8/25-28	山小屋	B+	大串秀雄	3	63
864	き	**北穂高岳**・奥穂高岳	北アルプス	2014	8/21-24	テント	3C	村松敏彦	15	125
253	き	**北八ヶ岳**	八ヶ岳	2002	3/2-3	山小屋	B+	村松敏彦	4	123
290	き	**北八ヶ岳**	八ヶ岳	2002	10/18	日帰り	A	斎藤清一	4	233
579	き	**北八ヶ岳**	八ヶ岳	2008	4/5-6	山小屋	3C	安田みづほ	10	12
586	き	**北八ヶ岳**　（市民登山）	八ヶ岳	2008	6/7-8	山小屋・テント	2B/3B	やまたん	10	31
887	き	**北八ヶ岳**（東天狗岳）	北八ヶ岳	2015	1/27-28	山小屋	2C・3C	大山冬臣	15	169
175	き	**鬼怒沼**	日光	2000	9/30-10/1	山小屋	B	武内勇二	3	78
602	き	尾瀬沼～黒岩山～**鬼怒沼**	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
869	き	**鬼怒沼湿原**	奥日光	2014	10/7-8	山小屋	2B	武内勇二	15	136
988	き	鎌倉ハイキング・**衣張山**	伊豆箱根	2017	2/26	日帰り	1A	齊田記代美	16	210
770	き	高取山～仏果山～**経ヶ岳**	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14	16
69	き	仏果山～**経ヶ岳**	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	き	仏果山～**経ヶ岳**	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
288	き	焼石岳～**経塚山**	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
303	き	達沢山～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
367	き	**行道山**	両毛	2004	3/28	日帰り	1B	佐藤健一	6	3
801	き	**清澄山**（東大演習林）（１５周年記念行事）	房総	2012	11/11	日帰り	1A	小川誠二郎	14	99
696	き	**霧ヶ峰**(車山)	霧ヶ峰	2010	8/1	日帰り	1A	原田和昭	12	70
771	き	守屋山・**霧ヶ峰**	八ヶ岳周辺	2012	3/5	テント	2A	村松敏彦	14	18
81	き	**切込湖**・刈込湖	日光	1998	12/13	日帰り	A	柴　勇	1	162
640	き	**切込湖**～刈込湖	日光	2009	8/9	日帰り	1A	細野清子	11	62
536	き	**霧島**・祖母山・烏帽子岳	九州	2007	5/21-24	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
52	き	**霧降高原**	日光	1998	5/31	日帰り	A	大串秀雄	1	92
154	き	**霧降高原**	日光	2000	5/7	日帰り	A	榊原文子	3	22
485	き	**霧降高原**	日光	2006	5/24	日帰り	1A	榊原文子	8	23
555	き	五十沢～**金城山**	上越	2008	9/1-3	避難小屋	4C	千葉有子	9	78

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
921	き	**金勝山**～官ノ倉山	奥武蔵	2015	11/29	日帰り	1A	本田愛子	16	70
123	き	**金時山**～明神ヶ岳	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
191	き	**金時山**＜富士周辺シリーズ＞	箱根	2001	2/11	日帰り	A	細野清子	7	7
620	き	**金時山**	箱根	2009	2/22	日帰り	2B	坂口よし江	10	127
847	き	**金時山**	箱根	2014	4/20	日帰り	1A	本田愛子	15	84
879	き	矢倉岳～**金時山**	小田急沿線	2014	11/24	日帰り	2A	田村光子	15	154
136	き	甲武信岳～**金峰山**（ｸﾘｽﾏｽ山行）	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
236	き	瑞牆山～**金峰山**	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	き	瑞牆～**金峰**～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
418	き	**金峰山**	奥秩父	2004	12/25-26	テント	4D	村松敏彦	6	123
817	き	瑞牆山～**金峰山**	奥秩父	2013	6/7-8	山小屋	2B3B	高橋芳恵	15	21
903	き	瑞牆山・**金峰山**	奥秩父	2015	6/20-21	テント	2B	外崎蓮	16	31
914	き	北奥千丈岳～金峰山	奥秩父	2015	9/27-28	山小屋	2B	齊田記代美	16	58
436	き	**金北山**	佐渡	2005	8/4-6	山小屋	2B	原田和昭	7	26
775	き	**金北山**	佐渡ヶ島	2012	5/26 - 27	山麓泊	2B	村松敏彦	14	26
33	く	**九鬼山**	中央沿線	1997	11/8	日帰り	A	細野清子	1	64
369	く	馬立山～**九鬼山**	中央沿線	2004	4/11	日帰り	1B	武内勇二	6	6
666	く	**九鬼山**	中央沿線	2010	2/7	日帰り	2A	中村隆泰	11	127
833	く	**九鬼山**	中央沿線	2013	11/17	日帰り	1A	斉田記代美	15	55
415	く	**草津白根山**	上州	2004	12/1-2	宿	1A	斎藤清一	6	117
496	く	**草津白根山**	上州	2006	7/31-8/1	山麓泊	1A	斎藤清一	8	59
765	く	大洞山～中沢山～泰光寺山～**草戸山**	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
60	く	**櫛形山**	南ア	1998	7/7	日帰り	A	清家三保子	1	104
212	く	**櫛形山**	南ア	2001	6/30	日帰り	A	原田君子	4	25
740	く	**櫛形山**	中央線沿線	2011	7/9	日帰り	2B	原田和昭	13	39
902	く	北大船山～大船山～**久住山**・由布岳	阿蘇国立公園	2015	6/9-12	山小屋・山麓泊	3B	大山冬臣	16	27
745	く	**葛葉川本谷**(BOM研修)	丹沢	2011	8/7	日帰り	2B	村松敏彦	13	53
120	く	**葛葉川本谷**	丹沢	1999	9/5	日帰り	B	村松敏彦	2	84
325	く	**葛葉川本谷**	丹沢	2003	6/8	日帰り	C	堀口昭二	5	56
456	く	**葛葉川本谷**　（登山教室）	丹沢	2005	9/11	日帰り	2B	村松敏彦	7	131
438	く	**熊倉山**	奥秩父	2005	5/15	日帰り	2B	高橋英雄	7	30
730	く	**熊倉山**	秩父	2011	4/24	日帰り	2A	坂巻　明	13	8
434	く	根本山～**熊鷹山**	桐生	2006	4/30	日帰り	3B	外崎　蓮	7	21
918	く	根本山～**熊鷹山**	桐生	2015	11/3	日帰り	1A	田村光子	16	65
718	く	虎丸山～**熊岳**	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133
483	く	**熊野古道**･悪四郎山	熊野	2006	5/14-16	山麓泊	3B	細野清子	8	18
79	く	**雲取山**	奥秩父	1998	11/22-23	素泊り小屋	B	細野清、外崎	1	158
158	く	**雲取山**（公開登山）	奥秩父	2000	6/3-4	山小屋／テント泊	B	日下芳十	3	27
308	く	**雲取山**	奥秩父	2003	3/22-23	避難小屋	C	青山寿子	5	4
487	く	笠取山～和名倉～飛竜～**雲取**～長沢山	奥秩父・奥多摩	2009	2/8	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
550	く	**雲取山**	奥秩父	2007	4/5	山小屋	3A	小川誠二郎	9	65
853	く	**雲取山**～和名倉山～笠取山～雁坂峠	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
713	く	**雲取山**～天祖山	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
168	く	**雲ノ平**～槍ヶ岳	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
743	く	**雲の平**～高天原～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
516	く	殿平～**鞍吾山**	中央沿線	2007	11/24	日帰り	2B	武内勇二	8	115
107	く	高畑山～**倉岳山**（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
185	く	**倉岳山**（忘年山行）	中央沿線	2000	12/3	日帰り	A	原田君子	3	97
574	く	鳥屋山～**倉岳山**	中央沿線	2009	2/4	日帰り	2B	千葉有子	9	125
712	く	高畑山～**倉岳山**	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
882	く	**倉岳山**	中央沿線	2014	12/13	日帰り	1A	村松敏彦	15	160
984	く	**倉岳山**	中央線沿線	2017	2/5	日帰り	2A	坂巻明	16	203
331	く	**倉戸山**	奥多摩	2003	7/13	日帰り	2A	高橋英雄	5	76
831	く	**倉見山**	富士急沿線	2013	11/2	日帰り	1A	桐生恭子	15	52
328	く	**栗駒山**・焼石山	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
444	く	早池峰山・**栗駒山**（市民登山）	北上	2006	6/17-20	山麓泊	3B	石垣吉朗	7	43
797	く	**栗駒山**・虎毛山	東北	2012	10/20-21	テント	2B	外崎蓮	14	90
674	く	御前山～**九竜山**	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
602	く	尾瀬沼～**黒岩山**～鬼怒沼	尾瀬・日光	2008	9/26-28	テント	3C	武内勇二	10	79
734	く	**黒金山**	奥秩父	2011	5/15	夜行日帰り	3B	青山寿子	13	18
13	く	**黒川鶏冠山**	大菩薩	1997	5/24	日帰り	A+	川名	1	21
693	く	農鳥岳～**黒河内岳**	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
179	く	**黒岳**	富士周辺	2000	10/29	日帰り	A	原田君子	3	88
189	く	三ッ峠山～**黒岳**＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
739	く	**黒岳**	御坂山麓	2011	7/3	日帰り	2A	田村光子	13	37
874	く	**黒岳**～雁ヶ腹摺山	中央線沿線	2014	11/3	日帰り	2B	高橋芳恵	15	146
137	く	水の塔山・**黒斑山**	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
292	く	北信三山（**黒姫山**、戸隠山、飯縄山）	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	く	戸隠山・**黒姫山**・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
958	く	飯縄山～**黒姫山**	信越	2016	9/15-16	山麓泊	3B	高橋芳恵	16	152
873	く	**黒檜山**	上州	2014	10/30	日帰り	1A	坂巻明	15	145
901	く	**黒檜山**（赤城山）～駒ケ岳（市民山行）	上州赤城	2015	6/7	日帰り	1A	武内勇二	16	21
604	く	**黒部峡谷下の廊下**	北ア	2008	10/11-13	山小屋	3C	千葉有子	10	85
335	く	**黒部源流**	北ア	2003	8/12-17	テント	5D	堀口昭二	5	87
64	く	**黒部五郎岳**	北ア	1998	7/31-8/4	山小屋	B+	外崎　蓮	1	116
708	く	北ノ俣岳～**黒部五郎岳**～笠ヶ岳	北アルプス	2010	9/23－27	山小屋	4C	武内勇二	12	104
725	く	**黒斑山**・水の塔山	浅間	2011	2/5－6	山麓泊	3C	高橋重	12	148
518	け	**鶏足山**～花香月山（忘年山行）	常磐	2006	12/10	日帰り	2B	川下敬史	8	120
689	け	釈迦ヶ岳～**鶏頂山**	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻明	12	51
435	け	燧ヶ岳・**景鶴山**	尾瀬	2006	8/1-4	テント	5D	村松敏彦	7	23
719	け	仏果山～**華厳山**	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
544	け	**袈裟丸山**	足尾山塊	2007	6/23-24	テント	3B	外崎　蓮	9	50
629	け	**袈裟丸山**～小法師岳	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
682	け	**袈裟丸山**	足尾	2010	5/16	日帰り	2A	中村隆泰	12	29
208	け	**毛無山**～十二ケ岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
896	け	**毛無山**～十二ケ岳	御坂山塊	2015	5/6	日帰り	2B	大畠清江	16	11
312	け	モミソ沢･**源次郎沢**	丹沢	2004	4/12-14	テント	C	堀口昭二	5	15
361	け	恩若峰･**源次郎岳**	中央沿線	2004	1/25	日帰り	3C	村松敏彦	5	166
480	け	水無川本谷・**源次郎沢**	丹沢	2007	4/15-17	テント	3D	佐藤健一	8	11
131	け	**乾徳山**	奥秩父	1999	11/23	日帰り	B	三浦七郎	2	120
293	け	**乾徳山**	奥秩父	2002	11/3	日帰り	B	安田みづほ	4	242
710	け	**乾徳山**	奥秩父	2010	10/24	日帰り	2B	田村光子	12	111
850	け	**乾徳山**	奥秩父前衛	2014	5/24	日帰り	2B	郷田進	15	90
967	け	**乾徳山**	奥秩父前衛	2016	10/16	日帰り	2B	村越百々代	16	173
333	こ	**恋ノ岐沢**･平ヶ岳	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
310	こ	**甲州高尾山**	中央沿線	2003	4/6	日帰り	A	中村隆泰	5	11
113	こ	**庚申山**～皇海山	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	こ	**庚申山**～鋸山～皇海山	足尾山塊	2005	10/2-3	避難小屋	3C	大串秀雄	7	90
457	こ	**甲東不老山**	中央沿線	2005	9/18	日帰り	1A	中村隆泰	7	82
65	こ	塩見岳～**蝙蝠岳**	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
597	こ	塩見岳～**蝙蝠岳**	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
675	こ	比叡山・山の辺の道・**高野三山**・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
660	こ	足和田山～**紅葉台**	富士周辺	2009	12/12	日帰り	1A	千葉有子	11	114
40	こ	**古賀志山**	前日光	1998	2/14	日帰り	A+	柴　勇	1	76
316	こ	赤岩山～**古賀志山**	前日光	2003	4/27	日帰り	B	柴　勇	5	26
525	こ	**古賀志山**（新人歓迎山行）	前日光	2007	3/25	日帰り	1B	中村八重子	9	1
839	こ	大菩薩嶺～**小金沢連峰**	秩父大菩薩嶺	2014	1/11-12	山小屋	2B	武内勇二	15	66
866	こ	**小金沢山**	大菩薩嶺	2014	9/13	日帰り	2A	桐生・斉田	15	131
84	こ	南大菩薩**小金沢連峰**	大菩薩	1999	1/15-16	山小屋	B+	柴　勇	2	4
24	こ	**小草平の沢**	丹沢	1997	9/21	日帰り	B	村松敏彦	1	42
456	こ	**御座山**・労山フェスタ	西上州	2005	9/17	日帰り	2B	村松敏彦、労山	7	133
164	こ	**五色ヶ原**～薬師岳	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
637	こ	浄土山～**五色ヶ原**～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	4C	清家三保子	11	53
649	こ	**甑山**・神室山	秋田・山形県境	2009	10/16-18	テント	2B	武内勇二	11	87
374	こ	**五頭山**・菱ヶ岳・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
394	こ	木曽駒ヶ岳～空木岳～**越百山**	中ア	2006	8/19-24	山小屋	4C	大串秀雄	6	67

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
642	こ	摺古木山～安平路山～**越百山**	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	6C	村松敏彦	11	66
19	こ	**御前山**	奥多摩	1997	6/28	日帰り	A	村松敏彦	1	29
178	こ	**御前山**	奥多摩	2000	10/22	日帰り	A	大串秀雄	3	87
243	こ	奥多摩三山（大岳山、**御前山**、三頭山）	奥多摩	2001	11/23-4	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
610	こ	**御前山**	奥多摩	2008	11/23	日帰り	2B	箕輪完二	10	100
674	こ	**御前山**～九竜山	奥多摩	2010	4/18	日帰り	2B	青山寿子	12	9
717	こ	**御前山**（忘年山行）	茨城	2010	12/5	日帰り	1A	武内勇二	12	129
790	こ	**御前山**（ウイズハイク）	茨城	2012	9/1	日帰り	1A	石垣吉朗	14	71
938	こ	**御前山**	奥多摩	2016	4/17	日帰り	2A	村越百々代	16	110
881	こ	**御殿山**・愛宕山（忘年山行）	房総	2014	12/7	日帰り	1A	中村育・瀬田	15	157
139	こ	**小楢山**	奥秩父	2000	1/16	日帰り	B	村松敏彦	2	134
777	こ	小楢山	奥秩父	2012	6/2	日帰り	2A	村松敏彦	14	32
856	こ	乙女高原～**小楢山**	中央沿線	2014	6/21	日帰り	2A	中村育子	15	107
82	こ	**甲武信岳**　（ｸﾘｽﾏｽ山行）	奥秩父	1998	12/19-20	テント	C	村松敏彦	1	163
136	こ	**甲武信岳**～金峰山（ｸﾘｽﾏｽ山行）	奥秩父	1999	12/23-25	テント、避難小屋	D	村松敏彦	2	128
265	こ	笛吹川東沢釜の沢～**甲武信岳**	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
268	こ	**甲武信ヶ岳**	奥秩父	2002	6/14夜-16	山小屋	B+	外崎　蓮	4	157
376	こ	瑞牆～金峰～北奥千丈～**甲武信**	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
829	こ	**甲武信ヶ岳**	奥秩父	2013	10/10-12	山小屋	2B	矢野貞子	15	48
804	こ	**甲武信ヶ岳**（X'mas山行）	秩父	2012	12/23-24	テント	3C	村松敏彦	14	109
900	こ	新三国峠～十文字峠～**甲武信ヶ岳**～西沢渓谷	奥秩父	2015	6/4-5	山小屋	3B	高橋芳恵	16	18
685	こ	**古峰原高原**・横根岳～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ﾛｯｼﾞ泊	1A	柴　勇	12	35
629	こ	袈裟丸山～**小法師岳**	足尾山塊	2009	5/30-31	避難小屋	4B	青山寿子	11	26
681	こ	巣神山～**小法師岳**	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
901	こ	黒檜山（赤城山）～**駒ケ岳**（市民山行）	上州赤城	2015	6/7	日帰り	1A	武内勇二	16	21
796	こ	神室山～**小又山**～火打岳	東北	2012	10/5 - 7	避難小屋	3C	武内勇二	14	87
156	こ	**子持山**	上州	2000	5/21	日帰り	A	細野清子	3	25
832	こ	大持山～**子持山**～武甲山	奥武蔵	2013	11/9	日帰り	2B	田村光子	15	54
858	こ	**子持山**・小野子山	上州	2014	7/12-13	テント	1B	武内勇二	15	110
196	こ	**菰釣山**・高指山＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴　勇	7	18
514	こ	**菰釣山**～三国山	丹沢	2006	11/11-12	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
945	こ	畦ケ丸・**菰釣山**	西丹沢・道志	2016	5/22-23	山麓泊	2B	田村光子	16	124
981	こ	鳥の胸山・**菰釣山**	西丹沢・道志	2017	1/19-20	山麓泊	2B	村松敏彦	16	197
227	こ	唐松岳～**五竜岳**	北ア	2001	9/6-8	山小屋	C	大串秀雄	4	57
454	こ	唐松岳～**五竜岳**	北ア	2006	8/21-23	山小屋	4B	原田和昭	7	75
593	こ	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～**五竜岳**	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749	こ	爺ヶ岳～鹿島槍ヶ岳～**五竜岳**～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
182	こ	**権現山**	中央沿線	2000	11/18	日帰り	B	柴　勇	3	94
296	こ	**権現山**	中央沿線	2002	11/24	日帰り	A	清家三保子	4	248
337	こ	西岳～編笠～**権現山**	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎　蓮	5	93
614	こ	西岳～**権現**～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎　蓮	10	110
641	こ	編笠山～**権現岳**～赤岳	八ヶ岳	2009	8/14-15	山小屋	3C	田村光子	11	64
953	こ	硫黄岳～赤岳～**権現岳**～編笠山	八ヶ岳南部	2016	7/28-30	山小屋	3B	大平太計夫	16	142
735	こ	**権現山**	中央線沿線	2011	5/22	日帰り	2A	中村隆泰	13	20
875	こ	**権現山**	中央線沿線	2014	11/8	日帰り	2A	中村育子	15	148
675	こ	比叡山・山の辺の道・高野三山・**金剛山**	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
463	さ	**蔵王周辺**の山々	蔵王連峰	2005	10/9-12	山麓泊	3B	斎藤清一	7	97
823	さ	月山・**蔵王**（熊野岳～刈田岳）	出羽	2013	7/31-8/2	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	32
841	さ	**嵯峨山**・石尊山～烏帽子山（県連）	房総	2014	1/25-26	山麓泊	2A	小川誠二郎	15	70
39	さ	**笹尾根**	奥多摩	1998	2/8	日帰り	A	清家三保子	1	74
193	さ	**笹尾根**	奥多摩	2001	2/18	日帰り	A	中村隆泰	3	108
250	さ	**笹尾根**（日原峠～生藤山）	中央沿線	2002	2/16	日帰り	A	中村隆泰	4	116
362	さ	**笹尾根**	奥多摩	2004	2/1	日帰り	2B	外崎　蓮	5	168
576	さ	三頭山～**笹尾根**	奥多摩	2008	3/8-9	日帰り	1A	外崎　蓮	10	1
615	さ	**笹尾根**(槇寄山)	奥多摩	2009	1/10	日帰り	2B	矢野裕子	10	114
665	さ	**笹尾根**（小棡峠～生藤山）	中央沿線	2010	2/6	日帰り	2A	千葉有子	11	125
96	さ	**笹子雁ヶ腹摺山**（新人歓迎山行）	中央沿線	1999	4/18	日帰り	A+	斎藤清一	2	24
581	さ	**笹子雁ヶ腹摺山**	中央沿線	2008	4/26	日帰り	2B	原田和昭	10	18

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	リーダー	号	ページ
755	さ	**笹子雁ヶ腹摺山**	大菩薩	2011	11/3	日帰り	2B	村松敏彦	13	83
501	さ	富士山～佐白山（ウィズハイク）	茨城	2007	9/24	日帰り	1A	外崎　蓮	8	71
729	さ	**三ノ木戸山**～狩倉山	奥多摩	2011	4/17	日帰り	2B	青山寿子	13	6
788	さ	**三ノ木戸山**（追悼山行）	奥多摩	2012	8/19	日帰り	1A	村松敏彦	14	67
647	さ	**佐武流山**	上越	2009	9/26-27	テント	4C	青山寿子	11	82
556	さ	**笊ヶ岳**	南ア	2007	9/9-10	テント	4C	外崎　蓮	9	81
891	さ	**三角山**～二子山	奥武蔵	2015	3/14	日帰り	1B	村松敏彦	16	1
638	さ	木曽駒ヶ岳～宝剣岳～**三ノ沢岳**	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	4B	村松敏彦	11	56
652	さ	**三ノ宿山**	日光	2009	11/1	日帰り	2A	中村八重子	11	95
944	さ	薬師岳～**三ノ宿山**	日光	2016	5/20	日帰り	2A	村松敏彦	16	122
294	さ	雷電山～**三方山**	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
820	さ	高峰山～篭ノ登山～**三方ケ峰**	浅間連峰	2013	7/7	日帰り	2B	村松敏彦	15	26
198	さ	蛾ヶ岳～**三方分山**＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	4/14-15	旅館泊	B	村松敏彦	7	22
927	さ	蛾ケ岳・**三方分山**	御坂山塊	2016	1/16-17	山麓泊	2B	外崎蓮	16	82
413	さ	**三方分山**～パノラマ台	富士周辺	2004	11/21	日帰り	2B	斎藤清一	6	113
157	さ	南月山～**三本槍岳**	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
263	さ	甲子山～**三本槍岳**～茶臼岳	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	さ	甲子～**三本槍**～茶臼岳	那須	2005	10/16-18	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
569	さ	**三本槍岳**	那須	2007	12/15-16	テント	3C	吉川誠一	9	114
631	さ	**三本槍岳**～流石山～大倉山	那須	2009	6/27-28	3B	3B	武内勇二	11	38
686	さ	茶臼岳～**三本槍岳**～朝日岳（市民登山）	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋　重	12	37
966	さ	那須岳（茶臼岳～朝日岳～**三本槍岳**）	那須	2016	10/10-11	山小屋	2B	大平太計夫	16	170
336	し	**爺ヶ岳**～針ノ木岳	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
593	し	**爺ヶ岳**～鹿島槍ヶ岳～五竜岳	北ア	2008	7/25-28	山小屋	3C	佐藤明子	10	56
749	し	**爺ヶ岳**～鹿島槍ヶ岳～五竜岳～唐松岳	北アルプス	2011	8/26-29	山小屋	3C	武内勇二	13	66
65	し	**塩見岳**～蝙蝠岳	南ア	1998	8/21-26	山小屋	B+	細野省二	1	121
451	し	仙丈ヶ岳～三峰山～**塩見岳**	南ア	2007	8/5-10	山小屋	6D	大串秀雄	7	66
549	し	**塩見岳**～北岳	南ア	2007	7/28-31	山小屋	4C	外崎　蓮	9	62
597	し	**塩見岳**～蝙蝠岳	南ア	2008	8/21-23	山小屋	2B	清家三保子	10	66
128	し	杓子山～**鹿留山**	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎　蓮	2	113
466	し	**鹿俣山（玉原高原）**	上州	2005	10/27	日帰り	2A	柴田節子、県連	7	105
794	し	蓬峠～武能岳～**茂倉岳**～谷川岳（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
261	し	**鹿倉山**	奥多摩	2002	5/3	日帰り	A	高橋英雄	4	138
972	し	杓子山～ **鹿留山**	富士周辺	2016	11/23	日帰り	1A	矢野裕子	16	181
209	し	**思親山**＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/3	日帰り	A	斎藤清一	7	32
332	し	伊吹山･**賤ヶ岳**	近江	2003	7/25夜-27	テント	2A	武内勇二	5	77
840	し	**シダンゴ山**～宮地山	丹沢	2014	1/19	日帰り	1A	外崎蓮	15	68
215	し	**七面山**～八紘嶺＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
912	し	**七面山**・八紘嶺	南ア前衛	2015	9/5-6	宿坊泊	2B	外崎蓮	16	54
54	し	**七里川**清掃ﾊｲｷﾝｸﾞ	房総	1998	6/7	日帰り	A	大串秀、県連	1	94
144	し	**七里川**-追原-元清澄山	房総	2000	2/19-20	日帰り	A	県連自然保護委	2	142
27	し	尾瀬集中登山(創立記念)　C：**至仏山**	尾瀬	1997	10/9-11	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	柴勇、村松敏	1	47
27	し	尾瀬集中登山(創立記念)　A：笠ヶ岳－**至仏山**	尾瀬	1998	10/9-12	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	柴勇、川名	1	47
345	し	笠ヶ岳･**至仏山**	尾瀬	2003	10/11-12	山荘	2B	外崎　蓮	5	127
828	し	笠ヶ岳**～至仏山**	尾瀬	2013	9/27-28	山小屋	3B	箕輪完二	15	46
961	し	尾瀬ｹ原～**至仏山**（２０周年記念山行）	尾瀬	2016	10/1夜-2	日帰り	2A	坂巻明	16	159
962	し	尾瀬ｹ原～**至仏山**（２０周年記念山行）	尾瀬	2016	10/1-2	山小屋	2A	桐生 高橋英	16	160
963	し	燧ｹ岳～**至仏山**（２０周年記念山行）	尾瀬	2016	9/30-10/2	山小屋	3B	田村光子	16	161
964	し	燧ｹ岳～**至仏山**～アヤメ平（２０周年記念山行）	尾瀬	2016	9/30-10/2	テント	3B	武内勇二	16	164
373	し	鬼ヶ岳・**釈迦ヶ岳**～大栃山	富士周辺	2004	5/1-2	宿	2B	大串恵子	6	14
689	し	**釈迦ｹ岳**～鶏頂山	高原山	2010	6/20	日帰り	2A	坂巻　明	12	51
128	し	**杓子山**～鹿留山	富士周辺	1999	11/3	日帰り	A	外崎　蓮	2	113
393	し	白馬～**杓子**～鑓ヶ岳	北ア	2005	8/12-16	山小屋	4C	高橋英雄	6	64
452	し	唐松岳～鑓ヶ岳～**杓子岳**	北ア	2007	8/13-17	山小屋	5C	高橋英雄	7	71
907	し	白馬三山（白馬岳～**杓子岳**～鑓ｹ岳）	北アルプス	2015	7/26-29	山小屋	3C	坂巻明	16	41
972	し	**杓子山**～ 鹿留山	富士周辺	2016	11/23	日帰り	1A	矢野裕子	16	181
565	し	**社山**	日光	2007	11/18	日帰り	2A	石垣吉朗	9	103
443	し	尼ヶ禿山～**迦葉山**	上州	2006	6/17	日帰り	3B	斎藤清一	7	41

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
330	し	阿寒・**斜里**・羅臼岳	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
180	し	小野子山～**十二ヶ岳**	上州	2000	11/3	日帰り	A+	外崎　蓮	3	90
208	し	毛無山～**十二ケ岳**＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	6/2	日帰り	B	大串秀雄	7	28
375	し	**十二ヶ岳**	富士周辺	2004	5/9	日帰り	2B	中村隆泰	6	18
683	し	小野子山～**十二ケ岳**	上州	2010	5/22	日帰り	2B	原田和昭	12	31
896	し	毛無山～**十二ケ岳**	御坂山塊	2015	5/6	日帰り	2B	大畠清江	16	11
971	し	鬼ケ岳～**十二ケ岳**	富士周辺	2016	11/12	日帰り	2B	北川勝久	16	179
709	し	天狗角力取山～**障子ヶ岳**	朝日連峰	2010	10/15-17	**3B**	3B	武内勇二	12	108
68	し	**上州武尊山**	上州	1998	9/19-20	山小屋	B+	柴　勇	1	132
289	し	**上州武尊山**	上州	2002	10/13-14	民宿	B	大串秀雄	4	230
482	し	**上州武尊岳**	上州	2006	5/3-4	テント	4D	村松敏彦	8	15
780	し	**上州武尊岳**	上州	2012	6/30 - 7/1	テント	2B	矢野貞子	14	44
135	し	**上州三峰山**	西上州	1999	12/19	日帰り	A+	細野省二	2	126
314	し	**生藤山**～陣馬山	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
352	し	戸倉二山～**生藤山**	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
250	し	笹尾根（日原峠～**生藤山**）	中央沿線	2003	2/17	日帰り	A	中村隆泰	4	116
259	し	**生藤山**	中央沿線	2002	4/21	日帰り	A	細野清、榊原	4	135
893	し	**生藤山**～陣馬山	中央線沿線	2015	4/12	日帰り	2A	齊田記代美	16	7
637	し	**浄土山**～五色ヶ原～薬師岳	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	3C	清家三保子	11	53
49	し	蝶ヶ岳～**常念岳**	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
172	し	燕岳～**常念岳**～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	し	燕～大天井～**常念**～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
700	し	**常念岳**～大天井岳～槍ヶ岳	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
747	し	**常念岳**～蝶ヶ岳	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13	60
783	し	燕岳～大天井岳～**常念岳**	北アルプ	2012	7/27 - 30	山小屋・ﾃﾝﾄ	3C	武内勇二	14	52
433	し	**笙の岩**～蕎麦粒山～棒の折	奥多摩	2005	4/24	日帰り	3B	青山寿子	7	19
449	し	**笙の岩**～蕎麦粒山	奥多摩	2005	7/23	日帰り	2B	中村隆泰	7	60
613	し	**城峯山**(忘年山行)	秩父	2008	12/14	日帰り	1A	やまたん	10	106
974	し	**城峯山**（忘年山行）	秩父	2016	12/4	日帰り	1A	矢澤 矢野裕	16	183
916	し	尾瀬・**白尾山**	尾瀬・南会津	2015	10/8-10	山小屋	2B	村松敏彦	16	62
22	し	朝日岳・**白毛門**	谷川	1997	8/30-31	テント	C	細野省二	1	37
112	し	朝日岳・**白毛門**	谷川	1999	7/24-25	避難小屋	B+	外崎　蓮	2	63
124	し	**白神岳**・藤里駒ヶ岳	津軽	1999	10/9一11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	し	岩木山・**白神岳**・藤里駒ヶ岳	津軽	2006	7/22-25	テント	4D	細野清子	7	56
738	し	岩木山・**白神岳**	東北	2011	7/2-7/4	テント	2B	柴　勇	13	34
461	し	**白毛門沢**	上越	2005	10/2	前夜発	3C	千葉有子	7	94
349	し	**白笹山**～南月山	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
387	し	**白砂山**	上信越	2004	7/17-18	宿	3B	中村隆泰	6	45
688	し	**白谷沢**	奥武蔵	2010	6/13	日帰り	2B	堀口昭二	12	50
118	し	**白峰三山**	南ア	1999	8/20-22	山小屋	C	外崎　蓮	2	77
21	し	**白馬岳**～朝日岳	北ア	1997	8/7-10	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	細野清子	1	33
317	し	**白馬岳**（雪山合宿）	北ア	2003	5/2-5	テント	D	村松敏彦	5	28
393	し	**白馬**～杓子～鑓ヶ岳	北ア	2004	8/12-15	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
399	し	朝日岳～**白馬岳**	北ア	2005	9/16-20	山小屋	3C	石垣吉朗	6	78
166	し	**白馬三山**	北ア	2000	8/5-7	山小屋	B	斎藤清一	3	52
695	し	**白馬岳**～朝日岳	北アルプス	2010	7/30～8/2	山小屋/テント	3C	外崎　蓮	12	65
907	し	白馬三山（**白馬岳**～杓子岳～鑓ケ岳）	北アルプス	2015	7/26-29	山小屋	3C	坂巻明	16	41
692	し	八間山・**白砂山**	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
889	し	陣馬山～景信山～**城山**	高尾	2015	2/14	日帰り	1A	北川勝久	15	173
431	し	モミソ沢・**新茅の沢**～烏尾山	丹沢	2006	4/16-18	テント	4B	佐藤健一	7	14
183	し	**陣場山**	中央沿線	2000	11/19	日帰り	A	榊原文子	4	1
251	し	景信山～**陣馬山**	中央沿線	2002	2/24	日帰り	A	松本　豊	4	118
314	し	生藤山～**陣馬山**	中央沿線	2003	4/13	日帰り	A	高橋芳恵	5	23
678	し	**陣馬山**～景信山～高尾山	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
724	し	**陣馬山**～景信山	高尾	2011	1/30	日帰り	2B	青山寿子	12	146
763	し	**陣馬山**(BOM研修)	高尾	2012	2/26	日帰り	1A	BOM研修生	13	105
889	し	**陣馬山**～景信山～城山	高尾山系	2015	2/14	日帰り	1A	北川勝久	15	173
893	し	生藤山～**陣馬山**	中央線沿線	2015	4/12	日帰り	2A	齊田記代美	16	7

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
933	し	**陣馬山**	東高尾	2016	3/21	日帰り	1A	藤家 北田	16	97
284	す	烏帽子岳～**水晶岳**～赤牛岳	北ア	2002	9/19夜-23	山小屋	C	武内勇二	4	213
983	す	**水仙ロード**（勝山～江月～ばんや）（県連）	房総	2017	1/28-29	山麓泊	２A	高橋芳恵	16	201
113	す	庚申山～**皇海山**	足尾山塊	1999	7/24-25	避難小屋	B+	細野省二	2	64
460	す	庚申山～鋸山～**皇海山**	足尾山塊	2007	10/2-5	避難小屋	5C	大串秀雄	7	90
600	す	**皇海山**～錫ヶ岳	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
681	す	**巣神山**～小法師岳	足尾	2010	5/15-16	テント	3C	千葉有子	12	27
245	す	**助川山**（忘年山行）	常陸	2001	12/2	日帰り	A,B	川下敬史	4	103
954	す	雲の平～鷲羽岳～三俣蓮華岳～**双六岳**	北アルプス	2016	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	16	144
676	す	**鈴ケ尾山**～大桑山	中央線沿線	2010	4/24	日帰り	2B	村松敏彦	12	17
499	す	**錫ヶ岳**～前白根山	日光	2006	9/9-10	テント	4C	村松敏彦	8	66
600	す	皇海山～**錫ヶ岳**	奥日光	2008	9/21-23	テント	4C	青山寿子	10	73
153	す	浅草岳**･守門岳**	会越	2000	5/3-6	テント／民宿	D	村松敏彦	3	20
346	す	浅草岳**･守門岳**	会越	2003	10/18-19	民宿	2B	柴　勇	5	130
595	す	掃部ヶ岳～**杏ヶ岳**	上州	2008	8/10	日帰り	2A	品田千恵子	10	61
690	す	**守門岳**	越後	2010	6/26～27	避難小屋	3B	石垣吉朗	12	53
642	す	**摺古木山**～安平路山～越百山	中央アルプス	2009	8/21-24	避難小屋	4C	村松敏彦	11	66
423	す	**諏訪岳**～唐沢山	両毛	2005	2/10-11	日帰り	2A	斎藤清一	6	134
184	す	高反山・**諏訪山**	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
948	せ	三ツ峠山～**清八山**	富士周辺	2016	6/11	日帰り	2A	大畠清江	16	134
420	せ	**石尊山**～三石山	房総	2005	1/29-30	宿	2A	斎藤清一	6	127
618	せ	とみやま水仙遊歩道・**石尊山**（県連ロングハイク）	房総	2009	1/31－2/1	山麓泊	3A	斉藤清一	10	122
841	せ	嵯峨山・**石尊山**～烏帽子山（県連）	房総	2014	1/25-26	山麓泊	2A	小川誠二郎	15	70
928	せ	津辺野山・**石尊山**～麻綿原～妙見山（県連）	南房総	2016	1/30-31	山麓泊	2B	高橋芳 武内	16	85
8	せ	**石老山**（公開登山）	中央沿線	1997	3/16	日帰り	A	柴、細野清	1	12
188	せ	**石老山**＜富士周辺シリーズ＞	中央沿線	2001	1/14	日帰り	A	村松敏彦	7	1
940	せ	**石老山**	道志山系	2016	4/24	日帰り	1A	郷田進	16	114
479	せ	鬼ヶ岳～**節刀ヶ岳**	富士周辺	2007	4/10	日帰り	2B	武内勇二	8	9
395	せ	**背戸峨廊**	阿武隈	2004	8/22	日帰り	1B	中村八重子	6	71
370	せ	モミソ沢・**セドの沢**左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
529	せ	**セドの沢右俣**	丹沢	2007	4/15	日帰り	3C	堀口昭二	9	12
535	せ	**セドの沢左俣**	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	堀口昭二	9	24
808	せ	**瀬淵山～**高指山～不老山（甲東三山）	中央線沿	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆康	14	120
607	せ	**浅間尾根**	奥多摩	2008	11/1	日帰り	2A	村松敏彦	10	93
659	せ	雪入山～**浅間山**（忘年山行）	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
146	せ	**浅間嶺**	奥多摩	2000	3/26	日帰り	A	高橋英、安田	3	4
811	せ	**浅間嶺**	奥多摩	2013	4/13	日帰り	1A	斉田記代美	15	5
26	せ	**仙丈ヶ岳**	南ア	1997	9/27-28	山小屋	B	村松敏彦	1	45
218	せ	甲斐駒ヶ岳～**仙丈岳**	南ア	2001	7/26-29	テント	C	武内勇二	4	40
219	せ	仙丈岳	南ア	2001	7/28-29	小屋・テント	B	清家三保子	4	46
451	せ	**仙丈ヶ岳**～三峰山～塩見岳	南ア	2005	5/8	山小屋	4D	大串秀雄	7	66
785	せ	**仙丈ヶ岳**	南アルプ	2012	3/5	山小屋	3B	武内勇二	14	58
860	せ	甲斐駒ケ岳～**仙丈ケ岳**	南アルプス	2014	7/21-24	山小屋	3C	大山冬臣	15	114
703	せ	**戦場ヶ原**～小田代ヶ原・奥白根山	奥日光	2010	8/28-28	テント	3C	柴　勇	12	92
819	せ	**戦場ヶ原**・太郎山	日光	2013	6/22-23	テント	２B	武内勇二	15	25
819	せ	戦場ヶ原・**太郎山**	日光	2013	6/22-23	テント	２B	武内勇二	15	25
644	せ	**仙丈ヶ岳**～アサヨ峰	南アルプス	2009	8/28-30	山小屋	3C	外崎　蓮	11	72
818	せ	甘利山～千頭**星山**	中央線沿線	2013	6/16	日帰り	１A	中村育子	15	23
73	せ	平標山～**仙ノ倉山**	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	せ	平標山～**仙ノ倉山**	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
792	せ	平標山～**仙の倉山**～万太郎山～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
968	せ	平標山～**仙ノ倉山**～三国街道	谷川	2016	10/18-19	山小屋	3B	高橋芳恵	16	174
396	そ	**相馬山**～榛名富士	上州	2004	8/29	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
722	そ	**曾倉山**～扇山	中央線沿線	2011	1/9	日帰り	2A	村松敏彦	12	142
116	そ	**蕎麦粒山**	奥多摩	1999	8/8	日帰り	A	斎藤清一	2	70
356	そ	**蕎麦粒山**～川苔山	奥多摩	2003	12/13-14	避難小屋	3B	坂口よし江	5	155
433	そ	笙の岩～**蕎麦粒山**～棒の折	奥多摩	2006	4/25	日帰り	4B	青山寿子	7	19
449	そ	笙の岩～**蕎麦粒山**	奥多摩	2006	7/24	日帰り	3B	中村隆泰	7	60

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
536	そ	霧島・**祖母山**・烏帽子岳	九州	2008	5/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	27
321	た	**大源太山**～巻機山	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
765	た	大洞山～中沢山～**泰光寺山**～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
59	た	田代山～**帝釈山**	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
810	た	**大小山**・大坊山(新人歓迎山行)	足利・桐生	2013	4/7	足利・桐生	1A	箕輪完二	15	1
843	た	**大小山**～大坊山	足利・桐生	2014	3/29	日帰り	1A	箕輪完二	15	77
214	た	利尻山・**大雪山**	北海道	2002	7/3-9	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
404	た	大山・蒜山	大山	2004	10/1-5	宿	2B	斎藤清一	6	90
902	た	北大船山～**大船山**～久住山・由布岳	阿蘇国立公園	2015	6/9-12	山小屋・山麓泊	3B	大山冬臣	16	27
400	た	立山三山～**大日三山**	北ア	2005	9/17-21	山小屋	3C	外崎　蓮	6	80
786	た	立山～奥大日岳～**大日岳**	北アルプ	2012	8/7 - 10	山小屋	3B	高橋重	14	60
922	た	**大福山**・梅ヶ瀬(忘年山行)	房総	2015	12/5	日帰り	1A	郷田 桐生	16	72
810	た	大小山・**大坊山**（新人歓迎山行)	足利・桐生	2013	4/7	足利・桐生	1A	箕輪完二	15	1
843	た	大小山**～大坊山**	足利・桐生	2014	3/29	日帰り	1A	箕輪完二	15	77
58	た	**大菩薩峠**	大菩薩	1998	6/28	日帰り	A	大串秀雄	1	100
150	た	**大菩薩嶺**	大菩薩	2000	4/23	日帰り	B	武内勇二	3	11
364	た	**大菩薩嶺**	大菩薩	2004	2/22	日帰り	3C	武内勇二	5	170
513	た	**大菩薩嶺**～雁ヶ腹摺山	大菩薩	2006	11/5-6	山小屋	4D	大串秀雄	8	106
650	た	**大菩薩嶺**	秩父	2009	10/24－25	山小屋	2A	中村隆泰	11	90
839	た	**大菩薩嶺**～小金沢連峰	秩父大菩薩嶺	2014	1/11-12	山小屋	2B	武内勇二	15	66
956	た	**大菩薩嶺**	北八ヶ岳	2016	8/20	日帰り	2B	矢野貞子	16	149
78	た	**大無間山**	南ア	1998	11/21-23	テント	C	清家三保子	1	156
73	た	**平標山**～仙ノ倉山	谷川	1998	10/24-25	山小屋	B	細野清子	1	146
274	た	**平標山**～仙ノ倉山	谷川	2002	7/13-14	山小屋	B	原田和昭	4	178
286	た	谷川岳～**平標山**	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
792	た	**平標山**～仙の倉山～万太郎山～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
968	た	**平標山**～仙ノ倉山～三国街道	谷川	2016	10/18-19	山小屋	3B	高橋芳恵	16	174
159	た	**高岩**	上州	2000	6/10	日帰り	B+	柴　勇	3	33
609	た	**高岩山**～鍋割山	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
155	た	景信山～**高尾山**	中央沿線	2000	5/14	日帰り	A	斎藤清一	3	23
519	た	**高尾山**	中央沿線	2006	12/17	日帰り	1A	中村八重子	8	124
575	た	**高尾山**	中央沿線	2008	2/11	日帰り	1A	坂巻・小松	9	130
980	た	**高尾山**	中央線沿線	2017	1/10	日帰り	1A	桐生恭子	16	196
678	た	陣馬山～景信山～**高尾山**	高尾	2010	4/25	日帰り	2A	田村光子	12	21
145	た	**高川山**	中央沿線	2000	3/12	日帰り	A	日下芳十	3	3
368	た	**高川山**	中央沿線	2004	4/4	日帰り	2A	中村八重子	6	5
837	た	**高川山**	中央沿線	2013	12/15	日帰り	1A	瀬田映子	15	62
884	た	**高川山**	中央沿線	2015	1/12	日帰り	1A	武内勇二	15	164
568	た	**高宕山**～八郎塚（忘年山行)	房総	2007	12/9	日帰り	2A	佐藤健一	9	112
196	た	菰釣山・**高指山**＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	3/24-25	無人小屋	B	柴　勇	7	18
808	た	瀬淵山**～高指山～**不老山（甲東三山)	中央線沿	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆康	14	120
672	た	神峰山～**高鈴山**(新人歓迎山行)	阿武隈山域	2010	4/4	日帰り	1A	川下敬史	12	4
184	た	**高反山**・諏訪山	西上州	2000	11/25-26	テント	C+	細野省二	3	96
111	た	**夜叉神峠**～高谷山	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
244	た	**高柄山**	中央沿線	2001	11/25	日帰り	A	中村八重子	4	101
834	た	鶴島御前山～**高柄山**	中央沿線	2013	11/24	日帰り	2B	大畠清江	15	56
570	た	**鷹取山**	三浦半島	2008	1/20	日帰り	1A	中村隆泰	9	117
770	た	**高取山**～仏果山～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14	16
319	た	**鷹巣山**～六ツ石山	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
385	た	棯ノ木山～**鷹ノ巣山**	奥多摩	2004	7/4	日帰り	2B	千葉有子	6	41
680	た	**鷹ノ巣山**	奥多摩	2010	5/9	日帰り	2B	青山寿子	12	25
107	た	**高畑山**～倉岳山（新人研修)	中央沿線	1999	6/13	日帰り	A	清家三保子	2	55
712	た	**高畑山**～倉岳山	中央線沿線	2010	11/7	日帰り	2A	中村隆泰	12	117
234	た	**高原山**	那須	2001	10/17	日帰り	A	中村隆泰	4	79
904	た	**高ボッチ**・鉢伏山～二ツ山	中信高原国定公園	2015	6/25	日帰り	1A	村松敏彦	16	34
743	た	雲の平～**高天原**～鷲羽岳	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
822	た	**高松岳**・焼石岳	東北	2013	7/28-30	避難小屋	3B	武内勇二	15	30
624	た	**高見石**～天狗岳	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋　重	11	11

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
521	た	**高水山**～棒の折山	奥多摩	2007	1/21	日帰り	2A	千葉有子	8	129
93	た	**高水三山**	奥多摩	1999	3/28	日帰り	A	日下芳十	2	19
264	た	**高水三山**	奥多摩	2002	5/18	日帰り	A	松本　豊	4	145
888	た	**高水三山**（卒業山行）	奥多摩	2015	2/11	日帰り	1A	石塚あさ子	15	171
648	た	棒の折山～**高水２山**	奥多摩	2009	10/10	日帰り	3A	原田和昭	11	85
820	た	**高峰山**～篭ノ登山～三方ケ峰	浅間連峰	2013	7/7	日帰り	2B	村松敏彦	15	26
85	た	**高山**	日光	1999	1/24	日帰り	A	外崎、村松敏	2	6
306	た	**日光高山**	日光	2003	2/11	日帰り	B	細野省二	4	272
488	た	**高山**（県連ハイク）	日光	2006	6/8	日帰り	2A	柴田節子、県連	8	32
573	た	**高山**	日光	2008	1/27	日帰り	2B	武内勇二	9	124
760	た	**高山**(BOM研修)	日光	2012	1/15	日帰り	2B	高橋重	13	97
926	た	**日光高山**	日光	2016	1/11	日帰り	1A	武内勇二	16	79
199	た	**高山不動**と関八州見晴台	奥武蔵	2001	4/15	日帰り	A	中村隆泰	4	3
392	た	**宝川ナルミズ沢**	谷川	2004	8/8-9	テント	4D	村松敏彦	6	61
44	た	**滝子山**	中央沿線	1998	3/22	日帰り	B	清家三保子	1	83
255	た	**滝子山**	中央沿線	2002	3/17	日帰り	A+	武内勇二	4	128
287	た	**滝子山**	中央沿線	2002	10/6	日帰り	A+	榊原文子	4	224
414	た	**滝子山**	中央沿線	2004	11/28	日帰り	3B	青山寿子	6	115
561	た	百蔵山～扇山・大蔵高丸～**滝子山**	中央沿線	2010	10/21-25	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
673	た	アモウ沢～**滝子山**	大菩薩	2010	4/17-18	テント	2B	佐藤健一	12	7
731	た	**滝子山**(BOM研修)	南大菩薩連峰	2011	4/29	日帰り	2B	村松敏彦	13	10
897	た	**滝子山**	南大菩薩	2015	5/10	日帰り	2B	村松敏彦	16	13
50	た	**武川岳**	奥武蔵	1998	5/17	日帰り	A+	中村隆泰	1	90
842	た	**岳ノ山**～大鳥屋山	足利山塊	2014	3/21	日帰り	1A	村松敏彦	15	75
59	た	**田代山**～帝釈山	会津	1998	7/4-5	テント	B	細野省二	1	102
303	た	**達沢山**～京戸山	中央沿線	2003	1/19	日帰り	C	村松敏彦	4	265
757	た	旭山～**達沢山**（忘年山行）	中央線沿線	2011	12/4	日帰り	2A	坂巻明	13	87
3	た	**蓼科山**、西天狗岳	八ヶ岳	1997	1/2-4	ﾃﾝﾄ&小屋	C	川名	1	6
502	た	**蓼科山**	八ヶ岳	2006	9／30-10／	日帰り	2B	石垣吉朗	8	75
677	た	**蓼科山**	八ヶ岳	2010	4/24-25	テント	3C	高橋重	12	19
952	た	**蓼科山**～双子山	八ヶ岳北部	2016	7/22-23	山小屋	2B	矢野貞子	16	140
117	た	剱岳～**立山**縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴　勇	2	72
450	た	剣岳～**立山三山**	北ア	2006	8/4-8	山小屋	5D	村松敏彦	7	62
786	た	**立山**～奥大日岳～大日岳	北アルプ	2012	8/7 - 10	山小屋	3B	高橋重	14	60
400	た	**立山三山**～大日三山	北ア	2004	9/17-20	山小屋	3C	外崎　蓮	6	80
476	た	兜山～**棚山**	中央沿線	2007	3/13	日帰り	3A	村松敏彦	8	1
520	た	**谷川岳**	谷川	2006	12/22-23	テント	4D	村松敏彦	8	126
542	た	**谷川岳**	谷川	2007	6/16-17	山小屋	2B	高橋　重	9	46
590	た	**谷川岳**山麓（リーダー研修）	谷川	2008	6/28-29	山麓泊	2B	石垣吉朗	10	49
286	た	**谷川岳**～平標山	谷川	2002	10/4夜-6	避難小屋	C	青山寿子	4	220
792	た	平標山～仙の倉山～万太郎山～**谷川岳**（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
793	た	西黒尾根～**谷川岳**（１５周年記念山行）	谷川	2012	9/22-23	山小屋	2B	村松敏彦	14	79
794	た	蓬峠～武能岳～茂倉岳～**谷川岳**（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
795	た	天神尾根～**谷川岳**（15周年記念山行）	谷川	2012	9/23	日帰り	2A	高橋英雄	14	85
934	た	**谷川岳**・天神尾根	谷川岳連峰	2016	3/23	日帰り	2C	大山冬臣	16	98
969	た	**谷川岳**	谷川	2016	10/23-24	山小屋	2B	齊田記代美	16	176
493	た	**樽前山**・恵庭岳・羊蹄山	北海道	2006	7/2-7	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
71	た	**太郎山**	日光	1998	10/4	日帰り	B	三浦七郎	1	136
342	た	女峰･大真名子山･**太郎山**	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
684	た	**太郎山**（県連ウィークディ山行）	日光	2010	5/27	日帰り	2B	原田和昭	12	33
160	た	リーダー研修ｉｎ**丹沢**	丹沢	2000	6/17-18	テント	B	村松敏彦	3	34
270	た	リーダー研修ｉｎ**丹沢**	丹沢	2002	6/29-30	テント	B/C	村松敏彦	4	166
30	た	**丹沢主脈**縦走（公開登山）	丹沢	1997	10/25-26	山小屋	B	村松敏彦	1	57
129	た	**丹沢主脈**縦走（新人研修）	丹沢	1999	11/13-14	山小屋	A++	細野省二	2	115
410	た	**丹沢主脈**	丹沢	2004	11/6-7	宿	1A	中村隆泰	6	106
53	た	**丹沢主稜**縦走	丹沢	1998	6/6-7	山小屋	B	柴　勇	1	93
103	た	**丹沢三ッ峰**	丹沢	1999	5/15-16	山小屋	B	清家三保子	2	45
651	た	鍋割山～**丹沢山**～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93

山　　名

（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
667	た	鍋割山～塔ノ岳～**丹沢山**	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴　勇	11	129
977	た	塔ノ岳～**丹沢山**～鍋割山稜縦走	東丹沢	2016	12/21-22	山小屋	2B	大山冬臣	16	191
753	た	**丹勢山**	日光	2011	10/23	日帰り	2A	原田和昭	13	78
383	た	**玉原高原**	上州	2004	6/19-20	宿	2B	清家三保子	6	35
772	た	**玉原高原**～尼ケ禿山～ブナ平（県連）	上州	2012	5/10	日帰り	1A	小川誠二郎	14	20
132	ち	**秩父御岳山**	奥武蔵	1999	11/28	日帰り	A	安田みづほ	2	121
441	ち	**秩父御岳**	奥武蔵	2005	5/29	日帰り	1A	中村八重子	7	36
800	ち	**秩父御嶽山**	奥秩父	2012	11/4	日帰り	2A	坂巻明	14	97
94	ち	**茶臼岳**	那須	1999	4/10-11	山小屋	C	柴　勇	2	20
263	ち	甲子山～三本槍岳～**茶臼岳**	那須	2002	5/11-12	避難小屋	B+	武内勇二	4	142
406	ち	甲子～三本槍～**茶臼岳**	那須	2006	10/16-19	避難小屋	3C	武内勇二	6	95
686	ち	**茶臼岳**～三本槍岳～朝日岳（市民登山）	那須連峰	2010	6/5-6	旅館泊	2A	高橋重	12	37
966	ち	那須岳（**茶臼岳**～朝日岳～三本槍岳）	那須	2016	10/10-11	山小屋	2B	大平太計夫	16	170
781	ち	会津駒ヶ岳～**中門岳**	南会津	2012	6/30 - 7/1	山小屋	2B	村松敏彦	14	46
172	ち	燕岳～常念岳～**蝶ヶ岳**	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	ち	燕～大天井～常念～**蝶**～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
583	ち	涸沢･**蝶ヶ岳**	北ア	2008	5/3-6	テント	4D	千葉有子	10	23
20	ち	**鳥海山**	出羽	1997	7/19-21	山小屋	B	柴　勇	1	32
169	ち	**鳥海山**	出羽	2000	8/18-20	山小屋	B	外崎　蓮	3	60
217	ち	**鳥海山**・月山	出羽	2001	7/19夜-22	山小屋	B	大串秀雄	4	36
456	ち	**鳥海山**	出羽	2005	8/26-29	山小屋	3B	武内勇二	7	79
863	ち	**鳥海山**	出羽	2014	8/7-9	山小屋	3B	箕輪完二	15	123
960	ち	**鳥海山**	出羽山地	2016	9/25-26	山小屋	3B	北田仁則	16	157
49	ち	**蝶ヶ岳**～常念岳	北ア	1998	5/2-5	テント	C	村松敏彦	1	89
747	ち	常念岳～**蝶ヶ岳**	北アルプス	2011	12/15	山小屋	3B	高橋英雄	13	60
855	ち	**長七郎山**	赤城・榛名	2014	6/19	日帰り	1 B	坂巻明	15	105
28	ち	**長者ケ岳**～天子ケ岳	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴　勇	1	54
206	ち	**長者ヶ岳**～天子ヶ岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
846	ち	**長者ケ岳**～天子ケ岳	富士周辺	2014	4/18	日帰り	2A	郷田進	15	83
43	つ	**筑波山**	常磐	1998	3/21	日帰り	A	川名	1	82
80	つ	**筑波山**　（忘年山行）	常磐	1998	12/6	日帰り	A	日下芳十	1	160
127	つ	**筑波山**（ふれあいﾊｲｸ）	常磐	1999	10/24	日帰り	A	柴、県連	2	110
299	つ	**筑波山**（二期生新春山行）	茨城	2003	1/3	日帰り	A	日下芳十	4	256
358	つ	**筑波山**	常磐	2004	1/3	日帰り	1A	日下芳十	5	161
419	つ	**筑波山**	常磐	2005	1/3	日帰り	1A	日下芳十	6	125
827	つ	**筑波山**（ウイズハイク）	筑波山塊	2013	9/7	日帰り	1A	外崎蓮	15	43
711	つ	**筑波山**	茨城	2010	11/6－7	テント	4A	川下敬史	12	113
458	つ	**土岳・花貫**（ウイズハイク）	常磐	2005	9/23	日帰り	2A	日下芳十	7	84
707	つ	**津梅川**・追良瀬川	白神山地	2010	9/22－26	テント	3C	千葉有子	12	101
6	つ	**燕岳**	北ア	1997	2/8-11	テント	C	川名	1	10
119	つ	**燕岳**～槍ヶ岳	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
172	つ	**燕岳**～常念岳～蝶ヶ岳	北ア	2000	9/14-17	山小屋／テント泊	B+	中村隆泰	3	69
391	つ	**燕**～大天井～常念～蝶～長堀岳	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
698	つ	餓鬼岳～**燕岳**	北アルプス	2010	8/12～15	山小屋	3C	高橋英雄	12	74
783	つ	**燕岳**～大天井岳～常念岳	北アルプ	2012	7/27 - 30	山小屋・ﾃﾝﾄ	3C	武内勇二	14	52
943	つ	**燕岳**	北アルプス南部	2016	5/15-16	山小屋	2C	大山冬臣	16	118
928	つ	**津辺野山**・石尊山～麻綿原～妙見山（県連）	南房総	2016	1/30-31	山麓泊	2B	高橋芳 武内	16	85
530	つ	**坪山**	中央沿線	2007	4/22	日帰り	1A	清家三保子	9	13
937	つ	**坪山**	大月	2016	4/12	日帰り	1A	矢野貞子	16	109
886	つ	**津森山**～人骨山・東大演習林（県連）	房総	2015	1/24-25	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	167
108	つ	本社ヶ丸～**鶴ヶ鳥屋山**（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
467	つ	**鶴ヶ鳥屋山**	中央沿線	2005	10/30	日帰り	2B	柴　勇	7	107
849	つ	本社ヶ丸～**鶴ｶﾞ鳥屋山**	中央沿線	2014	5/11	日帰り	2B	田村光子	15	88
117	つ	**剱岳**～立山縦走	北ア	1999	8/12-14	テント／小屋	C	柴　勇	2	72
450	つ	**剣岳**～立山三山	北ア	2005	8/4-7	山小屋	4D	村松敏彦	7	62
226	つ	**剣山**	四国	2001	8/31夜-9/3	民宿	A	斎藤清一	4	55
668	つ	**鶴島御前山**	中央沿線	2010	2/21	日帰り	1B	中村八重子	11	132
834	つ	**鶴島御前山**～高柄山	中央沿線	2013	11/24	日帰り	2B	大畠清江	15	56

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
606	つ	奈良倉山～**鶴寝山**～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
567	て	**手賀沼一周**	東葛	2007	12/1	日帰り	1A	小川誠二郎	9	110
611	て	**手賀沼一周**	東葛	2008	12/1	日帰り	1A	高橋重	10	102
658	て	**手賀沼**一周	東葛	2009	11/29	日帰り	1A	小川誠二郎	11	108
716	て	**手賀沼一周**	東葛	2010	11/28	日帰り	1A	小川誠二郎	12	126
756	て	**手賀沼一周**	東葛飾	2011	11/27	日帰り	1A	小川誠二郎	13	85
802	て	**手賀沼一周**	東葛	2012	11/25	日帰り	1A	小川誠二郎	14	102
836	て	**手賀沼一周（クリーンハイク）**	東葛飾	2013	12/8	日帰り	1A	小川誠二郎	15	61
880	て	**手賀沼一周**	我孫子・柏	2014	11/30	日帰り	2A	本田愛子	15	155
976	て	**手賀沼一周**（クリーンハイク）	我孫子市・柏市	2016	12/17	日帰り	1A	室崎宏治	16	190
923	て	**手賀沼一周**（クリーンハイク）	我孫子市・柏	2015	12/12	日帰り	2A	箕輪完二	16	74
334	て	**光岳**	南ア	2003	8/7-10	山小屋	4C	外崎　蓮	5	84
388	て	易老山～**光岳**	南ア	2004	7/17-19	山小屋	4C	外崎　蓮	6	48
699	て	聖岳～**光岳**	南アルプス	2010	8/18－22	山小屋	4C	高橋　重	12	78
143	て	**晃石山（ﾃﾙｲｼ）**	日光	2000	2/11	日帰り	A	細野清子	2	141
366	て	大平山～**晃石山**	北関東	2004	3/20-21	宿	2A	大串秀雄	6	1
776	て	大高山～**天覚山**～天覧山	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆康	14	29
45	て	**天狗岳**～硫黄岳	八ヶ岳	1998	3/28-29	山小屋	C	村松敏彦	1	84
378	て	赤ぼっこ～**天狗岩**	奥多摩	2004	5/23	日帰り	1A	日下芳十	6	24
508	て	**天狗尾根**　（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/14-15	避難小屋	3C	堀口昭二	8	92
709	て	**天狗角力取山**～障子ヶ岳	朝日連峰	2010	10/15-17	避難小屋	3B	武内勇二	12	108
624	て	高見石～**天狗岳**	八ヶ岳	2009	4/18-19	山小屋	3C	高橋　重	11	11
28	て	長者ケ岳～**天子ケ岳**	富士周辺	1997	10/19	日帰り	A	柴　勇	1	54
206	て	長者ヶ岳～**天子ヶ岳**＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	5/20	日帰り	A	高橋英雄	7	26
846	て	長者ケ岳～**天子ケ岳**	富士周辺	2014	4/18	日帰り	2A	郷田進	15	83
152	て	**天上山**	伊豆七島	2000	5/3-5	民宿	A	細野清子	3	16
795	て	**天神尾根**～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/23	日帰り	2A	高橋英雄	14	85
350	て	西谷山～**天祖山**	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	て	西谷山～**天祖山**	奥多摩	2007	2/11-13	避難小屋	4C	青山寿子	7	127
713	て	雲取山～**天祖山**	奥多摩	2010	11/13-14	山小屋	3B	武内勇二	12	119
516	て	**殿平**～鞍吾山	中央沿線	2006	11/23	日帰り	2B	武内勇二	8	115
661	て	**天地山**～鋸山	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
510	て	**天女山**　（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/15	日帰り	1A	松本豊・中村隆	8	100
4	て	**天覧山**	奥武蔵	1997	1/15	日帰り	B	村松敏彦	1	8
776	て	大高山～天覚山～**天覧山**	奥武蔵	2012	5/27	日帰り	2A	中村隆康	14	29
431	と	**道志二十六夜山**	道志	2005	4/23	日帰り	1B	中村隆泰	7	17
813	と	今倉山～**道志二十六夜山**	道志	2013	5/6	日帰り	1A	大畠清江	15	8
883	と	秋山二十六夜山～赤鞍ケ岳・今倉山～**道志二十六夜山**	道志山塊	2015	1/8-9	山麓泊	2B	村松敏彦	15	161
886	と	**津森山**～人骨山・**東大演習林**（県連）	房総	2015	1/24-25	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	167
181	と	**塔ノ岳**～鍋割山（新人卒業）	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
365	と	蛭ヶ岳～**塔ノ岳**	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
377	と	**塔ノ岳**～丹沢三ッ峰	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
437	と	**塔の岳**～大石山～檜洞丸	丹沢	2005	5/14-15	山小屋	3B	柴　勇	7	28
667	と	鍋割山～**塔ノ岳**～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴　勇	11	129
809	と	ヤビツ峠～**塔ノ岳**	丹沢	2013	2/24	日帰り	2B	北川勝久	14	123
977	と	**塔ノ岳**～丹沢山～鍋割山稜縦走	東丹沢	2016	12/21-22	山小屋	2B	大山冬臣	16	191
626	と	**堂平山**～笠山	奥武蔵	2009	5/9	日帰り	1A	原田和昭	11	16
292	と	北信三山（黒姫山、**戸隠山**、飯縄山）	頸城	2002	11/2-4	テント	B	清家三保子	4	239
329	と	**戸隠山**・黒姫山・飯縄山	頸城	2003	7/5-6	テント	4B	清家三保子	5	67
447	と	美瑛～**十勝**～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2006	7/11-17	山麓泊	5D	大串秀雄	7	52
46	と	**徳並山**	大菩薩	1998	4/11	日帰り	B	村松敏彦	1	86
662	と	**徳並山**	中央沿線	2010	1/17	日帰り	2B	武内勇二	11	118
352	と	**戸倉二山**～生藤山	奥多摩	2003	11/9	日帰り	3B	千葉有子	5	144
324	と	**戸倉三山**	奥多摩	2003	6/7-8	国民宿舎	A+	斎藤清一	5	54
657	と	馬頭刈山・**戸倉三山**	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
515	と	伊予ヶ岳・**富山**（県連４０周年）	房総	2007	11/18-20	テント	1A	高橋英雄	8	112
618	と	**とみやま水仙遊歩道**・石尊山（県連ロングハイク）	房総	2009	1/31-2/1	山麓泊	1A	斉藤清一	10	122
447	と	美瑛～十勝～富良野岳・**トムラウシ山**	北海道	2008	7/11-19	山麓泊	7D	大串秀雄	7	52

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
574	と	**鳥屋山**～倉岳山	中央沿線	2008	2/3	日帰り	2B	千葉有子	9	125
726	と	皇鈴山～**登谷山**～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
797	と	栗駒山・**虎毛山**	東北	2012	10/20-21	テント	2B	外崎蓮	14	90
718	と	**虎丸山**～熊岳	中央沿線	2010	12/11	日帰り	1A	高橋英雄	12	133
126	と	秋山郷～**鳥甲山**	上信	1999	10/23-24	(テント)	B+	細野省二	2	107
397	と	**鳥甲山**	上信	2004	9/4-5	テント	4D	青山寿子	6	74
350	と	**酉谷山**～天祖山	奥多摩	2003	11/2-3	避難小屋、テント	3C	高橋英雄	5	139
475	と	**酉谷山**～天祖山	奥多摩	2006	2/11-12	避難小屋	3C	青山寿子	7	127
981	と	**鳥の胸山**・菰釣山	西丹沢・道志	2017	1/19-20	山麓泊	2B	村松敏彦	16	197
63	な	**苗場山**	信越	1998	7/19-20	山小屋	B	外崎　蓮	1	113
230	な	**苗場山**	信越	2001	9/29-30	山小屋	B	安田みづほ	4	66
459	な	**苗場山**	信越	2005	10/1-2	山小屋	3B	清家三保子	7	88
588	な	**苗場山**	谷川	2008	6/15-16	山小屋	3B	原田君子	10	44
782	な	**苗場山**	北信越	2012	7/21 - 22	山麓泊	2B	外崎蓮	14	49
697	な	**長尾谷**	奥多摩	2010	8/8	日帰り	2B	千葉有子	12	72
784	な	**長尾谷**	奥多摩	2012	7/29	日帰り	3C	村松敏彦	14	56
391	な	燕～大天井～常念～蝶～**長堀岳**	北ア	2004	8/1-4	山小屋	3B	高橋　潔	6	57
765	な	大洞山～**中沢山**～泰光寺山～草戸山	南高尾	2012	3/25	日帰り	1A	武内勇二	14	4
487	な	笠取山～和名倉～飛竜～雲取～**長沢山**	奥秩父・奥多摩	2010	6/2-9	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
403	な	南岳～**中岳**～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2005	9/25-29	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
151	な	大塚山～**中塚山**	房総	2000	4/29	日帰り	A	外崎　蓮	3	13
890	な	**長瀞アルプス**～宝登山	秩父	2015	2/21	日帰り	1A	郷田進	15	175
280	な	越後三山（越後駒ケ岳、**中の岳**、八海山）	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
631	な	三本槍岳～**流石山**～大倉山	那須	2009	6/27-28	避難小屋	3B	武内勇二	11	38
5	な	**鳴虫山**	日光	1997	1/26	日帰り	A	三浦七郎	1	9
104	な	**鳴虫山**	日光	1999	5/22	日帰り	A	原田君子	2	46
276	な	**鳴虫山**	日光	2002	7/21	日帰り	A	松本　豊	4	185
422	な	**鳴虫山**	日光	2005	2/6	日帰り	2C	清家三保子	6	132
746	な	**鳴虫山**	日光	2011	8/12	日帰り	1A	桐生恭子	13	58
486	な	**那須旭岳**・大白森山	那須	2006	5/27-28	テント	3C	村松敏彦	8	25
32	な	**七ヶ岳**・荒海山	会津	1997	11/1-2	テント	B	村松敏彦	1	62
871	な	**七ケ岳**・荒海山	南会津	2014	10/24-25	テント	2B	村松敏彦	15	141
300	な	**菜畑山**	道志	2003	1/12	日帰り	A	大串恵子	4	257
31	な	**鍋割山**(支援隊)	丹沢	1997	10/25	日帰り	A	加藤秀明	1	60
91	な	**鍋割山**	丹沢	1999	3/20	日帰り	A	三浦七郎	2	14
181	な	塔ノ岳～**鍋割山**（新人卒業）	丹沢	2000	11/11-12	山小屋	B	安田みづほ	3	92
609	な	高岩山～**鍋割山**	奥多摩	2008	11/9	日帰り	2B	本田愛子	10	98
651	な	**鍋割山**～丹沢山～蛭ヶ岳	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
667	な	**鍋割山**～塔ノ岳～丹沢山	丹沢	2010	2/20-21	山小屋	2B	柴　勇	11	129
973	な	**鍋割山**	丹沢	2016	11/30	日帰り	2A	中村育子	16	182
977	な	塔ノ岳～丹沢山～**鍋割山**稜縦走	東丹沢	2016	12/21-22	山小屋	2B	大山冬臣	16	191
701	な	**ナメラ沢**	奥秩父	2010	8/21夜-22	湖畔仮眠	2B	堀口昭二	12	85
606	な	**奈良倉山**～鶴寝山～大マティ山	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2A	中村八重子	10	91
773	な	**鳴神山**	前日光	2012	5/13	日帰り	2A	箕輪完二	14	22
892	な	**鳴神山**（新人歓迎山行）	桐生市北	2015	4/5	日帰り	1A	外崎蓮	16	2
90	な	**難台山**～吾国山（卒業山行）	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
714	な	**奥久慈男体山**	茨城	2010	11/14	日帰り	2A	坂巻　明	12	122
477	な	**難台山**～吾国山	茨城	2006	3/26	日帰り	1B／2B	柴　勇	8	3
653	な	**難台山**～吾国山	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
936	な	**難台山**（新人歓迎山行）	筑波山系	2016	4/3	日帰り	1A	大山 本田	16	104
538	な	**男体山麓荒沢水源**	日光	2007	5/27	日帰り	1A	中村八重子	9	33
374	に	五頭山・菱ヶ岳・**二王子岳**	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
584	に	二王子岳	飯豊	2008	5/31-6/1	避難小屋	3C	石垣吉朗	10	27
859	に	**西吾妻山**～東大嶺	吾妻連峰	2014	7/20-21	避難小屋	1B	外崎蓮	15	112
793	に	**西黒尾根**～谷川岳（１５周年記念山行）	谷川	2012	9/22-23	山小屋	2B	村松敏彦	14	79
57	に	**西沢渓谷**	奥秩父	1998	6/21	日帰り	A	中村隆泰	1	99
337	に	**西岳**～編笠～権現山	八ヶ岳	2003	8/16-17	山小屋	3C	外崎　蓮	5	93
614	に	**西岳**～権現～編笠(クリスマス山行)	八ヶ岳	2008	12/20-21	テント	3D	外崎　蓮	10	110

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
3	に	蓼科山、**西天狗岳**	八ヶ岳	1997	1/2-4	ﾃﾝﾄ&小屋	C	川名	1	6
442	に	**西の湖**・赤岩	日光	2005	6/15	日帰り	1A	榊原文子	7	39
548	に	焼岳～**西穂高岳**	北ア	2008	7/18-21	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
61	に	**西穂高岳**～奥穂高岳～前穂高岳	北ア	1998	7/18-20	山小屋	D	村松敏彦	1	107
77	に	今倉山～**二十六夜山**	道志	1998	11/14	日帰り	A	村松敏彦	1	154
398	に	**日光白根山**	日光	2004	9/12	日帰り	2B	大串恵子	6	76
540	に	**日光白根山**	日光	2007	6/7	日帰り	2B	斎藤清一	9	37
932	に	**日光白根山**	奥日光群	2016	3/16-17	山小屋	2C	大山冬臣	16	93
947	に	**日光白根山**（市民山行）	奥日光	2016	6/5	日帰り	2B	武内勇二	16	128
489	に	**日光男体山**（市民登山）	日光	2006	6/11	日帰り	3A	中村隆泰	8	34
671	に	**日白山**	谷川連峰	2010	3/27-28	テント	4D	村松敏彦	12	1
440	に	**入笠山**	南ア	2005	5/29	日帰り	1A	細野清子	7	34
924	に	荒倉山・**入笠山**	南アルプス前衛	2015	12/19-20	テント	2B	村松敏彦	16	76
946	に	守屋山･**入笠山**	南アルプス北部	2016	5/27-28	テント	2B	郷田進	16	126
950	に	**入笠山**	南アルプス前衛	2016	6/19	日帰り	1A	新谷直恵	16	137
271	に	秋田駒ヶ岳～**乳頭山**・焼山	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
67	に	**女峰山**	日光	1998	9/19-20	無人小屋	C	村松峯子	1	130
342	に	**女峰**･大真名子山･太郎山	日光	2003	9/27-29	避難小屋	4B	大串秀雄	5	109
197	ぬ	**沼津アルプス**＜富士周辺シリーズ＞	沼津	2001	4/1	日帰り	A+	村松峯子	7	20
446	ね	烏帽子・湯ノ丸・四阿山・**根子岳**	上信	2008	6/26-30	山麓泊	6B	高橋　潔	7	49
821	ね	**猫魔ヶ岳**・磐梯山	会津地方	2013	7/20-21	テント	2B	外崎蓮	15	28
589	ね	温泉ヶ岳～**根名草山**	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
434	ね	**根本山**～熊鷹山	桐生	2005	4/29	日帰り	2B	外崎　蓮	7	21
918	ね	**根本山**～熊鷹山	桐生	2015	11/3	日帰り	1A	田村光子	16	65
693	の	**農鳥岳**～黒河内岳	南アルプス	2010	7/21～23	テント	3C	千葉有子	12	60
344	の	荒島岳･**能郷白山**	白山	2003	10/10-13	テント	3B	細野省二	5	123
343	の	**鋸山**（ウィズハイク）	房総	2003	9/27	日帰り	1A	外崎　蓮	5	112
460	の	庚申山～**鋸山**～皇海山	足尾山塊	2006	10/2-4	避難小屋	4C	大串秀雄	7	90
551	の	大岳山～**鋸尾根**	奥多摩	2008	8/13	日帰り	2B	高橋英雄	9	67
661	の	天地山～**鋸山**	奥多摩	2009	12/13	日帰り	2B	青山寿子	11	116
779	の	**鋸山**・弥彦山	新潟	2012	6/16-17	テント	1B	外崎蓮	14	41
338	の	**御嶽山**・**乗鞍岳**	木曽・北ア	2003	8/28-31	山小屋	4C	大串秀雄	5	96
732	の	**乗鞍岳**・美ヶ原（春山山行）	北アルプス	2011	5/3-5/5	テント	4C	村松敏彦	13	13
577	は	お天気山～**羽賀場山**	前日光	2008	3/16	日帰り	2B	安田みづほ	10	4
62	は	**白山**	白山	1998	7/17-20	テント	B+	細野省二	1	110
752	は	**羽黒山**	山形	2011	10/14-16	テント	1A	武内勇二	13	76
252	は	箱根・**浅間山**	箱根	2002	2/24	日帰り	A	斎藤清一	4	120
692	は	**八間山**・白砂山	野反湖	2010	7/10～11	山麓泊	3B	原田和昭	12	57
904	は	高ボッチ・**鉢伏山**～二ツ山	中信高原国定公園	2015	6/25	日帰り	1A	村松敏彦	16	34
173	は	**八幡平**･焼山	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
545	は	秋田駒ヶ岳・**八幡平**・岩手山	奥羽	2008	6/30-7/3	山麓泊	3B	柴　勇	9	52
601	は	岩手山～三石山～**八幡平**	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
741	は	岩手山～三ツ石山～**八幡平**	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎　蓮	13	41
568	は	高宕山～**八郎塚**（忘年山行）	房総	2008	12/10	日帰り	3A	佐藤健一	9	112
280	は	越後三山（越後駒ケ岳、中の岳、**八海山**）	越後	2002	8/23夜-25	避難小屋	C+	青山寿子	4	200
503	は	**八海山**・平ヶ岳	越後	2006	10/3-5	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
340	は	岩木山･**八甲田山**	津軽	2003	9/13-15	民宿、旅館	3B	高橋英雄	5	102
633	は	奥入瀬渓谷・**八甲田山**・姫神山	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	3B	細野清子	11	43
215	は	七面山～**八紘嶺**＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	7/14-15	宿坊泊	B	細野省二	7	39
912	は	七面山・**八紘嶺**	南ア前衛	2015	9/5-6	宿坊泊	2B	外崎蓮	16	54
657	は	**馬頭刈山**・戸倉三山	奥多摩	2009	11/28-29	山麓泊	2A	高橋英雄	11	106
518	は	鶏足山～**花香月山**（忘年山行）	常磐	2007	12/11	日帰り	2B	川下敬史	8	120
523	は	**花咲山**	中央沿線	2007	1/28	日帰り	1A	中村隆泰	8	133
204	は	**鼻曲山**～浅間隠山	上州	2001	5/12-13	山荘／テント	A+, C	細野清子	4	12
798	は	**鼻曲山**	上州	2012	10/21	日帰り	1A	高橋英雄	14	93
409	は	**破風山**	奥秩父	2004	10/31	日帰り	2C	日下芳十	6	104
522	は	**浜石岳**	駿河	2007	1/21	日帰り	1A	北川勝久	8	131
98	は	**ハマイバ丸**(山菜取り山行)	大菩薩	1999	4/29	日帰り	B	柴　勇	2	28

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
372	は	大蔵高丸～**ハマイバ丸**	大菩薩	2004	4/29	日帰り	2A	細野省二	6	12
161	は	**早池峰**･薬師岳	北上	2000	7/1－2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
444	は	**早池峰山**・栗駒山（市民登山）	北上	2005	6/17-19	山麓泊	2B	石垣吉朗	7	43
336	は	爺ヶ岳～**針ノ木岳**	北ア	2003	8/13-16	山小屋	3C	斎藤清一	5	90
909	は	岩小屋沢岳～**針ノ木岳**～蓮華岳	北アルプ	2015	7/30-8/2	山小屋	3C	武内勇二	16	47
171	は	**榛名山**	上州	2000	8/27	日帰り	A	細野清子	3	66
736	は	**榛名山**（市民登山）	上州	2011	6/5	日帰り	2A	柴　勇	13	22
396	は	相馬山～**榛名富士**	上州	2005	8/30	日帰り	2A	高橋芳恵	6	73
511	は	**半月山**（県連平日ハイク）	日光	2006	10/19	日帰り	1A	日下芳十、県連	8	102
851	は	**半月山**	奥日光	2014	5/26	日帰り	2A	瀬田映子	15	91
872	は	**半月山**	奥日光	2014	10/29	日帰り	2A	瀬田映子	15	143
382	は	**磐梯山**	会津	2004	6/6	日帰り	2B	村松敏彦	6	32
635	は	**磐梯山**	会津	2009	7/12	日帰り	2B	小川誠二郎	11	48
821	は	猫魔ヶ岳・**磐梯山**	会津地方	2013	7/20-21	テント	2B	外崎蓮	15	28
27	ひ	尾瀬集中登山(創立記念) Ｂ：**燧ヶ岳**	尾瀬	1997	10/9-11	ﾃﾝﾄ&山小屋	B	CL柴勇、Ｌ柴	1	47
176	ひ	**燧ヶ岳**	尾瀬	2000	10/7-8	山小屋	A+	外崎　蓮	3	81
435	ひ	**燧ヶ岳**・景鶴山	尾瀬	2005	8/1-3	テント	4D	村松敏彦	7	23
830	ひ	**燧ヶ岳**	尾瀬	2013	10/12-13	山小屋	2B	外崎　蓮	15	50
963	ひ	**燧ヶ岳**～至仏山（２０周年記念山行）	尾瀬	2016	9/30-10/2	山小屋	3B	田村光子	16	161
964	ひ	**燧ヶ岳**～至仏山～アヤメ平（２０周年記念山行）	尾瀬	2016	9/30-10/2	テント	3B	武内勇二	16	164
796	ひ	神室山～小又山～**火打岳**	東北	2012	10/5 - 7	避難小屋	3C	武内勇二	14	87
114	ひ	妙高山・**火打山**	頚城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴　勇	2	66
868	ひ	**火打山**～妙高山	頚城山塊	2014	9/26-27	山小屋	3B	箕輪完二	15	134
447	ひ	**美瑛**～十勝～富良野岳・トムラウシ山	北海道	2005	7/11-16	山麓泊	4D	大串秀雄	7	52
675	ひ	**比叡山**・山の辺の道・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
636	ひ	**東黒沢**・ヒッゴー沢	谷川	2009	7/19-20	テント	4D	佐藤健一	11	50
859	ひ	西吾妻山～**東大嶺**	吾妻連峰	2014	7/20-21	避難小屋	1B	外崎蓮	15	112
887	ひ	北八ヶ岳（**東天狗岳**）	北八ヶ岳	2015	1/27-28	山小屋	2C･3C	大山冬臣	15	169
930	ひ	**東天狗岳**	北八ヶ岳	2016	2/25-26	山小屋	3C	大山冬臣	16	89
982	ひ	**東天狗岳**	北八ヶ岳	2017	1/26-27	山小屋	2B～C	大山冬臣	16	199
505	ひ	**東八ヶ岳縦走**（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	3C	柴　勇	8	84
374	ひ	五頭山・**菱ヶ岳**・二王子岳	越後	2004	5/2-4	テント	4D	村松敏彦	6	16
225	ひ	赤石岳～**聖岳**	南ア	2001	8/27-30	山小屋	C+	大串秀雄	4	52
699	ひ	**聖岳**～光岳	南アルプス	2010	8/18-22	山小屋	4C	高橋重	12	77
636	ひ	東黒沢・**ヒッゴー沢**	谷川	2009	7/19-20	テント	5D	佐藤健一	11	50
886	ひ	津森山～**人骨山**・東大演習林（県連）	房総	2015	1/24-25	山麓泊	2A	高橋芳恵	15	167
733	ひ	**日向山**	中央線沿線	2011	5/14	日帰り	1A	原田和昭	13	16
894	ひ	**日向山**	南アルプス周辺	2015	4/26	日帰り	1A	郷田進	16	8
437	ひ	塔の岳～大石山～**檜洞丸**	丹沢	2007	5/14-17	山小屋	5B	柴　勇	7	28
34	ひ	**桧洞丸**	丹沢	1997	11/15	日帰り	A+	三浦七郎	1	65
320	ひ	**桧洞丸**	丹沢	2003	5/21	日帰り	A+	中村隆泰	5	35
427	ひ	加入道山～大室山～**檜洞丸**	丹沢	2007	3/20-23	避難小屋	5B	青山寿子	7	5
975	ひ	**檜洞丸**	西丹沢	2016	12/14	日帰り	2B	大山冬臣	16	187
75	ひ	御岳山～**日の出山**	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
363	ひ	**日の出山**	奥多摩	2004	2/11	日帰り	2A	岡田秀子	5	169
424	ひ	**日ノ出山**	奥多摩	2005	2/20	日帰り	2B	中村隆泰	6	136
670	ひ	**日ノ出山**～麻生山	奥多摩	2010	2/28	日帰り	2A	高橋英雄	11	136
691	ひ	御岳山～**日の出山**	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55
762	ひ	大塚山～御岳山～**日の出山**	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
491	ひ	森吉山・**姫神山**	東北	2007	6/26-28	山麓泊	2B／2A	細野清子	8	42
402	ひ	岩手山・**姫神山**	奥羽	2005	9/18-21	宿	4B	高橋英雄	6	85
633	ひ	奥入瀬渓谷・八甲田山・**姫神山**	八甲田	2009	7/2-4	山麓泊	4B	細野清子	11	43
612	ひ	本仁田山～**平石山**	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
269	ひ	会津駒ヶ岳・**平ヶ岳**	会津	2003	6/21夜ー25	テント	B+	武内勇二	4	161
332	ひ	恋ノ岐沢･**平ヶ岳**	会越	2003	7/27-29	テント	5E	村松敏彦	5	81
503	ひ	八海山・**平ヶ岳**	越後	2007	10/3-6	山麓泊	3B	大串秀雄	8	77
643	ひ	笹子川大鹿沢**平っ沢**	中央沿線	2009	8/22	日帰り	2B	千葉有子	11	70
235	ひ	**飛龍山**	奥秩父	2001	10/20ー21	山小屋	B	高橋英雄	4	81

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
487	ひ	笠取山～和名倉～**飛竜**～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2008	6/2-7	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
705	ひ	**飛龍山**	奥秩父	2010	9/11-12	山小屋	3A	小川誠二郎	12	97
365	ひ	**蛭ヶ岳**～塔ノ岳	丹沢	2004	2/28-29	避難小屋	3C	青山寿子	5	172
927	ひ	**蛾ケ岳**・三方分山	御坂山塊	2016	1/16-17	山麓泊	2B	外崎蓮	16	82
651	ひ	鍋割山～丹沢山～**蛭ヶ岳**	丹沢	2009	10/31-11/1	山小屋	2A	北川晴久	11	93
404	ひ	大山・**蒜山**	大山	2005	10/1-6	宿	2B	斎藤清一	6	90
88	ひ	**日和田山**～物見山	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	ひ	**日和田山**～物見山	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
987	ひ	**日和田山**～物見山(卒業山行)	奥多摩	2017	2/25	日帰り	1A	深草茂美	16	208
265	ふ	**笛吹川東沢**釜の沢～甲武信岳	奥秩父	2002	5/25-26	テント	B	堀口昭二	4	147
130	ふ	**武甲山**	奥武蔵	1999	11/21	日帰り	A	中村隆泰	2	118
546	ふ	**武甲山**	奥武蔵	2007	7/7	日帰り	1A	小川誠二郎	9	55
832	ふ	大持山～子持山～**武甲山**	奥武蔵	2013	11/9	日帰り	2B	田村光子	15	54
124	ふ	白神岳・**藤里駒ヶ岳**	津軽	1999	10/9一11	テント	B+	村松敏彦	2	101
448	ふ	岩木山・白神岳・**藤里駒ヶ岳**	津軽	2007	7/22-26	テント	5D	細野清子	7	56
23	ふ	**富士山**	富士周辺	1997	9/13-14	山小屋	B	川名	1	39
221	ふ	**富士山**Aコース吉田口	富士周辺	2001	8/18	日帰り（山小屋）	B	日下芳十	7	43
222	ふ	**富士山**Dコース富士宮口	富士周辺	2001	8/18-19	山小屋	B	榊原文子	7	45
223	ふ	**富士山**Bコース吉田口(駅から)	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	C	川下敬史	7	50
224	ふ	**富士山**Cコース須走り口	富士周辺	2001	8/25-26	山小屋	B	原田君子	7	53
272	ふ	**富士山**	富士周辺	2002	7/6一7	山小屋	B	松本　豊	4	172
272	ふ	**富士山**エコフォーラム	富士周辺	2002	7/6-8	ホテル	A	労山	4	172
272	ふ	**富士山**	富士周辺	2002	7/6-7	山小屋	B	松本　豊	4	172
301	ふ	**富士山**	富士周辺	2003	1/12-13	テント	B	堀口昭二	4	260
453	ふ	**富士山**	富士周辺	2005	8/20-21	山小屋	3B	石垣吉朗	7	73
501	ふ	**富士山**～佐白山（ウィズハイク）	茨城	2006	9/23	日帰り	1A	外崎　蓮	8	71
721	ふ	**富士山**	富士山	2010	12/18-19	テント	3C	堀口昭二	12	140
911	ふ	富士山	富士国定公園	2015	8/24-26	山小屋	2B	村松敏彦	16	51
706	ふ	**二子山**・両神山	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
891	ふ	三角山～**二子山**	奥武蔵	2015	3/14	日帰り	1B	村松敏彦	16	1
952	ふ	蓼科山～**双子山**	八ヶ岳北部	2016	7/22-23	山小屋	2B	矢野貞子	16	140
381	ふ	水沢山～**二ッ岳**	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋　潔	6	30
428	ふ	**二ツ箭山**（新人歓迎山行）	常磐	2005	3/27	日帰り	1B	外崎　蓮	7	7
904	ふ	高ボッチ・鉢伏山～**二ツ山**	中信高原国定公園	2015	6/25	日帰り	1A	村松敏彦	16	34
857	ふ	小野岳・**二岐山**	阿武隈	2014	6/29-30	山麓泊	2B	村松敏彦	15	108
69	ふ	**仏果山**～経ヶ岳	丹沢	1998	9/20	日帰り	A	高橋英雄	1	134
247	ふ	**仏果山**～経ヶ岳	丹沢	2002	1/20	日帰り	A	原田和昭	4	108
719	ふ	**仏果山**～華厳山	丹沢	2010	12/12	日帰り	2B	青山寿子	12	135
770	ふ	高取山～**仏果山**～経ヶ岳	丹沢	2012	4/29	日帰り	2A	原田和昭	14	16
327	ふ	**船形山**～泉ヶ岳	船形連峰	2003	6/21-22	避難小屋	B	石垣吉朗	5	60
794	ふ	蓬峠～**武能岳**～茂倉岳～谷川岳（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
447	ふ	美瑛～十勝～**富良野岳**・トムラウシ山	北海道	2007	7/11-18	山麓泊	6D	大串秀雄	7	52
426	ふ	**不老山**	西丹沢	2005	3/19	日帰り	2B	原田和昭	7	3
808	ふ	瀬淵山～高指山～**不老山**（甲東三山）	中央線沿	2013	2/10	日帰り	1A	中村隆康	14	120
125	ほ	**鳳凰三山**	南ア	1999	10/16-17	山小屋	B	清家三保子	2	105
339	ほ	**鳳凰三山**	南ア	2003	8/30-31	テント	3C	青山・千葉	5	100
558	ほ	**鳳凰三山縦走**	南ア	2007	9/29-30	山小屋	2B	坂口よし江	9	87
596	ほ	**鳳凰三山**	南ア	2008	8/14-15	山小屋	2B	本間恭子	10	63
826	ほ	**鳳凰三山(薬師岳～観音岳～地蔵岳)**	南ア	2013	8/30-31	山小屋・テント	3B	郷田進	15	41
807	ほ	**宝篋山**(卒業山行)	茨城	2013	2/3	日帰り	1A	矢澤節雄	14	117
845	ほ	**宝篋山**（新人歓迎山行）	茨城県南	2014	4/6	日帰り	1A	坂巻・斉田	15	78
913	ほ	宝篋山	茨城南	2015	9/20	日帰り	1A	箕輪完二	16	57
167	ほ	木曾駒ヶ岳～**宝剣岳**	中ア	2000	8/6-7	山小屋	B	清家三保子	3	55
552	ほ	木曽駒ヶ岳～**宝剣岳**～空木岳	中ア	2008	8/12-15	山小屋	3C	佐藤健一	9	68
638	ほ	木曽駒ヶ岳～**宝剣岳**～三ノ沢岳	中央アルプス	2009	7/30-31	山小屋	3B	村松敏彦	11	56
910	ほ	木曽駒ケ岳～**宝剣岳**	中央アルプ	2015	8/6-7	山麓泊	2B	矢野裕子	16	49
86	ほ	**房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｷﾝｸﾞ**	房総	1999	1/30-31	ログハウス	A+	県　連	2	8
141	ほ	**房総ロングハイク**	房総	2000	1/29-30	ログハウス前泊	A+	斎藤、県連	2	137

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
248	ほ	**房総ロングハイク**	房総	2002	1/26-27	ログハウス	A+	斉藤、県連	4	110
304	ほ	**房総ロングハイク**	房総	2003	1/25―26	ログハウス	B	高橋英、県連	4	267
360	ほ	**房総ロングハイク**	房総	2004	1/24-25	ログハウス	3A	斎藤清一、県連	5	164
473	ほ	**房総ロングハイク**	房総	2006	1/28-29	ログハウス	2A	柴田節子、県連	7	122
517	ほ	**房総ロングハイク**	房総	2006	12/23-24	山麓泊	1A	柴田節子、県連	8	117
572	ほ	**房総ロングハイク**	房総	2008	1/26-27	山麓泊	3A	坂口よし江、県連	9	122
664	ほ	**房総**ﾛﾝｸﾞﾊｲｸ	房総	2010	1/30-31	山麓泊	2A	小川誠二郎	11	123
421	ほ	**棒立山**	谷川	2005	1/29～30	テント	4D	川下敬史	6	130
526	ほ	**棒立山**	谷川	2007	3/31-4/1	テント	3C	外崎　蓮	9	5
48	ほ	**棒の折山**　(新人歓迎)	奥武蔵	1998	4/26	日帰り	A	外崎、村松敏	1	88
147	ほ	**棒ノ折山**	奥多摩	2000	4/9	日帰り	B	三浦七郎	3	6
433	ほ	笙の岩～蕎麦粒山～**棒の折**	奥多摩	2007	4/26	日帰り	5B	青山寿子	7	19
521	ほ	高水山～**棒の折山**	奥多摩	2008	1/22	日帰り	2A	千葉有子	8	129
648	ほ	**棒の折山**～高水２山	奥多摩	2009	10/10	日帰り	2A	原田和昭	11	85
919	ほ	**棒ノ折山**	奥多摩	2015	11/20	日帰り	1A	齊田記代美	16	67
115	ほ	烏帽子岳～**穂高岳**縦走	北ア	1999	8/6-12	山小屋	C+	細野省二	2	68
890	ほ	長瀞アルプス～**宝登山**	秩父	2015	2/21	日帰り	1A	郷田進	15	175
134	ほ	**本仁田山**	奥多摩	1999	12/12	日帰り	A	日下芳十	2	125
612	ほ	**本仁田山**～平石山	奥多摩	2008	12/7	日帰り	2B	武内勇二	10	104
38	ほ	**本社ヶ丸**	中央沿線	1998	1/25	日帰り	A+	細野省二	1	72
108	ほ	**本社ヶ丸**～鶴ヶ鳥屋山（新人研修）	中央沿線	1999	6/13	日帰り	B	細野省二	2	56
534	ほ	**本社ヶ丸**	中央沿線	2007	5/13	日帰り	3B	原田和昭	9	22
605	ほ	**本社ヶ丸北面尾根**	中央線沿線	2008	10/26	日帰り	2B	佐藤健一	10	88
849	ほ	**本社ヶ丸**～鶴ｶﾞ鳥屋山	中央沿線	2014	5/11	日帰り	2B	田村光子	15	88
566	ほ	愛宕山・**ポンポン山**	京都	2008	11/20-23	山麓泊	2A	細野清子	9	105
499	ま	錫ヶ岳～**前白根山**	日光	2007	9/9-11	テント	4C	村松敏彦	8	66
61	ま	西穂高岳～奥穂高岳～**前穂高岳**	北ア	2000	7/18-22	山小屋	D	村松敏彦	1	107
390	ま	**前穂高岳**～奥穂高岳	北ア	2004	7/24―26	山小屋	3D	大串秀雄	6	54
787	ま	**前穂高岳**～奥穂高岳	北アルプ	2012	8/9 - 11	山小屋	3C	矢野貞子	14	64
9	ま	**巻機山**	越後	1997	4/12-13	テント	C+	坪井三枝子	1	15
210	ま	**巻機山**（公開登山）	上越	2001	6/9-10	旅館泊	B	加藤秀明	4	22
321	ま	大源太山～**巻機山**	上越	2003	5/23-26	避難小屋	C	青山寿子	5	38
720	ま	**巻機山**(クリスマス山行)	越後	2010	12/18-19	テント	3C	村松敏彦	12	137
142	ま	**幕山**	湯河原	2000	2/6	日帰り	A	安田みづほ	2	140
623	ま	**真名井沢北稜**	奥多摩	2009	4/5	日帰り	2B	青山寿子	11	9
562	ま	**丸山**	奥武蔵	2007	10/28	日帰り	1A	中村隆泰	9	96
469	ま	天城山（**万三郎岳**～万二郎岳）	伊豆	2005	11/13-14	山麓泊	3B	大串恵子	7	111
469	ま	天城山（万三郎岳～**万二郎岳**）	伊豆	2006	11/13-15	山麓泊	4B	大串恵子	7	111
498	ま	**万太郎谷**	谷川	2006	9/2-3	テント	4D	佐藤健一	8	64
792	ま	平標山～仙の倉山～**万太郎山**～谷川岳（15周年記念山行）	谷川	2012	9/21-23	避難小屋	3C	武内勇二	14	76
273	み	**御神楽岳**	越後	2002	7/12-14	テント	C	細野省二	4	176
313	み	稲含山･**御荷鉾山**	西上州	2003	4/12-13	町営宿舎	A	中村隆泰	5	19
254	み	**三毳山**	北関東	2002	3/17	日帰り	A	斎藤清一	4	126
514	み	菰釣山～**三国山**	丹沢	2007	11/13	避難小屋	2B	坂口よし江	8	109
908	み	石転び沢～烏帽子岳～飯豊山～**三国岳**	飯豊連峰	2015	7/29-8/1	山小屋・避難小屋	3C	矢澤節雄	16	43
986	み	**三国山**稜縦走・石割山	丹沢	2017	2/12-13	山麓泊	2A～B	大山冬臣	16	206
341	み	**未丈ヶ岳**･荒沢岳	会越	2003	9/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	107
192	み	**御正体山**＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	2/17	日帰り	B	安田みづほ	7	11
201	み	**御正体山**＜富士周辺シリーズ＞	道志	2001	4/22	日帰り	B	安田みづほ	7	13
878	み	**御正体山**	道志山塊	2014	11/16	日帰り	2A	大畠清江	15	152
687	み	**御正体山**	道志山塊	2010	6/13	日帰り	2A	外崎蓮	12	48
236	み	**瑞牆山**～金峰山	奥秩父	2001	10/20-21	山小屋	B	細野清子	4	83
376	み	**瑞牆**～金峰～北奥千丈～甲武信	奥秩父	2004	5/13-16	山小屋	3B	大串秀雄	6	20
817	み	**瑞牆山**～金峰山	奥秩父	2013	6/7-8	山小屋	2B3B	高橋芳恵	15	21
737	み	**瑞牆山**(BOM研修)	奥秩父	2011	6/25-26	テント	2B	武内勇二	13	31
903	み	**瑞牆山**・金峰山	奥秩父	2015	6/20-21	テント	2B	外崎蓮	16	31
381	み	**水沢山**～二ッ岳	上州	2004	5/30	日帰り	2B	高橋　潔	6	30

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
726	み	**皇鈴山**～登谷山～釜伏山	奥武蔵	2011	2/6	日帰り	2A	中村隆泰	12	151
262	み	**水無川本谷**・源次郎沢	丹沢	2002	5/12	夜行日帰り	B/C	堀口昭二	4	140
480	み	**水無川本谷**・源次郎沢	丹沢	2006	4/15-16	テント	3D	佐藤健一	8	11
634	み	**水根沢谷**	奥多摩	2009	7/5	日帰り	2C	柴　勇	11	46
137	み	**水の塔山**・黒斑山	上州	2000	1/8-9	ホテル泊	B	村松敏彦	2	130
163	み	籠ノ登山**･水ノ塔山**	上信	2000	7/16	日帰り	A	安田みづほ	3	43
725	み	黒斑山・**水の塔山**	浅間	2011	2/5－6	山麓泊	3C	高橋重	12	149
75	み	**御岳山**～日の出山	奥多摩	1998	11/1	日帰り	A	中村隆泰	1	152
762	み	大塚山～**御岳山**～日の出山	奥多摩	2012	2/18	日帰り	2A	村松敏彦	13	103
691	み	**御岳山**～日の出山	奥多摩	2010	7/4	日帰り	1A	小川誠二郎	12	55
420	み	石尊山～**三石山**	房総	2006	1/29-31	宿	2A	斎藤清一	6	127
601	み	岩手山～**三石山**～八幡平	東北	2008	9/26-28	避難小屋	3B	大串秀雄	10	76
741	み	岩手山～**三ツ石山**～八幡平	岩手・秋田県境	2011	7/8-7/11	避難小屋	3C	外崎　蓮	13	41
12	み	**三ツ峠山**	富士周辺	1997	5/4	日帰り	A	村松敏彦	1	20
189	み	**三ッ峠山**～黒岳＜富士周辺シリーズ＞	富士周辺	2001	1/20-21	山小屋	B+	中村隆泰	7	3
386	み	**三ツ峠山**	富士周辺	2004	7/11	日帰り	2B	中村八重子	6	43
547	み	**三ツ峠山**	富士周辺	2007	7/8	日帰り	2B	中村八重子	9	57
599	み	**三ツ峠山**	富士周辺	2008	9/7	日帰り	2A	中村隆泰	10	71
948	み	**三ツ峠山**～清八山	富士周辺	2016	6/11	日帰り	2A	大畠清江	16	134
805	み	**三つ峠山**	富士急沿	2013	1/13-14	山小屋	2B	武内勇二	14	112
954	み	雲の平～鷲羽岳～**三俣蓮華岳**～双六岳	北アルプス	2016	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	16	144
18	み	大山～**三峰山**	丹沢	1997	6/21	日帰り	A	清家三保子	1	28
295	み	大山～**三峰山**	丹沢	2002	11/17	日帰り	A	中村隆泰	4	246
377	み	塔ノ岳～丹沢**三ッ峰**	丹沢	2004	5/16	日帰り	3B	青山寿子	6	22
451	み	仙丈ヶ岳～**三峰山**～塩見岳	南ア	2006	8/5-9	山小屋	5D	大串秀雄	7	66
715	み	**大山三峰山**	丹沢	2010	11/21	日帰り	2B	千葉有子	12	124
758	み	**三峰山**	丹沢	2011	12/11	日帰り	2B	外崎　蓮	13	92
35	み	**三頭山**　（忘年山行）	奥多摩	1997	12/7	日帰り	A	清家三保子	1	66
241	み	**三頭山**	奥多摩	2001	11/11	日帰り	A	細野省二	4	94
243	み	奥多摩三山（大岳山、御前山、**三頭山**）	奥多摩	2001	11/23-24	避難小屋	B	高橋英雄	4	97
412	み	**三頭山**	奥多摩	2004	11/13	日帰り	2B	原田和昭	6	111
357	み	**三頭山**（登山教室）	奥多摩	2003	9/11	日帰り	1A	柴　勇	5	142
576	み	**三頭山**～笹尾根	奥多摩	2008	3/8-9	避難小屋	3B	外崎蓮	10	1
632	み	**三頭山**	奥多摩	2009	6/28	日帰り	2B	小川誠二郎	11	41
799	み	**三頭山**～向山	奥多摩	2012	11/3	日帰り	2A	大畠清江	14	95
876	み	**三頭山**	奥多摩	2014	11/11	日帰り	1A	中村育子	15	149
157	み	**南月山**～三本槍ヶ岳	那須	2000	5/27-28	山小屋	B	三浦七郎	3	26
349	み	白笹山～**南月山**	那須	2003	10/26	日帰り	2A	武内勇二	5	137
470	み	**南高尾山縦走**	中央沿線	2005	11/23	日帰り	2B	榊原文子	7	114
403	み	**南岳**～中岳～大喰岳～槍ヶ岳	北ア	2004	9/25-28	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
825	み	**南岳**～槍ケ岳	北アルプス	2013	8/22-25	テント	4C	武内勇二	15	38
506	み	**南八ヶ岳**(赤岳) B班　(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	テント	3C	武内勇二	8	87
507	み	**南八ヶ岳**(赤岳) C班　(10周年記念)	八ヶ岳	2006	10/14-15	山小屋	2B	川下敬史	8	90
384	み	**南八ヶ岳縦走**	八ヶ岳	2004	6/19-20	山小屋	3B	坂口よし江	6	38
865	み	南山展望台～**愛宕山**（岩間）（ウイズハイク）	筑波山塊	2014	9/6	日帰り	1A	斉田・外崎	15	128
149	み	**蓑山**	奥武蔵	2000	4/22	日帰り	A	安田みづほ	3	9
478	み	**宮地山**～岩殿山	中央沿線	2006	4/2	日帰り	3B	青山寿子	8	7
840	み	シダンゴ山～**宮地山**	丹沢	2014	1/19	日帰り	1A	外崎蓮	15	68
407	み	**宮之浦岳**・開聞岳	九州	2003	10/21-23	山小屋	2C	細野清子	6	97
928	み	津辺野山・石尊山～麻綿原～**妙見山**（県連）	南房総	2016	1/30-31	山麓泊	2B	高橋芳 武内	16	85
114	み	**妙高山**・火打山	頚城	1999	7/31-8/1	テント／小屋	B	柴　勇	2	66
868	み	火打山～**妙高山**	頚城山塊	2014	9/26-27	山小屋	3B	箕輪完二	15	134
37	み	明神ガ岳～**明星ガ岳**	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
592	み	明神ヶ岳～**明星ヶ岳**	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53
37	み	**明神ガ岳**～明星ガ岳	箱根	1997	12/23	日帰り	A	三浦七郎	1	70
123	み	金時山～**明神ヶ岳**	箱根	1999	9/26	日帰り	A	斎藤清一	2	93
592	み	**明神ヶ岳**～明星ヶ岳	箱根	2008	7/13	日帰り	2A	細野清子	10	53

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
490	み	**妙法ヶ岳**	奥秩父	2006	6/25	日帰り	1B	高橋英雄	8	40
799	む	三頭山～**向山**	奥多摩	2012	11/3	日帰り	2A	大畠清江	14	95
656	む	**武川岳**	奥秩父	2009	11/21	日帰り	2A	田村光子	11	104
186	む	**六ツ石山**	奥多摩	2000	12/17	日帰り	A+	中村隆泰	3	99
319	む	鷹巣山～**六ツ石山**	奥多摩	2003	5/17	日帰り	B	高橋芳恵	5	33
282	め	**飯盛山**	八ヶ岳	2002	8/31	日帰り	A	高橋芳恵	4	207
622	も	**元清澄山**(新人歓迎山行)	房総	2009	3/29	日帰り	2A	武内勇二	11	4
767	も	**物語山**(新人歓迎山行)	上州	2012	4/8	日帰り	1A	原田和昭	14	8
88	も	日和田山～**物見山**	奥武蔵	1999	2/14	日帰り	A	高橋英雄	2	11
353	も	日和田山～**物見山**	奥武蔵	2003	11/15	日帰り	1A	日下芳十	5	146
987	も	日和田山～**物見山**(卒業山行)	奥多摩	2017	2/25	日帰り	1A	深草茂美	16	208
257	も	**モミソ沢**	丹沢	2002	4/14	日帰り	B	堀口昭二	4	132
312	も	**モミソ沢**･源次郎沢	丹沢	2003	4/12-13	テント	C	堀口昭二	5	15
370	も	**モミソ沢**・セドの沢左俣	丹沢	2004	4/24-25	テント	4D	堀口昭二	6	8
431	も	**モミソ沢**・新茅の沢～烏尾山	丹沢	2005	4/16-17	テント	3B	佐藤健一	7	14
535	も	**モミソ沢**	丹沢	2007	5/13	日帰り	3C	佐藤健一	9	24
133	も	**百蔵山（忘年山行）**	中央沿線	1999	12/5	日帰り	A	高橋英雄	2	122
315	も	**百蔵山**	中央沿線	2003	4/20	日帰り	A	清家・外崎	5	25
561	も	**百蔵山**～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	2007	10/21-22	山麓泊	3B	大串秀雄	9	93
769	も	扇山～**百蔵山**	中央線沿	2012	4/21	日帰り	2A	大畠清江	14	14
978	も	四方原山・**茂来山**	佐久平	2016	12/23-24	テント	2A	村松敏彦	16	192
771	も	**守屋山**・霧ヶ峰	八ヶ岳周辺	2012	3/5	テント	2A	村松敏彦	14	18
946	も	**守屋山**･入笠山	南アルプス北部	2016	5/27-28	テント	2B	郷田進	16	126
491	も	**森吉山**・姫神山	東北	2006	6/26-27	山麓泊	2B／1A	細野清子	8	42
965	も	**森吉山**・桃洞渓谷	秋田県北部	2016	10/8-10	ログハウス	2A	外崎蓮	16	167
161	や	早池峰･**薬師岳**	北上	2000	7/1－2	民宿泊	B	斎藤清一	3	40
164	や	五色ヶ原～**薬師岳**	北ア	2000	7/20-23	山小屋	C	村松敏彦	3	45
216	や	**薬師岳**	北ア	2001	7/19-23	山小屋	C	外崎　蓮	4	33
637	や	浄土山～五色ヶ原～**薬師岳**	北アルプス	2009	7/24夜-28	山小屋	5C	清家三保子	11	53
723	や	**薬師岳**	南アルプス	2011	1/22-24	テント	4D	千葉有子	12	144
748	や	**薬師岳**	北アルプス	2011	8/18-20	山小屋	3B	高橋重	13	63
944	や	**薬師岳**～三ノ宿山	日光	2016	5/20	日帰り	2A	村松敏彦	16	122
411	や	**矢倉岳**～足柄古道	箱根	2004	11/7	日帰り	2A	高橋芳恵	6	109
474	や	**矢倉岳**	箱根	2006	2/5	日帰り	1A	高橋英雄	7	125
879	や	**矢倉岳**～金時山	小田急沿線	2014	11/24	日帰り	2A	田村光子	15	154
288	や	**焼石岳**～経塚山	東北	2002	10/13-14	避難小屋	C	細野省二	4	227
328	や	栗駒山・**焼石山**	東北	2003	6/28-29	貸しテント	B	大串恵子	5	63
462	や	**焼石岳**	奥羽	2005	10/9-10	避難小屋	2B	石垣吉朗	7	96
822	や	高松岳・**焼石岳**	東北	2013	7/28-30	避難小屋	3B	武内勇二	15	30
548	や	**焼岳**～西穂高岳	北ア	2007	7/18-20	山小屋	3B	大串秀雄	9	59
173	や	八幡平･**焼山**	東北	2000	9/15-16	旅館	B	川下敬史	3	74
271	や	秋田駒ヶ岳～乳頭山・**焼山**	東北	2002	7/5-7	避難小屋／旅館	B	大串秀雄	4	168
814	や	**弥三郎岳**	中央沿線	2013	5/12	日帰り	2B	坂巻明	15	10
111	や	夜叉神峠～**高谷山**	南ア	1999	7/4	日帰り	A	大串秀雄	2	62
472	や	**矢平山**	中央沿線	2006	1/8	日帰り	2A	村松敏彦	7	120
768	や	**八ヶ岳**（赤岳）	八ヶ岳	2012	4/14-15	テント	4D	北川勝久	14	12
72	や	**八ヶ岳**　（公開登山）　（創立記念山行）	八ヶ岳	1998	10/10-11	ﾃﾝﾄ＆山小屋	A	柴　勇	1	137
92	や	**八ヶ岳(赤岳)**	八ヶ岳	1999	3/20-21	山小屋	C	村松敏彦	2	16
187	や	**八ヶ岳**　（クリスマス山行）	八ヶ岳	2000	12/23-24	日帰り	B,C	村松敏彦	3	100
277	や	**八ヶ岳**	八ヶ岳	2002	7/26夜-28	山小屋	B+	外崎　蓮	4	187
509	や	**八ヶ岳本峰縦走**（10周年記念）	八ヶ岳	2006	10/13-15	山小屋	4C	村松敏彦	8	96
283	や	**谷津川・地獄谷**	奥武蔵	2002	9/15-16	テント	C	村松敏彦	4	210
779	や	鋸山・**弥彦山**	新潟	2012	6/16-17	テント	1B	外崎蓮	14	41
809	や	**ヤビツ峠**～塔ノ岳	丹沢	2013	2/24	日帰り	2B	北川勝久	14	123
675	や	比叡山・**山の辺の道**・高野三山・金剛山	近畿地方	2010	4/20-23	旅館泊	1A	大串秀雄	12	11
256	や	**八溝山**　（新人歓迎）	奥久慈	2002	3/24	日帰り	A	松本　豊	4	130
803	や	**八溝山**（忘年山行）	茨城	2012	12/2	日帰り	1A	田村光子	14	104

山　　名
（あいうえお順）

岳人あびこ山行索引

1996年～2017年2月

No.		山　　名	山域	年	月日	山行形式	グレード	リーダー	号	ページ
119	や	燕岳～**槍ヶ岳**	北ア	1999	8/26-29	山小屋	B	大串秀雄	2	80
393	や	白馬～杓子～**鑓ヶ岳**	北ア	2006	8/12-17	山小屋	3C	高橋英雄	6	64
452	や	唐松岳～**鑓ヶ岳**～杓子岳	北ア	2006	8/13-16	山小屋	4C	高橋英雄	7	71
825	や	南岳～**槍ヶ岳**	北アルプス	2013	8/22-25	テント	4C	武内勇二	15	38
907	や	白馬三山（白馬岳～杓子岳～**鑓ヶ岳**）	北アルプス	2015	7/26-29	山小屋	3C	坂巻明	16	41
11	や	**槍ヶ岳**	北ア	1997	4/25-28	テント	D	村松敏彦	1	18
168	や	雲ノ平～**槍ヶ岳**	北ア	2000	8/12-16	山小屋／テント	C	大串秀雄	3	57
403	や	南岳～中岳～大喰岳～**槍ヶ岳**	北ア	2007	9/25-31	山小屋	4C	大串秀雄	6	87
700	や	常念岳～大天井岳～**槍ヶ岳**	北アルプス	2010	8/19夜-23	山小屋/テント	3C	武内勇二	12	81
322	ゆ	**夕日岳**	前日光	2003	5/25	日帰り	A	原田和昭	5	40
563	ゆ	**夕日岳**	前日光	2007	11/4	日帰り	1A	外崎　蓮	9	98
585	ゆ	夕日岳	日光	2008	6/1	日帰り	1A	箕輪カオル	10	29
659	ゆ	**雪入山**～浅間山（忘年山行）	茨城	2009	12/6	日帰り	1A	村松敏彦	11	110
589	ゆ	**温泉ヶ岳**～根名草山	日光	2008	6/21-22	山小屋	3B	田村光子	10	46
109	ゆ	**湯の丸山**・四阿山	上州	1999	6/19-20	民宿泊り	B	外崎　蓮	2	58
446	ゆ	烏帽子・**湯ノ丸**・四阿山・根子岳	上信	2006	6/26-28	山麓泊	4B	高橋　潔	7	49
630	ゆ	**湯の丸山**・四阿山（市民登山）	上信越	2009	6/7-8	山麓泊	2B	佐藤健一	11	29
207	ゆ	**湯檜曽川旧道**	谷川	2001	5/26	日帰り	A	榊原文子	4	19
266	ゆ	阿蘇山・九重山・**由布岳**	九州	2002	6/1-3	国民宿舎	B	中村隆泰	4	149
902	ゆ	北大船山～大船山～久住山・**由布岳**	阿蘇国立公園	2015	6/9-12	山小屋・山麓泊	3B	大山冬臣	16	27
493	よ	樽前山・恵庭岳・**羊蹄山**	北海道	2008	7/2-9	山麓泊	4B	大串秀雄	8	49
15	よ	**養老渓谷**（クリーンハイク）	房総	1997	6/1	日帰り	A	県連	1	25
951	よ	**横尾山**	奥秩父	2016	6/26	日帰り	1A	外崎蓮	16	139
751	よ	**横隈山**	奥武蔵	2011	10/9	日帰り	2B	中村隆泰	13	73
915	よ	南八ヶ岳縦走(赤岳～**横岳**～硫黄岳)	八ヶ岳南	2015	10/4-5	山小屋	3C	高橋芳恵	16	60
685	よ	古峰原高原・**横根岳**～井戸湿原	前日光	2010	5/28-29	ﾛｯｼﾞ泊	1A	柴勇	12	35
148	よ	**四ッ又山**～鹿岳	西上州	2000	4/16	日帰り	B	細野省二	3	7
471	よ	**蓬田岳**（忘年山行）	福島	2005	12/11	日帰り	1A	武内勇二	7	116
794	よ	**蓬峠**～武能岳～茂倉岳～谷川岳（15周年記念山	谷川	2012	9/22-23	山小屋	3C	外崎蓮	14	82
978	よ	**四方原山**・茂来山	佐久平	2016	12/23-24	テント	2A	村松敏彦	16	192
294	ら	**雷電山**～三方山	奥多摩	2002	11/10	日帰り	A	日下芳十	4	244
330	ら	阿寒・斜里・**羅臼岳**	北海道	2003	7/10-14	国民宿舎ほか	3C	大串秀雄	5	70
929	ら	鐘撞堂山～**羅漢山**	奥武蔵	2016	2/7	日帰り	1A	本田愛子	16	88
214	り	**利尻山**・大雪山	北海道	2001	7/3-8	山麓、避難小屋	B+	大串秀雄	4	27
742	り	**利尻山**・礼文島	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13	44
106	り	**両神山**（公開登山）	奥秩父	1999	6/5-6	山小屋／テント	B	村松敏彦	2	49
591	り	**両神山**	奥秩父	2008	7/5-6	山小屋	2A	高橋芳恵	10	51
706	り	二子山・**両神山**	奥秩父	2010	9/18-19	山麓泊	2C	中村隆泰	12	99
848	り	四阿屋山・**両神山**	奥秩父	2014	5/9-10	山麓泊	3B	矢野貞子	15	86
742	れ	利尻山・**礼文島**	北海道	2011	7/18-7/21	山小屋	3C	村松敏彦	13	44
909	れ	岩小屋沢岳～針ノ木岳～**蓮華岳**	北アルプス	2015	7/30-8/2	山小屋	3C	武内勇二	16	47
90	わ	難台山～**吾国山**（卒業山行）	茨城	1999	3/7	日帰り	A	萩野勝弘	2	13
260	わ	愛宕山～**吾国山**	茨城	2002	4/28	日帰り	A	中村八重子	4	136
477	わ	難台山～**吾国山**	茨城	2007	3/27	日帰り	1B／3B	柴　勇	8	3
653	わ	難台山～**吾国山**	茨城	2009	11/7	日帰り	2A	原田和昭	11	98
743	わ	雲の平～高天原～**鷲羽岳**	北アルプス	2011	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	13	48
954	わ	雲の平～**鷲羽岳**～三俣蓮華岳～双六岳	北アルプス	2016	7/28-8/1	山小屋	3C	武内勇二	16	144
357	わ	**和名倉山**	奥秩父	2003	12/20-21	テント	4D	村松敏彦	5	158
487	わ	笠取山～**和名倉**～飛竜～雲取～長沢山	奥秩父・奥多摩	2007	6/2-6	山小屋	3B	大串秀雄	8	27
853	わ	雲取山～**和名倉山**～笠取山～雁坂峠	奥秩父	2014	6/12-15	山小屋	3C	矢野貞子	15	100
25	わ	**蕨山**	奥武蔵	1997	9/23	日帰り	A	細野清子	1	44
200	わ	有間山～**蕨山**	奥武蔵	2001	4/22	日帰り	A	外崎　蓮	4	5
240	わ	**蕨山**	奥武蔵	2001	11/11	日帰り	A	安田みづほ	4	92
527	わ	有馬山～**蕨山**	奥武蔵	2008	4/9	日帰り	3B	青山寿子	9	8
754	わ	**蕨山**	奥武蔵	2011	10/30	日帰り	2A	坂巻　明	13	81
970	わ	鳥首峠～**蕨山**	奥武蔵	2016	11/5	日帰り	2A	中村育子	16	178
484	わ	小川谷・**悪谷**	奥多摩	2007	5/22	日帰り	3B	堀口昭二	8	21

編集後記

今回発行の編集グループに入って、改めてワードの難しさを体験しました。各自、文章作成にあたっての自己流(失礼)があり、山行毎にバランスを考えページを整える事のわずわらしさを楽しみました。

次に「やまなみ」って何だろうと。やまなみ編集やっていて、やまなみの意味を知らないとは。やまは<山>と想像つきましたが、山行の途中に武内会長から教えてもらいました。来年度は、1000 回山行を迎え、岳人あびこに新しいページが追加されますが、やまなみ発行について、岳人内でいろいろ意見があり、一票差の多数決によって、発行が決まったとお聞きしビックリもしましたが、これからも会員の皆さんの思いをやまなみに取り入れたいと思います。　林敏生

やまなみの編集、今年で 3 年目になりました。仕事の都合で参加したくてもできない山行がたくさんあります。寄せられた文や写真の割り付けの作業をしながら「次の機会には必ず行ってみよう」と思うことが多々ありました。

やまなみは岳人あびこの貴重な財産だと思います。自分の山行計画を立てる時には、ページを必ず開きルートや感想を参考にしています。これからもやまなみが続いていくことを願います。　村越百々代

編集長から、「編集後記をお願いします。」「私は殆どお手伝いしていないのですが」「校正をお願いしますから書いてください。」やまなみ 15 号の編集・発行への寄与は少なかったのであるが、今回の 16 号の編集にも殆ど貢献していない。他の編集者には申し訳ない。校正だけは真面目にやります。「やまたん」「やまなみ」は、良い文化ですと言いたいですが、その資格はありません。　矢澤節雄

今号には２年分９８山行が掲載された。やまなみの発行にあたって、毎号のことながら原稿を書いていただいた方を始め、多くの方のご協力に心より感謝申しあげたい。昨年度は会の２０周年を祝って記念イベント・記念登山が企画され、共に大いに盛り上がって実り多い山行と充実した会活動が続いた。編集を通して、諸先輩方の会への貢献の大きさと会員の方々のお力のすごさを改めて実感している。挿絵には室崎宏治氏の水彩画と、会の写真コンクール及び人気投票上位の作品を掲載させていただいた。カラーでお届けできないのが残念だ。表紙の写真は武内勇二氏の、最優秀賞受賞作品である。中村育子

千葉県勤労者山岳連盟
岳人あびこ

山行文集　**やまなみ 第１６号**

発行日　平成２９年６月７日
発行者　岳人あびこ　会長　高橋芳恵
千葉県我孫子市白山 2-19-20
編集者　会報部　やまなみ編集係
林敏生　　村越百々代
矢澤節雄　　中村育子
印刷所　太平洋印刷株式会社
（会員限り　非売品）

ホームページ　mailto:gakujin-abiko@jcom.home.ne.jp